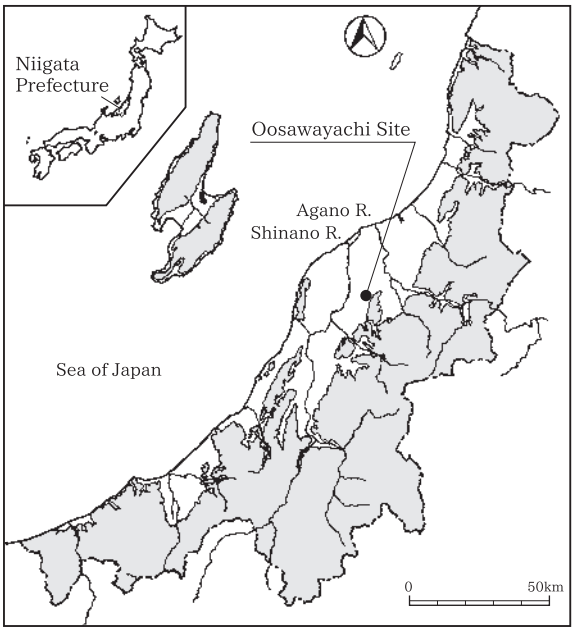
大沢谷内遺跡Ⅵ　第15・17・19次調査

－ 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第10・11・12次調査 －



2020

新 潟 市 教 育 委 員 会

例　　言

1　本書は新潟県新潟市秋葉区鎌倉２番地１号ほかに所在する大沢谷内遺跡の発掘調査報告書である。書名は、既刊の発掘調査報告書（〔川上 1989『大沢谷内遺跡発掘調査報告書』、細野・伊比ほか 2012『大沢谷内遺跡Ⅱ　第７・９・11・12・14 次調査』、前山ほか 2012『大沢谷内遺跡Ⅲ　第 18 次調査』、相田・金田ほか 2015『大沢谷遺跡Ⅳ　第 19・20・21 次調査』、遠藤・澤野ほか 2018『大沢谷内遺跡Ⅴ　第 25 次調査』〕）に続く６冊目の報告書であるため、『大沢谷内遺跡Ⅵ　第 15・17・19 次調査』とした。

2　調査は一般国道 403 号小須戸田上バイパス（以下、「小須戸バイパス」）整備工事に伴い、新潟市教育委員会（以下、「市教委」）が調査主体となり、新潟市埋蔵文化財センター（以下、「市埋蔵文化財センター」）、新潟市文化財センター（以下、「市文化財センター」2011 年度～）が補助執行した。

3　本書で報告する発掘調査は、第 15 次調査（平成 21 年度　５・６区上層）、第 17 次調査（平成 22 年度　６区下層上面・７区）、第 19 次調査（平成 23 年度　６区下層中面・下面）である（調査区などは第６・７図、図版２・３参照）。

4　基礎整理作業は調査年度ごとに行ったが、本書に係る本格的な整理作業は平成 27 年～令和元年度に行った。発掘調査・整理作業の体制・経過については第Ⅲ章に記した。

5　出土遺物及び発掘・整理作業に係る記録類は、市文化財センターで収蔵・保管している。

6　本書の執筆・編集は、相田泰臣・八藤後智人（市文化財センター）が行った。図版レイアウトは相田が行い、小林美土里（市文化財センター）、関根里江（市文化財センター臨時職員）が補助した。

　執筆は、第Ⅱ章を八藤後が、第Ⅵ章を外部執筆者が（７・８参照）、それ以外を相田が行った。

7　動物遺存体の同定・分析及び執筆については、山田凜太郎氏（京都大学大学院）に依頼し、玉稿を賜った（第Ⅵ章第４節）。

8　自然科学分析（第Ⅵ章第１～３節）は（株）火山灰考古学研究所に執筆を含めて委託した。

9　調査における遺構図面は（株）イビソクに委託して作成した。

10　遺構写真は第 15 次調査：潮田憲幸・廣野耕造・八藤後（市文化財センター）、第 17 次調査：潮田・前山精明・八藤後（市文化財センター）、第 19 次調査は潮田（市文化財センター）、秋山泰利（（株）ノガミ）が撮影した。空中写真撮影は（株）イビソクに委託した。

11　遺物の写真撮影は、（株）シン技術コンサル新潟支店に委託して行った。

12　本文の編集、遺物実測図のデジタルトレース、各種図版の作成・編集に関しては（有）不二出版に委託し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。

13　土器については、渡邊裕之氏（新潟県教育庁文化行政課）からご教示頂いた。

14　本書で報告する大沢谷内遺跡５・６・７区の調査成果の一部については、これまで現地説明会や『平成 21 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』〔市埋蔵文化財センター 2010〕、『平成 22 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』〔市埋蔵文化財センター 2011〕、『平成 23 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』〔市文化財センター 2012〕等で既に公表されているが、本報告書と齟齬がある場合は、本書の記載内容をもって正とする。

15　調査から本書の作成に至るまで下記の方々・諸機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。

（所属・敬称略、五十音順）

荒川隆史・伊比博和・岡村道雄・小野本敦・春日真実・笹澤正史・鈴木俊成・高橋　保・鶴巻康志・山崎　健・
山田凜太郎・渡邊裕之
アスファルト研究会・新津郷土地改良区

凡　　例

1　本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。

2　本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約７度である。掲載した図面のうち、既存の地形図等を使用したものについては、原図の製作者・製作年を示した。

3　第19次調査の測量は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震を起因とした地殻変動による測地成果改定後であるが、震災以前の測量成果との関連を持たせるため、震災前の測量座標で行った。本書掲載図も全て震災前の測量座標データによる。

4　引用・参考文献は、著者と発行年（西暦）を〔　〕中に示し、巻末に一括して掲載した。

5　遺構番号は発掘調査の際に付したものをそのまま用いた。なお、遺構番号は５・６区と７区とでそれぞれ別に通し番号を付けている。

6　ピットについては、掘立柱建物を構成するもの及び遺構断面図・遺物実測図掲載のピットについてのみ、図面に遺構番号を示すとともに、観察表に掲載した。

7　遺構断面図において、土器は「P」、石・石器は「S」のアルファベットで示した。

8　土層観察の色調は『新版　標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局1967〕を用いた。

9　本書で報告する５～７区は上層（古墳時代～中世）と下層（縄文時代晩期後葉）からなる。下層の遺構・遺物については、６区と７区で確認されているが５区では不明瞭である。また、６区下層については遺構確認面が少なくとも３面（下層上面･下層中面･下層下面）確認されており、その面ごとに調査も行われた。本書でも６区下層については下層上面･下層中面･下層下面の３つに分けて報告している。なお、７区の下層について、遺構確認面の把握は１面のみで調査が行われている。

10　本文の記載や遺構・遺物図版の掲載については基本的に上層から下層の順番とし、５・６区上層→７区上層→６区下層上面→６区下層中面→６区下層下面の順とし、さらに種別ごとに記載・掲載した。

11　遺物番号は、調査区・種別を問わず通し番号とした。

12　遺物図版において、包含層及び排土出土遺物については遺構外出土遺物として掲載した。

13　土器実測図において、おおむね全周の1/12以下の遺存率の低いものについては、中軸線の両側に空白を作って区別した。

14　土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。

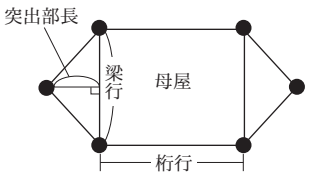
15　遺構計測表・遺物観察表中における（　）付の数値は推定値を意味する。

16　遺構平面図で切り合い関係のある遺構の上端・下端の表現について、切られている遺構の場合、上端の復元が可能ならば破線、下端は切っている遺構より深く復元可能な場合は破線で示した。

17　遺構観察表において、切り合い関係にある遺構については、例えば「Aが Bを切る」「Bが Aに切られる」のように表示した。この場合は Aが新しく、Bが古い。

18　遺構計測表・遺物観察表には別途凡例を付した。

19　掘立柱建物の名称や計測位置は下図のとおりである。



目　　次

第Ⅰ章　序　　章 …… 1
第１節　遺 跡 概 観 …… 1
第２節　発掘調査に至る経緯 …… 2

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 4
第１節　遺跡の位置と地理的環境 …… 4
第２節　周辺の遺跡 …… 7
第３節　歴史的環境 …… 12

第Ⅲ章　調査の概要 …… 14
第１節　確 認 調 査（第５・８・13 次調査） …… 14
第２節　本発掘調査 …… 14
A　調 査 方 法 …… 14
B　調 査 経 過 …… 17
C　調 査 体 制 …… 18
第３節　整 理 作 業 …… 19
A　整 理 方 法 …… 19
B　整 理 経 過 …… 19
C　整 理 体 制 …… 19

第Ⅳ章　遺　　跡 …… 20
第１節　概　　要 …… 20
第２節　層序と微地形 …… 20
A　層　　序 …… 20
B　微 地 形 …… 25
C　遺構の概要 …… 26
第３節　上層の遺構 …… 27
A　５・６区上層の遺構（図版４～ 50） …… 27
B　７区上層の遺構（図版 51 ～ 77） …… 38
第４節　下層の遺構 …… 45
A　遺構の概要 …… 45
B　６区下層上面の遺構（図版 78 ～ 94） …… 45
C　６区下層中面の遺構（図版 95 ～ 101） …… 53
D　６区下層下面の遺構（図版 102 ～ 115） …… 57
E　７区下層の遺構（図版 116・117） …… 64

第Ⅴ章　遺　　物 …… 65
第１節　概　　要 …… 65
A　縄文時代の土器 …… 67
B　古墳時代の土器 …… 70
C　古代の土器 …… 71
D　中世の土器・陶磁器 …… 72
第２節　土器・陶磁器 …… 72
A　５区上層 …… 72
B　６区上層 …… 74
C　７区上層 …… 75
D　６区下層上面 …… 76
E　６区下層中面 …… 78
F　６区下層下面 …… 80
G　７区下層 …… 82
第３節　石器・石製品 …… 82
A　５区上層 …… 83
B　６区上層 …… 83
C　７区上層 …… 83
D　６区下層上面 …… 84
E　６区下層中面 …… 84
F　６区下層下面 …… 85
第４節　木　製　品 …… 85
A　６区上層 …… 85
第５節　アスファルト塊 …… 86
A　７区上層 …… 86
B　６区下層下面 …… 86
第６節　種　　実 …… 86
第Ⅵ章　自然科学分析 …… 88
第１節　植物珪酸体分析 …… 88
A　５　　区 …… 88
B　６　　区 …… 91
C　７　　区 …… 93
第２節　花粉分析 …… 96
A　５　　区 …… 96
B　６　　区 …… 100
C　７　　区 …… 103
第３節　種実同定 …… 108
A　６　　区 …… 108
B　７　　区 …… 109
第４節　大沢谷内遺跡出土の動物遺存体 …… 112
A　分析の対象 …… 112
B　分析の方法 …… 112
C　分析の結果と考察 …… 112
D　先行研究との比較 …… 116

第Ⅶ章　総　　括 …… 117
第１節　縄文時代の遺物 …… 117
A　縄 文 土 器 …… 117
B　石　器　群 …… 124
C　アスファルト …… 125
D　土器の胎土 …… 125
第２節　縄文時代の遺構 …… 127
A　建　　物 …… 127
B　焼土集中遺構 …… 128
第３節　上層（古墳時代・古代・中世）の遺物 …… 130
A　土　　器 …… 130
第４節　上層の遺構 …… 130
A　耕作関連遺構 …… 130
B　井　　戸 …… 133
第５節　大沢谷内遺跡の位置づけ …… 134
A　縄 文 時 代 …… 135
B　弥生時代・古墳時代 …… 137
C　古代（飛鳥・奈良・平安時代）・中世 …… 137
引用・参考文献 …… 143
別　　表 …… 149
報告書抄録・奥付 …… 巻末

挿 図 目 次

第 1 図　大沢谷内遺跡位置図 …… 4
第 2 図　大沢谷内遺跡周辺の地形分類図 …… 5
第 3 図　大沢谷内遺跡周辺の地形と層序 …… 6
第 4 図　大沢谷内遺跡周辺の遺跡分布図（縄文・弥生・古墳）…… 8
第 5 図　大沢谷内遺跡周辺の遺跡分布図（古代・中世）…… 10
第 6 図　大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図 1 …… 15
第 7 図　大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図 2 …… 16
第 8 図　土層柱状図 …… 16
第 9 図　5 区基本層序 …… 22
第 10 図　6 区基本層序 …… 23
第 11 図　7 区基本層序 …… 24
第 12 図　遺構の平・断面形態の分類 …… 26
第 13 図　遺構埋土の堆積形状の分類 …… 26
第 14 図　6 区上層の耕作関連遺構 …… 37
第 15 図　7 区上層で確認された動物の足跡 …… 43
第 16 図　7 区上層の耕作関連遺構 …… 43
第 17 図　5 ～ 7 区包含層の小グリッド別古代・中世土器出土重量分布図 …… 66
第 18 図　器種分類と部位の呼称 …… 68
第 19 図　大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区縄文土器分類図 1 …… 68
第 20 図　大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区縄文土器分類図 2 …… 69
第 21 図　大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区古墳時代土器分類図 … 70
第 22 図　大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区古代土器分類図 …… 71
第 23 図　大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区中世土器分類図 …… 72
第 24 図　大沢谷内遺跡 5 区における植物珪酸体分析結果 …… 89
第 25 図　5 区植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真 …… 90
第 26 図　6 区植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真 …… 92
第 27 図　大沢谷内遺跡 6 区における植物珪酸体分析結果 …… 92
第 28 図　大沢谷内遺跡 7 区における植物珪酸体分析結果 …… 94
第 29 図　7 区植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真 …… 95
第 30 図　大沢谷内遺跡 5 区における花粉ダイアグラム …… 97

第 31 図　大沢谷内遺跡 5 区の花粉・胞子 …… 99
第 32 図　大沢谷内遺跡 6 区における
　　花粉ダイアグラム …… 101
第 33 図　大沢谷内遺跡 6 区の花粉 …… 102
第 34 図　大沢谷内遺跡 7 区における
　　花粉ダイアグラム …… 104
第 35 図　大沢谷内遺跡 7 区の花粉・寄生虫卵 …… 106
第 36 図　大沢谷内遺跡 6 区の種実 …… 109
第 37 図　大沢谷内遺跡 7 区の種実 …… 111
第 38 図　大沢谷内遺跡の魚類組成 …… 114
第 39 図　大沢谷内遺跡の魚類重量組成 …… 114
第 40 図　大沢谷内遺跡の遺構別魚類組成 …… 114
第 41 図　大沢谷内遺跡出土の動物遺存体写真 …… 116
第 42 図　5・6 区における縄文土器の器種組成比率 …· 117
第 43 図　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡の
　　精製・粗製土器割合 …… 117
第 44 図　5・6 区における縄文粗製土器（深鉢・甕）の
　　地文組成比率 …… 117
第 45 図　5・6 区における結節回転施文個体数 …… 118
第 46 図　大沢谷内遺跡 5・6 区出土縄文土器
　　（浅鉢・鉢・甕・壺）…… 119
第 47 図　大沢谷内遺跡 5・6 区出土縄文土器（深鉢）·· 120
第 48 図　県内の縄文時代晩期後葉の土器 1 …… 121
第 49 図　県内の縄文時代晩期後葉の土器 2 …… 122
第 50 図　保明浦遺跡出土土器 …… 123
第 51 図　6 区における石器・石製品 …… 124
第 52 図　大沢谷内遺跡アスファルトにおける
　　性状別比率 …… 125
第 53 図　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡縄文土器の
　　胎土分類別比率 …… 126
第 54 図　越後平野周辺における縄文時代晩期遺跡の
　　土器胎土分類別構成と川砂組成 …… 126
第 55 図　6 区下層上面・下面の建物と焼土遺構 …… 129
第 56 図　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡における
　　主な土器変遷図 …… 131
第 57 図　6・7 区上層における耕作関連遺構平面図 …· 133
第 58 図　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡下層
　　遺構平面図 …… 140
第 59 図　大沢谷内遺跡上層遺構平面図 1 …… 141
第 60 図　大沢谷内遺跡上層遺構平面図 2 …… 142

表　目　次

第 1 表　大沢谷内遺跡調査履歴 …… 3
第 2 表　大沢谷内遺跡周辺の縄文・弥生・古墳時代の
　　遺跡 …… 9
第 3 表　大沢谷内遺跡周辺の古代・中世の遺跡 …… 11
第 4 表　5 ～ 7 区出土アスファルト …… 86
第 5 表　5 ～ 7 区出土種実 …… 87
第 6 表　6・7 区における時代別出土種実 …… 87
第 7 表　大沢谷内遺跡 5 区における植物珪酸体
　　分析結果 …… 89
第 8 表　大沢谷内遺跡 6 区における植物珪酸体
　　分析結果 …… 91
第 9 表　大沢谷内遺跡 7 区における植物珪酸体
　　分析結果 …… 93
第 10 表　大沢谷内遺跡 5 区における花粉分析結果 …… 98
第 11 表　大沢谷内遺跡 6 区における花粉分析結果 …· 102
第 12 表　大沢谷内遺跡 7 区における花粉分析結果 …· 105
第 13 表　大沢谷内遺跡 6 区における種実同定結果 …· 108
第 14 表　大沢谷内遺跡 7 区における種実同定結果 …· 110
第 15 表　大沢谷内遺跡出土の動物遺存体種名表 …… 112
第 16 表　大沢谷内遺跡の遺構別動物遺存体出土表 …· 113
第 17 表　大沢谷内遺跡で同定した部位別動物遺存体
　　一覧 …… 114
第 18 表　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡出土土器
　　対応表 …… 118
第 19 表　越後平野周辺における縄文時代晩期
　　遺跡出土の石器 …… 124
第 20 表　大沢谷内遺跡出土のアスファルト一覧 …… 125
第 21 表　5・6 区縄文土器、7 区古代土師器・
　　黒色土器の胎土分類別点数 …… 125
第 22 表　5・6 区縄文深鉢の胎土分類別点数 …… 126
第 23 表　5 ～ 7 区における竪穴建物 …… 127
第 24 表　1 ～ 4 区 4・5 段階（Ｖｂ層）の竪穴建物 … 127
第 25 表　5 ～ 7 区における掘立柱建物 …… 127
第 26 表　大沢谷内遺跡出土の古代・中世土器変遷
　　対応表 …… 130
第 27 表　5 ～ 7 区における耕作関連遺構 …… 132
第 28 表　9 区における耕作関連遺構 …… 132
第 29 表　大沢谷内遺跡における井戸一覧 …… 134

別 表 目 次

別表 1　上層遺構計測表 …… 149
別表 2　下層遺構計測表 …… 157
別表 3　土器観察表 …… 164
別表 4　石器・石製品観察表 …… 171
別表 5　木製品観察表 …… 171
別表 6　アスファルト観察表 …… 171

図版目次

図版 1　周辺の旧地形図（1/50,000）
図版 2　グリッド設定図（1）（1/10,000）
図版 3　グリッド設定図（2）（1/1,500）
図版 4　5・6 区上層遺構全体図（1/600）
図版 5　5 区上層平面分割図（1）
図版 6　5 区上層平面分割図（2）
図版 7　5 区上層遺構個別図 SD（1）
図版 8　5 区上層平面分割図（3）
図版 9　5 区上層平面分割図（4）
図版 10　5 区上層平面分割図（5）
図版 11　5 区上層遺構個別図 SX（1）・SD（2）
図版 12　5 区上層遺構個別図 SE（1）
図版 13　5 区上層遺構個別図 SK（1）
図版 14　5 区上層遺構個別図 SK（2）
図版 15　5 区上層遺構個別図 SX（2）
図版 16　5 区上層遺構個別図 SX（3）
図版 17　5 区上層遺構個別図 SX（4）
図版 18　5 区上層遺構個別図 SX（5）
図版 19　5 区上層遺構個別図 SX（6）
図版 20　6 区上層平面分割図（1）
図版 21　6 区上層平面分割図（2）
図版 22　6 区上層遺構個別図 SD（1）
図版 23　6 区上層遺構個別図 SX（1）・SD（2）
図版 24　6 区上層遺構個別図 SX（2）
図版 25　6 区上層平面分割図（3）
図版 26　6 区上層平面分割図（4）
図版 27　6 区上層遺構個別図 SD（3）
図版 28　6 区上層遺構個別図 SD（4）
図版 29　6 区上層平面分割図（5）
図版 30　6 区上層平面分割図（6）
図版 31　6 区上層遺構個別図 SD（5）
図版 32　6 区上層遺構個別図 SD（6）
図版 33　6 区上層平面分割図（7）
図版 34　6 区上層遺構個別図 SA（1）
図版 35　6 区上層遺構個別図 SD（7）
図版 36　6 区上層平面分割図（8）
図版 37　6 区上層遺構個別図 SE（1）
図版 38　6 区上層遺構個別図 SK（1）
図版 39　6 区上層遺構個別図 SK（2）
図版 40　6 区上層遺構個別図 SK（3）
図版 41　6 区上層遺構個別図 SK（4）
図版 42　6 区上層遺構個別図 SK（5）
図版 43　6 区上層遺構個別図 SK（6）
図版 44　6 区上層遺構個別図 SK（7）
図版 45　6 区上層遺構個別図 SX（3）
図版 46　6 区上層遺構個別図 SX（4）
図版 47　6 区上層遺構個別図 SX（5）
図版 48　6 区上層遺構個別図 SX（6）
図版 49　6 区上層遺構個別図 SX（7）
図版 50　6 区上層遺構個別図 SX（8）
図版 51　7 区上層遺構全体図（1/600）
図版 52　7 区上層平面分割図（1）
図版 53　7 区上層遺構個別図 SD（1）
図版 54　7 区上層遺構個別図 SD（2）
図版 55　7 区上層平面分割図（2）
図版 56　7 区上層平面分割図（3）
図版 57　7 区上層平面分割図（4）
図版 58　7 区上層平面分割図（5）
図版 59　7 区上層平面分割図（6）
図版 60　7 区上層平面分割図（7）
図版 61　7 区上層遺構個別図 SX（1）
図版 62　7 区上層平面分割図（8）
図版 63　7 区上層遺構個別図 SD（3）
図版 64　7 区上層遺構個別図 SD（4）
図版 65　7 区上層遺構個別図 SX（2）・SD（5）
図版 66　7 区上層平面分割図（9）
図版 67　7 区上層遺構個別図 SD（6）
図版 68　7 区上層平面分割図（10）
図版 69　7 区上層遺構個別図 SE（1）
図版 70　7 区上層遺構個別図 SK（1）
図版 71　7 区上層遺構個別図 SK（2）
図版 72　7 区上層遺構個別図 SX（3）
図版 73　7 区上層遺構個別図 SX（4）
図版 74　7 区上層遺構個別図 SX（5）
図版 75　7 区上層遺構個別図 SX（6）
図版 76　7 区上層遺構個別図 SX（7）
図版 77　7 区上層遺構個別図 SX（8）
図版 78　6 区下層上面遺構全体図（1/250）
図版 79　6 区下層上面平面分割図（1）
図版 80　6 区下層上面平面分割図（2）
図版 81　6 区下層上面平面分割図（3）
図版 82　6 区下層上面平面分割図（4）
図版 83　6 区下層上面遺構個別図 SX（1）・SD（1）
図版 84　6 区下層上面遺構個別図 SB（1）
図版 85　6 区下層上面遺構個別図 SI（1）
図版 86　6 区下層上面遺構個別図 SI（2）・SK（1）
図版 87　6 区下層上面遺構個別図 SK（2）
図版 88　6 区下層上面遺構個別図 SK（3）
図版 89　6 区下層上面遺構個別図 SK（4）
図版 90　6 区下層上面遺構個別図 SK（5）
図版 91　6 区下層上面遺構個別図 SK（6）
図版 92　6 区下層上面遺構個別図 SK（7）
図版 93　6 区下層上面遺構個別図 SX（2）
図版 94　6 区下層上面遺構個別図 SX（3）･SC（1）･F（1）

図版 95　6 区下層中面遺構全体図（1/150）
図版 96　6 区下層中面平面分割図（1）
図版 97　6 区下層中面平面分割図（2）
図版 98　6 区下層中面遺構個別図 SK（1）
図版 99　6 区下層中面遺構個別図 SK（2）
図版 100　6 区下層中面遺構個別図 SX（1）
図版 101　6 区下層中面遺構個別図 SC（1）・F（1）
図版 102　6 区下層下面遺構全体図（1/150）
図版 103　6 区下層下面平面分割図（1）
図版 104　6 区下層下面平面分割図（2）
図版 105　6 区下層下面遺構個別図 SB（1）
図版 106　6 区下層下面遺構個別図 SB（2）
図版 107　6 区下層下面遺構個別図 SB（3）
図版 108　6 区下層下面遺構個別図 SK（1）
図版 109　6 区下層下面遺構個別図 SK（2）
図版 110　6 区下層下面遺構個別図 SK（3）
図版 111　6 区下層下面遺構個別図 SK（4）
図版 112　6 区下層下面遺構個別図 SX（1）・SC（1）
図版 113　6 区下層下面遺構個別図 SC（2）・F（1）
図版 114　6 区下層下面遺構個別図 F（2）
図版 115　6 区下層下面遺構個別図 F（3）
図版 116　7 区下層平面分割図（1）
図版 117　7 区下層遺構個別図 SK（1）・SX（1）
図版 118　出土遺物 1（5 区上層遺構出土土器 1）
図版 119　出土遺物 2（5 区上層遺構出土土器 2）
図版 120　出土遺物 3（5 区上層遺構出土土器 3、遺構外出土土器、遺構出土石器･石製品、遺構外出土石器･石製品、2005 試掘出土土器）
図版 121　出土遺物 4（6 区上層遺構出土土器 1）
図版 122　出土遺物 5（6 区上層遺構出土土器 2、遺構外出土土器、遺構出土石器･石製品、遺構外出土石器･石製品、遺構出土木製品）
図版 123　出土遺物 6（7 区上層遺構出土土器 1）
図版 124　出土遺物 7（7 区上層遺構出土土器 2、遺構外出土土器 1）
図版 125　出土遺物 8（7 区上層遺構外出土土器 2、遺構出土石器・石器、7 区下層遺構出土土器）
図版 126　出土遺物 9（7 区上層遺構外出土石器・石製品、遺構出土アスファルト、遺構外出土アスファルト）
図版 127　出土遺物 10（6 区下層上面遺構出土土器 1）
図版 128　出土遺物 11（6 区下層上面遺構出土土器 2）
図版 129　出土遺物 12（6 区下層上面遺構出土土器 3、遺構外出土土器）
図版 130　出土遺物 13（6 区下層上面遺構出土石器･石製品、遺構外出土石器・石製品）
図版 131　出土遺物 14（6 区下層中面遺構出土土器 1）
図版 132　出土遺物 15（6 区下層中面遺構出土土器 2、遺構外出土土器 1）
図版 133　出土遺物 16（6 区下層中面遺構外出土土器 2、遺構出土石器･石製品、遺構外出土石器･石製品）
図版 134　出土遺物 17（6 区下層下面遺構出土土器 1）
図版 135　出土遺物 18（6 区下層下面遺構出土土器 2）
図版 136　出土遺物 19（6 区下層下面遺構出土土器 3、遺構外出土土器）
図版 137　出土遺物 20（6 区下層下面遺構出土石器・石製品 1）
図版 138　出土遺物 21（6 区下層下面遺構出土石器・石製品 2）
図版 139　出土遺物 22（6 区下層下面遺構出土石器・石製品 3）
図版 140　出土遺物 23（6 区下層下面遺構外出土石器・石製品、遺構出土アスファルト、遺構外出土アスファルト）

写真図版目次

写真図版 1　大沢谷内遺跡周辺空中写真
写真図版 2　調査地全景空中写真 1（5 ～ 9 区）
写真図版 3　調査地全景空中写真 2（5・6 区上層）
写真図版 4　調査地全景空中写真 3（7 区上層）
写真図版 5　調査地近景空中写真 1（6 区上層 SA・7 区上層 SN）
写真図版 6　調査地全景空中写真 4（6 区下層上面）
写真図版 7　調査地全景空中写真 5（6 区下層中面・6 区下層下面）
写真図版 8　調査地近景空中写真 2（6 区下層上面 SI・6 区下層下面 SB）
写真図版 9　調査地近景空中写真 3（6 区下層下面 SB）
写真図版 10　基本層序（5 ～ 7 区）
写真図版 11　5 区上層 SE（1）・SK（1）（SE5・6・132、SK1・45）
写真図版 12　5 区上層 SK（2）（SK54・61・70・71）
写真図版 13　5 区上層 SK（3）（SK72・80・85・89・94）
写真図版 14　5 区上層 SK（4）（SK94・97・98・111・115）
写真図版 15　5 区上層 SK（5）・SX（1）（SK115・116、SX31・32・44・46）
写真図版 16　5 区上層 SX（2）（SX49・73・77・82・83）
写真図版 17　5 区上層 SX（3）（SX86・91・92・114）
写真図版 18　5 区上層 SX（4）（SX114・117・136・137・138）

写真図版 19　5 区上層 SX（5）・SD（1）（SX138・141・143、SD2・3・142）
写真図版 20　5 区上層 SD（2）（SD2・3・4・15・60）
写真図版 21　5 区上層 SD（3）（SD62・90）
写真図版 22　5 区上層 SD（4）（SD95・96・99・100・142）
写真図版 23　6 区上層 SE（1）（SE172・177・351・380）
写真図版 24　6 区上層 SK（1）（SK55・57・64・108）
写真図版 25　6 区上層 SK（2）（SK148・155・156・158）
写真図版 26　6 区上層 SK（3）（SK162・193・197・198）
写真図版 27　6 区上層 SK（4）（SK199・200・213・215）
写真図版 28　6 区上層 SK（5）（SK216・220・222・223）
写真図版 29　6 区上層 SK（6）（SK225・227・228・229・231）
写真図版 30　6 区上層 SK（7）（SK237・238・246・250・258）
写真図版 31　6 区上層 SK（8）（SK269・277・279・280）
写真図版 32　6 区上層 SK（9）（SK281・284・286・287）
写真図版 33　6 区上層 SK（10）（SK299・300・303・321・324）
写真図版 34　6 区上層 SK（11）（SK324・330・334・358・367）
写真図版 35　6 区上層 SK（12）（SK367・369・381・393・398）
写真図版 36　6 区上層 SK（13）（SK398・404・408・421・432）
写真図版 37　6 区上層 SK（14）・SX（1）（SK432・460・594・602、SX150・151・157）
写真図版 38　6 区上層 SX（2）（SX163・166・187・214・224）
写真図版 39　6 区上層 SX（3）（SX224・239・251・270・275）
写真図版 40　6 区上層 SX（4）（SX294・298・308・309）
写真図版 41　6 区上層 SX（5）（SX315・325・329・349・405・415）
写真図版 42　6 区上層 SX（6）・SD（1）（SX434・442・518・556・592、SD99）
写真図版 43　6 区上層 SD（2）（SD99・146・153・154・168・170）
写真図版 44　6 区上層 SD（3）（SD168・175・188・189・190・202（SN04）・203・248・274（SN05）・288）
写真図版 45　6 区上層 SD（4）（SD210・221（SN06）・226・234・236・245・276・289（SN06）・291（SN03））
写真図版 46　6 区上層 SD（5）（SD236・242・245・260・265・268・289（SN06）・291（SN03）・562）
写真図版 47　6 区上層 SD（6）（SD245・248・256・261・263・264・282・292）
写真図版 48　6 区上層 SD(7)(SD265・267・274(SN05)・276・288）
写真図版 49　6 区上層 SD（8）（SD289（SN06）・291（SN03）・293（SN02）・302・310（SN01））
写真図版 50　6 区上層 SD（9）（SD332・350・354・355・400）
写真図版 51　6 区上層 SD（10）（SD372・400・411・441・562・576）
写真図版 52　6 区上層 SA（1）（SA144・145・147・149）
写真図版 53　7 区上層 SE（1）・SK（1）（SE121・122・126、SK36・54）
写真図版 54　7 区上層 SK（2）（SK66・123・166・193・200）
写真図版 55　7 区上層 SK（3）・SX（1）（SK207・212、SX1・9・10・19）
写真図版 56　7 区上層 SX（2）（SX20・22・23・35）
写真図版 57　7 区上層 SX（3）（SX42・43・45・48）
写真図版 58　7 区上層 SX（4）（SX48・50・51・55・56）
写真図版 59　7 区上層 SX（5）（SX56・57・59・61・67）
写真図版 60　7 区上層 SX（6）（SX67・81・90・99・124・130・176）
写真図版 61　7 区上層 SX（7）・SD（1）（SX176・179・186（SN10）・189・195、SD27・28・44・187（SN10））
写真図版 62　7 区上層 SD（2）（SD28・37・38・39・41・44・47・49・62・64）
写真図版 63　7 区上層 SD（3）（SD37・41・46・47・49・62・63・75）
写真図版 64　7 区上層 SD（4）（SD75・80・85・86・87・89・92・94・96・144）
写真図版 65　7 区上層 SD（5）（SD100・110・111・117・141・164）
写真図版 66　7 区上層 SD（6）（SD118・120（SN09）・146・159・160・168・173・188）
写真図版 67　7 区上層 SD（7）（SD168・180・201・203・204・208・209・210）
写真図版 68　7 区上層 SD（8）（SD210・211・214・215・217・218・219・223（SN07））
写真図版 69　6 区下層上面 SI（1）（SI93・262）

写真図版 70　6 区下層上面 SI（2）（SI93・262）
写真図版 71　6 区下層上面 SI（3）（SI262）
写真図版 72　6 区下層上面 SB（1）（SB1215）
写真図版 73　6 区下層上面 SB（2）・SK（1）（SB1215、SK152・196・205）
写真図版 74　6 区下層上面 SK（2）（SK212・253・257・327）
写真図版 75　6 区下層上面 SK（3）（SK333・353・359・364・370・371）
写真図版 76　6 区下層上面 SK（4）（SK382・383・395・396）
写真図版 77　6 区下層上面 SK（5）（SK403・406・407・410・413）
写真図版 78　6 区下層上面 SK（6）（SK413・417・418・422・437）
写真図版 79　6 区下層上面 SK（7）（SK439・604・611・612）
写真図版 80　6 区下層上面 SK（8）（SK617・626・627・628・629・632）
写真図版 81　6 区下層上面 SK（9）（SK632・634・635・637・638）
写真図版 82　6 区下層上面 SK（10）（SK638・641・642・644・645）
写真図版 83　6 区下層上面 SK（11）（SK646・647・653・656・657）
写真図版 84　6 区下層上面 SK（12）（SK658・659・660・664）
写真図版 85　6 区下層上面 SK（13）（SK666・668・669・671）
写真図版 86　6 区下層上面 SK（14）（SK673・677・678・680・681・682）
写真図版 87　6 区下層上面 SK（15）（SK683・685・686・689・690）
写真図版 88　6 区下層上面 SK（16）（SK691・695・697・700・701）
写真図版 89　6 区下層上面 SK（17）（SK673・701・702・703・705・710・711）
写真図版 90　6 区下層上面 SK（18）（SK712・719・724・726）
写真図版 91　6 区下層上面 SK（19）（SK727・731・741・788）
写真図版 92　6 区下層上面 SK（20）（SK796・854・861・863）
写真図版 93　6 区下層上面 SK（21）・SX（1）（SK913、SX211・338・414）
写真図版 94　6 区下層上面 SX（2）（SX416・601・623）
写真図版 95　6 区下層上面 SX（3）（SX624・736・740・742・847）
写真図版 96　6 区下層上面 SX（4）・SD（1）（SX847、SD259・290・304・305・322・401・593）
写真図版 97　6 区下層上面 SD（2）・SC（1）（SD593・600・738・739、SC186・243）
写真図版 98　6 区下層上面 SC（2）・F（1）（SC243・687・688、F194）
写真図版 99　6 区下層上面 F（2）（F201・204・283）
写真図版 100　6 区下層上面 F（3）（F283・767・798）
写真図版 101　6 区下層中面 SK（1）（SK748・749・775・790）
写真図版 102　6 区下層中面 SK（2）（SK801・803・804・816・817）
写真図版 103　6 区下層中面 SK（3）（SK825・826・834・835）
写真図版 104　6 区下層中面 SK（4）（SK835・841・850・858・859）
写真図版 105　6 区下層中面 SK（5）（SK859・860・875・876）
写真図版 106　6 区下層中面 SK（6）・SX（1）（SK968・969・995、SX639・750）
写真図版 107　6 区下層中面 SX（2）（SX763・774・778・784）
写真図版 108　6 区下層中面 SX（3）・SD（1）・SC（1）（SX829・855、SD791、SC802・840）
写真図版 109　6 区下層中面 SC（2）・F（1）（SC840・931、F814・869・870・872）
写真図版 110　6 区下層中面 F（2）（F901・903・908・916）
写真図版 111　6 区下層下面 SB（1）（SB1・2）
写真図版 112　6 区下層下面 SB（2）（SB2・3）
写真図版 113　6 区下層下面 SB（3）（SB3・7・9・11）
写真図版 114　6 区下層下面 SB（4）・SK（1）（SB11・12、SK933）
写真図版 115　6 区下層下面 SK（2）（SK938・961・964・971・977・983）
写真図版 116　6 区下層下面 SK（3）（SK983・987・992・993）
写真図版 117　6 区下層下面 SK（4）（SK993・999・1007・1009・1031）
写真図版 118　6 区下層下面 SK（5）（SK1031・1046・1052・1058・1061）
写真図版 119　6 区下層下面 SK（6）（SK1061・1073・1074・1076・1078）
写真図版 120　6 区下層下面 SK（7）（SK933・1078・1083・1088・1093・1133）
写真図版 121　6 区下層下面 SK（8）（SK1134・1138・1144・1152）
写真図版 122　6 区下層下面 SK（9）（SK1160・1162・1168・1183）

写真図版 123　6 区下層下面 SK（10）（SK1189・1197・1203・1207）
写真図版 124　6 区下層下面 SK（11）・SX（1）・SC（1）（SK1207・1211、SX1120、SC939・940・1089）
写真図版 125　6 区下層下面 SC（2）・F（1）（SC1107・1153・1179・1195・1212、F402）
写真図版 126　6 区下層下面 F（2）（F402・435・921・922・935・941）
写真図版 127　6 区下層下面 F（3）（F941・955・1005・1006・1022）
写真図版 128　6 区下層下面 F（4）（F1023・1032・1055・1057）
写真図版 129　6 区下層下面 F（5）（F1067・1087・1102・1130）
写真図版 130　6 区下層下面 F（6）（F1130・1147・1148・1149）
写真図版 131　6 区下層下面 F（7）（F1170・1198・1208・1213・焼土集中遺構）
写真図版 132　7 区下層 SX（1）（SX227・228・230・231・232）
写真図版 133　出土遺物 1（5 区上層遺構出土土器、遺構外出土土器、遺構出土石器・石製品、遺構外出土石器・石製品、2005 試掘出土土器）
写真図版 134　出土遺物 2（6 区上層遺構出土土器、遺構外出土土器、遺構出土石器・石製品、遺構外出土石器・石製品）
写真図版 135　出土遺物 3（7 区上層遺構出土土器、遺構外出土土器 1）
写真図版 136　出土遺物 4（7 区上層遺構外出土土器 2、遺構出土石器･石製品、遺構外出土石器･石製品）
写真図版 137　出土遺物 5（6 区下層上面遺構出土土器 1）
写真図版 138　出土遺物 6（6 区下層上面遺構出土土器 2、遺構外出土土器、遺構出土石器・石製品、遺構外出土石器・石製品）
写真図版 139　出土遺物 7（6 区下層中面遺構出土土器、遺構外出土土器 1）
写真図版 140　出土遺物 8（6 区下層中面遺構外出土土器 2、遺構出土石器・石製品、遺構外出土石器・石製品）
写真図版 141　出土遺物 9（6 区下層下面遺構出土土器 1）
写真図版 142　出土遺物 10（6 区下層下面遺構出土土器 2、遺構外出土土器、遺構出土石器・石製品 1、遺構外出土石器・石製品 1）
写真図版 143　出土遺物 11（6 区下層下面遺構出土石器・石製品 2、遺構外出石器・石製品 2）
写真図版 144　縄文土器

第Ⅰ章　序　　章

第1節　遺　跡　概　観

大沢谷内遺跡は新潟市の南端部付近、新潟市秋葉区（旧中蒲原郡小須戸町）鎌倉地内ほかに所在する。東を新津丘陵、西を越後平野中央部から南部を縦断して流れる信濃川に挟まれた沖積地に位置する。地表面の海抜は3.5m 前後を測り、現況は調査地を含めた周辺一帯に水田が広がる。

大沢谷内遺跡は、昭和 32（1957）年に行われた暗渠工事に伴い古代の土器が発見され明らかになった遺跡で〔川上 1989〕、昭和 54（1979）年刊行の『新潟県遺跡地図　昭和 54 年度』に遺跡名と地点が初めて掲載され、「大沢谷内遺跡」の名称が周知された。『小須戸町史』には、「大沢谷内遺跡」、「丸山遺跡」、「三軒屋敷遺跡」から出土した須恵器が掲載され、8 世紀後半の年代観が示されている〔中島 1983〕。また、上記の 3 遺跡に加えて「丑ヶ島遺跡」を含めた 4 遺跡が、遺跡の立地上同一の集落跡の可能性が指摘された。その後、昭和 60 年 8 月に行われた新潟県教育委員会（以下、県教委）による遺跡詳細分布調査の結果、4 遺跡を包括する形で、「大沢谷内遺跡」の範囲が再設定された〔川上 1989、細野・伊比ほか 2012〕。

昭和 63（1988）年から平成元（1989）年にかけて、小須戸町教育委員会（以下、小須戸町教委）により行われた大規模農道建設に伴う発掘調査（第 1 ～ 4 次）から本格的な調査が始まる〔川上 1989〕。その後、平成 16（2004）年から国道 403 号整備に伴う一連の調査が、長期間継続的に行われた（第 5・7 ～ 15・17・19 ～ 21・23 ～ 25 次）。この調査範囲は広範囲に及んだため、1 ～ 11 の各区に分けて調査が実施された。また、国道 403 号整備に伴う調査と並行して、市道鎌倉横川 1 号線改良工事に伴う調査（第 6・16・18 次）が行われており、遺跡の範囲が拡大している〔前山ほか 2012〕。その他にも、農免道路建設に伴う調査（第 22 次）も行われている。なお、平成 19（2007）年に「大沢谷内遺跡」から北方約 100m に隣接する「大沢谷内北遺跡」の本発掘調査も行われ、縄文時代晩期を中心とする遺構・遺物が確認されており、同時代では「大沢谷内遺跡」と一連の遺跡群として評価されている〔前山・伊比ほか 2010〕。

本遺跡は、東西約 800m、南北約 1,300m と広大な範囲に広がる。遺跡の形成は、縄文時代晩期中葉に遡り、以後鎌倉時代まで、居住域を変えながら断続的に生活が営まれていたと考えられる。縄文時代において、大規模な谷を挟んだ北東部（1 ～ 4 区）は晩期中葉の遺構・遺物が中心で、大沢谷内北遺跡では晩期中葉の終わり頃の遺構・遺物、本書で報告する中央部（5 ～ 7 区）では晩期後葉を主体とする遺構・遺物が確認されている。弥生・古墳時代は散発的に遺物が見つかっている。弥生時代では、後期の東北系、北陸系、八幡山式土器が確認され、新津丘陵に所在する古津八幡山遺跡との関係が指摘されている〔細野・伊比ほか 2012〕。また、古墳時代では、古墳時代前・中期の土器が少量ではあるが出土しており（本書報告）、8 区で出土した勾玉〔相田・金田ほか 2015〕も古墳時代の可能性がある。飛鳥時代（7 世紀後半）には、北東部（1 ～ 4 区）で集落が営まれ、溝による区画や初現的な律令祭祀と考えられる痕跡が確認されることから、官衙関連の遺跡と想定されている。一方、南西部（8・9 区）および北西部（市道）では、奈良～平安時代、特に平安時代を中心とした集落が営まれた。このことから、飛鳥時代から平安時代にかけて活動の中心域の変化がうかがえる。その後、中世になると広い範囲で遺物や遺構が確認され、活動域が拡大したと推測される〔相田 2015〕。また、南部（9 区）を中心に古代以降の大規模な畑ないし水田の耕作域が確認されており、居住域と生産域の関係も注目される。その他にも、古代からの木製品製作、アスファルトや漆の利用なども行っていたと考えられる〔前山・伊比ほか 2010〕。本遺跡は、近年の調査成果によって、集落の構成・空間・時間的な変遷を考える上で重要な資料を提供する遺跡として注目される。

第 2 節　発掘調査に至る経緯

一般国道 403 号小須戸田上バイパスの整備工事計画に伴い、新潟市秋葉区横川浜地内から天ヶ沢地内に至る 2km におよぶ区間の用地取得が平成 13 ～ 15 年にかけて行われた。本線は新津丘陵から西に約 1km の沖積地に位置し、丘陵と並行する幅員約 50m の直線区間である。小須戸町教委（当時）と事業を所管する新潟県新津土木事務所（以下、新津土木）との協議の結果、埋蔵文化財包蔵地の有無および内容を把握するため、試掘・確認調査の実施が決定した。平成 16 年 11 月 29 日から翌 17 年 1 月 6 日にかけて、調査対象範囲内に計 99 か所の試掘確認トレンチを設定し、遺跡の範囲や遺物包含層の深度などを確認した。調査の結果、24 か所のトレンチで遺構や遺物が確認されたことを踏まえ、新津土木と協議を重ねた結果、国道 403 号整備に先立ち大沢谷内遺跡の本発掘調査が必要であるという合意がなされた。さらに、面積が広大であること、また遺物包含層・遺構確認面が複数あることから、本発掘調査は複数年度にわたるものとし、随時追加の確認調査を実施することによって調査精度を高めることとした（追加の確認調査は第 8 次および第 10 次）。平成 17 年に実施した追加の確認調査（第 8 次）では、46 か所のトレンチのうち 26 か所で遺構や遺物が確認され、市道鎌倉横川 1 号線との取付道路部も含め、本発掘調査範囲が決定した。

平成 17 年度から平成 21 年度にかけて、1 ～ 4 区の本発掘調査が行われ（第 7・9・11・12・14 次）、報告が完了している〔細野･伊比ほか 2012〕。また、平成 21 年度から、1 ～ 4 区よりさらに国道本線部の南側に位置する 5･6 区の本発掘調査（第 15 次）が実施され、翌 22 年度には、6 区に加えて東側取付道路部の 7 区の本発掘調査（第 17 次）が実施された。平成 23 年度も引き続き 6 区の調査を行うとともに、西側取付道路部の 8 区、さらには 6 区より国道本線部の南側に位置する 9 区の本発掘調査（第 19 次）が行われた。また、平成 24 年度に 9 区、平成 25 年度に 8 区の本発掘調査（第 20 次、第 21 次）を行い、このうち 8･9 区については報告が完了している〔相田・金田ほか 2015〕。その後、平成 27 年度の試掘調査によって 9 区の南側に遺跡の広がることが確認されたことを受け、大沢谷内遺跡の遺跡範囲の拡大を行うとともに、本発掘調査対象地を新たに 10・11 区と設定し、平成 28 年度に本発掘調査を実施し（第 25 次）、既に報告されている〔遠藤・澤野ほか 2018〕。なお、平成 17 年 3 月に小須戸町が新潟市に編入合併したため、平成 17 年度以降は市教委が調査主体となっている。また、平成 19 年度には、新潟市の政令指定都市移行に伴い、国道建設の一部について権限委譲がなされたため、工事の所管が新潟市土木部東部地域土木事務所（以下、東部土木）に移っている。

本報告の調査は、平成 21 ～ 23 年度に実施した第 15・17・19 次調査のうち、既に報告書が刊行されている第 19 次調査の 8・9 区を除いた 5 ～ 7 区の調査である。平成 19 年度の 1 ～ 4 区の本発掘調査時に、5 ～ 7 区についても一括して新潟市長（以下、市長）より文化財保護法（以下、法）第 94 条第 1 項の通知（平成 19 年 5 月 14 日付東土木第 200 号）が県教育長に提出されており、県教育長から市長へ本発掘調査の指示（平成 19 年 5 月 23 日付教文第 224 号の 2）がなされた。平成 21 年 3 月 23 日付け、新東土木建第 864 号で、3・4 区（下層）ならびに 5・6 区の合計 7,350m^2 を本発掘調査の対象とする調査依頼が東部土木より市教委に提出され、市教育長は法第 99 条による着手報告（平成 21 年 5 月 29 日付新歴 B 第 60 号）を県教委に提出し、市埋蔵文化財センターが本発掘調査（第 15 次）を実施した。また、平成 22 年 2 月 26 日付け、新東土木建第 721 号で、6・7 区の合計 5,500m^2 を本発掘調査の対象とする調査依頼が東部土木より市教委に提出された。これを受けて、翌年度に市教育長は法第 99 条による着手報告（平成 22 年 4 月 12 日付新歴 F 第 8 号）を県教委に提出し、市埋蔵文化財センターが本発掘調査（第 17 次）を実施した。さらに、翌年度の平成 23 年度には、6 区および 8 区の一部、9 区北側の約 5,086m^2 を本発掘調査の対象とし、東部土木より市教委に調査依頼（平成 23 年 3 月 17 日付新東土木建第 552 号）が提出された。これを受け、市教育長は法第 99 条による着手報告（平成 23 年 4 月 8 日付新歴 F 第 4 号）を県教委に提出し、市文化財センターが本発掘調査（第 19 次）を実施した。

第１表　大沢谷内遺跡調査履歴

年次	一般国道403号(小須戸田上バイパス)に伴う発掘調査回数	調査年	調査種別	主な成果	調査原因	調査主体	担当	調査区	調査面積	試掘・確認調査トレンチ番号	文献	旧遺跡名	備考
		S60年(1985)8.4	分布調査		新潟県遺跡詳細分布調査	新潟県	県文化行政課 和田寿久					大沢谷内 丸山 丑ヶ島 三軒屋敷	4遺跡を統合して「大沢谷内遺跡」とする。
1次		S63年(1988)7.4～7.6	確認調査	平安時代の遺構・遺物を確認（本発掘調査範囲の確定）	農免道路建設	小須戸町	県文化行政課 鈴木俊成		76.84㎡	1～29T	〔川上1989a〕		
2次		S63年(1988)7.14・7.15	確認調査	本発掘調査範囲の北西側の確認を行う。遺構・遺物は出土していない。	農免道路建設	小須戸町	県文化行政課 鈴木俊成		31㎡	30～37T	〔川上1989a〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
3次		S63年(1988)11.4～11.6	本調査	遺構はPit１基、遺物が少量（平安時代土師器13点・須恵器22点）出土した。	農免道路建設	小須戸町	川上貞夫	B地点	974.7㎡		〔川上1989a〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
4次		H1年(1989)4.12～4.21	本調査	平安時代の遺構・遺物を検出した。主な遺構はPit群、井戸、土坑、溝などが確認されている。	農免道路建設	小須戸町	川上貞夫	A地点	940.5㎡		〔川上1989a〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
5次	１次	H16年(2004) 11.29～12.10 H17年(2005)1.6	確認調査	縄文・飛鳥・奈良・平安時代の遺構・遺物を確認した。特に縄文時代晩期の遺物の発見は当初予想されておらず、「大沢谷内北遺跡」として登録した。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	小須戸町	県文化行政課 石川智紀　春日真実 白根市教育委員会 潮田憲幸		2,136㎡	1～99T			調査区位置図については第6図・図版2参照。
6次		H17年(2005)5.16～5.19	確認調査	奈良・平安時代の遺物を確認した。遺構の検出はない。	市道鎌倉横川1号線改良工事	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 諫山えりか		36.4㎡	1～26T			調査区位置図については第6図・図版2参照。
7次	２次	H17年(2005)8.7～12.20	本調査	主に上層の調査，飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町時代の遺構が多数確認された。下層に当初確認されていなかった縄文時代晩期の遺跡が新たに発見された。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 朝岡政康	1～3区	1,912㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
8次	３次	H17年(2005) 10.19～12.2	確認調査	遺跡範囲確定のための追加確認調査。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸		771.4㎡	107～154T			調査区位置図については第6図・図版2参照。
9次	４次	H18年(2006)7.10～12.26	本調査	１区上下層と3区上面の調査および昨年度確認された縄文時代の調査を行い、1・3区の全面に縄文時代晩期中葉の包含層が分布していることを確認した。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明	1・3区	4479.07㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
10次	５次	H18年(2006)12.12	確認調査	遺跡範囲確定のための追加確認調査。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明		22.5㎡	155～159T			調査区位置図については第6図・図版2参照。
11次	６次	H19年(2007)8.29～12.28	本調査	3区下層の調査。縄文時代の遺構確認を主に行った。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 渡邊ますみ	3区	1,400㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
12次	７次	H20年(2008)4.14～12.17	本調査	3区下層では縄文時代晩期中葉の遺構・遺物が検出された。4区上層では飛鳥時代・古代・中世の集落跡が検出された。調査区南の埋没谷からは大量の須恵器とともに祭祀木製品が出土し、県内では希少な飛鳥時代の集落跡と祭祀場の例として注目される。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明	3・4区	5,600㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
13次	８次	H21年(2009)2.23～2.25	確認調査	遺跡範囲確定のための追加確認調査。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸		200㎡	168T			調査区位置図については第6図・図版2参照。
14次	９次	H21年(2009)4.6～12.28	本調査	3・4区下層の調査を行い、縄文時代晩期中葉の集落跡の全容が明らかとなった。焼土遺構群・掘立柱建物・住居状遺構等が検出され、土坑群の中には石器のデポ遺構も確認された。遺物では多量の板状・塊状アスファルトの出土が注目される。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明	3・4区	5,920㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
15次	10次	H21年(2009)6.1～H22年(2010)3.19	本調査	5区・６区ともに上層・下層の調査。上層では古墳時代から中世の遺構・遺物が確認された。下層では縄文時代晩期最終末の遺構・遺物を検出した。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸	5.6区	7,319㎡		〔本書〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
16次		H21年(2009) 11.10～H21年(2009)11.17	確認調査	平安時代の集落跡が北西に延びることを確認。	市道鎌倉横川1号線改良工事	新潟市	新潟市歴史文化課 廣野耕造			1～25T			調査区位置図については第6図・図版2参照。
17次	11次	H22年(2010)4.12～H22年(2010)12.27	本調査	6区下層と7区の調査。6区下層では縄文時代晩期中葉の遺構・遺物が確認された。竪穴住居２棟や焼土遺構などが確認された。７区では平安・鎌倉・室町時代の遺構が確認された。平安時代では排水施設が明確な小区画遺構が確認され、鎌倉・室町時代では溝・井戸などと畑の跡が検出された。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸	6・7区	5,727㎡		〔本書〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
18次		H22年(2010)9.24～H22年(2010)12.6	本調査	平安時代および鎌倉・室町時代の集落跡および畑と考えられる畝状遺構が多数検出された。特筆される遺物として古代の天然アスファルトの塊が確認された。	市道鎌倉横川1号線改良工事	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明		823㎡		〔前山ほか2012〕		調査区位置図については第6図・図版2参照。
19次	12次	H23年(2011)4.11～H23年(2011)12.14	本調査	6・8・9区の調査。第17次調査の継続である6区下層では縄文時代晩期後半の遺構・遺物が確認された。8・9区では奈良・平安・鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。9区確認された方形の溝や小溝は、畑に関連する遺構と考えられる。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市文化財センター 潮田憲幸	6・8・9区	5,330㎡		〔本書〕 （8・9区除く） 〔相田・金田ほか2015〕（8・9区）		
20次	13次	H24年(2012)4.11～H24年(2012)10.18	本調査	9区の調査。第19次調査の北側にあたる。奈良・平安・鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。掘立柱建物19棟や井戸71基などが確認された。生産遺構が中心の南側の第19次調査地に対し、居住域を中心とした場所である。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市文化財センター 潮田憲幸	9区	2,612㎡		〔相田・金田ほか2015〕		
21次	14次	H25年(2013)4.15～H25年(2013)9.19	本調査	8区の調査。第19次調査8区の北側にあたる。奈良・平安・鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。掘立柱建物9棟や井戸51基などが確認された。微高地に位置し、居住域にあたる。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市文化財センター 相田泰臣	8区	2,130㎡		〔相田・金田ほか2015〕		
22次		H26年(2014)6.25～H26年(2014)6.27 H26年(2014)7.1	確認調査	奈良・平安時代の遺構・遺物が確認された。大沢谷内遺跡北西域の広がりを確認。畑に関連した遺構の可能性がある格子状の小溝を確認。	農免道路建設	新潟市	新潟市歴史文化課 朝岡政康		113㎡	1～17T			調査区位置図については第6図参照。
23次	15次	H27年(2015)10.5～H27年(2015)10.15 H28年(2016)1.18～H28年(2016)2.3	試掘調査	大沢谷内遺跡南西隣接地から南側を対象とした試掘調査。古墳～古代の遺物が確認され、天ヶ沢上谷内遺跡を周知化した。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市歴史文化課 朝岡政康		253.86㎡	1～28・40～45T			
24次	16次	H27年(2015)12.1～H27年(2015)12.14 H28年(2016)1.18～H28年(2016)2.3	確認調査	縄文時代・平安時代の遺構・遺物が確認された。大沢谷内遺跡の南西側の広がりを確認。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市歴史文化課 朝岡政康		374.49㎡	29～39・46～61・66～68T			
25次	17次	H28年(2016)4.18～H28年(2016)11.15	本調査	10・11区の調査。第19・20次調査9区の南西側にあたる10区では、古代の水田跡が確認された。遺跡南西端部の11区では、縄文時代晩期終末と平安時代の遺物や古代の旧河道などが確認された。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明 遠藤恭雄	10・11区	1,767.45㎡（10区） 989.82㎡（11区）		〔遠藤・澤野ほか2018〕		調査区位置図については第6図参照。

※以上の調査履歴は2020年2月末現在のものである。　　※160～167Tは欠番。

大沢谷内北遺跡調査履歴

通産調査回数	一般国道403号(小須戸田上バイパス)に伴う発掘調査回数	調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査面積	トレンチ番号	文献	備考
2次	2次	H17年(2005)10.17・18	確認調査	一般国道403号（小須戸田上バイパス）	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸	160㎡	100～106T		大沢谷内遺跡第5次調査が1次調査を兼ねる。
3次	3次	H19年(2007)6.18～12.28	本調査	一般国道403号（小須戸田上バイパス）	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明	3,043㎡		〔前山・伊比ほか2010〕	調査区位置図については第6図・図版2参照。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

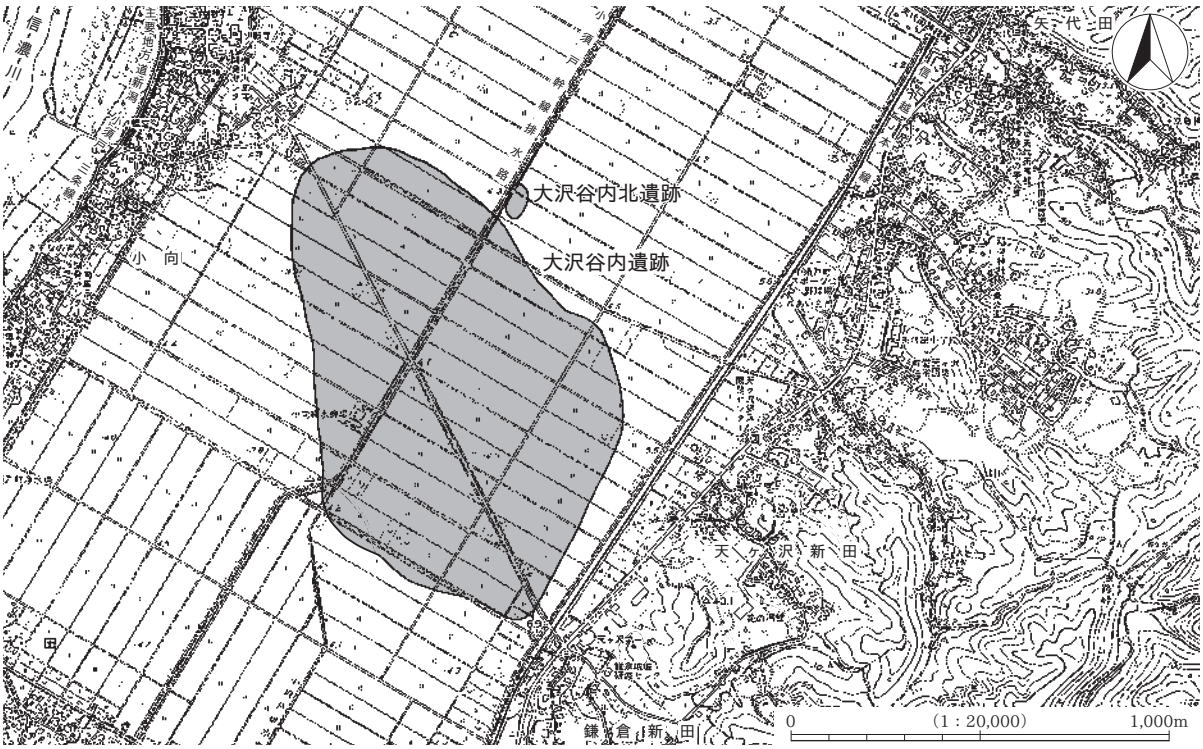
第１節　遺跡の位置と地理的環境

大沢谷内遺跡は新潟市秋葉区に所在する。新潟市は平成 17（2005）年に近隣の 12 市町村と合併し、平成 19（2007）年には８つの行政区からなる政令指定都市となった。秋葉区は新潟市域の南東部にあたり、合併前の旧新津市と旧中蒲原郡小須戸町（以下本章、旧小須戸町）で構成された区である。遺跡は秋葉区の南西部にあたる旧小須戸町地域に位置する。

旧小須戸町の隣接市町村は北に旧新津市、東に新津丘陵を挟んで五泉市と接し、南は南蒲原郡田上町（以下本章、田上町）、西側は信濃川を境として旧白根市（現新潟市南区）と接する。旧小須戸町は、南北に水田がひろがり、東に丘陵、西に信濃川という環境にある。大沢谷内遺跡は遺跡中心部からいずれも直線距離で東に 1km 程で新津丘陵、西に 1.5km 程で信濃川があり、北に 23.5km 程度で日本海に至る。このような地理的環境について、東側の丘陵から西側の信濃川に向かって順に記述していく（第２図）。

新津丘陵は南南西から北北東に長くのび、南限は加茂川とされる山地・丘陵のことである〔鈴木郁 1989、鈴木浩 1993〕。狭義の新津丘陵を示す範囲も別にあるが、本書ではこの加茂川以北を指す名称として使用する。新津丘陵中央部には南側から護摩堂山（標高 268m）・高立山（276m）・菩提寺山（248m）、その北側には金比羅山（134m）と山地があり、高立山から北北東に向かって標高が低くなる。その山地の周囲に起伏の少ない丘陵がみられ、金比羅山寄りで標高 100m くらい、北端の秋葉山付近では標高 70 ～ 80m と低下する。

この新津丘陵では新潟県内でも代表的な新津油田が平成８（1996）年まで操業しており、平成 30（2018）年には新津油田金津鉱場跡が国史跡に指定された。新津油田の幕開けは、慶長 13（1608）年に真柄仁兵衛が新田



（新潟市地形図 2008 年　1/10,000→1/20,000　一部改変）

第１図　大沢谷内遺跡位置図

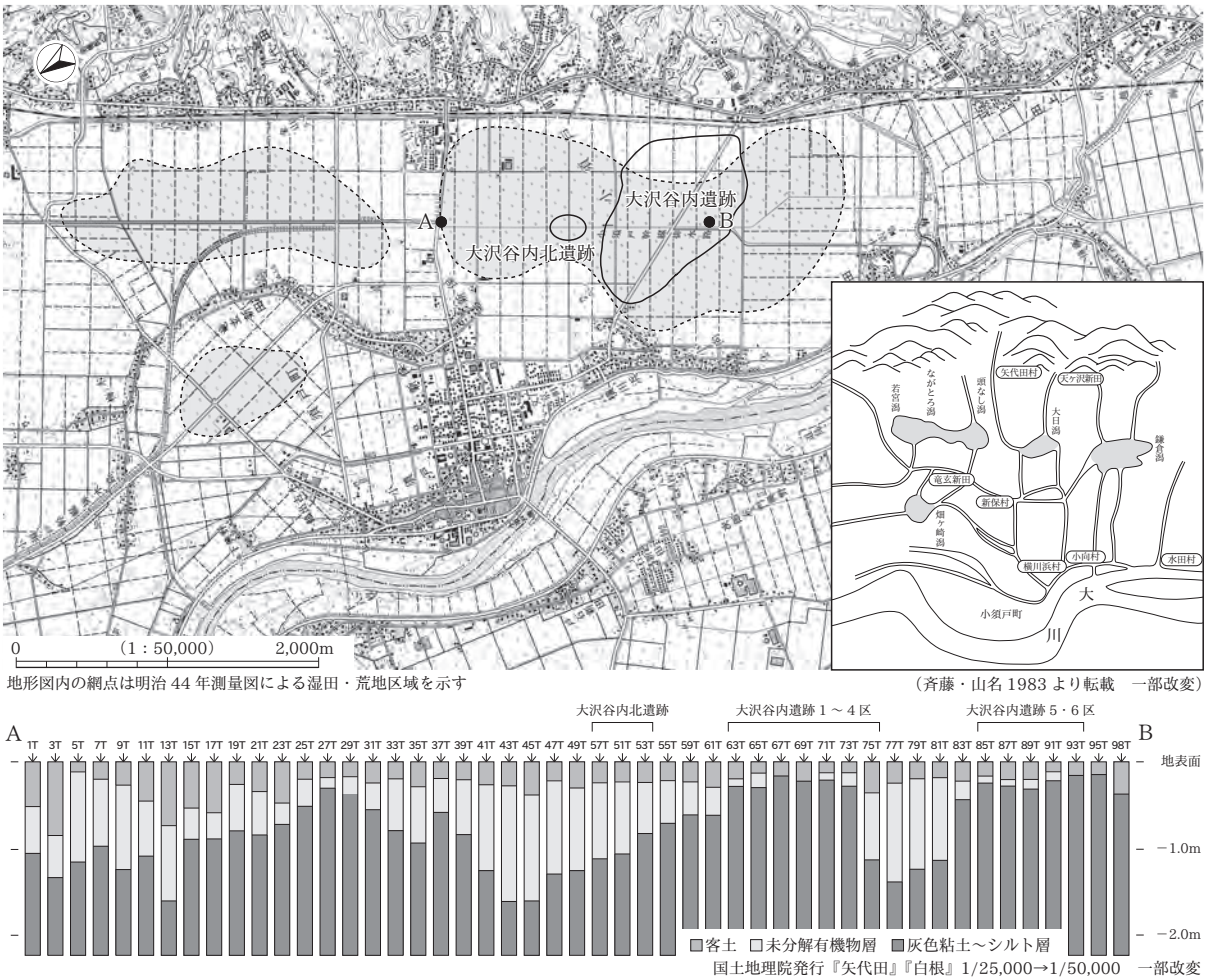
新潟県『土地分類基本調査　新潟・新津』1972・1974 より作成（1/150,000）

第 2 図　大沢谷内遺跡周辺の地形分類図

開発地を探している際に草水（石油）が染み出ている所を複数発見したことにはじまる。その後、慶長 18（1613）年に新発田藩へ 7 か所の草水採掘を願い出て許可を受けた。このうちの 1 か所は旧小須戸町の天ヶ沢である〔佐藤 1983、新潟市 2008〕。なお、現在でも大沢谷内遺跡の北東にある鎌倉新田地内では原油が湧出している〔前山ほか 2012〕（図版 2）。また、これまでの大沢谷内遺跡の調査からも縄文時代晩期や古代から中世のアスファルト塊が多く見つかっており、アスファルトの流通において中核的な役割を担った遺跡と考えられており〔細野・伊比ほか 2012、前山ほか 2012〕、石油資源が集落の生業の一つとして利用されていた可能性が指摘されている〔相田・金田ほか 2015〕。

この丘陵縁辺部には連続性のない段丘・台地が分布している。このような段丘面は平坦ではあるが、開析が進んでおり、樹枝状の谷が深くまで発達している。この樹枝状の谷を埋めているのが谷底平野である。現在は段丘・台地縁辺部の比較的平坦な場所に JR 信越本線が敷設されており、旧小須戸町唯一の駅である矢代田駅が存在する。なお、丘陵側の交通面を見ると古くは元禄年間（1688～1704 年）作成とされる新発田市立図書館蔵の「新津組・小須戸組絵図」に、旧小須戸町の矢代田から天ヶ沢新田・鎌倉新田といった山手を通過し三国街道につながる街道が太い線で描かれている〔斉藤 1983b〕。また、矢代田地区から新津丘陵東麓の五泉市橋田地区に至る仏路越えという山道が、昭和 40 年からの林道開鑿で寸断されるまで存在し、相互の交流があったとされる〔斉藤・山名 1983〕。

遺跡の立地する沖積地には、かつて鎌倉潟や大日潟といった潟が存在していた。そのことは「新津組・小須戸組絵図」を略図化したものが『小須戸町史』に掲載されており〔斉藤・山名 1983〕、これに加筆し、明治期の地図の湿田範囲と重ねてかつての潟の位置を概ね反映させたものが大沢谷内北遺跡報告書〔前山・伊比ほか 2010〕で作成され、本書でも第 3 図・図版 1 として掲載している。これと遺跡の位置を照合すると大沢谷内遺跡は鎌倉潟・



地形図内の網点は明治 44 年測量図による湿田・荒地区域を示す

（斉藤・山名 1983 より転載　一部改変）

国土地理院発行『矢代田』『白根』1/25,000→1/50,000　一部改変

第 3 図　大沢谷内遺跡周辺の地形と層序（細野・伊比ほか 2012 より）

大日潟の範囲に概ね含まれることとなる。一方、発掘調査の成果から大沢谷内北遺跡、大沢谷内遺跡１区の低地部や４区谷部・10・11 区、市道関連調査１・２区の範囲では古代・中世の遺物包含層の上に未分解有機物層が堆積しており、また大沢谷内遺跡１～４・８・９区の中世遺構の覆土に主として未分解有機物層が堆積しているものがある。この未分解有機物層はかつての潟底堆積物の名残と考えられている〔細野・伊比ほか 2012〕。この遺跡周辺の湿地化については大沢谷内遺跡出土遺物の下限時期から 15 世紀前後に本格的に生じた可能性が示唆され〔相田・金田ほか 2015〕、遺跡南西側は 10・11 区調査の自然科学分析結果などから 10 世紀から 11 世紀に湿地環境への変化があったと推測されている〔遠藤・澤野ほか 2018〕。ある段階で生成された潟は、明治・大正の揚排水や昭和の耕地整理などにより乾田化され姿を消したと考えられる。なお、「新津組・小須戸組絵図」にはこれらの潟からの流路も見てとれる。

また、沖積地にはいくつかの自然堤防が形成されている。『小須戸町史』では、自然堤防を結ぶと横川浜－新保－竜玄新田－浦興野－臼井－笠巻－鷲ノ木などの集落沿いにかつての信濃川の１つの流れが推定されており〔斉藤・山名 1983〕、新保や竜玄新田周辺の自然堤防はこの流れにより形成されたものととらえられている。

そして、遺跡の西側には信濃川が流れている。信濃川は、江戸時代には舟運が盛んであった河川であり、その河岸場町として栄えた旧小須戸町市街地は川沿いに発達している。そのことを示すように、市街地にある茂林寺には南北朝期（1300 年代）につくられたとされる国指定重要文化財、木造地蔵菩薩半跏像がある。この像の来歴は、享保（1720 年代）のころに小須戸組庄屋であった坂井与次兵衛が御所納米積船支配として浪花の港へたびたび往復しており、ある時この像を浪花で譲り受け、海路で新潟、新潟から信濃川を上って小須戸に到着し、茂林寺に寄進したものとされており〔溝口・山名 1983〕、信濃川の河川交通の様子が窺える。

大沢谷内遺跡はこのような立地・環境の中に営まれていた。これまでの調査から大沢谷内北遺跡を含めて考えても櫂や井戸枠材に転用された舟の出土などからは内水面の水上交通をいかした遺跡といえ、丘陵地に近いという点では漆要具の出土は森林資源の利用を示し、さらに石油資源の採取が可能という環境が遺跡の形成要因の背景として考えられる。

第２節　周 辺 の 遺 跡

ここでは旧小須戸町を中心にした周辺遺跡について時代別に触れる。必要に応じて平成 17 年の合併前または合併後の隣接市町村などの遺跡も紹介する（第４・５図、第２・３表）。

【旧石器時代の遺跡】　旧石器時代の遺跡は旧小須戸町では確認されていない。秋葉区では旧新津市の秋葉遺跡〔前山 2014〕、草水町２丁目窯跡〔新潟市 2007〕、古津八幡山遺跡〔渡邊・立木ほか 2001〕で旧石器時代の石器が確認されている。この３遺跡は新津丘陵上に立地している。

【縄文時代の遺跡】　旧小須戸町の範囲では６遺跡確認されている。立地としては沖積地・自然堤防上・丘陵上となる。時期の古い順に、縄文時代前期の三沢原遺跡〔中島 1983〕が段丘上に、縄文時代中期前葉の土器が少量出土した横川浜堤外地遺跡〔中島 1983〕が信濃川沿いに、晩期中葉・晩期後葉の大沢谷内遺跡〔細野・伊比ほか 2012、遠藤・澤野ほか 2018〕、晩期中葉後半の大沢谷内北遺跡〔前山・伊比ほか 2010〕が沖積地に立地する。その他に江先遺跡、鎌倉新田居村遺跡が縄文時代の遺跡として周知化されている。

近隣での代表する遺跡は、旧新津市にある早期の愛宕澤遺跡〔立木・澤野ほか 2004〕、中期から後期では平遺跡〔川上・遠藤ほか 1983〕、秋葉遺跡〔新潟市 2007、今井 2019〕、大野中遺跡〔前山 2018〕が、また中・後期から晩期まで継続する原遺跡〔新潟市 2007〕がある。なお、平成 29 年度に旧新津市にある程島館跡が調査され、その際に縄文時代前期から中期の遺物が確認された。また同時期ごろの「の」字状石製品が土坑から出土し注目される〔相澤 2019〕。田上町にも中期の古屋敷遺跡〔中島ほか 1976b〕、後期後葉を中心とした川船河遺跡〔伊藤 1996〕、晩期の保明浦遺跡〔田畑 1993・1996・2003・2004〕がある。五泉市では大沢谷内遺跡と同じ晩期の筧下遺跡が沖積

第４図　大沢谷内遺跡周辺の遺跡分布図（縄文・弥生・古墳）

地に立地している〔山崎・鈴木ほか 2004〕。周辺の遺跡を含めてみても立地は丘陵や段丘部が中心となろう。

【弥生時代の遺跡】　大沢谷内遺跡から弥生時代後期の土器が少量確認されており〔川上 1989、細野・伊比ほか 2012〕、大沢谷内北遺跡も弥生時代の遺跡として登録されている。この時代の代表的な遺跡をみると、旧新津市にある弥生時代後期から終末期の高地性環濠集落である古津八幡山遺跡〔相田・渡邊ほか 2014、渡邊・立木ほか 2001・2004〕や、五泉市にある後期中葉の高地性集落の大倉山遺跡〔川上 1994a、尾崎 2005〕、田上町にある後期前葉の中店遺跡〔中島ほか 1976a〕が挙げられる。弥生時代も丘陵付近で遺跡数が多い。

【古墳時代の遺跡】　大沢谷内遺跡から古墳時代前期・中期の遺物が少量出土している〔細野・伊比ほか 2012、遠藤・澤野ほか 2018〕。また、大沢谷内遺跡の中心部から南西約 1km のところに天ヶ沢上谷内遺跡がある。

近隣市町村では、墳墓は旧新津市にある古墳時代前期末から中期初頭の築造と考えられる古津八幡山古墳〔相田・渡邊ほか 2014〕、田上町に古墳時代前期と考えられるエゾ塚古墳〔川上 1994b〕があり、丘陵上に造営されている。代表的な集落は、古津八幡山古墳に近く丘陵裾部に位置する中期の舟戸遺跡〔川上 1995、相田 2015a〕がある。なお、舟戸遺跡周辺には塩辛遺跡〔相田 2015b、相田 2018、渡邊・立木ほか 2004〕など古墳時代の遺跡が点在している。そのほかにも沖積地には旧新津市に中期・後期の沖ノ羽遺跡〔星野・石川ほか 1996、立木・澤野ほか 2008、遠藤・澤野ほか 2014〕、後期の中田遺跡〔笹澤（諫山）2009〕などが見られ、五泉市では前期の筺下遺跡〔山崎・鈴木ほか 2004〕や前期・後期の住吉田遺跡〔山崎・草間ほか 2004〕などがある。

【古代の遺跡】　大沢谷内遺跡では飛鳥～平安時代の遺構・遺物が確認されている〔川上 1989、細野・伊比ほか 2012、前山ほか 2012、相田・金田ほか 2015、遠藤・澤野ほか 2018〕。中でも遺跡北西側の 1 ～ 4 区は 7 世紀後半の集落跡として県内でも知られている。一種の官的要素を担っていたと考えられ一般集落とは異なる面を持つと考えられている〔細野・伊比ほか 2012〕。その後、奈良・平安時代には遺跡中心部に近い 8・9 区などを中心に出土資料が多くなり、県内でも出土例の少ない越州窯系青磁や奈良三彩が確認されている。また、9 区南西側や 10 区では水田・畑といった耕作関連遺構が検出されたことから生産域と考えられ、8 区や 9 区北東部の微高地は居住域でありかつ有力な集落であったと考えられている〔相田・金田ほか 2015、遠藤・澤野ほか 2018〕。一方、遺跡の南西端の 11 区では古代の旧河道などが確認されている〔遠藤・澤野ほか 2018〕。

大沢谷内遺跡以外に沖積地に分布する遺跡は大沢谷内北遺跡、東腰付遺跡、天ヶ沢上谷内遺跡、水田中谷内遺跡、蛇喰遺跡が確認されており、横川浜堤外地遺跡でも平安時代の遺物が確認されている〔中島 1983〕。ほかには浦興屋遺跡が立地している。なお、7 世紀の遺跡は周辺をみても少ないが、田上町に行屋崎遺跡〔田畑・武部ほか 2015〕がある。行屋崎遺跡は大沢谷内遺跡と立地や成立時期、祭祀遺物の出土など共通点が見られることから、この時期における地域開発などの社会背景を検討するには相互の関連性を考える必要がある。

一方で、丘陵付近には浦ノ沢遺跡、三沢 B 遺跡、鎌倉新田居村遺跡、六兵衛沢窯跡などで遺物が確認されている。六兵衛沢窯跡は、旧小須戸町の新津丘陵西側でも 8 世紀代に須恵器生産が行われていたことを示唆するものと考えられる〔川上 1989、細野・伊比ほか 2012〕。ちなみに新津丘陵北東側斜面部には旧新津市の七本松窯跡群〔中川・

第 2 表　大沢谷内遺跡周辺の縄文・弥生・古墳時代の遺跡

No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代
1	結	古墳	24	二百刈	縄文	45	糠吐	縄文	68	花立	縄文	91	中江橋	古墳
2	中田	古墳	25	江先	縄文	46	長沢	古墳	69	加茂市役所	縄文（中・後）	92	浦西	古墳
3	結七島	古墳	26	下谷地	縄文	47	三波	縄文	70	遊覧場	縄文	93	宮古	縄文（中）
4	内畑	古墳	27	鳥撃場	縄文（後）	48	古屋敷	縄文（前・中）	71	桜沢	縄文	94	八幡平	縄文（後）
5	中谷内	古墳	28	神田	縄文	49	土居下	古墳	72	岩野原A・C・D	縄文（中・後・晩）	95	八幡	縄文
6	上浦B	古墳	29	古津八幡山古墳	古墳	50	新川	縄文	73	岩野原B	縄文（中）	96	南谷地西	縄文
7	沖ノ羽	古墳	30	古津八幡山	縄文（後）・弥生・古墳	51	塚野	縄文（中・後）	74	七谷忠魂碑	縄文（中・後）	97	住吉田南	古墳
8	山谷北	古墳				52	川ノ下	縄文（後）	75	松ヶ沢	縄文（中）	98	五百地	縄文
9	大野中	縄文（中・後）	31	高矢A	縄文（後）	53	半ノ木	縄文	76	猿毛山	縄文（前・後）	99	大倉山	弥生
10	秋葉	縄文（中・晩）・弥生	32	高矢B	縄文	54	保明浦	縄文（晩）	77	下土倉	縄文（前・中）	100	四十九沢	縄文
11	味方排水機場	縄文（中）	33	鎌倉新田居村	縄文	55	川船河	縄文（中・後・晩）	78	牧	縄文（中・後・晩）	101	赤坂	縄文（前・中・後）
12	山崎	縄文（後）	34	居村C	縄文・弥生	56	陣ヶ峰北	縄文（中・後）	79	大坪Ⅰ・Ⅱ	縄文	102	巳ノ明	縄文（中・後）
13	城見山	縄文	35	居村B	弥生	57	石川	古墳	80	岡屋敷	縄文（晩）	103	筺下	縄文（晩）
14	沢海	縄文（後）	36	三沢原	縄文（前）	58	釜潟	古墳	81	野入Ⅰ・Ⅱ	縄文	104	下野山	縄文（後）
15	原	縄文（中・後・晩）	37	十ヶ沢B	縄文（後）・弥生	59	馬寄	古墳	82	一ノ沢	縄文	105	諏訪田	弥生
16	東島大道下	古墳	38	坪が入	縄文	60	丸潟	古墳	83	寺田	縄文（晩）	106	小実山	縄文（中・後・晩）・弥生
17	舟戸	弥生・古墳	39	横川浜堤外地	縄文（中）	61	白山A	古墳	84	寺田A	弥生			
18	塩辛	弥生・古墳	40	大沢谷内北	縄文（晩）・弥生	62	白山B	古墳	85	羽場山	縄文	107	平	縄文（中・後）
19	山脇	古墳	41	大沢谷内	**縄文（後・晩）・弥生・古墳**	63	割前	古墳	86	刈羽	縄文	108	居平	縄文（中）
20	平林	縄文				64	吉津川	弥生・古墳	87	カイガ沢	縄文	109	愛宕澤	縄文（草）
21	山境	縄文（前・中）・弥生	42	五社神社	縄文（後）	65	新田川	古墳	88	大沢洞穴	縄文（後）	110	草水町2丁目窯跡	縄文（前）
22	森田	弥生・古墳	43	中店	弥生	66	石川	弥生・古墳	89	大沢峠	縄文（中）	111	新田	縄文
23	高矢C	古墳	44	向屋敷	縄文	67	福島甲	縄文	90	上ノ坪南	古墳	112	天ヶ沢上谷内	古墳

第５図　大沢谷内遺跡周辺の遺跡分布図（古代・中世）

第３表　大沢谷内遺跡周辺の古代・中世の遺跡

No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代
1	林葉等の五輪塔	中世(室町)	63	大坪	古代(奈良・平安)	129	宮山貴船神社	古代・中世	199	諏訪畑	古代(平安)	266	夜明南	古代
2	川原畑	中世	64	東島大道下	古代・中世	130	青海神社	古代・中世	200	小実山	古代(平安)	267	上ノ坪	古代(平安)
3	下等別当	古代・中世	65	山脇	古代(平安)	131	桜沢	古代	201	船越古銭出土地その1	中世	268	家の浦	中世
4	長沼	古代(飛鳥・平安)・中世(鎌倉)	66	森田	古代(平安)・中世	132	小貫	古代				269	山ノ入	古代(平安)・中世
			67	塩辛	古代・中世	133	轟	古代	202	船越古銭出土地その2	中世	270	山ノ入南	古代(平安)・中世
5	結	古代(奈良)	68	舟戸	古代(奈良・平安)	134	袖裏	古代				271	上江	古代
6	結七島	古代	69	二百刈	古代	135	芦ノ出	古代・中世	203	山崎窯跡	古代(奈良・平安)	272	中江	古代(平安)
7	内畑	古代(平安)	70	古津八幡山	古代(奈良・平安)	136	尼寺	古代・中世	204	覚下	古代(奈良・平安)	273	中江北	古代(奈良・平安)
8	中谷内	古代(奈良・平安)・中世	71	古津初越AB	古代(奈良・平安)	137	天神口	古代・中世	205	中野	古代(奈良・平安)	274	笹野町B	古代(平安)
			72	金津初越AB	古代(奈良・平安)	138	六角田	古代(平安)	206	村付	古代(奈良・平安)	275	大田北	古代(平安)
9	上浦A	古代(平安)	73	大入	古代(奈良・平安)	139	穴田	古代(奈良・平安)	207	五泉城跡	中世(室町)	276	城下西	古代(平安)
10	上浦B	古代	74	居村C	古代(奈良・平安)	140	二ッ山	古代(奈良・平安)	208	丸田石仏群	中世	277	城下北	古代(平安)
11	川口乙	古代(平安)	75	居村B	古代(奈良・平安)	141	十二ノ木	古代(奈良・平安)	209	館之内宝篋印塔	中世	278	城下東	古代(平安)
12	川口甲	古代(平安)	76	居村A	古代(平安)	142	石川	古代	210	堤	中世	279	城下	古代(平安)
13	江内	古代(平安)・中世	77	神田	古代(奈良・平安)	143	ヨモギ田	古代(平安)	211	丸田館跡	中世(室町)	280	太田中	古代(平安)
14	沖ノ羽	古代・中世	78	三沢B	中世(室町)	144	第四中学校脇	古代(平安)・中世	212	延命寺石仏群	中世(室町)	281	太田東	古代(平安)
15	内野	古代(平安)・中世	79	三沢A	古代(平安)	145	坪ノ尾	古代(平安)	213	金津城跡	中世(室町)	282	太田南	古代(平安)
16	居屋敷跡	古代・中世(鎌～室)	80	了専寺館	中世	146	反中	古代(平安)・中世(室町)	214	大倉山尼寺跡	中世	283	庚塚	古代(平安)
17	寺嶋	古代(平安)・中世(鎌倉)	81	西善寺石仏	中世				215	道金	古代(奈良・平安)	284	一本杉西	古代(平安)
			82	五本田館跡	中世(室町)				216	丸田	古代(平安)	285	一本杉北	古代(平安)
18	無頭	古代(平安)	83	東腰付	古代(平安)	148	福島甲	古代	217	榎表	古代(奈良・平安)・中世	286	一本杉	古代(平安)・中世
19	山王浦	古代(平安)	84	横川浜堤外地	古代(奈良・平安)・中世(室町)	149	花立	古代				287	山王前	中世
20	大下	古代(平安)				150	山通	古代	218	榎表南	中世(鎌倉・室町)	288	清水寺板碑	中世(室町)
21	久保	古代(平安)	85	大沢谷内北	古代(平安)	151	六反田	古代(平安)	219	福島	古代(奈良・平安)・中世	289	正円寺板碑群	中世(鎌倉)
22	大野中	古代(平安)	**86**	**大沢谷内**	**古代(飛鳥・奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)**	152	安曲	古代(平安)				290	茨塚東	古代(平安)
23	下久保	古代(平安)				153	新堀	古代	220	ソブタ	古代(奈良・平安)	291	諏訪通	古代(平安)
24	道上	古代(平安)				154	馬越	古代・中世	221	石ノ子	古代(奈良・平安)	292	寺田B	古代(平安)
25	盛岩寺石仏	中世	87	六兵衛沢	古代(平安)	155	新田川	古代(平安)	222	段ノ越	古代(奈良・平安)	293	反橋	古代(平安)
26	細池寺道上	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	88	西紙屋山館跡	中世	156	吉津川	古代(平安)	223	江中	古代	294	寺田野田	古代
			89	浦ノ沢	古代	157	谷地	古代(平安)	224	新保北	古代(平安)	295	野田	古代(奈良・平安)
27	西江浦	古代(平安)	90	行屋崎	古代(飛鳥・奈良・平安)	158	川東	古代(平安)	225	新保	古代(奈良・平安)	296	寺田	古代(平安)
28	尻池の塚	中世(室町)				159	府敬	古代(平安)	226	橋田A	古代(奈良)	297	上野宮ノ前	古代
29	愛宕澤	古代(平安)・中世	91	護摩堂城跡	中世(室町)	160	割町	古代(平安)	227	橋田B	古代(奈良・平安)	298	大ハゲⅢ	古代(平安)・中世
30	草水町2丁目窯跡	古代(平安)	92	山田古銭出土地	中世(鎌倉)	161	来迎寺	古代(平安)・中世	228	橋田C	古代	299	青橋浦南	古代
31	草水町1丁目窯跡	古代(平安)	93	諏訪の前	古代(平安)	162	井栗乙郷	古代(平安)	229	中田	古代(平安)	300	菅ノ町	古代(平安)
32	滝谷窯跡	古代(平安)	94	中鰐	古代(平安)	163	水久保	古代(平安)	230	南谷地西	古代(平安)	301	谷地	古代(奈良・平安)
33	七本松窯跡群	古代(平安)	95	下屋敷跡	古代(平安)	164	五郎田	古代(平安)	231	便住城跡	中世(室町)	302	五部一	古代(平安)・中世
34	秋葉2丁目窯跡	古代(平安)	96	新川	古代(平安)	165	梅田	古代(平安)	232	住吉田	古代(奈良)	303	青橋浦西	古代
35	小手平	古代(平安)	97	糖吐	古代(平安)・中世	166	石田	古代(平安)	233	沓形北Ⅰ・Ⅱ	古代(平安)	304	青橋浦	古代
36	秋葉	古代(奈良・平安)	98	三波	古代(平安)	167	藤ノ木	古代(平安)・中世	234	沓形西Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	古代(平安)	305	ハケツ下	古代
37	程島館跡	中世(室町)	99	土居下	古代(平安)	168	割前	古代(平安)	235	沓形中Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	古代(平安)	306	八石	中世
38	本町石仏	中世	100	館外	古代(平安)	169	白山B	古代(平安)	236	三軒屋	古代(平安)	307	中丸北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	古代(平安)・中世
39	埋堀	中世	101	田上館跡	中世(室町)	170	白山A	古代(平安)	237	沓形東	古代(平安)	308	中丸南	古代(平安)・中世
40	萱免	古代	102	館内	古代(奈良・平安)	171	西吉津川	古代	238	番文免東	古代(平安)	309	中丸Ⅰ・Ⅱ	古代
41	新津城跡	古代(平安)・中世(室町)	103	二段あげ	古代(平安)	172	横土居	古代	239	小新保東	古代(平安)	310	中丸西	古代
			104	ガンゴウ寺	古代(平安)	173	稲荷浦	古代	240	小新保中	古代(平安)	311	出戸	古代
42	諏訪神社石仏	中世	105	上谷内	古代(奈良・平安)	174	掘割	古代	241	番文免中	古代(平安)	312	十二南Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	中世
43	腰廻	中世(室町)	106	中谷内	古代(奈良・平安)	175	境田	古代	242	小新保西	古代(平安)	313	十二北	中世
44	浄楽	中世(室町)	107	半ノ木	古代(奈良・平安)	176	鬼倉	古代	243	本久	古代(平安)	314	牧城跡	中世(室町)
45	西沼	古代(平安)	108	八反田	古代(奈良・平安)	177	中沢	古代・中世	244	番文免西	古代(平安)	315	寺下	中世
46	小戸下組	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	109	竹ノ花	古代(奈良・平安)	178	八反田	古代・中世	245	沓形南	古代(平安)	316	諏訪下	中世
			110	保明浦	古代(奈良・平安)	179	五反田	古代・中世	246	坪子東	古代(平安)	317	丸山西	古代
47	長左エ門沼	古代(平安)	111	川成	古代(奈良・平安)	180	稲荷面	古代・中世	247	坪子西	古代(平安)	318	丸山東	中世
48	川根	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	112	羽生田中谷内	古代(奈良・平安)	181	釜潤	古代	248	町屋六条	古代・中世	319	向山	中世
			113	向田	古代(奈良・平安)	182	馬寄	古代	249	下ノ坪北	古代(平安)	320	大蒲原庚塚	古代
49	下梅ノ木	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	114	古江端	古代(奈良・平安)	183	石川	古代・中世	250	下ノ坪南	古代(平安)	321	原	古代
			115	村浦	古代(奈良・平安)	184	舟戸	古代・中世	251	下ノ坪	古代・中世	322	戸倉城跡	中世(室町)
50	曽根	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	116	吉田上谷内	古代(奈良・平安)	185	丸潟	古代・中世	252	中ノ坪南Ⅱ	中世	323	宅地郷	古代・中世
			117	羽生田城跡	古代(平安)	186	大塚	古代(平安)	253	中ノ坪	古代(平安)	324	前畑	古代(平安)
51	浦興野	古代	118	横手下	古代(奈良・平安)	187	菅端	古代	254	中ノ坪東	古代	325	裏田郷	古代(奈良・平安)
52	味方用水路	古代(平安)	119	大坪	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉)	188	兎館跡	中世(室町)	255	梨木	古代(平安)	326	吉岡	古代(平安)
53	江向	中世(鎌倉)				189	仲作	中世	256	中ノ坪南Ⅰ	古代	327	天ヶ沢上谷内	古代
54	前	中世(鎌倉)	120	沼田	古代(奈良・平安)	190	嵐潟	中世(鎌倉)	257	中ノ坪南Ⅲ	古代(平安)	328	蛇喰	古代(平安)
55	浦廻	中世(鎌倉・室町)	121	大道上	古代(奈良・平安)	191	下田保	中世	258	中名沢	古代(平安)	329	水田中谷内	古代(平安)
56	中郷	古代(平安)	122	白地	古代(奈良・平安)	192	戸石基	中世(室町)	259	夜明	古代(平安)	A	榎行塚	
57	古通	古代(平安)	123	道下	古代(奈良・平安)	193	馬場屋敷	中世(室町)	260	千原	古代(平安)	B	杉行塚	
58	西島中谷内	古代(奈良・平安)	124	陣ヶ峰北	古代	194	若宮様	中世(室町)	261	川端北	古代(平安)	C	九つ塚	
59	桜大門	古代(平安)	125	陣ヶ峰	古代	195	興野	中世(室町)	262	川端南	古代(平安)	D	三沢塚	
60	西島館跡	中世	126	千刈北	古代	196	庄瀬館跡	中世(室町)	263	中坪	古代(平安)			
61	城見山	古代・中世	127	割沢	古代	197	元屋敷	中世	264	笹野A	古代(平安)			
62	東島城跡	中世(室町)	128	舞臺	古代・中世	198	大開館跡	中世	265	浦	古代(平安)			

倉田 1956〕・草水町２丁目窯跡〔新潟市 2007〕などや、五泉市の山崎窯跡〔川上ほか 1981〕が存在しており、新津丘陵窯跡群と呼称されている。また旧新津市の新津丘陵北西側には金津丘陵製鉄遺跡群があり製錬炉と木炭窯が確認されている〔川上 1996、渡邊・穴澤ほか 1998、渡邊・小田ほか 1997〕。古代の新津丘陵一帯は手工業生産の場となり、平野部に集落の遺跡数が飛躍的に増加する。

【中世の遺跡】　沖積地に大沢谷内遺跡〔相田・金田ほか 2015、遠藤・澤野ほか 2018、細野・伊比ほか 2012、前山ほか 2012〕と大沢谷内北遺跡〔前山・伊比ほか 2010〕、横川浜堤外地遺跡がある。丘陵には城館跡、寺院跡、石仏、製鉄跡、塚がある。大沢谷内遺跡では 11 世紀代の遺物などが途絶え活動の痕跡が不明瞭になるが、中世になると再び活発となり、特に 8･9 区で 12 世紀から 14 世紀の土器･陶磁器が定量出土し、出土例の少ない骨角製の笄、栗形や蓋状の鉄製品が確認されることから、古代から継続する有力者層の集落と位置づけられている〔相田・金田ほか 2015〕。城館跡は西紙屋山城跡、五本田館跡〔阿部・山名 1983〕がある。寺院跡は了専寺跡が、石仏は西善

寺石仏が登録されている。製鉄跡は三沢A遺跡がある〔阿部・山名1983〕。中世として登録されているが、古代の金津丘陵製鉄遺跡群の存在から古代または中世の遺跡という見解もある〔川上1989〕。塚は九つ塚が発掘調査されている〔川上･青木1987〕。昭和61（1986）年に塚3基の残存が確認され、同年に発掘調査された1号塚は、出土した鉦鼓の推定年代から14世紀後半以降に築かれたものと考えられている〔新潟市2007〕。

近隣の中世遺跡の代表的なものは、田上町の丘陵上に護摩堂城跡がある。集落遺跡は旧白根市にある13世紀後半から14世紀前半の集落と、15世紀から16世紀前半の集落である馬場屋敷遺跡〔川上･遠藤ほか1984〕がある。また、旧新津市の細池寺道上遺跡では中世の集落の様子がしだいに判明してきており、水田跡や道路状遺構、方形区画墓などが検出されている〔潮田2014、遠藤・青木ほか2015、小池・須藤ほか1994、立木・相澤（髙野）ほか2014、立木・奈良ほか2017・2018・2019、立木・細井ほか2015〕。

【近世の遺跡】　旧小須戸町の範囲では近世の遺跡は確認されていない。近隣では旧新津市の江内遺跡〔石山・春日ほか1996〕で17世紀前半の集落の一部が見つかっている。

【時代不明】　段丘上に三沢塚（円塚古墳）、沖積地に杉行塚、榎行塚がある。三沢塚（円塚古墳）は古墳の可能性があるとされている直径約19mの円形の塚状遺構であるが、未調査のため詳細は不明である〔新潟市2007〕。

第3節　歴史的環境

ここでは主に文字資料や文献を基に旧小須戸町の古代・中世の歴史について簡単ではあるが記述する。

大沢谷内遺跡の立地する旧小須戸町は古代では蒲原郡に属していたとされる。そもそも越後国は持統6（692）年ごろまでは阿賀野川周辺以北の出羽地方を含む範囲であり、北方との境は画定していなかった。つまり、その当時の旧小須戸町は越中国であった。その後、大宝2（702）年に越中国から頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡が越後国に編入された。この持統6年ごろから大宝2年までの越中国であった時代の蒲原郡の管轄範囲は、平成17年の合併前の旧中蒲原郡・旧西蒲原郡・旧南蒲原郡の一帯と考えられている〔小林1995〕。さらに『東蒲原郡史』によれば、阿賀野川を蒲原郡と沼垂郡の郡境にするよりは丘陵尾根で境にしたほうが合理的であるとして、平成17年合併前の旧東蒲原郡も古代の蒲原郡の範囲内と考えられている〔相澤2012a・2012b〕。以上の事から、古代の蒲原郡の範囲は概ね南は三条市近辺から北は阿賀野川周辺までと考えられ、旧小須戸町は蒲原郡内と考えられる。この郡域は中世南北朝期に蒲原郡の郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大するまでは大幅な変更はないと思われる。

郡内には郷という原則50戸からなる下部の行政単位がある。10世紀前半の『和名類聚抄』には蒲原郡に日置･桜井・勇礼・青海・小伏の5つの郷が記載されており〔木村1989a〕、5つの郷は地名や式内社、古墳・古代の遺跡の存在などから所在地が推定されている。桜井郷が弥彦村、勇礼・小伏郷が三条市周辺、青梅郷が加茂市周辺と考えられており、残る日置郷がどのあたりかということになる。『新津市史』では中世の公領のひとつである金津保が旧新津市から旧小須戸町、旧五泉市の一部にまたがっていたことから、日置郷は新津市周辺ではないかと考えられている〔木村1993〕。一方で、『和名類聚抄』に記されたこの郷名の記載順には郡内における命令伝達経路と関係する一定の規則性があることなどを踏まえたうえで、日置郷は信濃川河口付近から海岸砂丘地を経て角田山東麓にかけての地域としている解釈もある〔相澤2012b〕。これに関連して、新潟市西蒲区に所在する下新田遺跡から「日置」と書かれた墨書土器が出土している。この文字を郷名とすれば、日置郷の範囲は角田山東麓からさらに東方の沖積地にも及んでいた可能性が指摘されている〔龍田ほか2015〕。

しかしながら、古代の旧小須戸町が何れの郷に含まれていたかは文字資料からは不明な点が多いが、大沢谷内遺跡が647年に造営された沼垂柵との関係が指摘され〔細野・伊比ほか2012〕、さらに古代では一郡一窯体制で行われていた須恵器生産の新津丘陵窯跡群の一角をなす可能性のある六兵衛沢窯跡の存在から、旧小須戸町近辺（大沢谷内遺跡周辺）は官と何らかの関係を想定できる重要な地域であったと推測される。

中世になると先述のように旧小須戸町は金津保と呼称される公領のひとつに含まれていたと推定されている。

金津保の成立時期は明確ではないが、他の公領と同様に 11 世紀後半から 12 世紀後半に至る院政期と考察されている。保域を示す資料をみると、「金津保」として文献で初めて登場するのは南北朝期の建武 3（1336）年 11 月 18 日の『羽黒義成軍忠状写』であり、足利方（北朝方）の羽黒義成が「金津保新津城」に引き籠り、新田方（南朝方）の小国政光ら敵方と戦ったことが記されている〔田村 1989c〕。金津保に新津城が含まれており、この新津城の南北朝期の所在地は確定できないが、旧新津市の東島城・程島館・新津城が候補地と考えられる〔木村 1993、田村 1993〕。

15 世紀末から 16 世紀初頭段階の金津保内の状況を示す内容で、明応年間から永生初年（明応・永生年間：1492 ～ 1521）に作成されたと考えられる『蒲原郡段銭帳』というものがある〔田村 1989d〕。この中での金津保内の在地領主の名前は村落名と共通している場合があることから、記載されている「大沢」や「新保」などの名称は旧小須戸町の土豪を示すとも推測できる〔田村 1993〕。また、天文 13（1544）年 10 月 10 日『上杉玄清定実知行宛行状』の中に「金津保下条村」とあり〔竹田 1989a〕、この下条村を新津市史では五泉市下条ととらえられている〔田村 1993〕。以上のことから『新津市史』では金津保の領内は旧新津市を中心に、旧小須戸町・旧中蒲原郡横越町（現新潟市江南区）・旧五泉市（現五泉市）・田上町の一部などの範囲と考えられる〔田村 1993〕。ただし、下条村を五泉市下条とすることについて肯定的ではない見解もある〔川上・木村ほか 2002〕。

これ以外にも保域を示す資料として、旧小須戸町には天文年中（1530 ～ 1534）の兵乱により荒廃した本住寺を永禄元（1558）年に再興した時のものとされる棟札が横川浜の本住寺に伝えられている。当時のものとみるか検討が必要だが、「北陸道越後国蒲原郡金津保横河間長光山本住寺御堂之棟札也」と記されており、この「横河間」は横川浜を指すと考えられている〔阿部 1983〕。また、かつて『新津市誌』に収載されていたという、上杉景勝の臣である河村彦左衛門が新津丹波守に宛てた年不詳 11 月 9 日付け『知行所之一札』には、金津保に新津丹波守が領有していた所領として「屋代」、「水田村」が記載されており〔木村 1989b〕、「屋代」が矢代田、「水田村」はそのまま水田と、旧小須戸町の地名が見える〔阿部 1983、田村 1993〕。本住寺棟札と『知行所之一札』の内容をあわせ、横川浜、矢代田、水田が金津保であったとすれば、旧小須戸町のほとんどは金津保であったと考えてよいのではないだろうかとされている〔阿部 1983〕。

ほかにも天正 5（1577）年の『三条同名同心家風衆給分御帳』には「金津保内之内遊川」とあり〔竹田 1989b〕、「遊川」が現在の田上町湯川と考えられることから湯川は金津保内の範囲と考えられる〔田村 1993、山上 1994〕。

いずれにしても戦国期までの資料を含めてみた場合、年代により領域に若干の違いがあった可能性はあるが、金津保は概ね旧新津市を中心とした秋葉区、江南区の一部、田上町の一部、五泉市の一部が保域であったととらえられる。よって、旧小須戸町は金津保の範囲内と推定できる。

このころの保域内の情勢をみると、まず新津姓の人物が『吾妻鏡』建仁元（1201）年 3 月 4 日条に登場している〔田村 1989a〕。新津四朗という金津保に関連を持つ人物が、阿賀野川中流域の白河荘を本拠地としていた城長茂と行動を共にしていることがわかり、このことは蒲原津の背後に位置する国衙領の金津保に城長茂の勢力が及んでいたものと推測できる〔木村・田村ほか 1989、田村 1993、樋口 2004b〕。城氏の没落後、金津保地頭職に補任されたのは信濃源氏の平賀氏と考えられる。『吾妻鏡』承久 3 年 6 月 8 日条に、承久 3（1221）年の承久の乱に際し、鎌倉方の北条朝時が越後国の武士である金津資義らを率いて上洛したとあり〔田村 1989b〕、この金津資義の本姓は「平賀」で金津姓となっているのは地頭職だったことからと推測されている〔田村 1993〕。また、南北朝期には蒲原津をめぐり、北朝方の佐々木加地景綱らと南朝方の小国氏らとの戦いが起き、この影響により先述の「金津保新津城」での合戦が起こる。この動乱ののち、越後守護となった上杉氏・守護代長尾氏により、室町幕府の統治下によって領国支配が推進される。金津保は国衙領として守護の支配下に置かれることとなる。

天正 6（1578）年 3 月に上杉謙信が死去し、養子の景勝・景虎の間で後続争い「御館の乱」がおこる。この乱に景勝方で参戦した新津氏は、没落した平賀氏に替わり領主となった。そして慶長 3（1598）年に景勝とともに会津へと国替えさせられるまで、新津氏が金津保を中心に発展をみせることになる。

第Ⅲ章　調 査 の 概 要

第1節　確　認　調　査（第5・8・13次調査）

大沢谷内遺跡については、これまで25次に及ぶ発掘調査が行われている（第1表）。本書で報告する第15・17・19次調査（5～7区）は、いずれも小須戸バイパス整備工事に伴い実施した本発掘調査である。

第15･17･19次調査範囲にかかる確認調査は、平成16年度に小須戸町教育委員会が実施した第5次調査と、平成17・20年度に市埋蔵文化財センターが実施した第8・13次調査が該当する（第6～8図）。

第5次調査（確認調査・2,136m²）　平成16年11月29日から翌平成17年1月6日にかけて、小須戸町教育委員会が県教委の指導のもと小須戸バイパス建設予定地全域を対象として実施した確認調査である。99か所のトレンチ（1～99T）のうち24か所で遺構や遺物が確認された。

第8次調査（確認調査・771.4m²）　平成17年10月19日から12月2日にかけて、市埋蔵文化財センターが実施した追加の確認調査である。46か所のトレンチ（100～145T）のうち､26か所で遺構や遺物が確認された。

第13次調査（確認調査・200m²）　平成21年2月23日から平成21年2月25日の間､市埋蔵文化財センターが実施した追加の確認調査である。幅0.6mの細長い調査区を「土」字状に設定した1か所のトレンチ(168T)で、遺構や遺物が確認された。

第2節　本 発 掘 調 査

A　調　査　方　法

1）現　　況

調査地周辺は近世以後､主に水田（一部畑）として利用されており､道路用地として取得した後は荒地であった。

2）グリッドの設定（図版2・3）

平成17年の大沢谷内遺跡発掘調査（第7次調査）において、大沢谷内北遺跡を含む両遺跡全域を網羅するグリッドが設定されており、本書で報告する調査でもそれを踏襲した。基点は「1A」杭で、X座標193700.000、Y座標50200.000（世界測地系平面直角座標第8系）、緯度37° 44′ 39.2346″、経度139° 04′ 10.6492″である。基点に対し100m方眼の大大グリッド、さらにその中を10m方眼の大グリッド、さらにその中を2m方眼の小グリッドに分割した。

名称について、大大グリッドが1A杭を基点として東西方向をA～Oのアルファベット、南北方向を1～19のアラビア数字で示した。大グリッドは、大大グリッドの中を北西端を基点として東西方向にA～Jのアルファベット、南北方向を1～10のアラビア数字で示した。小グリッドは、大グリッド内を2m方眼で25のグリッドに分割し、1～25のアラビア数字を付けた（図版2・3）。表記は、「1A-1A1」、「15K-10J25」のように、「大大グリッド - 大グリッド小グリッド」としている。

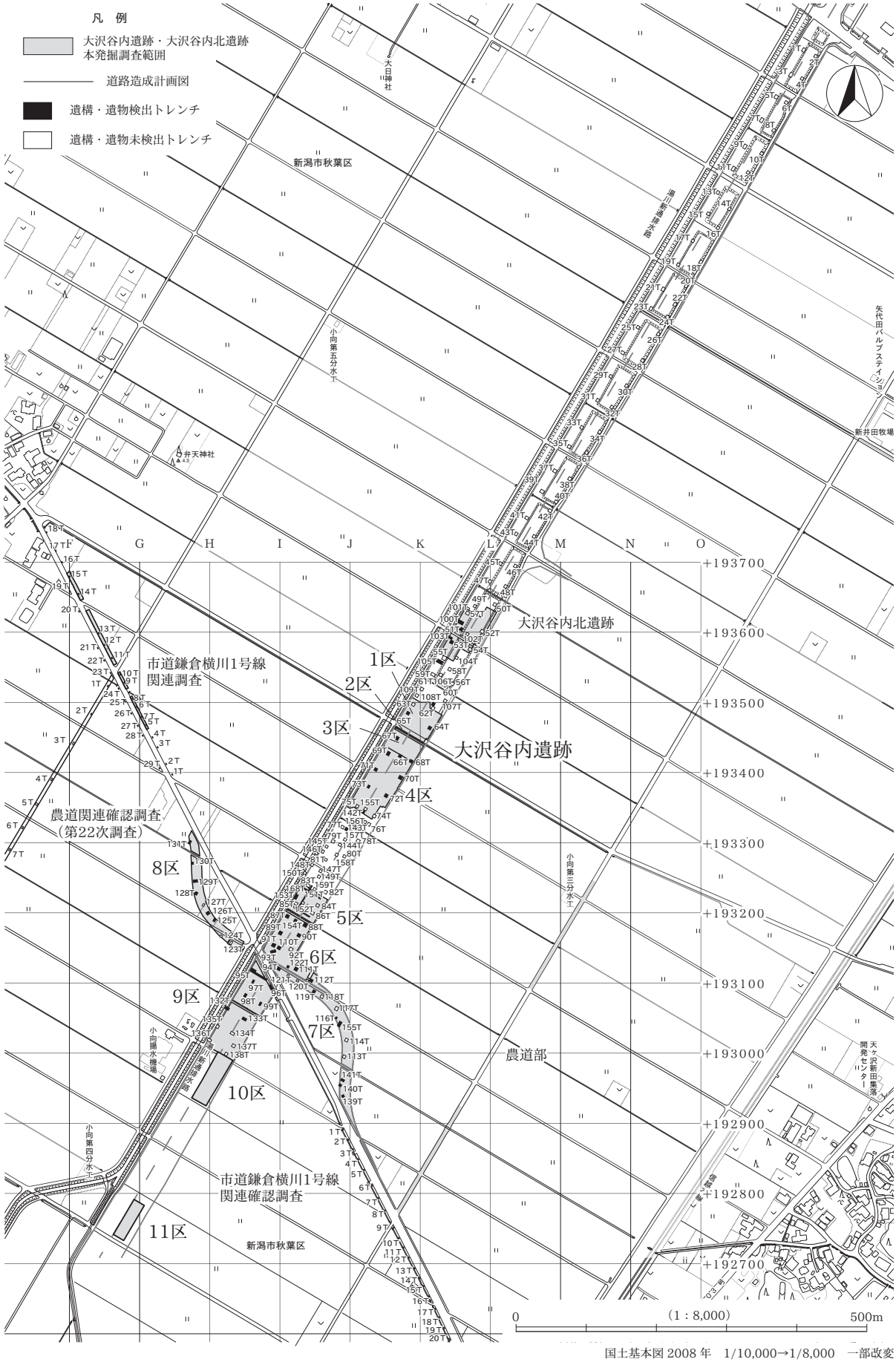
本書で掲載した5～7区におけるそれぞれ中央部付近のグリッド杭3点の座標は、

5I-10E杭〈5区〉（X座標：193210.000、Y座標：51040.000、経度37° 44′ 23.1735″、経度139° 04′ 44.8374″）、

6I-5B杭　〈6区〉（X座標：193160.000、Y座標：51010.000、経度37° 44′ 21.5577″、経度139° 04′ 43.5994″）、

7I-7J杭　〈7区〉（X座標：193040.000、Y座標：51090.000、経度37° 44′ 17.6493″、経度139° 04′ 46.8367″）

であり、5I-10E杭で座標北は真北に対し0度21分16秒東偏し、磁北は真北に対し7度44分西偏する。



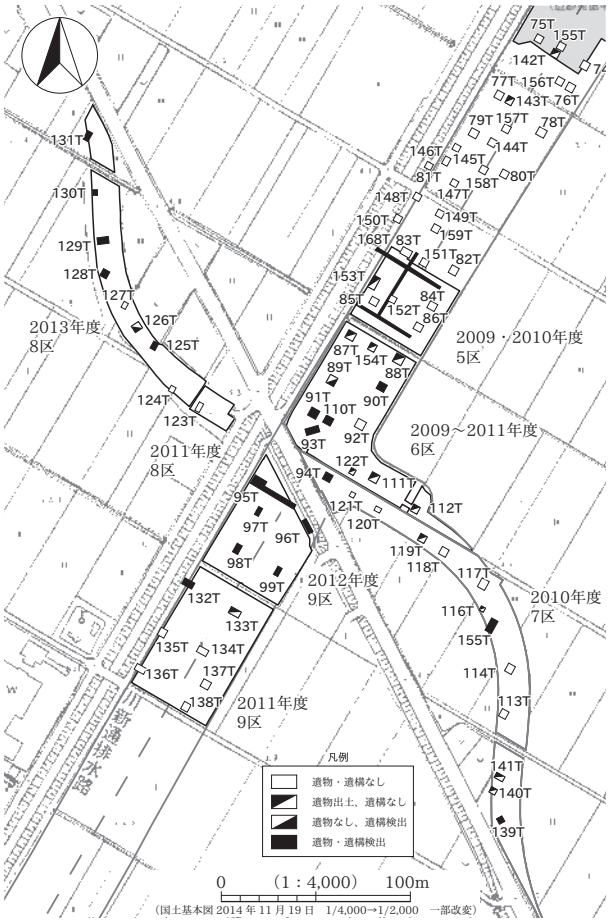
国土基本図 2008 年　1/10,000→1/8,000　一部改変

第 6 図　大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図 1

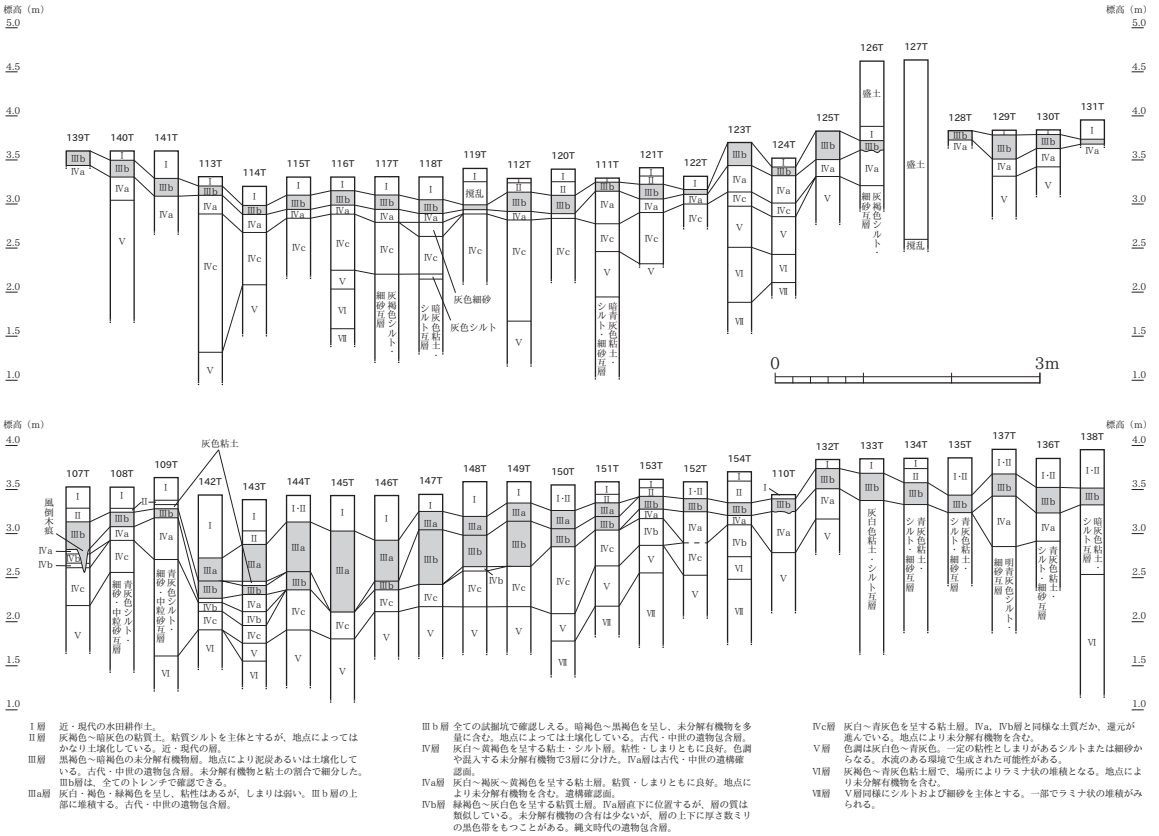
3）調　査　方　法

本遺跡は縄文時代から中世の遺跡で、本書で報告する５～７区は基本、上層（古代～中世）と下層（縄文時代晩期後葉）からなるが、５区では上層の調査において下層の遺構や遺物が確認されている。また、６区の下層については少なくとも上面・中面・下面に区分でき、その遺構確認面ごとに調査を行った。

①表土除去　試掘・確認調査、既往の本遺跡上層の発掘調査成果によって遺物包含層（Ⅲ層）の標高がおおむね把握されていたため、Ⅰ層（表土・耕作土）・Ⅱ層（床土）を遺物の出土に注意しながら、Ⅲ層上面まで重機（バックホウ）により除去した。法面は安全を考慮して一分の勾配をつけた。また、湛水防止のため、表土除去と並行して調査区の周囲に土側溝を掘り２吋のポンプで強制排水を行った。土側溝は幅 30cm 程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩落する恐れがあったため、壁面下場から 50cm の間隔をあけたうえで、人力によりＶ字の溝を掘削した。さらに、排水や土層観察、下層の有無の確認を兼ねて、５・６区では調査区内に幅約 30cm の溝を約 10m ごとに、同じく７区では約 5m ごとに



第７図　大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図２



Ⅰ層　近・現代の水田耕作土。
Ⅱ層　灰褐色～暗灰色の粘質土。粘質シルトを主体とするが、地点によってはかなり土壌化している。近・現代の層。
Ⅲ層　黒褐色～暗褐色の未分解有機物層。地点により泥炭あるいは土壌化している。古代・中世の遺物包含層。未分解有機物と粘土の割合で細分した。
Ⅲb層は、全てのトレンチで確認できる。
Ⅲa層　灰白・褐色・緑褐色を呈し、粘性はあるが、しまりは弱い。Ⅲｂ層の上部に堆積する。古代・中世の遺物包含層。
Ⅲｂ層　全ての試掘坑で確認しえる。暗褐色～黒褐色を呈し、未分解有機物を多量に含む。地点によっては土壌化している。古代・中世の遺物包含層。
Ⅳ層　灰白～黄褐色を呈する粘土・シルト層。粘性・しまりともに良好。色調や混入する未分解有機物で3層に分けた。Ⅳa層は古代・中世の遺構確認面。
Ⅳa層　灰白～褐灰～黄褐色を呈する粘土層。粘質・しまりともに良好。地点により未分解有機物を含む。遺構確認面。
Ⅳb層　緑褐色～灰白色を呈する粘質土層。Ⅳa層直下に位置するが、層の質は類似している。未分解有機物の含有は少ないが、層の上下に厚さ数ミリの黒色帯をもつことがある。縄文時代の遺物包含層。
Ⅳc層　灰白～青灰色を呈する粘土層。Ⅳa、Ⅳb層と同様な土質だか、還元が進んでいる。地点により未分解有機物を含む。
Ⅴ層　色調は灰白色～青灰色。一定の粘性としまりがあるシルトまたは細砂からなる。水流のある環境で生成された可能性がある。
Ⅵ層　灰褐色～青灰色粘土層で、場所によりラミナ状の堆積となる。地点により未分解有機物を含む。
Ⅶ層　Ⅴ層同様にシルトおよび細砂を主体とする。一部でラミナ状の堆積がみられる。

第８図　土層柱状図

格子目状に掘っている。

② 包含層調査・遺構検出･遺構調査　表土除去の後、ジョレン等を用いて人力で包含層の掘削･遺構の検出を行った。遺構確認は、上層が基本層序（第Ⅳ章第２節参照）のⅣ層上面、下層がＶｂ層（下層上面）・Ｖｃ層（下層中面）・Ｖｄ層（下層下面）で、遺構調査中はベルトコンベアーにより土を調査区外へ出した。なお、一部遺構については覆土を回収した後、土壌水洗によって微細遺物の抽出を行った。

③ 遺物の取り上げ　包含層出土遺物は基本的に小グリッド単位で取り上げた。遺構からの出土遺物は可能な限り層位・小グリッド単位で取り上げたほか、一部遺物についてはトータルステーションにより出土地点を記録した。

④ 遺構平断面図・遺物微細図の作成　いずれも測量業者に委託して行い、調査員が現場で図面チェックを行った。遺構断面図は手取りにより 1/20 で作成し、平面図・各種測量点はトータルステーションを用いて取得したデータを基に CAD で作成した。また、一部の遺物については微細図を作成した。

⑤ 写真撮影　層序・遺構・遺物出土状況などの写真撮影は、35mm リバーサルフィルム・モノクロフィルム、デジタルカメラを使用した。このうち特に重要と判断されるものについては 6×7 版リバーサルフィルム・モノクロフィルムを併用した。空撮は業者に委託して行った。

⑥ 自然科学分析　土壌分析（植物珪酸体分析・花粉分析）、種実同定、骨の同定・分析を行った。

Ｂ　調　査　経　過

以下、本書報告分の５～７区の調査経過の概略について調査年次ごとに記す。

1）第 15 次調査（平成 21 年６月１日～平成 22 年３月 19 日　５区・６区上層　7,319m²）

第 15 次調査は､5 区･6 区上層の調査を行った。プレハブの設置･機材搬入等は平成 21 年６月 12 日に行った。

5 区　６月１～９日に表土掘削を行った。６月 15 日より遺構精査及び遺構掘削を始め、７月 31 日に空撮、９月 12 日に現地説明会を行った。

6 区上層　８月 18 日～９月３日にかけて表土掘削を行った。９月 14 日より遺構精査及び遺構掘削を始める。10 月 30 日に空撮を行った。その後、下層の遺構の有無を確認するためのトレンチ掘削を行い、一部で遺構・遺物が確認された。

2）第 17 次調査（平成 22 年４月 12 日～平成 23 年３月 19 日　７区上層、６区下層上面　調査面積：5,727m²）

7 区上層　平成 22 年４月 26 日～６月４日にかけて表土掘削を行う。５月 21 日より表土掘削と並行して遺構精査及び遺構掘削を開始した。８月 27 日に空撮を行い、９月 11 日に現地説明会を行った。また、８月 30 日からは下層の遺構の有無を確認するためのトレンチ掘削を行い、一部で遺構・遺物が確認された。９月 14 日～27 日に７区東側、10 月５日～ 14 日に７区農道部分の表土掘削を行った。

6 区下層上面　４月 12 日～ 26 日にかけて表土掘削を行った。４月 28 日には杭の打ち直し等の現場整備を行い、５月 17 日より遺構調査を開始した。９月９日からは、さらに下層における遺構の有無を確認するためのトレンチ掘削を行い、一部で遺構・遺物が確認された。

3）第 19 次調査（平成 23 年４月 11 日～平成 23 年 12 月 14 日　６区下層中面･下面、８区･９区　調査面積：5,330m²）

第 19 次調査は、６区下層中面・下面の他、８区・９区の調査も一部並行して行っている。プレハブの設置・機材の搬入等は、平成 23 年４月 11 日～ 15 日に行った。６区下層中面・下面の調査は、９区の調査と並行して行われた。４月 25 日から遺構精査及び遺構掘削を開始した。当初、市埋蔵文化財センターの調査担当１名、同調査員２名の計３名で開始したが、６月 27 日より民間調査員１名を増員した。８月５日に６区下層下面の空撮を実施し、８月６日からはさらなる下層における遺構の有無を確認するためのトレンチ掘削を行ったが、遺構・遺物とも確認されなかった。８月 23 日で６区下層中面・下面の現場作業を終了した。なお、９区の調査はその後も引き続き行われ、また、10 月 17 日からは８区の調査を開始している。

C　調　査　体　制

【平成 21 年度：第 15 次調査（本発掘調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：鈴木廣志）
所管課・事務局	新潟市文化・観光・スポーツ部歴史文化課（課長：倉地一則　課長補佐：頓所洋一　埋蔵文化財係長：渡邊朋和） 新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
調査担当	潮田憲幸（新潟市文化財センター副主査）
調 査 員	廣野耕造（新潟市文化・観光・スポーツ部歴史文化課主査）、八藤後智人（新潟市文化財センター専門臨時職員）

【平成 22 年度：第 17 次調査（本発掘調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：鈴木廣志）
所管課・事務局	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課（課長：倉地一則　課長補佐：頓所洋一　埋蔵文化財係長：渡邊朋和） 新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
調査担当	潮田憲幸（新潟市文化財センター副主査）
調 査 員	前山精明（新潟市文化財センター副主幹）、八藤後智人（新潟市文化財センター専門臨時職員）

【平成 23 年度：第 19 次調査（本発掘調査）】（8・9 区含む）

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：鈴木廣志）
所管課・事務局	新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター（所長：高橋　保　所長補佐：丸山徳幸　主任：渡邊朋和）
調査担当	潮田憲幸（新潟市文化財センター副主査）
調 査 員	八藤後智人・牧野耕作（新潟市文化財センター専門臨時職員）、秋山泰利（（株）ノガミ）

第３節　整　理　作　業

A　整　理　方　法

1）遺　　構

５～７区の遺構の整理については、まず測量業者に委託した手取り断面図と遺構平面図の校正作業を行った後、報告書掲載遺構の平・断面図を抽出・レイアウトし、業者に委託してデジタルデータとした。

2）遺　　物

５～７区の遺物量は、コンテナ（内径 54.5×33.6×10.0cm）にして 201 箱である。縄文時代晩期と古代の土器が主体を占め、他に古墳・中世の土器、石器・石製品、木製品などの遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③遺物の器種別の重量・個体数計測。④接合。⑤報告書掲載遺物の抽出。⑥実測図作成。観察表作成。⑦トレース図作成。⑧仮割付作成。⑨版下作成。このうち⑦と⑨は業者に委託してデジタル図化編集を行った。

B 整 理 経 過

平成 21 ～ 23 年度は、本調査（第 15・17・19 次）と並行して遺物の洗浄・注記、接合、記録類の基礎整理及び現場で採取した土壌水洗等を行った。本報告書作成にかかる本格的な整理作業は平成 27 ～令和元年度に行い、報告書を刊行した。

なお、自然科学分析については、土壌分析（植物珪酸体分析・花粉分析）、種実同定を平成 21 ～ 23 年度に火山灰考古学研究所に委託して行った。また、骨の同定・分析については、令和元年度に京都大学大学院の山田凜太郎氏へ執筆も含めて委託した。

C 整 理 体 制

【平成 27 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：前田秀子）
所管課・ 事 務 局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課（課長：渡辺幸子　課長補佐：拝野博一　埋蔵文化財担当主幹：廣野耕造） 新潟市文化スポーツ部文化財センター（所長：中野俊一　所長補佐：福地康郎・渡邊朋和）
整理担当	相田泰臣（新潟市文化財センター主査）　金田拓也（新潟市文化財センター文化財専門員）

【平成 28 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：前田秀子）
所管課・ 事 務 局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課（課長：藤井希伊子　課長補佐：廣野耕造　埋蔵文化財担当主査：朝岡政康） 新潟市文化スポーツ部文化財センター（所長：松田賢一　所長補佐：福地康郎・渡邊朋和　主任：本間敏則）
整理担当	相田泰臣（新潟市文化財センター主査）　金田拓也（新潟市文化財センター文化財専門員）

【平成 29 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：前田秀子）
所管課・ 事 務 局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課（課長：藤井希伊子　課長補佐：廣野耕造　埋蔵文化財担当係長：朝岡政康） 新潟市文化スポーツ部文化財センター（所長：外山孝幸　所長補佐：福地康郎・渡邊朋和　主幹：遠藤恭雄）
整理担当	相田泰臣（新潟市文化財センター主査）

【平成 30 年度・令和元年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：前田秀子）
所管課・ 事 務 局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課（課長：小沢昌己　課長補佐：廣野耕造　埋蔵文化財担当係長：朝岡政康） 新潟市文化スポーツ部文化財センター（所長：渡邊朋和　主幹：天野泰伸・遠藤恭雄）
整理担当	相田泰臣（新潟市文化財センター主査）

第Ⅳ章　遺　　跡

第１節　概　　要

大沢谷内遺跡は信濃川と新津丘陵に挟まれた沖積地に位置する。本書で報告する５～７区は、周知の遺跡範囲の中央部に位置する。現在の信濃川は５～７区から西約 1.1km に、新津丘陵は東約 1.0km にそれぞれ南北方向にのびている。５～７区周辺における現地表面の標高は約 3.5m を測る。周辺には近世まで「鎌倉潟」と呼ばれる潟が存在していたが、現在では水田、一部で畑が広がっている。

５～７区で確認された遺構･遺物は、縄文時代晩期後葉と古墳時代前期、平安時代、鎌倉時代のものがあるが、上層では平安時代が主体をなし、下層では縄文時代晩期後葉のもので占められる。

上層では溝が多く確認された他、井戸、水田に伴うと考えられる区画、杭列などが検出された。一方、建物跡は確実なものは検出されなかった。微地形については次節で触れるが、８区北西側から９区北側にかけて、大局的には北西－南東方向で蛇行しながらのびる微高地が存在し、そこを居住域として利用し、本書で報告する５～７区など微高地周辺のやや低い土地については生産域として利用していたものと推測される。

下層の遺構確認面は６区と７区で確認されており、いずれも縄文時代晩期後葉の時期に収まると推測される。遺物の出土量や遺構の検出状況からは６区が活動の中心域であったと判断できる。６区では下層について３面（上面・中面・下面）が把握でき、その面ごとに調査を実施している。

６区下層上面では掘立柱建物と竪穴建物が、６区下層下面では掘立柱建物が一定数確認されている。また、６区下層では各面において土坑や焼土集中遺構、炭化物集中遺構が一定数認められ、そのうち一部焼土集中遺構からは魚類を中心とした焼骨が出土している（第Ⅵ章第４節）。

第２節　層序と微地形

Ａ　層　　序

1）基　本　層　序

基本層序についてはⅠ～Ⅶ層に大別できる。以下、各層の特徴について記すが、色調や粘性・しまり等は地点によって若干異なる。

Ⅰ層：表土を一括した。基本的に水田ないしは畑の耕作土で、客土・堆肥等により土壌化している。
　　灰黄褐色腐食質土（シルト質）（10YR4/2）　粘性ややあり。しまりなし～弱い。

Ⅱ層：水田床土でⅠ層に比べ粘性がある。Ⅱａ・Ⅱｂ層に細分でき、Ⅱｂ層はⅢａ層の堆積後に沼地的な環境下で形成されたと思われる。

　Ⅱａ層：灰～暗灰色粘質シルト～砂質シルト（N4/0 ～ N3/0）　粘性ややあり～あり。しまりややあり。

　Ⅱｂ層：紫灰～明青灰色粘質シルト（5P5/1 ～ 5PB7/1）　粘性あり。しまりあり。

Ⅲ層：古墳時代・古代・中世の遺物包含層であるとともに、一部、中世の遺構確認面でもある。なお、古墳・古代・中世ともに遺構検出は基本Ⅳ層上面の同一面で行っているが、中世の遺構の一部はⅢ層でも確認されており、少なくとも中世のある段階にはⅢ層が遺構確認面になる段階があったと考えられる。
　　オリーブ黒～黒色腐食質粘質シルト（7.5Y3/1 ～ 10YR1.7/1）　粘性ややあり。しまり弱い～ややあり。

Ⅳ層：古代・中世の遺構確認面（上層）である。標高の高い所では砂質度が強く、低い所ではシルト質となる。

調査区西側では一部削平されている。

黄灰～灰白色砂質シルト～粘質シルト（2.5Y6/1 ～ 10Y8/1）　粘性弱い～ややあり。しまりややあり～あり。炭化物や未分解有機物を定量含む。調査区北東部では、一部青黒色（5PB2/1）を帯びる。

Ⅴ層：下層（縄文時代）の遺物包含層・遺構確認面をなす層である。１～４区でも当層から縄文時代晩期中葉の遺構・遺物が確認されている。５～７区では本層をⅤa～Ⅴd層の４つに細分したが、６区ではその４つの層で縄文時代晩期後葉の遺構･遺物が確認された。なお、Ⅴ層の色調は灰色～青灰色を基調とし、Ⅳ層に比べて砂質である。

Ⅴa層：縄文時代晩期の遺物包含層。

灰黄～褐灰色粘質シルト（北東部）～砂質シルトもしくは細砂（南西部）（2.5Y6/2 ～ 7.5YR6/1）　粘性弱い～ややあり。しまり弱い～ややあり。標高の高い調査区南西部では砂質度がより強い傾向がある。一部で炭化物・未分解有機物を含む。

Ⅴb層：縄文時代晩期の遺構確認面（下層上面）。

にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/2）　粘性弱い。しまり弱い。炭化物を含む。一部、噴砂による攪乱を受ける。

Ⅴc層：縄文時代晩期の遺構確認面（下層中面）。

灰黄褐色砂質シルト（10YR6/2）　粘性弱い。しまり弱い。炭化物を多く含む。一部、噴砂により大きく攪乱を受けるが層界は概ね平坦である。

Ⅴd層：縄文時代晩期の遺構確認面（下層下面）であるが、ラミナ状に砂と粘土が堆積する中で遺構、遺物が断続的に発見されるため、場所によっては明確な線引きができないところもある。

青灰色砂質シルト（5B6/1）　粘性弱い。しまり弱い。炭化物を多く含む。一部、噴砂により大きく攪乱を受ける。

Ⅵ層：本遺跡ではこれまでの調査において、本層以下で確実な遺構・遺物は確認されていない。

青灰～灰白色砂質シルト（10BG6/1・2.5GY8/1）　粘性弱い。しまりなし～弱い。一部、未分解有機物・炭化物を含む。

Ⅶ層：青灰色砂質シルト　粘性弱い。しまり弱い。砂・シルト・粘土の互層。一部、噴砂により攪乱を受ける。以後、同様の堆積が続くとみられる。

2）遺構覆土について

５～９区の遺構覆土については以下の４種類に大別される。

A：黒色土（未分解有機物を多量に含む粘土～シルト層。いわゆるガツボ層）。

A'：黒色土（未分解有機物を多量に含む粘土～シルト層）とⅣ層（基盤層）の混合土。

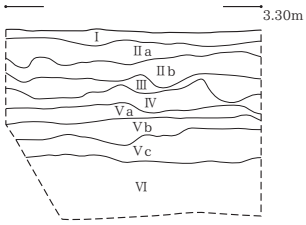
B：茶褐色土（シルト層）。

B'：暗灰色～灰色土（砂質粘土～シルト層でⅣ層に近い色調をなす）。

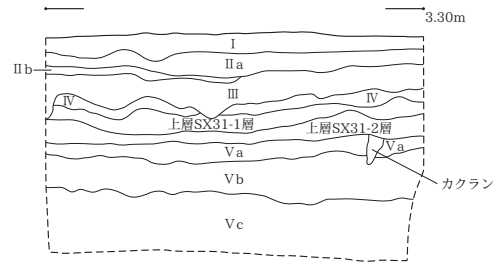
C：褐灰色～青灰色（砂質シルト層でⅤ層に近い色調をなす）

８・９区を含むこれまでの調査で、A・A' を覆土とする遺構からは 12 ～ 14 世紀を中心とする中世の遺物が、B' を覆土とする遺構からは８・９世紀を中心とする古代の遺物が、B を覆土とする遺構からは９・10 世紀を中心とする古代の遺物が、C を覆土とする遺構からは縄文時代の遺物が出土している。

以上、覆土及び切り合い関係から推定される遺構の時期は、古い順に C → B' → B → A' → A の順になると考えられる。本稿では縄文時代と古代、中世の遺構を区分する目安として、覆土の A・A' を一括で A に、覆土の B・B' を一括で B とし、覆土を A・B・C として記載する。

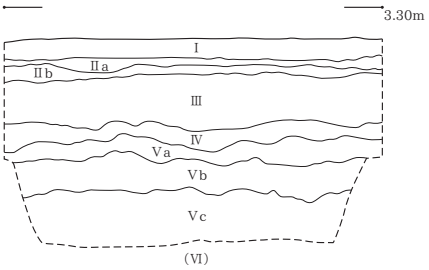


基本層序1

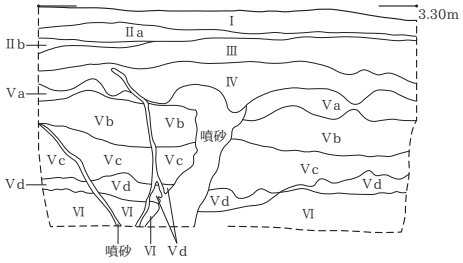


SX31
1　褐灰色シルト（5YR4/1）　粘性ややあり。しまりややあり。植物遺体多量含む。
2　明褐灰色粘土（7.5YR7/1）粘性あり。しまりややあり。炭化物少量含む。

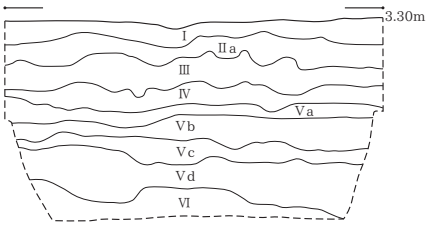
基本層序2



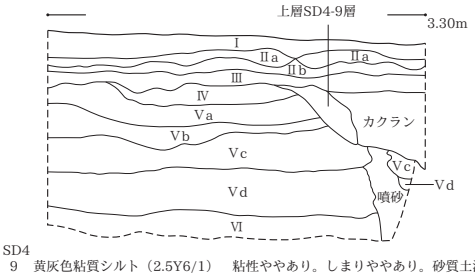
基本層序3



基本層序4

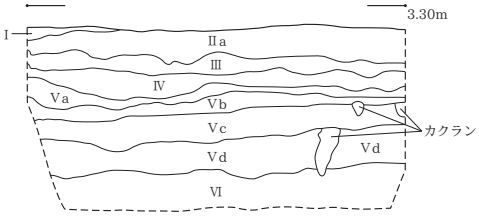


基本層序5

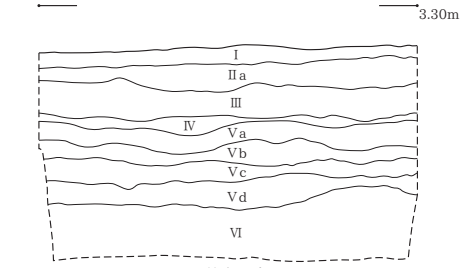


SD4
9　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。砂質土混じる。

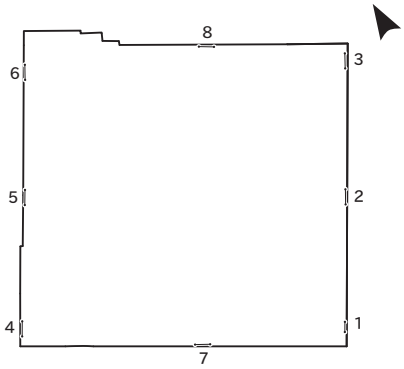
基本層序6

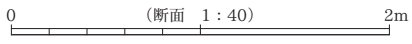


基本層序7

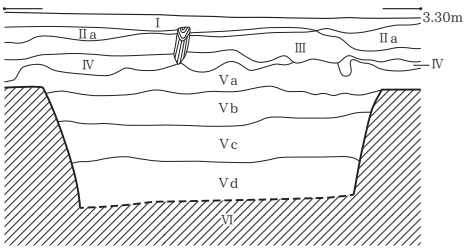


基本層序8

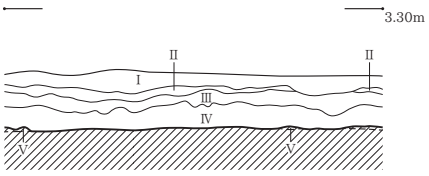




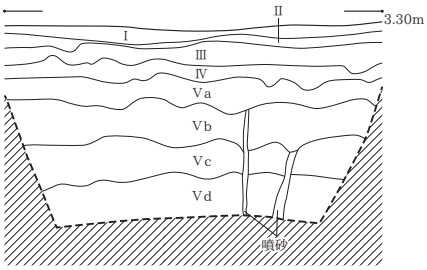
第９図　５区基本層序



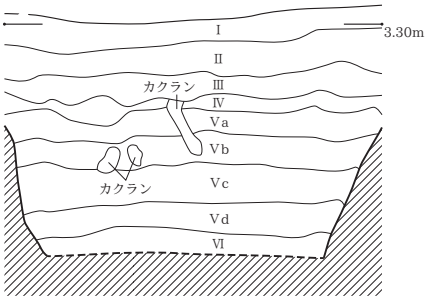
基本層序9



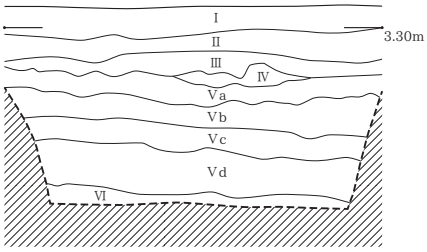
基本層序10



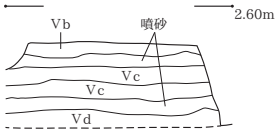
基本層序11



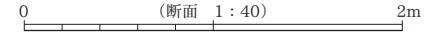
基本層序12

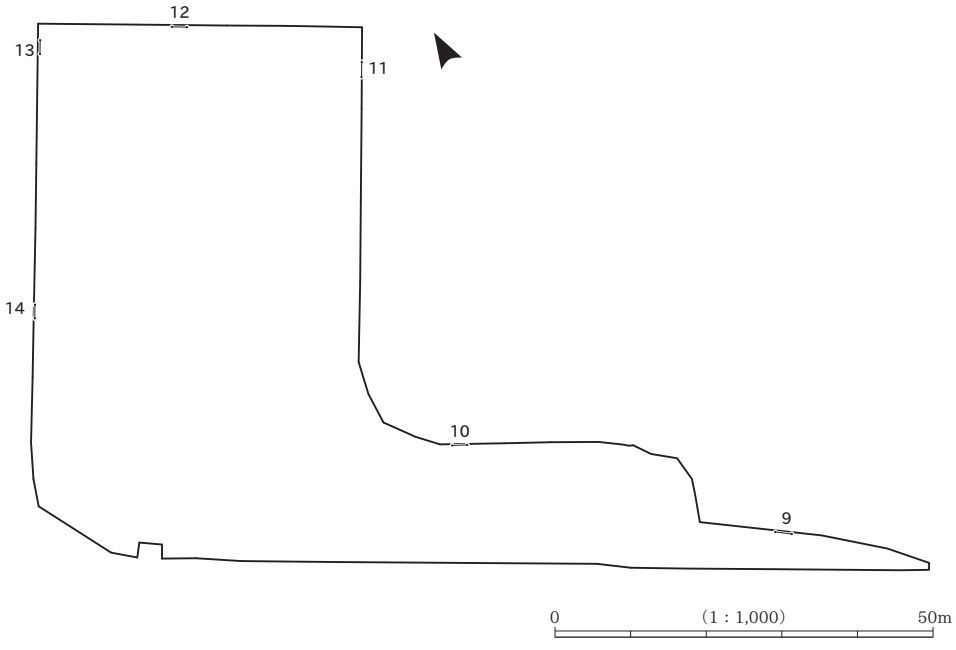


基本層序13

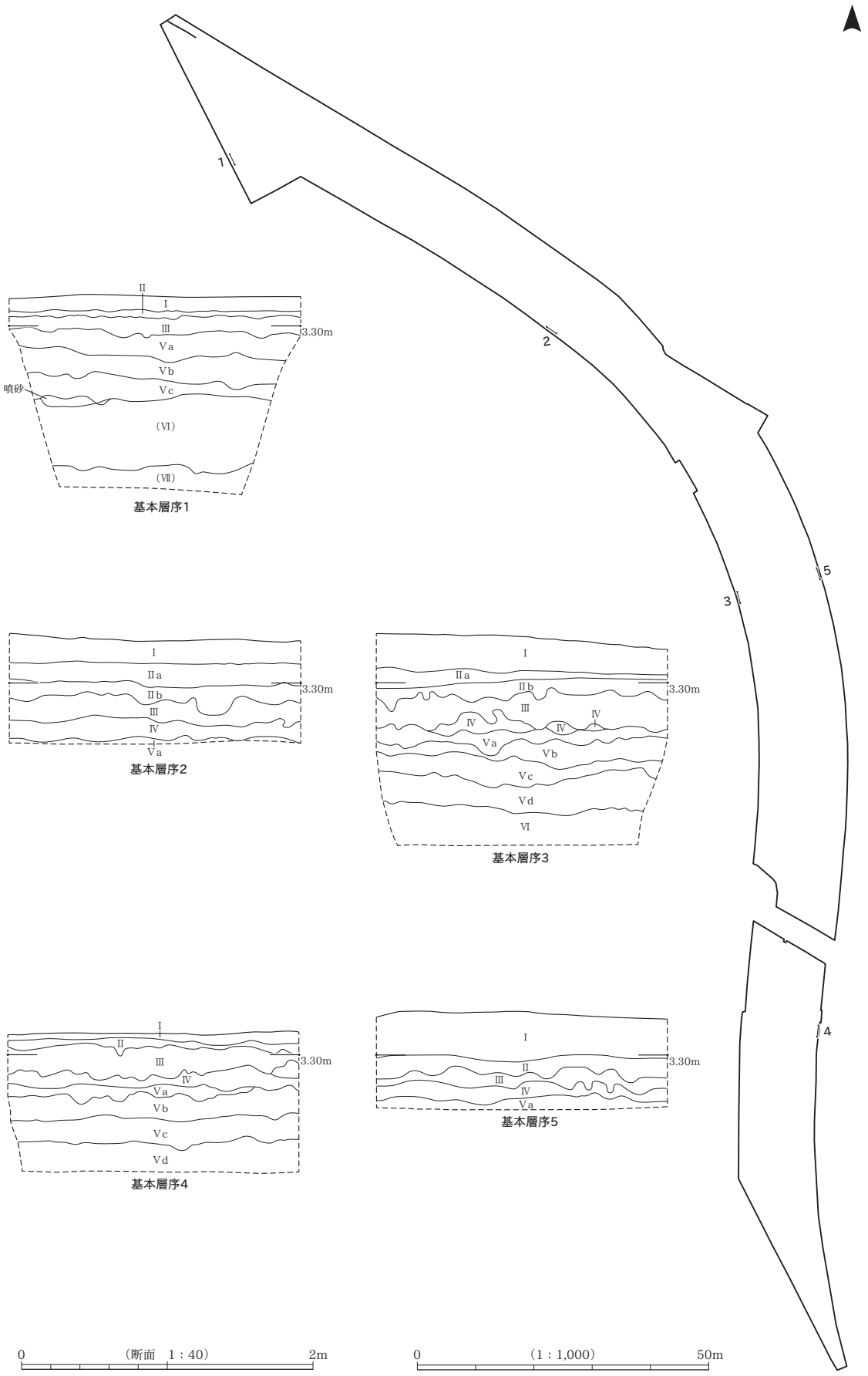


基本層序14





第 10 図　6 区基本層序


1
2
3
4
5
基本層序1
噴砂
3.30m
基本層序2
基本層序3
基本層序4
基本層序5
0　（断面　1：40）　2m
0　（1：1,000）　50m

第 11 図　7 区基本層序

B 微 地 形

5 ～ 7 区の基本層序については前項のとおりⅠ～Ⅶ層に大別できる。このうち上層にあたる古代・中世の遺構の大半はⅣ層上面で確認され、下層にあたる縄文晩期の遺構は、6 区においてＶb 層（下層上面）・Ｖc 層（下層中面）・Ｖd 層（下層下面）上面で確認された。ここではそれら遺構確認面の標高などから、当時の微地形について記載する。ただし下層については、遺構の検出地区が限られていることや、調査によってＶ層が細分されていない場合があることから、不明な点が多い。

1）上　　層

上層にあたる古墳時代・古代・中世の遺構については主としてⅣ層上面で検出した。5 ～ 7 区におけるⅣ層上面の標高を見ると、7 区の北西端及び南東端域で 3.4m と最も高く、一方で 5 区の北端域で 2.6m と最も低くなっており、北東方向に向かって緩やかに傾斜しながら低くなる地形であったことが分かる。

隣接する 8・9 区のⅣ層上面の標高について見てみると、8 区北西端域で約 3.3m、同南東端域で 3.2m、9 区北側（第 20 次調査）の北端域で約 3.3m、同南端域で約 3.1m、9 区南側（第 19 次調査）の北端域で約 3.0m、同南端域で約 2.6m であり、8 区から 9 区北側北端域にかけて標高が最も高く、9 区では南（とりわけ南西）に向かって緩やかに傾斜しながら低くなる地形であることが分かる。

8・9 区及び周辺における確認調査（第 5 次・8 次調査）の各トレンチの土層柱状図を第 8 図に示した。7 区から 8 区にかけての土層柱状図（第 8 図上　北西－南東方向）において、奈良・平安時代、鎌倉時代の遺物包含層（Ⅲ層）及び遺構確認面（Ⅳ層上面）の標高をみると、南東側の 114T から北西方向に向かって緩やかに高くなり、123T から北で最も標高が高くなる。

1 区から 9 区の土層柱状図（第 8 図下　北東－南西方向）を北東方向から南西方向に見ていくと、1 ～ 4 区周辺（107 ～ 109T）で標高が高く、4 区の南側に位置する 142T で標高が低くなり、5 区北側にある 147T で標高をやや高めたのち、南西方向に向かって緩やかに高くなる地形を復元できる。このうち 4 区南方に位置する標高が低いトレンチ（142T ～ 146T）付近は、第 12 次調査時に 4 区南端で検出された深さ約 3m の埋没谷に関連する低地部にあたると推測される（第 7・8 図）。埋没谷が 81T 付近まで広がるとすれば、古代から中世時には 100m 近くの谷幅であった可能性がある。

以上、これまでの本調査や確認調査の成果からは、9 区北側（第 20 次調査）及び 7 区北西端域と 7 区南東端域及び 8 区北西側（第 21 次調査）で標高が最も高いことが分かり、北西－南東方向に蛇行しながらのびる微高地の存在がうかがえる。8 区北西側と 9 区北側では、掘立柱建物や井戸が多く確認されており、この微高地を居住空間として利用したものと考えられる。また、飛鳥時代～平安時代・鎌倉時代の居住域が確認されている 1 ～ 4 区も北西－南東方向にのびる微高地に位置する〔細野・伊比ほか 2012〕。

以上、1 ～ 4 区と 7 ～ 9 区では、北西－南東方向にのびる微高地がそれぞれ存在し、その間を 4 区南端で確認された埋没谷が分断する地形であったと考えられる。なお、5・6 区や 9 区南側（第 19 次調査）、10 区（第 25 次調査）では、建物跡が検出されていない一方、耕作関連遺構が確認されており、微高地周辺の低地部は主に生産域として利用されていたと考えられる。ただし、居住域と生産域の標高・地形は明確に異なるような状況にはなく、居住域縁辺から外へ向かって徐々に下がる緩斜面域を生産域として利用したものといえる。

2）下　　層

下層にあたる縄文時代晩期の遺構については、6 区においてＶb 層（下層上面）・Ｖc 層（下層中面）・Ｖd 層（下層下面）上面で検出した。6 区における下層の遺構分布を見てみると、上面・中面・下面いずれにおいても北西域に集中する。例えば 6 区下層上面では、北西域に竪穴建物や掘立柱建物、土坑、焼土集中遺構などが存在するのに対し、それ以外では溝が主体をなし、溝以外の遺構分布は希薄な状況である。

下層上面の遺構確認面の標高を見てみると、遺構が集中する北西域の標高が 2.5 ～ 2.7m 程であるのに対し、

北東域では 2.0 ～ 2.5m 前後、南側では 2.7 ～ 3.0m 前後であり、６区に限れば北東方向に下がる地形であったと推測される。６区下層上面において、建物などの遺構が最も標高の高い南端域ではなく、それよりもやや低くなる北西域に集中する背景については不明であるが、大局的には微高地の縁付近に位置すると推測される。

C　遺構の概要

1）遺構の概要

遺構番号は、調査時から本報告まで変わらず、５・６区と７区それぞれで遺構の種別に関わらず通し番号を付している。なお、遺構でないと判断したものについては欠番とした。

５～７区の遺構確認面は大きく上層と下層とに分けられる。下層の遺構は６・７区の一部で確認されているが、５区では検出されなかった。さらに、６区下層においては上面・中面・下面の３面で遺構を確認した。

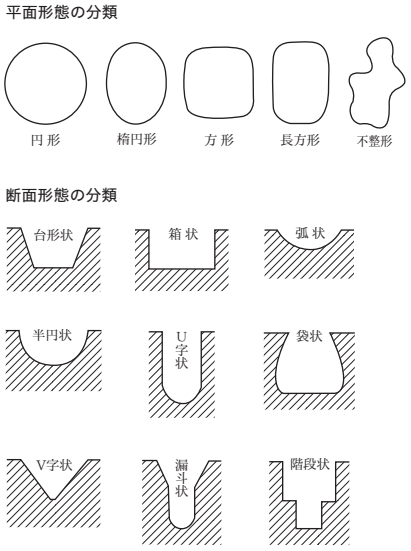
５～７区全体で検出した上層の遺構数は、井戸（SE）10 基、土坑（SK）91 基、性格不明遺構（SX）110 基、溝（SD）145 条、小土坑（P）363 基、杭列（SA）６列、耕作関連遺構（SN）12 基である。

また、５～７区全体で検出した下層の遺構数は、掘立柱建物（SB）８棟、竪穴建物（SI）２棟、土坑（SK）166 基、性格不明遺構（SX）35 基、溝（SD）13 条、炭化物集中遺構（SC）48 基、焼土集中遺構（F）60 基、小土坑（P）260 基である。

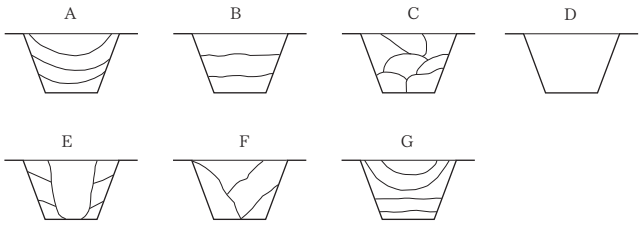
2）遺構の記述

遺構についての記述は上層と下層とで分け、それぞれ５・６区、７区の順に行う。また、下層の６区については、下層上面、下層中面、下層下面で細分して記載する。さらに、各項において遺構種別ごとに記述するが、その順番は掘立柱建物（SB）、竪穴建物（SI）、井戸（SE）、土坑（SK）、性格不明遺構（SX）、溝（SD）、杭列（SA）、耕作関連遺構（SN）の順とするが、溝については主要なものに限り記載し、小土坑については建物を構成する柱穴等の場合を除いて基本記載しないこととした。

遺構の平面形態及び断面形態、堆積状況、掘立柱建物の分類については、『和泉Ａ遺跡』〔加藤 1999〕・『青田遺跡』〔荒川 2004a〕で示された分類（第 12・13 図）によった。なお、別表１の遺構計測表において、平面形態や断面形状、規模や深度などが不明な場合は「－」で示した。



第 12 図　遺構の平・断面形態の分類（加藤 1999）



A　レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B　水平	複数層が水平に堆積する。
C　ブロック状	ブロック状に堆積する。
D　単層	覆土が単一層のもの。
E　柱痕	柱痕と思われる土層が堆積するもの。
F　斜位	斜めに堆積するもの。
G　水平・レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。

第 13 図　遺構埋土の堆積形状の分類（荒川 2004 を一部改変）

第３節　上 層 の 遺 構

Ａ　５・６区上層の遺構（図版４～50）

1）５・６区上層の概要

本項では５・６区上層で検出された遺構について記す。数は、SE ７基、SK 78 基、SX 53 基、SD 69 条、P 310 基、SA ６列、SN ６基である。５・６区上層で検出された遺構については、基本、古代・中世の遺構であるが、５区では上層の調査時に下層の縄文時代の遺構・遺物も確認・調査されている。以下、種別ごとに遺構の概要について記す。

井　　戸（SE）

SE5（図版５・12、写真図版 11）　5I-7D10・15 に位置する。長軸 1.74m・短軸 1.28m の平面楕円形であり、深さ 0.90m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。SE132 を切り、SD2 に切られる。覆土はＡで中世の井戸と考える。

SE6（図版６・10・12、写真図版 11）　5I-8E4・9 に位置する。長軸 1.00m・短軸 0.86m の平面円形であり、深さ 0.75m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。SD2 を切る。覆土はＡで中世の井戸と考える。

SE132（図版５・12、写真図版 11）　5I-7D10・15、7E6・11 に位置する。長軸不明・短軸 0.96m の平面円形で、深さ 0.78m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SE5 に切られる。覆土はＡで中世の井戸と考える。

SE172（図版 30・33・37、写真図版 23）　6I-8B11・12・16・17 に位置する。長軸 1.85m・短軸 1.42m の平面長方形であり、深さ 0.71m を測る。断面形は箱状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はＡで中世の井戸と考える。

SE177（図版 26・30・33・37、写真図版 23）　6I-8B8・9 に位置する。長軸 1.27m・短軸 0.78m の平面不整形であり、深さ 0.99m を測る。断面形はＶ字状を呈し、漏斗状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SE351（図版 20・37、写真図版 23）　6I-2B1 に位置する。長軸 1.12m・短軸 1.08m の平面円形であり、深さ 0.70m を測る。断面形は台形状を呈し、上方は斜位、下方はレンズ状に堆積する。覆土はＢで古代の井戸と考える。

SE380（図版 26・37、写真図版 23）　6I-5B9・14 に位置する。長軸 1.50m・短軸 1.45m の平面不整形で、深さ 0.76m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。土師器が出土している。覆土はＢで古代と考える。

土　　坑（SK）

SK1（図版５・13、写真図版 11）　5I-7E11・16 に位置する。遺構確認面はⅢ層である。長軸 1.66m・短軸 1.21m の平面方形であり、深さ 0.59m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SK7（図版６・10）　5I-8E10 に位置する。長軸 0.49m・短軸 0.32m の平面楕円形である。覆土はＣで縄文時代の遺構の可能性がある。

SK45（図版６・13、写真図版 11）　5I-9G16・17 に位置する。長軸 0.90m・短軸 0.53m の平面楕円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈する。SD2 に切られる。縄文時代の遺構の可能性がある。

SK50（図版８）　5I-10C6・7・11・12 に位置する。長軸 2.28m・短軸 1.89m の平面方形である。その他の詳細については不明。縄文土器（1・2）が出土している。覆土はＣで縄文時代の遺構の可能性がある。

SK54（図版 10・13、写真図版 12）　6I-1F7 に位置する。長軸 0.60m・短軸 0.36m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK55（図版 35・38、写真図版 24）　6I-8D23 に位置する。長軸 0.60m・短軸 0.50m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。SX405 を切る。覆土はＢで古代と考える。

SK56（図版 35・38）　6I-8D18・23 に位置する。長軸 0.80m・短軸 0.76m の平面円形であり、深さ 0.06m を測る。その他の詳細については不明。縄文土器（36～38）が出土している。SK108、SX405 に切られる。比較的遺存度の高い縄文土器が出土している。覆土はＣで縄文時代の遺構の可能性がある。

SK57（図版33・35・38、写真図版24）　6I-8D22､9D2に位置する。長軸0.82m・短軸0.73mの平面円形であり、深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SX405を切る。覆土はBと推測され、古代と考える。

SK61（図版8・13、写真図版12）　5I-10C7・8に位置する。長軸1.13m・短軸1.08mの平面方形であり、深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（3）が出土している。覆土はBで古代と考える。

SK64（図版33・35・38、写真図版24）　6I-8D17・22に位置する。長軸1.37m・短軸0.67mの平面長方形であり、深さ0.16mを測る。断面形は台形状を呈し、斜位に堆積する。SX405を切る。古代と考える。

SK70（図版8・13、写真図版12）　5I-9C24に位置する。長軸1.27m・短軸0.80mの平面楕円形であり、深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（4）が出土している。覆土はBで古代と考える。

SK71（図版8・13、写真図版12）　5I-9C24・25、10C4・5に位置する。長軸1.32m・短軸0.72mの平面楕円形であり、深さは0.23mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBで古代と考える。

SK72（図版8・13、写真図版13）　5I-9C24に位置する。長軸0.70m・短軸0.34mの平面楕円形であり、深さ0.12mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBと推測され、古代と考える。

SK80（図版9・10・13、写真図版13）　6I-1D25に位置する。長軸1.48m・短軸0.94mの平面楕円形であり、深さ0.13mを測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBで古代と考える。

SK85（図版9・14、写真図版13）　6I-2E2・3・7・8に位置する。長軸1.30m・短軸0.72mの平面楕円形であり、深さ0.08mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はBで古代と考える。

SK88（図版33・35）　6I-9D2・7に位置する。長軸0.36m・短軸0.35mの平面円形である。その他の詳細については不明。縄文土器（39）が出土している。SX405を切る。覆土はC。

SK89（図版5・8・14、写真図版13）　5I-9B15、9C11に位置する。長軸1.32m･短軸1.14mの平面方形であり、深さ0.36mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は不明。

SK94（図版9・10・14、写真図版13・14）　6I-1E1に位置する。長軸0.76m・短軸0.66mの平面方形であり、深さ0.14mを測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。覆土はBで古代と考える。

SK97（図版9・10・14、写真図版14）　5I-10D24・25に位置する。長軸1.13m・短軸0.76mの平面楕円形であり、深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈する。SD100を切る。覆土はBで古代と考える。

SK98（図版9・10・14、写真図版14）　5I-10D25、6I-1D5に位置する。長軸1.49m・短軸0.64mの平面不整形であり、深さ0.19mを測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBで古代と考える。

SK108（図版35・38、写真図版24）　6I-8D17・18・23に位置する。長軸1.62m・短軸1.24mの平面楕円形であり、深さ0.12mを測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（37）が出土している。SK56、SX405を切る。覆土はBと推測され、古代と考える。

SK111（図版8～10･14、写真図版14）　6I-1D19･24に位置する。長軸0.72m･短軸0.68mの平面方形であり、深さ0.19mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBで古代と考える。

SK115（図版6・9・10・14、写真図版14・15）　5I-10E3・7・8に位置する。長軸1.58m・短軸1.05mの平面不整形であり、深さ0.34mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（5）が出土している。SD78・95に切られる。覆土はBと推測され、古代と考える。

SK116（図版6・9・10・14、写真図版15）　5I-10E3・8に位置する。長軸0.72m・短軸0.56mの平面楕円形であり、深さ0.27mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（5）が出土している。古代の遺構と考える。

SK148（図版35・36・38、写真図版25）　7I-1E5に位置する。長軸0.61m・短軸0.54mの平面円形であり、深

さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK155（図版 26・30・33・38、写真図版 25） 6I-7A20・25 に位置する。長軸 0.79m・短軸 0.78m の平面方形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世の遺構と考える。

SK156（図版 26・30・33・38、写真図版 25） 6I-7A24・25 に位置する。長軸 0.68m・短軸 0.60m の平面円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK158（図版 35・38、写真図版 25） 6I-10D9・14 に位置する。長軸 0.80m・短軸 0.75m の平面楕円形であり、深さ 0.30m を測る。断面形は階段状を呈し、水平に堆積する。SX405 を切る。覆土はＢで古代の遺構と考える。

SK162（図版 35・38、写真図版 26） 6I-9D7・8 に位置する。長軸 0.90m・短軸 0.82m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SX405、SD154・168 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK193（30・33・図版 39、写真図版 26） 6I-8B6 に位置する。長軸 0.92m・短軸 0.90m の平面楕円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は階段状を呈し、単一層である。SD171 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK197（図版 29・30・39、写真図版 26） 6H-6J18・19・24 に位置する。長軸 0.53m・短軸 0.50m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世の遺構と考える。

SK198（図版 29・30・39、写真図版 26） 6H-6J18 に位置する。長軸 0.48m・短軸 0.47m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＡで中世の遺構と考える。

SK199（図版 35・39、写真図版 27） 6I-9E19・20 に位置する。長軸 1.04m・短軸 0.98m の平面楕円形であり、深さ 0.44m を測る。断面形は階段状を呈し、水平・レンズ状に堆積する。縄文土器（40）が出土している。覆土はＢで古代と考える。

SK200（図版 30・39、写真図版 27） 6I-7A12・17 に位置する。長軸 0.70m・短軸 0.65m の平面円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世の遺構と考える。

SK213（図版 25・29・39、写真図版 27） 6H-6J1・2・6・7 に位置する。長軸 1.00m・短軸 0.67m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SK215（図版 35・39、写真図版 27） 6I-9E24・25 に位置する。長軸 0.48m・短軸 0.42m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SK216（図版 26・30・39、写真図版 28） 6I-7A3・4 に位置する。長軸 0.62m・短軸 0.56m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK220（図版 30・39、写真図版 28） 6I-6A8・9 に位置する。長軸 1.10m・短軸 0.98m の平面楕円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は台形状を呈し、斜位に堆積する。SK246 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK222（図版 29・30・40、写真図版 28） 6I-6A16 に位置する。長軸 0.67m・短軸 0.65m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SK223（図版 26・33・40、写真図版 28） 6I-7B5・10、7C1・6 に位置する。長軸 0.75m・短軸 0.74m の平面不整形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は階段状を呈し、水平に堆積する。SX405 を切る。覆土はＡで中世の遺構と考える。

SK225（図版 25・29・30・40、写真図版 29） 6H-5J25、6J5、6I-5A21、6A1 に位置する。長軸 0.64m・短軸 0.56mの平面円形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。覆土はＡで古代と考える。

SK227（図版 30・40、写真図版 29） 6I-6A23・24、7A3・4 に位置する。長軸 0.68m・短軸 0.58m の平面楕円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK228（図版 26・33・40、写真図版 29） 6I-6B25、6C21、7B5、7C1 に位置する。長軸 1.68m・短軸 0.94m の平面不整形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。SK229、SX405 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK229（図版 26・30・33・40、写真図版 29）　6I-6B25、7B5 に位置する。長軸 1.60m・短軸 0.80m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。SX405、P230 を切り、SK228 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SK231（図版 25・29・40、写真図版 29）　6H-5J21 に位置する。長軸 1.15m・短軸 0.86m の平面楕円形であり、深さ 0.34m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK237（図版 26・40、写真図版 30）　6I-6B15・20、6C11・16 に位置する。長軸 1.60m・短軸 1.47m の平面不整形であり、深さ 0.49m を測る。断面形は箱状を呈し、ブロック状に堆積する。SX405、SD236 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK238（図版 25・29・30・41、写真図版 30）　6H-5J17・18 に位置する。長軸 0.87m・短軸 0.80m の平面方形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は台形状を呈し、斜位に堆積する。SD241・260 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK246（図版 30・41、写真図版 30）　6I-6A8・9 に位置する。長軸 1.46m・短軸 1.18m の平面楕円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。SK250 を切り、SK220 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SK250（図版 30・41、写真図版 30）　6I-6A3・8 に位置する。長軸 1.05m・短軸 0.85m の平面楕円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。P249 を切り、SK246 に切られる。覆土はＢで古代の遺構と考える。

SK258（図版 25・29・41、写真図版 30）　6H-5J6 に位置する。長軸 0.67m・短軸 0.60m の平面円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。SX266 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK269（図版 25・41、写真図版 31）　6H-4I5・10 に位置する。長軸 0.47m・短軸 0.40m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK277（図版 26・30・41、写真図版 31）　6I-6A10・15 に位置する。長軸 1.25m・短軸 1.23m の平面方形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD263・562 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK279（図版 29・30・41、写真図版 31）　6H-6J20・24・25 に位置する。長軸 0.63m・短軸 0.47m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK280（図版 30・42、写真図版 31）　6I-6A13・18 に位置する。長軸 1.60m・短軸 0.95m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土はＡと推定され、中世と考える。

SK281（図版 25・42、写真図版 32）　6H-3J19 に位置する。長軸 0.81m・短軸 0.63m の平面方形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK284（図版 26・30・42、写真図版 32）　6I-5B21・22 に位置する。長軸 0.85m・短軸 0.54m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK286（図版 29・30・42、写真図版 32）　6H-6J15、6I-6A11 に位置する。長軸 0.80m・短軸 0.64m の平面方形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK287（図版 29・30・42、写真図版 32）　6I-6A6・7 に位置する。長軸 0.94m・短軸 0.60m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK299（図版 20・42、写真図版 33）　6I-3B12・13 に位置する。長軸 1.24m・短軸 1.10m の平面方形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK300（図版 20・25・42、写真図版 33）　6I-3A18・23 に位置する。長軸 0.92m・短軸 0.80m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD234 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK303（図版 20・25・42、写真図版 33）　6I-2A7・12 に位置する。長軸 1.46m・短軸 0.85m の平面長方形であり、深さ 0.30m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。SX298 に切られる。覆土はＢで古代

と考える。

SK321（図版 20・25・42、写真図版 33）　6I-2A11 に位置する。長軸 0.74m・短軸 0.54m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK324（図版 25・30・43・44、写真図版 33・34）　6I-5A23、6A3 に位置する。長軸 1.60m・短軸 1.26m の平面楕円形であり、深さ 0.63m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。SK369 を切り、SX323 に切られる。底面付近の覆土はＢで古代と考える。

SK330（図版 26・30・43、写真図版 34）　6I-5B24・25 に位置する。長軸 0.96m・短軸 0.78m の平面不整形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SK334（図版 20・43、写真図版 34）　6I-1B17・18・22・23 に位置する。長軸 1.73m・短軸 1.38m の平面円形であり、深さ 0.46m を測る。断面形は台形状を呈し、斜位に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK358（図版 20・25・43、写真図版 34）　6I-2A17・18・22・23 に位置する。長軸 1.20m・短軸 0.80m の平面楕円形であり、深さ 0.27m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK367（図版 25･26･43、写真図版 34･35）　6I-5A9 に位置する。長軸 0.83m･短軸 0.50m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK369（図版 25・30・44、写真図版 35）　6I-5A23 に位置する。長軸 0.67m・短軸 0.54m の平面方形であり、深さ 0.25m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。SK324 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SK381（図版 20・44、写真図版 35）　6I-1B18 に位置する。長軸 0.52m・短軸 0.50m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SK393（図版 20・44、写真図版 35）　6I-4B5 に位置する。長軸 0.89m・短軸 0.76m の平面楕円形であり、深さ 0.27m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。SX405、SD411 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK398（図版 20・44、写真図版 35・36）　6I-4B3・8 に位置する。長軸 0.64m・短軸 0.50m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は階段状を呈し、水平に堆積する。SX405 を切り、P399 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SK404（図版 20・21・44、写真図版 36）　6I-3B10・15、3C6・11 に位置する。長軸 0.72m・短軸 0.60m の平面楕円形であり、深さ 0.38m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK408（図版 20・21・44、写真図版 36）　6I-3B15・20、3C11・16 に位置する。長軸 0.48m・短軸 0.46m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SK421（図版 21・44、写真図版 36）　6I-2D14・19 に位置する。長軸 0.78m・短軸 0.72m の平面円形であり、深さ 0.53m を測る。断面形は階段状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SK432（図版 20・44、写真図版 36・37）　6I-4B14 に位置する。長軸 0.72m・短軸 0.66m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SK460（図版 35・44、写真図版 37）　6I-9D25、10D5 に位置する。長軸 0.92m・短軸 0.86m の平面楕円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。SX405 を切る。覆土はＢで古代と考える。

SK594（図版 21・44、写真図版 37）　6I-1C24、2C4 に位置する。長軸 0.86m・短軸 0.74m の平面円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SK602（図版 20・44、写真図版 37）　6I-1B1・6 に位置する。長軸 0.40m・短軸 0.34m の平面円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD354・400 に切られる。覆土はＣに類似する。

性格不明遺構（SX）

SX13（図版 6・10・15）　5I-10F5・10、10G1・6 に位置する。長軸 1.76m・短軸 1.10m の平面不整形であり、深さ 0.21m を測る。断面形は弧状を呈する。古墳時代の土師器（6）が出土している。SD4 に切られる。覆土は不明であるが、高杯の遺存率は高く、出土状況などから古墳時代の遺構と推測する。

SX31（図版 6・10・11、写真図版 15）　5I-9E25、9F16・17・21 ～ 24、10E5・10・13 ～ 15・18 ～ 20・24・25、10F1・2、10G6・11、6I-1E3 ～ 5・8 ～ 10・13 ～ 15・19、1F1 ～ 4・6 ～ 8・11・12 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SX49 に切られる。覆土はＢと推測され、古代の遺構と考える。

SX32（図版 6・10・15、写真図版 15）　5I-9E4・5・9・10・15、9F6・11・12 に位置する。長軸不明・短軸 1.10m の平面不整形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD4 に切られる。覆土はＢで古代の遺構と考える。

SX36（図版 6・7・10・11、写真図版 20）　5I-8E15・20・25、8F16・21・22、9F1 ～ 3・7 ～ 9・13 に位置する。長軸 1.13m・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD15 を切る。SD2・4 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SX44（図版 5、写真図版 15）　5I-7C23 ～ 25、8C3 ～ 5・8 ～ 10・13 ～ 15・19・20、8D1・2・6・7・11・12・16 に位置する。長軸不明・短軸 6.82m の平面不整形であり、深さ 0.38m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土はＢで古代の遺構と考える。

SX46（図版 5・15、写真図版 15）　5I-8D22・23、9D2・3 に位置する。長軸 2.40m・短軸 2.20m の平面方形であり、深さ 0.31m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（7）が出土している。覆土はＢで古代と考える。

SX49（図版 6・10・15、写真図版 16）　5I-10E20・25 に位置する。長軸 0.69m・短軸 0.60m の平面方形であり、深さ 0.35m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SX73（図版 5・10・16、写真図版 16・22）　5I-9D13 ～ 15・19 に位置する。長軸 2.97m・短軸 1.93m の平面楕円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（8）が出土している。SD95 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX77（図版 5・16、写真図版 16）　5I-9B5・10、9C1・6 に位置する。長軸不明・短軸 2.15m の平面長方形であり、深さ 0.31m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。底面から縄文土器（9）が比較的まとまって出土している。SD96 に切られる。覆土はＢに近く古代と推測する。

SX82（図版 9・10・15、写真図版 16）　6I-1E21・22、2E1・2 に位置する。長軸 1.29m・短軸 0.92m の平面不整形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。SX83 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX83（図版 9・10・15、写真図版 16）　6I-1E21、2E1 に位置する。長軸 1.38m・短軸 0.86m の平面不整形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。SX82 を切る。覆土はＢで古代と考える。

SX86（図版 8・17、写真図版 17）　5I-9B9・10・13 ～ 15・17 ～ 20・22 ～ 24、10B2 ～ 4 に位置する。長軸 9.15m・短軸不明の平面楕円形であり、深さ 0.37m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（10 ～ 12）、石器・石製品（30 ～ 32）が出土している。SD60・90 に切られる。覆土はＢで古代の遺構と考える。

SX91（図版 8・16、写真図版 17）　5I-10C8・9・13・14 に位置する。長軸 2.50m・短軸 1.87m の平面楕円形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（13）が出土している。覆土はＢで古代と考える。

SX92（図版 8・9・16、写真図版 17）　5I-10D13・14・18 に位置する。長軸不明・短軸 0.63m の平面不整形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX112（図版 9 ～ 11）　5I-10D9・10・14・15・20、10E6・11・12・16 ～ 18・22 ～ 24、6I-1E3 に位置する。長軸不明・短軸 2.40m の平面不整形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と推測される。

SX114（図版 8・18、写真図版 17・18）　5I-10B9・10・14・15・19・20、10C6・11・16 に位置する。長軸不明・短軸 4.06m の平面楕円形であり、深さ 0.37m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器(14 ～ 17）が出土している。P123・125・126 を切り、SD90 に切られる。覆土はＣで縄文時代の遺構と推測する。

SX117（図版 8・19、写真図版 18）　6I-1C5・10・15、1D1・6 に位置する。長軸 4.06m・短軸 1.67m の平面不整形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SX136（図版 8・19、写真図版 18）　5I-10C22・23、6I-1C2・3 に位置する。長軸 2.32m・短軸 1.92m の平面円形であり、深さ 0.32m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（18）が出土している。覆土はＢで古代と考える。

SX137（図版 6・10・19、写真図版 18）　5I-8E15、8F11 に位置する。長軸 0.56m・短軸 0.47m の平面円形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX138（図版 8・19、写真図版 18・19）　5I-9C20・25、9D16・21 に位置する。長軸 2.81m・短軸 1.60m の平面楕円形であり、深さ 0.42m を測る。断面形はＶ字状を呈し、斜位に堆積する。SD96 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX141（図版 5・8・19、写真図版 19）　5I-9D12・17・18・22 に位置する。長軸 2.20m・短軸 1.60m の平面楕円形であり、深さ 0.58m を測る。断面形は弧状を呈する。SD95 に切られる。時代は不明である。

SX143（図版 9 ～ 11、写真図版 19）　6I-1D14・15 に位置する。長軸 1.26m・短軸 0.65m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SD142 を切る。覆土はＢで古代と考える。

SX150（図版 35・45、写真図版 37）　6I-10E19・20・24・25、10F16・21 に位置する。長軸不明・短軸 1.76m の平面不整形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SX151、SD154 を切る。覆土はＢで古代と考える。

SX151（図版 35・36・45、写真図版 37）　6I-10F11・16 に位置する。長軸不明・短軸 0.70m の平面不整形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SX150 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX157（図版 35・36・45、写真図版 37）　6I-9E20・25、9F16・21 に位置する。長軸不明・短軸 1.82m の平面円形であり、深さ 0.62m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（40）が出土している。覆土はＢで古代と考える。

SX163（図版 29・30・45、写真図版 38）　6H-8J4・5、6I-8A1 に位置する。長軸 4.44m・短軸 1.38m の平面不整形であり、深さ 0.69m を測る。断面形は漏斗状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はＢと推測され古代の可能性がある。

SX166（図版 33・45、写真図版 38）　6I-9C11 ～ 13・16・17 に位置する。長軸不明・短軸 1.98m の平面楕円形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SD167 を切る。覆土はＢで古代と考える。

SX187（図版 29・46、写真図版 38）　6H-6I25、6J21、7I5、7J1 に位置する。長軸 2.36m・短軸 1.86m の平面長方形であり、深さ 0.25m を測る。断面形は台形状で、レンズ状に堆積する。SD190 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX214（図版 26・30・39、写真図版 38）　6I-7A4・9 に位置する。長軸 1.52m・短軸 0.94m の平面不整形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SX224（図版 29・30・46、写真図版 38・39）　6H-6J14・15・19・20 に位置する。長軸 2.18m・短軸 1.44m の平面不整形であり、深さ 0.40m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX239（図版 25・29・46、写真図版 39）　6H-5J8・9・13・14 に位置する。長軸 2.09m・短軸 1.78m の平面不整形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD240・241 を切る。覆土はＡで中

世と考える。

SX251（図版 29・46、写真図版 39）　6H-6I20 に位置する。長軸 0.86m・短軸 0.62m の平面楕円形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。SD190 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX266（図版 25・29・41、写真図版 30）　6H-5J1・6 に位置する。長軸 1.74m・短軸 1.28m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。SK258 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SX270（図版 25・47、写真図版 39）　6H-3I25、3J16・21、4I9・10、4J1・2・6・7 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SX275（図版 29・30・47、写真図版 39）　6H-6J3・4・8・9 に位置する。長軸 2.26m・短軸 0.69m の平面長方形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD260 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX294（図版 20・25・48、写真図版 40）　6I-3A3・8 に位置する。長軸 1.98m・短軸 1.40m の平面長方形であり、深さ 0.44m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SX298（図版 20・48、写真図版 40）　6I-2A7・8・12・13 に位置する。長軸 2.04m・短軸 1.32m の平面長方形であり、深さ 0.54m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。縄文土器（41・42）が出土している。SK303 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX308（図版 20・48、写真図版 40）　6I-1A24、2A4 に位置する。長軸 1.60m・短軸 0.84m の平面長方形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SX309（図版 20・48、写真図版 40）　6I-2A4・5・9・10 に位置する。長軸 1.97m・短軸 1.20m の平面不整形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SX315（図版 26・30・48、写真図版 41）　6I-5B16 に位置する。長軸 1.56m・短軸 0.74m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。SD236 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX323（図版 30・43、写真図版 33・34）　6I-5A22・23、6A2・3 に位置する。長軸 2.52m・短軸 0.92m の平面楕円形であり、深さ 0.37m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。SK324、SX325 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX325（図版 25・30・43・49、写真図版 33・34・41）　6I-5A22・23、6A2・3・7 に位置する。長軸 2.93m・短軸 1.12m の平面楕円形であり、深さ 0.49m を測る。断面形はＶ字状を呈し、水平に堆積する。SX323 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX329（図版 20・49、写真図版 41）　6I-3B8・9・13・14・18・19 に位置する。長軸 2.78m・短軸 1.35m の平面長方形であり、深さ 0.52m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SX349（図版 26・30・49、写真図版 41）　6I-6B9・10 に位置する。長軸 1.70m・短軸 0.82m の平面不整形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX357（図版 21・23）　6I-1C22・23、2C2～5・7～10・12～15、2D1・6～8・11～14 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX405（図版 20・21・23・24・26・28・30・33 ～ 35、写真図版 41・46）　6I-2C、2D、3B、3C、3D、3E、4B、4C、4D、5B、5C、5D、6B、6C、7A、7B、7C、8B、8C、8D、9C、9D、9E、10D、10E に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.60m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SK56、SX442 を切り、SK55・57、SD146・153、P230 等、周辺の遺構に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX415（図版 21・49、写真図版 41）　6I-2E21～23、3E1～3・6・7 に位置する。長軸 3.62m・短軸 2.18m の平面不整形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代の遺構と考える。

SX434（図版 26・50、写真図版 42）　6I-5B4・5・9・10 に位置する。長軸不明・短軸 0.65m の平面不整形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX442（図版 33・35・50、写真図版 42）　6I-8D11・12・16・17 に位置する。長軸不明・短軸 1.75m の平面楕円形であり、深さ 0.38m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。石器・石製品（65 ～ 69）が出土している。SX405 を切る。覆土はＢで古代と考える。なお、自然科学分析（植物珪酸体分析・花粉分析）を行っており、1 層ではチマキザサ節型が大幅に増加するとともに、密度は 700 個 /g と低いながらイネ等が出現しており、調査地点もしくはその近辺で水田稲作が行われていたと推定される（第Ⅵ章第 1 節Ｂ・第 2 節Ｂ）。

SX518（図版 33・50、写真図版 42）　6I-9C17・18・22・23 に位置する。長軸不明・短軸 0.58m の平面不整形であり、深さ 0.21m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX556（図版 25・29・50、写真図版 42）　6H-5I7・8・12・13 に位置する。長軸不明・短軸 0.42m の平面不整形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD190 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX592（図版 25・29・50、写真図版 42）　6H-5I20 に位置する。長軸 0.60m・短軸 0.52m の平面円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形Ｕ字状を呈し、水平に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX599（図版 20・25）　6I-3A9 に位置する。長軸 0.30m・短軸 0.26m の平面円形であり、深さ 0.19m を測る。断面形はＶ字状を呈し、レンズ状に堆積する。

溝（SD）

5・6 区上層で確認された溝は計 145 条である。出土遺物や覆土から、大半は古代と中世の溝と考えられる。以下では、古代と中世に分けたうえで、主要な溝について記載する。なお、耕作関連遺構（SN）に伴う溝についてはそちらの項で記載する。

古　代

5 区では東西方向を基調として複数の溝が確認できる。SD8・60・62・78・90・95・96・100 等は、調査区西側では並行するような形で東西方向に走るが、調査区中央東端域において SX31・112 等とつながり、一つにまとまるようである。

また、調査区北側では約 1.5 ～ 3m と比較的幅の広い溝である SD4 が北西－南東方向にのびている。古墳時代の土器が出土しているが（図版 119-19 ～ 21）、覆土から中世の遺構と考える。

6 区では、調査区西側の中央付近で北西－南東方向にのびる SD236 や SD263 などがある。SD263 は SD236 に切られており古く、途中で北東方向に直角気味にのびて収束する。また、調査区東側でも SD154 や SD171 など北西－南東方向を基調とする溝が存在する。

中　世

5 区では、調査区北端域で幅 1.0m 程の溝である SD2 が北西－南東方向にのびている。5 区では他に中世の溝は希薄である。

6 区では調査区西側で認められる。6 区南西域では、SD189、SD190、SD203、SD276 など北西－南東方向に走る溝が並行して存在する他、SD189 とつながって北東－南西方向に走る SD209・SD234 がある。これらの溝については、後述する耕作関連遺構と軸が類似していることや、一部の溝が耕作関連遺構を区画する溝とつながる可能性があることなどから、関連していた可能性も推測される。

杭　　列（SA）

5・6 区上層において、杭列と判断したものは 6 区で 6 列確認した。いずれのピットも掘り方はなく、先端を加工して尖らせた杭を直接打ち込んだものである。

6 区南西域に位置する SA144 と SA145 は並行する杭列である。詳細な年代については不明であるが、SA145 北西端の P479・480 は古代の遺構である SD210 の後に打たれている。また、6 区東側に位置する SA147 と SA149 も並行する杭列である。詳細な年代については不明であるが、SA147 の P548 や P585、SA149 の P547 や P554 などは、古代の遺構である SX405 を切っており、さらに SA149 の北東端の P586

は古代の遺構である SX442 の後に打たれている。6 区西側の中央に位置する SA113 の詳細な年代についても不明であるが、SA113 を構成する P571 は古代の遺構である SD267 の後に打たれている。

以上のことからは、上記杭列は古代以降の遺構であるといえ、さらに言えば中世の溝と軸が一致する点からは中世に属する可能性が高いといえよう。なお、SA144・SA145 は南北方向の軸をなし、SA113・SA147・SA149 はそれに直交する東西方向の軸をもつ。

以下、各杭列の概要について記載する。

SA110（図版 25・28） 6I-5A・5B に位置する。7 基のピット（P578 ～ 584）で構成されるものとした。各ピットは深さ 0.09 ～ 0.27m を測る。主軸は N-35° -E である。

SA113（図版 25） 6H-5J に位置する。6 基のピット（P278・568 ～ 572）で構成されるものとした。主軸は N-78° -E である。

SA144（図版 29） 6H-5I・6I・7I に位置する。29 基のピット（P481 ～ 489・498 ～ 514・533 ～ 535）で構成されるものとしたが、一部直線的につながらないピットも存在する。主軸は N-18° -W である。SA145 と並行する。

SA145（図版 29） 6H-5I、6I、7I に位置する。21 基のピット（P458・459・461 ～ 463・465 ～ 480）で構成されるものとした。主軸は N-14° -W である。SA144 と並行する。

SA147（図版 33・34、写真図版 52） 6I-8C・8D に位置する。6 基のピット（P546・548・550・560・575・585）で構成するものとした。主軸は N-85° -W である。P546 の杭を図示した（72）。SA149 と並行する。

SA149（図版 33・34、写真図版 52） 6I-8C・8D に位置する。7 基のピット（P547・549・551・552・554・561・586）で構成するものとした。主軸は N-88° -W である。各ピットは深さ 0.23 ～ 0.54m を測り、断面形は U 字状を呈す。SA147 と並行する。

耕作関連遺構（SN）

6 区上層で、1 ～ 3 か所の隅が直角気味に曲がる方形基調の溝が 6 か所で確認された（第 14 図）。後述するが、7 区上層においても方形基調の溝が 6 か所で確認されており、内部が凹地として検出されている。5 ～ 7 区上層においては計 12 基の存在が確認でき、12 基全てが北西－南東・北東－南西方向の軸をもつ。いずれも溝の覆土から中世の遺構と考えるが、このような周囲に溝が巡る凹地遺構については本遺跡の 9 区でも確認されており、中世の水田や畑に関係する耕作関連遺構と考えられている〔相田・金田ほか 2015〕。また、北東約 1km に位置する細池寺道上遺跡においても検出されており、いずれも中世の遺構とされ、「堀田」に先行する形態の水田（掘込田）との関連が指摘されている〔小池 1994、鈴木 2011・2012、立木・細井ほか 2015〕。なお、大沢谷内遺跡の 9 区で確認されている周溝をもつ凹地遺構については 15 基確認されており、「凹地遺構 B 類」・「凹地遺構 D 類」として報告されている〔相田・金田 2015〕。6 区と 7 区で検出した溝に囲まれた 12 基の区画についても、9 区と同様、中世の水田や畑に伴う耕作関連遺構と考える。

以下、耕作関連遺構（SN）としてそれぞれの区画ごとに記載する。

① SN01（図版 20・22・42・48）

SD310 で区画された中世の遺構である。6I-1A8・13・14・17 ～ 19・22 ～ 24、6H-2J10・14・15・19・20、6I-2A1 ～ 14 に位置する。SD310 の西側は調査区外へのびるため不明であるが、溝の外端で長軸 12m 以上の平面長方形状の区画をなすと推測される。内部は底面に不規則な凹凸が認められる。

SD310（図版 20・22・42・48、写真図版 33・40・49） 6I-1A8・13・14・18・19・24、6H-2J14・15・19・20、6I-2A4・5・8 ～ 14 に位置する。短軸 1.08m であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

② SN02（図版 20・22・48）

SD293 で区画された中世の遺構である。6I-2A14・15・17 ～ 20・22 ～ 25、2B11・16・21・22、3A2 ～ 5・7 ～ 10・13 ～ 15・18 ～ 20、3B1・2・6 ～ 8・11 ～ 13・16・17 に位置する。SD293 は平面方形状に巡るが、

北東側が一部途切れている。溝の外端で短軸 9.0m、長軸 10.7m の平面長方形状の区画をなし、内部は底面に不規則な凹凸が認められる。なお、南西隅は SD234 とつながる可能性がある。

SD293（図版 22・48、写真図版 49）　6I-2A14・15・17～20・22、2B11、3A2・3・7・8・13・18～20、3B2・7・8・11～13・16・17 に位置する。短軸 0.54m であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

③ SN03（図版 25・27・28）

SD291 で区画された中世の遺構である。6H-2J19・20・23～25、3J3～5・7～10・12～25、4J1～5・7～9、6I-2A16・17・21、3A1・2・6・7・11・12・16・17・18・21・22・23、4A1 に位置する。SD291 はコ字状に確認されているが、北西隅は調査区外のため不明である。また、南側は途切れている。溝の外端で短軸 12.8m、長軸 12.9m の平面方形状の区画をなし、内部は底面に不規則な凹凸が認められる。なお、西側の溝は SX270 とつながる可能性がある。

SD291（図版 25・27・28、写真図版 45・46・49）　6H-2J19・20・24・25、6I-2A16・21、3A1・2・6・7・12・17・18・22・23 に位置する。短軸 0.78m であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状

第 14 図　6 区上層の耕作関連遺構

に堆積する。

④ **SN04**（図版 29 ～ 31）

SD202 で区画された中世の遺構である。6H-6J9・10・12～15・17～20・23～25、7J3～5・8～10・14･15､6I-6A6～8・11～13・16～18・21～23､7A1～4・6～9・11､に位置する｡SD202 はL字に巡るが、東西や南辺が途切れる等、特に南側の区画範囲が不明である。溝の外端で長軸 10.6m 以上の平面方形基調の区画をなすと推測される。

SD202（図版 30・31、写真図版 44） 6H-6J9・10・12 ～ 15・17・18、7J8・9・14、6I-6A6 ～ 8・11 ～ 13 に位置する。短軸 0.72m であり、深さ 0.14m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。

⑤ **SN05**（図版 29 ～ 32・42）

SD274 で区画された中世の遺構である。6H-6J13～15・18～20・24・25、6I-6A8・11～13・16～18・21～23 に位置する。SD274 はＬ字に巡るが、東西や南辺が途切れる等、西・南側の区画範囲が不明である。溝の外端で長軸 9.7m 以上の平面方形基調の区画をなすと推測される。

SD274（図版 30 ～ 32・42、写真図版 31・44・48） 6H-6J13～15、6I-6A8・11～13・18・23 に位置する。短軸 0.70m であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

⑥ **SN06**（図版 26・27・30 ～ 32・39・41・43・44）

西辺の SD221 と北辺の SD289 で区画された中世の遺構である。6I-5A18～20・23～25、5B16～19・21～24、6A3～5・8～10・13～15・19・20・24・25、6B1～4・6～9・11～14・16～25、7A4・5 に位置する。Ｌ字に巡っているが、東辺と南辺の区画範囲が不明である。溝の外端で長軸 13.0m 以上の平面長方形状の区画をなすと推測される。内部は底面に不規則な凹凸が認められる。

SD221（図版 30・31・39・41・43・44、写真図版 28・30・33 ～ 35） 6I-5A18・23、6A3・4・8・9・13・14・19･24､7A4 に位置する。短軸 1.06m であり､深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し､レンズ状に堆積する。

SD289（図版 27･30 ～ 32、写真図版 45･46･49） 6I-5A18 ～ 20･24･25、5B16 ～ 19･21 ～ 24 に位置する。短軸 0.53m であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

B　7区上層の遺構（図版 51 ～ 77）

1）7区上層の概要

7区で検出された遺構数は、SE 3基、SK 13基、SX 63基、SD 76条、P 53基である。以下、種別ごとに遺構の概要について記すが、SD・Pは主要なものに限り記載する。

井　　戸（SE）

SE121（図版 62･69、写真図版 53） 8I-4J20 に位置する。長軸 1.16m・短軸 1.14m の平面方形であり、深さ 0.78m を測る。断面形はＵ字状を呈し､レンズ状に堆積する。SD168 を切る。覆土はＡで中世と考える。なお、5・6 層からヒシ 2、ミクリ属 1、イネ 1、コブシ 1 が同定されている（第Ⅵ章第 3 節 B)。

SE122（図版 62･69、写真図版 53） 8I-4J15 に位置する。長軸 0.93m・短軸 0.92m の平面円形であり、深さ 0.78m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。SE126 に切られる。覆土はＡで中世と考える。なお、4 層からはウリ類 2 が、8 層からはカラスザンショウ 1 とヒョウタン類 1 が、12 層からはエゴノキ 1 が同定されている（第Ⅵ章第 3 節 B)。

SE126（図版 62･69、写真図版 53） 8I-4J14･15 に位置する。長軸 0.99m・短軸 0.92m の平面円形である。深さ 0.76m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。SE122、SD215 を切る。覆土はＡで中世と考える。なお、5 ～ 7 層からはコナラ属 1、アカメガシワ 1、ウリ類 1 が、8・9 層からはカナムグラ 1、ノブドウ 1、キカラスウリ 1、ウリ類 1 が、10・11 層からはミゾソバ 1 が、12・13 層からはイヌガヤ 1、ノブドウ 1、ウリ類 2 が同定されている（第Ⅵ章第 3 節 B)。

土　　坑（SK）

SK36（図版 52・70、写真図版 53）　6I-9A23、10A3 に位置する。長軸 1.13m・短軸 0.90m の平面楕円形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。SX67、SD27・75 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK54（図版 52・70、写真図版 53）　6H-8J14・19 に位置する。長軸 0.80m・短軸 0.52m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD44 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SK66（図版 52・70、写真図版 54）　6I-8A22・23、9A2・3 に位置する。長軸 3.33m・短軸 1.79m の平面楕円形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は弧状で、レンズ状に堆積する。SX50、SD63 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SK116（図版 66）　8I-7I5 に位置する。長軸 0.73m・短軸 0.38m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。

SK123（図版 62・71、写真図版 54）　8I-3J24・25 に位置する。長軸 0.85m・短軸 0.79m の平面円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。SX222 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SK150（図版 66・68）　8I-8J10・15 に位置する。長軸 0.32m・短軸 0.32m の平面円形である。SD111 を切る。

SK166（図版 66・68・71、写真図版 54）　8I-7J21・22 に位置する。長軸 0.61m・短軸 0.39m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はSD100 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SK193（図版 62・66・71、写真図版 54）　8I-5I24・25、6I4・5 に位置する。長軸 0.82m・短軸 0.66m の平面円形であり、深さ 0.36m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK194（図版 62）　8I-5I9・14 に位置する。長軸 0.56m・短軸 0.44m の平面円形である。その他の詳細については不明。SD168・204 を切り、SK235 に切られる。切り合い関係から中世と考える。

SK200（図版 62・71、写真図版 54）　8I-5I4 に位置する。長軸 0.34m・短軸 0.28m の平面円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SK207（図版 62・71、写真図版 55）　8I-3J25 に位置する。長軸 0.89m・短軸 0.77m の平面円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。SX222 を切る。覆土はＢで古代と考える。

SK212（図版 62・71、写真図版 55）　8I-4J21 に位置する。長軸 0.44m・短軸 0.30m の平面円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は台形状を呈する。

SK235（図版 62・63）　8I-5I9・14 に位置する。長軸 0.45m・短軸 0.35m の平面楕円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は箱状を呈する。SK194、SD168 を切る。切り合い関係から中世と考える。

性格不明遺構（SX）

SX1（図版 60・61、写真図版 55）　8I-2J14・15・19・20・25、3J5、8J-3A1・6 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SX3（図版 60）　8I-1J7 ～ 9・12 ～ 14・16 ～ 24、2J1 ～ 4 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SX4（図版 60・61）　8I-2J4・5・9・10・14・15、8J-2A6・7・11・12・16 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SX8（図版 60・61）　7I-10J7・12・17 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土から古代と推測する。

SX9（図版 60・72、写真図版 55）　7I-10J9・14 に位置する。長軸 1.50m・短軸 0.79m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土から古代と推測する。

SX10（図版 60・72、写真図版 55）　7J-10A11・12 に位置する。長軸 0.97m・短軸 0.71m の平面不整形であり、

深さ 0.23m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土から古代と推測する。

SX11（図版 60・61）　7I-9J17・22 ～ 24、10J2 ～ 9 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土から古代と推測する。

SX12（図版 60・61）　7I-9I25、9J21、10J1・2・6・7 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土から古代と推測する。

SX13（図版 60）　7I-9I20・25、9J16・17・21・22 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土から古代と推測する。

SX14（図版 60）　7I-9J18 ～ 20･23 ～ 25、7J-9A21、10A1 に位置する。長軸･短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SX15（図版 59）　7I-8J25、9J3 ～ 5・8・9、7J-8A21・22、9A1・2 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX16（図版 59・61）　7I-8I5・10・20・25、8J1 ～ 3・6 ～ 9・11 ～ 13・16 ～ 18・21 ～ 23、9I5・10、9J1 ～ 3・6 ～ 8 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SX17（図版 59）　7I-9J7 ～ 9･12･13･17 に位置する。長軸･短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SX18（図版 59・61）　7I-5I、6I、6J、7I、7J、8I、8J に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土から古代と考える。

SX19（図版 59・72）　7I-6I25、7I5 に位置する。長軸 2.13m・短軸 1.20m の平面不整形であり、深さ 0.68m を測る。断面形は漏斗状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX20（図版 56、写真図版 56）　7I-1E8・9・13 ～ 15・18 ～ 20・23 ～ 25、2E3 ～ 5・8 ～ 10・13 ～ 15 に位置する。長軸不明・短軸 5.71m の平面不整形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SX22（図版 56・57・72、写真図版 56）　7I-2F17・18・22・23 に位置する。長軸 2.31m・短軸 1.53m の平面楕円形であり、深さ 0.65m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＢで古代と考える。

SX23（図版 56・72、写真図版 56）　7I-1E1・2・6・7 に位置する。長軸 1.88m・短軸 1.61m の平面不整形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SX24（図版 55）　6I-10C7・8・11 ～ 13・16 ～ 20・22 ～ 25、7I-1C2 ～ 4・9 に位置する。長軸不明・短軸 4.93m の平面不整形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。土師器が出土している。覆土はＡで中世と推測する。

SX26（図版 59）　7I-7J10・15、7J-7A6・11 に位置する。長軸不明・短軸 2.68m の平面不整形である。

SX29（図版 52）　6I-10A2・7 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.21m を測る。断面形は弧状を呈する。SD44 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SX35（図版 55・72、写真図版 56）　6I-9A15・20、9B16・17・21・22 に位置する。長軸 4.99m・短軸 1.23m の平面長方形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD146 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX42（図版 52・73、写真図版 57）　6I-9A23 に位置する。長軸 1.93m・短軸 0.89m の平面不整形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SX67 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX43（図版 52・55・73、写真図版 57）　6I-9A13・14 に位置する。長軸 1.84m・短軸 1.34m の平面不整形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SX45（図版 52・73、写真図版 57）　6I-9A21・22 に位置する。長軸 0.71m・短軸 0.27m の平面楕円形であり、

深さ 0.11m を測る。断面形はＵ字状を呈し、斜位に堆積する。SX65 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX48（図版 52・74、写真図版 57・58） 6H-9J5・10・15、6I-9A1・2・6・7・11・12・16・17 に位置する。長軸 6.40m・短軸 3.62m の平面不整形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。石器・石製品（145）が出土している。SX67 を切り、SD27・38 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX50（図版 52・73、写真図版 58） 6H-8J15・20・25、6I-8A11・12・16・17・21・22、9A1・2 に位置する。長軸不明・短軸 3.42m の平面不整形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SK66、SD27 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX51（図版 52・54、写真図版 58） 6H-7I19・20・24・25、7J21・22、8I4・5・10・15、8J1・2・6・11・16・17・21 ～ 23、9J2・3・7 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD46 を切り、P52 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SX53（図版 52・70） 6H-8J18 に位置する。長軸 0.54m・短軸 0.28m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD49 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SX55（図版 52・75、写真図版 58・59） 6H-8J14・15・19・20・24・25 に位置する。長軸 3.02m・短軸 1.18m の平面楕円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状で、単一層である。SD38 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SX56（図版 52・76） 6H-8J25 に位置する。長軸 0.69m・短軸 0.62m の平面円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD38 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX57（図版 55・75、写真図版 59） 6I-9B15・19・20・25、9C16・21、10B5、10C1 に位置する。長軸不明・短軸 2.60m の平面不整形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土はＡで中世と考える。

SX59（図版 54・55・76、写真図版 59） 6I-9B1 に位置する。長軸 1.10m・短軸 0.50m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。P58 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX61（図版 52・76、写真図版 59） 6I-8A23 に位置する。長軸 0.60m・短軸 0.54m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD63 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX65（図版 52） 6I-9A16・17・21・22 に位置する。長軸 1.84m・短軸 1.58m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SX45、SD27 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX67（図版 52・54・55、写真図版 59・60・64） 6I-9A7・8・12・13・17 ～ 19・22 ～ 25、10A3 ～ 5・10、10B1・6 に位置する。長軸不明・短軸 2.80m の平面不整形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文時代の石鏃（146）が出土している。SK36、SX42・48、SD27・63・146 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX81（図版 68・76、写真図版 60） 8J-9A16・17・21・22 に位置する。長軸 1.60m・短軸 1.05m の平面不整形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD136 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SX90（図版 66・68・76、写真図版 60） 8J-8A21 に位置する。長軸不明・短軸 1.00m の平面楕円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。土師器（73）が出土している。SD86 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SX99（図版 66・68・76、写真図版 60） 8I-8J9・14 に位置する。長軸 1.70m・短軸 0.52m の平面不整形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＡで中世と考える。

SX101（図版 66・68・77） 8I-8J11 ～ 13 に位置する。長軸不明・短軸 0.60m の平面楕円形であり、深さ 0.53m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はＡで中世と推測する。

SX124（図版 62・77、写真図版 60） 8I-4J2・3 に位置する。長軸 0.62m・短軸 0.59m の平面円形であり、深さ

0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。土師器（85）が出土している。覆土はＡで中世と考える。

SX127（図版 66・68） 8J-9A11 に位置する。短軸 0.60m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。須恵器が出土している。覆土はＡで中世と考える。

SX129（図版 66・68） 8J-9A6・11 に位置する。短軸 0.50m の平面円形である。その他の詳細については不明。土師器が出土している。覆土はＡで中世と考える。

SX130（図版 66・68・76、写真図版 60） 8I-9J20・25、8J-9A16・21 に位置する。長軸 0.73m・短軸 0.61m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。SD136 に切られる。覆土はＡで中世と考える。

SX174（図版 66・68） 8I-8J18・19 に位置する。長軸 0.45m・短軸 0.30m の平面円形であり、深さ 0.34m を測る。断面形は弧状を呈し、炭層が厚く堆積していた。土師器（86）が出土している。SD86 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX176（図版 62・65・77、写真図版 60・61） 8I-5J17・22・23 に位置する。長軸 1.20m・短軸 0.74m の平面不整形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は台形状を呈し、斜位に堆積する。石器・石製品（148）が出土している。SX189 を切る。覆土はＡで中世と考える。

SX179（図版 62・77、写真図版 61） 8J-5J23・24、6J3・4 に位置する。長軸 0.86m・短軸 0.74m の平面円形であり、深さ 0.07m を切る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と考える。

SX181（図版 66） 8I-7J4・5・9 に位置する。短軸 0.89m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。SD182 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX189（図版 62・65・77） 8I-5J7・11 ～ 13・16 ～ 18 に位置する。長軸 4.34m・短軸 2.58m の平面不整形であり、深さ 0.38m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。土師器（102・103）が出土している。覆土はＡで中世と考える。SN10 とつながる可能性もある。なお、植物珪酸体分析では１・２層から密度 700g/ 個のイネが検出されている（第Ⅵ章第１節Ｃ）。

SX195（図版 62・77、写真図版 61） 8I-4J11 に位置する。長軸不明・短軸 0.67m の平面不整形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。SD180 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX198（図版 62） 8I-3J21・22、4J1・2 に位置する。長軸 1.45m・短軸 1.08m の平面長方形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は台形状を呈する。土師器（106）が出土している。切り合い等から中世の遺構と考える。

SX222（図版 62） 8I-3J13・14・18 ～ 20・24・25、4J5・10、8J-3A21、4A1・6 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形である。その他の詳細については不明。SK123・207、SD2 に切られる。切り合い関係から古代の遺構と考える。

SX233（図版 66・68） 8J-9A11・12 に位置する。長軸不明・短軸 0.30m の平面方形である。その他の詳細については不明。SD84・136 に切られる。覆土はＢで古代と考える。

SX234（図版 66） 8I-5I24、6I4・5・10、6J6・11・12・17・18・22・23、7J2～4・8・9・14・19・20・25、8J5 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。土師器（107）が出土している。SD111・118・182 に切られる。

SX518（図版 55） 6I-9C17・21・22 に位置する。短軸 0.53m である。その他の詳細については不明。

SX522（図版 62・65） 8I-3I15・20・25、3J11・16・17・21 ～ 23、4I5、4J1・2 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形である。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はＢで古代と推測する。

溝（SD）

７区上層で確認された溝は計 76 条である。出土遺物や覆土から、大半は古代と中世の溝と考えられる。以下では、古代と中世に分けたうえで、主要な溝について記載する。なお、耕作関連遺構（SN）に伴う溝について

はそちらの項で記載する。

古　代

古代の溝は７区の北西域にほぼ限定される。SD63 と SD146 が古代の溝と考えられるが希薄な状況である。

中　世

中世の溝は７区北西端域と７区南東域に集中して認められる。北西端域ではいずれも北西－南東方向に走る SD27・SD28・SD38・SD44・SD46・SD47・SD49・SD64 が群在する。これらの一部は６区南西端域にある SD188・SD190・SD203 につながることが推測される他、７区南東域の SD100・SD111 などともつながる可能性がある。

７区南東域でも中世の溝が集中して確認されている。とりわけ、SD111 と SD168 は幅が 1m を超える比較的幅の広い溝で、前者が北西－南東方向、後者が北東－南西方向と、直交する位置関係にある。また、SD111 の南側には SD100 や SD110 といった少し幅の狭い溝が SD111 と並行してのびている。

耕作関連遺構（SN）

７区上層では６区同様、溝に囲まれた方形基調の窪地遺構が６か所で確認されており（第 16 図）、内部は凹凸となる場合が多い。いずれも北西－南東・北東－南西方向の軸で、６区で検出された同種遺構と同じ軸といえる。いずれも溝の覆土から中世の遺構と考える。以下、耕作関連遺構（SN）としてそれぞれの区画ごとに記載する。

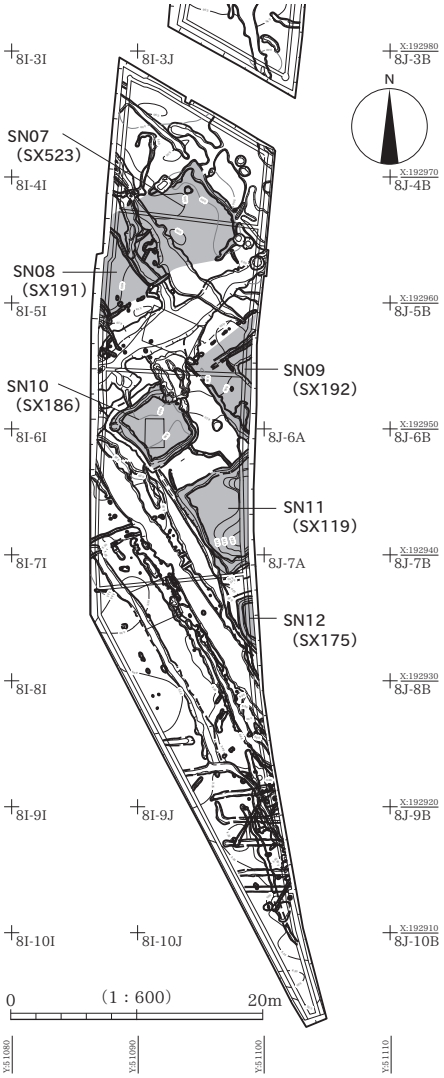
① SN07（SX523）（図版 62・64・65、写真図版 68）

SD213・220・223 で区画された中世の遺構である。8I-3J22・23、4I5・9・10・14・15・20、4J1～4・6～23 に位置する。南東部と北西部で溝が一部途切れるが、溝の外端で短軸 7.4m、長軸 9.3m の平面長方形状の区画をなし、内部は底面に不規則な凹凸が多数認められる。また、本区画の北西側にある SD216 も同種遺構の周溝の可能性がある。なお、本遺構内からは動物の足跡が多数検出されている（第 15 図）。概ね本遺構内に限られていることから、本遺構に伴うものと考えられる。

SD213（図版 62・64）　8I-4J14・19 に位置する。長軸 1.22m・短軸 0.15m であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SD220（図版 62・64）　8I-3J22・23、4J1・2 に位置する。短軸 0.25m であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SX198 に切られる。

第 15 図　７区上層で確認された動物の足跡



第 16 図　７区上層の耕作関連遺構

SD223（図版 62・64・65、写真図版 68）　8I-3J23、4J3・4・9・10・15 に位置する。短軸 0.40m であり、深さ 0.13m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。

② SN08（SX191）（図版 62・65）

SD199 で区画された中世の遺構である。8I-4I14・15・19・20・24・25、4J16・21、5I4 に位置する。南東部で溝が一部途切れる他、北西側は調査区外のため不明である。溝の外端で短軸 4.0m、長軸 5.8m 以上の平面長方形状の区画をなすと推測される。内部底面は比較的平坦な検出状況である。なお、内部からは古代の土師器（104・105）が出土している。

SD199（図版 62）　8I-5I4・5 に位置する。短軸 0.24m であり、深さ 0.06m を測る。その他の詳細については不明である。

③ SN09（SX192）（図版 62・63、写真図版 66）

SD120 で区画された中世の遺構である。8I-5J9・10・12～15・18～20・24・25、6J4・5 に位置する。北東部とと南東部は調査区外のため形態や規模は不明であるが、溝の外端で長軸 6.8m 以上の平面長方形状の区画をなすと推測される。内部は底面に不規則な凹凸が認められる。

SD120（図版 62・63、写真図版 66）　8I-5J12・13・18・19・24・25、6J4・5 に位置する。短軸 0.36m であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

④ SN10（SX186）（図版 62・65・66、写真図版 61）

SD187 で区画された中世の遺構である。8I-5I20・24・25、5J16・17・21～23、6I4・5・10、6J1～3・6・7 に位置する。北東部は SX189 と重なる。溝の外端で短軸 5.2m、長軸 6.0m の平面方形状の区画をなし、内部は底面に不規則な凹凸が認められる。また、SD187 の南東隅は SD182 とつながる可能性がある。内部からは古代の土師器（96～99）や黒色土器（100・101）が出土している。なお、植物珪酸体分析では内部の 1・2 層から密度 1000g/ 個のイネが検出されている他、花粉分析でもイネ科が優勢となっている（第Ⅵ章第 1 節 C・第 2 節 C）。

SD187（図版 62・65、写真図版 61）　8I-5I20・24・25、5J16・17・21～23、6I4・5・10、6J1～3・6・7 に位置する。短軸 0.44m であり、深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

⑤ SN11（SX119）（図版 62・66）

SD183 で区画された中世の遺構である。8I-6J5・8～10・12～15・17～20・23～25、7J4・5 に位置する。北東側は調査区外へのびるため不明である。溝の外端で長軸 7.8m 以上の平面長方形状の区画をなすと推測される。内部は底面に不規則な凹凸が認められる。また、SD183 の南東側は SD182 と重複している。区画内からは、古代の土師器（74～82）、黒色土器（83）、須恵器（84）が出土している。なお、植物珪酸体分析では内部の 1 層から密度 4,200g/ 個のイネが、2 層からは密度 700g/ 個のイネが検出されている。花粉分析でもイネ科が優勢となっている他、1 層から鞭虫卵が確認されている（第Ⅵ章第 1 節 C・第 2 節 C）。

SD183（図版 66）　8I-6J5・8～10・12・13・17・18・23～25、7J4・5 に位置する。短軸 0.21m であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。古代の須恵器（84）の他、土師器片も出土している。

⑥ SN12（SX175）（図版 66～68）

SD184 で区画された中世の遺構である。8I-7J9・10・14・15・20 に位置する。東側は調査区外へのびるため不明であるが、南西隅はやや丸く曲がっている。溝の外端で長軸 4.9m 以上となる。内部は底面に不規則な凹凸が認められる。また、SD184 の南西隅は SD182 とつながっており、SD182 を介して先の SN10 と SN11 の溝とがつながる可能性もある。なお、SD182 の底面の標高は、SN12 の場所から SN11、そして SN10 に向かって低くなっていく。区画内からは、古代の土師器（87～92）、黒色土器（93～95）、石器・石製品（147）が出土している。

SD184（図版 66・67）　8I-7J9・10・14・15・20 に位置する。短軸 0.44m であり、深さ 0.36m を測る。断面

形は台形状を呈し、水平に堆積する。古代の黒色土器（95）が出土している。

第４節　下 層 の 遺 構

A　遺 構 の 概 要

1）遺 構 の 概 要

下層の遺構は６・７区で確認されており、さらに６区では下層上面・下層中面・下層下面の３面でそれぞれ遺構が検出されている。ただし、下層の遺構が確認された範囲は各調査区の一部に限られた。そのため、下層の遺構平面図については遺構が検出された範囲を中心とする一部範囲に限り作成したのみで、上層の遺構平面図に比べて狭い範囲となっている。また、遺構番号については前節で記載した通り、5･6 区と７区とでそれぞれ上層・下層さらには遺構の種別に関わらず通し番号を付している。

６区下層全体で検出された遺構数は、掘立柱建物（SB）８棟、竪穴建物（SI）２棟、土坑（SK）165 基、性格不明遺構（SX）28 基、溝（SD）13 条、炭化物集中遺構（SC）48 基、焼土集中遺構（F）60 基、小土坑（P）258 基である。そのうち下層上面で検出された遺構数は、SB1 棟、SI2 棟、SK94 基、SX16 基、SD11 条、SC8 基、F10 基、P74 基、下層中面で検出された遺構数は、SK25 基、SX10 基、SD2 条、SC13 基、F14 基、P60 基、下層下面で検出された遺構数は、SB7 棟、SK46 基、SX2 基、SC27 基、F36 基、P124 基である。また、７区下層全体で検出された遺構数は、土坑（SK）１基、性格不明遺構（SX）７基、小土坑（P）２基である。

下層については、６区下層上面、６区下層中面、６区下層下面、７区下層で分け、６区下層上面、６区下層中面、６区下層下面、７区下層の順に記載する。さらにそれぞれで、掘立柱建物（SB）、竪穴建物（SI）、土坑（SK）、性格不明遺構（SX）、溝（SD）、炭化物集中遺構（SC）、焼土集中遺構（F）の順に記す。なお、掘立柱建物を構成する以外の小土坑については、主要なものに限り記述する。

B　６区下層上面の遺構（図版 78 ～ 94）

1）６区下層上面の概要

６区下層上面で検出された遺構数は、SB １棟、SI ２棟、SK 94 基、SX 16 基、SD 11 条、SC ８基、F 10 基、P 74 基である。竪穴建物や掘立柱建物等、溝を除く遺構の分布は調査区北西域に集中する。

以下、種別ごとに遺構の概要について記す。

掘 立 柱 建 物（SB）

SB1215（図版 79・84、写真　図版 72・73）　6I-1B に位置する。P619・665・675・694・698 で構成されるが、母屋を構成する南西のピットについては確認できなかった。主軸は N-87° -E である。平面長方形の母屋で、両端に突出する柱穴をもつ亀甲形の建物と推測される。桁行 1.82m、梁行 2.31m で、身舎面積 4.20m^2 を測る。柱穴は円形もしくは楕円形の平面で、上端長軸で 0.24 ～ 0.31m である。

竪　穴　建　物（SI）

SI93（図版 79・85、写真図版 69・70）　5I-10A24・25、10B21、6I-1A5、1B1 に位置する。北側は調査区外へ広がるため全体の規模等については不明であるが、平面は不整な円形を呈し、壁際には壁溝が存在する。遺構確認面において、壁溝外側上端で短軸長 3.00m、深さ 0.14m を測る。F295 は本建物に伴う炉跡と考えられる。なお、P693 は本建物に伴う主柱穴の可能性がある。

縄文土器（170 ～ 174）や石器・石製品（221・222）の他、トゲウオ科の骨片が出土している（第Ⅵ章第４節）。また、アカメガワシの種子が出土している。

SI262（図版 79・85・86、写真図版 69・70・71）　6I-2A2 ～ 4・7 ～ 9・12 ～ 14 に位置する。西側で一部建物ラインを検出できていないところもあるが、壁際に壁溝を巡らすと考えられる。壁溝外側の上端で、長軸

3.78m、短軸 3.45m の平面円形プランの竪穴建物である。遺構確認面から床面までの深度は 0.36m を測る。覆土はレンズ状の堆積である。SI262-P1 ～ P3 は本建物に伴う主柱穴と考えられ、4 本柱の建物と推測されるが、南西側の 1 本は検出されていない。床面の一部は噴砂によって撹乱を受けている。縄文土器（175・176）が出土している。

SI262-P1（図版 79・86、写真図版 71） 6I-2A8・9 に位置する。長軸 0.31m・短軸 0.24m 平面楕円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形はＵ字状を呈し、レンズ状に堆積する。

SI262-P2（図版 79・86、写真図版 71） 6I-2A9 に位置する。長軸 0.32m・短軸 0.32m の平面円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形はＵ字状を呈し、レンズ状に堆積する。

262-P3（図版 79・86、写真図版 71） 6I-2A7・8 に位置する。長軸 0.39m・短軸 0.28m の平面楕円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形はＵ字状を呈し、単一層である。

土　　坑（SK）

SK152（図版 80・86、写真図版 73） 6I-1B23、2B3 に位置する。長軸 0.97m・短軸 0.81m の平面円形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈する。縄文土器（177）が出土している。

SK196（図版 35・36・45、写真図版 73） 6I-9F21 に位置する。長軸不明・短軸 1.27m の平面楕円形であり、深さ 0.36m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。

SK205（図版 80・86、写真図版 73） 6I-2B8･9･13･14 に位置する。長軸 0.48m･短軸 0.42m の平面円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK212（図版 79・87、写真図版 74） 6H-2J20、6I-2A16 に位置する。長軸 1.52m・短軸 0.73m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK700・701 に切られる。

SK253（図版 80・87、写真図版 74） 6I-1B14・19 に位置する。長軸 0.93m・短軸 0.72m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈する。

SK257（図版 79・87、写真図版 74） 6I-2A18・23 に位置する。長軸 0.81m・短軸 0.78m の平面円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。内面や破面に漆が付着していた縄文土器の壺（178）が正位の状態で出土している。

SK326（図版 79・80・87） 6I-2B8 に位置する。長軸 0.28m・短軸 0.25m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK327（図版 79・80・87、写真図版 74） 6I-2B8 に位置する。長軸 0.33m・短軸 0.26m の平面円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK333（図版 80・87、写真図版 75） 6I-2B4・9 に位置する。長軸 0.77m・短軸 0.63m の平面楕円形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

SK353（図版 80・87、写真図版 75） 6I-3B8 に位置する。長軸 1.56m・短軸 0.75m の平面楕円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK359（図版 79・87、写真図版 75） 6I-2A21 に位置する。長軸 0.78m・短軸 0.73m の平面円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK364（図版 79・87、写真図版 75） 6I-2A21・22 に位置する。長軸 0.52m・短軸 0.45m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK370（図版 79・88、写真図版 75） 6I-2A16 に位置する。長軸 0.51m・短軸 0.48m の平面方形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK371（図版 79・88、写真図版 75） 6I-2A16 に位置する。長軸 0.48m・短軸 0.46m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK382（図版 79・88、写真図版 76） 6I-2A12・13・17・18 に位置する。長軸 0.82m・短軸 0.57m の平面楕円

形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK383（図版 79・88、写真図版 76） 6I-2A13・14 に位置する。長軸 0.82m・短軸 0.56m の平面楕円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（179）が出土している。SK407 を切る。

SK395（図版 79・87・88、写真図版 76） 6I-2A13・18 に位置する。長軸 1.08m・短軸 1.00m の平面楕円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK396（図版 79・87、写真図版 76） 6I-2A23、3A3 に位置する。長軸 0.48m・短軸 0.44m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK403（図版 79・88、写真図版 77） 6I-2A17・18 に位置する。長軸 0.73m・短軸 0.61m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK406（図版 79・88、写真図版 77） 6I-1B11・16 に位置する。長軸 0.53m・短軸 0.36m の平面楕円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（180）が出土している。

SK407（図版 79・88、写真図版 77） 6I-2A13・14・18・19 に位置する。長軸 1.12m・短軸 0.56m の平面楕円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。SK383 に切られる。

SK410（図版 79・88、写真図版 77） 6I-1B11・16 に位置する。長軸 0.60m・短軸 0.44m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK413（図版 79・87、写真図版 77・78） 6I-2A23 に位置する。長軸 0.71m・短軸 0.41m の平面楕円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK417（図版 79・88、写真図版 78） 6I-2A12 に位置する。長軸 0.39m・短軸 0.35m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK418（図版 79・88、写真図版 78） 6I-2A12 に位置する。長軸 0.62m・短軸 0.44m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK422 に切られる。

SK422（図版 79・88、写真図版 78） 6I-2A12 に位置する。長軸 0.55m・短軸 0.47m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK418 を切る。

SK437（図版 79・88、写真図版 78） 6I-2A12・13 に位置する。長軸 0.41m・短軸 0.39m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK439（図版 79・88、写真図版 79） 6I-2A13 に位置する。長軸 0.92m・短軸 0.85m の平面楕円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK604（図版 79・89、写真図版 79） 6I-2A17 に位置する。長軸 0.40m・短軸 0.35m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK611（図版 79・87、写真図版 79） 6I-2A18 に位置する。長軸 0.33m・短軸 0.32m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK612（図版 79・89、写真図版 79） 6I-2A12・13 に位置する。長軸 0.44m・短軸 0.43m の平面方形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SI262 に切られる。

SK617（図版 79・89、写真図版 80） 6I-2A16・17 に位置する。長軸 0.36m・短軸 0.32m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK626（図版 79・89、写真図版 80） 6I-1A19 に位置する。長軸 0.71m・短軸 0.49m の平面楕円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。1 層から骨片が微量出土している。

SK627（図版 80・89、写真図版 80） 6I-1B18・23 に位置する。長軸 0.56m・短軸 0.46m の平面方形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK628 を切る。

SK628（図版 80・89、写真図版 80） 6I-1B18・19・23・24 に位置する。長軸 0.79m・短軸 0.70m の平面円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK627 に切られる。

SK629（図版 79・89、写真図版 80）　6I-1B12 に位置する。長軸 0.33m・短軸 0.32m の平面円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK632（図版 79・89、写真図版 80・81）　5I-10B21、6I-1B1 に位置する。長軸 0.76m・短軸 0.55m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（181）が出土している。SI93 を切る。

SK634（図版 79・89、写真図版 81）　6I-2A17・22 に位置する。長軸 0.56m・短軸 0.45m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK635（図版 79・89、写真図版 81）　6H-2J20 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.35m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK637（図版 79・89、写真図版 81）　6H-2J20・25、6I-2A16・21 に位置する。長軸 0.52m・短軸 0.32m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK638（図版 79・89、写真図版 81・82）　6I-2B2 に位置する。長軸 0.50m・短軸 0.38m の平面円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK641（図版 79・89、写真図版 82）　6I-2A18・19・23・24 に位置する。長軸 0.60m・短軸 0.33m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK642（図版 79・89、写真図版 82）　6I-2A18・19 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.35m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK644（図版 79・89、写真図版 82）　6I-2B7 に位置する。長軸 0.46m・短軸 0.39m の平面方形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。P728 に切られる。

SK645（図版 79・89、写真図版 82）　6I-2B1・2 に位置する。長軸 0.56m・短軸 0.48m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

SK646（図版 79・90、写真図版 83）　6I-2B1 に位置する。長軸 0.52m・短軸 0.46m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK647 を切る。

SK647（図版 79・90、写真図版 83）　6I-2B1・6 に位置する。長軸 0.86m・短軸 0.67m の平面楕円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。種子が出土している。SK646 に切られる。

SK653（図版 79・90、写真図版 83）　6I-2B1 に位置する。長軸 0.49m・短軸 0.38m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK656（図版 79・90、写真図版 83）　6I-1A14・15 に位置する。長軸 0.67m・短軸 0.61m の平面方形であり、深さ 0.10m を測る。断面形はＶ字状を呈し、単一層である。骨片が微量出土している。

SK657（図版 79・90、写真図版 83）　6I-1A5 に位置する。長軸 0.67m・短軸 0.57m の平面方形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK658（図版 79・90、写真図版 84）　6I-3A2 に位置する。長軸 0.50m・短軸 0.45m の平面円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

SK659（図版 79・90、写真図版 84）　6I-3A2 に位置する。長軸 0.42m・短軸 0.37m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

SK660（図版 79・90、写真図版 84）　6I-3A2・3 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.29m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK664（図版 79・90、写真図版 84）　6I-1B7 に位置する。長軸 0.35m・短軸 0.30m の平面方形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK666（図版 80・90、写真図版 85）　6I-1B23 に位置する。長軸 0.41m・短軸 0.34m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK668（図版 80・90、写真図版 85）　6I-1B23・24 に位置する。長軸 0.35m・短軸 0.34m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。P667 に切られる。

SK669（図版 80・90、写真図版 85）　6I-1B24 に位置する。長軸 0.40m・短軸 0.36m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器が出土している。

SK671（図版 80・90、写真図版 85）　6I-2B4 に位置する。長軸 0.43m・短軸 0.32m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK673（図版 79・90・91、写真図版 86・89）　6I-1B6 に位置する。長軸 0.50m・短軸 0.38m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SK703、SC191 を切る。

SK676（図版 79・84、写真図版 72）　6I-1B21・22 に位置する。長軸 0.47m・短軸 0.40m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。P675 に切られる。

SK677（図版 79・90、写真図版 86）　6I-1B21・22 に位置する。長軸 0.30m・短軸 0.30m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK678（図版 79・90、写真図版 86）　6I-1B22 に位置する。長軸 0.55m・短軸 0.33m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK680（図版 79・80・90、写真図版 86）　6I-1B22、2B2 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.36m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK681（図版 79・80・91、写真図版 86）　6I-1B22・23、2B2・3 に位置する。長軸 0.36m・短軸 0.32m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK682 を切る。

SK682（図版 79・80・91、写真図版 86）　6I-1B22 に位置する。長軸 0.53m・短軸 0.42m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK681 に切られる。

SK683（図版 79･80･91､写真図版 87）　6I-1B23､2B3 に位置する。長軸 0.40m･短軸 0.28m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK685（図版 80・91、写真図版 87）　6I-1B24、2B4 に位置する。長軸 0.31m・短軸 0.26m の平面円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK686（図版 80・91、写真図版 87）　6I-1B24 に位置する。長軸 0.33m・短軸 0.31m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。SK689 を切る。

SK689（図版 80・91、写真図版 87）　6I-1B24 に位置する。長軸 0.45m・短軸 0.37m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK686 に切られる。

SK690（図版 80・91、写真図版 87）　6I-1B19 に位置する。長軸 0.32m・短軸 0.25m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK691（図版 79・91、写真図版 88）　6I-1B1 に位置する。長軸 0.32m・短軸 0.29m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

SK695（図版 79・80・91、写真図版 88）　6I-1B23 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.29m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK697（図版 79・91、写真図版 88）　6I-1B22 に位置する。長軸 0.26m・短軸 0.22m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK700（図版 79・91、写真図版 88）　6H-2J20 に位置する。長軸 0.40m・短軸 0.31m の平面方形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK212 を切る。

SK701（図版 79・91、写真図版 88・89）　6H-2J20 に位置する。長軸 0.31m・短軸 0.29m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK212 を切る。

SK702（図版 79･80･91、写真図版 89）　6I-1B12･17 に位置する。長軸 0.30m･短軸 0.26m の平面円形であり、

深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK703（図版 79・91、写真図版 89） 6I-1B6・7 に位置する。長軸 0.32m・短軸 0.24m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SC191 を切り、SK673 に切られる。

SK705（図版 80・91、写真図版 89） 6I-1B19 に位置する。長軸 0.45m・短軸 0.42m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

SK710（図版 79・91、写真図版 89） 6I-1B7 に位置する。長軸 0.43m・短軸 0.30m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SC191 を切る。

SK711（図版 79・91、写真図版 89） 6I-1B7 に位置する。長軸 0.37m・短軸 0.28m の平面方形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SC191 を切る。

SK712（図版 79・80・91、写真図版 90） 6I-1B7 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.32m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SC191 を切る。

SK719（図版 79・80・91、写真図版 90） 6I-2B8 に位置する。長軸 0.24m・短軸 0.22m の平面円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK724（図版 80・92、写真図版 90） 6I-2B3・4 に位置する。長軸 0.36m・短軸 0.31m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。P725 を切る。

SK726（図版 79・92、写真図版 90） 6I-2A22 に位置する。長軸 0.67m・短軸 0.50m の平面楕円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK727（図版 79・92、写真図版 91） 6I-2A22、3A2 に位置する。長軸 0.44m・短軸 0.40m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK731（図版 79・80・92、写真図版 91） 6I-2B8 に位置する。長軸 0.30m・短軸 0.28m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK734（図版 80・82） 6I-4B9･14 に位置する。長軸 0.45m・短軸 0.39m の平面円形であり、深さ 0.34m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。SD259 を切る。

SK741（図版 79・81・92、写真図版 91） 6H-4J4 に位置する。長軸 0.60m・短軸 0.51m の平面方形であり、深さ 0.18m を測る。断面形はＶ字状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK788（図版 79・92、写真図版 91） 6I-1A24・25、2A4・5 に位置する。長軸 0.49m・短軸 0.46m の平面円形であり、深さ 0.55m を測る。断面形は袋状を呈し、ブロック状に堆積する。

SK796（図版 79・92、写真図版 92） 6I-1A24 に位置する。長軸 0.44m・短軸 0.40m の平面円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK854（図版 79・92、写真図版 92） 6I-2A19 に位置する。長軸 0.41m・短軸 0.40m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SC879 を切る。

SK861（図版 79・80・92、写真図版 92） 6I-2B2 に位置する。長軸 0.60m・短軸 0.57m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK863（図版 79・92、写真図版 92） 6I-2B1 に位置する。長軸 0.56m・短軸 0.51m の平面円形であり、深さ 0.25m を測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（182）が出土している。

SK913（図版 80・92、写真図版 93） 6I-2B23・24 に位置する。長軸 0.59m・短軸 0.56m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

性格不明遺構（SX）

SX211（図版 79・80・93、写真図版 93） 6I-2B13 に位置する。長軸 0.72m・短軸 0.53m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。

SX235（図版 80・87、写真図版 75） 6I-3B8・13 に位置する。長軸 0.90m・短軸 0.67m の平面楕円形であり、

深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SX338（図版 79・93、写真図版 93）　6I-2B22・23、3B2・3 に位置する。長軸 2.13m・短軸 1.45m の平面楕円形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SX414（図版 79・93、写真図版 93）　6I-2A7・12 に位置する。長軸 0.65m・短軸 0.60m の平面方形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SX416 を切る。

SX416（図版 79・93、写真図版 94）　6I-2A6・7 に位置する。長軸 1.28m・短軸 0.90m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（183・184）が出土している。SX414、SD600 に切られる。

SX601（図版 79・83、写真図版 94）　6I-1A17・18・21 ～ 23、2A1・2 に位置する。長軸 6.00m・短軸不明であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。種子が出土している。

SX623（図版 80・93、写真図版 94）　6I-2B4・9・10・15 に位置する。長軸不明・短軸 0.96m の平面不整形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SX624（図版 80・93、写真図版 95）　6I-2B4・5・10 に位置する。長軸 1.13m・短軸 0.33m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SX733（図版 80）　6I-2B、2C、3B、3C、4B、4C に位置する。深さ 0.26m を測る。その他の詳細については不明。縄文土器（185）、石器・石製品（223）が出土している。SX752、SD290 に切られる。

SX736（図版 82・93、写真図版 95）　6I-4B24・25、5B4 に位置する。長軸 1.42m・短軸 1.32m の平面不整形であり、深さ 0.31m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD593 に切られる。

SX740（図版 81・93、写真図版 95）　6H-4I14 に位置する。長軸 1.32m・短軸 0.90m の平面楕円形であり、深さ 0.32m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。

SX742（図版 81・83、写真図版 95）　6H-4I18・23・24、5I3 ～ 5・8 ～ 10・15・20、5J6・11・12・16・17・21・22 に位置する。長軸不明・短軸 2.45m の平面不整形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

SX747（図版 79）　6H-2J15 に位置する。その他の詳細については不明。SD600 に切られる。

SX752（図版 80・82）　6I-3C、3D、4C、5C に位置する。長軸不明・短軸 7.52m であり、深さ 0.18m を測る。その他の詳細については不明。SX733、SD259 を切り、SD290 に切られる。

SX773（図版 79）　6I-1A15・20 に位置する。長軸 0.39m・短軸 0.31m の平面円形であり、深さ 0.05m を測る。その他の詳細については不明。

SX847（図版 79・92・94、写真図版 95・96）　6I-2A19 に位置する。長軸 0.96m・短軸 0.87m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SC879 を切る。

溝（SD）

溝は 11 条確認されており、多くは北西－南東方向の軸をもつ。調査区北端域に存在する SD250 や SD290 は自然流路と考えられ、6 区下層中面の段階から存在する。また、竪穴建物の南北を流れる SD259 や SD593 も、下層中面の SD791 や SD867 と近い位置関係にあることから、下層中面の段階から存在する溝と考えられる。

SD252（図版 80・83）　6I-1C23 ～ 25、2C4・5・9・10、2D1・2・6 ～ 9・11 ～ 15・17 ～ 19・23・24 に位置する。北側は調査区外へ広がるため規模等は不明であるが、深さ 0.39m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。南に隣接して同じ軸とみられる SD290 が位置する。両遺構とも下層中面の段階から認められ、流路として機能していた可能性が考えられる。

SD259（図版 79・82・85・88、写真図版 96・99）　6I-1A、1B、2A、2B、3A、3B、4A、4B、4C、5C に位置する。短軸 5.57m であり、深さ 0.31m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。縄文土器（186 ～ 190）の他、種実が出土している。SD401 を切り、SI262、SK734、SX752、SD593 に切られる。

SD290（図版 79・80・83、写真図版 96） 5I-10B、6I-1B、1C、2B、2C、2D、3C、3D に位置する。短軸 6.92m であり、深さ 0.54m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。北に隣接する SD252 とともに下層中面の段階から存在する溝である。縄文土器（191 ～ 194）が出土している。SX733・752 を切る。断面で噴砂が認められる。

SD304（図版 79・81・82、写真図版 96） 6H-3J7・8・12・13・18・19・23・24、4J3 ～ 5・8 ～ 10・13 ～ 15・19・20・24・25、5J5、6I-4A6・11・16・21、5A1 に位置する。短軸 4.78m であり、深さ 0.25m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SD305 を切る。

SD305（図版 79・82、写真図版 96） 6H-3J12・17・18・22・23、4J2・3・8・13 に位置する。短軸 1.53m であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD322 を切り、SD304 に切られる。

SD322（図版 79・82、写真図版 96） 6H-3J11・12・16・17・22、4J2・3 に位置する。短軸 0.50m であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD738 を切り、SD305 に切られる。

SD401（図版 79・82・85、写真図版 96） 6I-1A20・24・25、2A4・5・9・14・15・19・20 に位置する。深さ 0.25m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器片が出土している。SI262、SD259 に切られる。

SD593（図版 79・82・83、写真図版 96・97） 6H-2J・3J、6I-3A・4A・4B・4C・5B・5C に位置する。短軸 4.12m であり、深さ 0.47m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（195・196）が出土している。SX736、SD259 を切り、SD600 に切られる。

SD600（図版 79・83・93、写真図版 94・97） 6H-2J14・15・19・20、6I-1A8・9・13・14・18・19・22 ～ 24、2A1 ～ 4・6・7・11・16 に位置する。短軸 1.90m であり、深さ 0.27m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（197 ～ 200）の他、種子が出土している。SX416・747、SD593 を切る。

SD738（図版 79・81・83、写真図版 97） 6H-3J21・22、4I5、4J1・2・6・7・12・13・17・18・23 に位置する。短軸 1.25m であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD322 に切られる。

SD739（図版 81・83、写真図版 97） 6H-4I9・14・15・20、4J16・21 に位置する。短軸 1.00m であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

炭化物集中遺構（SC）

本遺跡の 6 区下層では炭化物が集中して分布する範囲が存在したため、その範囲を炭化物集中遺構（SC）として報告する。なお、焼土が伴うものについては焼土集中遺構（F）として別に報告する。

SC174（図版 79・80） 5I-10B21、6I-1B1 ～ 3・7 ～ 9・12 ～ 14・16 ～ 19・21 ～ 23 に位置する。平面形は不整形である。その他の詳細については不明。縄文土器（201 ～ 206）の他、種子が出土している。

SC186（図版 80・86、写真図版 97） 6I-2B3・8 に位置する。長軸 0.52m・短軸 0.50m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SC191（図版 79） 6I-1B6・7・11・12 に位置する。長軸 3.88m・短軸 2.12m の平面不整形であり、深さ 0.16m を測る。その他の詳細については不明。ヒシなどの種子や微量の骨片が出土している。SK673・703・710・711・712 に切られる。

SC243（図版 79・94、写真図版 97・98） 6I-2B16・17 に位置する。長軸 1.28m・短軸 0.92m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。種子が出土している。

SC271（図版 80） 6I-1B9・14・15・20 に位置する。長軸不明・短軸 1.28m の平面不整形である。その他の詳細については不明。石器・石製品（224）の他、縄文土器片も出土している。

SC687（図版 80・94、写真図版 98） 6I-1B14 に位置する。長軸 1.03m・短軸 0.53m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形はＶ字状を呈し、単一層である。縄文土器（207）が出土している。

SC688（図版 80・94、写真図版 98） 6I-1B14・15 に位置する。長軸 0.68m・短軸 0.24m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SC879（図版 79・94）　6I-2A19・20・24・25 に位置する。長軸 2.58m・短軸 2.20m の平面不整形であり、深さ 0.09m を測る。その他の詳細については不明。縄文土器（208）が出土している。

焼土集中遺構（F）

本遺跡の 6 区下層では、建物等の遺構を伴わずに焼土のみが確認できる場所が存在し、中には骨片を伴う場合もあった。そのため、本書ではその範囲を焼土集中遺構（F）として報告する。なお、既に記述したように、焼土を伴わずに炭化物のみが分布するものについては炭化物集中遺構（SC）として別に報告する。

F176（図版 80）　6I-1B8・13 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.20m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。

F178（図版 80・86）　6I-2B8・13 に位置する。長軸 1.12m・短軸 0.77m の平面楕円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。種子が出土している。

F194（図版 79、写真図版 96・98）　6I-1A15 に位置する。長軸 0.34m・短軸 0.33m の平面不整形であり、深さ 0.01m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F201（図版 79、写真図版 99）　6I-1A15、1B-11 に位置する。長軸 0.56m・短軸 0.30m の平面楕円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

F204（図版 79･84･94、写真図版 99）　6I-1B17･22 に位置する。長軸 1.20m･短軸 0.76m の平面不整形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。2 層と 4 層が比熱を受けていることから、少なくとも 2 回、焼成行為が行われたことが推測される。掘立柱建物（SB1215）と半分重なるような位置関係にあることから、場合によっては両者が関連する可能性もある。石器・石製品（225）の他、焼骨が多く出土しており、サケ科･トゲウオ科を主体とする魚骨に加え、小型哺乳類やヘビ亜目の骨も同定されている（第Ⅵ章第 4 節）。なお、クルミやヒシ、ヤマブドウ、カヤツリグサ、サルナシといった種実も出土している。

F283（図版 79・94、写真図版 99・100）　6I-1B6 に位置する。長軸 0.76m・短軸 0.50m　の平面不整形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F285（図版 80）　6I-1B8・9 に位置する。長軸 0.39m・短軸 0.38m の平面不整形である。その他の詳細については不明。縄文土器片が出土している他、骨片も微量出土している。

F295（図版 79）　5I-10A25 に位置する。長軸 0.32m・短軸 0.16m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈する。SI93 を切る。

F433（図版 80）　6I-2B9 に位置する。長軸 0.43m・短軸 0.42m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。少量ではあるが骨片が出土しており、サケ科・トゲウオ科の魚骨や両生類の骨が同定されている（第Ⅵ章第 4 節）。

F767（図版 79・94、写真図版 100）　6I-2A3・8 に位置する。長軸 0.58m・短軸 0.47m の平面円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F798（図版 79･100、写真図版 100･107）　6I-1B16 に位置する。長軸 1.25m･短軸 0.83m の平面楕円形である。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。SX763 を切る。

C　6 区下層中面の遺構（図版 95 ～ 101）

1）6 区下層中面の概要

6 区下層中面で検出された遺構数は、SK 25 基、SX 10 基、SD 2 条、SC 13 基、F 14 基、P 60 基である。遺構の分布は調査区北側に集中しており、遺構平面図についても遺構が集中する 6 区北側のみ作成している。

以下、種別ごとに遺構の概要について記す。

土　　坑（SK）

SK748（図版 96・98、写真図版 101）　6I-2B16・17・21・22 に位置する。長軸 0.97m・短軸 0.76m の平面楕

円形であり、深さ 0.31m を測る。断面形はＶ字状を呈し、水平に堆積する。縄文土器（234）が出土している。

SK749（図版 97・98、写真図版 101）　6I-2B13・14・18・19 に位置する。長軸 0.96m・短軸 0.45m の平面楕円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形はＶ字状を呈し、レンズ状に堆積する。SD791 を切る。

SK775（図版 96・98、写真図版 101）　6I-1B17 に位置する。長軸 0.43m・短軸 0.39m の平面楕円形であり、深さ 0.21m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK790（図版 96・98、写真図版 101）　6I-2B6・7 に位置する。長軸 0.70m・短軸 0.58m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（235）が出土している。

SK801（図版 96～98、写真図版 102）　6I-2B12 に位置する。長軸 0.45m・短軸 0.38m の平面方形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK803（図版 96・98、写真図版 102）　6I-2A5、2B1 に位置する。長軸 0.62m・短軸 0.50m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK804 を切る。

SK804（図版 96・98、写真図版 102）　6I-2B1 に位置する。長軸 0.40m・短軸 0.38m の平面円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK803 に切られる。

SK810（図版 96）　6I-1A14・15 に位置する。長軸 0.59m・短軸 0.39m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。SX763 を切る。

SK816（図版 97・98、写真図版 102）　6I-2B24 に位置する。長軸 0.50m・短軸 0.48m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SX829 を切る。

SK817（図版 97・98、写真図版 102）　6I-1B14・19 に位置する。長軸 0.85m・短軸 0.68m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（236）が出土している。SX821、SD290 を切る。

SK825（図版 96・98、写真図版 103）　6I-2B6 に位置する。長軸 0.53m・短軸 0.48m の平面円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK826（図版 96・98、写真図版 103）　6I-2B6 に位置する。長軸 0.39m・短軸 0.36m の平面円形であり、深さ 0.30m を測る。断面形はＵ字状を呈し、単一層である。

SK834（図版 96・98、写真図版 103）　6I-2A23・24 に位置する。長軸 0.83m・短軸 0.62m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（237・238）が出土している。SX867 を切る。

SK835（図版 96・99、写真図版 103・104）　6I-2A9 に位置する。長軸 0.45m・短軸 0.40m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。P836 に切られる。

SK841（図版 96・99、写真図版 104）　6I-2A9 に位置する。長軸 0.72m・短軸 0.57m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK850（図版 96･99、写真図版 104）　6I-2A24、3A3･4 に位置する。長軸 1.23m･短軸 1.03m の平面円形であり、深さ 0.32m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。SX867 を切る。

SK858（図版 96・97・99、写真図版 104）　6I-3B3・8 に位置する。長軸 0.61m・短軸 0.41m の平面方形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK859（図版 97・99、写真図版 104・105）　6I-3B3・4 に位置する。長軸 0.41m・短軸 0.36m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK860（図版 97・99、写真図版 105）　6I-3B18・23 に位置する。長軸 1.09m・短軸 0.84m の平面楕円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK868（図版 96）　6I-2A20・25 に位置する。長軸 0.36m・短軸 0.32m の平面円形である。その他の詳細については不明。SX867 を切る。

SK875（図版 96・99、写真図版 105）　6I-1A13・18 に位置する。長軸不明・短軸 0.78m の平面円形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は台形状を呈する。縄文土器（239・240）が出土している。

SK876（図版 96・99、写真図版 105）　6I-2A10･15 に位置する。長軸 1.73m･短軸 0.88m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（241 ～ 245）が出土している。

SK968（図版 97・99、写真図版 106）　6I-1B20、1C16 に位置する。長軸 0.88m・短軸 0.73m の平面円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層ではあるが、覆土上位において焼土や炭化物が水平気味に広がっており分層可能である。焼土集中遺構(F)に含めた方が良いかもしれないが、調査時の遺構種別をそのまま用いた。焼土からは縄文土器（246・247）の他、骨片が定量出土している。骨片は、魚類ではサケ科・トゲウオ科が主体をなす他、コイ科・アユなどが同定されている（第Ⅵ章第 4）。SK969、SD290 を切る。

SK969（図版 97・99、写真図版 106）　6I-1B20、1C16 に位置する。長軸 0.74m・短軸 0.58m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SD290 を切り、SK968 に切られる。

SK995（図版 96・99、写真図版 106）　6H-2J14・15・19・20 に位置する。長軸 1.05m・短軸 0.89m の平面円形であり、深さ 0.27m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。2 層から縄文土器（248・249）が比較的残りの良い状態で出土している。

性格不明遺構（SX）

SX639（図版 96・100、写真図版 106）6I-2A23・24、3A3・4 に位置する。長軸 1.62m・短軸 1.13m の平面楕円形であり、深さ 0.40m を測る。断面形は階段状を呈し、水平に堆積する。石器･石製品（300）が出土している。

SX750（図版 96 ～ 98、写真図版 106）6I-2B12・13・17・18 に位置する。長軸 1.29m・短軸 1.08m の平面円形であり、深さ 0.27m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（250）が出土している。SD791 を切る。

SX763（図版 96・100、写真図版 107）6I-1A14・15・19・20・25、1B11・16・21 に位置する。長軸 4.85m・短軸 3.80m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈しブロック状に堆積するが、1 層と 2 層の間には F798 の層がある。なお、形状や F798 の存在から竪穴建物の可能性も想定されたが、本遺跡の縄文時代の竪穴建物がいずれも壁溝を伴うのに対し、本遺構では明確な壁溝や主柱穴が認められなかったことから性格不明遺構とした。縄文土器（251）が出土している。SK810 に切られる。

SX774（図版 96・100、写真図版 107）　6I-1B21 に位置する。長軸 0.66m・短軸 0.64m の平面円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SX778（図版 96・97・100､写真図版 107）　6I-1B13 に位置する。長軸 0.62m・短軸 0.20m の平面楕円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形はＵ字状を呈し、レンズ状に堆積する。

SX784（図版 97･100、写真図版 107）　6I-2C6・11 に位置する。長軸 1.12m･短軸 0.64m の平面不整形であり、深さ 0.14m を測る。断面形はＶ字状を呈し、単一層である。縄文土器が出土している。SD290 を切る。

SX821（図版 97）　6I-1B14・19・20・24・25 に位置する。長軸不明・短軸 0.50m の平面不整形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SD290 を切り、SK817 に切られる。

SX829（図版 96、写真図版 108）　6I-2B11・12・16～19・22～25、3B4・5 に位置する。長軸不明・短軸 1.17m の平面不整形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK816、SD791 に切られる。

SX855（図版 97・100、写真図版 108）　6I-3B4 に位置する。長軸 0.92m・短軸 0.38m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SX867（図版 96･97）　6I-1A、2A、2B、3A、3B に位置する。短軸 4.93m である。その他の詳細については不明。縄文土器（252 ～ 254）が出土している。SK834・850・854・868、P885 に切られる。

溝（SD）

調査区北東端域に存在する SD252 と SD290 は比較的幅が広い溝で、下層上面の段階まで続く自然流路と考

えられる。また、SD791 と SD867 も、下層上面で確認されている SD259 や SD593 と類似する位置に存在しており、下層上面の段階まで続いた可能性がある。

SD290（図版 96・97） 5I-10A、10B、6I-1A、1B、1C、2B、2C、2D、3C、3D に位置する。短軸 4.46m と幅の広い溝で、本遺構は下層上面でも確認できる。SK817・968・969、SX784・821、SC783 に切られる。

SD791（図版 96･97、写真図版 108） 5I-10A、6I-1A、1B、2B、2C、3B、3C、4C に位置する。短軸 3.45m であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。SX829 を切り、SK749、SX750 に切られる。

炭化物集中遺構（SC）

SC783（図版 97） 6I-1C16 に位置する。長軸 0.42m・短軸 0.28m の平面円形である。その他の詳細については不明。縄文土器（255）が出土している。

SC800（図版 96） 6I-1A19･24 に位置する。長軸 0.55m･短軸 0.44m の平面円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SC802（図版 96・101、写真図版 108） 6I-1A24 に位置する。長軸 0.85m・短軸 0.54m の平面不整形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SC805（図版 96） 6I-1A19 に位置する。長軸 0.71m・短軸 0.67m の平面不整形である。その他の詳細については不明。

SC819（図版 97） 6I-3C9 に位置する。長軸 0.62m・短軸 0.51m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SC827（図版 96） 6I-2A8・9・13・14 に位置する。長軸 0.33m・短軸 0.30m の平面円形である。その他の詳細については不明。

SC840（図版 97・101、写真図版 108・109） 6I-2C22・23、3C3 に位置する。長軸 0.78m・短軸 0.60m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SC843（図版 97） 6I-2C17 に位置する。長軸 1.43m・短軸 0.76m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SC917（図版 96） 6I-1B22 に位置する。長軸 0.69m・短軸 0.26m の平面楕円形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈する。

SC926（図版 96･101） 6I-1A24 に位置する。長軸 0.81m･短軸 0.47m の平面不整形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SC927（図版 96･101） 6I-1A24 に位置する。長軸 0.37m･短軸 0.27m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SC928（図版 96･101） 6I-1A23･24 に位置する。長軸 0.45m･短軸 0.37m の平面円形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SC931（図版 96・101、写真図版 109） 6I1A-24 に位置する。長軸 0.63m・短軸 0.39m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

焼土集中遺構（F）

F807（図版 96） 6I-1A18・19 に位置する。長軸 1.22m・短軸 0.71 の平面楕円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F813（図版 96） 6I-1A18・23 に位置する。長軸 1.30m・短軸 1.18m の平面不整形であり、深さ 0.11m を測る。その他の詳細については不明。土師器が出土している。

F814（図版 96・101、写真図版 109） 6I-1A23・24 に位置する。長軸 0.47m・短軸 0.38m の平面円形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F848（図版 96） 6I-2A3・8 に位置する。長軸 0.46m・短軸 0.30m の平面不整形であり、深さ 0.02m を測る。

断面形は弧状を呈し、単一層である。

F849（図版 96）　6I-2A3・4 に位置する。長軸 0.45m・短軸 0.37m の平面円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。土師器が出土している。

F869（図版 96・101、写真図版 109）　6I-2A13 に位置する。長軸 0.84m・短軸 0.53m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。

F870（図版 96・101、写真図版 109）　6I-1A22、2A2 に位置する。長軸 0.68m・短軸 0.37m の平面楕円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は台形状を呈し、単一層である。

F872（図版 96・101、写真図版 109）　6I-2A19 に位置する。長軸 0.77m・短軸 0.75m の平面円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。

F901（図版 96・101、写真図版 110）　6I-2A12・13 に位置する。長軸 0.43m・短軸 0.35m の平面楕円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F903（図版 96・101、写真図版 110）　6I-2A14 に位置する長軸 0.40m・短軸 0.28m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F908（図版 96・101、写真図版 110）　6I-2A1・6 に位置する。長軸 0.48m・短軸 0.27m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F916（図版 97・101、写真図版 110）　6I-3C10、3D6 に位置する。長軸 1.39m・短軸 0.82m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。

F929（図版 96）　6I-1A23 に位置する。長軸 0.49m・短軸 0.32m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

D　6 区下層下面の遺構（図版 102 ～ 115）

1）6 区下層下面の概要

6 区下層下面で検出された遺構数は、SB 7 棟、SK 46 基、SX 2 基、SC 27 基、F 36 基、P 124 基である。遺構の分布は調査区北西側に集中しており、遺構平面図についても遺構が集中する 6 区北西側のみ作成している。

以下、種別ごとに遺構の概要について記す。

掘 立 柱 建 物（SB）

SB1（図版 103・105、写真図版 9・111）　6I-2A・2B に位置する。P959・P1039・P1084・P1096・P1099・P1196 で構成される。主軸は N-73° -E である。1 間 ×1 間の平面長方形の母屋で、両端にやや突出する柱穴をもつ亀甲形の建物と推測する。桁行 3.66m、梁行 3.38m で、身舎面積 12.37m^2 を測る。柱穴は円形もしくは楕円形の平面である。P1099 より縄文土器（302）が出土している。

SB2（図版 103・105、写真図版 111・112）　6I-1A・2A に位置する。P960・P1015・P1030・P1129・P1154・P1187 で構成される。主軸は N-47° -E である。1 間 ×1 間の平面長方形の母屋で、両端に突出する柱穴をもつ亀甲形の建物と推測する。桁行 3.34m、梁行 3.14m の身舎面積 10.49m^2 を測る。、柱穴は円形を基調とする。

SB3（図版 103・106、写真図版 9・112・113）　6I-2B に位置する。主軸は N-34° -W である。P974・P975・P1079・P1082・P1096・P1097・P1100・P1115 で構成される。1 間 ×1 間の平面長方形の母屋で、両端に突出する柱穴をもつ亀甲形の建物と推測する。桁行 4.00m、梁行 2.40m の身舎面積 9.6m^2 を測る。柱穴は円形を基調とする。P974 より石器・石製品（379・380）が出土している。

SB7（図版 103・106、写真図版 113）　6I-2A に位置する。主軸は N-34° -E である。P952・P1001・P1013・P1054・P1111・P1141・P1158 で構成される。1 間 ×1 間の平面台形状の母屋で、両端に突出する柱穴をもつ亀甲形の建物と推測する。桁行 2.24m、梁行 1.90m の身舎面積 4.26m^2 を測る。柱穴は円形を基調とする。

SB9（図版 103・106、写真図版 113）　6I-2A に位置する。主軸は N-32° -W である。P963・P978・P1025・

P1026・P1081・P1139で構成される。1間×1間の平面長方形状の母屋で、両端に突出する柱穴をもつ亀甲形の建物と推測する。桁行2.92m、梁行2.30mの身舎面積6.72m^{2}を測る。柱穴は円形を基調とする。

SB11（図版103・107、写真図版113・114）　6I-2A・2Bに位置する。主軸はN-28°-Wである。P1068・P1091・P1116・P1131・P1206・P1214で構成される。1間×1間の平面長方形状の母屋で、両端に突出する柱穴をもつ亀甲形の建物と推測するが、突出長は南側に比べて北側の方が長い。桁行4.00m、梁行3.20mの身舎面積12.80m^{2}を測る。柱穴は円形を基調とする。P1131より縄文土器（303）が出土している。

SB12（図版103・107、写真図版114）　6I-2A・2Bに位置する。主軸はN-66°-Eである。P1059・P1070・P1113・P1186で構成される。1間×1間の平面方形状の建物で、短軸3.50m、長軸3.90mの身舎面積13.65m^{2}を測る。柱穴は円形を基調とする。P1070より縄文土器（304）が出土している。

土　　坑（SK）

SK933（図版103・108・110、写真図版114・120）　6I-1A15、1B11に位置する。長軸0.93m・短軸0.67mの平面楕円形であり、深さ0.07mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（305）が出土している。

SK938（図版103・108、写真図版115）　6I-1A18に位置する。長軸0.57m・短軸0.45mの平面楕円形であり、深さ0.28mを測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。SC1191に切られる。

SK961（図版103・108、写真図版115）　6I-1A25、2A5に位置する。長軸0.74m・短軸0.64mの平面円形であり、深さ0.14mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK964（図版103・108、写真図版115）　6I-2A15に位置する。長軸0.60m・短軸0.52mの平面楕円形であり、深さ0.17mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK971（図版103・108、写真図版115）　6I-2A18・19に位置する。長軸0.76m・短軸0.43mの平面楕円形であり、深さ0.23mを測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK977（図版103・108、写真図版115）　6I-2A5、2B1に位置する。長軸1.27m・短軸0.92mの平面楕円形であり、深さ0.26mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（306・307）、石器・石製品（382）が出土している。F1022を切る。

SK979（図版103・106・108）　6I-2A9・14に位置する。長軸0.50m・短軸0.40mの平面円形であり、深さ0.20mを測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。SK1211を切る。

SK983（図版103・104・108、写真図版115・116）　6I-2B22・23に位置する。長軸0.61m・短軸0.53mの平面方形であり、深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（308）が出土している。

SK984（図版103・104）　6I-2B23、3B3に位置する。長軸0.81m・短軸0.49mの平面楕円形である。その他の詳細については不明。縄文土器（309）が出土している。

SK986（図版103・104）　6I-3B2・3に位置する。長軸0.36m・短軸0.32mの平面方形である。その他の詳細については不明。石器・石製品（383）が出土している。

SK987（図版103・104・108、写真図版116）　6I-3B3に位置する。長軸1.08m・短軸0.67mの平面楕円形であり、深さ0.13mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（310）が出土している。

SK991（図版103・104）　6I-3B3・8に位置する。長軸0.28m・短軸0.24mの平面円形である。その他の詳細については不明。

SK992（図版104・109、写真図版116）　6I-3B9に位置する。長軸0.43m・短軸0.41mの平面円形であり、深さ0.17mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK993（図版103・109、写真図版116・117）　6I-3B1・2に位置する。長軸0.79m・短軸0.52mの平面楕円形であり、深さ0.13mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK1093を切る。

SK999（図版103・109、写真図版117）　6I-2A2に位置する。長軸0.64m・短軸0.56mの平面円形であり、深さ0.18mを測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。石器・石製品（384）が出土している。SK1007

を切る。

SK1007（図版 103・109、写真図版 117）　6I-2A2・7 に位置する。長軸 0.57m・短軸 0.50m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK999 に切られる。

SK1009（図版 104・109、写真図版 117）　6I-1C16・21 に位置する。長軸 0.52m・短軸 0.45m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK1012（図版 103）　6I-2A8 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.30m の平面円形である。その他の詳細については不明。

SK1031（図版 103・109、写真図版 117・118）　6I-2A8・9 に位置する。長軸 0.73m・短軸 0.43m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は半円状を呈し、水平に堆積する。

SK1046（図版 103・105・109、写真図版 118）　6I-2A4 に位置する。長軸 0.59m・短軸 0.44m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK1052（図版 103・109、写真図版 118）　6I-2A10、2B6 に位置する。長軸 0.48m・短軸 0.36m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（311 ～ 313）が出土している。

SK1058（図版 103・107・109、写真図版 118）　6I-2A15・20 に位置する。長軸 0.75m・短軸 0.53m の平面楕円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。石器・石製品（385）が出土している。SX1056 に切られる。

SK1061（図版 103・109、写真図版 118・119）　6I-1A14・19 に位置する。長軸 0.98m・短軸 0.68m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形はＶ字状を呈し、レンズ状に堆積する。石器・石製品（386）が出土している。

SK1073（図版 103・106・109、写真図版 119）　6I-2B11・16 に位置する。長軸 0.41m・短軸 0.35m の平面円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK1074（図版 103・105・110、写真図版 119）　6I-2A20 に位置する。長軸 0.53m・短軸 0.46m の平面円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SX1056 を切る。

SK1076（図版 103・110、写真図版 119）　6I-2A5・10 に位置する。長軸 0.94m・短軸 0.82m の平面楕円形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。縄文土器（314 ～ 316）が出土している。

SK1078（図版 103・110、写真図版 119・120）　6I-2A10 に位置する。長軸 0.61m・短軸 0.43m の平面方形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK1083（図版 103・110、写真図版 120）　6I-2B21 に位置する。長軸 0.42m・短軸 0.38m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK1088（図版 103・110、写真図版 120）　6I-2B11・12・16・17 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.33m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK1093（図版 103・110、写真図版 120）　6I-3B1 に位置する。長軸 0.56m・短軸 0.40m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK993 に切られる。

SK1106（図版 103・104）　6I-3B8 に位置する。長軸 0.51m・短軸 0.32m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。

SK1133（図版 103・110、写真図版 120）　6I-2A4 に位置する。長軸 0.39m・短軸 0.32m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。F1057 に切られる。

SK1134（図版 103・106・110、写真図版 121）　6I-2A9 に位置する。長軸 0.84m・短軸 0.60m の平面楕円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。石器・石製品（387）が出土している。

SK1138（図版 103・110、写真図版 121）　6I-2A14・15 に位置する。長軸 0.40m・短軸 0.37m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（317）が出土している。

SK1144（図版 103・110、写真図版 121）　6I-2A4 に位置する。長軸 0.57m・短軸 0.54m の平面円形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK1152（図版 103・110、写真図版 121）　6I-2A1 に位置する。長軸 0.59m・短軸 0.37m の平面楕円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。SX1120 を切る。

SK1160（図版 103・105・111、写真図版 122）　6I-2A9・14 に位置する。長軸 1.07m・短軸 0.61m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（318）が出土している。

SK1162（図版 104・111、写真図版 122）　6I-3B5 に位置する。長軸 0.42m・短軸 0.39m の平面円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形はＶ字状を呈し、単一層である。

SK1168（図版 103・111、写真図版 122）　6I-1A17・18・22・23 に位置する。長軸 0.57m・短軸 0.46m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。

SK1183（図版 104・111、写真図版 122）　6I-2C17・18 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.33m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK1189（図版 103・111、写真図版 123）　6I-1A24・25、2A4・5 に位置する。長軸 1.18m・短軸 0.90m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（319 ～ 327）、石器・石製品（388）が出土している。F922 を切る。

SK1197（図版 103・111、写真図版 123）　6I-2A3･4 に位置する。長軸 1.23m･短軸 1.00m の平面楕円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SK1081 を切る。

SK1203（図版 103・111、写真図版 123）　6I-2A3･8 に位置する。長軸 0.96m･短軸 0.61m の平面楕円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。P114 に切られる。

SK1207（図版 103・111、写真図版 123・124）　6I-2A9 に位置する。長軸 0.54m・短軸 0.43m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SK1210（図版 103）　6I-1A23 に位置する。長軸 0.33m・短軸 0.23m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。

SK1211（図版 103・105・111、写真図版 124）　6I-2A9・14 に位置する。長軸 0.67m・短軸 0.66m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。SK979 に切られる。

性格不明遺構（SX）

SX1056（図版 103・112）　6I-2A15・20 に位置する。長軸 1.20m・短軸 0.78m の平面楕円形である。断面形は台形状を呈する。縄文土器（328 ～ 330）が出土している。SK1058 を切り、SK1074 に切られる。

SX1120（図版 103・112、写真図版 124）　6I-1A21・22、2A1・2 に位置する。長軸不明・短軸 1.90m であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（331）が出土している。SK1152、P1158 に切られる。

炭化物集中遺構（SC）

SC910（図版 104）　6I-1C16 に位置する。長軸 1.30m・短軸 0.83m の平面不整形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SC919（図版 103）　6I-1A13・14・18・19 に位置する。長軸 1.11m・短軸 0.94m の平面不整形であり、深さ 0.05m を測る。その他の詳細については不明。

SC923（図版 103）　6I-1A24 に位置する。長軸 0.57m・短軸 0.46m の平面円形である。その他の詳細については不明。

SC925（図版 103）　6I-1A18・23 に位置する。長軸不明・短軸 0.31m の平面不整形である。その他の詳細については不明。

SC930（図版 103・112）　6I-1A23 に位置する。長軸 0.76m・短軸 0.53m の平面円形であり、深さ 0.06m を測る。

断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。縄文土器（332）が出土している。

SC934（図版 104）　6I-1B25、1C21 に位置する。長軸 1.45m・短軸 1.02m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。その他の詳細については不明。

SC939（図版 103・112、写真図版 124）　6I-1A17・18・22・23 に位置する。長軸 0.58m・短軸 0.37m の平面不整形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SC940（図版 103・112、写真図版 124）　6I-1A17・18 に位置する。長軸 1.07m・短軸 0.67m の平面楕円形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（333）が出土している。

SC943（図版 103・112）　6I-1A22・23 に位置する。長軸 0.69m・短軸 0.61m の平面円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SC950（図版 104）　6I-1B20 に位置する。長軸 0.62m・短軸 0.34m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。

SC1004（図版 103）　6I-1A18 に位置する。長軸 0.75m・短軸 0.58m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。

SC1024（図版 103）　6I-2A9 に位置する。長軸 0.66m・短軸 0.47m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。

SC1033（図版 103）　6I-1A24 に位置する。長軸 0.53m・短軸不明の平面不整形である。その他の詳細については不明。

SC1050（図版 103）　6I-1A24 に位置する。長軸不明・短軸 0.16m の平面不整形である。その他の詳細については不明。

SC1089（図版 103・113、写真図版 124）　6I-2B11・12 に位置する。長軸 0.73m・短軸 0.50m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。P1099 を切る。

SC1107（図版 103・112、写真図版 125）　6I-2A20 に位置する。長軸 0.80m・短軸 0.57m の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（334 ～ 339）が出土している。

SC1110（図版 103）　6I-1A13 に位置する。長軸 0.33m・短軸 0.26m の平面円形である。その他の詳細については不明。

SC1128（図版 103）　6I-2A14・15 に位置する。長軸 0.68m・短軸 0.33m の平面楕円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

SC1153（図版 103・112、写真図版 125）　6I-1A14・15・19・20 に位置する。長軸 1.12m・短軸 1.02m の平面円形であり、深さ 0.18m を測る。その他の詳細については不明。縄文土器（340）が出土している。

SC1163（図版 103）　6I-1A24 に位置する。長軸 0.77m・短軸 0.23m の平面楕円形である。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

SC1179（図版 103・112、写真図版 125）　6I-1A19 に位置する。長軸 0.43m・短軸 0.22m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（341）が出土している。

SC1181（図版 103）　6I-1A22 に位置する。長軸 0.87m・短軸 0.59m の平面不整形である。その他の詳細については不明。

SC1184（図版 103）　6I-1A14 に位置する。長軸 1.17m・短軸 0.66m の平面不整形であり、深さ 0.12m を測る。その他の詳細については不明。

SC1191（図版 103）　6I-1A13・17・18 に位置する。長軸 0.77m・短軸不明。深さ 0.06m を測る。その他の詳細については不明。SK938 を切る。

SC1194（図版 103）　6I-1A13 に位置する。長軸 0.44m・短軸不明。深さ 0.20m を測る。その他の詳細については不明。

SC1195（図版 103、写真図版 125）　6I-1A9・14 に位置する。長軸 0.40m・短軸 0.26m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形はＶ字状を呈し、単一層である。

SC1212（図版 103・112、写真図版 125）　6I-2B6・11・12 に位置する。長軸 0.70m・短軸 0.62m の平面円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

焼土集中遺構（F）

F402（図版 103・113、写真図版 125・126）　6I-2B11 に位置する。長軸 0.97m・短軸 0.50m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。縄文土器（342 ～ 346）が出土している他、1・2 層からは骨片が多量に出土している。なお、骨片はサケ科・トゲウオ科でほぼ占められていた（第Ⅵ章第４節）。

F435（図版 103・113、写真図版 126）　6I-2A3 に位置する。長軸 0.79m・短軸 0.59m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。1 層から骨片が微量出土している。また、種実同定でヒシ 31 が同定されている（第Ⅵ章第３節）。

F621（図版 84・103、写真図版 72）　6I-1B16 に位置する。長軸 0.38m・短軸 0.30m の平面円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F921（図版 103・113、写真図版 126）　6I-1A18・19 に位置する。長軸 1.30m・短軸 0.95m の平面不整形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（347）が出土している他、種実同定でエゴノキ科１とヒシ６が同定されている（第Ⅵ章第３節）。

F922（図版 103・113、写真図版 126）　6I-1A24 に位置する。長軸 0.74m・短軸 0.55m の平面円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SK1189 に切られる。

F924（図版 103）　6I-1A18・23・24 に位置する。長軸 0.87m・短軸 0.55m の平面楕円形であり、深さ 0.05m を測る。その他の詳細については不明。

F935（図版 103・113、写真図版 126）　6I-2A4 に位置する。長軸 0.65m・短軸 0.53m の平面不整形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F941（図版 103・113、写真図版 126・127）　6I-1A22・23 に位置する。長軸 1.04m・短軸 0.65m の平面不整形である。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。SK1168 を切る。

F951（図版 103）　6I-2A1・6 に位置する。長軸不明・短軸 12.20m であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。魚類を中心とする骨片が出土している。

F955（図版 103・114、写真図版 127）　6I-2A7 に位置する。長軸 0.83m・短軸 0.58m の平面楕円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F1005（図版 104・114、写真図版 127）　6I-1B20、1C16 に位置する。長軸 0.69m・短軸 0.52m の平面楕円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F1006（図版 104・114、写真図版 127）　6I-1B25、1C21 に位置する。長軸 0.45m・短軸 0.21m の平面楕円形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F1022（図版 103・110・114、写真図版 127）　6I-2A5・10 に位置する。長軸 1.40m・短軸 0.76m の平面不整形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。SK977 に切られる。種実同定でヒシ 57、オニグルミ 2、クリ 5、モモ 1 が同定されている（第Ⅵ章第３節）他、1 層から魚類の骨片が出土している（第Ⅵ章第４節）。

F1023（図版 103・110、写真図版 128）　6I-2A10 に位置する。長軸 0.82m・短軸 0.58m の平面不整形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

F1032（図版 103・114、写真図版 128）　6I-1A19 に位置する。長軸 0.69m・短軸 0.65m の平面不整形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F1036（図版 103）　6I-1A23 に位置する。長軸 0.49m・短軸 0.25m の平面楕円形である。その他の詳細につい

ては不明。

F1042（図版 103）　6I-1A13・14・18・19 に位置する。長軸 1.40m・短軸 1.07m の平面楕円形であり、深さ 0.05m を測る。縄文土器（347）が出土している。

F1053（図版 103）　6I-1A23 に位置する。長軸 0.58m・短軸 0.28m の平面楕円形であり、深さ 0.09m を測る。その他の詳細については不明。

F1055（図版 103・114、写真図版 128）　6I-2A25、2B21 に位置する。長軸 1.26m・短軸 0.68m の平面楕円形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。縄文土器（348）が出土している。

F1057（図版 103・114、写真図版 128）　6I-1A24、2A4 に位置する。長軸 0.27m・短軸 0.20m の平面円形であり、深さ 0.02m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F1067（図版 103・114、写真図版 129）　6I-1A23 に位置する。長軸 0.83m・短軸 0.55m の平面不整形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

F1087（図版 103・104、写真図版 129）　6I-2B2・7 に位置する。長軸 1.29m･短軸 0.34m の平面不整形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F1095（図版 103）　6I-2A25 に位置する。長軸 0.59m・短軸 0.48m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。その他の詳細については不明。

F1102（図版 103・114、写真図版 129）　6I-2B17 に位置する。長軸 0.87m・短軸 0.68m の平面不整形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。

F1130（図版 103・115、写真図版 129・130）　6I-1A18・22・23 に位置する。長軸 1.58m・短軸 1.56m の平面不整形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。縄文土器（349）、アスファルト（393）が出土している。また、種実同定でオニグルミ 15、ヒシ 13 が同定されている（第Ⅵ章第 3 節）。

F1140（図版 103）　6I-1A13・18 に位置する。長軸 1.12m・短軸 0.85m の平面不整形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

F1147（図版 103・115、写真図版 130）　6I-1A17・18 に位置する。長軸不明・短軸 0.17m であり、深さ 0.02m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F1148（図版 103・115、写真図版 130）　6I-1A24､2A4 に位置する。長軸不明・短軸 0.35m の平面不整形であり、深さ 0.02m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

F1149（図版 103・115、写真図版 130）　6I-1A23、2A3 に位置する。長軸・短軸 0.54m の平面不整形であり、深さ 0.10m を測る。断面形はＶ字状を呈し、レンズ状に堆積する。

F1170（図版 103・115、写真図版 131）　6I-1A18 に位置する。長軸 0.53m・短軸 0.25m の平面不整形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。

F1176（図版 103）　6I-1A24 に位置する。長軸 0.98m・短軸 0.90m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。P1187 に切られる。

F1190（図版 103）　6I-1A17・22 に位置する。長軸不明・短軸 0.53m であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。

F1198（図版 103・115、写真図版 131）　6I-2A4 に位置する。長軸 1.20m・短軸 1.08m の平面円形であり、深さ 0.21m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。縄文土器（350 ～ 354）が出土している。噴砂が覆土上部を覆っている。P978 を切り、P1030 に切られる。

F1208（図版 103・115、写真図版 131）　6I-1A18 に位置する。長軸 0.32m・短軸 0.17m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

F1213（図版 103・115、写真図版 131）　6I-1A24・25 に位置する。長軸 0.96m・短軸 0.73m の平面不整形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

Ｅ　７区下層の遺構（図版 116・117）

1）７区下層の概要

７区下層で検出された遺構数は、SK １基、SX ７基である。７区において下層の遺構が確認され、調査を行ったのは調査区中央よりやや北側の場所で、下層の遺構平面図も調査を行った範囲に限られる。なお、７区では下層を上面・中面・下面に区分した調査は行っていない。以下、種別ごとに遺構の概要について記す。

土　　坑（SK）

SK25（図版 116･117）　7I-5J11 に位置する。長軸 0.70m･短軸 0.58m の平面楕円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。SX77 に切られる。遺構確認面はＶc 層であることから、６区の下層中面にあたると考えられる。

性格不明遺構（SX）

SX77（図版 116）　7I-4I、5H、5I、5J、6I、6J に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。縄文土器（144）が出土している。SK25 を切る。

SX79（図版 116・117）　7I-4H7・8・11 ～ 20・22 ～ 25、4I1・6・11 に位置する。長軸・短軸不明の平面不整形であり、深さ 0.38m を測る。その他の詳細については不明。SX231 に切られる。

SX227（図版 116・117、写真図版 132）　7I-4I11 に位置する。長軸 0.62m・短軸 0.48m の平面円形であり、深さ 0.15m を測る。遺構確認面がＶb 層であることから、６区の下層上面にあたると考えられる。断面形はＶ字状を呈し、単一層である。

SX228（図版 116・117、写真図版 132）　7I-4H20、4I16 に位置する。長軸 0.69m・短軸 0.52m の平面円形であり、深さ 0.15m を測る。遺構確認面がＶb 層であることから、６区の下層上面にあたると考えられる。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SX230（図版 116・117、写真図版 132）　7I-4I11 に位置する。長軸 0.36m、短軸 0.31m の平面円形であり、深さ 0.02m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

SX231（図版 116・117、写真図版 132）　7I-4H15･20 に位置する。長軸 0.85m･短軸 0.84m の平面円形であり、深さ 0.25m を測る。遺構確認面がＶb 層であることから、６区の下層上面にあたると考えられる。断面形は漏斗状を呈し、レンズ状に堆積する。SX79 を切る。

SX232（図版 116・117、写真図版 132）　7I-4I11 に位置する。長軸 0.35m・短軸 0.30m の平面円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。

第Ⅴ章　遺　　物

第１節　概　　要

1）概　　要

今回報告する大沢谷内遺跡５～７区からは縄文時代、古墳時代、古代、中世の遺物が出土している。遺物出土総量はコンテナ（内径 54.5×33.6×10.0cm）に換算すると 201 箱で、調査区別では５区 19 箱、６区上層 23 箱、７区上層 81 箱、６区下層上面 29 箱、６区下層中面 19 箱、６区下層下面 28 箱、７区下層２箱である。

内訳は縄文土器 65 箱、古墳時代の土器１箱、古代の土器 49 箱、中世の土器 10 箱、石器・石製品・礫 62 箱、木製品１箱、アスファルト３箱、骨片・種実 10 箱である。なお、遺構外出土の古代の土器と中世の土器・陶磁器については小グリッドごとの重量分布図を示した（第 17 図）。８・９区に比べ遺物量は少なく、散漫な出土傾向にあるが、遺構が少ない７区中央域においても定量出土している。

2）記述の方法と観察表

資料の掲載や記載については、土器・陶磁器、石器・石製品、木製品、アスファルト塊の順とし、その上で遺構の記載や図版の掲載順に準じて、上層と下層、調査区、調査面等で分け、さらに遺構出土遺物、遺構外出土遺物の順に行う。また、遺物の図版・写真図版・観察表についても基本、掲載順は同一としているが、７区の下層出土遺物については版の関係から図版・写真図版において７区上層の遺物と一緒に掲載した。

遺物の掲載番号については、調査区や時代、種別に関わらず通し番号を付した。本文中の番号、実測図番号、観察表の報告 No.、写真図版の遺物番号は一致している。器種や分類については第１節Ａ～Ｄに示す。また、観察表での法量は器形の外寸を計測し、口径や器高、底径等を cm 単位で記入した。なお、欠損している資料については、図上復元により法量が復元できる場合は、その数値を（　）内に記入した。

縄文土器や土師器の胎土については、『大沢谷内北遺跡』〔前山・伊比ほか 2010〕及び『大沢谷内遺跡』Ⅱ〔細野・伊比ほか 2012〕の分類に準じ、磨耗鉱物（石英・長石）・磨耗岩石・破砕鉱物（石英・長石）・真珠岩・雲母の有無と含有量によって以下のように分類した。なお、上記基準に含まれない海綿骨針や赤色粒子、Ⅱ類以外の雲母などの鉱物の有無については観察表や一部本文に記載した。なお、縄文土器の胎土分類については、前記の『大沢谷内北遺跡』や『大沢谷内遺跡Ⅱ』と統一された基準で分類されるよう、両報告書において胎土分類を行った前山精明（市文化財センター）が行った。

Ⅰ類　摩耗した岩石や石英・長石粒子を何らかのかたちで含むもの。磨耗した石英・長石を含むⅠａと、それらが欠落するⅠｂ類に区分し、さらに破砕鉱物の含有量によって計４つに細分した。

Ⅰa1 類　磨耗した石英・長石を含むが破砕鉱物の含有量が少ないもの。

Ⅰa2 類　磨耗した石英・長石を含み、多量の破砕鉱物も含有するもの。

Ⅰb1 類　磨耗粒子が岩石に限定され、破砕鉱物の含有量も少量にとどまるもの。

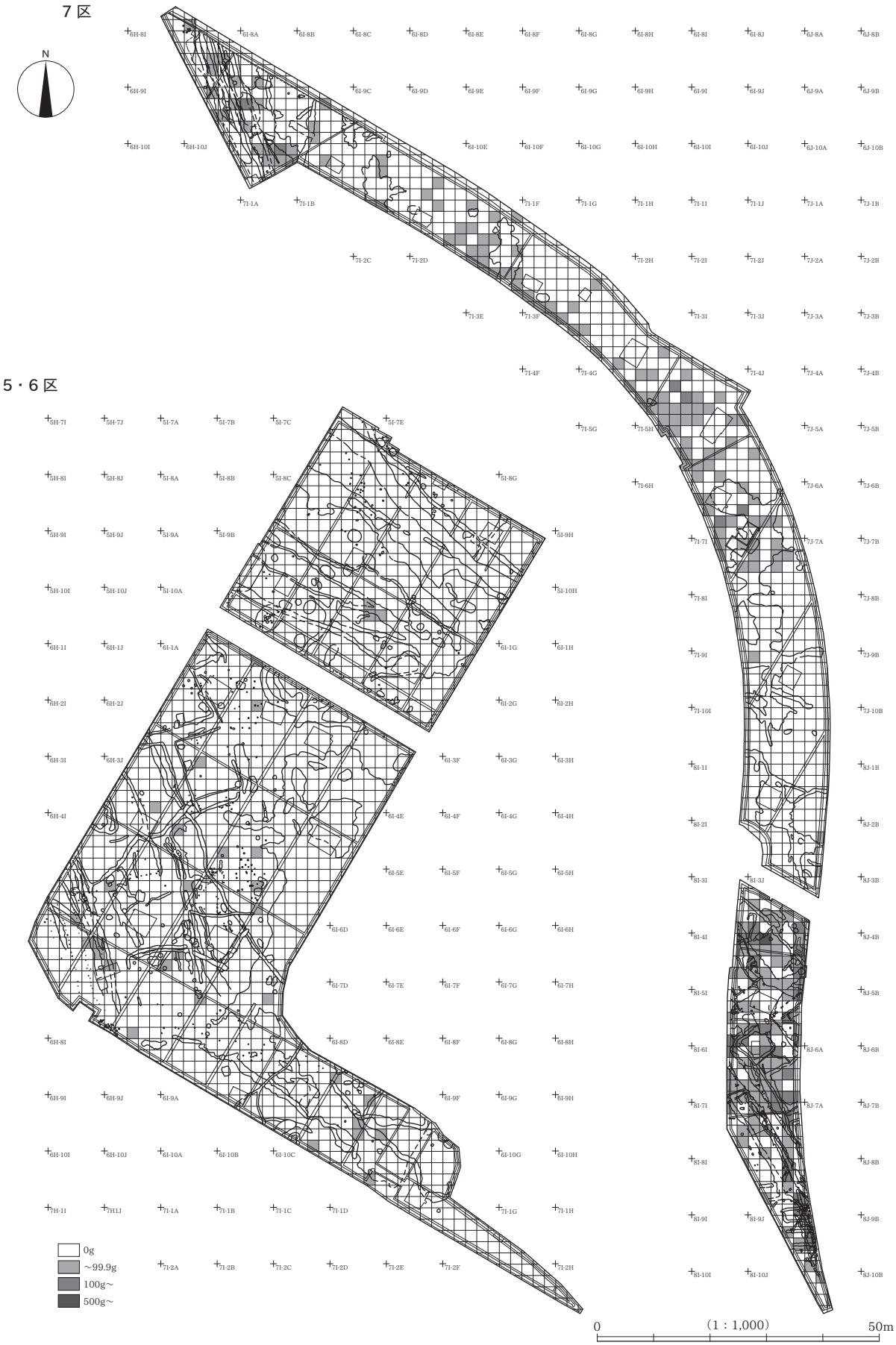
Ⅰb2 類　磨耗粒子が岩石に限定されるが、破砕鉱物を多量に含むもの。

Ⅱ類　磨耗粒子が欠落するが、破砕した石英・長石を多量に含むもの。破砕岩石や雲母の含有量によって３種に細分できる。

Ⅱａ類　破砕鉱物以外の含有物が乏しいもの。

Ⅱｂ類　破砕岩石も多量に含むもの。

Ⅱｃ類　雲母を多量に含むもの。



第 17 図　５～７区包含層の小グリッド別古代・中世土器出土重量分布図

Ⅲ類　磨耗粒子が欠落し、破砕した真珠岩を多量に含むもの。

Ⅲa 類　破砕真珠岩以外の含有物が希薄なもの。

Ⅲb 類　破砕した石英・長石も多量に含むもの。

Ⅳ類　磨耗粒子を含まず、多量の破砕岩石に、破砕した石英・長石が少量伴うもの。

Ⅴ類　雲母を多量に含むが、これ以外の含有物が乏しいもの。

Ⅵ類　含有物が乏しいもの。

色調は、外面の色調を『標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局 1967〕に基づいて記載した。また、コゲやスス、アスファルトといった付着物については、基本観察表で示し、必要に応じて本文にも記載した。

② 須恵器の胎土について

山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか 1989〕や『越後阿賀北地域の古代土器様相』〔春日ほか 2004〕、『吉田町史』の考古編でのまとめ〔春日 2000〕などを基に以下のように分類した。

A　胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しがみられるものが多い。器種によって胎土が異なり、無台杯と小型の有台杯は胎土が特に精良で器面は滑らかであるが、その他器種は砂っぽいややざらついた胎土である。9 世紀以降急速に多くなるもので、佐渡の小泊窯跡群で生産されたと考えられるもの。

B　石英・長石含む砂質の強い胎土である。西古志窯跡群などを含む信濃川左岸地域で生産されたと推定されるもの。

C　A・B 以外のものを一括した。また産地不明も含む。

A　縄文時代の土器

1）概　　要

今回報告する大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区の調査区において、縄文時代の土器はコンテナで 65 箱出土しており、時代別では最も多い。5 ～ 7 区で出土した縄文土器はいずれも縄文時代晩期後葉の鳥屋式土器〔磯崎 1957・石川 1988 など〕に並行する段階の資料と考えられる（第Ⅶ章第 1 節）。分類については次項で記載するが、浅鉢形（以下、「形」は省略）、鉢、深鉢、甕、壺が出土しており、深鉢が大半を占める。

2）土器の分類等

5 ～ 7 区出土の縄文土器については、器形等の特徴から、浅鉢形（以下、「形」は省略）、鉢、深鉢、甕、壺の 5 つに大別した。浅鉢、鉢、深鉢、甕の分類基準については、青田遺跡の分類〔荒川 2004b〕を参考にし、器高 / 口径（以下．径高指数）が概ね 0.8 以上のものを深鉢、0.6 ～ 0.8 のものを鉢、0.6 以下のものを浅鉢とした。甕については、頸部から口縁部にかけて外反する広口のものを甕とした（第 18 図）。以下、器種別に分類などについて記す。

① 浅鉢

全て有文精製土器で、口縁部または体部上位から口縁部にかけて文様帯をもつ。

A 類　径高指数が概ね 0.2 前後と器高が低いもの。

B 類　径高指数が概ね 0.4 ～ 0.6 と比較的器高が高いもの。口縁部の形状等から細分した。

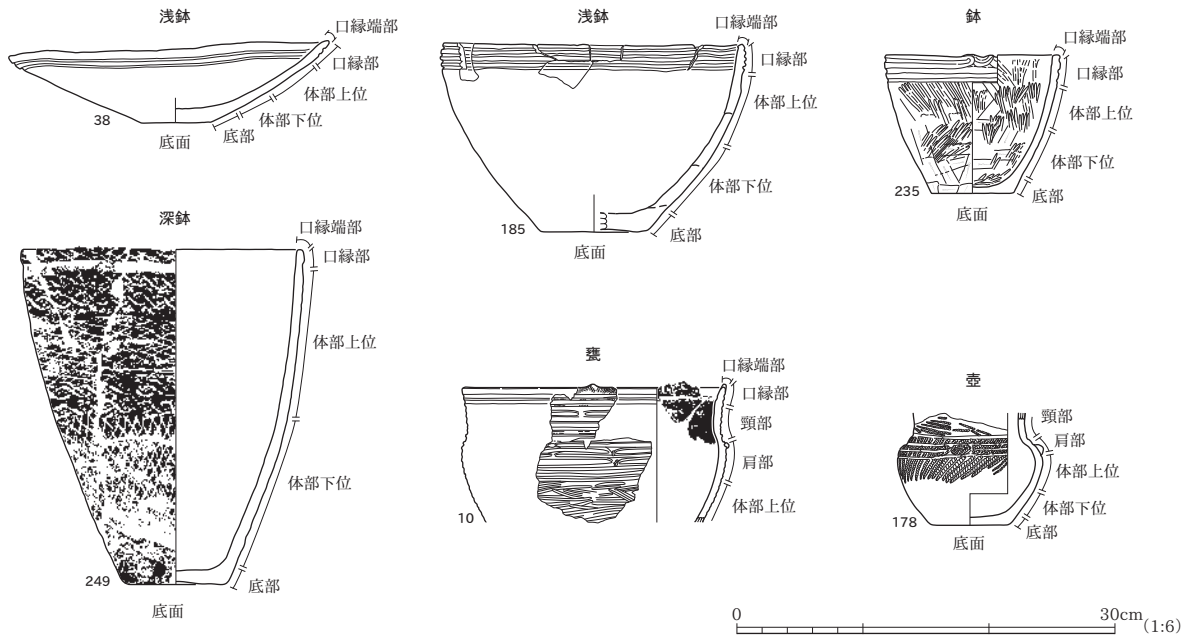
B1 類　外傾する体部に内湾する口縁部がのびる器形。口縁部には浮線文が施される。

B2 類　外傾する体部に直立もしくは外傾気味に立ち上がる口縁部がのびる器形。口縁部には平行沈線文が施される。

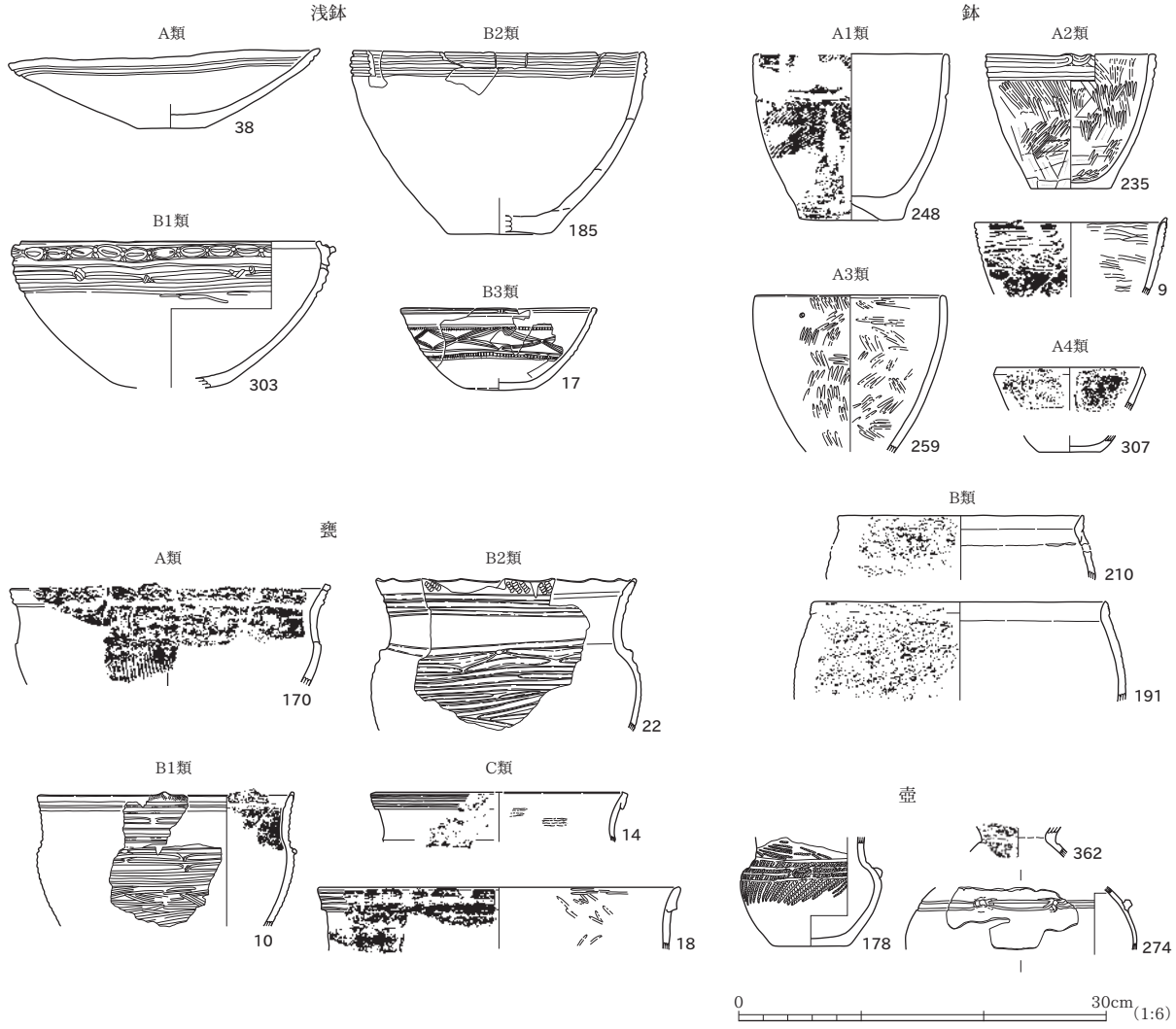
B3 類　体部から口縁部まで外傾してのびる器形。

② 鉢

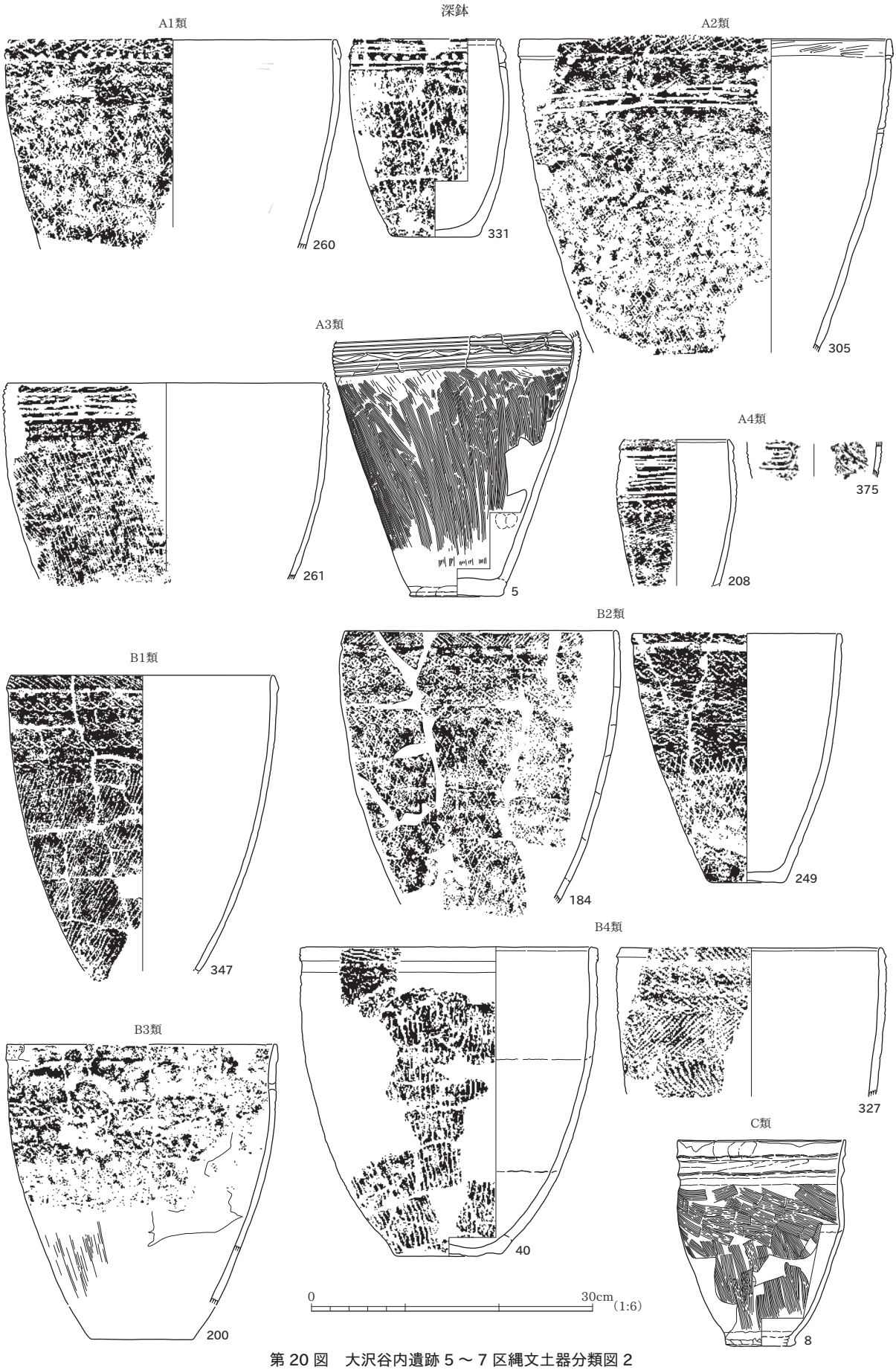
A類　底部から口縁部まで内湾または外傾しながらのびるもの。文様や口縁端部の形状により４つに細分した。



第 18 図　器種分類と部位の呼称



第 19 図　大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区縄文土器分類図 1



第 20 図　大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区縄文土器分類図 2

A1 類　口縁部から体部にかけて縄文が施され、口縁部に沈線が施されるもの。一部ミガキが認められるが、鉢の中では他に比べて調整が粗い。

A2 類　口縁部にのみ文様が施されるもの。内外面とも全体的にミガキが行われる。

A3 類　文様が施されないもの。体部から口縁端部まで内湾しながらのびる器形。

A4 類　文様が施されないもので、体部から口縁部まで外傾してのびるもの。小型品で、細かいミガキが認められる精製土器。5 ～ 7 区では 1 点のみ確認できる。

B 類　口径より体部径の方が大きく、口縁端部が屈曲するもの。外面にはススの付着が認められる。

③ 深鉢

土器の大半を占める。口縁部に沈線や刺突による文様が施されるものを有文深鉢として A 類とし、縄文による地文のみのものを地文深鉢として B 類として分けた。また、条痕文のみのものを C 類とした。

A 類　口縁部に沈線や刺突による文様が施されるもの。文様構成等によって 4 つに細分した。

A1 類　口縁部に刺突を有する土器。

A2 類　口縁部に沈線や浮線文をもち、体部以下に網目状撚糸文を施す土器。

A3 類　口縁部に沈線や浮線文をもち、体部以下に条痕文を施す土器。

A4 類　口縁部あるいは頸部に工字文を施す土器。

B 類　縄文による地文のみのもの。文様構成等によって 4 つに細分した。

B1 類　結節回転と撚糸文を施すもの。

B2 類　結節回転と網目状撚糸文を施すもの。

B3 類　結節回転と条痕文を施すもの。

B4 類　B1 ～ 3 類以外のもの。

C 類　条痕文のみ認められるもの。

④ 甕

頸部から口縁部にかけて外反する広口のものを甕とし、形態や文様等から一部細分した。

A 類　口縁部径が体部径より大きく、頸部と体部との境で段を持つもので、結節回転と条痕文を施すもの。

B 類　口縁部径が体部径より大きく、頸部と体部との境で段を持つもので、浮線文を施すもの。他の甕に比べてススやコゲが目立つ。文様構成等からさらに 2 つに細分した。

B1 類　頸部から体部にかけて浮線文を施すもの。

B2 類　体部に浮線文を施すもの。頸部に浮線文を施さない点で B1 類と異なる。

C 類　口縁部径より体部径が大きくなるもの。

⑤ 壺

壺は口縁部の形態が分かるものがなく、出土点数も少量であることから細分は行っていない。

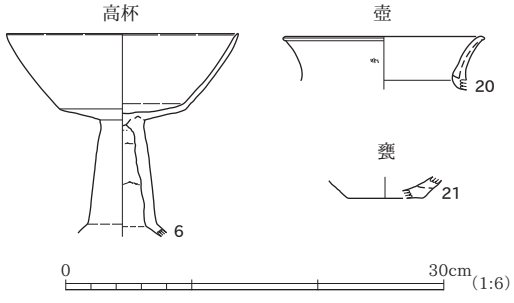
B　古墳時代の土器

1）概　　要

今回報告する大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区の調査区において古墳時代の土器はコンテナで 1 箱出土しているが、出土した調査区は 5 区に限られる。大沢谷内遺跡においては、これまでに調査を行った 1 ～ 11 区や市道部・農道部を通じて古墳時代の資料は非常に希薄な状況である。

2）土器の分類等

高杯と壺が出土している（第 21 図）。少量のため細分は行っ



第 21 図　大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区古墳時代土器分類図

ていない。

C 古代の土器

1）概　　要

今回報告する大沢谷内遺跡５～７区の調査区から古代の土器（平安時代）はコンテナで 49 箱出土しており、土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器が確認されている。8・9 区に比べ、当調査区における古代土器の出土量は少量である。出土遺物の大半は 9 世紀後半が中心と考える（第Ⅶ章第 3 節）。

2）土器の分類等

本書で報告する５～７区の古代土器は、土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器がある（第 22 図）。

① 土 師 器　食膳具と煮炊具があり、食膳具には無台椀がある。煮炊具には長甕・小甕・鍋がある。

無台椀　いずれも口径 12 ～ 13cm 前後のものである。比較的身が深いものと浅いものとがあるが細分は行っていない。

長　甕　いずれもロクロ成形のものである。少量であるため細分は行っていない。なお、底部資料も少量ではあるが出土しており、タタキメ・当て具痕をもつ丸底が確認できる（82）。

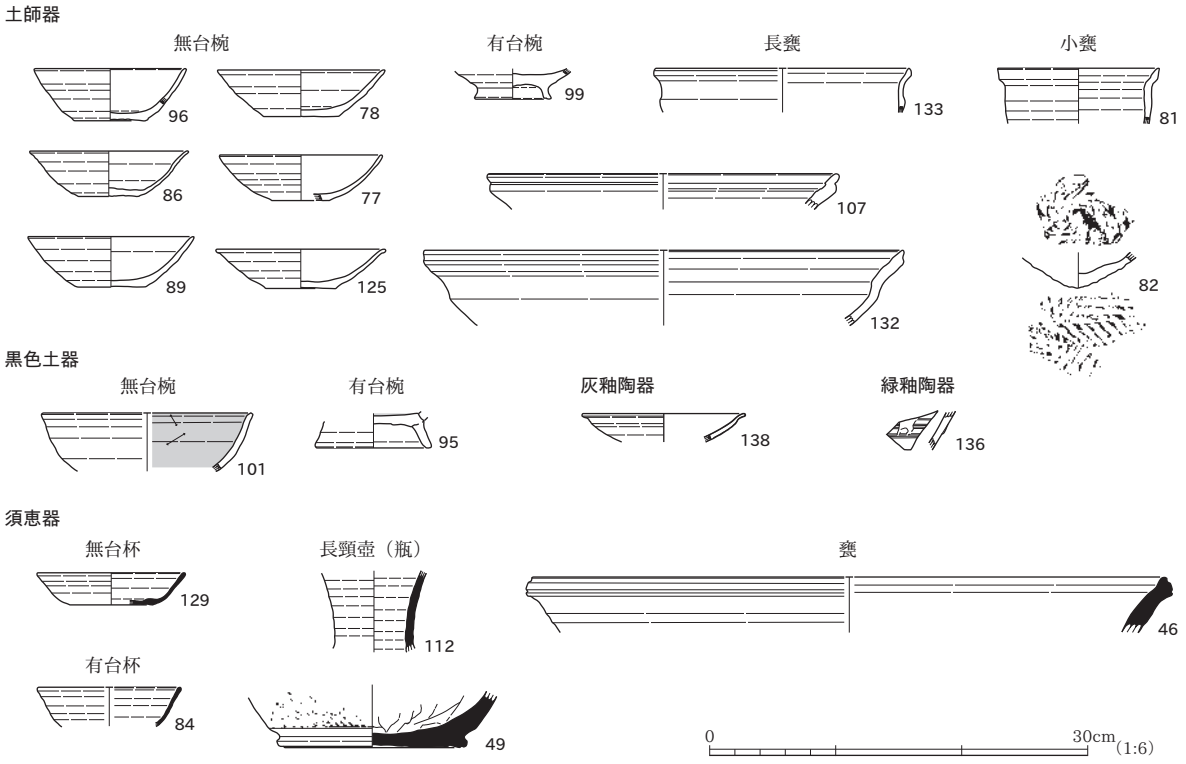
小　甕　いずれもロクロ成形のものである。口縁部・口縁端部形態のわかるものは少量であるため細分は行っていない。

鍋　全体の形が分かるものはない。いずれもロクロ成形のものである。口縁端部の形態には、口縁端部付近の外面を強くくぼませ、口縁端部が屈曲するもの（107）と口縁端部が面をもつもの（132）との 2 種類があるが、特に細分は行っていない。

② 黒色土器　食膳具の無台椀と有台椀がある。少量であることから細分は行っていない。

③ 須 恵 器　食膳具の無台杯と有台杯、貯蔵具の壺・瓶類、甕がある。須恵器の大半は佐渡の小泊窯跡群産と考える。いずれも少量であるため細分は行っていない。

④ 灰釉陶器　灰釉陶器の破片 3 点を図示した。



第 22 図　大沢谷内遺跡５～７区古代土器分類図

⑤ **緑釉陶器**　緑釉陶器の破片１点を図示した。

D　中世の土器・陶磁器

1）概　　要

大沢谷内遺跡５～７区の調査区からは中世の土器・陶磁器はコンテナで 10 箱出土している。8・9 区に比べて当区における中世土器の出土量は少量である。

2）土器の分類等

本書で報告する５～７区の中世土器･陶磁器には、白磁、珠洲焼、中世土師器が確認できる（第 23 図）。名称、年代については、白磁を山本信夫氏の研究〔山本 2000〕、珠洲焼を吉岡康暢氏の研究〔吉岡 1994〕、中世土師器を水澤幸一氏の研究〔水澤 2005〕などを主に参考とした。

① **白　磁**　全体の形が分かるものは無い。

椀　いずれも破片資料である。有文のものと無文のものがある。口禿げも確認できる。

皿　１点のみ皿とした。口縁部の破片資料である。

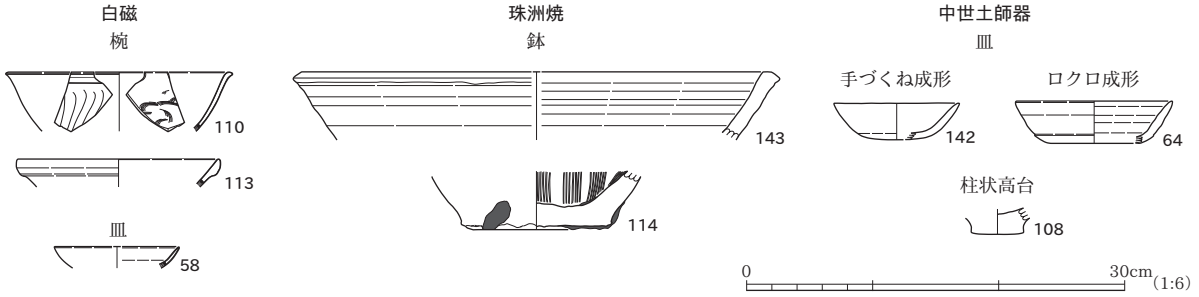
② **珠洲焼**　いずれも破片資料である。片口鉢の底部切り離し技法は、ロクロ回転を利用せずに糸で切り離しているものがあり、これについては静止糸切りとした。

甕　体部破片資料を１点図示した（50）。

片口鉢　３点を図示した。卸し目のあるものとないものとがある。

③ **中世土師器**　皿のみ確認できる。

皿　３点図示した。成形・技法の違いにより、手づくね成形とロクロ成形の２つに細分類した。



第 23 図　大沢谷内遺跡５～７区中世土器分類

第２節　土器・陶磁器

A　５　区　上　層

1）遺構出土土器

土　　坑（SK）

SK50（図版 118）　縄文土器の浅鉢もしくは鉢（1・2）を図示した。1 は口縁部破片で、平行の沈線が２条確認できる。外面は赤彩が施され、内外面ともミガキがされている。浅鉢と考える。2 は平行沈線が３条認められ、内外面ともミガキが施されている。

SK61（図版 118）　縄文土器深鉢（3）を図示した。深鉢の体部下位の資料と考えられる。外面は条痕文のち縦位のミガキが観察され、ミガキにより一部条痕文が消されている。内面はケズリ痕を残す。深鉢 B3 類と推測する。

SK70（図版 118）　縄文土器の底部（4）を図示した。

SK115（図版 118）　縄文土器深鉢（5）を図示した。深鉢 A3 類で口縁端部を欠損する。口縁部文様帯には平行

沈線文と浮線文が施され、体部以下は縦位の条痕文が認められる。体部から口縁部にかけて外面にはススが付着する。胎土には海綿骨針を含む。

性格不明遺構（SX）

SX13（図版 118）　土師器高杯（6）を図示した。古墳時代の柱状屈折脚高杯で、脚の裾部を欠損する。杯部は外傾し、口縁端部は尖り気味に収まる。器面の磨滅が激しく調整は不明。

SX46（図版 118）　縄文土器深鉢（7）を図示した。外面には条痕文が認められる。内面には炭化物が付着する。

SX73（図版 118）　縄文土器深鉢（8）を図示した。深鉢Ｃ類。口縁部は有段で、端部は丸みをもって収まる。体部上位は横位や斜位を中心とする条痕文が、体部下位は縦位を主体とする条痕文が認められる。外面は体部上半から端部までススが付着し、内面の一部には炭化物が確認できる。

SX77（図版 119）　縄文土器鉢（9）を図示した。鉢 A2 類。口縁端部から体部上半の破片資料。口縁端部には突起をもち、口縁部文様帯には菱形と三角形をモチーフにした浮線文が、体部上位には斜沈線による綾杉文が施される。内外面ともミガキが行われている。

SX86（図版 119）　縄文土器甕（10）と縄文土器深鉢（11・12）を図示した。10 は甕 B1 類で、肩部と頸部との境で括れたのち頸部が外反してのびる形態で、口縁部は突起をもつ。頸部から肩部にかけては大振りの浮線文が、体部上位には沈線が施されているが、その前の地文である斜位や縦位の細密条痕が口縁部や一部体部で認められる。内面では頸部と口縁部との境に沈線が横方向にのびる。外面にはススが、内面には炭化物が付着する。11 は外面に縦位の条痕文が確認できる。12 は体部下位で、撚糸文Ｒが縦位に施される。

SX91（図版 119）　縄文土器甕（13）を図示した。甕Ｃ類と考える口縁部の破片資料である。口縁部は複合口縁により肥厚し、端部は面をもつ。口縁部には０段の条ｒの撚糸文が斜位に施されている。

SX114（図版 119）　縄文土器甕（14）と縄文土器浅鉢（15・17）、深鉢（16）を図示した。14 は甕Ｃ類と考えられる。口縁部の形態は 13 と同じである。口縁部には横位の沈線が認められる。15 は浅鉢の口縁部破片で、外面には楕円形をモチーフにした浮線文が施され、内面には沈線が１本引かれている。内外面ともミガキが行われる。浅鉢 B1 類。17 は浅鉢 B3 類である。口縁部は無文で、体部上位には三角形や菱形のモチーフが浮線文で施されている。また、文様帯の上下には刻みを巡らす。内外面とも丁寧なミガキが行われている。平底であり、氷Ⅰ式土器の模倣品と考えられる。16 は体部破片で結節回転が施されている。

SX136(図版 119)　縄文土器甕(18)を図示した。甕Ｃ類の頸部から口縁部の破片である。口縁部は肥厚しており、外面には横位の沈線が認められる。内外面ともミガキが行われている。

溝（SD）

SD4（図版 119）　古墳時代の土師器高杯（19）と土師器壺（20）、甕（21）を図示した。19 は柱状屈折脚高杯の裾部破片と考える。20 は口縁部破片、21 は底部の破片資料である。

SD60（図版 120）　縄文土器甕（22）を図示した。甕 B2 類である。10 に類似し、肩部の大振りの浮線文が特徴的な土器である。体部上位には斜沈線が施されている。また、口縁部は単節斜縄文 LR で、斜位や縦位の細密条痕が一部認められる。頸部下半に無文帯がある点は 10 と異なる。外面にスス、内面に炭化物が付着する。内面では頸部と口縁部との境に沈線が横方向にのびる。

5 区 SD99（図版 120）　縄文土器（23）を図示した。鉢と推測する。口縁部には浮線文が認められる。外面にはス、内面には炭化物が付着する。

2）遺構外出土土器（図版 120）

縄文土器（24・26）と古墳時代の土師器甕（25）、須恵器の壺・瓶類（27）、珠洲焼の擂鉢（28）を図示した。24 は口縁部を肥厚させており、口縁端部は押圧により小波状になっている。

（2005 試掘　153T）

５区に位置する 2005 年の試掘坑 153T から出土した縄文土器（29）を図示した。体部下位から底部にかけて

の資料で、深鉢と推測する。外面には縦位の条痕文が施される。

Ｂ　６　区　上　層

土　　坑（SK）

SK56（図版 121）　縄文土器深鉢（36・37）と縄文土器浅鉢（38）を図示した。なお、36・37 は胎土や文様等から同一個体の可能性がある。36 は小型の深鉢 B4 類である。底部を欠損する。口縁部はやや肥厚する。口縁部には単節斜縄文 RL が施される。体部上位には前々段多条による単節斜縄文 LR が認められるとともに、幅の異なる単節斜縄文 LR も認められることから付加条と判断される。その下には同様の文様が向きを 2 回変えて施文されており、羽状縄文の可能性がある。口縁部内面には沈線が巡る。また、内面には炭化物が付着する。37 は底部から体部下位の資料である。体部は摩滅により文様が不鮮明であるが、36 と同様の文様と思われ、同一個体の可能性もある。底面には当地では珍しい網状葉脈の木葉痕が観察される。内面には炭化物が付着する。38 は浅鉢 A 類である。口縁部外面に平行沈線が 2 条巡るほかは無文である。口縁端部は丸く収まる。内外面とも丁寧なミガキが施されている。

SK88（図版 121）　縄文土器深鉢（39）を図示した。深鉢 B4 類。小型の深鉢で、底部を欠損する。口縁部直下には結節回転が施され、体部には単節斜縄文 LR が認められる。貫通しない補修孔が 1 か所で認められる。

SK199（図版 121）　縄文土器深鉢（40）を図示した。深鉢 B4 類。体部は比較的丸みをもって立ち上がり、口縁部は肥厚し、口縁端部は面をもつ。体部上位には結節回転が施される。口縁部と体部には絡条体による 0 段 r の撚糸文が認められ、口縁部は横位に、体部は縦位に施文されている。

性格不明遺構（SX）

SX298（図版 121）　縄文土器浅鉢（41）と縄文土器鉢（42）を図示した。41 は浅鉢 B1 類の口縁部破片と考える。浮線文が施され、浮線文の交点には粘土のつぶがつく。42 は鉢の口縁部破片と推測され、浮線文が施されている。

溝（SD）

SD188（図版 121）　須恵器甕（43）を図示した。外面は平行タタキメ、内面は同心円当て具痕が観察される。

SD190（図版 121）　土師器無台椀（44）と須恵器甕（45 ～ 47）を図示した。44 は底部を欠損する。45 は外面に格子目状のタタキメを、内面に平行当て具痕ののち同心円当て具痕がみられる。46 は口縁部の破片資料で外面に自然釉がかかっている。47 は外面に平行タタキメ、内面に平行当て具痕のち同心円当て具痕が認められる。

SD234（図版 122）　須恵器甕（48）と須恵器壺・瓶類（49）、珠洲焼甕（50）を図示した。48 は外面に格子目状タタキメ、内面に平行当て具痕が観察される。49 は壺・瓶類の高台付近の破片資料である。体部外面には平行タタキメが施される。50 は体部破片資料で、平行タタキメが観察される。

SD236（図版 122）　須恵器甕（51）を図示した。外面平行タタキメ、内面平行当て具痕が認められる。

SD244（図版 122）　土師器無台椀（52・53）、須恵器甕（54・56・57）と須恵器壺・瓶類（55）、白磁の皿（58）と椀（59）を図示した。52・53 は底部の破片資料である。底部切り離しは、52 が回転糸切り、53 が静止糸切りである。54 は外面格子目状タタキメ、内面平行当て具痕、56 は外面平行タタキメ、内面同心円当て具痕、57 は平行タタキメ、内面平行当て具痕が認められる。58・59 は口縁部の破片資料。

SD263（図版 122）　縄文土器（60）を図示した。器形等は不明であるが穿孔が 1 か所で認められる。深鉢か。

SD291（図版 122）　不明土器（61）を図示した。ロクロ成形による土師質土器で透かしが認められる。透かしの全体の形状は不明であるが、直角気味に曲がる角をもつ。

2）遺構外出土土器（図版 122）

古代土師器の無台椀（62）と中世の土師器皿（63・64）を図示した。63 は底部、64 は口縁部の破片資料で、同一個体の可能性もある。63・64 ともにロクロ成形されている。

Ｃ　７　区　上　層

1）遺構出土土器

性格不明遺構（SX）

SX90（図版 123）　土師器無台椀（73）を図示した。底部を欠損する。口縁部はやや肥厚する。

SX119（SN11）（図版 123）　土師器無台椀（74 ～ 80）、土師器小甕（81）、土師器長甕（82）、黒色土器無台椀（83）、須恵器有台杯（84）を図示した。76 は墨書土器である。77 ～ 80 は回転糸切りによる底部切り離し。81 は口縁端部をつまみ上げている。外面にススが、口縁部内面に炭化物が付着する。82 は甕の底部で、尖り気味の丸底である。外面に平行タタキメ、内面に平行当て具痕が認められる。84 は小泊窯跡群産。いずれも春日編年Ⅶ期を中心とする資料と推測する。なお、本遺構は中世の耕作関連遺構（SN11）である。

SX124（図版 123）　土師器無台椀（85）を図示した。口縁端部は外方へ摘んでいる。底部切り離しは回転糸切り。

SX174（図版 123）　土師器無台椀（86）を図示した。全体的に器壁は薄い。口縁端部は外方へ摘まんでいる。底部切り離しは回転糸切り。

SX175（SN12）（図版 123）　土師器無台椀（87 ～ 91）、土師器小甕（92）、黒色土器無台椀（93・94）、黒色土器有台椀（95）を図示した。90 は墨書土器で、体部に「南」という字が逆位に書かれている。89 ～ 91、93・94 は回転糸切による底部切り離しである。95 は高台との接着面に横方向のち縦方向の線刻が認められる。春日編年Ⅶ期を中心とする資料と推測する。なお、本遺構は中世の耕作関連遺構（SN12）である。

SX186（SN10）（図版 123）　土師器無台椀（96 ～ 98）、土師器有台椀（99）、黒色土器無台椀（100･101）を図示した。96・98 は回転糸切りによる底部切り離し。いずれも春日編年Ⅶ期を中心とする資料と推測する。なお、本遺構は中世の耕作関連遺構（SN10）である。

SX189（図版 123）　土師器無台椀（102・103）を図示した。102 は墨書土器であるが、文字は不明。回転糸切りによる底部切り離し。

SX191（図版 123）　土師器無台椀（104･105）を図示した。104 は底部と体部との接合痕が残り、段になっている。104・105 ともに口縁端部を外方へ摘まんでいる。

SX198（図版 123）　土師器無台椀（106）を図示した。底部切り離しは回転糸切り。

SX234（図版 124）　土師器鍋（107）を図示した。口縁部の破片資料である。口縁端部は外方へ摘まむことで段をもつ。端部は丸い。内面では、口縁端部の接合部付近が沈線状に凹む。

溝（SD）

SD27（図版 124）　中世土師器の柱状高台皿（108）と白磁の椀（109・110）を図示した。109 は口縁部及び高台部を欠損する。110 は外面に縦篦花弁文を、内面に櫛目文を施しており、12 世紀後半頃のものと推測される。

SD28（図版 124）　土師器鍋（111）、須恵器長頸壺・瓶類（112）、白磁椀（113）を図示した。111 は直線的に外傾する口縁部で、端部は丸く収まる。113 は白磁椀の口縁部破片資料で、端部は玉縁である。12 世紀と推測する。

SD37（図版 124）　珠洲焼片口鉢（114）を図示した。内面には卸し目が確認される。底部の切り離しは静止糸切りである。内外面にアスファルトが付着している。

SD85（図版 124）　黒色土器有台椀（115）を図示した。底部の切り離しは回転糸切り。

SD86（図版 124）　土師器無台椀（116）、黒色土器無台椀（117）を図示した。116 はシャープな作りで、口縁端部は摘んで尖り気味に丸く収めている。117 は口縁端部を外方へ摘み出して、丸く収めている。

SD89（図版 124）　土師器無台椀（118）を図示した。底部切り離しは回転糸切り。

SD94（図版 124）　土師器長甕（119）を図示した。口縁部の破片資料である。口縁部から頸部は内湾気味の器形で、口縁端部は上方へ摘まれているとともに下垂している。

SD100（図版 124）　土師器長甕（120）を図示した。口縁部の破片資料である。
SD110（図版 124）　土師器無台椀（121）を図示した。口縁端部は下のヨコナデによってやや肥厚している。底部切り離しは回転糸切り。
SD111（図版 124）　須恵器の無台杯（122）と有台杯（123）、灰釉陶器椀（124）を図示した。122 は口縁端部を欠損する。底部切り離しは回転ヘラ切り。
SD168（図版 124）　土師器の無台椀（125・126）と小甕（127）、黒色土器無台椀（128）、須恵器無台杯（129）を図示した。125 はシャープな作りで、口縁端部を外方へ摘まみ出している。125・126 とも底部切り離しは回転糸切り。127 は平底で、底面に回転糸切り痕が認められる。128 は口縁端部を外方へ摘まみ出している。129 は小泊窯跡群産で、底部切り離しは回転ヘラ切り。
SD182（図版 124）　土師器無台椀（130）を図示した。底部切り離しは回転糸切り。

2）遺構外出土土器（図版 124・125）

土師器の無台椀（131）と鍋（132）、小甕（133）、須恵器の有台杯（134･135）、緑釉陶器（136）、青磁の椀（137･139）、灰釉陶器の椀（138）、白磁の椀（140）、珠洲焼の片口鉢（141･143）、中世土師器の皿（142）を図示した。

133 は内面に炭化物が付着する。136 は破片のため全体の器形は不明であるが、壺・瓶類と推測する。139 は高台から底部の破片である。底部内面には渦巻や花弁のような意匠が認められる。なお、底面を除き釉薬が確認できる。また、破面からは意図的に打ち欠いた可能性もある。12 世紀後半頃のものと推測される。140 は口縁端部の破片である。白磁の椀としたが、皿となる可能性もある。141 は内面に 1 単位 7 条の卸し目が認められる。また、内面及び破面の一部にはアスファルトの付着が認められる。143 は口縁部の形態から吉岡編年のⅣ期くらいと考える。142 は手づくね成形の土師器皿である。

D　6 区下層上面

1）遺構出土土器

竪　穴　建　物（SI）

SI93（図版 127）　縄文土器の甕（170・171）と鉢（172）、体部破片（173）と底部（174）を図示した。

170 は甕 A 類である。口縁端部の残存率は約 2/5 で、突起を 1 つ確認できる。同一個体と考える破片にも突起が 1 つあることから、少なくとも 2 つの突起をもつと考えられる。外反する頸部から口縁部は肥厚し、端部は面をもつ。口縁部及び頸部と体部との境界には結節回転が、体部上位には縦位の条痕文が施される。頸部は無文である。外面にはススが、体部内面には炭化物が付着する。171 も甕 A 類と推測する。170 と同様、口縁部は肥厚し、端部は面をもつ。口縁部外面には結節回転が施される。

172 は鉢もしくは浅鉢と推測する。口縁部には平行沈線が 2 条認められ、端部は尖り気味に収まる。内外面ともミガキが行われている。173・174 は、外面に縦位の条痕文が認められる。

SI262（図版 127）　縄文土器の浅鉢もしくは鉢（175）と深鉢（176）を図示した。175 は口縁部の破片資料で、浮線文が施される。176 は網目状撚糸文 R が認められる。

土　　坑（SK）

SK152（図版 127）　縄文土器深鉢（177）を図示した。体部の破片資料で、全体に縦位の条痕文が確認できる。外面にスス、内面に炭化物が付着する。

SK257（図版 127）　縄文土器壺（178）を図示した。口縁部を欠損する。頸部には単節斜縄文 LR が、肩部から体部上位には単節斜縄文 LR の縄文が方向を変えて施文されており、さらに肩部には浮線文が見られ、対置する 4 方向に粘土の粒をもつ。外面には赤彩は認められないが、ススが付着する。また、内面及び破面に漆が付着する。口縁部が欠けた土器を漆の貯蔵具として利用した可能性がある。

SK383（図版 127）　縄文土器の浅鉢もしくは鉢（179）を図示した。口縁部の破片資料で浮線文が施されている。

内外面とも丁寧なミガキが行われている。

SK406（図版 127）　縄文土器（180）を図示した。器面の磨滅もあり文様等は不明である。内面には炭化物が付着する。

SK632（図版 127）　縄文土器の底部（181）を図示した。底部から体部下半にかけての資料で、体部外面にはミガキが認められる。壺もしくは甕と推測する。

SK863（図版 127）　縄文土器の体部破片（182）を図示した。網目状撚糸文 R が施されている。

性格不明遺構（SX）

SX416（図版 127）　縄文土器の体部破片（183）と深鉢（184）を図示した。183 は外面に結節回転が認められる。184 は深鉢 B2 類で底部を欠損する。口縁部は直下をヨコナデすることで肥厚させており、口縁端部は丸く収まる。口縁部には沈線による斜位の沈線が約 36° ごとに 10 区画で方向を変えて鋸歯文状に描かれる。なお、口縁部では沈線が引かれる前の地文である単節斜縄文 RL が一部で確認できる。また、体部上位には結節回転が 4 段、体部下位には網目状撚糸文 R が縦位に施されている。網目状撚糸文の場所には絡条体の両端部による縦方向の痕や縄の結束部分の凹みの痕が網目と合致する形で認められ、絡条体の幅や縄の巻き方が復元でき、絡状体の幅は指 3 本分（約 3cm）程の間隔であったことが分かる（写真図版 144）。外面にはススが付着するが、特に体部上位から口縁部にかけてより顕著である。

SX733（図版 128）　縄文土器浅鉢（185）を図示した。浅鉢 B2 類である。口縁端部は面を持ち、口縁部には平行沈線が 4 条施される。器壁は厚いつくりである。外面にはミガキが行われている。内面の体部上位には炭化物が帯状に巡っている。

溝（SD）

SD259（図版 128）　縄文土器の深鉢（186）と甕（187）、鉢もしくは甕（188）、体部破片（189）、底部（190）を図示した。186 は深鉢 B 類で、内傾する口縁部は肥厚し、端部は尖り気味に丸く収める。体部上位には結節回転 LR が 3 段施されている。外面にはススが、内面には炭化物が付着する。187 は甕の口縁端部と推測する。平行沈線 1 本とその下に斜沈線が認められる。188 は斜沈線が認められる。187 と同一個体の可能性もある。189 は縦位の条痕文が認められる。190 は底部の破片である。底面は器面の磨滅が激しいが、線刻が 1 条確認でき、平行葉脈の木葉痕と推測される。

SD290（図版 128）　縄文土器の鉢（191）と体部破片（192 ～ 194）を図示した。191 は鉢 B 類で、内傾する体部から口縁部が短く上方へのびる。口縁部の下をヨコナデすることで口縁部を肥厚させており、端部は尖り気味に丸く収める。口縁部には横位の撚糸文 R を、体部上位には結節回転が 3 段施されている。外面にはススが、内面には炭化物が付着する。192 ～ 194 では縦位または斜位の条痕文が認められる。

SD593（図版 128）　縄文土器（195・196）を図示した。195 は体部破片で、撚糸文 R が縦位に施されている。196 は底部資料である。

SD600（図版 128）　縄文時代の体部破片（197）と底部（198）、深鉢（199・200）を図示した。197 は網目状撚糸文 R が認められる。199 は口縁部から体部の破片資料である。口縁部は肥厚し、端部は摘まみ上げて丸く収まる。体部上位には結節回転が 3 段施され、口縁部には 0 段の条 r が斜位に施された後、ナデやミガキによって不明瞭となっている。体部下位には無節の斜縄文 R と縦方向に結節回転が認められる。200 は深鉢 B3 類である。口縁部は肥厚し、端部は丸く収まる。体部上位には櫛目状工具によるとみられる結節回転文風の文様が 2 段描かれている（写真図版 144）。また、接合はしないが同一個体と考えられる体部下位には、一部で粗雑な繊維を使った無節の細い縦位の条を確認できるが、その多くはその後のミガキにより消えている。なお、外面では体部上位から口縁部を主体としてススが、内面には炭化物が付着している。

炭化物集中遺構（SC）

SC174（図版 129）　縄文土器の深鉢（201・202）と体部破片（203・204）、底部（205・206）を図示した。201

は体部から口縁部にかけてスムーズにのびる器形で、文様構成によって口縁部と体部とを分けている。口縁端部は丸く収まる。口縁部には横位の条痕文が認められ、体部には縦位の条痕文を施す。外面にはススが、内面には炭化物が付着する。202 は深鉢Ｂ類である。口縁部は肥厚し、端部は尖り気味に丸く収まる。口縁部には横位に網目状撚糸文Ｒを、体部上位には結節回転を少なくとも 3 条施している。203 は網目状撚糸文Ｒが、204 は条痕文が認められる。205 は底部から体部にかけて鋭く外反気味に立ち上がる器形で、内外面に比較的丁寧なミガキが認められることから壺の底部と推測する。206 は外面にススが、内面に炭化物が付着している。

SC687（図版 129） 縄文土器の浅鉢もしくは鉢（207）を図示した。肥厚する口縁部は内傾し、口縁端部は丸く収まる。口縁部にはやや幅のある斜位の沈線が巡るが、184 の口縁部と同様向きを変えることによって鋸歯状に描かれている。また、体部には横位に沈線あるいは条痕が認められる。

SC879（図版 129） 縄文土器深鉢（208）を図示した。小型の深鉢で深鉢 A4 類である。内傾する口縁部は肥厚させ、口縁端部を摘まんで丸く収める。口縁部には無節Ｒの撚糸文が斜位に施文され、体部上位には比較的太い沈線によって横長楕円状の工字文が描かれる。体部上位と下位との境には結節回転が、体部下位には無節Ｒの撚糸文が横位や斜位に施されているほか、体部下位の中ほどには斜位に走る結節回転も行われている。内面及び工字文のある体部上位外面で特に丁寧なミガキが行われていることから、工字文の部分を特に重視して作ったことが推測される。

小　土　坑（P）

P789（図版 129） 縄文土器深鉢（209）を図示した。深鉢 B4 類と考える。口縁部は肥厚し、口縁端部は丸く収まる。口縁部には単節斜縄文 RL を斜位に施し、体部上位には結節回転が 4 段行われ、体部下位では RL 縄文と LR 縄文を対称の方向に施す。

2）遺構外出土土器（図版 129）

縄文土器の鉢（210）と鉢もしくは甕（211）、甕（212）、破片資料（213 ～ 217）、底部（218 ～ 220）を図示した。210 は鉢Ｂ類である。口縁端部は尖り気味に丸く収める。口縁部には撚糸文Ｒが横位に施文され、体部上位には結節回転が 2 段確認できる。また補修孔が 1 か所認められる。外面にはススが、内面には炭化物が付着する。211 は口縁部の破片で、207 と同様に斜位の沈線が認められる。212 では平行沈線とその下に斜沈線が確認できる。213 は条痕文が確認できる。214 は結節回転と縦位の撚糸文Ｒが確認できる。215 は条痕文が施されている。216 では浮線文が認められる。

Ｅ　6 区下層中面

1）遺構出土土器

土　　坑（SK）

SK748（図版 131）縄文土器の甕もしくは深鉢（234）を図示した。口縁部は肥厚し、網目状撚糸文Ｒが認められる。

SK790（図版 131） 縄文土器の鉢（235）を図示した。鉢 A2 類。口縁部は山形突起をもつ。口縁部には浮線文が施され、上位沈線文の交点は口縁端部につながる。内外面ともにミガキが行われている。

SK817（図版 131） 縄文土器の体部破片（236）を図示した。条痕文が確認される。

SK834（図版 131） 縄文土器深鉢（237・238）を図示した。237・238 ともに網目状撚糸文Ｒが施されている。

SK875（図版 131） 縄文土器浅鉢の口縁部資料（239・240）を図示した。239 は浅鉢Ｂ類と推測する。どちらも浮線文が施された口縁部資料と考えられる。

SK876（図版 131） 縄文土器の体部資料（241 ～ 244）と底部（245）を図示した。241 は甕Ｂ類と推測する。肩部には隆帯を巡らし、隆帯部には網目状撚糸文Ｒが施されている。体部には結節回転が認められる。外面にはススが付着する。242 は網目状撚糸文Ｒと結節回転が認められ、胎土などから 241 と同一個体の可能性がある。243 は結節回転と単節斜縄文 RL が認められる。244 は網目状撚糸文Ｒが認められる。

SK968（図版 131）　縄文土器深鉢（246）と体部破片（247）を図示した。246 は深鉢 B4 類。口縁部の遺存率は約 1/2 である。口縁部はわずかに肥厚し、端部は尖り気味に丸く収める。口縁部から底部にかけて網目状撚糸文 R を施すが、底部外面については横位のケズリによって文様が消えている。なお、体部上位において補修孔が斜めの位置関係で 2 か所認められる。また、体部では一部で絡状体の末端や縄の結束部の痕跡が確認でき、絡条体における縄の結束が約 2cm 間隔で行われていたことや、絡状体を 1 回転するのに幅約 2.5 ～ 3cm を要することなどがわかる。247 は網目状撚糸文 R が確認できる。

SK995（図版 131）　縄文土器の鉢（248）と深鉢（249）を図示した。248 は鉢 A1 類である。口縁端部は丸く収まる。器面の剥落や磨滅により不明な点が多いが、口縁部や体部下位には単節斜縄文 LR が認められ、その後、口縁部には浮線文が施されている。また、体部上位には結節回転も認められる。外面にはススが、内面の口縁部から体部上位には炭化物が付着する。

249 は深鉢 B2 類である。口縁部の遺存率は約 3/4 である。口縁部直下をヨコナデすることで口縁部を肥厚させている。口縁端部は丸く収まる。口縁部には横位に網目状撚糸文 R を、体部上位には上から結節回転 2 段、横位の網目状撚糸文 R、一部 0 段の条 r、結節回転 2 段を、体部下位には縦位の網目状撚糸文 R を施文している。口縁部から体部上位外面にはススが、内面には炭化物が付着する。

性格不明遺構（SX）

SX750（図版 131）　縄文土器の体部資料（250）を図示した。網目状撚糸文 R が認められる。

SX763（図版 131）　縄文土器の体部資料（251）を図示した。沈線と網目状撚糸文 R が認められる。

SX867（図版 131）　縄文土器の体部資料(252 ～ 254)を図示した。252 ～ 254 では網目状撚糸文 R が確認できる。

炭化物集中遺構（SC）

SC783（図版 132）　縄文土器（255）を図示した。沈線が確認できる。

小　土　坑（P）

P768（図版 132）　縄文土器の口縁部（256）を図示した。口縁端部は丸く収まる。器面の摩滅が激しく文様は不明な点が多いが、網目状撚糸文と推定される。

P846(図版 132)　縄文土器(257)を図示した。結節回転と網目状撚糸文 R が認められる。深鉢 B2 類と推測する。

P885（図版 132）　縄文土器（258）を図示した。網目状撚糸文 R が認められる。

2）遺構外出土土器（図版 132・133）

縄文土器の鉢（259）、浅鉢もしくは鉢（262・263）、壺（269・274）、甕もしくは深鉢（270）、深鉢（260・261、264 ～ 268、278・296）、破片資料（271 ～ 273、275 ～ 277、279 ～ 295）、底部資料（297 ～ 299）を図示した。

259 は鉢 A3 類。体部からやや内傾する口縁部まで内湾しながらそのまま丸く収まる。無文土器で、内外面にはミガキが認められる。補修孔と推測される未貫通の孔が 1 か所認められる。外面にスス、内面に炭化物が認められる。

260 は深鉢 A1 類。口縁端部は丸く収まる形状で、肥厚する口縁部下端に刺突を巡らす。口縁部には網目状撚糸文 R を、体部上位には結節回転を 4 条、体部下位には縦位に網目状撚糸文 R を施文する。一部で縄の結束部の凹みが確認できる。内面では一部で炭化物の付着が認められる。

261 は深鉢 A3 類。口縁部には撚糸文 r が横位に施され、その後浮線文を施文している。口縁部直下には結節回転を行い、体部については撚糸文 r を縦位に施文している。262 は口縁部の破片資料で端部は面を持つ。263 は口縁部の破片で、浮線文が施される。264 は深鉢で、口縁部に網目状撚糸文 R、体部に結節回転が 2 段認められる。265 は口縁部に網目状撚糸文 R を施す。266 は口縁部に単節斜縄文 LR、体部に結節回転が 3 段確認できる。267 は口縁部に横位・斜位の条痕文が、体部に結節回転 2 段が施されている。268 は口縁部と体部との境に沈線が引かれ、口縁部は撚糸文 R が行われている。269 は壺の口縁部と考える。楕円形の浮線文が認められる。270 は口縁部に網目状撚糸文 R を施し、体部上位には沈線が引かれている。271 ～ 273、278・279・

285・286・288・289 には網目状撚糸文Ｒが認められる。274 は壺で、口縁部を欠損する。肩部に横長楕円状の浮線文を施し、浮線文の交点に粒をもつ。体部にはススが付着する。275・276 は口縁部の破片で、浮線文が認められる。277 は縦位の結節回転と無節斜縄文Ｒが認められる。280 は横位の結節回転文の下に単節斜縄文ＲＬと縦位の結節回転文を施す。281 は結節回転が３段確認できる。282 は結節回転が確認される。283 は単節斜縄文ＲＬと縦位の結節回転が認められる。284 は単節斜縄文ＲＬと無節斜縄文Ｒが認められる。287 は結節回転が２段認められるほか、条痕も確認できる。290・292 は条痕文を有す。291 は結節回転と単節斜縄文ＲＬが施される。293 は単節斜縄文ＲＬが認められる。294 は底部付近の破片で、網目状撚糸文Ｒが認められる。296 は深鉢の体部下位の破片資料である。網目状撚糸文Ｒが施されている。297 は底面に網代状圧痕を有す。299 は網目状撚糸文Ｒを施す。

Ｆ　６区下層下面

１）遺構出土土器

掘立柱建物（SB）

SB1（P1099）（図版 134）　縄文土器の浅鉢もしくは鉢（302）を図示した。

SB11（P1131）（図版 134）　縄文土器浅鉢（303）を図示した。浅鉢Ｂ1 類である。底部を欠損する。体部上位には浮線文が施される。口縁部の突起は約 10°ごとに配置され、１周計 33 個つくられている。口縁端部は内側へ摘まんで丸く収めている。補修孔が１か所で認められる。

SB12（P1070）（図版 134）　縄文土器（304）を図示した。体部下位の破片資料である。

土　　坑（SK）

SK933（図版 134）　縄文土器深鉢（305）を図示した。深鉢Ａ2 類である。口縁部は肥厚し、端部は丸く収める。口縁部には横位の網目状撚糸文Ｒを、体部上位には上から結節回転２段、横長楕円状の浮線文、結節回転２段を、体部下位には縦位に網目状撚糸文Ｒを施す。補修孔が２か所で認められる。なお、外面にはススが、内面には炭化物が付着する。

SK977（図版 134）　縄文土器の浅鉢（306）と鉢（307）を図示した。306 は浅鉢Ｂ1 類か。肥厚した口縁部は内傾して尖り気味に端部が収まる。口縁部には０段の条ｒが斜位に施されている。体部には浮線文を有す。307 は口縁部から体部と底部の資料であり、胎土などから同一個体と判断できるが接合しない。小振りの無文土器であり、内外面とも丁寧なミガキが施されている。鉢Ａ4 類とした。胎土は橙色が強い特徴的な色調で、精良である。口縁端部は内側に摘まむことで内傾し稜を持つ。底部は平底である。

SK983（図版 134）　縄文土器（308）を図示した。網目状撚糸文Ｒが認められる。

SK984（図版 134）　縄文土器深鉢（309）を図示した。深鉢Ａ2 類である。口縁部の下をヨコナデし、口縁部を肥厚させている。口縁端部は上方へ摘まんでいる。口縁部には網目状撚糸文Ｒを、体部上位には上から結節回転、平行沈線２条、結節回転、平行沈線３条、結節回転、平行沈線２条を施す。体部下位には縦位に網目状撚糸文Ｒを行い、その後一部ナデが行われることにより消えている。体部上位において未貫通の補修孔が１か所確認できる（写真図版 144）。なお、未貫通の補修孔は本報告の５～７区の縄文土器において３例確認できる（39・259・309）。口縁部内面には接合痕が認められる。

SK987（図版 134）　縄文土器の底部（310）を図示した。外面に網目状撚糸文Ｒを確認できる。

SK1052（図版 134）　縄文土器の浅鉢（311・312）と破片資料（313）を図示した。311 は山形の突起を持ち、口縁部に浮線文が施される。312 は口縁部の資料で、浮線文が施されている。313 は浮線文が認められる。

SK1076（図版 134）　縄文土器（314～316）を図示した。314 は底部から体部下位にかけての破片資料である。底部内面に炭化物が付着する。315 は浮線文に伴うと考えられる沈線が１条確認できる。内外面とも丁寧なミガキが行われている。浅鉢もしくは壺の可能性がある。316 は網目状撚糸文Ｒが確認できる。

SK1138（図版 135）　縄文土器甕（317）を図示した。外傾する頸部で、口縁部には浮線文を施し、端部は面を持つ。浮線文の交点は口縁端部とつながる。334 と同一個体の可能性がある。

SK1160（図版 135）　縄文土器（318）を図示した。結節回転が認められる。

SK1189（図版 135）　縄文土器の深鉢（319・320・327）と体部資料（321 ～ 325）、底部資料（326）を図示した。

319 は深鉢 B2 類である。口縁部は肥厚し、端部は丸く収まる。口縁部には横位の網目状撚糸文 R を、体部上位には結節回転を 4 段行い、体部下位には縦位に網目状撚糸文 R を施す。外面にはススが、内面には炭化物が付着する。320 は口縁部の破片資料で、口縁部には単節斜縄文 RL が施されている。321・324・325 には網目状撚糸文 R が確認できる。322 は結節回転が認められる。323 は単節斜縄文 RL が施されている。326 は内面に炭化物が付着する。327 は内湾する体部から口縁部が肥厚し、内傾した端部が丸く収まる。深鉢 B4 類。口縁部は単節斜縄文 RL を、体部上位には結節回転を 3 段、体部下位には左右と上下でそれぞれ対称となる羽状縄文（左上 LR・右上 RL・右下 RL・左下 LR）が施されている。外面にはススが、内面には炭化物が付着する。

性格不明遺構（SX）

SX1056（図版 135）　縄文土器（328 ～ 330）を図示した。328 では網目状撚糸文 R が確認される。329 は単節斜縄文 LR が認められ、沈線が入組文状に描かれる。330 は沈線が 3 条確認される。

SX1120（図版 135）　縄文土器深鉢（331）を図示した。331 は深鉢 A1 類で、小型の深鉢である。口縁端部は尖り気味に丸く収まる。口縁部には上から平行沈線 2 条、その下に円形の刺突を巡らし、さらにその下に沈線が 2 条引かれている。体部には全面に縦位の網目状撚糸文 R が施文される。口縁部直下で補修孔が 1 か所確認できる。外面にスス、内面に炭化物が付着する。また、内面の口縁部と体部との境には接合痕が認められる。

炭化物集中遺構（SC）

SC930（図版 135）　縄文土器（332）を図示した。外面には絡条体による撚糸文 R が縦位に施されている。

SC940（図版 135）　縄文土器（333）を図示した。口縁部を欠損するが、体部から口縁部への内面の屈曲が強い。外面には結節回転が 3 段確認でき、その下には縦位の撚糸文 R が認められる。

SC1107（図版 135）　縄文土器の甕（334）と深鉢（335・336）、鉢（339）、破片資料（337・338）を図示した。334 は甕 B2 類で、口縁部と体部上位に浮線文を施すが、頸部は無文である。口縁部の浮線文の交点は口縁端部とつながる。外面にススが付着する。317 と同一個体の可能性がある。335・336 は同一個体の可能性があり、口縁部には網目状撚糸文 R が認められる。337 は単軸絡状体による撚糸文 0 段 r が縦位に施されている。338 は撚糸文 R が確認できる。339 は深鉢 A4 類と推測する。外面に沈線と単節斜縄文 LR が確認できる。329 と同一個体の可能性もある。

SC1153（図版 135）　縄文土器（340）を図示した。外面に 0 段 r 撚糸文が縦位に施されている。

SC1179（図版 135）　縄文土器（341）を図示した。外面に撚糸文 R が縦位に施されている。

焼土集中遺構（F）

F402（図版 135）　縄文土器の深鉢（342）、浅鉢もしくは鉢（343）、縄文土器の鉢もしくは甕（344）、深鉢（345）、体部破片（346）を図示した。

342 は、口縁部直下を横にナデて口縁部を肥厚させ、端部を尖らせ気味に丸く収めている。体部上位には結節回転を行い、体部下位には網目状撚糸文 R を施す。343 は口縁部破片で、浮線文が施されている。344 は口縁部破片で、0 段の条 r が横位に施される。口縁部が反り気味になることから突起をもつ可能性がある。345 は肥厚する口縁部で端部を丸く収める。口縁部には単節斜縄文 RL が、口縁部直下には結節回転が 2 段確認できる。346 は結節回転が 3 段確認できる。

F921（図版 136）　縄文土器深鉢（347）を図示した。深鉢 B1 類。口縁部は肥厚し、内傾して丸く収まる。口縁部と体部下位には絡条体による 0 段 r の撚糸文が斜位に施され、体部上位には結節回転が 4 段認められる。また、体部下位では撚糸文間に絡条体の木目が観察できる（写真図版 144）。一部外面にはススが、内面には炭化物が付

着する。

F1055（図版 135）　縄文土器深鉢（348）を図示した。口縁端部を欠損する。口縁部は磨滅が激しいが、網目状撚糸文Ｒが一部で認められる。体部には結節回転が２段確認できる。

F1130（図版 135）　縄文土器（349）を図示した。絡条体による無節Ｒの撚糸文が縦位に施されている。

F1198（図版 135・136）　縄文土器（350 ～ 354）を図示した。350 は網目状撚糸文Ｒが認められる。胎土はⅢa 類で、真珠岩を含んだ典型的な角田山麓の土器の胎土といえる（写真図版 144）。351 は絡条体による無節Ｌの撚糸文が縦位に施されている。352 は結節回転が認められる。353 は単節斜縄文 RL が認められる。354 は深鉢 B4 類と考える。体部上位では結節回転が２段認められる他、体部下位では単節斜縄文 RL を施した後、縦位の結節回転を間隔を空けて施文している。

２）遺構外出土土器（図版 136）

縄文土器の深鉢（355 ～ 361、375）と壺（362）、体部資料（363 ～ 374）、底部資料（376 ～ 378）を図示した。

355 は深鉢 B2 類。口縁部と体部下位に網目状撚糸文Ｒを、体部上位に結節回転を２段施している。356 は口縁部で無節斜縄文Ｒを、体部上位で結節回転を３段確認できる。357 は口縁部で無節斜縄文Ｒが認められる。358 は口縁部で無節斜縄文Ｒが認められる。359 は口縁部で０段ｒの撚糸文が横位に施されている。360 は口縁部に０段ｒの撚糸文が横位に施されるとともに突起をもつ。体部には浮線文が認められる。また、補修孔が１か所で確認できる。361 は口縁部に網目状撚糸文Ｒが施され、体部には結節回転が認められる。362 は壺の肩部から頸部への屈曲部にあたる。肩部の外面上端には平行沈線が１条認められる。363・365・367 ～ 371・373・377 は外面に網目状撚糸文Ｒが施されている。364 は結節回転が２段確認できる。366 の外面には絡条体による無節Ｒの撚糸文が縦位に施されている。372 は結節回転と網目状撚糸文Ｒが認められる。374 は撚糸文Ｒが横位と縦位で施されている。375 は器形や文様などから深鉢 A4 類と推測される。浮線文が施され、内外面とも丁寧に磨かれている。378 は縦位の撚糸文Ｒが確認できる。

Ｇ７区下層

１）遺構出土土器

性格不明遺構（SX）

SX77（図版 125）　縄文土器の底部（144）を図示した。体部下半には縦位の条痕文が施されている。また、体部と底部との境界付近は横位のケズリが行われている。底面には笹葉状の平行葉脈圧痕が認められる。

第３節　石器・石製品

以下、石器・石製品について調査区・層位別に記載する。６区下層は縄文時代に限定できるほか、検出遺構や出土遺物などから、７区上層は基本古代・中世に属すと考えられる。５区と６区上層は両時代を含む可能性がある。なお、古代・中世の砥石については１～４区での分類〔細野・伊比ほか 2012〕に準拠し、以下の通りとする。

Ａ類：板状のもの。

Ｂ類：四～多角柱状のもの。

　Ｂ1 類：手に持って使用可能な小型のもの。

　Ｂ2 類：大型で置いて使用されたと推定できるもの。

Ｃ類：素材礫の形状を生かしたもの。

　Ｃ1 類：手に持って使用可能な小型のもの。

　Ｃ2 類：大型で置いて使用されたと推定できるもの。

Ⅰ類：荒い砂岩など荒砥と推定されるもの。

Ⅱ類：流紋岩や中粒の砂岩・凝灰岩など中砥と推定されるもの。

Ⅲ類：細粒の凝灰岩など仕上砥と推定されるもの。

Ａ　５　区　上　層

1）遺構出土石器・石製品

性格不明遺構（SX）

SX86（図版 120）　自然礫（30・31）と石核（32）を図示した。30 の石材は玉髄で、31 の石材は玉髄もしくは石英と考える。32 の石材は珪質頁岩。

小　土　坑（P）

P139（図版 120）　自然礫（33）を図示した。石材はチャート。

2）遺構外出土石器・石製品（図版 120・122）

砥石（34･35）を図示した。34 は板状の形状で長軸側の両端を欠損する。A－Ⅱ類で長側面 4 面に砥面が残る。石材は凝灰岩。35 は B1－Ⅲ類。直方体状を呈し、長側面 3 面に砥面が確認できる。石材は凝灰岩で、仕上砥に使用したと推測される。

Ｂ　６　区　上　層

1）遺構出土石器・石製品

性格不明遺構（SX）

SX442（図版 122）　剥片（65 ～ 69）を図示した。石材は、65・67・69 が玉髄で、66・68 が頁岩と考える。

2）遺構外出土石器・石製品（図版 120・122）

砥石（70・71）を図示した。70 は B1－Ⅰ類である。欠損部を除いて砥面が残る。研面には使用時に付いた可能性のある線状の削痕が認められる。石材は砂岩で荒砥に使用されたと推測する。71 は B1－Ⅱ類である。直方体状を呈し、長側面 4 面に砥面が確認できる。石材はデーサイトで、中砥用に使用されたと推測する。

Ｃ　７　区　上　層

1）遺構出土石器・石製品

性格不明遺構（SX）

SX48（図版 125）　砥石（145）を図示した。C2－Ⅱ類。不整形な形状を呈し、器面は凹凸が激しい。砥面は比較的凹凸の少ない 2 面で確認される。比較的大型で、置き砥石として利用されたと推測される。石材は流紋岩。

SX67（図版 125）　石鏃（146）を図示した。完形資料である。基部は尖る。基部と体部との境付近にアスファルトが付着する。石材は頁岩である。

SX175（図版 125）　自然礫（147）を図示した。石材は玉髄もしくは石英。

SX176（図版 125）　剥片（148）を図示した。石材は珪質頁岩。

溝（SD）

SD28（図版 125）　砥石（149 ～ 151）を図示した。149 は 1 面に砥面が認められる。C2－Ⅰ類。石材は砂岩で、置き砥石と推測される。150 は直方体状を呈し、A－Ⅲ類。長側面 4 面に砥面が確認できる。石材は凝灰岩で粒子が細かい。仕上砥に使用したと推測される。151 は C2－Ⅲ類。断面は楕円形状を呈し、長側面では欠損部分を除いて全体的に研面が認められる。石材は砂岩。置き砥石と推測される。

SD49（図版 125）　152 は平・断面が楕円形状を呈する。一部で線状痕が確認できることから砥石と推測する。C1－Ⅰ類か。石材は砂岩。

SD100（図版 125）　砥石（153）を図示した。丸みを有した不整形を呈する。C2－Ⅱ類。欠損で平らになった面

を下にし、置き砥石として利用したと推測され、長側面では欠損部分を除いて砥面が全体に認められる。また、短側面の１面では敲打痕も認められ、砥ぐ用途以外での使用も推測される。なお、砥面中央の長軸方向には黒色に変色している部分が認められる。石材は砂岩。

２）遺構外出土石器・石製品（図版 126）

磨石・敲石類（154・156・159）、砥石（155・157・158・161 ～ 163）、軽石（160）を図示した。154 は完形で、平・断面が楕円形状を呈する。石材は凝灰岩。155 は B1－Ⅲ類。直方体状を呈し、短側面の一方は丸く収束している。長側面４面及び短側面の収束する部分で砥面が確認できる。手持ち用砥石と推測される。石材は凝灰岩。156 は完形で、石材は凝灰岩。157 は C1－Ⅱ類。手持ちとしても置き砥石としても利用できる大きさである。石材は砂岩。158 は B1－Ⅱ類。略完形である。平面は三角、断面は直方体状を呈する。長側面４面で砥面を確認できる。手持ち用砥石として利用したと推測される。石材は緑色凝灰岩。159 は平面円形、断面楕円形状を呈する。全体的に磨面が残る。石材は安山岩。161 は B1－Ⅲ類。直方体状を呈し、長側面４面で砥面が確認される。石材は凝灰岩。162 は B1－Ⅱ類。石材は流紋岩。全体的に研面を残す。163 は B1－Ⅲ類。欠損部分が多いが、長側面３面で砥面を確認できる。石材は凝灰岩。

Ｄ　６区下層上面

１）遺構出土石器・石製品

竪　穴　住　居（SI）

SI93（図版 130）　磨石・敲石類（221）と剥片（222）を図示した。221 は不整形な礫の先端２か所及び側面に敲打痕をもつ。石材は流紋岩。222 の石材は珪質頁岩。

性格不明遺構

SX733（図版 130）　磨石・敲石類（223）を図示した。不整形な礫の先端に磨痕をもつ。石材は花崗岩である。

炭化物集中遺構（SC）

SC271（図版 130）　磨石・敲石類（224）を図示した。風化が進み不明瞭であるが、片面に凹みが認められる。石材は泥岩。

焼土集中遺構（F）

F204（図版 130）　石鏃（225）を図示した。完形品である。石材は頁岩。

２）遺構外出土石器・石製品（図版 130）

台石（226）と磨石・敲石類（228 ～ 232）、石鏃（233）、礫（227）を図示した。

226 は、凹凸のある不整形な形状で、一部で磨面が確認できる。石材は砂岩。227 は部分的に欠損が認められる礫である。石材は泥岩。表面の摩耗が激しい。228 は楕円形状を呈し、側面を中心に磨面が認められる。石材は砂岩。229 は不整形な楕円状を呈し広い範囲で磨面が見られる。石材は泥岩。230 ～ 232 は一部に磨面が認められる。石材は 230・231 が砂岩、232 が花崗岩である。233 は石鏃の完形品で、基部の抉れ部分にアスファルトが付着している。石材は玉髄もしくは石英と考える。

Ｅ　６区下層中面

１）遺構出土石器・石製品

性格不明遺構（SX）

SX639（図版 133）　磨石・敲石類（300）を図示した。扁平な楕円形状を呈し、礫の両面に磨面が認められる。石材は花崗岩である。

２）遺構外出土石器・石製品（図版 133）

石鏃（301）を図示した。基部や先端部を欠損する。石材は玉髄。

Ｆ　６区下層下面

1）遺構出土石器・石製品

掘立柱建物（SB）

SB3（P974）（図版 137）　磨石・敲石類（379・380）を図示した。379 は不整な楕円形状を呈する。全体的に磨面が確認できるほか、一部敲打痕も認められる。石材は砂岩。380 は楕円形状を呈し、全体的に磨面が認められる。石材は流紋岩。

土　　坑（SK）

SK961（図版 137）　台石（381）を図示した。楕円形状を呈し、両面に磨面をもつ。石材は花崗岩である。

SK977（図版 138）磨石・敲石類（382）を図示した。長側面 3 面で磨面と敲打痕を確認できる。石材は砂岩。

SK986（図版 137）台石（383）を図示した。扁平な円盤形状を呈するが、半分程欠損する。両面で磨面が認められる。石材は砂岩。

SK999（図版 137）　石鏃（384）を図示した。完形品である。石材は石英。基部にアスファルトが付着する。

SK1058（図版 138）　台石（385）を図示した。扁平な楕円形状を呈し、両面に磨面をもつ。削痕が 1 条巡る。石材は砂岩と考える。

SK1061（図版 138）　台石（386）を図示した。扁平な楕円形状を呈する。両面に磨面が確認できる。石材はアプライト。

SK1134(図版 139）　台石(387)を図示した。扁平な楕円形状を呈する。両面に磨面が確認できる。石材は花崗岩。

SK1189（図版 139）　磨石・敲石類（388）を図示した。扁平な楕円形状を呈し、磨面や敲打痕が認められる。石材は閃緑岩。

小　土　坑（P）

P1119（図版 139）　台石（389）を図示した。扁平な楕円形状を呈する。両面で磨面が認められるが磨滅はそれほど進んでいない。石材は安山岩。

2）遺構外出土石器・石製品（図版 140）

磨石･敲石類（390）、台石（391）、石核（392）を図示した。390 は大半を欠損するが、一部磨面が確認できる。石材は砂岩。391 は扁平な楕円形状を呈する。両面で磨面が確認できる。石材はホルンフェルス。392 は石核で珪質凝灰質頁岩。

第４節　木　製　品

Ａ　６　区　上　層

1）遺構出土木製品

杭　　列（SA）

SA144（P546）（図版 34・122）　杭（72）を図示した。上部を欠損する。下端は尖る。本遺跡で検出された杭列のうち、木材が残っていたものはいずれも下端を尖らせた加工材であり、掘り方を持たずに地面に直接打ち込んで杭列がつくられている。杭列は中世に属すと考える。

第５節　アスファルト塊

６区下層下面と７区上層でアスファルト塊が出土している（第４表）。出土土器から、６区下層下面出土のものは縄文時代に属し、７区上層出土のものは基本古代・中世に属すと考えられる。以下、アスファルト塊について記すが、形状や性状の分類については既報告〔細野・伊比ほか2012、相田・金田ほか2015〕に従い、形状については塊状と板状の２分類、性状については、全体的に均質で非常にきめ細かく緻密で、不純物を含まないもの（1類）、均質性を欠き、部分的に黒色の粘質部や空洞部が認められるもので、うち不純物が認められないもの（Ⅱa類）とヨシ属などの未分解有機物といった不純物を少量含むもの（2b類）の３分類とした。

Ａ　７　区　上　層

1）遺構出土アスファルト塊（図版126）

溝（SD）

SD100から１点（164）、SD118から１点（165）出土している。164はアスファルトが固形化して光沢をもついわゆるアスファルトタイトである。165は塊状を呈し、性状は1a類。

2）遺構外出土アスファルト塊（図版126）

４点（166～169）を図化した。166は板状を呈し、性状は1a類。167は塊状を呈し、性状は1a類。168は塊状を呈し、性状は2b類。169は礫にアスファルトが付着している資料である。板状を呈し、性状は1a類。

第４表　５～７区出土アスファルト

調査次	調査区	遺構名		重量（g）	点数	形状分類			性状分類		
		種別	番号			塊状	板状	不明	1a	2a	2b
17次	7区上層	SD	100	1.5	1	1			1		
17次	7区上層	SD	118	4.5	1	1			1		
17次	7区上層	遺構外		3.5	1		1		1		
17次	7区上層	遺構外		4.0	1	1			1		
17次	7区上層	遺構外		45.5	1	1					1
17次	7区上層	遺構外		95.5	1		1		1		
18次	6区下層下面	F	1130	5.0	1		1			1	
18次	6区下層下面	遺構外		6.5	1		1			1	
			合計	166.0	8	4	4		5	2	1

Ｂ　６区下層下面

1）遺構出土アスファルト（図版140）

焼土集中遺構（F）

F1130から１点出土している（393）。板状を呈し、形状は2a類である。

2）遺構外出土アスファルト（図版140）

１点（396）を図化した。板状を呈し、性状は2a類である。

第６節　種　　実

５～７区において検出された種実は229点にのぼる。このうち、自然科学分析（第Ⅵ章第３節）で同定されたものを含む161点について同定できた（第５表）。

遺構出土遺物や遺構覆土などにより推定される時代は、縄文時代、古墳時代、古代、中世、古代もしくは中世のものがあるが、古墳時代で同定できたものはオニグルミの１点のみと少ない。中世については井戸を中心に33点検出されており、うち20点が同定されている。

縄文時代の種実については163点中137点が同定されているが、６区下層上面で検出された種実は19点と少なく、うち同定できたものは６点に限られる。また、下層中面の種実においては微細なため、いずれも同定できていない。これに対し、下層下面では134点と一定量の種実が検出されており、うち132点で同定された。６区下層上面と６区下層下面は、出土土器から縄文時代晩期後葉に位置づけられる（第Ⅶ章第１節）。６区下層上面・６区下層下面とも焼土集中遺構から炭化した状態で出土したものが多い。

7区上層（中世）と6区下層上面・下面（縄文）で出土した種実の内訳は第6表のとおりである。

中世においては栽培植物であるイネやウリ類が認められ、周辺域で畑や水田の耕作関連遺構が確認されている状況と符合する。また、縄文時代、中世ともにヒシが検出されている。

第5表　5～7区出土種実

調査区	時代	遺構	点数	内訳
5区	古墳	SD4	25	オニグルミ1、不明24
古墳合計			25	オニグルミ1、不明24
6区上層	古代	SD236	1	不明1
7区上層		SX181	1	不明1
古代合計			2	不明2
6区上層	中世	SD209	1	不明1
7区上層		SE121	7	コブシ1、ミクリ属1、イネ1、ヒシ2、不明2（第Ⅵ章第3節）
		SE122	4	カラスザンショウ1、エゴノキ1、ウリ類2（第Ⅵ章第3節）
		SE126	13	イヌガヤ1、コナラ属1、カラスザンショウ1、カナムグラ1、ミゾソバ1、ノブドウ2、キカラスウリ1、ウリ類3、不明2（第Ⅵ章第3節）
		SK123	1	不明1
		SX198	1	不明1
		SD28	1	不明1
		SD37	1	不明1
		SD100	1	不明1
		SD110	1	不明1
		SD111	1	不明1
		SD215	1	不明1
中世合計			33	イヌガヤ1、コブシ1、コナラ属1、カラスザンショウ2、、エゴノキ1、ミクリ属1、イネ1、カナムグラ1、ミゾソバ1、ノブドウ2、ヒシ2、キカラスウリ1、ウリ類5、不明13
7区上層	古代or中世	遺構外	6	オニグルミ2、不明4
古代or中世合計			6	オニグルミ2、不明4

調査区	時代	遺構	点数	内訳
6区下層上面	縄文	SI93	2	アカメガワシ1、不明1
		SI262	1	不明1
		SK647	1	不明1
		SK788	1	不明1
		SK789	1	不明1
		SX601	1	不明1
		SD259	1	不明1
		SD600	1	不明1
		SC174	1	不明1
		SC191	2	ヒシ1、不明1
		SC243	1	不明1
		F178	1	不明1
		F204	5	オニグルミ1、サルナシ1、ヒシ1、ヤマブドウ1、不明1
		F433	1	不明1
6区下層中面		SK876	1	不明1
		SX748	1	不明1
		SC800	1	不明1
		SC805	1	不明1
		SC840	1	不明1
		F813	1	不明1
		F870	1	不明1
		F872	1	不明1
		F916	1	不明1
6区下層下面		P1038	1	不明1
		F435	31	ヒシ31（第Ⅵ章第3節）
		F921	7	エゴノキ科1、ヒシ6（第Ⅵ章第3節）
		F951	1	不明1
		F1022	64	オニグルミ2、クリ4、ヒシ57、モモ1（第Ⅵ章第3節）
		F1130	29	オニグルミ15、ヒシ13、不明1（第Ⅵ章第3節）
7区下層		遺構外	1	オニグルミ1
縄文合計			163	アカメガシワ1、エゴノキ科1、オニグルミ19、クリ4、サルナシ1、ヒシ109、モモ1、ヤマブドウ1、不明25
縄文・古墳・古代・中世合計			229	同定161、不明68

第6表　6・7区における時代別出土種実（時代不明なものは除く）

調査区	木本類												草本類							不明	合計
	アカメガシワ	イヌガヤ	エゴノキ科	オニグルミ	カラスザンショウ	クリ	コブシ	コナラ属	サルナシ	ノブドウ	モモ	ヤマブドウ	イネ	ウリ類	カナムグラ	キカラスウリ	ヒシ	ミクリ属	ミゾソバ		
中世（7区上層）		1	1		2		1	1		2			1	5	1	1	2	1	1	13	33
縄文（6区下層上面）	1			1					1			1					1			14	19
縄文（6区下層下面）			1	18		4					1						108			2	134

第Ⅵ章　自然科学分析

第１節　植物珪酸体分析

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO_2）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山 2000〕。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山 1984〕。

分　析　法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で行った。① 試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）。② 試料約 1g に対し直径約 40μm のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）。③ 電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理。④ 超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散。⑤ 沈底法による 20μm 以下の微粒子除去。⑥ 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。⑦ 検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g）をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率およびメダケ率（メダケ属とササ属の比率）を求めた。

Ａ５　　区

1）試　　料

分析試料は、基本層序 3 断面（第 9 図）から採取された 5 点、基本層序 5 断面（第 9 図）から採取された 5 点、SX86（図版 17）の 3 地点から採取された 4 点の計 14 点である（第 24 図）。

2）分　析　結　果

(1) 分　類　群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 7 表および第 24 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真（第 25 図）を示す。

［イネ科］イネ、ヨシ属、シバ属、キビ族型、ウシクサ族 A（チガヤ属など）

［イネ科－タケ亜科］チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

［イネ科－その他］表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

［樹木］モクレン属型、その他

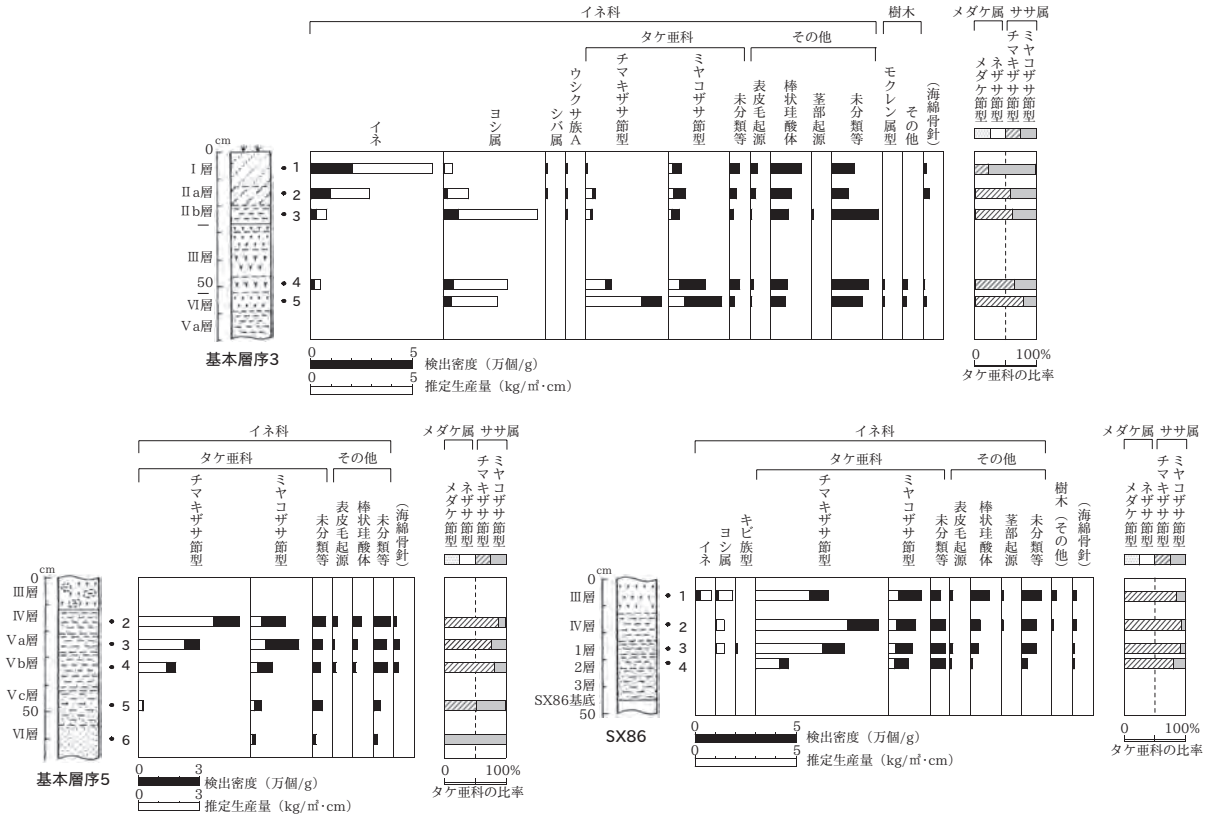
(2) 植物珪酸体の検出状況

① **基本層序 3**　下位のⅣ層（試料 5）では、チマキザサ節型やミヤコザサ節型が多く検出され、ヨシ属なども

第 7 表　大沢谷内遺跡 5 区における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

地点・試料		基本層序3地点					基本層序5地点					SX86			
分類群	学名	1	2	3	4	5	2	3	4	5	6	1	2	3	4
イネ科	Gramineae														
イネ	*Oryza sativa*	209	100	27	15							27			
ヨシ属	*Phragmites*	7	20	75	51	43						14	7	7	
キビ族型	Paniceae type													7	
シバ属	*Zoysia*	7	7												
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	7	7	7											
タケ亜科	Bambusoideae														
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	7	47	34	131	382	512	310	189	22		367	624	451	163
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	63	86	54	182	267	171	241	109	52	23	163	136	118	99
未分類等	Others	49	33	20	51	22	64	48	36	45	15	48	72	69	71
その他のイネ科	Others														
表皮毛起源	Husk hair origin	35	27	7	15	7	21	7	15			14		14	7
棒状珪酸体	Rodshaped	153	100	88	80	72	43	21	15			88	43	35	7
茎部起源	Stem origin			7								7	7		
未分類等	Others	111	80	231	182	152	78	62	65	30	15	95	72	69	28
樹木起源	Arboreal														
モクレン属型	*Magnolia* type				7	7									
その他	Others				22	14						20	7		
（海綿骨針）	Sponge spicules	14	27		7	14	14	28	22			14	14	7	7
植物珪酸体総数	Total	647	505	551	737	967	889	689	428	149	53	843	968	771	375
おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出															
イネ	*Oryza sativa*	6.14	2.93	0.80	0.43							0.80			
ヨシ属	*Phragmites*	0.44	1.26	4.72	3.22	2.73						0.86	0.45	0.44	
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	0.05	0.35	0.26	0.98	2.87	3.84	2.32	1.42	0.17		2.75	4.68	3.39	1.22
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	0.19	0.26	0.16	0.55	0.80	0.51	0.72	0.33	0.16	0.07	0.49	0.41	0.35	0.30
タケ亜科の比率（%）															
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	22	57	61	64	78	88	76	81	52		85	92	91	80
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	78	43	39	36	22	12	24	19	48	100	15	8	9	20
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



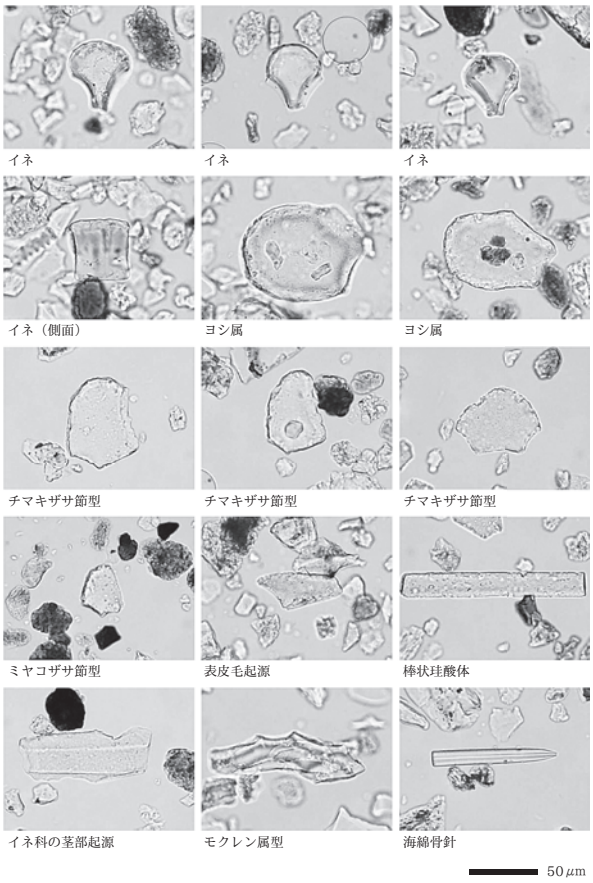
第 24 図　大沢谷内遺跡 5 区における植物珪酸体分析結果

認められた。また、モクレン属型などの樹木も検出された。Ⅲ層下部（試料 4）では、イネが出現し、チマキザサ節型は減少している。イネの密度は 1,500 個 /g と比較的低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている 5,000 個 /g を下回っている。Ⅱb 層（試料 3）では、ヨシ属が比較的多く検出され、イネ、ウシクサ族 A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型なども認められた。イネの密度は 2,700 個 /g と比較的低い値である。Ⅱa 層（試料 2）からⅠ層（試料 1）にかけてはイネが大幅に増加し、ヨシ属は減少している。イネの密度は試料 2 で 10,000 個 /g、試料 1 で 20,900 個 /g とかなり高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、

Ⅳ層からⅡb 層にかけてはヨシ属が優勢であり、Ⅳ層ではチマキザサ節型も多くなっている。また、Ⅱa 層とⅠ層ではイネが優勢となっている。

② **基本層序 5**　下位のⅥ層（試料 6）では、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。Vc 層（試料 5）では、チマキザサ節型が出現している。Vb 層（試料 4）からⅣ層（試料 2）にかけては、チマキザサ節型が大幅に増加し、ミヤコザサ節型も増加している。おもな分類群の推定生産量によると、Vb 層より上位ではチマキザサ節型が優勢となっている。

③ **SX86**　2 層（試料 4）からⅢ層（試料 1）にかけては、チマキザサ節型が多量に検出され、ミヤコザサ節型も比較的多く検出された。また、1 層（試料 3）より上位ではヨシ属が検出され、Ⅲ層（試料 1）ではイネが認められた。イネの密度は 2,700 個 /g と比較的低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている 5,000 個 /g を下回っている。植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。おもな分類群の推定生産量によると、各層準ともチマキザサ節型が優勢となっている。



第 25 図　5 区植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

3）植物珪酸体分析から推定される植生と環境

① **基本層序 3**　下位のⅣ層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、周辺にはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）などの笹類が生育していたと推定される。Ⅲ層下部の時期には、このような湿地を利用して、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと考えられる。また、Ⅱb 層の堆積当時もヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。Ⅱa 層からⅠ層にかけては、調査地点で稲作が行われていたと考えられる。

② **基本層序 5**　下位のⅥ層からVb 層にかけては、ササ属（おもにミヤコザサ節）などの笹類は見られるものの、河川の影響など何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと考えられる。Vb 層からⅣ層にかけては、ササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）などの笹類を主体としたイネ科植生が継続されていたと考えられ、とくにⅣ層ではチマキザサ節が多く生育していたと推定される。

③ **SX86**　2 層からⅢ層にかけては、ササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）などの笹類を主体としたイネ科植生が継続されていたと考えられ、1 層より上位ではヨシ属が生育するような湿地的なところも見られたと推定される。また、Ⅲ層では比較的少量ながらイネが検出されることから、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

Ｂ６　　区

1）試　　料

分析試料は、6H-3J5 グリッドのⅤa 層とⅤb 層・Ⅴc 層・Ⅴd 層（縄文時代晩期）から採取された４点、6I-4D5 グリッドのⅢ層（古代・中世）、１層（SX442）、Ⅴa 層、Ⅴb 層、Ⅵ層から採取された５点、6I-10F2 グリッドのⅢ層（古代・中世）、Ⅳ層、Ⅴa 層、Ⅴb 層、Ⅴc 層から採取された５点の計 14 点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

2）分　析　結　果

(1) 分　類　群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第８表および第 27 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真（第 26 図）を示す。

［イネ科］イネ、ヨシ属、キビ族型、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）

［イネ科－タケ亜科］チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

［イネ科－その他］表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

［樹木］モクレン属型、その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

① 6H-3J5　下位のⅤd 層（試料４）では、チマキザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。Ⅴb 層（試料３）では植物珪酸体が検出されなかった。Ⅴb 層（試料２）では、チマキザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。Ⅴa 層（試料１）では、チマキザサ節型が比較的多く検出され、ミヤコザサ節型なども認められた。おもな分類群の推定生産量によると、Ⅴd 層とⅤa 層ではチマキザサ節型が優勢となっている。

② 6I-4D5　Ⅵ層（試料６）とⅤb 層（試料４）では、チマキザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。Ⅴa 層（試料３）では、チマキザサ節型が比較的多く検出され、ミヤコザサ節型、樹木（その他）なども認められた。１層（試料２）ではチマキザサ節型が大幅に増加し、イネ、ヨシ属、モクレン属型などが出現している。イネの密度は 700 個 /g と低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている 3,000 個 /g を下回っている。Ⅲ層（試料１）では、イネが増加し、チマキザサ節型は減少している。イネの密度は 5,100 個 /g と高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、Ⅴa 層からⅢ層にかけてはチマキザサ節型が優勢であり、

第８表　大沢谷内遺跡６区における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

地点・試料		6H-3J5グリッド				6I-4D5グリッド					6I-10F2グリッド				
分類群	学名	1	2	3	4	1	2	3	4	6	2	3	4	5	6
イネ科	Gramineae														
イネ	*Oryza sativa*					51	7				34	7			
ヨシ属	*Phragmites*					22	14				20	28	7		
キビ族型	Paniceae type					14									
ウシクサ族A	Andropogoneae A type						7				14				
タケ亜科	Bambusoideae														
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	97	15		53	297	515	149	8	8	279	636	636	96	124
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	7				72	35	15			75	28	71	52	7
未分類等	Others	15			8	101	64	22	8		61	35	71	44	37
その他のイネ科	Others														
表皮毛起源	Husk hair origin					29	14					7	7		
棒状珪酸体	Rodshaped	7			23	101	42	22	15		68	85	36	15	37
未分類等	Others	15	8		8	72	28	15	8	8	48	42	14	15	15
樹木起源	Arboreal														
モクレン属型	*Magnolia* type					7	7								
その他	Others					22	7	7			14				
（海綿骨針）	Sponge spicules	37				14	7	7	15		34	14	21	30	22
植物珪酸体総数	Total	142	23	0	90	789	741	231	38	15	612	869	843	222	219
おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出															
イネ	*Oryza sativa*					1.49	0.21				1.00	0.21			
ヨシ属	*Phragmites*					1.37	0.89				1.29	1.78	0.45		
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	0.73	0.11		0.40	2.23	3.86	1.12	0.06	0.06	2.09	4.77	4.77	0.72	0.93
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	0.02				0.22	0.11	0.04			0.22	0.08	0.21	0.16	0.02
タケ亜科の比率（%）															
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	97	100		100	91	97	96	100	100	90	98	96	82	98
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	3				9	3	4			10	2	4	18	2
メダケ率	Medake ratio	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅲ層ではイネやヨシ属も多くなっている。

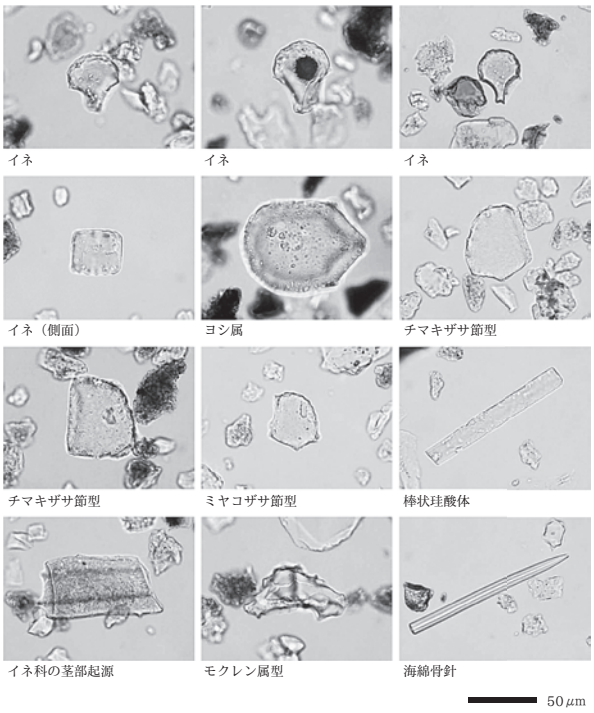
③ 6I-10F2　Vc 層(試料 6)とVb 層(試料 5)では、チマキザサ節型が比較的多く検出され、ミヤコザサ節型なども認められた。Va 層（試料 4）では、チマキザサ節型が大幅に増加し、ヨシ属が出現している。Ⅳ層（試料 3）ではイネが出現している。イネの密度は 700 個 /g と低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている 3,000 個 /g を下回っている。Ⅲ層（試料 1）では、イネが増加し、チマキザサ節型は減少している。イネの密度は 3,400 個 /g と比較的高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、全体的にチマキザサ節型が優勢であり、Ⅳ層とⅢ層ではヨシ属、Ⅲ層ではイネも多くなっている。

3）植物珪酸体分析から推定される植生と環境

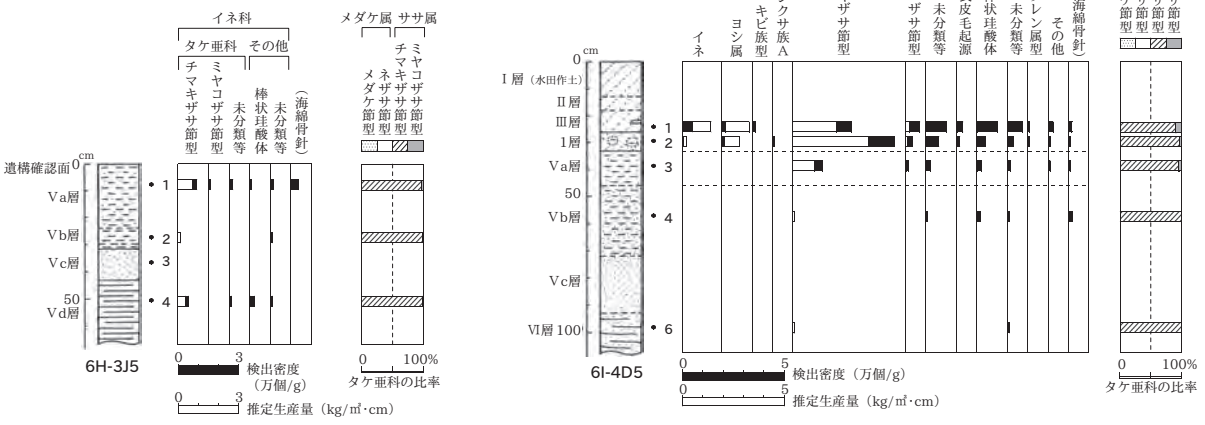
① 6H-3J5　縄文時代晩期のVd 層からVb 層にかけては、部分的にササ属（おもにチマキザサ節）などの笹類は見られるものの、河川の影響など何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと考えられる。Va 層の堆積当時は、ササ属（おもにチマキザサ節）などの笹類が生育する比較的乾燥した環境であったと推定される。

② 6I-4D5　Ⅵ層およびVb 層の堆積当時は、ササ属（おもにチマキザサ節）は少量見られるものの、河川の影響など何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であった可能性が考えられる。

Va 層からⅢ層にかけては、ササ属（おもにチマキザサ節）を主体としたイネ科植生であったと考えられ、遺跡周辺にはモクレン属などの樹木が分布していたと推定される。また、部分的にヨシ属が生育す



第 26 図　6 区植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真



第 27 図　大沢谷内遺跡 6 区における植物珪酸体分析結果

るような湿地的なところも見られ、そこを利用してⅢ層もしくは１層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。

③　6I-10F2　縄文時代晩期のＶc 層からＶa 層にかけては、ササ属（おもにチマキザサ節）を主体としたイネ科植生であり、とくにＶa 層ではササ属が多く生育していたと考えられる。Ⅳ層からⅢ層にかけても、ササ属（おもにチマキザサ節）を主体としたイネ科植生であったと考えられるが、ヨシ属が生育するような湿地的なところも見られるようになり、そこを利用してⅢ層もしくはⅣ層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。

Ｃ　7　　区

1）試　　料

分析試料は、基本層序５（第 11 図）地点から採取された３点、SX191（図版 65）地点や、基本層序４（第 11 図）地点、さらに基本層序３（第 11 図）地点から採取された試料①～試料⑭の 14 点、SX119 地点（8I-7J5）で採取された試料４点、SX189（図版 65・77）において発掘調査担当者により採取された２点、SX186（図版 65）地点から採取された４点の合計 27 点である。試料採取層位を分析結果の模式柱状図に示す。

2）分　析　結　果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科（チマキザサ節型、ミヤコザサ節型）の主要な７分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第９表および第 28 図に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真（第 29 図）を示す。

3）考　　察

（1）水田跡（稲作跡）の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している〔杉山 2000〕。ただし、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

①　基本層序５　Ⅲ層（試料１）からＶa 層（試料３）までの層準について分析を行った。その結果、Ⅲ層（試料１）からイネが検出された。密度は 3,600 個 /g と比較的高い値である。基盤に相当するＶa 層（試料３）や、Ⅳ層ではイネやヨシ属のプラント・オパールは検出されず、比較的寒冷な気候下に分布するササのプラント・オパールが多く検出された。

②　基本層序４　Ⅳ層（試料⑤）、Ｖb 層（試料⑥）、Ｖc 層（試料⑦）、Ｖd 層（試料⑧）について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出されなかった。

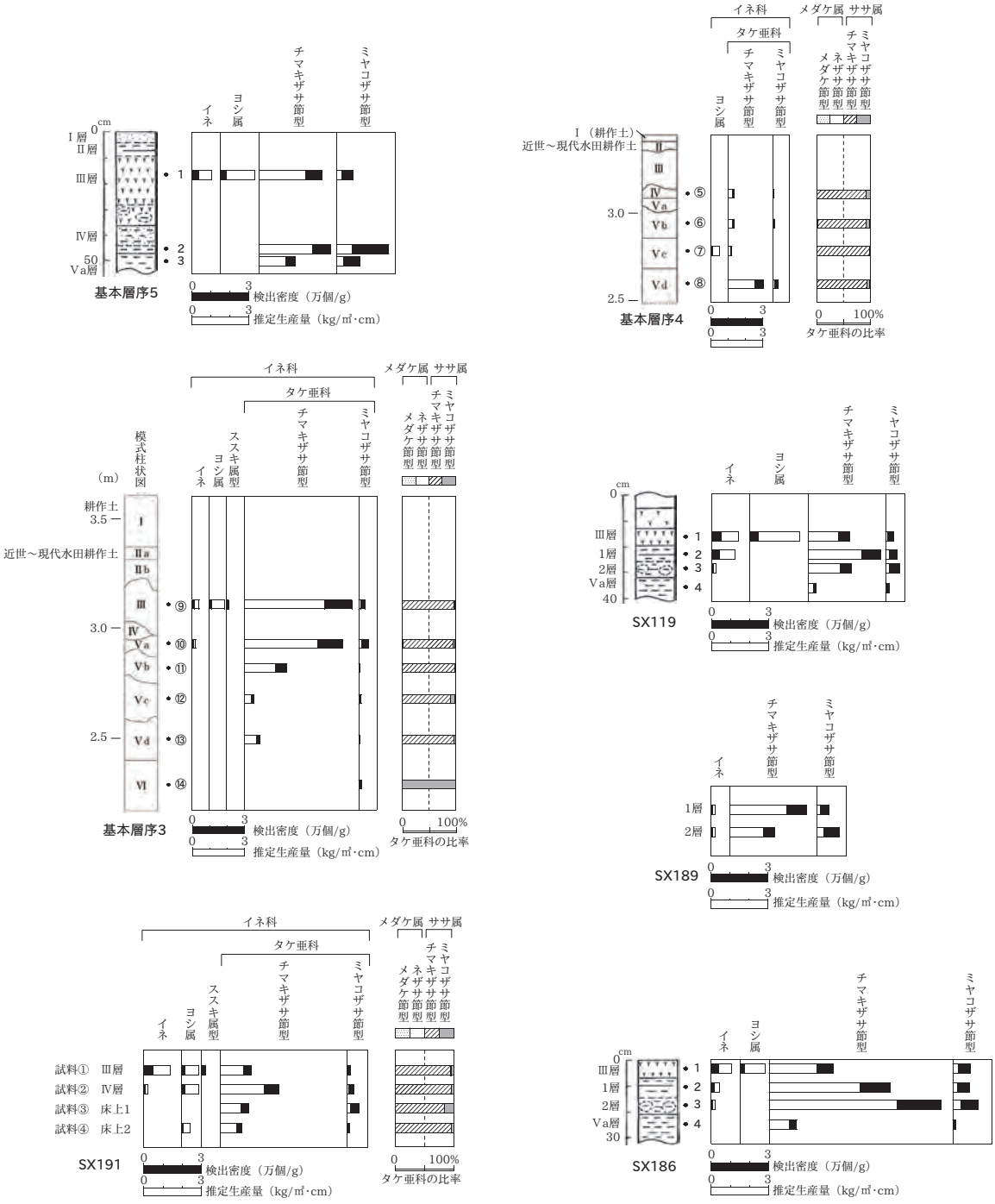
第９表　大沢谷内遺跡７区における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

地点・試料		SX191				基本層序4				基本層序3						基本層序5			SX119				SX189		SX186			
分類群	学名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	1	2	3	1	2	3	4	1	2	1	2	3	4
イネ科	Gramineae																											
イネ	*Oryza sativa*	48	7							14	7					36			49	42	7		7	7	36	14	7	
ヨシ属	*Phragmites*	14	14		7			8		14						29			42						21			
ススキ属型	*Miscanthus* type	14								7																		
タケ亜科	Bambusoideae																											
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	164	311	148	112	37	38	23	209	634	581	248	55	93		335	381	190	222	388	230	42	411	241	344	651	922	147
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	20	35	63	15	7	8		30	35	56	7	14	7	15	87	275	122	42	63	77	21	64	121	93	87	135	14
植物珪酸体総数	Total	260	367	211	135	44	45	30	239	704	644	255	69	100	15	488	656	313	354	493	313	63	482	369	494	752	1063	161
おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出																												
イネ	*Oryza sativa*	1.41	0.20							0.41	0.21					1.07			1.43	1.24	0.20		0.21	0.21	1.05	0.42	0.21	
ヨシ属	*Phragmites*	0.86	0.87		0.47			0.47		0.88						1.84			2.63						1.36			
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.17								0.09																		
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	1.23	2.34	1.11	0.84	0.27	0.28	0.17	1.57	4.75	4.36	1.86	0.41	0.70		2.51	2.86	1.43	1.67	2.91	1.72	0.32	3.08	1.81	2.58	4.88	6.91	1.11
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	0.06	0.10	0.19	0.04	0.02	0.02		0.09	0.10	0.17	0.02	0.04	0.02	0.05	0.26	0.83	0.37	0.12	0.19	0.23	0.06	0.19	0.36	0.28	0.26	0.40	0.04
タケ亜科の比率（%）																												
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	95	96	85	95	93	93	100	95	98	96	99	91	97		91	78	80	93	94	88	83	94	83	90	95	94	96
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	5	4	15	5	7	7		5	2	4	1	9	3	100	9	22	20	7	6	12	17	6	17	10	5	6	4
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

③ 基本層序 3　Ⅲ層（試料⑨）、Ⅴa 層（試料⑩）、Ⅴb 層（試料⑪）、Ⅴc 層（試料⑫）、Ⅴd 層（試料⑬）、Ⅵ層（試料⑭）について分析を行った。その結果、Ⅲ層（試料⑨）とⅤa 層（試料⑩）からイネが検出されたが、密度は 1,000 個 /g 前後と比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

④ SX191 地点　Ⅲ層（試料①）、Ⅳ層（試料②）、Ⅴa 層（試料③）、Ⅴb 層（試料④）について分析を行った。その結果、Ⅲ層（試料①）とⅣ層（試料②）からイネが検出された。このうち、Ⅲ層（試料①）では密度が 4,800 個 /g と比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。Ⅳ層（試料②）では密度が 700 個 /g と低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。



第 28 図　大沢谷内遺跡 7 区における植物珪酸体分析結果

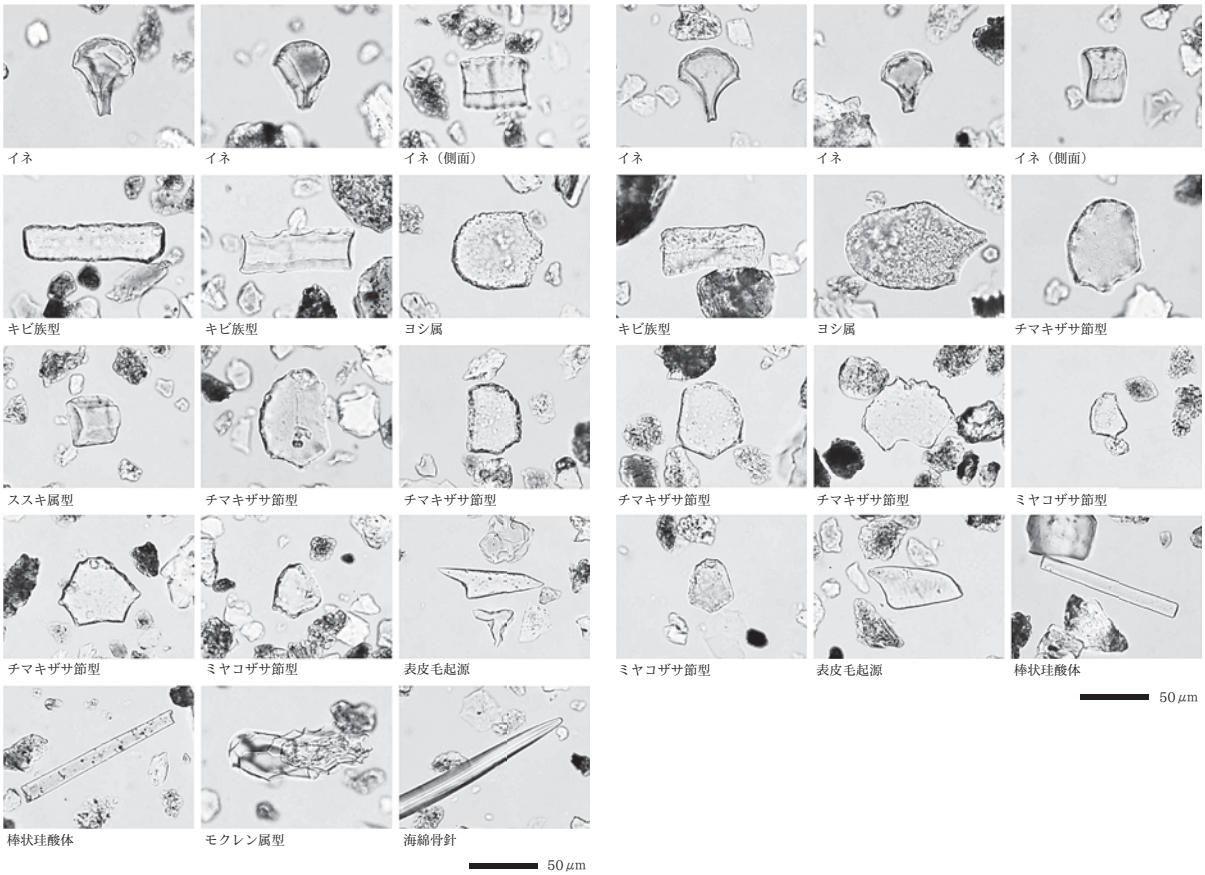
⑤ SX119 地点　Ⅲ層（試料 1）からⅤa 層（試料 4）までの層準について分析を行った。その結果、Ⅲ層（試料 1）から 2 層（試料 3）までの各層からイネが検出された。このうち、Ⅲ層（試料 1）と 1 層（試料 2）では、密度が 4,900 個 /g および 4,200 個 /g と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。2 層（試料 3）では、密度が 700 個 /g と低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

⑥ SX189 地点　1 層と 2 層について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出されたが、密度は 700 個 /g と低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

⑦ SX186 地点　Ⅲ層（試料 1）からⅤa 層（試料 4）までの層準について分析を行った。その結果、Ⅲ層（試料 1）から 2 層（試料 3）までの各層からイネが検出された。このうち、Ⅲ層（試料 1）では密度が 3,600 個 /g と比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。1 層（試料 2）と 2 層（試料 3）では、密度が 1,000 個 /g 前後と比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

4）ま　と　め

プラント・オパール分析の結果、基本層序 5 地点のⅢ層、SX191 地点のⅢ層、SX119 地点のⅢ層、SX186 地点のⅢ層からイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、SX191 地点のⅣ層、基本層序 3 地点のⅢ層とⅤa 層でも比較的少量のイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。



第 29 図　7 区植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

第２節　花　粉　分　析

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

方　　法

花粉の分離抽出は、中村〔1967〕の方法をもとに、以下の手順で行った。

① 試料から 1cm^3 を秤量。② 0.5% リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加えて 15 分間湯煎。③ 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。④ 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置。⑤ 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎）を施す。⑥ 再び氷酢酸を加えて水洗処理。⑦ 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。⑧ 検鏡・計数。検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉〔1973〕および中村〔1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。イネ属については、中村〔1974･1977〕を参考にして、現生標本の表面模様･大きさ･孔･表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

Ａ５　　区

1）試　　料

分析試料は、基本層序 5 断面から採取された 5 点、基本層序 3 の土層断面から採取された 4 点、SX86 断面から採取された 5 点、計 14 点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

2）結　　果

(1）分　類　群

出現した分類群は、樹木花粉 28、樹木花粉と草本花粉を含むもの 6、草本花粉 30、シダ植物胞子 2 形態の計 66 である。分析結果を第 10 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラム（第 30 図）を示した。主要な分類群について顕微鏡写真（第 31 図）を示す。以下に出現した分類群を記載する。

［樹木花粉］モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、モチノキ属、トチノキ、ムクロジ属、ブドウ属、シナノキ属、ツツジ科、モクセイ科、トネリコ属

［樹木花粉と草本花粉を含むもの］クワ科－イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ゴマノハグサ科、ニワトコ属－ガマズミ属

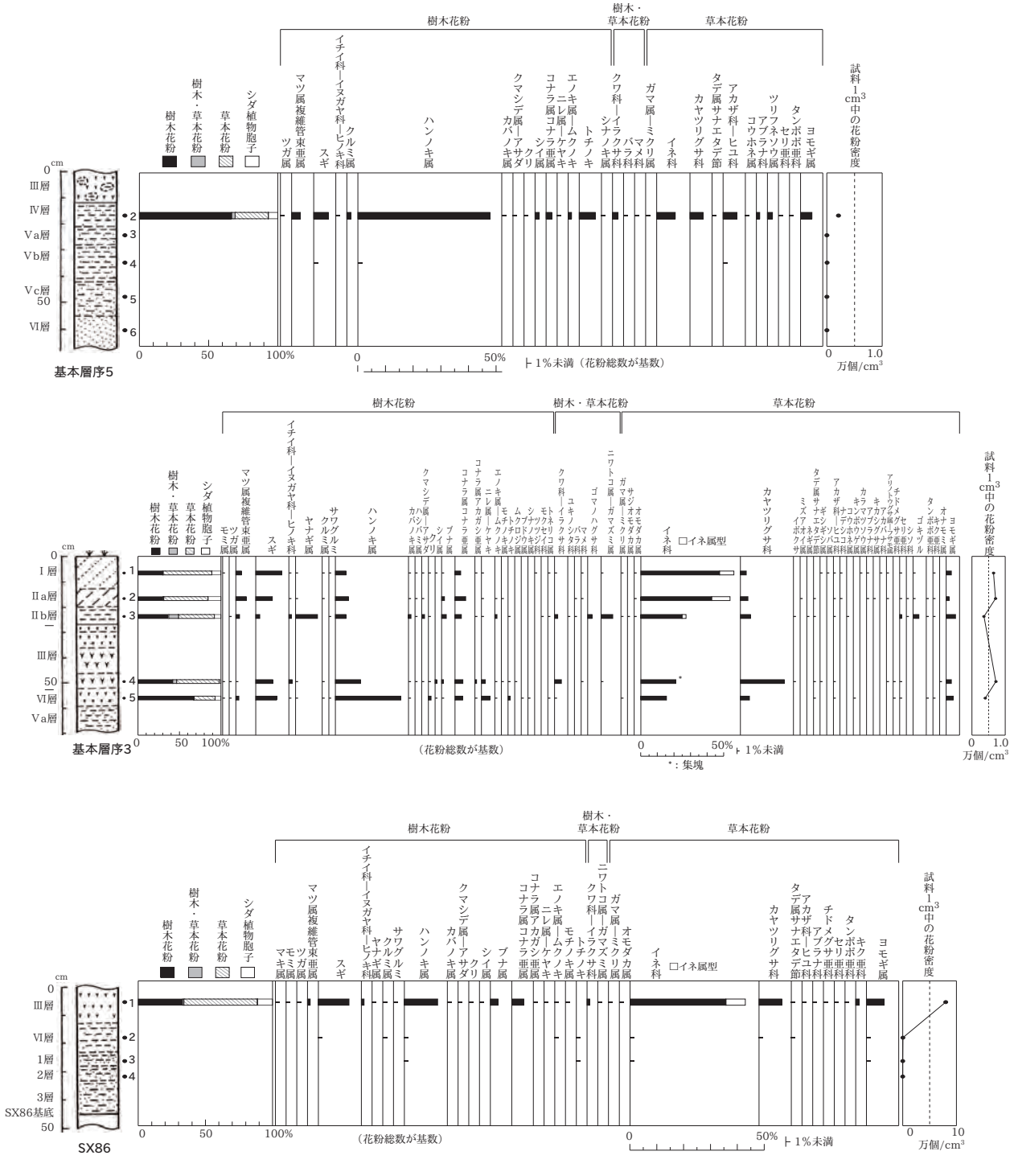
［草本花粉］ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、ネギ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、コウホネ属、キンポウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、キカシグサ属、アカバナ科、アリノトウグサ属－フサモ属、チドメグサ亜科、ツリフネソウ属、セリ亜科、シソ科、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

［シダ植物胞子］単条溝胞子、三条溝胞子

（2）花粉群集の特徴

① **基本層序５**　Ⅵ層（試料 6）、Ⅴc 層（試料 5）、Ⅴa 層（試料 3）では、花粉が検出されなかった。Ⅴb 層（試料 4）では、スギ、ハンノキ属、アカザ科－ヒユ科が検出されたが、いずれも少量である。Ⅳ層（試料 2）では、樹木花粉の占める割合が約 65% を占める。樹木花粉ではハンノキ属が卓越し、スギ、マツ属複維管束亜属、トチノキなどが伴われる。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、ヨモギ属などが検出された。

② **基本層序３**　下位のⅣ層（試料 5）では樹木花粉が約 65% を占める。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、スギ、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキなどが伴われる。草本花粉ではイネ科が優勢で、カヤツリグサ科、ヨ



第 30 図　大沢谷内遺跡 5 区における花粉ダイアグラム

モギ属などが伴われる。Ⅲ層下部（試料４）では、イネ科、カヤツリグサ科が増加し、ハンノキ属は減少している。Ⅱｂ層（試料３）では、草本花粉と樹木花粉の占める割合がほぼ同じである。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ゴキヅル、オモダカ属、コウホネ属などが伴われる。また、樹木・草本花粉のニワトコ属－ガマズミ属（ガマズミに近似）、ゴマノハグサ科も認められた。樹木花粉ではヤナギ属が優勢で、ハンノキ属、スギ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキなどが伴われる。Ⅱａ層（試料２）からⅠ層（試料１）にかけては、イネ科（イネ属型を含む）が卓越し、試料１ではソバ属も認められた。樹木花粉ではスギが増加し、ヤナギ属は減少している。

第 10 表　大沢谷内遺跡５区における花粉分析結果

分類群		基本層序3地点					基本層序5地点					SX86			
学名	和名	1	2	3	4	5	2	3	4	5	6	1	2	3	4
Arboreal pollen	樹木花粉														
Podocarpus	マキ属											1			
Abies	モミ属	1			1	1						1			
Tsuga	ツガ属			1	1	2	2					1			
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	21	45	10	4	10	11					7			
Pinus subgen. *Haploxylon*	マツ属単維管束亜属		1	1	1	2						3			
Cryptomeria japonica	スギ	100	71	11	53	69	18		1			79	1		
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	1	2	7	10	2	1					7			
Salix	ヤナギ属	5	5	61	3	1						1			
Juglans	クルミ属	1	1		1	5	5					2	1		
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ	1		2		2						2			
Alnus	ハンノキ属	40	55	29	79	218	163		3			86	11	1	
Betula	カバノキ属	3	4	7	1	1	1					3			
Corylus	ハシバミ属	1	1	1	1										
CarPinus-Ostrya japonica	クマシデ属－アサダ	3	2	8	2		2					1			
Castanea crenata	クリ	2		2	4	9	2					2			
Castanopsis	シイ属	1			5	4	5					1			
Fagus	ブナ属	3	12	13	6	4						20			
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	22	46	18	25	26	7					31			
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	1		1	5	1						3			
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属－ケヤキ	4	6	4	12	28	3					5			
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属－ムクノキ		1	6	4	3	4					1	1		
Ilex	モチノキ属		1		1							1			
Aesculus turbinata	トチノキ			3	4	7	20						4	2	
Sapindus	ムクロジ属				1										
Vitis	ブドウ属					1									
Tilia	シナノキ属					1	1								
Ericaceae	ツツジ科	1													
Oleaceae	モクセイ科			1											
Fraxinus	トネリコ属	2		1		1									
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉														
Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科	1		9	22	4	7					7			
Saxifragaceae	ユキノシタ科			3											
Rosaceae	バラ科		3	1			1								
Leguminosae	マメ科	1	5		1		1								
Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科			12											
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属－ガマズミ属	2		33	1							1			
Nonarboreal pollen	草本花粉														
Typha-Sparganium	ガマ属－ミクリ属	2		2		3	1					1			
Alisma	サジオモダカ属			1											
Sagittaria	オモダカ属	2	2	2								2			
Gramineae	イネ科	301	303	115	110*	85	23					248		2	
Oryza type	イネ属型	55	79	11								50	1		
Cyperaceae	カヤツリグサ科	22	32	28	138	30	16					59	3		
Aneilema keisak	イボクサ			4	1										
Monochoria	ミズアオイ属		1												
Allium	ネギ属			1											
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節		1	1	1	1	1					6	1		
Rumex	ギシギシ属	1			1										
Fagopyrum	ソバ属	1													
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	1	1	1	3	1	17		1			1			
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2												
Nuphar	コウホネ属			1			1								
Ranunculus	キンポウゲ属					1									
Thalictrum	カラマツソウ属	1													
Cruciferae	アブラナ科	3	3			1	4					2			
Impatiens	ツリフネソウ属						6								
Rotala	キカシグサ属		1												
Onagraceae	アカバナ科	1													
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属－フサモ属	1	3		1										
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科				1	1						1			
Apioideae	セリ亜科	1	1	5	1	1	3					3			
Labiatae	シソ科		1	1											
Actinostemma lobatum	ゴキヅル	2	2	16											
Lactucoideae	タンポポ亜科		1	1		1	2					1			
Asteroideae	キク亜科	3	3	2		3						9			
Xanthium	オナモミ属				1										
Artemisia	ヨモギ属	20	12	26	16	23	14					46	2	1	
Fern spore	シダ植物胞子														
Monolate type spore	単条溝胞子	78	126	33	10	38	24	1	7			84	5	2	
Trilate type spore	三条溝胞子	1	3	6	1	3	1					3	1		
Arboreal pollen	樹木花粉	213	253	187	224	398	245	0	4	0	0	258	18	3	0
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	4	8	58	24	4	9	0	0	0	0	8	0	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	418	448	218	274	151	88	0	1	0	0	429	7	3	0
Total pollen	花粉総数	635	709	463	522	553	342	0	5	0	0	695	25	6	0
Pollen frequencies of 1cm^3	試料1cm^{3}中の花粉密度	6.5 ×10^4	7.1 ×10^4	3.6 ×10^4	7.2 ×10^4	4.0 ×10^4	2.1 ×10^3	0.0	3.6 ×10	0.0	0.0	8.0 ×10^4	1.6 ×10^2	4.2 ×10	0.0
Unknown pollen	未同定花粉	8	10	9	3	5	12	0	1	0	0	11	2	1	0
Fern spore	シダ植物胞子	79	129	39	11	41	25	1	7	0	0	87	6	2	0
Helminth eggs	寄生虫卵	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
Charcoal fragments	微細炭化物	(＋)	(＋)		(＋＋)	(＋＋＋)						(＋＋＋)			

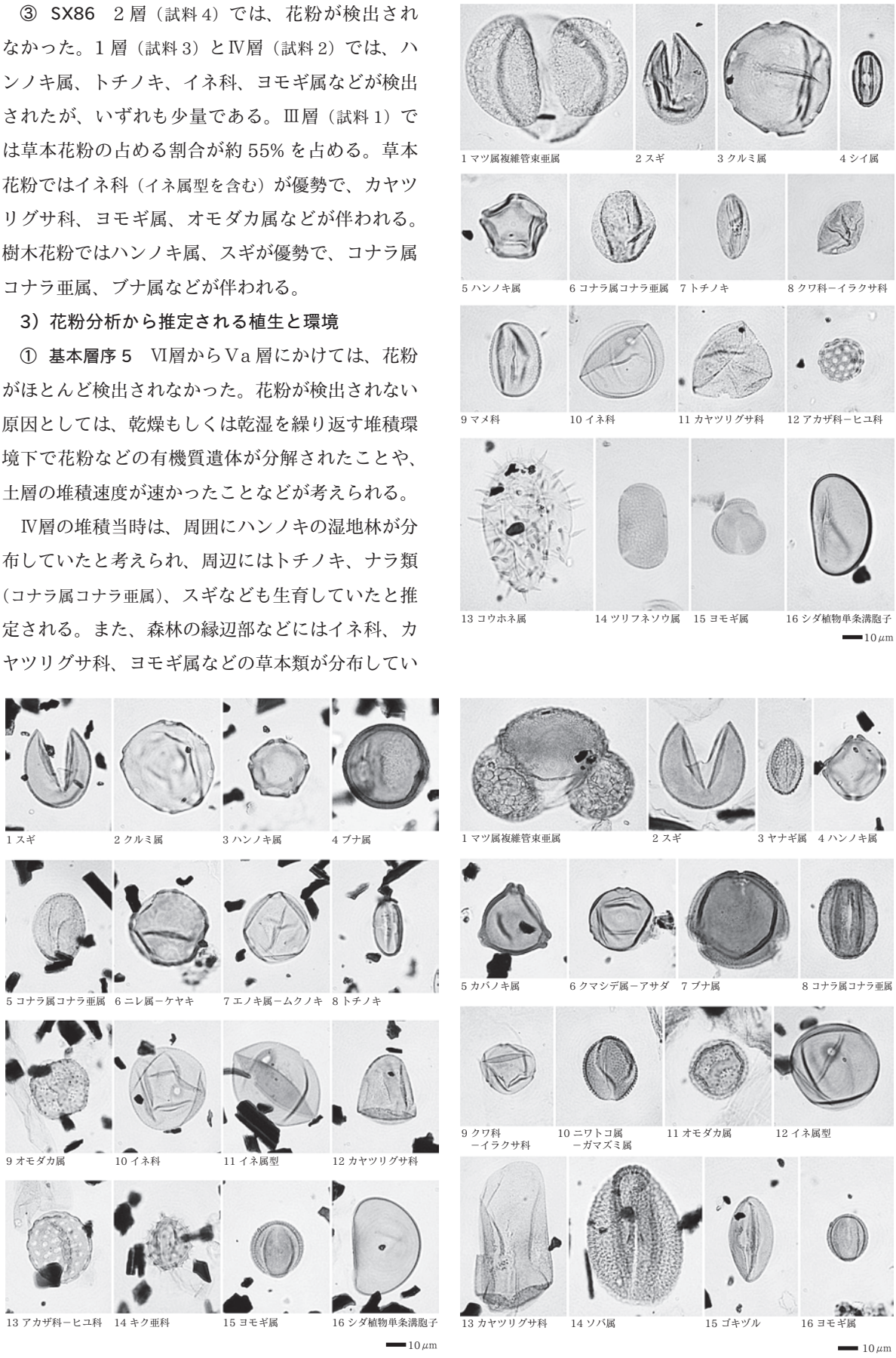
*：集塊

③ SX86　2層（試料4）では、花粉が検出されなかった。1層（試料3）とⅣ層（試料2）では、ハンノキ属、トチノキ、イネ科、ヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。Ⅲ層（試料1）では草本花粉の占める割合が約55%を占める。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属、オモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属、スギが優勢で、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などが伴われる。

3）花粉分析から推定される植生と環境

① **基本層序5**　Ⅵ層からⅤa層にかけては、花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことや、土層の堆積速度が速かったことなどが考えられる。

Ⅳ層の堆積当時は、周囲にハンノキの湿地林が分布していたと考えられ、周辺にはトチノキ、ナラ類（コナラ属コナラ亜属）、スギなども生育していたと推定される。また、森林の縁辺部などにはイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの草本類が分布してい



第31図　大沢谷内遺跡5区の花粉・胞子

たと考えられる。

② **基本層序３**　下位のⅣ層からⅢ層下部にかけては、イネ科、カヤツリグサ科などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺にはハンノキの湿地林が分布していたと推定される。また、周辺地域にはスギ、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキなどが分布していたと考えられる。

Ⅱb 層では、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われており、周囲には水田雑草のオモダカ属なども生育していたと考えられる。また、遺跡周辺にはヤナギ属、ハンノキ、ニワトコ属－ガマズミ属などが分布していたと推定される。Ⅱa 層からⅠ層にかけては、集約的な稲作が行われており、Ⅰ層ではソバなども栽培されていたと考えられる。

③ **SX86**　２層からⅢ層にかけては、ササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）などの笹類を主体としたイネ科植生が継続されていたと考えられ、１層より上位ではヨシ属が生育するような湿地的なところも見られたと推定される。また、Ⅲ層では比較的少量ながらイネが検出されることから、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

Ｂ　６　　区

１）試　　料

分析試料は、6H-3J5 グリッドのVa 層、Vb 層・Vc 層・Vd 層（縄文時代晩期）から採取された４点、6I-4D5 グリッドのⅢ層（古代･中世）、１層（SX442）、Va 層、Vb 層、Ⅵ層から採取された５点、6I-10F2 グリッドのⅢ層（古代・中世）、Ⅳ層、Va 層、Vb 層、Vc 層から採取された５点、計 14 点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

２）結　　果

（1）分　類　群

出現した分類群は、樹木花粉 26、樹木花粉と草本花粉を含むもの 6、草本花粉 20、シダ植物胞子２形態の計 54 である。分析結果を第 11 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラム（第 32 図）を示した。主要な分類群について顕微鏡写真（第 33 図）を示す。以下に出現した分類群を記載する。

［樹木花粉］トウヒ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科 - イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、ツツジ科

［樹木花粉と草本花粉を含むもの］クワ科－イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ゴマノハグサ科、ニワトコ属－ガマズミ属

［草本花粉］ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、コウホネ属、キンポウゲ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、セリ亜科、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

［シダ植物胞子］単条溝胞子、三条溝胞子

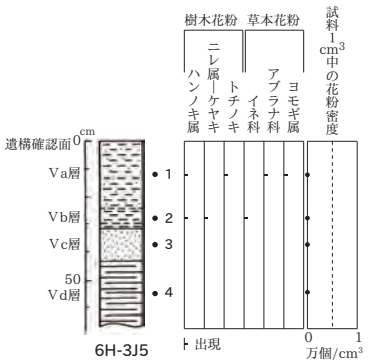
（2）花粉群集の特徴

① **6H-3J5**　下位のVd 層（試料４）とVc 層（試料３）では花粉が検出されなかった。Vb 層（試料２）では、樹木花粉のハンノキ属、ニレ属－ケヤキ、草本花粉のイネ科が検出されたが、いずれも少量である。Va 層（試料１）では、樹木花粉のハンノキ属、トチノキ、草本花粉のアブラナ科、ヨモギ属が検出されたが、いずれも少量である。

② **6I-4D5**　Ⅵ層（試料６）とVa 層（試料３）では、花粉が検出されなかった。Vb 層（試料４）では樹木花粉

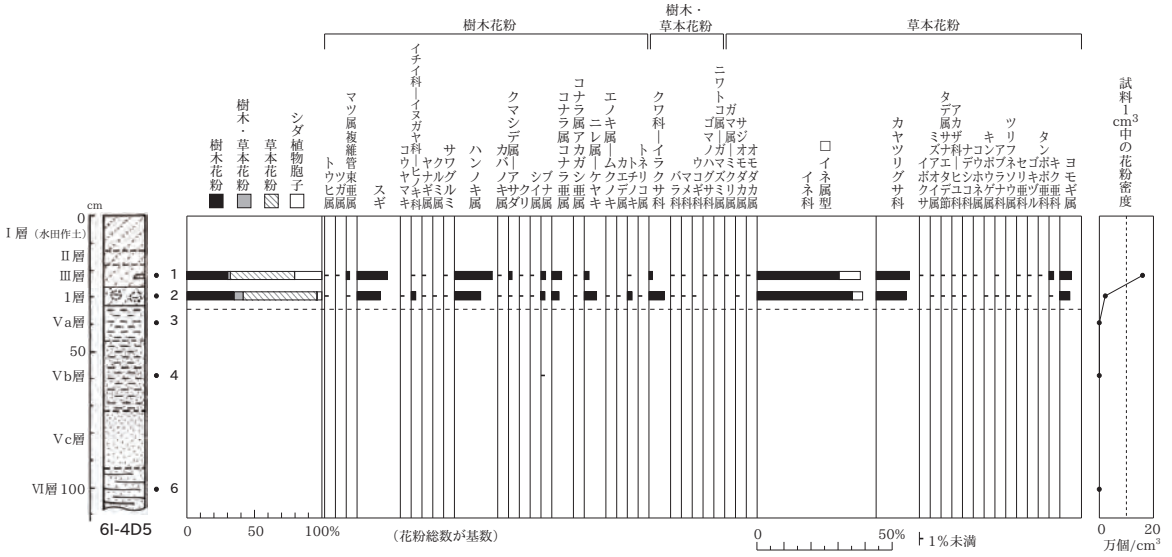
のブナ属がわずかに検出された。1層（試料2）とⅢ層（試料1）では、樹木花粉より草本花粉の占める割合がやや高く、Ⅲ層（試料1）ではシダ植物胞子が増加している。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ミズアオイ属、サジオモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではスギ、ハンノキ属が優勢で、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ、ブナ属などが伴われる。

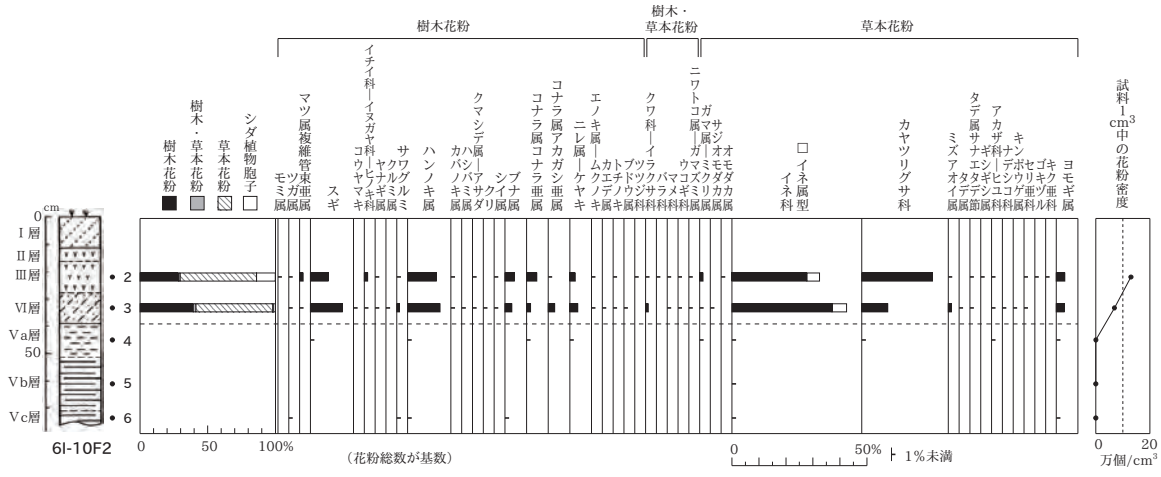
③ 6I-10F2　下位のVc層（試料6）からVa層（試料4）にかけてはハンノキ属、イネ科などが検出されたが、いずれも少量である。Ⅳ層（試料3）とⅢ層（試料2）では樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、Ⅲ層（試料2）ではシダ植物胞子が増加する。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）、カヤツリグサ科が優勢で、ヨモギ属、ミズアオイ属など、また、樹木花粉ではスギ、ハンノキ属が優勢で、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキなどが伴われる。



3）花粉分析から推定される植生と環境

① 6H-3J5　縄文時代晩期のVd層とVc層では、花粉が検出されなかった。Vb層およびVa層では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、当時は周辺にイネ科などの草本類、ハンノキ属などの落葉広葉樹が生育していたと考えられる。花粉が検出されない原

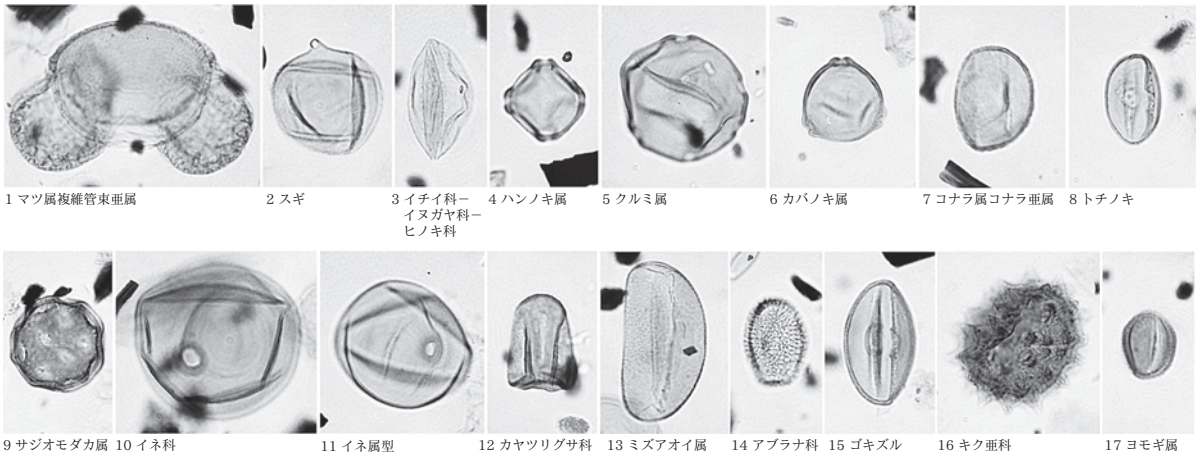




第32図　大沢谷内遺跡6区における花粉ダイアグラム

第 11 表　大沢谷内遺跡 6 区における花粉分析結果

分類群		6H-3J5グリッド				6I-4D5グリッド					6I-10F2グリッド				
学名	和名	1	2	3	4	1	2	3	4	5	2	3	4	5	6
Arboreal pollen	樹木花粉														
Picea	トウヒ属					1	1								
Abies	モミ属										1				
Tsuga	ツガ属					5					1	1			1
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属					9	6				10	3			
Pinus subgen. *Haploxylon*	マツ属単維管束亜属										2	1			
Cryptomeria japonica	スギ					84	56				49	70	1		
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ						1					1			
Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科					4	11				9	1			
Salix	ヤナギ属					2	4				4	1			
Juglans	クルミ属						1					3			
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ					1	1				3	6			1
Alnus	ハンノキ属	2	2			106	64				79	71	22		6
Betula	カバノキ属					2	4				5	2			
Corylus	ハシバミ属											1			
CarPinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ					10	3				6	3			
Castanea crenata	クリ					2	4					4			
Castanopsis	シイ属					5	6				1	5			
Fagus	ブナ属					13	10		1		26	15			5
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属					27	18				28	9	1		
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属					2	5				2	14			
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ		1			14	30				15	17	1		
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ						1				1	1			
Acer	カエデ属						2					2			
Aesculus turbinata	トチノキ	1				1	11				2	5			
Vitis	ブドウ属											1			
Ericaceae	ツツジ科										1				
Fraxinus	トネリコ属						1								
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉														
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科					10	37				7	6			
Rosaceae	バラ科					1	3				1				
Leguminosae	マメ科					4	1				1	1			
Araliaceae	ウコギ科						3				1	1			
Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科					1									
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属					2					1	3			
Nonarboreal pollen	草本花粉														
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属					3					10	3	1		
Alisma	サジオモダカ属					1	3					1			
Sagittaria	オモダカ属					1					3				
Gramineae	イネ科		3			230	231				206	219	5	1	1
Oryza type	イネ属型					60	25				35	32			
Cyperaceae	カヤツリグサ科					93	73				195	57	1		
Aneilema keisak	イボクサ					1									
Monochoria	ミズアオイ属					1	1				4	7			
Polygonum	タデ属											1			
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節					4	2				2	1			
Rumex	ギシギシ属										1				
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科					3	1				1	2	1		
Caryophyllaceae	ナデシコ科					1	1					1			
Nuphar	コウホネ属					1									
Ranunculus	キンポウゲ属						1					2			
Cruciferae	アブラナ科	1				1	4								
Impatiens	ツリフネソウ属						3								
Apioideae	セリ亜科					5	1				3	1			
Actinostemma lobatum	ゴキヅル					1	2				2				
Lactucoideae	タンポポ亜科					1									
Asteroideae	キク亜科					13	1				4				
Artemisia	ヨモギ属	1				32	24				23	17	1		2
Fern spore	シダ植物胞子														
Monolate type spore	単条溝胞子	7	4			189	22				115	9	4	3	8
Trilate type spore	三条溝胞子					3	1				4	1			1
Arboreal pollen	樹木花粉	3	3	0	0	288	240	0	1	0	245	237	25	0	13
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	0	0	18	44	0	0	0	11	11	0	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	2	3	0	0	452	373	0	0	0	489	344	9	1	3
Total pollen	花粉総数	5	6	0	0	758	657	0	1	0	745	592	34	1	16
Pollen frequencies of 1cm^3	試料1cm^{3}中の花粉密度	4.9 ×10	4.8 ×10	0.6 ×10	1.2 ×10	1.6 ×10^5	2.2 ×10^4	0.0	1.8 ×10	0.0	1.3 ×10^5	6.9 ×10^4	2.7 ×10^2	0.6 ×10	1.3 ×10^2
Unknown pollen	未同定花粉	2	2	1	2	2	13	0	2	0	10	9	4	0	2
Fern spore	シダ植物胞子	7	4	0	0	192	23	0	0	0	119	10	4	3	9
Helminth eggs	寄生虫卵	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)
Charcoal fragments	微細炭化物					(+++)	(+)								



1 マツ属複維管束亜属　2 スギ　3 イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科　4 ハンノキ属　5 クルミ属　6 カバノキ属　7 コナラ属コナラ亜属　8 トチノキ

9 サジオモダカ属　10 イネ科　11 イネ属型　12 カヤツリグサ科　13 ミズアオイ属　14 アブラナ科　15 ゴキズル　16 キク亜科　17 ヨモギ属

10 μm

第 33 図　大沢谷内遺跡 6 区の花粉

因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが想定される。

② 6I-4D5　Ⅵ層からⅤa層にかけては、花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが想定される。1層（SX442）およびⅢ層（古代・中世）の堆積当時は、調査地点もしくはその近辺で水田稲作が行われており、周囲の湿地などにはイネ科、カヤツリグサ科、および水田雑草の性格をもつミズアオイ属、サジオモダカ属などが生育していたと考えられる。また、遺跡周辺にはハンノキの湿地林が分布し、周辺地域にはスギ、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキなどが分布していたと推定される。

③ 6I-10F2　縄文時代晩期のⅤc層からⅤa層にかけては、花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが想定される。

C 7　　区

1）試　　料

分析試料は、基本層序5地点から採取された3点、基本層序4地点、基本層序3地点から採取された試料⑦～試料⑯の10点、SX119地点から採取された2点、SX186地点から採取された2点、計17点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

2）結　　果

(1) 分　類　群

大沢谷内遺跡における花粉分析で出現した分類群は、樹木花粉32、樹木花粉と草本花粉を含むもの5、草本花粉31、シダ植物胞子2形態の計70である。また、寄生虫卵3分類群が検出された。分析結果を第12表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラム（第34図）を示した。主要な分類群について顕微鏡写真（第35図）を示す。以下に出現した分類群を記載する。

［樹木花粉］モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、キハダ属、ウルチ属、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、シナノキ属、ミズキ属、トネリコ属

［樹木花粉と草本花粉を含むもの］クワ科－イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ニワトコ属－ガマズミ属

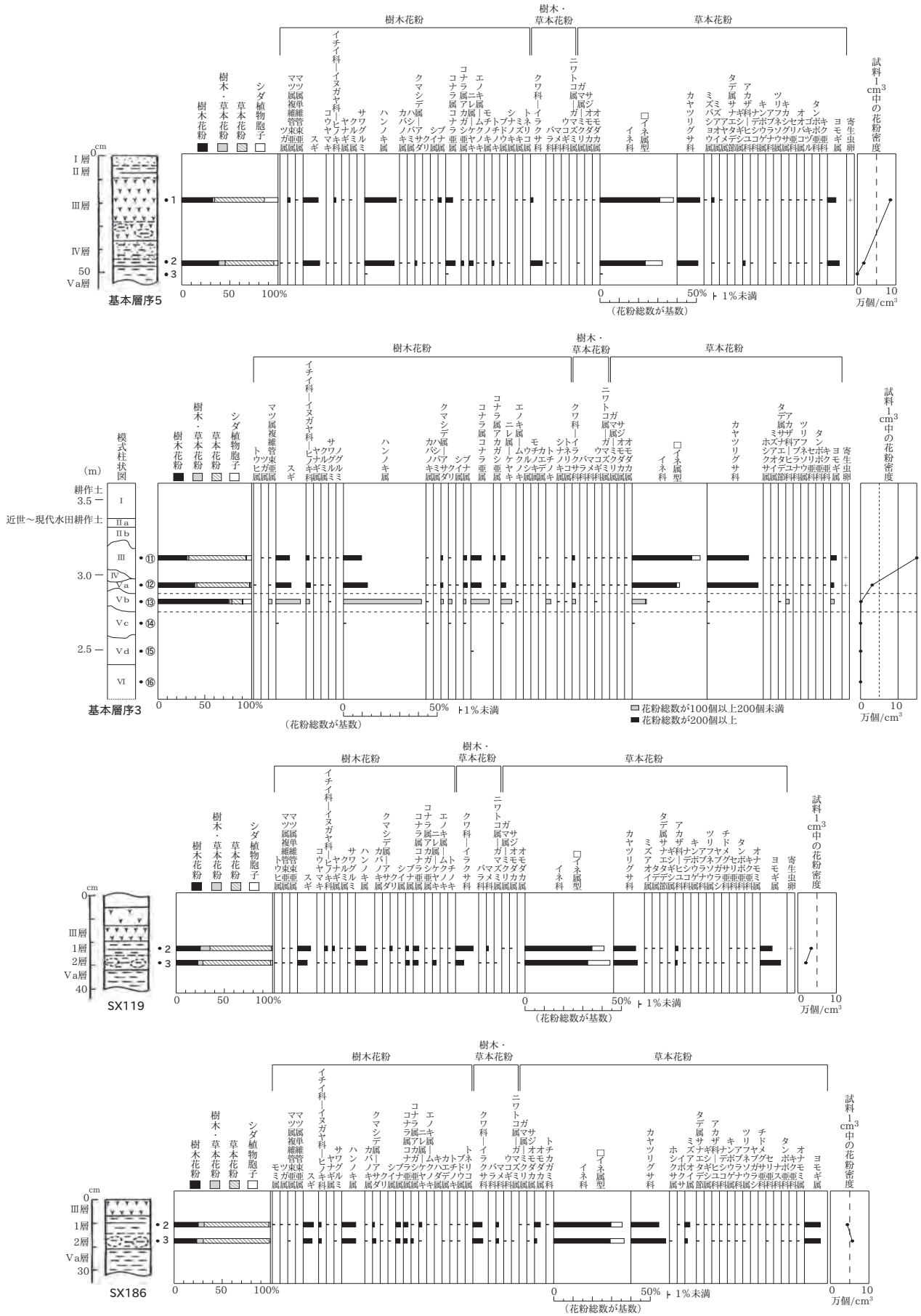
［草本花粉］ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、トチカガミ科、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズバショウ属、ホシクサ属、イボクサ、ミズアオイ属、アヤメ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、ヤブガラシ、キカシグサ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、ナス科、オオバコ属、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

［シダ植物胞子］単条溝胞子、三条溝胞子

［寄生虫卵］回虫卵、鞭虫卵、カピラリア

(2) 花粉群集の特徴

① 基本層序5　下位のⅤa層（試料3）では、花粉がほとんど検出されなかった。Ⅳ層（試料2）とⅢ層（試料1）では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ミズアオイ属、オモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、スギ、コナラ



第 34 図　大沢谷内遺跡７区における花粉ダイアグラム

属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキなどが伴われる。また、Ⅲ層（試料１）では回虫卵が認められた。

② 基本層序４　Ⅳ層（試料⑦）、Ｖｂ層（試料⑧）、Ｖｃ層（試料⑨）、Ｖｄ層（試料⑩）では、各試料からハンノキ属が検出され、部分的にコナラ属コナラ亜属、トチノキ、イネ科なども認められたが、いずれも少量である。

③ 基本層序３　下位のⅥ層（試料⑯）では花粉が検出されなかった。Ｖｄ層（試⑮）ではコナラ属コナラ亜属、Ｖｃ層（試料⑭）ではハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、イネ科などが検出されたが、いずれも少量である。Ｖｂ層（試料⑬）では花粉密度が低く、樹木花粉の占める割合が約 80% と高い。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、

第 12 表　大沢谷内遺跡 7 区における花粉分析結果

分類群		基本層序5地点			基本層序4地点				基本層序3地点						SX119		SX186	
		Ⅲ層	Ⅳ層	Va層	Ⅳ層	Vb層	Vc層	Vd層	Ⅲ層	Va層	Vb層	Vc層	Vd層	Ⅵ層	1層	2層	1層	2層
学名	和名	1	2	3	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	2	3	2	3
Arboreal pollen	樹木花粉																	
Picea	トウヒ属									1						1		
Abies	モミ属																1	
Tsuga	ツガ属		1						1								1	
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	11	3						5	1	3				4	3	4	4
Pinus subgen. *Haploxylon*	マツ属単維管束亜属	1	1							1					3	2	2	
Cryptomeria japonica	スギ	77	44						60	52	20	1			42	29	41	43
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ		1													1		
Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	10	3						14	14	3				10	5	10	13
Salix	ヤナギ属	5							1	3					7	2	3	
Juglans	クルミ属	2	1				1		2	1					1			
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ		2						4	2	1				4	1	2	2
Platycarya strobilacea	ノグルミ								1									
Alnus	ハンノキ属	160	78	3	3	2	3	1	81	83	64	6			33	36	57	68
Betula	カバノキ属	8	3						1	2	1	1			5	5	2	5
Corylus	ハシバミ属		1							1								
CarPinus-Ostrya japonica	クマシデ属－アサダ	6	5				1		8	7	2				2		8	16
Castanea crenata	クリ	5	4						7	5	3	1			7	4	3	7
Castanopsis	シイ属	3	2							1					1	3		4
Fagus	ブナ属	17	2						13	13	2	2			10	12	19	21
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	35	25	1	1	1			45	35	15		1		18	15	19	19
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	4	6						8	6					1	2	7	10
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属－ケヤキ	7	11						18	17	9	1			4	11	12	5
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属－ムクノキ	8	4			1				4	1				3		1	
Phellodendron	キハダ属																1	
Acer	カエデ属								2	1								1
Rhus	ウルシ属									1								
Ilex	モチノキ属	3	1							1								
Aesculus turbinata	トチノキ	4	5					1	2	6	4				2	1	3	3
Vitis	ブドウ属		1							2	1						2	2
Tilia	シナノキ属		1															
Cornus	ミズキ属	1																
Fraxinus	トネリコ属	1							1		1						1	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉																	
Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科	13	31						12	11	3				56	24	37	49
Rosaceae	バラ科		2							2						4		1
Leguminosae	マメ科	7	2						1	1					6	2	10	12
Araliaceae	ウコギ科	1							1		1							1
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属－ガマズミ属	2							2	1						1		1
Nonarboreal pollen	草本花粉																	
Typha-Sparganium	ガマ属－ミクリ属	2	1						2	4					2		2	
Alisma	サジオモダカ属	1							1	1					3		5	6
Sagittaria	オモダカ属	7							5	3						2	24	11
Hydrocharitaceae	トチカガミ科																1	
Gramineae	イネ科	305	120	1	2	1			265	153	11	2			214	188	230	274
Oryza type	イネ属型	69	45						37	11	1				39	67	46	68
Cyperaceae	カヤツリグサ科	116	55						185	177	1	1			70	71	113	169
Eriocaulon	ホシクサ属								1									1
Aneilema keisak	イボクサ																1	
Lysichiton	ミズバショウ属	5																
Monochoria	ミズアオイ属	12	2						6	6					4	1	20	12
Iris	アヤメ属	1																
Polygonum	タデ属														1			
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節		1						1	2	1				2	1	2	1
Rumex	ギシギシ属	1														4	2	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	6	7						2	1	3				8	6	2	5
Caryophyllaceae	ナデシコ科		3												1	1	2	5
Ranunculus	キンポウゲ属	1													1		2	2
Cruciferae	アブラナ科	5							1						1	1	1	2
Impatiens	ツリフネソウ属		1						1	2					3	2	4	8
Cayratia japonica	ヤブガラシ															1	1	
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科															4	1	
Rotala	キカシグサ属	1																
Apioideae	セリ亜科	3	2						3	2					4		1	4
Solanaceae	ナス科																1	
Plantago	オオバコ属	1	1															
Actinostemma lobatum	ゴキヅル	1	1															
Lactucoideae	タンポポ亜科	1							1						1	2	1	1
Asteroideae	キク亜科	9	1						6	1					4	2	4	1
Xanthium	オナモミ属														1		1	3
Artemisia	ヨモギ属	43	31		1				25	11	3				38	61	64	77
Fern spore	シダ植物胞子																	
Monolate type spore	単条溝胞子	152	19	3	4	1	3	4	51	11	13	8	2		6	9	14	8
Trilate type spore	三条溝胞子	10	4								3	3			2	3	1	1
Arboreal pollen	樹木花粉	368	205	4	4	4	5	2	274	260	130	12	1	0	157	133	199	223
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	23	35	0	0	0	0	0	16	15	4	0	0	0	62	31	47	64
Nonarboreal pollen	草本花粉	590	271	1	3	1	0	0	542	374	20	3	0	0	397	414	531	650
Total pollen	花粉総数	981	511	5	7	5	5	2	832	649	154	15	1	0	616	578	777	937
Pollen frequencies of 1cm^3	試料1cm^{3}中の花粉密度	8.6 ×10^4	1.7 ×10^4	3.5 ×10	4.8 ×10	3.0 ×10	3.6 ×10	1.4 ×10	1.5 ×10^5	3.1 ×10^4	9.8 ×10^2	1.5 ×10^2	0.6 ×10	0.0	3.5 ×10^4	2.1 ×10^4	4.4 ×10^4	5.7 ×10^4
Unknown pollen	未同定花粉	11	12	0	1	0	1	0	13	10	9	7	0	0	13	4	9	10
Fern spore	シダ植物胞子	162	23	3	4	1	3	4	51	11	16	11	2	0	8	12	15	9
Helminth eggs	寄生虫卵																	
Ascaris（*lumbricoides*）	回虫卵	1							1									
Trichuris（*trichiura*）	鞭虫卵														1			
Capillaria sp.	カピラリア									1								
Total	計	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0		
Helminth eggs frequencies of 1cm^3	試料1cm^{3}中の寄生虫卵密度	1.1 ×10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8 ×10	1.2 ×10	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0		
Helminth eggs	寄生虫卵																(－)	(－)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
Charcoal fragments	微細炭化物	(++)							(+)						(+)	(+)	(+)	(+)

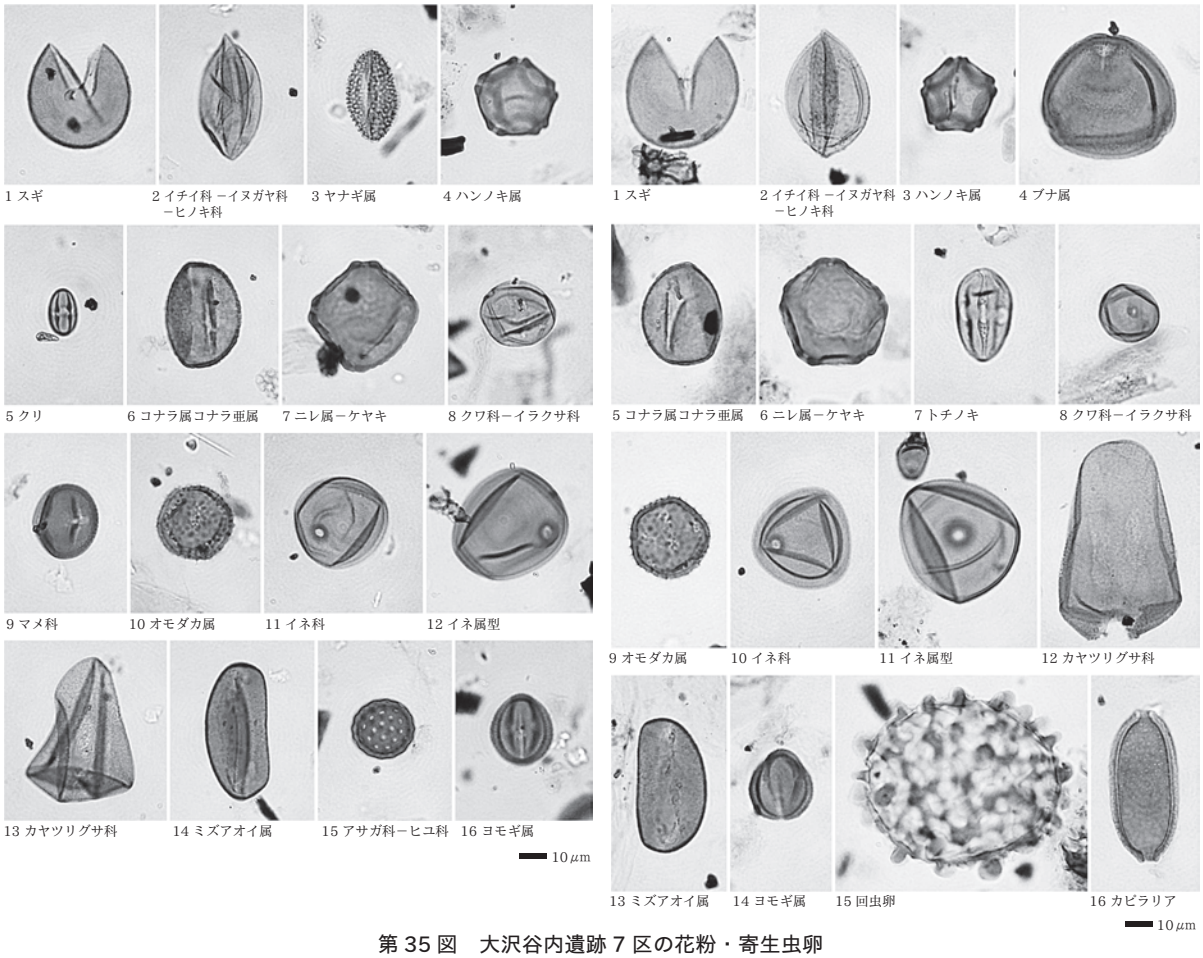
スギ、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ、トチノキなどが伴われる。草本花粉ではイネ科が優勢で、アカザ科－ヒユ科、ヨモギ属などが伴われる。Va 層（試料⑫）とⅢ層（試料⑪）では、花粉密度が増加し、草本花粉の占める割合が増加する。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）、カヤツリグサ科が優勢で、ヨモギ属、ミズアオイ属、サジオモダカ属、オモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、スギ、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ、ブナ属などが伴われる。また、試料⑫では寄生虫卵のカピラリア、試料⑪では回虫卵が認められた。

④ SX119 地点　１層（試料２）と２層（試料３）では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ミズアオイ属、オモダカ属、サジオモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではスギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属など、樹木・草本花粉ではクワ科－イラクサ科などが検出された。また、１層（試料２）では鞭虫卵が認められた。

⑤ SX186 地点　SX186 地点の１層（試料２）と２層（試料３）では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ミズアオイ属、オモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属、ブナ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、クマシデ属－アサダなど、樹木・草本花粉ではクワ科－イラクサ科などが検出された。

3）花粉分析から推定される植生と環境

① 基本層序５　基本層序５地点のVa 層では花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。Ⅳ層とⅢ層では、イネ属型を含むイネ科が水田雑草のミズアオイ属、オモダカ属、サジオモダカ属などを伴って出現することから、堆積地ないし周辺には水田が分布していたと考えられる。比較的多いヨモギ属、カヤツリグサ



第 35 図　大沢谷内遺跡７区の花粉・寄生虫卵

科は、クワ科－イラクサ科の草本と共に、水田の周囲に生育していたとみなされる。近隣には湿地林や河辺林を形成するハンノキ林が分布し、周辺地域にはスギ林およびコナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキなどの落葉広葉樹が分布していたと推定される。Ⅲ層では寄生虫卵の回虫卵が検出された。人糞施肥の影響も示唆されるが、低密度であることから集落周辺などの人為環境における通常の生活汚染に由来するものと考えられる。回虫は中間宿主を必要とせず、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。

② **基本層序４**　縄文時代晩期後葉とされるⅤd 層から古墳時代～古代とされるⅣ層にかけては、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難である。ただし、各試料でハンノキ属が認められることから、当時は周辺にハンノキの湿地林や河辺林が分布していた可能性が考えられる。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

③ **基本層序３**　縄文時代晩期後葉とされるⅤd 層より下位では、花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。縄文時代晩期末とされるⅤc 層では、花粉があまり検出されないために植生や環境の推定は困難であるが、当時は周辺にハンノキの湿地林や河辺林が分布していた可能性が考えられる。縄文時代晩期後葉とされるⅤb 層の堆積当時は、周辺にハンノキの湿地林や河辺林が分布していたと考えられ、周辺地域にはコナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ、トチノキなどの落葉広葉樹やスギ林が分布していたと推定される。また、その林縁などにはイネ科、アカザ科－ヒユ科、ヨモギ属などの草本類が生育していたと考えられる。Ⅴa 層と古代～中世とされるⅢ層では、イネ属型を含むイネ科が水田雑草のミズアオイ属、オモダカ属、サジオモダカ属などを伴って増加することから、堆積地ないし周辺には水田が分布していたと考えられ、その周囲にはカヤツリグサ科をはじめヨモギ属、クワ科－イラクサ科などの草本類が生育していたと推定される。また、周辺の湿地や河辺にはハンノキが生育し、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ、ブナ属などの落葉広葉樹やスギ林が分布していたと考えられる。Ⅲ層では寄生虫卵の回虫卵が検出された。人糞施肥の影響も示唆されるが、低密度であることから集落周辺などの人為環境における通常の生活汚染に由来するものと考えられる。

④ **SX119 地点**　１層と２層では、草本花粉の占める割合が高く、イネ属型を含むイネ科が水田雑草のミズアオイ属、オモダカ属、サジオモダカ属などを伴って出現することから、堆積地ないし周辺には水田が分布していたと考えられる。比較的多いヨモギ属、カヤツリグサ科は、クワ科－イラクサ科の草本と共に、水田の周囲に生育していたとみなされる。近隣には湿地林や河辺林を形成するハンノキ林が分布し、周辺地域にはスギ林およびコナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹が分布していたと推定される。

１層では寄生虫卵の鞭虫卵が検出された。人糞施肥の影響も示唆されるが、低密度であることから集落周辺などの人為環境における通常の生活汚染に由来するものと考えられる。鞭虫は中間宿主を必要とせず、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。

⑤ **SX186 地点**　SX186 地点の１層と２層では、イネ属型を含むイネ科が水田雑草のミズアオイ属、オモダカ属、サジオモダカ属などを伴って出現することから、堆積地ないし周辺には水田が分布していたと考えられる。比較的多いヨモギ属、カヤツリグサ科は、クワ科－イラクサ科の草本と共に、水田の周囲に生育していたとみなされる。近隣には湿地林や河辺林を形成するハンノキ林が分布し、周辺地域にはスギ林およびコナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹が分布していたと推定される。

第3節　種　実　同　定

植物の種子や果実には比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内などに残存している場合がある。堆積物や遺構埋土などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や植物利用の実態を明らかにすることができる。

方　　法

種実類について肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって、科、属、種の階級で示した。

A 6　　区

1）試　　料

種実同定の対象試料は、大沢谷内遺跡から出土した水洗選別済みの種実類（⑤、⑥、⑨、⑩、⑰）である。試料の詳細を第 13 表に示す。なお、試料については、水洗選別後に室温下で乾燥されたものである。

2）結　　果

(1) 分　類　群

［樹木］

オニグルミ　*Juglans ailanthifolia* Carr.　核（破片）　クルミ科

茶褐色で円形～楕円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。

クリ　*Castanea crenata* S. et Z.　堅果（破片）・子葉（破片）　ブナ科

堅果は三角状扁円形を呈す。一側面は円みがあり、反対面は平らな形が多い。両面とも円みがある。子葉は黒褐色で広楕円形を呈し、下端に広い付き部がある。断面は楕円～半円形である。

第 13 表　大沢谷内遺跡 6 区における種実同定結果

分類群		部位	下層下面	下層下面			下層下面
			F435	F921	F1022	F1022	F1130
学名	和名		⑤	⑥	⑨	⑩	⑰
Arbor	樹木						
Juglans ailanthifolia Carr	オニグルミ	核（炭化・破片）				2	15
Castanea crenata S. et Z.	クリ	堅果（炭化・破片）				1	
		子葉（炭化・破片）				3	
Prunus persica Batsch	モモ	核（破片）				1	
Styracaceae	エゴノキ科	核（破片）		1			
Herb	草本						
Trapa japonica Flerov.	ヒシ	果実（炭化・破片）	31	6	5	52	13
Total	合計		31	7	5	59	28
Unknown seeds	不明	幼果					1

モモ　*Prunus persica* Batsch　核（完形・破片）　バラ科

長さ（mm）× 幅（mm）× 厚さ（mm）：26.95×19.17×13.50、26.40×16.76×12.14、25.91×18.32×13.90

黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

エゴノキ科　*Styrax japonica* S. et Z.　核（破片）　エゴノキ科

黒褐色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面に 3 本の溝が走る。

［草本］

ヒシ　*Trapa japonica* Flerov　果実（破片）　ヒシ科

暗黄緑灰色で倒三角形を呈し、側面はやや偏平で両肩に 1 個ずつの鋭い長刺があり、刺からは基部まで延びる翼状隆条がある。先端の中央部に低い円柱状突起があり、その中心に短い刺がある。

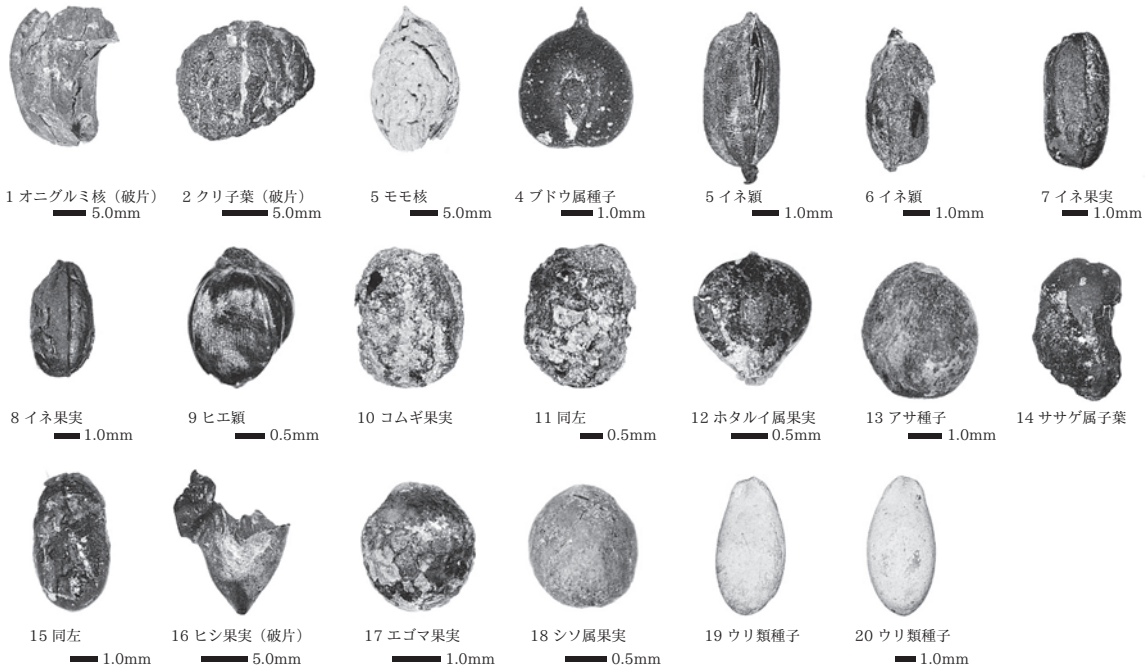
(2) 種実群集の特徴

⑤ **下層下面 F435**（縄文時代晩期後葉）　草本種実のヒシ 31 が同定された。

⑥ **下層下面 F921**（縄文時代晩期終末）　樹木種実のエゴノキ科 1、草本種実のヒシ 6 が同定された。

⑨ **下層下面 F1022**（縄文時代晩期終末）　草本種実のヒシ 5 が同定された。

⑩ **下層下面 F1022**（縄文時代晩期終末）　樹木種実のオニグルミ 2、クリ 5、モモ 1、草本種実のヒシ 52 が同



第 36 図　大沢谷内遺跡 6 区の種実

定された。

⑰ **下層下面 F1130**（縄文時代晩期終末）　樹木種実のオニグルミ 15、草本種実のヒシ 13 が同定された。

(3) 種実同定から推定される植生と農耕

種実同定の結果、縄文時代晩期後葉の試料（6 区⑤ 下層下面 F435、⑥ 下層下面 F921、⑨ 下層下面 F1022、⑩ 下層下面 F1022、⑰ 下層下面 F1130）では、浮葉植物で水域（1 ～ 1.5m）を示唆するヒシが多く、谷や河川沿いに生育するエゴノキ科、オニグルミ、水はけのよいところに生育するクリも認められた。環境としては水域やその縁辺が示唆されるが、ヒシをはじめオニグルミやクリは食用になることから、利用されて投棄された残滓である可能性も考えられる。

B　7　　区

1) 試　　料

試料は、中世とされる井戸の SE121（5・6 層一括：①～③）、SE122（8 層、4 層、12 層：④～⑥）、SE126（5 ～ 7 層一括、8・9 層一括、10・11 層一括、12・13 層一括：⑦～⑩）から出土した水洗選別済み 10 式分の種実類である。

2) 結　　果

(1) 分　類　群

樹木 5、草本 9 の計 14 分類群が同定された。学名、和名および粒数を第 14 表に示し、主要な分類群を第 37 図に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴、写真に示したもののサイズを記載する。

［樹木］

イヌガヤ　*Cephalotaxus harringtonia* K.Koch　種子　イヌガヤ科　長さ × 幅：19.58mm×10.60mm

茶褐色で長楕円形を呈す。表面には顆粒状の隆起があり、側面では基部は鈍隆条、先端の方は鋭い稜に変わる。断面は両凸レンズ形である。狭楕円体や長楕円体を呈する。

コナラ属　*Quercus*　ヘソ　ブナ科　長さ × 幅：3.76mm×3.78mm

茶褐色で円形を呈し、表面はざらざらである。この分類群は殻斗欠落し、破片のため属レベルの同定までである。

コブシ　*Magnolia borealis Kubo*　種子　モクレン科　長さ × 幅：6.31mm×8.36mm

第 14 表　大沢谷内遺跡 7 区における種実同定結果

分類群		部位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
			SE121			SE122			SE126			
学名	和名		5・6層一括			8層	4層	12層	5〜7層	8・9層	10・11層	12・13層
Arbor	樹木											
Cephalotaxus harringtonia K. Koch	イヌガヤ	種子										1
Quercus	コナラ属	ヘソ							1			
Magnolia borealis Kudo	コブシ	種子		1								
Zanthoxylum ailanthoides S. et Z.	カラスザンショウ	種子				1			1			
Mallotus japonicus Muell. et Arg.	アカメガシワ	種子										
Styrax japonica S. et Z.	エゴノキ	核						1				
Herb	草本											
Sparganium	ミクリ属	果実			1							
Oryza sativa L.	イネ	炭化果実			1							
Humulus scandens Merr.	カナムグラ	種子								1		
Polygonum Thunbergii S. et Z.	ミゾソバ	果実									1	
Ampelopsis brevipedunculata var. *Heterophylla* Hara	ノブドウ	種子								1		1
Trapa japonica Flerov.	ヒシ	果実（破片）	2									
Trichosanthes kirilowii Maxim. var. *japonica* Kitam	キカラスウリ	種子								1		
Cucumis melo L.	ウリ類	種子					1		1	1		2
		（破片）					1					
Lagenaria siceraria Standl.	ヒョウタン類	種子				1						
Total	合計		2	1	2	2	2	1	3	4	1	4
Unknown plants	不明植物遺体		2	2						1		1
	炭化材片		1	2					3	1		2
	備考			石1								

種子は黒褐色で広卵形を呈す。断面は腎形。下端にへそがある。種皮は薄く堅い。

カラスザンショウ　*Zanthoxylum ailanthoides* S. et Z.　種子　ミカン科　長さ × 幅：3.75mm×3.06mm

黒色で楕円形を呈し、側面に長く深いへそがある。表面には大きい網目模様がある。

アカメガシワ　*Mallotus japonicus* Muell. et Arg.　種子　トウダイグサ科　長さ × 幅：4.07mm×3.80mm

黒色で球形を呈し、「Y」字状のへそがある。表面にはいぼ状の突起が密に分布する。

エゴノキ　*Styrax japonica* S. et Z.　核　エゴノキ科　長さ × 幅：9.51mm×6.16mm

黒褐色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面に 3 本の溝が走る。

［草本］

ミクリ属　*Spaganium*　果実　ミクリ科　長さ × 幅：4.95mm×1.89mm

淡褐色で側面観は倒卵形、上面観は円形。表面には縦方向に 5 本程度の筋が走る。

イネ　*Oryza sativa* L.　炭化果実　イネ科　長さ × 幅：4.31mm×2.34mm

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

カナムグラ　*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.　種子　クワ科　長さ × 幅：3.57mm×3.46mm

黒色で円形を呈し、断面形は両凸レンズ状である。側面には心形を呈するへそがある。

ミゾソバ　*Polygonum thunbergii* S. et Z.　果実　タデ科　長さ × 幅：4.60mm×2.25mm

黄褐色で三角状広卵形を呈し、基部に小突起がある。表面には微細な網目模様がある。

ノブドウ　*Ampelopsis brevipedunculata* var. *heterophylla* Hara　種子　ブドウ科

長さ × 幅：3.93mm×4.07mm　茶褐色で広卵形を呈す。腹面に「ハ」字状の孔が 2 つあり、背面のカラザは長く伸びる。

ヒシ　*Trapa* japonica Flerov　果実（破片）　ヒシ科

暗黄緑灰色で倒 3 角形を呈し、側面はやや偏平で両肩に 1 個ずつの鋭い長刺があり、刺からは基部まで延びる翼状隆条がある。先端の中央部に低い円柱状突起があり、その中心に短い刺がある。

キカラスウリ　*Trichosanthes kirilowii* Maxim. var. japonica Kitam　種子　ウリ科

長さ × 幅：11.93mm×7.47mm　淡褐色で扁平楕円形を呈す。中央部がやや膨らみ、周辺はざらつく。

ウリ類　*Cucumis melo* L.　種子（完形・破片）　ウリ科　長さ × 幅：8.38mm×3.89mm、8.13mm×3.96mm

淡褐色〜黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。藤下（1982）によると小粒種子（雑草メロン型）、中粒種子（マクワウリ・シロウリ型）、大粒種子（モモルディカ型）がある。

ヒョウタン類　*Lagenaria siceraria* Standl.　種子　ウリ科　長さ × 幅：11.02mm×5.45mm

淡褐色で楕円形を呈す。上端にはへそと発芽孔があり、下端は波うつ切形を呈す。表面には縦に 2 本の低い

稜が走る。藤下（1982）がヒョウタン仲間とするものには、ヒョウタン・フクベ・カンピョウが含まれ、このうちフクベ・カンピョウは食用になる。

（2）種実群集の特徴

① SE121　5・6 層一括のうち①では草本種実のヒシ 2、②では樹木種実のコブシ 1、③では草本種実のミクリ属 1、イネ 1 が同定された。

② SE122　8 層（④）では樹木種実のカラスザンショウ 1、ヒョウタン類 1、4 層（⑤）では草本種実のウリ類 2、12 層（⑥）では樹木種実のエゴノキ 1 が同定された。

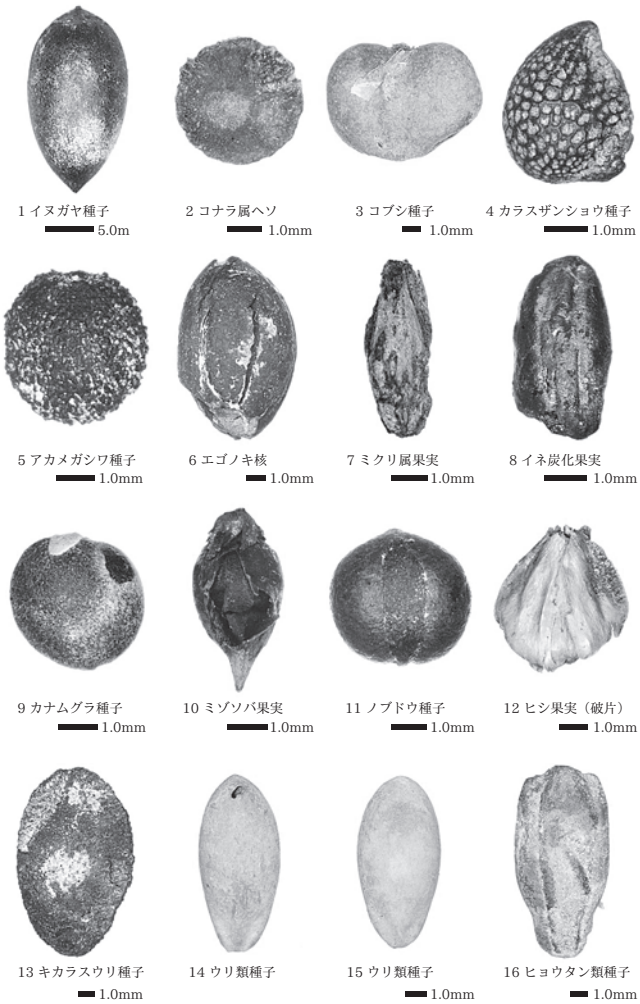
③ SE126　5 ～ 7 層一括(⑦)では樹木種実のコナラ属 1、アカメガシワ 1、草本種実のウリ類 1、8･9 層一括(⑧)では草本種実のカナムグラ 1、ノブドウ 1、キカラスウリ 1、ウリ類 1、10・11 層一括（⑨）では草本種実のミゾソバ 1、12・13 層一括（⑩）では樹木種実のイヌガヤ 1、草本種実のノブドウ 1、ウリ類 2 が同定された。

3）考　　察

① SE121　5・6 層一括（①～③）で検出されたイネは食用となる栽培植物、ヒシは食用となる有用植物である。草本種実のミクリ属、ヒシは水生植物であり、周辺にこれらが生育する滞水域の分布が示唆される。コブシは、谷合いまたはこれに続く斜面等に生育し、適潤で肥沃な土壌を好む。

② SE122　8 層（④）のヒョウタン類、4 層（⑤）のウリ類は食用となる栽培植物である。8 層（④）のカラスザンショウは林縁の二次林種であり、12 層（⑥）のエゴノキは河川や水路沿いなどの湿潤地に生育する。

③ SE126　5 ～ 7 層一括（⑦）、8・9 層一括（⑧）、12・13 層一括（⑩）で検出されたウリ類は食用となる栽培植物である。5 ～ 7 層一括（⑦）のコナラ属は広葉樹、アカメガシワは林縁の二次林種である。8・9 層一括（⑧）のカナムグラ、ノブドウ、キカラスウリは畑や集落のやや乾燥した人為地に生育し、10・11 層一括（⑨）のミゾソバは湿地から浅い流路に生育する。12・13 層一括（⑩）のイヌガヤは谷間などに生育する針葉樹であり食用にならない。ノブドウは畑や集落のやや乾燥した人為地に生育する雑草である。



第 37 図　大沢谷内遺跡 7 区の種実

第４節　大沢谷内遺跡出土の動物遺存体

山　田　凜太郎（京都大学大学院）

は　じ　め　に

新潟県大沢谷内遺跡では、発掘調査において縄文時代晩期後葉の遺構から、白色の微細な骨片が確認された。骨片には焼土や灰、炭化物がしばしば伴っており、焼骨の破片であると考えられる。出土した動物遺存体は高温で焼けたことにより残存したとみられ、貝塚の分布密度が低く動物遺存体の出土事例が少ない日本海側では、生業活動を検討する上で貴重な資料である。

本節では、動物遺存体の分析結果を報告するとともに、大沢谷内遺跡における生業活動を検討した。

A　分 析 の 対 象

分析の対象とするのは、大沢谷内遺跡から出土した微細な骨片である。骨片はすべて６区下層上面～下面より検出された、縄文時代晩期後葉に属する遺構（竪穴住居址、土坑、焼土、炭化物集中地点）から出土している。

出土した骨片は非常に微細であり、1mm メッシュの篩を用いた水洗選別では、骨片の大半が篩の目を抜け落ちてしまう可能性があった。そこで新潟市文化財センターでは、遺構ごとに土壌を採集した上で、不織布（繊維を織らずに組み合わせたシート状のもの）を用いた濾過による水洗選別を実施している。そして水洗選別の結果回収された骨片については、新潟市文化財センターにて計量と大まかな分類が行われたのち、資料が奈良文化財研究所埋蔵文化財センター環境考古学研究室に送付されている。

B　分 析 の 方 法

送付された資料は時間の制約上、下位の分類群ないしは部位まで同定可能なものを抽出し同定した。また同定の前段階で、送付された資料全体の重量（質量）と分析対象とした資料の重量を再計量し、送付された資料のうち何％が分析対象となったかを重量比で示した。重量（質量）はベーシック汎用電子天秤（GF-6100）を用いて 0.01g 以上を計量し、それ未満のものは表中で「<0.01g」と表した。

分析対象とした資料は微細な骨片がほぼすべてを占めており、完全な形で残存する部位はほとんどみられなかった。そこで関節の有無にかかわらず同定可能な破片はすべて同定し、点数を数えた。同定は現生骨格標本との比較によって行った。比較に際しては環境考古学研究室が所蔵する現生標本を用いた。同定および同定可能破片数（NISP）の算定では、肉眼による観察の他に環境考古学研究室が所蔵する実体顕微鏡（ライカ）を用いた。

動物の学名、配列、および記載は、魚類が『日本産硬骨魚綱検索 全種の同定 第三版Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』〔中坊編 2013〕、哺乳類が『日本の哺乳類（改訂第２版）』〔阿部監修 2008〕に基本的に従った。

第 15 表　大沢谷内遺跡出土の動物遺存体種名表

脊椎動物門	Vertebrata
硬骨魚綱	Chondrichthyes
コイ科	Cyprinidae sp.
ドジョウ科?	Cobitidae sp.?
アユ	*Plecoglossus altivelis altivelis*
サケ科	Salmonidae sp.
トゲウオ科	Gasterosteidae sp.
タイ科?	Sparidae sp.?
ハゼ科	Gobiidae sp.
両生綱	Amphibia
無尾目	Aura sp.
爬虫綱	Reptilia
ヘビ亜目	Serpentes sp.
哺乳綱	Mammalia
ニホンジカ?	Cervus nippon?

C　分析の結果と考察

1）動物遺存体全体の概要（第 15 表・第 16 表・第 17 表）

総重量 44.39g のうち同定可能な骨片として 6.14g（全体の 13.8%）を抽出し、硬骨魚綱が 7 分類群 4,311 点、哺乳綱が 1 分類群 9 点、爬虫綱が 1 分類群 31 点、両生綱が 1 分類群 8 点の、合計 4,359 点を同定した。NISP

第 16 表　大沢谷内遺跡の遺構別動物遺存体出土表

時期	調査区	遺構確認面	遺構分類	遺構No.	魚類		哺乳綱		爬虫綱		両生綱		同定対象外	合 計		同定可能破片重量/全体量（%）
					点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	重量（g）	点数	重量（g）	
縄文時代晩期後葉	6区	下層上面	竪穴住居	SI93	5	<0.01							0.01	5	0.01	0.00
			炭化物集中	SC191									0.02	0	0.02	0.00
			焼土	F204	2770	3.31	6	0.27	14	0.01	5	<0.01	17.8	2796	21.39	16.78
				F285									<0.01	0	<0.01	0.00
				F433	3	<0.01					2	0.01	0.56	5	0.57	1.75
			土坑	SK626									0.05	0	0.05	0.00
				SK656									<0.01	0	<0.01	0.00
		下層中面	土坑	SK968	150	0.54					1	0.01	7.52	151	8.07	6.82
		下層下面	焼土	F402	635	0.7							5.49	635	6.19	11.31
				F435									0.03	0	0.03	0.00
				F813									0.22	0	0.22	0.00
				F951	37	0.06	3	0.24					1.03	40	1.33	22.56
				F1022	7	0.05							0.83	7	0.88	5.68
				F1130	704	0.91			17	0.03			4.69	721	5.63	16.70
合 計					4311	5.57	9	0.51	31	0.04	8	0.02	38.25	4359	44.39	13.83

※重量の単位はgとし、0.01g未満のものについては "<0.01" と表している。重量の合計や同定可能破片重量/全体量では0.01g未満は0として計算している。

のうち 98.8% が硬骨魚綱であり、特定の分類群に集中する傾向を示した。哺乳綱、爬虫綱、両生綱は分類群、点数ともに比較的少数であり、貝類や鳥綱などはみられなかった。重量でも硬骨魚綱 5.57g、哺乳綱 0.51g、爬虫綱 0.04g、両生綱 0.02g となり、硬骨魚綱が 90.7% と大半を占めた。

遺構ごとにみると、F204 から 2,796 点（21.39g）と分析対象とした資料のうち約半数が出土している。次いで F1130、F402、SK968 の順に NISP が多い。全体として遺構ごとに骨片の出土量に差異があり、なおかつ多数の骨片が回収された遺構での NISP が多い傾向にある。また土坑や竪穴住居址よりも焼土から同定された NISP の方が多い。

2）魚　　類

a　魚 類 の 概 要

7 分類群 4,311 点（5.57g）が同定された。最も多くの遺構から出土しており、本節で分析した資料中では NISP、重量ともに最も多い。下位の分類群まで同定できたのはすべて硬骨魚綱である。内訳は、トゲウオ科が 2,644 点(2.58g)、サケ科が 1,402 点(2.28g)、コイ科が 11 点(0.06g)、ハゼ科が 3 点(0.01g 未満)、アユが 1 点(0.01g 未満)、ドジョウ科の可能性が高いものが 1 点（0.01g 未満）、タイ科の可能性が高いものが 1 点（0.01g 未満）、不明魚類が 247 点（0.65g）となる。NISP、重量ともにトゲウオ科が最も多く、サケ科がそれに続く。またトゲウオ科とサケ科で NISP では 93.8%、重量では 87.2% を占めており、この 2 分類群に集中する傾向を示した(第 38 図・第 39 図)。

b　遺構ごとの傾向

遺構ごとに出土している魚類の内容に差異があるかを検討するため、魚類が出土している遺構のうち 100 点以上が同定されているものとして F204、F402、F1130、SK968 を選定し、遺構別の魚類組成を比較した（第 40 図)。その結果、F204、F402、F1130 ではトゲウオ科とサケ科で 95% 以上を占めるという点で一致した。そのうち F204 および F1130 ではトゲウオ科が 80% 以上と高い比率を示すのに対し、F402 はトゲウオ科が 60% 以下となり、相対的にサケ科の比率が高い傾向にある。SK968 はトゲウオ科とサケ科を合わせても 50% 以下となっており、F204、F402、F1130 とは内容が異なっている。

c　遺跡立地との関係性について

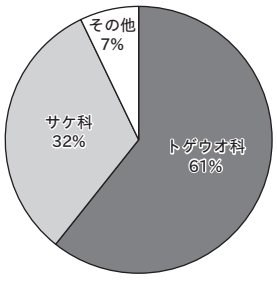
大沢谷内遺跡は現在の海岸線から約 20km 離れた、新津丘陵の山裾から西約 1km の沖積地に所在している。東に阿賀野川、西に信濃川という二大河川に挟まれており、標高は約 4m と低く、周辺には近世まで鎌倉潟と呼ばれる干潟が存在していた。縄文時代晩期後葉の大沢谷内遺跡でも、海は遺跡周辺まで入り込んではおらず、河川、丘陵、湿地に囲まれていたと考えられている。

本節で同定された分類群は、タイ科の可能性がある遊離歯 1 点を除いてすべて淡水域に生息する、もしくは通し回遊(河川と海を行き来する回遊)を行うものであった。同定された魚類は大沢谷内遺跡の周辺に生息しており、

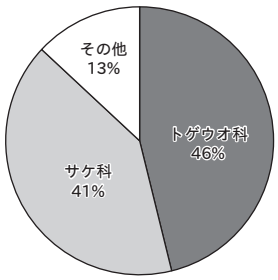
第 17 表　大沢谷内遺跡で同定した部位別動物遺存体一覧

分類群		部位	部分	F204		F402		F433		F951		F1022		F1130		SI93		SK968		合計	
				点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
硬骨魚綱	コイ科	腹椎	椎体											1	<0.01			1	<0.01	2	<0.01
		尾椎	椎体											4	<0.01			5	0.06	9	0.06
	ドジョウ科?	主鰓蓋骨	関節部分	1/0	<0.01															1	<0.01
	アユ	腹椎	椎体															1	<0.01	1	<0.01
	サケ科	遊離歯	破片	229	0.44	2	<0.01			7	0.01			10	0.02			2	<0.01	250	0.47
		角骨	関節部分	0/1	<0.01															1	<0.01
		方骨	関節部分															0/1	0.01	1	0.01
		主鰓蓋骨	関節部分	0/1	<0.01															1	<0.01
		椎骨	破片	903	1.37	76	0.14	1	<0.01	15	0.05	1	<0.01	70	0.15			37	0.07	1103	1.78
		椎骨?	破片	2	<0.01	28	0.02			9	<0.01			7	<0.01					46	0.02
	トゲウオ科	角骨	関節部分			0/1	<0.01													1	<0.01
		方骨	関節部分			1/0	<0.01													1	<0.01
		腹椎	椎体	11	<0.01															11	<0.01
		尾椎	椎体	1	<0.01															1	<0.01
		頭蓋骨?	破片			1	<0.01													1	<0.01
		棘	破片	1376	1.26	508	0.53			4	<0.01			568	0.72	5	<0.01	29	0.04	2490	2.55
		棘?	破片	106	0.03	12	<0.01	1	<0.01					20	<0.01					139	0.03
	タイ科?	遊離歯?	破片	1	<0.01															1	<0.01
	ハゼ科	腹椎	椎体	3	<0.01															3	<0.01
	不明魚類	遊離歯	破片	1	<0.01																<0.01
		舌顎骨?	関節部分															?2	0.02	2	0.02
		椎骨	破片	134	0.21	6	0.01	1	<0.01	2		6	0.05	24	0.02			72	0.34	245	0.63
硬骨魚綱合計				2770	3.31	635	0.70	3	<0.01	37	0.06	7	0.05	704	0.91	5	<0.01	150	0.54	4311	5.57
哺乳綱	ニホンジカ?	角?	破片							3	0.24									3	0.24
	小型哺乳類	大腿骨	遠位端	?2	0.19															2	0.19
		尾椎	椎体	1	<0.01															1	<0.01
		尾椎?	椎体	2	0.06															2	0.06
		肋骨	近位端	?1	0.01															1	0.01
	小型哺乳類?	手根骨or足根骨?	完形	1	0.01															1	0.01
哺乳綱合計				6	0.27	0	0	0	0	3	0.24	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0.51
爬虫綱	ヘビ亜目	顎骨	破片	9	0.01									16	0.03					25	0.04
		顎骨?	破片											1	<0.01					1	<0.01
		椎骨	椎体	1	<0.01															1	<0.01
		肋骨	近位端	2/2	<0.01															4	<0.01
爬虫綱合計				14	0.01	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0.03	0	0	0	0	31	0.04
両生綱	無尾目	指骨	骨端部	3	<0.01			2	0.01									1	0.01	6	0.02
		歯骨?	破片	?1	<0.01															1	<0.01
		脛腓骨?	近位端?	1?/0	<0.01															1	<0.01
両生綱合計				5	<0.01	0	0	2	0.01	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.01	8	0.02
全分類群合計				2795	3.59	635	0.70	5	0.01	40	0.30	7	0.05	721	0.94	5	<0.01	151	0.55	4359	6.14

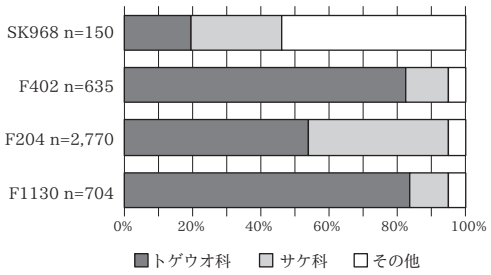
※重量の単位はgとし、0.01g未満のものについては"<0.01"と表している。重量の合計では0.01g未満は0として計算している。



第 38 図　大沢谷内遺跡の魚類組成（NISP=4,311）



第 39 図　大沢谷内遺跡の魚類重量組成（n=5.57g）



第 40 図　大沢谷内遺跡の遺構別魚類組成（NISP，n=100 以上の遺構を抽出）

なおかつ縄文時代晩期後葉にも生息していた可能性が高いことから、縄文時代晩期後葉の大沢谷内遺跡では、遺跡周辺で獲得可能な淡水域の魚類が活発に利用されていたと考えられる。

d　主要な魚類からみた漁撈活動について

同定された魚類の中で主要な分類群であるトゲウオ科とサケ科について、より詳細に記載するとともに新潟県域に生息する種から具体的な漁撈活動を検討した。新潟県域の魚類の生態については本間〔1983〕、川那部〔1989〕を参照している。

［トゲウオ科］

同定されたほとんどが棘の破片であるが、頭蓋骨も含まれる。骨の破片から大きさが分かる資料は少ないが、頭蓋骨や棘の関節部分と標本とを比較したところ、10cm 程度と比較的大きなものから数 cm 程度と小型なものまで含まれる。なお遺物は強く焼けているため、骨の収縮により標本との比較による体長復元には誤差が生じている可能性はあるものの、遺物の大きさに大小の差異がみとめられることから、復元できる体長にもバリエーションがあることは確実視できる。

トゲウオ科として新潟県域にはイトヨとトミヨが分布している。イトヨには降海型と河川残留型がいるが、新潟県域の河川残留型は魚野川周辺などに分布するとされる〔本間ほか1986〕。イトヨ（降海型）は２月ごろから体長10cm程度の群れが河川を遡上しはじめ、春に産卵し、稚魚は初夏に全長数cmとなって群れで川を下る。新潟県はイトヨ（降海型）漁が盛んな地域であり、遺跡に隣接する阿賀野川では遡上時期に専用の刺し網が行われていた〔本間監修1983、川那部編1989〕。トミヨは河川に生息しており、体長6cm程度となる。

［サケ科］

同定されたもののほとんどが椎骨破片および遊離歯破片である。大きさが分かる資料は少ないが、頭蓋骨や残存する椎体部分と標本とを比較したところ、体長30cm以上から10cm程度のものまでみられ、大きさにバリエーションがある。新潟県には移植ではなく天然分布するサケ科としてイワナ属（アメマス、ニッコウイワナ）、サクラマス、サケがいる。また、稀にマスノスケが漁獲される〔川那部編1989〕。

イワナ属は、降海型と河川残留型がおり、降海型は孵化後数年を河川で過ごし、体長15～20cmで春に降海し、沿岸の比較的近い範囲を回遊するとされるが、降海後の生態はよくわかっていない。30cmほどで生成熟し、秋に母川を遡上し産卵する。サクラマスは降海型と河川残留型（ヤマメ）がおり、降海型は孵化後１～２年を河川で過ごしたのち、春に体長10～15cm内外まで成長すると降海する。降海後は１年で生成熟し30～70cmのものが３月ごろに母川を遡上し産卵する。河川残留型は比較的小型のままであり体長20cm程度に成長する。サケ（シロザケ）は秋に３～５年魚が中心となって母川を遡上し産卵する。孵化後は群れで河川を下り、初めは沿岸で生活する。その後春に体長7cm前後になると沖合に移る。

魚種や生態を考慮するに、トゲウオ科およびサケ科はそれらの資源量が多い時期、つまり群れで回遊してきた時期に合わせて集中的に獲得されたと考えられる。なおトゲウオ科およびサケ科は大型のものから小型のものまで同定されているため、河川を遡上するもの以外に、降海する幼魚（例えば春に群れで降海するサケ）を獲得していた可能性がある。また、通し回遊をするトゲウオ科やサケ科は遡上および降海する時期がそれぞれ異なるため、本節で分析した資料にはいくつかの時期で集中的に獲得されたものが含まれていると判断できる。加えて非常に小型の魚類が多数獲られていることから、少なくとも河川での網を用いた漁撈活動が行われていたと推定される。

3）哺　乳　綱

１分類群９点（0.51g）を同定した。F204とF951から出土している。内訳は、ニホンジカの角の破片である可能性が高いもの３点（0.24g）と、小型哺乳類が７点（0.27g）である。小型哺乳類のうち大腿骨はその大きさと形質からネズミ科である可能性がある。

強い火を受けていることから、遺構への混入により残存した可能性は低く、狩猟により獲得されたものが利用・廃棄されたと考えられる。

4）爬　虫　綱

１分類群31点(0.04g)を同定した。F204とF1130から出土している。同定されたのはすべてヘビ亜目である。顎骨、椎骨、肋骨が同定されており、全身部位の骨が廃棄されているとみられる。哺乳綱と同じく遺構への混入の可能性は低いとみられ、狩猟により得られたものである可能性が高い。

5）両　生　綱

１分類群８点（0.02g）を同定した。F204、F402、SK968から出土している。同定されているのはすべて無尾目である。哺乳綱・爬虫綱と同じく遺構への混入の可能性は低く、人為的に利用・廃棄されたものである可能性が高い。

6）ま　と　め

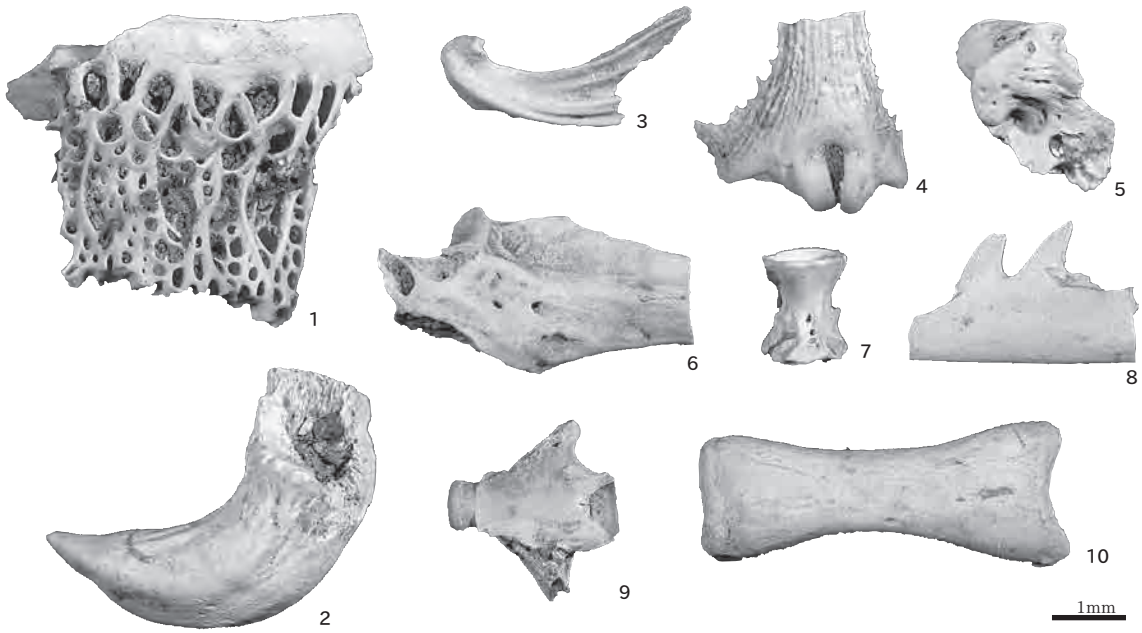
大沢谷内遺跡では縄文時代晩期後葉において、硬骨魚綱を中心としつつ哺乳綱、爬虫綱、両生綱など多様な動物が利用されていた。魚類はトゲウオ科とサケ科という特定の分類群に利用が集中しており、新潟県域に生息す

る魚種とその生態を考慮すると、河川を遡上もしくは降海する通し回遊魚が積極的に獲られていた可能性が高い。

D　先行研究との比較

大沢谷内遺跡では、焼土中より回収された縄文時代晩期中葉の動物遺存体が分析されている〔松井 2012〕。1mm メッシュの篩により 39 点が分析されており、下位の分類群まで同定できた中ではサケ科が最も多い。

本節の分析とは篩の目の大きさや分析された点数が大きく異なるため、比較には慎重にならねばならない。ただし、サケ科が多いという点において共通していることから、大沢谷内遺跡では縄文時代晩期中葉から後葉を通じてサケ科の利用が盛んであった可能性が指摘できる。



1 ～ 3：サケ科（1：椎骨，2：遊離歯，3：角骨）
4 ～ 7：トゲウオ科（4：棘，5：方骨，6：角骨，7：腹椎）
8 ～ 9：ヘビ亜目（8：顎骨，9：椎骨）
10：無尾目指骨

第 41 図　大沢谷内遺跡出土の動物遺存体写真

謝　　辞

原稿の執筆に際しましては、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター環境考古学研究室の山﨑健氏よりご指導いただきました。また新潟市文化財センターの相田泰臣氏ならびに前山精明氏から有益なご意見を賜りました。記して感謝申し上げます。

引用文献

阿部永監修　2008　『日本の哺乳類［改訂 2 版］』東海大学出版会
川那部浩哉編　1989『日本の淡水魚』明光社
中坊徹次編　2013　『日本産魚類検索　全種の同定　第三版Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』東海大学出版会
納屋内高史・松井　章　2009　「西郷遺跡出土の動物遺存体」『西郷遺跡・大蔵遺跡』pp.168-178 新潟県教育委員会
西本豊弘・小林園子　2004　「青田遺跡出土の動物遺体」『青田遺跡（関連諸科学・写真図版編）』pp.91-96
本間義治監修　1983　『新潟県陸水動物図鑑』新潟日報事業社
本間義治・田村栄光・岩田康晴・中村幸弘　1986　「新産地（魚野川水系）の陸封型イトヨの形態」『動物分類学会誌』33 p.58
松井　章　2012　「大沢谷内遺跡（上・下層）出土の動物遺存体分析」『大沢谷内遺跡Ⅱ第 7・9・11・12・14 次調査一般国道 403 号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第 2・4・6・7・9 次発掘調査報告書』pp.269-271 新潟県教育委員会

第Ⅶ章　総　　括

第１節　縄文時代の遺物

Ａ　縄　文　土　器

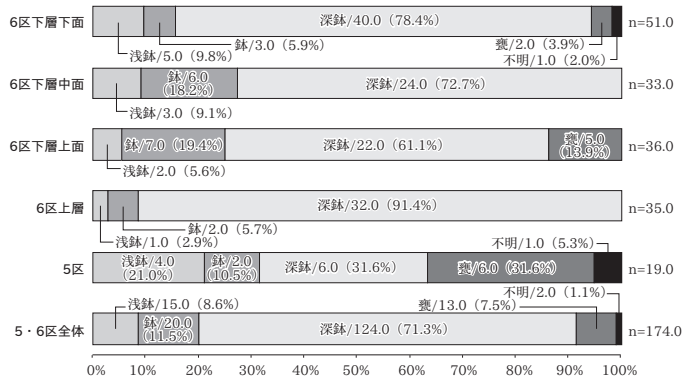
大沢谷内遺跡の６区では、下層上面（Vb 層）・下層中面（Vc 層）・下層下面（Vd 層）で遺構・遺物が確認されており、遺構確認面についてはそれぞれ 10 ～ 20cm の間層（遺物包含層）が存在した（第Ⅳ章第２節）。このため、下層下面の遺物が古く、下層上面の遺物が新しいと考えられる。また、５区でも縄文時代の遺構や遺物が確認されおり、６区上層でも縄文時代の遺物が出土している（第 46・47 図）。以下では、５・６区出土の縄文土器を中心に、調査区・層位別の土器の特徴や年代的位置づけについて記す（器種分類は第Ⅴ章第１節Ａにもとづく）。

1）調査区・層位別の土器の特徴

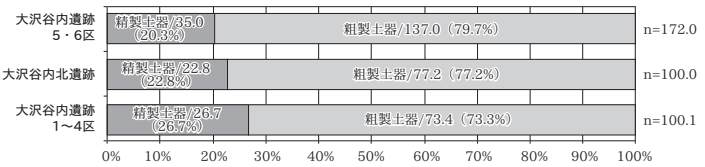
器種や粗製土器（深鉢・甕）の地文を中心に、調査区・層位別の特徴について記す。なお、器種の割合は口縁部残存資料を対象とした。また、地文の割合については全ての資料を対象としたが、接合資料については接合破片数が多くても１としてカウントしたため、破片と接合資料とで基準が異なるといった問題点もあるが、全ての破片資料を見た印象と大きな相違は無く、傾向は示していると考える。

５・６区の縄文土器について、口縁部残存資料による各器種の割合を見ると、深鉢が 71.3% と高い比率を示すのに対し、浅鉢が 8.6%、鉢が 11.5% であり、５・６区では精製器種（浅鉢・鉢・壺）が少なく、粗製の深鉢・甕が多い（第 42・43 図）。

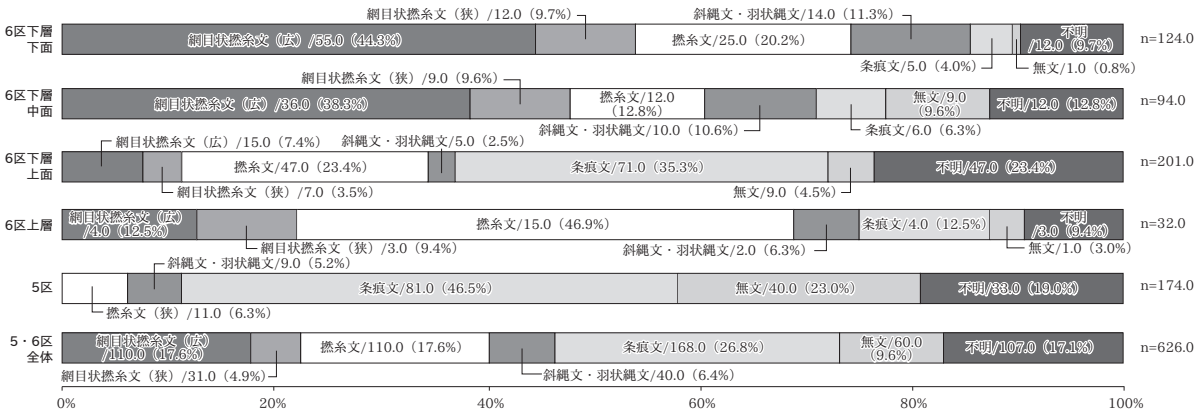
また、調査区・層位別では、６区下層上面で甕が 13.9% と下層下面に比較して増加しており、さらに５区では 31.6% と甕



第 42 図　５・６区における縄文土器の器種組成比率



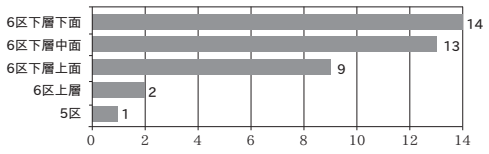
第 43 図　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡の精製・粗製土器割合



第 44 図　５・６区における縄文粗製土器（深鉢・甕）の地文組成比率

の比率が高いことがうかがえる（第 42 図、第 46 図）。

調査区・層位別の粗製土器の体部地文については第 44 図に示した。6 区下層下面では網目状撚糸文が 54.0% と目立つのに対し、6 区下層上面では網目状撚糸文は 10.9% と少なく、条痕文が 35.3% と高い割合を示している。また、5 区では条痕文が 46.5% と最も高い割合となっている。なお、体部に縦位で無節の撚糸文を施すものが定量存在し、条痕文と同様の文様効果を意図した可能性がある。



第 45 図　5・6 区における結節回転施文個体数

また、6 区下層では上面から下面の各面で深鉢に結節回転を施すものや、口縁部に横位、体部下位に縦位の網目状撚糸文を施すもの、口縁部を横位・斜位、体部下位を縦位に無節の撚糸を施文するもの、さらには肥厚した口縁下端に円形の刺突を連続施文するものなど、保明浦遺跡の土器（第 50 図）と類似した施文が多く認められ、信濃川流域の特徴を示すといえる〔渡邊 1998〕。なお、補修孔と思われる孔が未貫通のものが 3 個体確認でき留意される（39・259・309）。

2）縄文土器の年代的位置づけ

大沢谷内北遺跡出土の浅鉢や鉢は、鈴木加津子氏の編年〔鈴木 1990･1991〕の大洞 C2 式Ⅲ期（新）～Ⅴ期（新）段階、もしくはその直後に位置づけられ、さらに深鉢地文の特徴から鳥屋式直前段階の上野原式段階にあたるとされた〔伊比 2010〕。

本書で報告する 5 ～ 7 区の縄文土器は、明確な工字文をもつ土器が存在せず浮線文が盛行する段階であること、大形甕が見られること、条痕文が一定量認められること、大沢谷内北遺跡で認められない肥厚口縁の深鉢が主体をなす点などから、大沢谷内北遺跡よりも新相の土器群といえる。

大沢谷内遺跡 5・6 区の土器は、全体的に浮線文の文様帯幅が比較的狭いことや、浅鉢 235 の口縁部浮線文の上段交点が口縁部上端に直接連結する特徴なども含め、鳥屋遺跡の鳥屋 2 式土器（第 48 図）に類似する。なお、鳥屋 1b 式段階に比定される館ノ内遺跡 65a 号土坑出土土器（第 48 図）と比較すると、深鉢の肥厚口縁や施文などで類似した要素が認められる一方、精製土器の文様帯幅は大沢谷内遺跡のものより広い。

また、鳥屋 2b 式段階に比定される村尻遺跡第 126 号土坑出土土器（第 48 図）と比較すると、5 区出土の 9 と村尻の 53 では横羽状の沈線で共通し、また 5 区の 17 と村尻の 50、5 区の 10 や 22 と村尻の 49 や 53 など器形や文様構成などで一部類似する要素も認められるが、全体的に村尻の方が新しい様相をもつ土器群といえる。

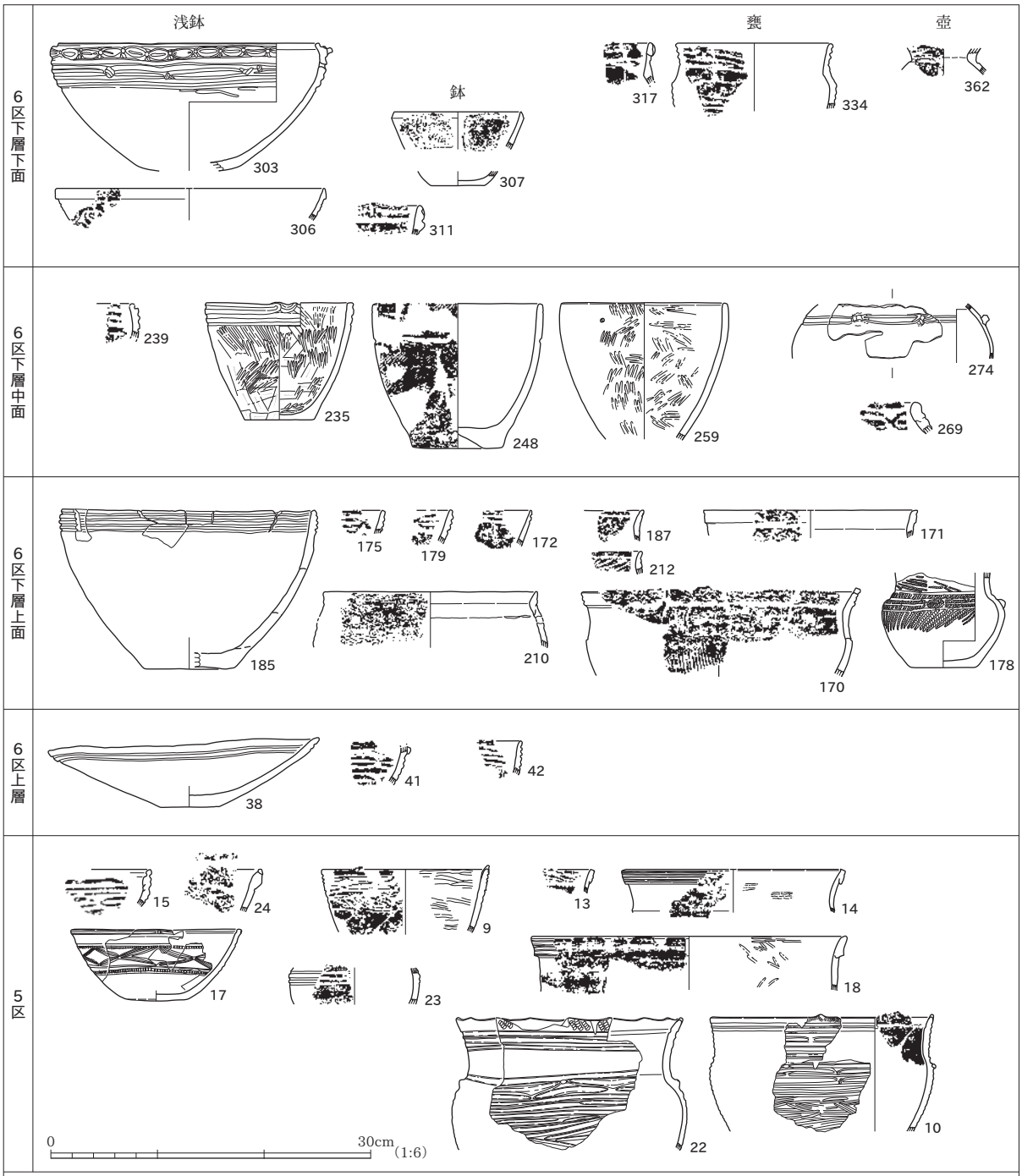
青田遺跡を見ると、鳥屋 2a 式（古）・（新）段階に併行するとされる D 層～ S2 層の土器群（第 49 図）に精製・粗製土器とも近い特徴をもつ。5 区出土の 9 と青田遺跡で鳥屋 2b 式（古）に併行するとされる S1 層出土の 212 などは、形態や文様で類似した要素も一部認められるが、全体的に青田遺跡 S1 層の方が新しい様相の土器群と考えられる。

以上、大沢谷内遺跡 5・6 区出土土器は鳥屋 2a 式に併行する段階のものが主体をなすとともに、5 区の土器に比較的新しい要素が存在すると考えられる。なお、5 区出土の浅鉢 17 は中部高地の氷Ⅰ式（中）段階に対比される土器の模倣品といえる（渡邊裕之氏のご教示による）。

他方、前項で見た調査区・層位別における甕の比率や深鉢や甕の体部地文の割合などからは、6 区下層下面・中面と 6 区下層上面とで、さらに 6 区下層上面と 5 区とで異なる点も指摘し得る。資料数が少なく不明な点が多いものの、上記の様相差は時期の違いを一部反映している可能性がある。結節回転文についても、6 区下層下面から 6 区下

第 18 表　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡出土土器対応表

大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡		新潟		東北
大沢谷内北遺跡〔前山・伊比ほか 2010〕、大沢谷内遺跡 1 ～ 4区〔細野・伊比ほか2015〕	1 ～ 4区1段階（Vc層）	朝日式	延命寺ヶ原遺跡	大洞C1式
	1 ～ 4区2段階（Vc層）		朝日遺跡	大洞C2式（古）
	1 ～ 4区3段階（Vc層）			
	1 ～ 4区4段階（Vb2層）		藤橋遺跡	大洞C2式（中）
	1 ～ 4区5段階（Vb1層）	上野原式	上野原遺跡	大洞C2式（新）
	大沢谷内北遺跡			
		鳥屋1a・1b式	館ノ内65a号土坑	大洞A1式
本書	6区下層下面	鳥屋2a式	青田遺跡 D層 S5層 S4層 S3層 S2層	大洞A1式
	6区下層中面			
	6区下層上面			
	6区上層			
	5区			
		鳥屋2b式	村尻126号土坑、青田S1層・SD1420-2 ～ 1層	大洞A2・A'式



6区下層下面　SB11-P1131：303　SK933：305　SK977：306・307　SK984：309　SK1052：311
SK1138：317　SK1189：319　SX1056：327・329　SX1120：331　SC1107：334　SC1179：341
F921：347　F1130：349　F1198：354・355　遺構外：362・378

6区下層中面　SK790：235　SK817：236　SK875：239　SK995：248・249　遺構外：259・260・261・267・269・274・290

6区下層上面　SI93：170～172　SI262：175　SK152：177　SK257：178　SK383：179　SX416：184　SX733：185
SD259：187　SD600：199・200　SC174：201　SC879：208　遺構外：210・212

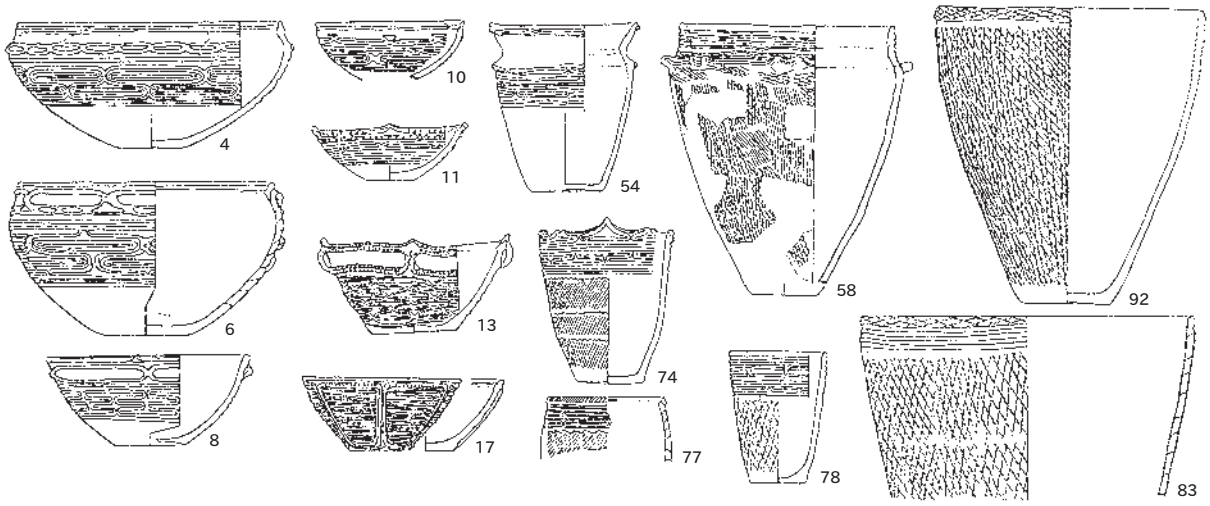
6区上層　SK56：36～38　SK88：39　SK199：40　SX298：41・42

5区　SK115：5　SX46：7　SX73：8　SX77：9　SX86：10・12　SX91：13　SX114：14・15・17
SX136：18　SD60：22　SD99：23　遺構外：24　試掘153T：29

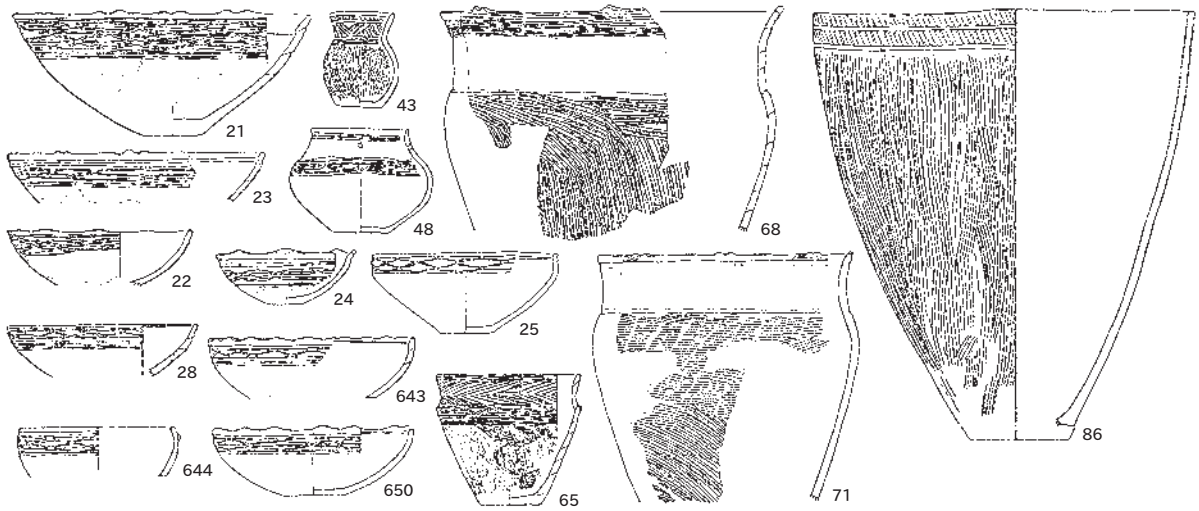
第46図　大沢谷内遺跡5・6区出土縄文土器（浅鉢・鉢・甕・壺）

第 47 図　大沢谷内遺跡 5・6 区出土縄文土器（深鉢）

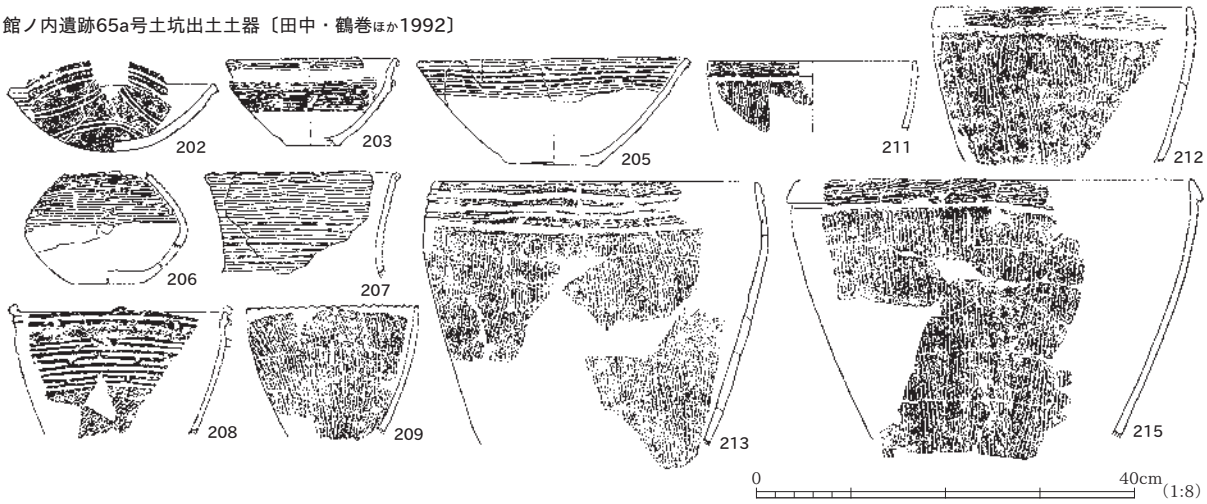
鳥屋遺跡出土土器（鳥屋1式土器）〔関・石川ほか1988〕



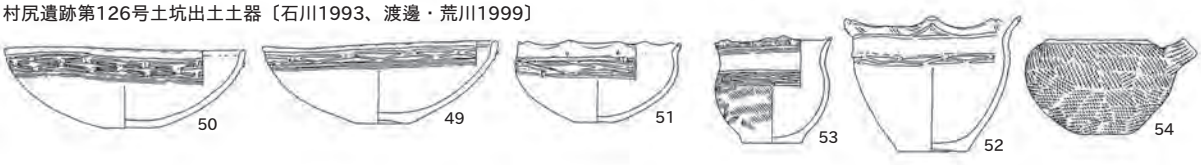
鳥屋遺跡出土土器（鳥屋2式土器）〔関・石川1988〕



館ノ内遺跡65a号土坑出土土器〔田中・鶴巻ほか1992〕



村尻遺跡第126号土坑出土土器〔石川1993、渡邊・荒川1999〕

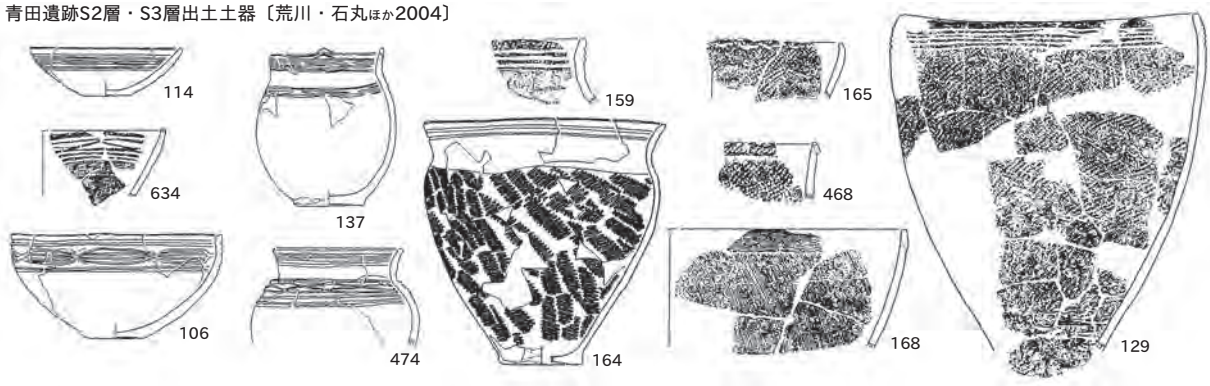


※遺物の番号は各文献での番号

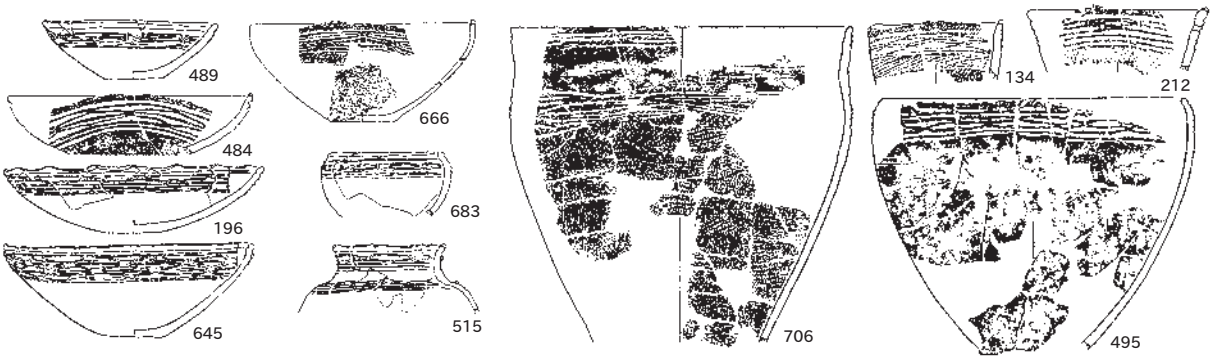
第 48 図　県内の縄文時代晩期後葉の土器 1

青田遺跡S4層・S5層・D層出土土器〔荒川・石丸ほか2004〕

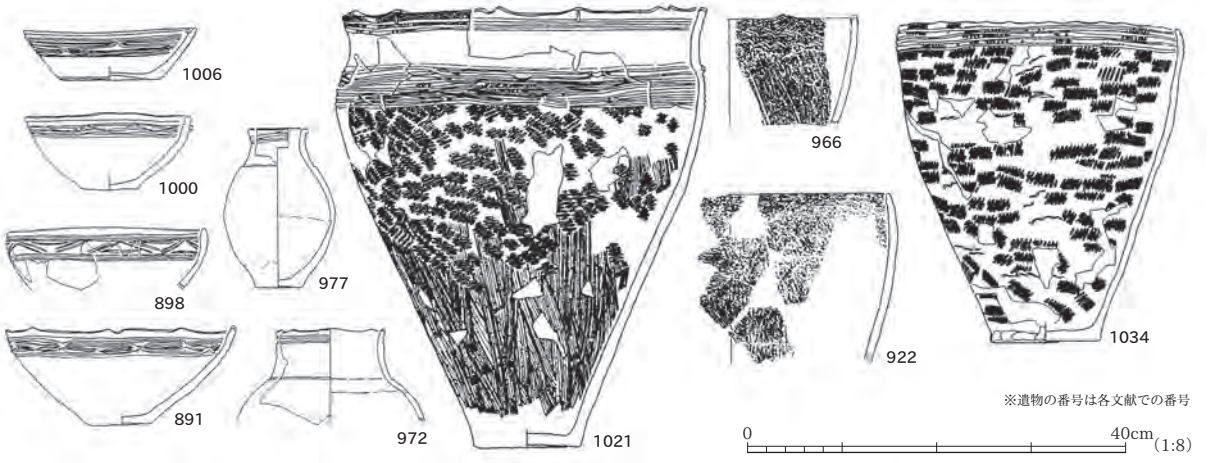
青田遺跡S2層・S3層出土土器〔荒川・石丸ほか2004〕



青田遺跡S1層出土土器〔荒川・石丸ほか2004〕

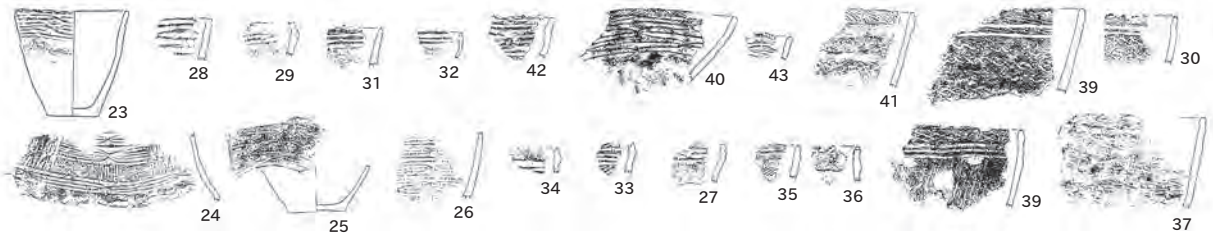


青田遺跡SD1420-2〜1層出土土器〔荒川・石丸ほか2004〕

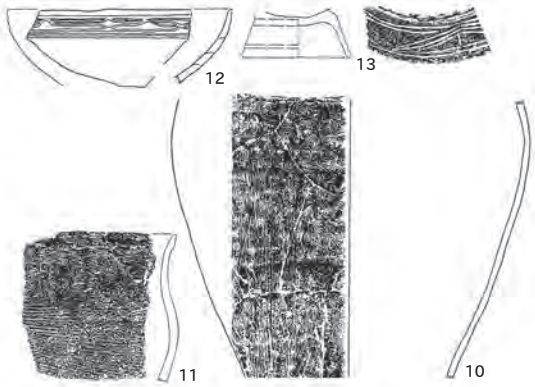


第 49 図　県内の縄文時代晩期後葉の土器 2

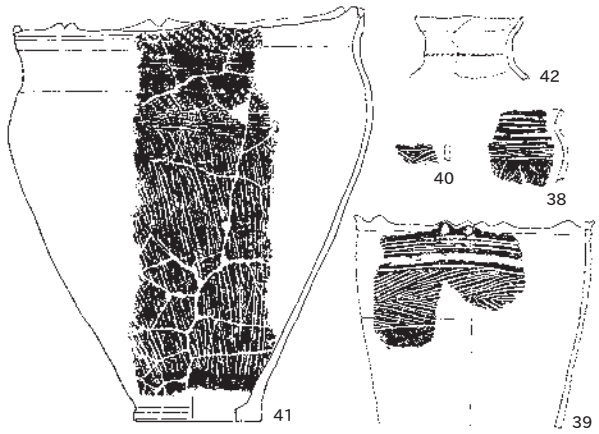
7号土坑〔田畑1993〕



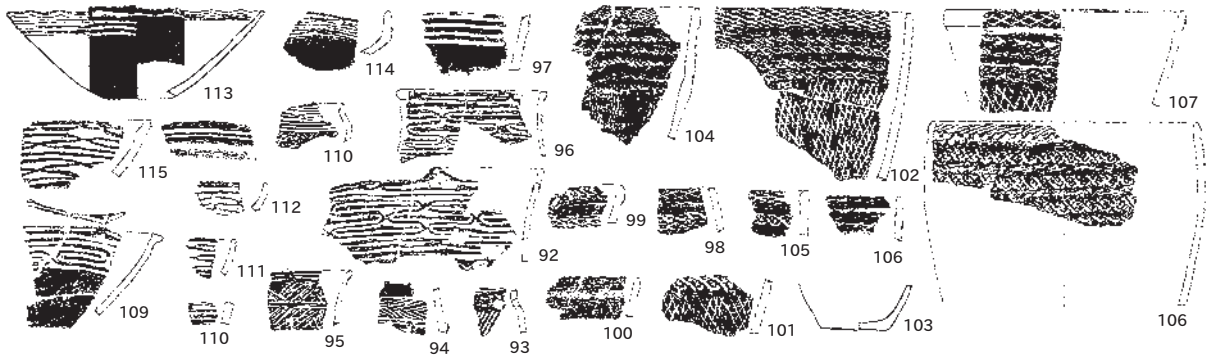
SK-13〔田畑1996〕



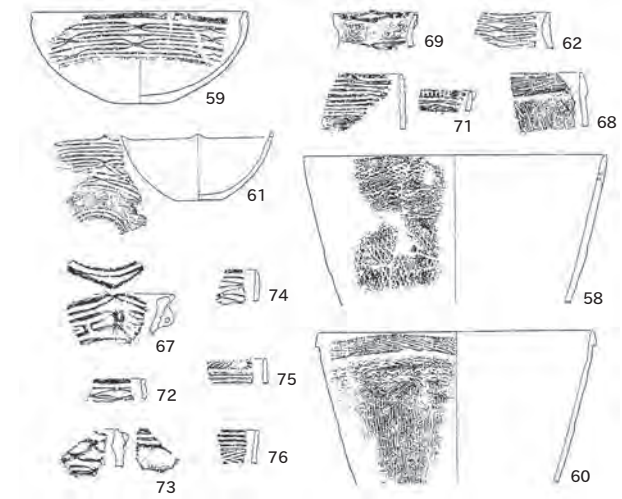
SK-34〔田畑1996〕



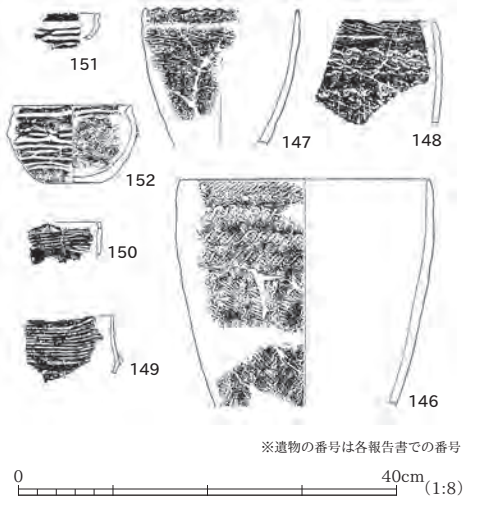
SX-2〔田畑1996〕



SK220〔田畑2004〕



SK228〔田畑2004〕



第 50 図　保明浦遺跡出土土器

層上面へと数をやや減じ、5 区ではさらに少なくなっており（第 45 図）、これについても時期差の可能性がある。また、6 区下層下面･中面において深鉢の地文として網目状撚糸文が高い比率を占め、条痕文が少ない点からは、上限において鳥屋Ⅰｂ式期まで遡る可能性があるかもしれない。

既に報告された大沢谷内遺跡 1 ～ 4 区及び大沢谷内北遺跡出土土器を含めた既存編年との対応関係は第 18 表のとおりと考える。なお､大沢谷内遺跡では 1 ～ 4 区下層で大沢谷内北遺跡よりも古い縄文時代晩期中葉の土器･遺構が定量確認されている〔細野・伊比ほか 2012〕（第 18 表・第 56 図）。8・9 区や市道関連調査（第 16・18 次調査）でも縄文時代晩期の土器が少量出土しているが下層の遺構は認められず、縄文時代の主な活動域として、微高地から外れる遺跡の北西域が含まれないことを示唆する。

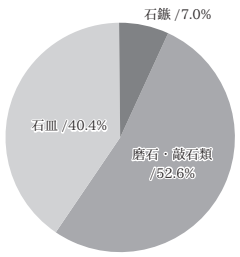
B 石 器 群

縄文時代晩期後葉の時期に限定できる 6 区下層上面・中面・下面から出土した石器は、石鏃 4 点、磨石・敲石類 30 点、石皿 23 点、剥片 2 点が全てである。限られた調査範囲とはいえ僅少な出土量といえる。また、5 区や 6 区上層でも、磨石・敲石類 13 点、石皿 3 点が出土している。以下、時期が限定できる 6 区下層の石器群を対象として検討する。

組成比については、大沢谷内北遺跡での分類〔前山 2010b〕に従い、主として食料の調達・加工に用いた A 群石器、工具的な性格の強い B 群石器、非実用的な C 群石器、に区分し検討する。

6 区下層上面・中面・下面の石器組成を見ると、いずれも A 群石器に限られ、B 群及び C 群石器は認められない。さらに、A 群石器の中でも石鏃が少なく、磨石及び石皿が主体をなす点で大沢谷内北遺跡の石器組成と類似した傾向がみられる（第 51 図、第 19 表）。

	石鏃	磨石・敲石類	石皿
6区下層上面	2	11	4
6区下層中面	1	7	5
6区下層下面	1	12	14
計	4	30	23



第 51 図　6 区における石器・石製品

県内における縄文時代晩期遺跡の石器組成（第 19 表）を見ると、沖積地の遺跡は概して出土石器量が少なく、欠落する器種も多い傾向にあるが、この時期の県内で多出傾向にあるとされる〔前山 2002〕、磨製石斧や石錐などが欠落する点は大沢谷内北遺跡と類似する。なお､本遺跡 1 ～ 4 区も磨石主体型である点で一致する〔伊比 2012〕が、B 群・C 群石器を少量ながら伴う点で多少異なる。

以上、6 区下層の石器組成は、上面・中面・下面とも加工に関連する A 群石器が主体で、B 群・C 群石器が認めらないという特徴をもつ。このことは、大沢谷内

第 19 表　越後平野周辺における縄文時代晩期遺跡出土の石器（〔細野・伊比ほか 2012〕に追加）

遺跡名（所在地）	所属時期	立地	A群石器					B群石器					C群石器					総数
			石鏃	石錐	打斧	磨石	石皿	磨斧	石匙	石錐	石篦	砥石	石棒	石剣	石冠	独鈷	玉類	
道端（村上市）	前葉	沖積地	4			8	2	1	4									19
昼塚（胎内市）	前葉	沖積地	7			35		8	2	1	1		1					55
道下（胎内市）	前葉	沖積地	22			27	1	9	11	5	5	1					3	84
野地（胎内市）	前葉	沖積地	86			63	5	5	7	15	1	15		2		1		200
青田（新発田市）	後葉	沖積地	549		20	345	34	44	3	264	3	64		3	2	4	18	1353
村尻（新発田市）	前葉～後葉	段丘	700			342	8	280	85	180	11	92	79	35	4	1	7	1824
館ノ内（新発田市）	中葉～後葉	段丘	86	1	1	120	45	39	6	9		4	1	3	2	1	1	319
鳥屋（新潟市）	後葉	砂丘地	13			65	3	15	1	11	1	32		1	4		1	147
六野瀬（阿賀野市）	後葉	段丘	84			49	6	18	8	95		5						265
大沢谷内北（新潟市）	中葉	沖積地	2			6	9											17
大沢谷内1 ～ 4区（新潟市）	中葉	沖積地	31			127	50	8		10		9		3				238
	（Vb層段階）		13			48	20	2		1		4						86
	（Vc層段階）		15			69	28	6		7		5		3				135
大沢谷内遺跡6区下層（新潟市）	後葉	沖積地	4			30	23											57
上野原（三条市）	中葉	台地	131		2	23	1	18		1			2	1	5	15	1	200
藤平（三条市）	後葉	段丘	79	2	5	8	2	14	8									118
長畑（三条市）	後葉	沖積地	37			12	1	11	1	1			1				2	66
御井戸A（新潟市）	前葉～後葉	台地・沖積地	105			24	4	20	2	15			1	1	1		1	174
蒲田（弥彦村）	中葉～後葉	沖積地	63	1		20	5	9	1	5		1	1	1			1	108
寺前（出雲崎町）	中葉～後葉	沖積地	7			118	4	12		4		2	2		1			150
藤橋（長岡市）	前葉	台地	103	4		47	18	37	1	18		26	19	2	1	1	1	278

北遺跡と同様、工具を使用した生産的な要素が乏しく、また非実用的な精神・儀礼的要素も希薄であったことを示唆する。該期の県内における遺跡の中では特異な状況といえ、縄文時代晩期後葉における大沢谷内遺跡の性格を考える上で留意される。

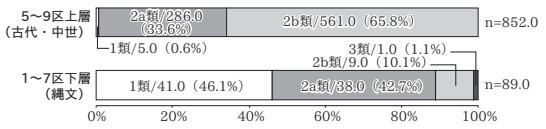
C　アスファルト

5 ～ 7 区ではアスファルト塊が計 8 点出土しているほか、土ごと取り上げたアスファルト粒子が少量出土している（第Ⅴ章第 5 節）。大沢谷内遺跡ではこれまでの調査でも、1 ～ 4 区、8・9 区においてアスファルト塊が出土している（第 20 表）。これらには出土層位や共伴遺物、遺構覆土などから縄文時代のアスファルト塊と判断できるものの他に、古代・中世に属すと考えられるものがある。ここでは、古代・中世のアスファルト塊も含めて概観する。

縄文時代に属すと判断されるアスファルト塊は、1 ～ 4 区下層と 6 区下層のもので、合計 89 点、重量にして 5,197.9g 出土している。形状は板状のものが塊状のものよりやや多く、性状分類では不純物を含まない 1 類・2a 類が多い（分類は第Ⅴ章第 5 節参照）。

古代・中世に属すと考える大沢谷内遺跡出土のアスファルト塊は、市道関連調査や 8・9 区と 7 区上層で合計 853 点（市道調査分含まず）、重量にして 21,922g と縄文時代に比べ 4 倍近くの重量が出土している（第 20 表）。市道調査分を除く形状は板状のものが塊状のものよりやや多く、性状分類では 2b 類が多い。縄文時代に比べてアスファルト利用の増加に加え、不純物を含むアスファルト塊の割合が増加していることがうかがえる（第 52 図）。

さて、本書で報告する 5 ～ 7 区では縄文時代及び古代・中世ともアスファルトの出土は僅かであった。8・9 区において建物が多数検出されているのに対し、5 ～ 7 区では古代・中世の建物が確認されておらず、溝や耕作関連遺構が主体となっていることからは、古代・中世においては 5 ～ 7 区が集落の中心から外れていることが、この種のアスファルト塊が少ない要因のひとつと推測される。一方、縄文時代では 6 区下層において竪穴建物や掘立柱建物が複数検出されているにもかかわらず出土量は少ない。調査区外の状況が不明であるものの、現状における出土状況からは、縄文時代には時期によってアスファルトの利用形態もしくは利用頻度が異なっていた可能性も想定される。



第 52 図　大沢谷内遺跡アスファルトにおける性状別比率

第 20 表　大沢谷内遺跡出土のアスファルト一覧

調査区		時代	点数	重量（g）	形状分類			性状分類			
					塊状	板状	不明	1	2a	2b	3
1 ～ 4区	下層	縄文	87	5,186.4	32	55		41	36	9	1
5 ～ 7区	下層	縄文	2	11.5		2			2		
市道関連	上層	古代・中世	－	3,761.0	－	－	－	－	－	－	－
5 ～ 7区	上層	古代・中世	6	154.5	4	2		5		1	
8・9区	上層	古代・中世	847	18,006.5	329	406	112		286	561	
合計			942	27,119.9	365	465	112	46	324	571	1

D　土器の胎土

大沢谷内北遺跡では縄文土器の胎土分類が行われており、越後平野周辺における縄文時代晩期の遺跡出土土器の胎土や河川における川砂との比較などから、大沢谷内北遺跡から出土した縄文土器の多くが近隣で採取できる川砂とは異なる特徴を持つ混和剤を含むことが指摘された〔前山 2010a〕。また、大沢谷内遺跡 1 ～ 4 区の縄文土器についても基本的には大沢谷内北遺跡と同じ基準で胎土分類がなされ、分析も行われている〔伊比 2012、前山 2017・2019〕。

本書掲載の縄文土器についても、上記の大沢谷内北遺跡や 1 ～ 4 区で行った分類に準じ、磨耗鉱物（石英・長石）や磨耗岩石・破砕鉱物（石英・長石）・真珠岩・雲母の有無と含有量に基づく分

第 21 表　5・6 区縄文土器、7 区古代土師器・黒色土器（掲載分）の胎土分類別点数

調査区		胎土分類（第Ⅴ章第1節）									計
		Ⅰa1	Ⅰa2	Ⅰb1	Ⅰb2	Ⅱa	Ⅱb	Ⅱc	Ⅲ	Ⅳ	
縄文時代晩期後葉	5区	9	1	3	3	3	1	1			21
	6区上層	1		4	1				3		9
	6区下層上面	16	8	21	3				2		50
	6区下層中面	16	6	33	4	2			3		64
	6区下層下面	32	4	26	2	3	3		6		76
	5・6区全体	74	19	87	13	8	4	1	14	0	220
7区上層（平安時代）		7	5	31		3		1		2	49

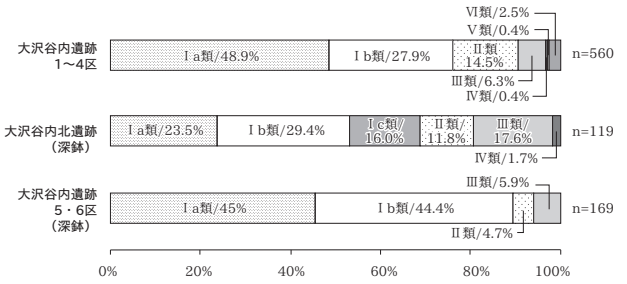
類を行った。分類については、大沢谷内北遺跡や１～４区と統一された基準で分類されるよう、両報告書において胎土分類を行った前山精明（市文化財センター）が行った（第Ⅴ章第１節）。

資料数が少なく不明な点も多いが、以下では5･6区出土の縄文土器のほか、７区上層出土の平安時代の土師器を対象に示す（第21表）。なお、７区掲載の縄文土器は１点と少ないことから７区は除外した。

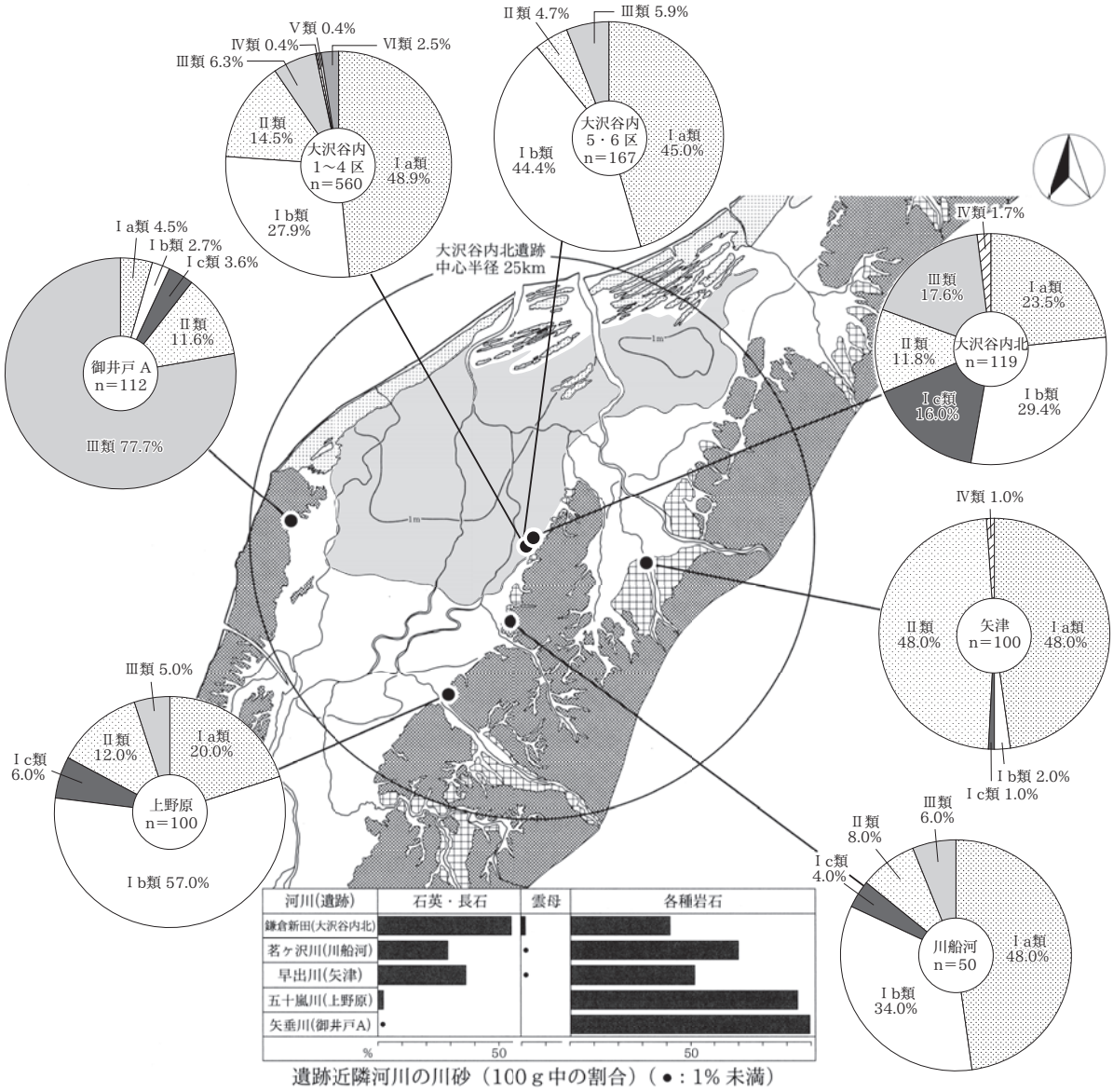
縄文時代晩期後葉に位置づけられる５・６区の縄文土器の胎土組成をみると、資料が少ない６区上層を除いて各層とも胎土のⅠａ類（Ⅰa1・Ⅰa2類）とⅠｂ類（Ⅰb1・Ⅰb2類）が多い特徴が

第22表　５・６区縄文深鉢（掲載分）の胎土分類別点数

	調査区	胎土分類（第Ⅴ章第1節）									計
		Ⅰa1	Ⅰa2	Ⅰb1	Ⅰb2	Ⅱa	Ⅱb	Ⅱc	Ⅲ	Ⅳ	
縄文時代晩期後葉	5区	3		3	2	1	1				10
	6区上層			1					2		3
	6区下層上面	14	8	12	3				2		39
	6区下層中面	14	5	26	4	1			2		52
	6区下層下面	28	4	22	2	2	3		4		65
	５・6区全体	59	17	64	11	4	4		10		169



第53図　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡縄文土器の胎土分類別比率



第54図　越後平野周辺における縄文時代晩期遺跡出土土器の胎土分類別構成と川砂組成（〔前山 2010a〕に追加）

ある（第 21 表）。深鉢に限ると、5・6 区全体ではⅠa・Ⅰb 類で全体の 9 割近くを占めている（第 22 表）。1 ～ 4 区や大沢谷内北遺跡と比較すると、Ⅰa 類やⅢ類の割合において 1 ～ 4 区と共通するが、Ⅰb 類が多い点で 1 ～ 4 区や大沢谷内北遺跡とは異なる（第 53・54 図）。6・7 区の縄文土器の胎土組成は、周辺では田上町の川船河遺跡採集土器（縄文時代晩期）の胎土組成に比較的近いといえる（第 54 図）。

Ⅰa 類は新津丘陵周辺の川砂を中心に含んだ胎土で、Ⅰb 類は三条市の五十嵐川、Ⅱ類は新発田市周辺の加冶川、Ⅲ類は角田・弥彦山麓周辺の遺跡出土土器の多くで認められる川砂を主体とする胎土との指摘がある〔前山 2010a・2017・2019・2020〕。5 ～ 7 区の縄文土器の胎土組成からは、新津丘陵周辺で製作された土器と、三条市周辺で製作された土器が主体をなし、また少量ながら角田・弥彦山麓（Ⅲ類）や加冶川周辺（Ⅱ類）の川砂を用いた土器が存在する可能性が推測される。

第 2 節　縄文時代の遺構

A　建　　物

下層の建物は 6 区下層上面と 6 区下層下面で確認されており、下層上面では竪穴建物 2 棟と掘立柱建物 1 棟、下層下面では掘立柱建物 7 棟が存在する（第 23・25 表、第 55 図）。両面とも遺構や遺物は 6 区北西域に集中している。遺物や遺構の分布からは、集落は調査区外のさらに北西側へ広がりをもつと考えられる。

1）竪 穴 建 物

6 区下層上面で 2 棟確認され、いすれも平面形は円形を呈する（第 23 表、第 55 図上）。SI93 では中央部付近で地床炉（F295）が検出されている。地床炉に伴う焼土・炭化物層は 8cm 程の厚さを有する。また、SI262 は柱穴の位置から 4 本柱と考えられる。

竪穴建物 SI262 の規模は、長軸長で約 3.78m である。1 ～ 4 区で確認されている縄文時代晩期中葉（第 18 表の 3・4 段階、Vb 層）の竪穴建物を見ると、長軸長で 6.15m ～ 7.63m であり（第 24 表）、6 区下層で確認された竪穴建物の約 2 倍の長さであることがわかる。本遺跡では、縄文時代晩期後葉の竪穴建物は晩期中葉の竪穴建物と比べて規模が縮小している状況がうかがえる。

第 23 表　5 ～ 7 区における竪穴建物

調査回数	調査区	層位	遺構番号	平面形	規模		底面標高（m）
					上端長軸（m）	上端短軸（m）	
17次	6区	下層上面	SI93	円形	－	3.00	2.52
17次	6区	下層上面	SI262	円形	3.78	3.64	2.43

第 24 表　1 ～ 4 区 4・5 段階（Vb 層）の竪穴建物

時代	遺構番号	平面形	規模		底面標高（m）
			上端長軸（m）	上端短軸（m）	
縄文晩期中葉	SI152	－	－	－	2.77
縄文晩期中葉	SI501	－	－	－	3.19
縄文晩期中葉	SI579	－	－	－	2.95
縄文晩期中葉	SI580	円・楕円形	－	4.76	2.93
縄文晩期中葉	SI650	円形	6.62	6.20	2.83
縄文晩期中葉	SI670	円形	7.63	6.97	2.95
縄文晩期中葉	SI700	不整円形	7.29	6.30	2.95
縄文晩期中葉	SI710	隅丸方形	6.15	5.60	3.15
縄文晩期中葉	SI790	円形	6.75	6.23	3.12
縄文晩期中葉	SI810	円形	6.6	6.10	3.03
縄文晩期中葉	SI951	円形	7.03	－	2.98

2）掘 立 柱 建 物

6 区下層上面で 1 棟、6 区下層下面で 7 棟確認された（第 25 表、第 55 図下）。平面形態はいわゆる亀甲形（青田遺跡のＡ型〔荒川ほか 2004〕）が 7 棟、1 間 1 間の長方形（青田遺跡のＣ型）が 1 棟である。

6 区下層上面で確認された掘立柱建物（SB1215）は、2 棟の竪穴建物（SI93・SI262）の中間付近に位置する。身舎面積は 4.20m^2 で、6 区下層で確認された 8 棟の中で最小である。

6 区下層下面で確認された 7 棟の掘立柱建物は、建物の重複関係から少なくとも 3 時期にわたる利用が推定できる。また、建物の主軸方位からは、SB3 と SB9、SB1 と SB2 が同時期の建物であった可能性がある。

第 25 表　5 ～ 7 区における掘立柱建物

調査回数	調査区	層位	遺構番号	方位	建物形式	桁行（m）	梁行（m）	身舎面積（㎡）
17次	6区	下層上面	SB1215	N-87°-E	亀甲形	1.82	2.31	4.20
18次	6区	下層下面	SB1	N-73°-E	亀甲形	3.66	3.38	12.37
18次	6区	下層下面	SB2	N-47°-E	亀甲形	3.34	3.14	10.49
18次	6区	下層下面	SB3	N-34°-W	亀甲形	4.00	2.40	9.60
18次	6区	下層下面	SB7	N-34°-E	亀甲形	2.24	1.90	4.26
18次	6区	下層下面	SB9	N-32°-W	亀甲形	2.92	2.30	6.72
18次	6区	下層下面	SB11	N-28°-W	亀甲形	4.00	3.20	12.80
18次	6区	下層下面	SB12	N-66°-E	1間×1間	3.50	3.90	13.65

6 区下層下面の掘立柱建物の身舎面積は、SB7 の 4.26m^2 を最小とし、SB12 の 13.65m^2 を最大とする。青田遺跡の分類〔荒川ほか 2004、宮本 2004〕に従えば、青田遺跡の A 類（六角形の亀甲形）にあたる 6 棟のうち、中規模住居（9 ～ 14m^2）が 4 棟、小規模住居が 2 棟である。また、C 類（1 間 ×1 間の長方形形）にあたる 1 棟（SB12）は中規模住居（9 ～ 20m^2）に該当する。

6 区下層は基本、北西－南東方向にのびる狭い微高地が存在する（第Ⅳ章第 1 節）。6 区北西部の微高地周辺には自然流路と推測される溝が存在し、限られた空間に建物が存在するといえる。なお、調査範囲が限られているため不明な点が多いものの、6 区下層で検出された竪穴建物や掘立柱建物の配置からは、この時期の丘陵や台地上の集落で一般的な環状の配置にはならない可能性が高い。

B　焼土集中遺構

大沢谷内遺跡 6 区下層では焼土集中遺構（F）が計 60 基確認された。内訳は、6 区下層上面で 10 基、6 区下層中面で 14 基、6 区下層下面で 36 基である。焼土集中遺構の中には下層上面の F204 のように被熱土が 1m 以上に広がり、焼土と被熱層の厚さが 8cm に達するものも存在する。なお、F204 では焼土が間層を挟み 2 つの層で確認されており（図版 94）、同一地点で一定の間隔をおいた複数回の燃焼行為が行われていることが分かる。

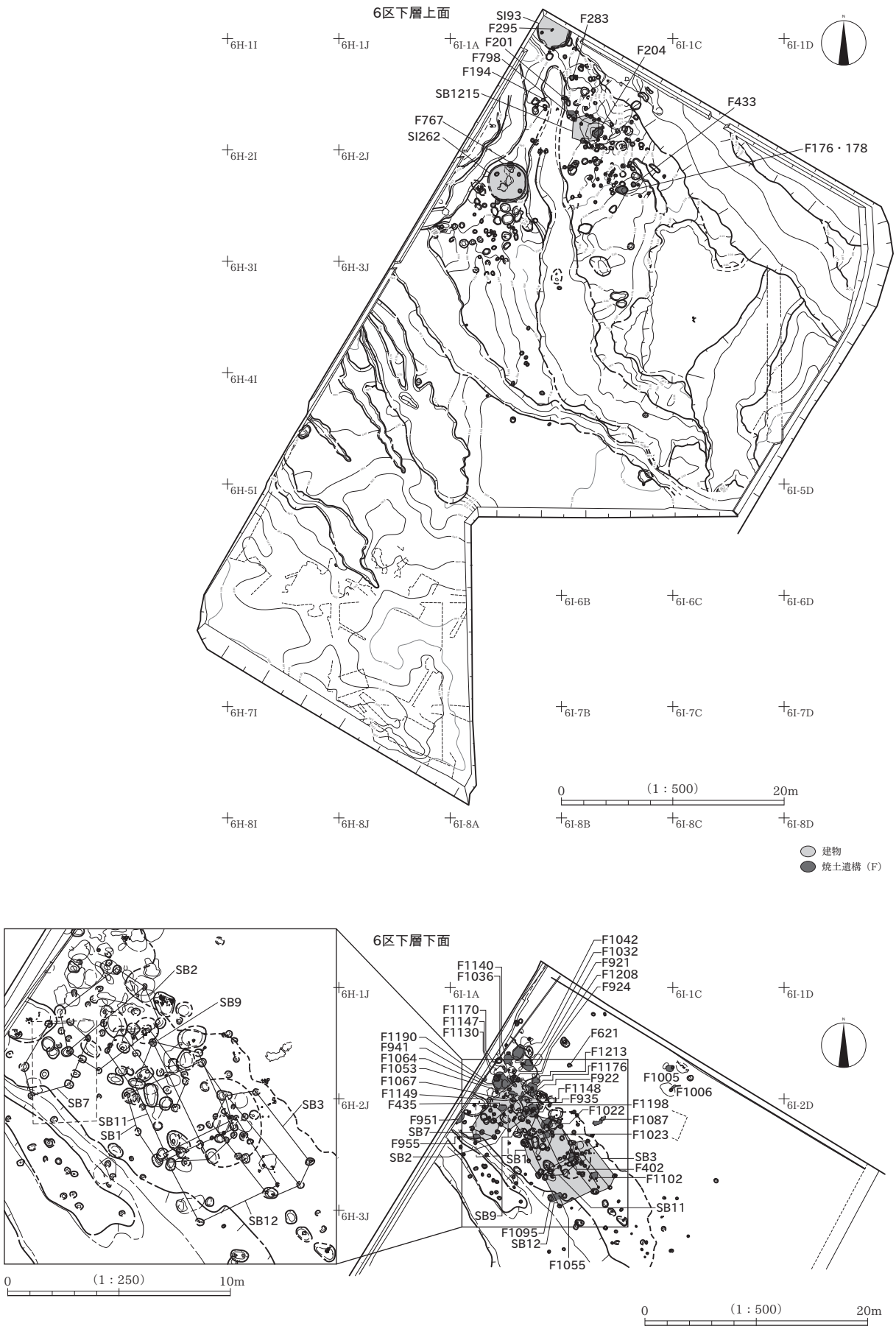
これら焼土遺構の分布は、下層の各面とも 6 区北西部に集中しており、遺構や遺物の分布状況と一致する。建物が検出されている下層上面や下層下面では、建物周辺で焼土遺構が確認でき、活動域の近辺でそのような燃焼行為を行ったことがうかがえる（第 55 図）。

焼土遺構の一部では焼骨が出土している。焼骨については定量出土した遺構を中心に山田凜太郎氏から分析して頂いた（第Ⅵ章第 4 節）。焼土集中遺構出土の焼骨はいずれも魚骨が大半を占め、中でもトゲウオ科やサケ科を主体とするいずれも河川に生息もしくは通し回遊をするものであることが判明した。なお、分析した下層上面の F204 や下層下面の F402、F1130 では、魚類組成においてトゲウオ科とサケ科で 95% 以上を占める点で共通していた。一方、下層中面の SK968 から出土した焼骨の魚類組成については、トゲウオ科とサケ科を合わせても 50% 以下と、焼土集中遺構とは異なる内容であることから、土坑と焼土遺構とで廃棄に至る背景などが異なることが推測される。

また、分析したトゲウオ科やサケ科は大型のものから小型のものまで存在し、トゲウオ科とサケ科とで遡上もしくは降海する時期がそれぞれ異なることなどから、いくつかの特定の時期に集中的に獲得されたものが含まれるとされた。さらに、小型の魚類が多数獲られていることから、少なくとも河川での網を用いた漁撈活動が行われていたと推定されている（第Ⅵ章第 4 節）。

以上、焼土集中遺構の多くが周辺河川で獲得したトゲウオ科やサケ科といった魚類を中心として燃焼した痕跡であると判断される。前記した F204 のように被熱土層が 2 層に分かれ、焼土と被熱層が厚く堆積するものなど、焼土遺構の一部は繰り返し燃焼行為を行っているものがあり、分析結果で示されたように、いくつかの特定の時期に集中的に獲得した魚をそれぞれの時期に同じ場所において燃焼した可能性も推測される。

焼土遺構は 1 ～ 4 区で 39 基、大沢谷内北遺跡でも 3 基確認されており、1 ～ 4 区の焼土遺構の一部ではサケ科やトビエイ目などの焼骨が出土している〔前山・伊比ほか 2010、細野・伊比ほか 2012〕。1 ～ 4 区の焼土遺構も 6 区下層と同様、建物周辺に集中して分布しており、縄文時代晩期中葉においても主たる活動域の近くで同様の燃焼行為が行われていたことがうかがえ、この種の行為が縄文時代の晩期中葉・後葉を通じて行われていたことが分かる。大沢谷内遺跡および大沢谷内北遺跡で多くの焼土遺構が形成された背景については不明であるが、多くの焼土遺構が形成され、一部では同じ地点で複数回にわたる同様の燃焼行為を行っていることからは、複数時期に複数の個人・集団によって形成されたことが推測される。なお、このような推測は、動物遺存体の分析結果とも一部整合するといえよう。



第 55 図　6 区下層上面・下面の建物と焼土遺構

第３節　上層（古墳時代・古代・中世）の遺物

Ａ　土　　器

大沢谷内遺跡では、これまでの調査で縄文時代から中世の遺物が出土している。本書掲載の５～７区に限ると、縄文時代、古墳時代、古代（平安時代）、中世の遺物が出土しているが、そのうち古墳時代の遺物は僅少である。

以下では前節で触れた縄文時代を除く上層出土土器についての年代的位置づけについて確認する。

古墳時代　古墳時代の土器は少量で、いずれも５区から出土している。高杯（6）が出土したSX13は古墳時代の遺構と推測され、高杯や甕など（19～21）が出土したSD4は覆土の特徴から中世の遺構と考えられる。高杯はいわゆる柱状屈折脚高杯で、古墳時代前期の終わり頃と推測される。

古代・中世　古代・中世の土器は５～７区で出土している。建物跡が確認されている８・９区に比べ出土量は少ない。古代の土器については、土師器椀や黒色土器が多く、灰釉陶器・緑釉陶器も認められる。土師器椀の形態や法量、灰釉陶器の年代などから、既に報告されている１～４区・８・９区の土器変遷図〔相田2015c〕の中の古代６期のものが大半を占めると考える（第56図、第26表）。

８・９区においては、古代３～５期まで８区出土資料が主体を占めるのに対し、古代６期には９区出土資料が主体を占めるようになり、古代６期に土器分布に変化が見られた〔相田・金田ほか2015〕。５～７区の調査区位置は９区に近く、前記のとおり５～７区出土の古代土器がおおむね古代６期にまとまる状況は、８・９区における土器分布の変化と一連の動向として捉えられる可能性がある。

中世の土器については、中世土師器、珠洲焼のほか、青磁や白磁も確認できる。変遷図（第56図）の中世Ⅰ期（12～14世紀）の中にいずれも収まるものと推測する。

第26表　大沢谷内遺跡出土の古代・中世土器変遷対応表

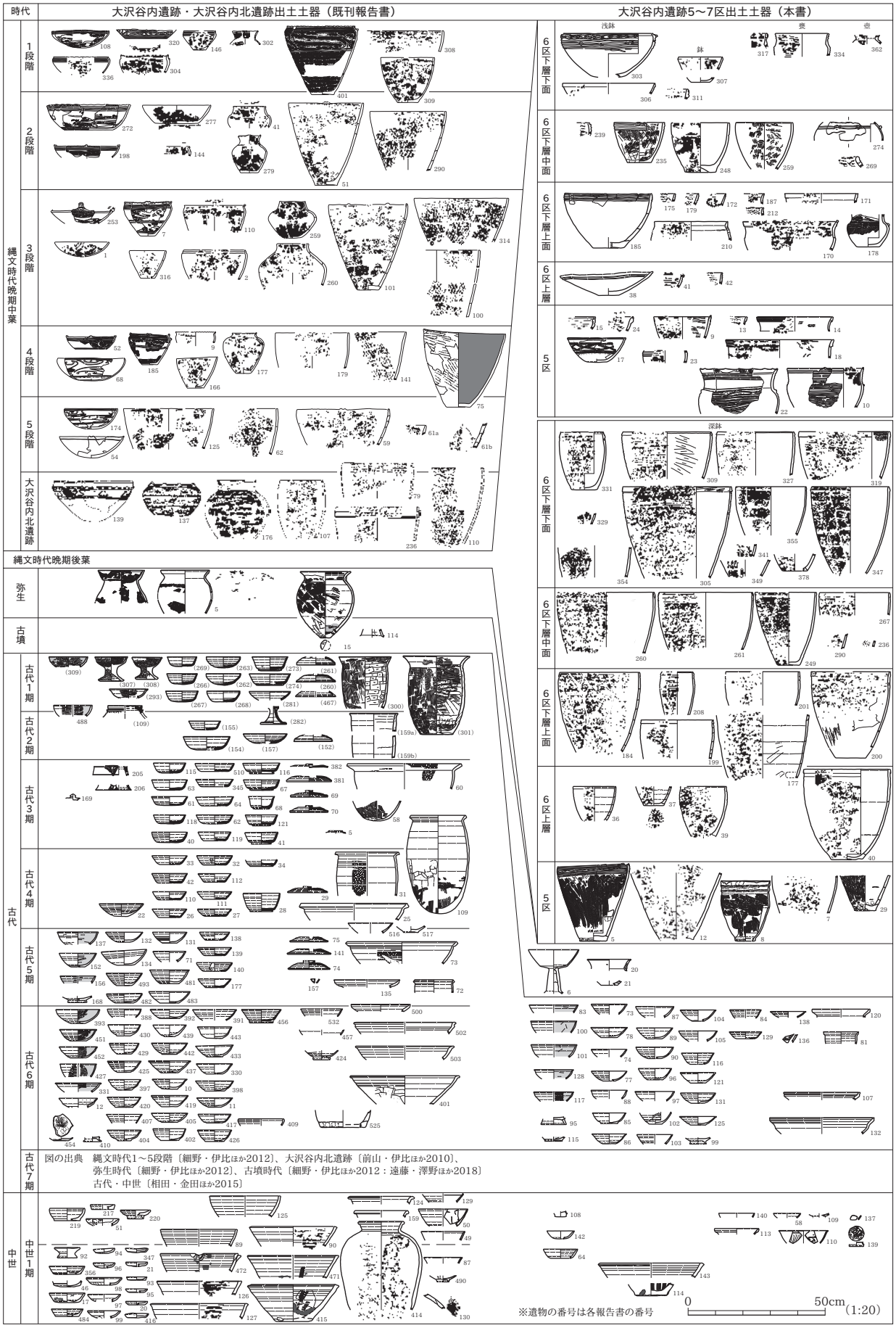
春日編年〔1999〕	本書	第56図 古代・中世掲載土器の出土調査区・遺構など
Ⅱ期	古代1期	1～4区　SX945：260～263・266～269・273・274・281・282・293・300・301・307～309 9区　SD669：467
Ⅲ期	古代2期	1～4区　SK666：152・154・155・157・159a・b、SD800：109 9区　SD3296：488
Ⅳ期	古代3期	8区　SE112：5、SE2383：40・41、SX923：58・60～64・67～70、SX2339：115・116、SX2378：119・121、遺構外：169・205・206 9区　SE17：345、SK3197：381・382、遺構外：510
Ⅴ期	古代4期	8区　SE1211：22・25～29、SE1421：31～34、SK467：42、SX1622：109～112
Ⅵ期	古代5期	8区　SX1089：71～75、SD151：131・132・134・135・137～141、SD1196：152、SD1380：156・157、遺構外：168・177 9区　SD2205：481～483、P2464：493・494
Ⅶ期	古代6期	7区　SX90：73、SX119：74・77・78・81・83・84、SX124：85、SX174：86、SX175：87～90・95、SX186：96・97・99～101、SX189：102・103、SX191：104・105、SX234：107、SD85：115、SD86：116・117、SD100：120、SD110：121、SD168：125・128・129、遺構外：131・132・136・138 8区　SE411：11・12 9区　SB8-P2221：330・331、SK3225：388・391～393、SX146：397・398・401、SX172：402・404・405・407・409・410、SX2253：417・419・420・424、SX2348：425～427、SX3349：429・433・437・439・442・443・451・452・454・456、SX3521：460、遺構外：500・502・503・525・532
Ⅷ期	古代7期	
	中世1期	6区　SD244：58、遺構外：64 7区　SD27：108～110、SD28：113、SD37：114、遺構外：137・139・140・142・143 8区　SE929：17、SE1145：20、SE1216：21、SK1103：46、SK1570：49～51、SX1306：87・89・90・92～99、SD121：124～126・127・129・130、SD2291：159、遺構外：219・220 9区　SE32：347、SE3188：356、SX2140：414～416、SD1661：471・472、SD3012：484、SD3384：490

第４節　上 層 の 遺 構

Ａ　耕作関連遺構

1）６・７区の耕作関連遺構の概要

大沢谷内遺跡では、これまでに９区と10区において水田など古代・中世の耕作関連遺構が検出されており、９区では小溝状遺構群、凹地遺構、畦畔が、９区の南に隣接する10区では水田区画や畦畔が確認・報告されている〔相田・金田ほか2015、遠藤・澤野ほか2018〕。本書で扱う６区と７区においても中世の耕作関連遺構（SN）と考える凹地遺構が計12基確認されている（第27表、第57図）。いずれも方・長方形状の凹地遺構で、壁際に溝を巡らす特徴を持つ。この種の遺構は９区で凹地遺構Ｂ類〔相田・金田ほか2015〕として報告されており、細池遺跡・寺道上遺跡（現細池寺道上遺跡）の凹地遺構Ａ類〔小池1994〕に該当すると考えられ、上道下西遺跡〔鈴木ほか2012〕や細池寺道上遺跡〔小池ほか1994、立木・細井ほか2015〕、沖ノ羽遺跡〔石川ほか1994、立木・澤野ほか



第 56 図　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡における主な土器変遷図

2014〕などでも確認される。出土遺物や覆土の特徴などから、中世以降が主体をなすと考えられているが、上道下西遺跡では古代までさかのぼる可能性も指摘されている。なお、大沢谷内遺跡 10 区では畦畔をもつ古代の水田遺構が確認されているが、長方形状の形態で、壁際に溝は巡らない〔遠藤・澤野ほか 2018〕。

先述のとおり 6・7 区で確認された凹地遺構は、9 区での分類〔相田・金田ほか 2015〕に基づくと凹地遺構 B 類に該当し、9 区では 12 基確認されている。9 区における凹地遺構 B 類の特徴は、縁辺部に幅約 0.5 ～ 1.0m、深さ約 0.1 ～ 0.2m の溝が巡り、区画は大きいもので 210m^2、小さいもので 80m^2 を測る（第 28 表）。軸が揃う整然とした配列をなし、遺構外側の平坦域では東西・南北方向で区画に沿う形で用排水の機能をもつと推測される大小の溝やさらに分枝し区画内とつながる溝などが確認されている（第 60 図）。今回報告する 6・7 区の凹地遺構も同様の特徴を有しており、SN10 や SN11 では植物珪酸体分析や花粉分析でイネが検出されている（第Ⅵ章第 1・2 節）ことなどから、中世の水田などの耕作関連遺構と判断される。他方、7 区で検出された耕作関連遺構は 6 区の耕作関連遺構に比べて小規模である。これが土地利用の面での違いによるものなのか、あるいは時期差によるものなのかは不明である。

第 27 表　5 ～ 7 区における耕作関連遺構

調査区		層位	遺構	時代	溝	規模（m） 上端 長軸	上端 短軸	深度	面積（㎡）	底面標高（m）	備考
15次	6区	上層	SN01	中世	SD 310	12.00	－	0.12	－	3.10	
			SN02	中世	SD 293	10.70	9.00	0.13	96.3	2.90	
			SN03	中世	SD 291	12.90	12.80	0.15	165.1	2.85	
			SN04	中世	SD 202	10.60	－	0.14	－	3.04	
			SN05	中世	SD 274	9.70	－	0.07	－	3.08	
			SN06	中世	SD 221	13.00	－	0.09	－	3.06	
					SD 289			0.06		3.02	
17次	7区	上層	SN07（SX523）	中世	SD 213	9.30	7.40	0.06	68.8	2.96	
					SD 220			0.03		2.98	
					SD 223			0.13		2.92	
			SN08（SX191）	中世	SD 199	5.80	－	0.06	－	3.04	
			SN09（SX192）	中世	SD 120	6.80	－	0.17	－	3.03	
			SN10（SX186）	中世	SD 187	6.00	5.20	0.23	31.2	2.90	植物珪酸体分析：1・2層から密度1000g/個のイネ花粉分析：イネ科優勢
			SN11（SX119）	中世	SD 183	7.80	－	0.11	－	2.98	植物珪酸体分析：1層から密度4,200g/個のイネ、2層から密度700g/個のイネ花粉分析：イネ科優勢、1層から鞭虫卵
			SN12（SX183）	中世	SD 184	4.90	－	0.36	－	2.94	

第 28 表　9 区における耕作関連遺構（凹地遺構 B 類〔相田・金田ほか 2015〕に限る）

調査区	遺構	時代	規模（m） 上端 長軸	上端 短軸	深度	面積（㎡）	底面標高（m）	備考
9区	区画1	中世	10.8	10.0	0.06	110	2.98	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画2	中世	10.0	8.0	0.26	80	2.74	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画3	中世	－	－	0.06	－	2.80	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画4	中世	14.4	14.2	0.10	210	2.87	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画5	中世	13.2	9.6	0.14	130	2.86	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画6	中世	12.6	12.2	0.10	160	2.95	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画7	中世	－	－	0.05	－	2.95	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画8	中世	17.0	11.0	0.06	190	2.86	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画9	中世	10.8	8.2	0.06	90	2.90	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画10	中世	16.0	12.0	－	200	－	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画11	中世	－	－	0.05	－	2.88	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕
	区画12	中世	－	－	－	－	－	凹地遺構B類〔相田・金田ほか2015〕畦畔部イネ2900個/g

なお、1 区西側において中世に属する方形状の区画をなす溝が確認されており、調査区外へ広がるため不明な点が多いものの、内部で建物が確認されていないことから耕作関連遺構である可能性も推測される（第 60 図）。

2）耕作関連遺構に伴う用排水について

前述のとおり、9 区の耕作関連遺構周辺では、直交する方向の大小の溝や、さらに分枝して区画内とつながる溝など、耕作関連遺構の用排水に関わると考えられる溝が確認されている（第 60 図）〔相田・金田ほか 2015〕。6・7 区においても、耕作関連遺構周辺では用排水に関わると考えられる大小の溝が確認できる。

6 区では標高の高い南西部において、北西－南東方向を軸とする中世の溝 SD188、SD189、SD190、SD203、SD276 などが存在し、それと直交する軸で SD234 が北東方向へのび SN03 や SN02 の溝とつながっている。SD234 は、標高の高い南西部から耕作関連遺構へ水を送る用排水の機能を有していた溝と推測される（第 57 図左）。7 区でも標高の高い南部において SD110 や SD111、SD182 など大小の中世の溝が北西－南東方向を軸として走っている。また、これらの溝と直交する軸で幅の広い SD168 が耕作関連遺構である SN07・08 と SN09・10 の間を北東方向へとのびている。SD182 は SN10 の南西部とつながっており、また SN10 の北西部は SD111 の溝とつながっている。さらに SN10 の北東部では SX189 を介して SD168 とつながる。なお、SX189 は水溜の機能を有していた可能性もある。これらの溝などは、標高の高い南西部から標高の低い北東部へと水を流していくための用排水機能を有していたものと推測される（第 57 図右）。

以上、耕作関連遺構の用排水に関連する可能性のある溝などの一部を概観したが、6 区南西部の北西－南東方

第 57 図　6・7 区上層における耕作関連遺構平面図（矢印は水の想定流路）

向を軸とする中世の溝 SD188 や SD190 などの溝は、7 区南部の SD110 や SD111 などと軸が一致しており、7 区北西端域で確認されている SD27、SDSD28、SD38 などの溝と一連の溝となる可能性がある（第 60 図）。また、6・7 区と 9 区とで確認された耕作関連遺構の区画の軸や用排水機能をもつと推測される溝の軸などがいずれも一致することなどから、中世には用排水機能を備えた水田などの耕作関連遺構が、集落周辺の広範囲にわたって整然と形成されていたと考えられる（第 60 図）。

B　井　　戸

本書で報告する 5 ～ 7 区において検出された井戸の総数は 7 基である（第 29 表）。出土遺物や覆土をもとに検出された井戸を古代、中世で分けると、古代 3 基・中世 4 基である。これに大沢谷内遺跡でこれまでに調査・報告されている 1 ～ 4 区〔細野・伊比ほか 2012〕、市道関連調査区〔前山ほか 2012〕、8・9 区〔相田・金田ほか 2015〕の井戸を合わせると、総数 173 基（古代 33 基・中世 140 基）である（第 29 表。なお、1 ～ 4 区 SE183 は報告書の記

載に従い古代としたが、中世の可能性もある。また、SX1378 は報告書中で井戸の可能性の他にトイレ状遺構の可能性も指摘されている〔細野・伊比ほか 2012〕がここでは井戸に含めた)。古代については出土遺物から 1 ～ 4 区が飛鳥～奈良時代、市道調査区が平安時代、8・9 区及び 6 区が奈良・平安時代を中心とする時期と推測される（本章第 3 節 A)。中世は、1 ～ 4 区が 13･14 世紀、市道関連調査（第 16･18 次調査）が 13 世紀、5 ～ 9 区が 12 ～ 14 世紀を中心とする時期と推測される。

第 29 表　大沢谷内遺跡における井戸一覧（農道調査〔小須戸町教委 1989〕時の 1 基除く。）

調査区	時代	分類は〔北陸中世考古学研究会2001〕による				井戸側備考	計	水溜の曲物	井戸底完形土器	備考
		素掘り	井戸側有り							
		A	B1 Va	B2 I	B2Ⅳ					
1 ～ 4区〔細野・伊比ほか2012〕	古代（飛鳥･奈良）	11	－	1	2	曲物積（2段・SE183） 刳舟転用2（SE1363クリ・SX1378）	14	－	－	SE1363（櫛）
	中世	27	－	－	－		27	－	－	
小計		38	－	1	2		41	－	－	
市道関連〔前山ほか2012〕	古代（平安）	2	－	－	－		2	－	－	
	中世	1	－	1	－	曲物積（4段・SE418）	2	－	－	
小計		3	－	1	－		4	－	－	
5区（本書）	中世	3	－	－	－		3	－	－	
小計		3	－	－	－		3	－	－	
6区（本書）	古代（奈良・平安）	3	－	－	－		3	－	－	
	中世	1	－	－	－		1	－	－	
小計		4	－	－	－		4	－	－	
7区（本書）	中世	3	－	－	－		3	－	－	
小計		3	－	－	－		3	－	－	
5 ～ 7区合計	古代	3	－	－	－		3	－	－	
	中世	4	－	0	－		4	－	－	
		7	0	0	0		7	－	－	
8区〔相田・金田ほか2015〕	古代（奈良・平安）	7	－	－	1	刳舟転用（8区SE2383スギ）	8	－	4	
	中世	44	－	1	－	曲物積（3段・8区SE1643）	45	－	－	SE845・1643（銭貨）SE1363（櫛･笄）
小計		51	－	1	1		53	－	4	
9区〔相田・金田ほか2015〕	古代（奈良・平安）	10	1	－	1	木製品（槽）や自然木による方形井桁状組（9区SE3579ケヤキ・ヤナギ属） 刳舟転用（9区SE3416･井戸底砂利敷）	12	1	1	
	中世	64	－	－	－		64	4	－	SE3617（栗形）
小計		74	1	－	1		76	5	1	
8・9区合計	古代	17	1	－	2		20	1	5	
	中世	108	－	1	－		109	4	－	
		125	1	1	2		129	5	5	
総計	古代	33	1	1	4		39	1	5	
	中世	140	0	2	0		142	4	0	
		173	1	3	4		181	5	5	

以下、大沢谷内遺跡 5 ～ 7 区における井戸について古代、中世に分けて記す。なお、第 29 表の井戸・井戸側の分類については、北陸中世考古学研究会の分類〔北陸中世考古学研究会 2001〕を使用している。

古代　6 区上層で 3 基確認されている。円形もしくは不整形でいずれも素掘りの井戸である。地形に沿う形で約 30m 間隔で位置する。集落の中心域にあたる 8・9 区と比較すると井戸の数は少ない。また、1 ～ 4 区、8・9 区で確認されている刳舟を転用した井戸側を有したり、井戸底から完形土器が出土する井戸は認められない。

以上のことから、古代の大沢谷内遺跡においては、基本的に集落近辺に多くの井戸を有し、また特別な井戸も集落の近くに構築したと考えられる。そして 6 区のようにやや離れた標高の少し低い場所では、簡素で小規模な井戸を少数有していたものと推測される。

中世　5 ～ 7 区で確認された中世の井戸は、5 区で 3 基、6 区上層で 1 基、7 区上層で 3 基の計 7 基である。形態は方形状 2 基、円形や不整形のもの 5 基である。いずれも素掘りの井戸で、前項記載の耕作関連遺構の外縁域に分布する。大沢谷内遺跡全体での井戸の検出数は、古代の 33 基から中世には 140 基と増加している。5 ～ 7 区上層で確認された中世の井戸 7 基は、遺跡中心域にあたる 8・9 区と比較すると非常に少ない数といえる。また、5 ～ 7 区では、市道関連調査や 8・9 区で確認されたような曲物を転用した井戸側をもつものや、希少品が出土する井戸は認められなかった。

以上のことから、中世の大沢谷内遺跡では基本的に集落近辺に多くの井戸を有し、また井戸側や希少品が認められるような特別な井戸についても、古代同様集落の近くに構築していたと考えられる。そして、集落中心部から少し離れた耕作域外縁にあたる標高の低い場所には、簡素で小規模な井戸を少数有していたものと推測される。

第 5 節　大沢谷内遺跡の位置づけ

大沢谷内遺跡は、信濃川と新津丘陵に挟まれた沖積地内の微高地に立地し、標高約 2.0 ～ 3.5m を測る。本書報告の 5 ～ 7 区では、出土遺物から縄文時代晩期後葉と平安時代、中世を主体とする時期の遺構・遺物が確認された。また、大沢谷内遺跡ではこれまでに、農道部〔川上 1989、主に平安時代〕、市道部〔前山ほか 2012、主に平安時代･中世〕、1 ～ 4 区〔細野･伊比ほか 2012、主に縄文時代晩期･飛鳥時代･奈良時代･平安時代･中世〕、8･9 区〔相田･

金田ほか2015、主に奈良時代・平安時代・中世〕、10・11区〔遠藤・澤野ほか2018、主に平安時代・中世〕の計5冊の報告書が刊行されている。さらに、大沢谷内遺跡の北100mほどに位置する大沢谷内北遺跡では、縄文時代晩期の遺構・遺物が調査・報告されている〔前山・伊比ほか2010〕。

5～7区では植物珪酸体や花粉、種実、動物遺存体の分析・同定を行い、縄文時代や古代、中世における遺跡周辺の古環境を推察し得るデータが得られた（第Ⅵ章）。また、当遺跡1～4・8～11区及び大沢谷内北遺跡でも縄文時代から中世の古環境についての各種分析・検討がこれまで行われている〔前山・伊比ほか2010、細野・伊比ほか2012、前山ほか2012、相田・金田ほか2015、遠藤・澤野ほか2018〕。

調査範囲が限られており不明な点も多くあるが、以下ではそれらの成果を参考にしながら、大沢谷内遺跡の縄文時代から中世の古環境や土地利用を概観するとともに、現時点における遺跡の位置づけを行いたい。なお、以下で記す段階・期については、特にことわりが無いかぎり第56図での標記を用いる。

A　縄　文　時　代

大沢谷内遺跡1～4区及び大沢谷内北遺跡で行った花粉分析では、縄文時代晩期中葉を通してハンノキ属・ブナ属・コナラ属が主体を占め、中でも湿潤な気候に適したハンノキ属が優勢であることから、これを中心とした湿地林が存在したと推測される。

縄文時代晩期後葉に位置づけられる6区下層上面（Vb層）・中面（Vc層）・下面（Vd層）の土壌で花粉分析を行ったがいずれも花粉が検出されない、もしくは非常に少ない結果であった。7区下層も同様に花粉の検出数は少なかったが、検出花粉から晩期中葉と同じくハンノキ属を中心とする湿地林や河辺林が分布するとともに、コナラやケヤキ、トチノキなどの落葉広葉樹やスギ林が存在していたと推測される（第Ⅵ章第2節）。

さて、縄文時代において、1～4区では基本、上層と同じように北西－南東方向にのびる微高地が存在したと考えられる。6区下層でも遺構確認面の標高や遺構の分布などから、基本的に、北西－南東方向にのびる狭い微高地が存在していたと考えられる（第Ⅳ章第1節）。なお、6区下層の上面・中面・下面いずれにおいても遺構・遺物が北西域に集中することから、舌状にのびる微高地の縁辺であった可能性がある。また、1～4区や6区下層で確認された竪穴建物や掘立柱建物は、この時期の台地や丘陵上の集落で一般的な環状配置ではないと推測され（本章第2節）、その背景として沖積地における幅狭な微高地という立地的制約や遺跡の性格などが考えられる。

先に見た縄文土器の年代観からは、縄文時代晩期中葉において大沢谷内遺跡1～4区から大沢谷内北遺跡へ、その後少し間をおいて縄文時代晩期後葉には4区南側に存在する埋没谷を隔てた南側の6区に主要な活動域が変化したものと推測される（本章第1節、第58図）。縄文時代晩期後葉の土器が市道関連調査や9区、11区において少量ながら出土していることも上記の動向を反映したものと推測する。なお、4区南側で確認されている埋没谷については、当初はさらに南に同様の谷が存在していたものが、5段階もしくはその直後の地すべりによって形成されたと考えられており、そのような立地環境の変化が大沢谷内遺跡から大沢谷内北遺跡へ活動域が移動した要因である可能性も指摘されている〔細野・伊比ほか2012〕。

大沢谷内遺跡1～4区では、建物の構成や遺構確認面の層序などから大きく2回の変化が認められる。1回目は3段階と4段階の間で、1～3段階（Vc層段階）には掘立柱建物と焼土遺構が主体を占めているのに対し、4段階（Vb層段階）になると竪穴建物が主体をなす状況へと変化する。2回目は5段階の時期で、1～4区での活動が途絶え、かわりに北約100mに位置する大沢谷内北遺跡へと移動したと考えられる〔細野・伊比ほか2012〕。

さて、大沢谷内遺跡では縄文時代から中世にかけてアスファルト塊が多量に出土しており（本章第1節C）、縄文時代から中世までアスファルトを継続して利用していたことが分かる。1～4区では、多様な形態・性状のアスファルトが出土しており、外面に煤が付着し火をかけられたと考えられるアスファルト入りの深鉢の存在や、さらにはアスファルト付着の磨石や石皿が出土していることなどから、採取したアスファルトの精製・加工が行われていたと考えられる〔細野・伊比ほか2012、前山2013〕。

１～３段階（Vc 層段階）の遺構は、柱が全て打込式の簡易な小規模の掘立柱建物と焼土遺構が主体で、石器組成において磨石・敲石類が突出した割合を占めることなどから、季節的なキャンプサイトとしての性格が考えられている〔細野・伊比ほか 2012〕。また４段階には竪穴建物が主体を占めるなど遺構の構成において前段階から変化が認められる一方、石器組成は依然乏しく、磨石・敲石類が主体を占める点で前段階と違いは見られない。そのため、前段階同様の利用が想定される〔細野・伊比ほか 2012、前山 2011・2012b〕。

１～４区のあとに位置づけられる大沢谷内北遺跡では、出土遺物は土器を除くと数量が乏しく、石器や木製品・加工木の種類も限られ、食料残渣も僅かでヒシの実と魚骨に偏る内容であった。出土土器は粗製土器が大半を占め、土器の胎土分析からは出土土器の多くが遺跡外から搬入された可能性が指摘されている〔前山 2010a〕。角田山麓で製作されたと考えられる土器も存在し、１～４区ではアスファルトの加熱に利用されたものもある。他方、角田山麓の御井戸遺跡でもアスファルトを加熱したと考えられる粗製土器が出土している。また、角田山麓の蒲田遺跡でもアスファルト塊が出土しており、これらは大沢谷内遺跡を介してもたらされた可能性も想定されている〔前山 2019〕。竪櫛や鉄鉱石なども出土しており、縄文時代晩期中葉における大沢谷内遺跡や大沢谷内北遺跡は、アスファルトなどの流通や交易活動の拠点となった可能性が高く、特殊なキャンプ地としての性格をもつ遺跡であったと考えられる〔細野・伊比ほか 2012、前山 2010c・2011・2012b・2013・2017・2019〕。

大沢谷内北遺跡の後に位置づけられる６区下層の土器組成も、１～４区や大沢谷内北遺跡と同様、粗製土器が大半を占める（本章第１節 A）。石器組成においても、６区下層上面・中面・下面を通して乏しく、磨石・敲石類と石皿で石器組成の大半を占める点など大沢谷内北遺跡と類似し、同時期の集落の中では特異な内容といえる（本章第１節 B）。アスファルト塊や漆を入れた壺（178）なども出土しており、縄文時代晩期後葉の時期においても一般的な集落とはいえず、特殊なキャンプ地としての性格が考えられる〔前山 2011〕。他方、アスファルト塊の出土量は大沢谷内北遺跡と同様少なく、アスファルトの利用形態に変化が生じていた可能性も考えられる。

６区下層の焼土遺構で検出された焼骨の同定・分析では、大半が魚骨で、中でもトゲウオ科やサケ科を主体とすることが分かった。分析資料のトゲウオ科やサケ科に大型のものから小型のものまで含まれることなどから、河川を遡上するもの以外に、降海する幼魚を獲得していた可能性があるとされた。また、通し回遊をするトゲウオ科やサケ科は遡上および降海する時期がそれぞれ異なるため、分析資料にはいくつかの時期で集中的に獲得されたものが含まれていると判断できるとともに、河川での網を用いた漁撈活動が行われていたと推定された（第Ⅵ章第４節）。ところで、大沢谷内北遺跡では出土した杭の年輪解析から、杭が晩秋から春先までの間に伐採されたとされ、夏季後半から秋季に採集期間を迎えるヒシの実の利用がほとんど行われていないこととあわせ、季節的な利用を反映している可能性が指摘されている〔前山 2010c・2011〕。これらの分析結果は、大沢谷内遺跡の利用形態を考える上で重要な手がかりとなろう。焼土遺構は縄文時代晩期中葉の１～４区や大沢谷内北遺跡、縄文時代晩期後葉の６区下層でも多数認められることから、複数時期に複数の個人または集団によって形成された可能性が高いと考えられ（本章第２節 B）、季節的利用の可能性を示唆する内容といえる。

なお、１～４区の焼土遺構から出土した焼骨の中にはサケ科の他に、海洋漁であるエイ類の焼骨も見つかっており、角田山麓の住人が大沢谷内遺跡へ持ち込んだ可能性も指摘される〔前山 2019〕。大沢谷内北遺跡で出土した櫂や、舟の繋留施設として利用された可能性のある杭列の存在なども含め、近辺での河川や湿地の存在が推測されるとともに、丸木舟を利用した活発な内水面交通が行われていたことが示唆される。

また、６区下層ではヒシが検出されており（第Ⅴ章第６節）、周辺に沼地のような静水域が存在したことが分かる。ヒシは縄文時代晩期中葉の１～４区や大沢谷内北遺跡でも出土しているがその量は少量であり〔前山・伊比ほか 2010、細野・伊比ほか 2012〕、前記のとおり活発な利用を行った形跡は見られない〔前山 2010c〕。なお、７区上層では中世の井戸からもヒシが検出されており、１～４区や市道関連調査でも古代・中世のヒシが出土している〔細野・伊比ほか 2012、前山 2012a〕。周辺における静水域の存在が推測されるとともに、被熱を受けているものが多く存在することから、古代・中世における活発なヒシの実利用がうかがえる〔前山 2012a〕。

大沢谷内遺跡の６区では、下層上面（Ｖｂ層）・下層中面（Ｖｃ層）・下層下面（Ｖｄ層）で遺構が確認されており、遺構確認面についてはそれぞれ 10 ～ 20cm の厚さの間層（遺物包含層）が存在した（第Ⅳ章第２節）。他方、先に見た土器の検討からは、６区下層下面・下層中面・下層上面はいずれも縄文時代晩期後葉に位置づけられ、さらにその中の鳥屋 2a 式段階におおむね限定される（本章第１節 A）。鳥屋 2a 式の年代幅については諸説あろうが、先の間層が自然堆積のみで形成されるほど長期に及ぶとは考えにくく、上記堆積層については周辺河川などの氾濫により堆積した可能性が高い。大沢谷内北遺跡の土壌分析でも、微高地上において河川の氾濫の影響を強く受ける環境が展開していたと考えられ〔前山・伊比ほか 2010〕、縄文時代晩期の大沢谷内遺跡周辺の不安定な環境を推察し得る。なお、このような環境が下層において花粉が残りにくい要因のひとつとみられる。縄文時代晩期中葉から後葉にかけて、活動域が１～４区から大沢谷内北遺跡へ、その後５・６区へと移動した背景には、そのような大沢谷内遺跡の立地環境が大きく影響している可能性が推測される。

Ｂ　弥生時代・古墳時代

当該期は遺物・遺構とも少なく、古環境についても不明な点が多い。本書報告の５～７区ではＶａ・Ｖｂ層が縄文時代晩期後葉以降から古代までの堆積土層であり（第Ⅳ章第２節）、弥生時代・古墳時代の堆積土もこの中に含まれる。７区の基本層序３地点ではＶａ層で花粉が定量検出されている。それによると、ハンノキ属が主体をなし、コナラ属・エノキ属・ブナ属・スギが定量認められる点は縄文時代晩期後葉と共通するが、草本類においてイネ科やカヤツリグサ科が多く検出されている点で若干異なる（第Ⅵ章第２節）。

また、11 区の旧河道１の最下層である７～ 11 層は出土種実による放射性炭素年代測定から５世紀後半から７世紀中葉の年代が推測されている。その中の最下層である 10・11 層の花粉分析ではその形成期には周辺においてハンノキ・トチノキなどの湿地林が分布し、周囲の適潤な所ではエノキ属－ムクノキ、ニレ属－ケヤキなどの落葉広葉樹、やや乾燥した所にはコナラ属－コナラ亜属などが分布し、湿地林内にはミズバショウ属、イネ科などの水生植物生育し、人為活動の影響をあまり受けない環境であったとされている〔遠藤・澤野ほか 2018〕。

大沢谷内遺跡では、既述のとおり縄文時代晩期後葉以後の遺構・遺物は希薄な状況である。遺物では、農道部の調査（第４次調査）で弥生時代後期の土器が少量出土している〔川上 1989〕他、１～４区で弥生時代後期と古墳時代前期の土器が、５区で古墳時代前期の終わり頃の土器が、11 区で古墳時代中期と思われる土器が僅かに出土している（第 56 図）。また、土器以外では８区出土のヒスイ製の勾玉が形態から古墳時代の可能性がある〔相田・金田ほか 2015〕。なお、市道関連調査（第 16・18 次調査）での当該期の遺物の出土は無い。

弥生時代の遺構は確認されておらず、古墳時代の遺構も５区の SX13 が出土遺物や覆土から当該期と考えられる程度である。これまでの遺物の出土域や他遺跡の立地などから、弥生・古墳時代における主たる活動域は、１～４区が位置する遺跡の北側や、新津丘陵のある遺跡の東側に存在する可能性が推測される。

Ｃ　古代（飛鳥・奈良・平安時代）・中世

市道関連調査や８・９区で行った花粉分析からは、奈良時代・平安時代（８～ 10 世紀）・中世（12 ～ 14 世紀）ともに遺跡周辺においてハンノキなどの湿性樹木やコナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹、スギ林が分布していたと考えられ〔前山ほか 2012、相田・金田ほか 2015〕、本書で扱う５～７区古代・中世の層にあたるⅢ層やⅣ層の花粉分析結果も上記結果と一致する（第Ⅵ章第２節）。また、大沢谷内遺跡１～４区の花粉分析によれば、飛鳥・奈良時代（７世紀後半～８世紀）においてもおおむね類似した環境にあったことが類推される〔細野・伊比ほか 2012〕。なお、大沢谷内遺跡においてこれまでの調査で出土した飛鳥時代から中世の木製品の材はスギが圧倒的に多く、遺跡周辺もしくは近隣にスギが多く分布していた状況が推測される。

大沢谷内遺跡１～４区において、飛鳥時代の耕作に関連する遺構は検出されていないが、植物珪酸体・花粉分析からは周辺で水田耕作が行われていた可能性が指摘されている〔細野・伊比ほか 2012〕。また、本書報告の５区・

７区のほか、市道関連調査や９区、10区では、奈良・平安時代、中世と考えられる畑や水田といった耕作関連遺構が確認されている〔前山ほか2012、相田･金田ほか2015、遠藤･澤野ほか2018〕。さらに、市道関連調査や５区、７～10区における植物珪酸体分析では、奈良・平安時代、中世ともにイネが定量検出され、花粉分析でもイネ科が高い検出率を占め、加えて、市道関連調査や７～10区では、種実同定において奈良・平安時代や中世の遺構から炭化米が出土している。花粉分析ではイネのほかにムギ類（中世）やソバ属（奈良･平安時代、中世）も確認され、市道関連調査や８・９区の遺構覆土出土の種実同定では、前述の炭化米の他に、古代の遺構からはウリ、ヒョウタン、ナス、エゴマなどの栽培植物も多く検出されている。中世ではイヌビエ属（栽培）やアワが多く、他に古代同様ウリ、ヒョウタン、ナス、エゴマも定量確認できる。また、奈良・平安時代、中世ともにモモも多く確認されている〔前山ほか2012、相田・金田ほか2015〕。上記自然科学分析の結果は、確認されている畑や水田といった耕作関連遺構の状況と整合した内容といえ、古代・中世における農業形態の一端がうかがえる。

さて、古代・中世において、１～４区と７～９区では、先に見た縄文時代晩期と同様、北西－南東方向にのびる微高地がそれぞれ存在し、その間を４区南端に存在する埋没谷が分断する地形であったと考えられる（第Ⅳ章第２節）。２・３区や８区、９区北側などの微高地には建物が形成され、６・７区や９区南部から10区では、建物跡が検出されない一方、耕作関連遺構が確認されていることから、微高地の高い部分は居住域として利用し、周辺の低地部は主に生産域として利用していたことが分かる。なお、１区西側において中世に属する方形状の区画をなす溝が確認されており、調査区外へ広がるため不明な点が多いものの、内部で建物が確認されていないことから耕作関連遺構である可能性も推測される（第60図）。

古代１期には１～４区において溝で区画された掘立柱建物や、「九九」木簡、斎串や刀形・舟形・鏃形・弓形木製品など多くの木製祭祀具が出土することから、律令祭祀を行った官的性格を有する集落であったと考えられる。製作途中の木製品や羽口の出土などから、丘陵に近い地理的条件を背景とした手工業生産が行われていたことがうかがえる。また、アスファルトも多く出土しており、縄文時代晩期同様、石油資源を利用していたことがうかがえる。なお、井戸側に利用された丸木舟や櫂からは、この時期の活発な内水面交通がうかがえるとともに、豊富な木材資源を有していたことを示唆する。古代２期においても円面硯などの出土から古代１期同様、官的要素が継続した集落であったと考えられる〔前山2010d・2012a、細野・伊比ほか2012〕。

遺物・遺構の分布からは、古代３期以降１～４区での活動は縮小し、替わって８・９区や市道関連調査（第16・18次調査）の遺跡北西域で活動が活発になったと考えられる。１～４区南端域で確認されている埋没谷は、前記のとおり、古代・中世において谷幅が100m前後あった可能性もあることから、河川として機能していた可能性が推測される〔相田・金田ほか2015〕。古代３期以降は、１～４区からこの谷を隔てた南側の８・９区へ集落の中心が移ったと考えられ、この時期に空間利用のあり方に大きな変化があったことが推測される。

古代３～６期には、8･9区において奈良三彩や越州窯系青磁の他、円面硯、袋状鉄斧（市道関連調査でも１点出土）、金属製の蓋状器物、暗文を有する黒色土器、一定量の灰釉・緑釉陶器、石帯などが出土しており、一般集落とは明らかに異なる内容の遺物が出土している〔相田・金田ほか2015〕。井戸の中には丸木舟や槽を転用した井戸側をもつものが存在することから、古代１期同様、活発な内水面交通を行っていたことがうかがえるとともに、豊富な木材資源を有していたことが分かる。製作途中の可能性のある田下駄も出土しており、木製品の加工も行っていたと考えられる。また、市道関連調査では漆要具も出土しており、森林資源の活発な利用を示している〔前山2012〕。他には８・９区や市道関連調査で土錘も出土しており、周辺で漁撈活動も行っていたことが分かる。さらに多量のアスファルト塊も出土しており、縄文時代以降連綿と続くアスファルトの利用がうかがえ、石油資源も集落の生業のひとつとして利用されていたと考えられる。また、羽口や炉壁・鉄滓（市道関連の第18次調査で出土）も出土しており、集落内で鍛冶が行われていた可能性も示唆される。

以上、古代３～６期の大沢谷内遺跡は、丘陵や河川に近接した沖積地という地理的条件を背景として、様々な手工業生産や農耕・漁撈活動を行っていたと考えられ、出土遺物などからは古代１・２期に続いて公的性格を

帯びた有力者の集落であったと判断し得る。

続く古代７期の大沢谷内遺跡の動向は不明であるが、中世１期には８・９区で出土した骨角製の笄や栗形、木製の刀子鞘、一定量の漆器の椀や盤、青磁や白磁などが出土しており、中世においても引き続き有力な集落であったと判断できる。また、木製の未成品や使用前の結合用樹皮が出土しており、中世にも木製品の製作が行われていたことがうかがえる。また、中世にはアスファルト塊が古代以上に多量に出土しており（本章第１節Ｃ）、中世においても石油資源を活発に利用していたことが分かる。なお、８区及び市道調査では油井の可能性のある井戸が１基ずつ存在する。漁撈関係では鉄製の釣針も出土している。農耕を中心に漁撈活動も行い、さらに古代同様、その地理的条件を背景として木製品の製作や石油資源の活発な利用など多様な手工業生産を行っていたと考えられる。

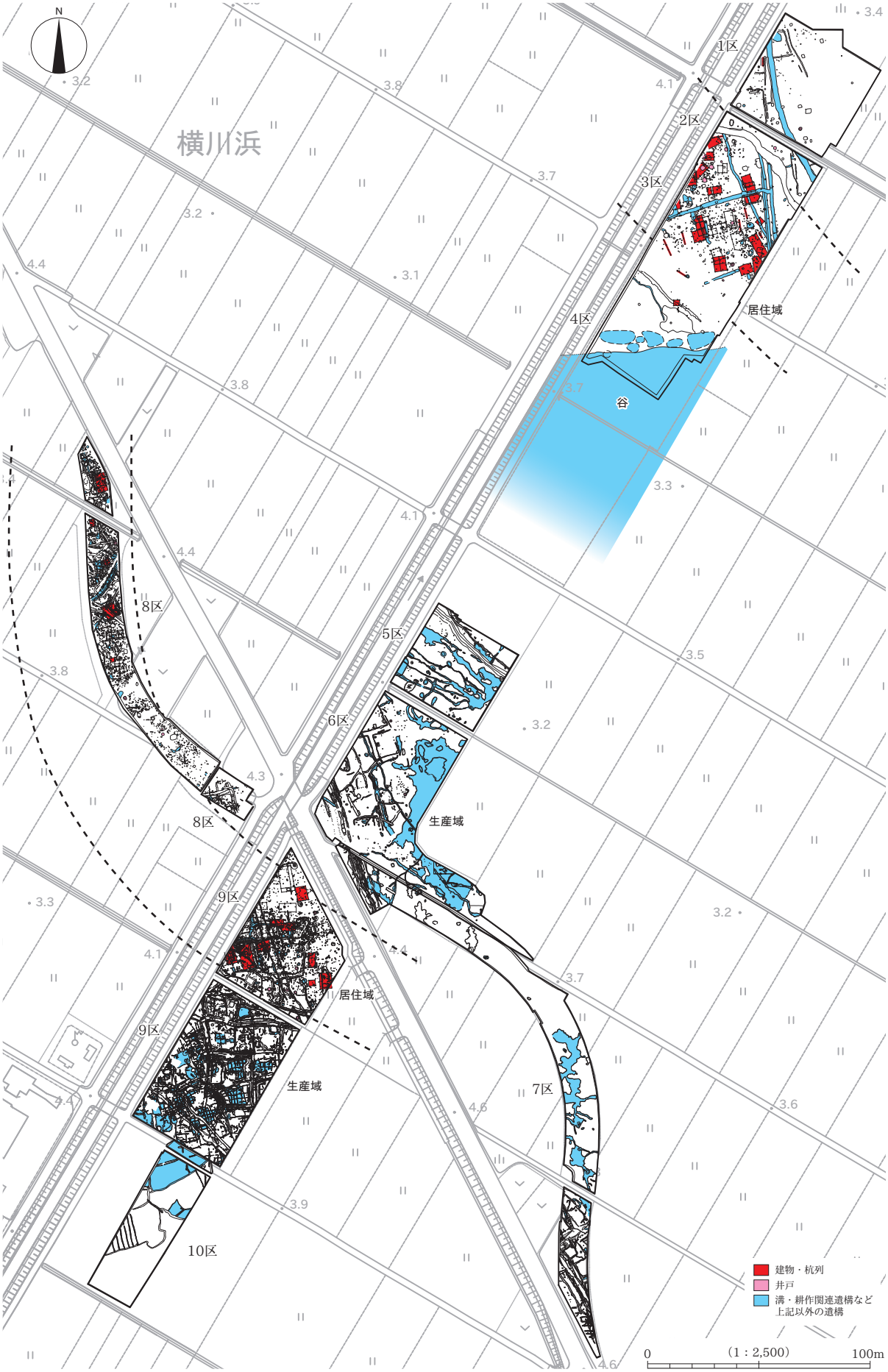
以上、古代から中世の大沢谷内遺跡の内容について見てきたが、空間利用のあり方をまとめると、計３回の大きな変化を指摘できる。ひとつは古代２期から古代３期にかけての時期である。主体となる活動域が古代１・２期に中心であった１～４区から８・９区、とりわけ８区へと変化しており、この時期に４区南端で確認された埋没谷を隔てた南側へ活動域の中心が移動した可能性が考えられる。市道関連調査でも古代４・５期を中心とする遺物が主体を占めており、古代３期から古代５期にかけては遺跡の北西側が活動の中心域であった可能性がある。次の空間利用の変化は古代５期から古代６期にかけての時期であり、古代６期には８区から９区へと遺物の分布が変化しており、また１～４区では再度遺構や遺物が増加する時期にあたる。７区及び 10・11 区出土の古代土器が古代６期のものにほぼ限定される状況も、この時期の活動域の変化を反映している可能性がある。なお、10 区の水田は出土遺物などから古代６期の可能性がある。耕作関連遺構が当該期に整備・拡大したとも捉えることができ、中世１期の変化への胎動期とも位置づけられよう。

もうひとつの変化は中世１期で、１～ 10 区、市道関連調査で遺構・遺物が定量確認されている。８・９区の中世の遺構から出土した樹木の種実が奈良・平安時代に比べて少ないことや、中世土器の分布範囲が奈良・平安時代に比べて広いこと、６～９区の耕作関連遺構において中世に属すものが多いことや、用排水機能を有した可能性がある溝の多くが中世の遺構と考えられることなどから、中世になると農耕地や用排水の整備・拡大がさらに進んだものと考えらえる（第 59・60 図）。なお、上記の縄文時代や古代から中世にかけての空間利用の変化の具体的背景については、不明な点が多く、今後の検討課題である。

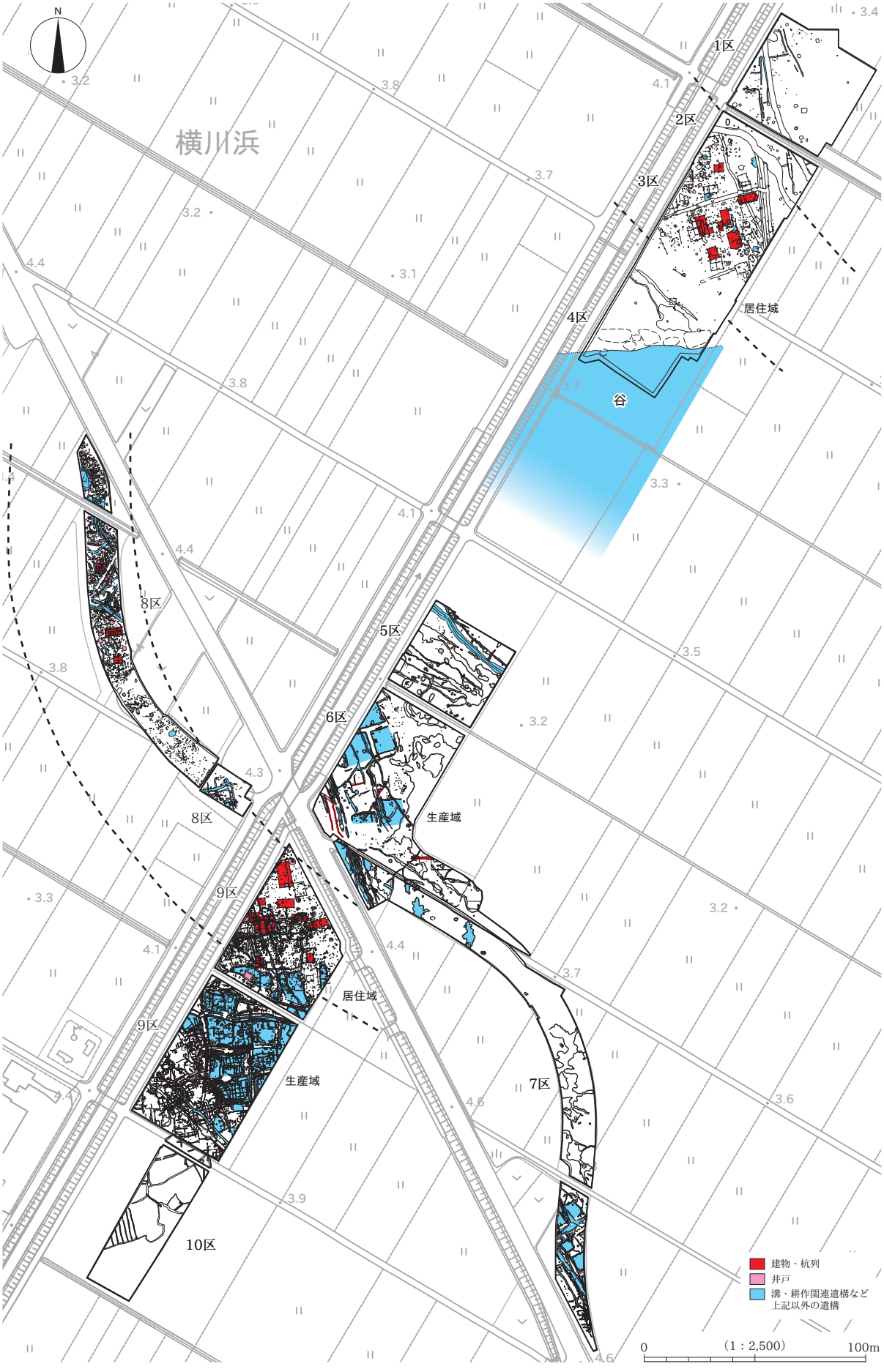
以上、縄文時代から中世の大沢谷内遺跡について確認してきた。大沢谷内遺跡では、本書で報告する縄文時代晩期後葉（鳥屋Ⅱａ式期）以降、遺物や遺構が不明瞭な状況となるが、飛鳥時代の７世紀後半（古代１期）に１～４区で再度遺構・遺物が確認できるようになる。１～４区では奈良時代（古代２期）まで官的性格を有する有力集落が形成され、その後、11 世紀頃（古代７期）の状況が不明瞭ながら、14 世紀頃（中世１期）まで８・９区などの微高地を中心に有力集落が営まれたと考えられる。このように、古代から中世にかけては、有力な拠点的集落が形成されるが、これには川辺に位置し、周囲には農耕に適した土地があり、また近くに丘陵や油田帯が存在する本遺跡の立地環境が大きな要因であったと考えられる。また、古代以降、沖積地が比較的安定した土地になってきたことも影響したものと推測される。

さて、これまでの調査で出土した遺物からは、大沢谷内遺跡の下限は 14 世紀代と推測され、これ以降の集落の動向については不明である。これまで各調査区において古代・中世の遺物包含層の上層や遺構覆土において未分解有機物層の堆積がみられ、遺跡周辺が中世以降に低湿な環境へと大きく変化したことが推察される〔前山ほか 2012、細野・伊比ほか 2012、相田・金田 2015、遠藤・澤野 2018〕。旧鎌倉潟など、近世まで存在した周辺の潟はこの未分解有機物層が堆積した時期に形成された可能性も指摘されており〔前山ほか 2012、細野・伊比ほか 2012〕、大沢谷内遺跡出土遺物の下限時期からは、この大きな環境変化が 15 世紀前後に本格的に生じた可能性を示唆する。不明な点が多いものの、この急激な環境変化を受けて大沢谷内遺跡の集落が廃絶した可能性がある。

第 58 図　大沢谷内遺跡・大沢谷内北遺跡下層遺構平面図（縄文時代晩期、7 区下層除く）



第 59 図　大沢谷内遺跡上層遺構平面図 1（古代の遺構に着色）



第 60 図　大沢谷内遺跡上層遺構平面図 2（中世の遺構に着色）

引用・参考文献

ア　相澤　央　2012a「第三編　古代・中世　第一章　古代の東蒲原郡　第三節　越後国と陸奥国の成立」『東蒲原郡史　通史編１　自然・原始・古代・中世・近世』　東蒲原郡史編さん委員会

相澤　央　2012b「第三編　古代・中世　第一章　古代の東蒲原郡　第四節　律令制下の東蒲原」『東蒲原郡史　通史編１　自然・原始・古代・中世・近世』　東蒲原郡史編さん委員会

相澤裕子　2019　「Ⅲ　文化財センターの事業２　平成 29 年度の本発掘調査（6）程島館跡第７次調査」『新潟市文化財センター年報　第６号』　新潟市文化財センター

相田泰臣　2015a「Ⅴ　研究活動－資料紹介・研究ノート等－　3　新潟市秋葉区舟戸遺跡出土遺物」『新潟市文化財センター年報　第２号』　新潟市文化財センター

相田泰臣　2015b「Ⅴ　研究活動　－資料紹介・研究ノート等－　4　新潟市秋葉区塩辛遺跡工事立会出土遺物」『新潟市文化財センター年報　第２号』　新潟市文化財センター

相田泰臣　2015c「第Ⅶ章総括　第２節　A　土器」『大沢谷内遺跡Ⅳ　第 19・20・21 次調査』　新潟市教育委員会

相田泰臣　2018　「Ⅱ　開発事前審査２　平成 28 年度の事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会の概要（2）塩辛遺跡第９・10 次調査」『新潟市文化財センター年報　第５号』　新潟市文化財センター

相田泰臣ほか　2015　『国史跡　古津八幡山遺跡　保存整備事業報告書２　－ 1600 年の時を越え　よみがえる蒲原の王墓』　新潟市教育委員会

相田泰臣・金田拓也ほか　2015　『大沢谷内遺跡Ⅳ　第 19・20・21 次調査』　新潟市教育委員会

相田泰臣・渡邊朋和ほか　2014　『史跡古津八幡山遺跡発掘調査報告書　－第 15・16・17・18・19 次調査－』　新潟市教育委員会

阿部洋輔　1983　「第一編　古代・中世の郷土　第二章　越後国の成立と進展　第二節　荘園制の成立」『小須戸町史』　小須戸町教育委員会

阿部洋輔・山名正平　1983　「第一編　古代・中世の郷土　第三章　武士社会の展開　第三節　戦国期の動向」『小須戸町史』　小須戸町教育委員会

荒川隆史　2004a「第Ⅳ章　遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　青田遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2004b「第Ⅴ章　遺物　１土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　青田遺跡』　新潟県教育委員会･(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2004c「第Ⅶ章３　青田遺跡における縄文時代晩期終末の土器編年」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　青田遺跡』新潟県教育委員会・(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2004d「第Ⅶ章６　青田遺跡の集落と生業」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　青田遺跡』　新潟県教育委員会・(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2009　「新潟県矢津遺跡出土土器の再検討」『新潟県立歴史博物館研究紀要』第 10 号　新潟県立歴史博物館

荒川隆史　2018　「北陸の縄文晩期社会と社会組織　－掘立柱建物集落の形成とクリ材利用からの視点－」『季刊考古学　別冊 25「亀ヶ岡文化」論の再構築』　雄山閣

荒川隆史・石丸和正ほか　2004　『青田遺跡』　新潟県教育委員会・(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

イ　飯田租州　1989　「第二編　中世　第一章　中世の白根郷　第一節　荘園と保」『白根市史　巻七　通史』　新潟県白根市

石川智紀ほか　1994　『磐越自動車道関係発掘調査報告書　沖ノ羽遺跡Ⅰ（A 地区)』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 58 集　新潟県教育委員会・(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川日出志　1985　「中部地方以西の縄文時代晩期浮線文土器」『信濃』第 37 巻４号　信濃史学会

石川日出志　1988　「鳥屋式土器の構成と意義」『豊栄市史資料編』1 考古編　豊栄市

石川日出志　1991　「縄文時代晩期浮線文土器出現期の編年と諸様相」『北越考古学』第４号　北越考古学研究会

石川日出志　1993　「鳥屋 2b 式土器再考」『古代』第 95 号　早稲田大学考古学研究会

石川日出志・増子正三ほか　1992　『六野瀬遺跡 1990 年調査報告書　－立川ブラインド工業株式会社東日本工場増設に伴う新潟県北蒲原郡安田町六野瀬遺跡発掘調査報告書－』　安田町教育委員会

石山精哉・春日真実ほか　1996　『江内遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

磯崎正彦　1957　「新潟県鳥屋の晩期縄文式土器（予報)」『石器時代』4

伊藤秀和　1996『川船河遺跡』 田上町教育委員会
伊比博和　2010「第Ⅶ章第２節 縄文土器について Ａ 編年的位置づけ」『大沢谷内北遺跡 第３次調査』 新潟市教育委員会
伊比博和　2012「第Ⅶ章第１節 下層（縄文時代）の遺跡」『大沢谷内遺跡Ⅱ 第７・９・11・12・14次調査』 新潟市教育委員会
今井さやか　2019「Ⅲ 文化財センターの事業 ２ 平成29年度の本発掘調査（５）秋葉遺跡第12次調査」『新潟市文化財センター年報 第６号』 新潟市文化財センター
ウ　潮田憲幸　2010「大沢谷内遺跡５区・６区」『平成21年度新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市埋蔵文化財センター
潮田憲幸　2011「大沢谷内遺跡７区」『平成22年度新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市埋蔵文化財センター
潮田憲幸　2012「大沢谷内遺跡」『平成23年度新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』新潟市文化財センター
潮田憲幸　2014『細池寺道上遺跡 第25次調査』 新潟市教育委員会
エ　遠藤恭雄・青木 誠ほか　2015『細池寺道上遺跡 第43次調査』 新潟市教育委員会
遠藤恭雄・澤野慶子ほか　2014『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査』 新潟市教育委員会
遠藤恭雄・澤野慶子ほか　2018『大沢谷内遺跡Ⅴ 第25次調査』 新潟市教育委員会
オ　尾崎高宏　2005「信濃川右岸 16 大倉山遺跡」『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現（第２分冊）』 新潟県考古学会
カ　可児通宏　2008「縄文の施文原体と文様」『総覧縄文土器 小林達雄先生古稀記念企画』『総覧縄文土器』刊行委員会
春日真実　1999「第４章 古代 第２節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院
春日真実　2000「考古編 第５章 まとめ」『吉田町史 資料編１ 考古・古代・中世』 吉田町
春日真実ほか　2004『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
加藤 学　1999「第５章 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 泉Ａ遺跡』 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
金田拓也ほか　2017『舟戸遺跡Ⅱ 第25次調査』 新潟市教育委員会
加茂市史編纂委員会　1975『加茂市史 上巻』 加茂市
川上貞雄　1989『大沢谷内遺跡発掘調査報告書』 小須戸町教育委員会
川上貞雄　1994a「第一編 考古資料 一五 大倉山遺跡」『五泉市史 資料編一 原始・古代・中世』 五泉市
川上貞雄　1994b「第一編 原始･古代･中世の田上郷 第一章 原始時代の田上 第四節 古墳の出現とエゾ塚古墳」『田上町史 通史編』 田上町
川上貞雄　1995『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
川上貞雄　1996『金津丘陵製鉄遺跡群 居村Ｂ・Ｄ地区』 新津市教育委員会
川上貞雄・青木達雄　1987『九ツ塚 緊急発掘調査報告書』 小須戸町教育委員会
川上貞雄・遠藤孝司ほか　1983『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新津市教育委員会
川上貞雄・遠藤孝司ほか　1984『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』 白根市教育委員会
川上貞雄・木村宗文ほか　2002「第一章 原始・古代・中世の五泉郷」『五泉市史 通史編』 五泉市
川上貞雄ほか　1981『山崎須恵窯址』 五泉市教育委員会
キ　木村宗文　1989a「第三編 文献 二五〔群・郷〕」『新津市史 資料編第一巻 原始・古代・中世』 新津市
木村宗文　1989b「第三編 文献 参考資料 参五 新津氏の所領」『新津市史 資料編第一巻 原始・古代・中世』 新津市
木村宗文　1993「第一編 原始・古代・中世の新津 第二章 古代越後国と大和政権 第三節 越後国の成立と人々の生活 二 越後国の成立」『新津市史 通史編・上巻』 新津市
木村宗文・田村裕ほか　1989「第三編 文献 史料解説」『新津市史 資料編第一巻 原始・古代・中世』 新津市
ク　轡田克史　2012「第三編 古代・中世 第一章 古代の東蒲原郡 第六節 古代荘園の衰退と中世荘園胎動の時代」『東蒲原郡史 通史編１ 自然・原始・古代・中世・近世』 東蒲原郡史編さん委員会
コ　小池義人　1994「第Ⅸ章 まとめ 1.中世の凹地遺構と溝について」『細池遺跡・寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
小池義人・須藤高志ほか　1994『細池遺跡・寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
小須戸町教育委員会　1983『小須戸町の文化財（国・町指定文化財）』

小林圭一　2018　「亀ヶ岡式土器とその年代観」『季刊考古学 別冊 25「亀ヶ岡文化」論の再構築』 雄山閣

小林謙一　2008　「縄文土器の年代（東日本）」『総覧縄文土器 小林達雄先生古稀記念企画』『総覧縄文土器』 刊行委員会

小林昌二　1995　「原始古代中世 第三章 村と港と古代国家 第一節 国群の形成」『新潟市史 通史編 1 原始古代中世近世（上）』 新潟市

小林青樹　2008　「浮線網状文系土器」『総覧縄文土器 小林達雄先生古稀記念企画』『総覧縄文土器』 刊行委員会

サ　斉藤寿一郎　1983a　「第二編 幕藩社会の成立と郷土 第三章 小須戸の町立て 第二節 信濃川水運と廻米」『小須戸町史』 小須戸町役場

斉藤寿一郎　1983b　「第二編 幕藩社会の成立と郷土 第三章 小須戸の町立て 第三節 街道と宿駅」『小須戸町史』 小須戸町役場

齋藤義信　1990　「第二部 ふるさと探訪 / わが町・わが村 小須戸町」『新潟県風土記』 株式会社旺文社

斉藤義信・山名正平　1983　「序章 小須戸の自然」『小須戸町史』 小須戸町役場

佐藤堅次　1983　「第二編 幕藩社会の成立と郷土 第二章 近世農村の展開 第四節 天ケ沢草水の開発」『小須戸町史』 小須戸町役場

坂井秀弥　2008　「第Ⅰ編 越後における律令社会の成立と展開 第 4 章 越後平野の環境・交通・産業と官衙遺跡」『古代地域社会の考古学』 株式会社同成社

坂井秀弥ほか　1989　『山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所

笹澤（諫山）えりか　2009　『中田遺跡 第 2 次調査』 新潟市教育委員会

佐原　真　1981　「特論－縄文施文法入門」『縄文土器大成』3　後期　講談社

ス　鈴木郁夫　1989　「第一編 自然」『新津市史 資料編第一巻 原始・古代・中世』 新津市

鈴木加津子　1990　「茨城県滝の上遺跡の縄文式晩期中葉の土器 －茨城県西部の 2 遺跡から見た南奥大洞 C2 式の変遷－」『利根川』11　利根川同人

鈴木加津子　1991　「安行式文化の終焉（2）」『古代』第 91 号　早稲田大学考古学会

鈴木浩平　1993　「第一編 原始・古代・中世の新津 序章 郷土の自然 第一節 地形の概観」『新津市史 通史編・上巻』 新津市

鈴木俊成　2011　『埋蔵文化財講座① 発掘調査が語る新潟の米作り』 新潟県教育委員会

鈴木俊成　2012　「第Ⅶ章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 231 集 上道下西遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

鈴木俊成ほか　2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 231 集 上道下西遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

鈴木俊成・佐藤友子ほか　2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 238 集 小坂居付遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

セ　関　雅之・石川日出志ほか　1980　『鳥屋遺跡』Ⅰ　豊栄市教育委員会

関　雅之・石川日出志ほか　1988　『豊栄市史』資料編 1 考古編　豊栄市

関　雅之・田中耕作ほか　1982　『村尻遺跡Ⅰ』 新発田市教育委員会

タ　高橋保雄ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 172 集 鴨深甲遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

竹田和夫　1989a　「第三編 文献 九九・一〇〇 上杉玄清定実知行宛行状・長尾晴景副状」『新津市史 資料編第一巻 原始・古代・中世』 新津市

竹田和夫　1989b　「第三編 文献 一一七 三条同名同心家風給分御帳」『新津市史 資料編第一巻 原始・古代・中世』 新津市

龍田優子ほか　2015　『下新田遺跡 第 6・8・9 次調査』 新潟市教育委員会

龍田優子ほか　2018　『道上遺跡 第 6 次調査 下久保遺跡 第 3 次調査』 新潟市教育委員会

田中耕作・阿部朝衛ほか　1982　『村尻遺跡』Ⅰ　新発田市教育委員会

田中耕作・鶴巻康志　1992　『館ノ内遺跡 D 地点の調査 －新潟県新発田市館ノ内遺跡 D 地点発掘調査報告書－』 新発田市教育委員会

田畑　弘　1993　『保明浦遺跡』 田上町教育委員会

田畑　弘　1996　『保明浦遺跡Ⅱ』 田上町教育委員会

田畑　弘　2000　『長沢遺跡・田上館跡』 田上町教育委員会

田畑　弘　2003　『保明浦遺跡Ⅲ』 田上町教育委員会

田畑　弘　　2004 『保明浦遺跡Ⅳ』 田上町教育委員会
田畑　弘・武部喜光ほか　2015 『行屋崎遺跡』 田上町教育委員会
田村　裕　　1989a「第三編　文献　四三〔城長茂・新津四郎等誅さる〕」『新津市史　資料編第一巻　原始・古代・中世』 新津市
田村　裕　　1989b「第三編　文献　五三〔金津資義等、北陸道大将軍北条朝時に従軍す〕」『新津市史　資料編第一巻　原始・古代・中世』 新津市
田村　裕　　1989c「第三編　文献　六四　羽黒義成軍忠状写」『新津市史　資料編第一巻　原始・古代・中世』 新津市
田村　裕　　1989d「第三編　文献　八二　蒲原郡段銭帳」『新津市史　資料編第一巻　原始・古代・中世』 新津市
田村　裕　　1993 「第一編　原始・古代・中世の新津　第三章　荘・保と武士の世　第一節　新津市周辺の保と荘園」『新津市史　通史編・上巻』 新津市
ツ　立木宏明・相澤（髙野）裕子ほか　2014 『細池寺道上遺跡Ⅲ　第 26 次調査』 新潟市教育委員会
立木宏明・澤野慶子ほか　2004 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
立木宏明・澤野慶子ほか　2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ　第 15 次調査』 新潟市教育委員会
立木宏明・奈良佳子ほか　2017 『細池寺道上遺跡Ⅵ　第 44 次調査』 新潟市教育委員会
立木宏明・奈良佳子ほか　2018 『細池寺道上遺跡Ⅶ　第 46 次調査』 新潟市教育委員会
立木宏明・奈良佳子ほか　2019 『細池寺道上遺跡Ⅷ　第 48 次調査』 新潟市教育委員会
立木宏明・細井佳浩ほか　2015 『細池寺道上遺跡Ⅴ　第 32・38・41 次調査　西江浦遺跡　第 6 次調査』 新潟市教育委員会
續伸一郎　　1995 「Ⅲ　土器・陶磁器　11. 貿易陶磁器〔3〕中世後期の貿易陶磁器」『概説　中世の土器・陶磁器』 真陽社
ト　土橋理子　　1995 「Ⅲ土器・陶磁器　11. 貿易陶磁器〔1〕初期貿易陶磁器」『概説　中世の土器・陶磁器』 真陽社
ナ　中川成夫・倉田芳郎　1956 『新津田家七本松須恵器窯跡発掘調査報告書』北方文化博物館（『新津市史　資料編第一巻　原始・古代・中世』1983 に収録されたものを参考とした）
中島栄一　　1983 「第一編　古代・中世の郷土　第一章　郷土のあけぼの」『小須戸町史』 小須戸町役場
中島栄一ほか 1976a『中店遺跡』 田上町教育委員会
中島栄一ほか 1976b『古屋敷遺跡』 田上町教育委員会
ニ　新潟県　　1983 『新潟県史　資料編 4　中世二　文書編Ⅱ』
新潟県　　1984 『新潟県史　資料編 5　中世三　文書編Ⅲ』
新潟県教育委員会　1979 『新潟県遺跡地図　昭和 54 年度』
新潟市　　2007 『新　新潟歴史双書 2　新潟市の遺跡』
新潟市　　2008 『新　新潟歴史双書 3　石油王国・新潟』
新潟市埋蔵文化財センター　2010 『平成 21 年度　新潟市遺跡発掘調査速報会　最新調査成果が語る新潟市の歴史』
新潟市埋蔵文化財センター　2011 『平成 22 年度　新潟市遺跡発掘調査速報会　最新調査成果が語る新潟市の歴史』
新潟市文化財センター　2012 『平成 23 年度　新潟市遺跡発掘調査速報会　最新調査成果が語る新潟市の歴史』
新潟市文化スポーツ部歴史文化課　2016 『新潟市のあゆみ（増補改訂版）』
新潟市文化スポーツ部歴史文化課・株式会社マヌ都市建築研究所　2017 『旧新津油田金津鉱場総合調査報告書』 新潟市文化スポーツ部歴史文化課
ノ　農林水産省農林水産技術会議事務局（監修）　1967 『新版　標準土色帖』 日本色研事業株式会社
ヒ　樋口真己　　2004a「中世　第一章　白河荘の成立と城氏の展開　第二節　城氏一族の展開」『笹神村史　通史編』 笹神村
樋口真己　　2004b「中世　第二章　鎌倉期の白河荘　第一節　鎌倉権力の進出」『笹神村史　通史編』 笹神村
ホ　北陸中世考古学研究会　2001 『第 14 回北陸中世考古学研究会資料集　中世北陸の井戸』 北陸中世考古学研究会
星野信明・石川智紀ほか　1996 『沖ノ羽遺跡Ⅱ（B 地区）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
細井佳浩　　2015 「第Ⅶ章第 1 節　C 水田跡について」『細池寺道上遺跡Ⅴ　第 32・38・41 次調査　西江浦遺跡　第 6 次調査』 新潟市教育委員会
細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
細野高伯・伊比博和ほか　2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ　第 7・9・11・12・14 次調査』 新潟市教育委員会
マ　前山精明　　1996 「縄文時代晩期後葉集落の経済基盤」『遺跡と考古学の保護』 甘粕健先生退官記念論文集刊行会
前山精明　　2000 「第 4 章　吉田町周辺の遺跡　第 2 節　旧石器時代～古墳時代遺跡各説　蒲田遺跡」『吉田町史』資料編 1　考古・古代・中世　吉田町
前山精明　　2002 「青田遺跡の石器群」『川辺の縄文集落』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

前山精明　2007「石器組成と生業」『縄文時代の考古学』5 同成社

前山精明　2010a「第Ⅶ章第 2 節 B4）胎土について」『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』 新潟市教育委員会

前山精明　2010b「第Ⅶ章第 3 節 石器群の位置づけ」『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』 新潟市教育委員会

前山精明　2010c「第Ⅶ章第 6 節 縄文時代の大沢谷内北遺跡」『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』 新潟市教育委員会

前山精明　2010d「大沢谷内遺跡」『平成 21 年度新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』

前山精明　2011「大沢谷内遺跡 6 区下層」『平成 22 年度 新潟市遺跡発掘調査報告会』 新潟市埋蔵文化財センター

前山精明　2012a「第Ⅷ章 総括」『大沢谷内遺跡Ⅲ 第 18 次調査』 新潟市教育委員会

前山精明　2012b「Ⅳ 第 2 章 北陸・中央高地の生活・生業施設の変遷」『シリーズ縄文集落の多様性Ⅲ 生活・生業』雄山閣

前山精明　2013「大沢谷内遺跡出土のアスファルト関連遺物について」『アスファルト研究会資料（第 2 回）』 アスファルト研究会

前山精明　2014「Ⅱ 開発事前審査 2 平成 23・24 年度の事前審査に係る試掘確認調査の概要（3）秋葉遺跡第 9・10 次調査」『新潟市文化財センター年報』第 1 号 新潟市文化財センター

前山精明　2017「新潟市文化財センター企画展 2「新津丘陵の縄文社会を探る －土器に混じる砂粒からの情報－」展示解説パンフレット」 新潟市文化財センター

前山精明　2018「Ⅴ研究活動 －資料紹介・研究ノートなど－ 1 秋葉区大野中遺跡出土の縄文時代遺物 －阿賀野川低地に形成された遺跡の性格をめぐって－」『新潟市文化財センター年報』第 5 号 新潟市文化財センター

前山精明　2019「新潟市文化財センター企画展 3「成熟した狩猟・採集社会 －縄文時代晩期の角田山麓 御井戸遺跡から－」展示解説パンフレット」 新潟市文化財センター

前山精明　2020「御井戸集落の営み」『新潟市遺跡調査速報会 2019 －最新調査成果が語る新潟市の歴史－』 新潟市文化財センター

前山精明・伊比博和ほか　2010『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』 新潟市教育委員会

前山精明ほか　2012『大沢谷内遺跡Ⅲ 第 18 次調査』 新潟市教育委員会

ミ　水澤幸一　2005「越後の中世土器」『新潟考古』第 16 号 新潟県考古学会

溝口敏麿・山名正平　1983「第三編 幕藩社会の崩壊と郷土 第二章 信仰と文化 第一節 寺院と神社」『小須戸町史』小須戸町役場

宮本長二郎　2004a「第Ⅶ章 1 青田遺跡の住居と集落」『青田遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

モ　本井晴信　1983「第二編 幕藩社会の成立と郷土 第三章 小須戸の町立て 第一節 町のなりたち」『小須戸町史』小須戸町役場

ヤ　山上卓夫　1994「第一編 原始･古代･中世の田上郷 第三章 戦乱の時代と護摩堂山 第二節 越後の内乱と護摩堂山」『田上町史 通史編』 田上町

山崎 天・草間 裕ほか　2004『住吉田遺跡・住吉田南遺跡』 五泉市教育員会・国際航業株式会社文化財事業部

山崎 天・鈴木 進ほか　2004『筧下遺跡』 五泉市教育委員会・有限会社山武考古学研究所

山田晃弘　2010「食の季節性 －生業の季節スケジュール－」『縄文時代の考古学』4 同成社

山崎 健　2013「生業研究としての焼骨の可能性 －新潟県域を事例として－」『動物考古学』第 30 号 動物考古学研究会

山下峰司　1995「Ⅲ 土器・陶磁器 4. 灰釉陶器・山茶碗」『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社

山田凜太郎　2019「縄文時代後晩期の魚類利用とその時期差 －仙台湾周辺から三陸沿岸を例として－」『動物考古学』第 36 号 日本動物考古学会

山内清男　1979『日本先史土器の縄紋』 先史考古学会

山本信夫　1995「Ⅲ 土器・陶磁器 11. 貿易陶磁器〔2〕中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社

山本信夫　2000『大宰府条坊跡XV －陶磁器分類編－』 太宰府市教育委員会

ヨ　吉岡康暢　1994『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

吉田達雄　1988「第一編 古代・中世の中之島 第二章 荘園と中之島 第一節 蒲原郡南部の荘保」『中之島村史 上巻』 新潟県中之島町

ワ　渡邊朋和・荒川隆史　1999「第 6 項 晩期」『新潟県の考古学』 古志書院

渡邊朋和・穴澤義功ほか　1998『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 分析・考察編』 新津市教育委員会

渡邊朋和・小田由美子ほか　1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ　居村遺跡Ｅ・Ａ・Ｃ地点、大入遺跡Ａ地点』新津市教育委員会
渡邊朋和・立木宏明ほか　2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
渡邊朋和・立木宏明ほか　2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書－第 11 次・12・13・14 次調査－』 新津市教育委員会
渡邊朋和・山田貴子ほか　2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
渡邊裕之　1998 「新潟県における縄文晩期後半の粗製土器 －鳥屋式土器の理解にむけて－」『新潟考古学談話会会報』第 18 号　新潟考古学談話会

第Ⅵ章　自然科学分析

ア　阿部　永監修　2008 『日本の哺乳類［改訂 2 版］』 東海大学出版会
カ　笠原安夫　1985 『日本雑草図説』 養賢堂
笠原安夫　1988 「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究第 2 巻 生業』 雄山閣　pp.131-139.
金原正明　1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第 10 巻 古代資料研究の方法』 角川書店 pp.248-262.
金原正明　1996 「古代モモの形態と品種」『月刊考古学ジャーナル』No.409　ニューサイエンス社　pp.15 － 19.
金原正明　1999 「寄生虫」『考古学と動物学』 同成社　pp.151-158.
金原正明　2004 「寄生虫卵分析」『環境考古学ハンドブック』 朝倉書店　pp.419-429.
川那部浩哉編　1989 『日本の淡水魚』 明光社
シ　島倉巳三郎　1973 『日本植物の花粉形態』大阪市立自然科学博物館収蔵目録第 5 集　大阪市立自然科学博物館　60p.
ス　杉山真二　2000 「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』 同成社　p.189-213.
杉山真二・藤原宏志　1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－」『考古学と自然科学』第 19 号　日本文化財科学会　pp.69-84.
ナ　中坊徹次編　2013 『日本産魚類検索 全種の同定 第三版Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』 東海大学出版会
中村　純　1967 『花粉分析』 古今書院　pp.82-102.
中村　純　1974 「イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として」『第四紀研究』13（4） 日本第四紀学会　pp.187-193.
中村　純　1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第 10 号　日本文化財科学会　pp.21-30.
中村　純　1980 『日本産花粉の標徴』大阪自然史博物館収蔵目録第 13 集　大阪市立自然史博物館
南木睦彦　1991 「栽培植物」『古墳時代の研究第 4 巻 生産と流通Ⅰ』 雄山閣　pp.165-174.
南木睦彦　1992 「低湿地遺跡の種実」『月刊考古学ジャーナル』no.355　ニューサイエンス社　pp.18-22.
南木睦彦　1993 「葉・果実・種子」『第四紀試料分析法』 東京大学出版会　pp.276-283.
納屋内高史・松井　章　2009 「西郷遺跡出土の動物遺存体」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 200 集 西郷遺跡・大蔵遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団　pp.168-178
ニ　西本豊弘･小林園子　2004 「青田遺跡出土の動物遺体」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集 青田遺跡（関連諸科学･写真図版編）』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 pp.91-96
フ　藤下典之　1982 「菜畑遺跡から出土したメロン仲間Cucumis melo L.とヒョウタン仲間Lagenaria siceraria Standl.の種子について」『菜畑遺跡』 唐津市教育委員会　pp.455-463.
藤下典之　1992 「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡来、伝搬、利用について」『月刊考古学ジャーナル』no.354　ニューサイエンス社　pp.7-13.
藤原宏志　1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考古学と自然科学』第 9 号　日本文化財科学会　pp.15-29.
藤原宏志・杉山真二　1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水 田址の探査－」『考古学と自然科学』第 17 号　日本文化財科学会　pp.73-85.
ホ　本間義治監修　1983 『新潟県陸水動物図鑑』 新潟日報事業社
本間義治・田村栄光・岩田康晴・中村幸弘　1986 「新産地（魚野川水系）の陸封型イトヨの形態」『動物分類学会誌』33　pp.58
マ　松井　章　2012 「大沢谷内遺跡（上・下層）出土の動物遺存体分析」『大沢谷内遺跡Ⅱ 第 7・9・11・12・14 次調査』 新潟県教育委員会　pp.269-271
ヨ　吉崎昌一　1992 「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』no.355　pp.2-14.

別表１　上層遺構計測表

凡　例　１　観察表の記載順は、遺構の種別ごとに5・6区、7区の順でそれぞれ番号順とし、5・6区と7区との間を1行空けた。あわせて分割図版No.・個別図版No.を明記し、索引としての役割をもたせてある。
２　遺構の分類及び項目・切り合い関係等は、本文第Ⅳ章の記述に対応する。
３　規模の（　）内数値は残存部からの復元推定値である。
４　不明の場合 － で示した。

上層

井戸（SE　上層）

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
				種別	番号			上端 長軸	上端 短軸	深度		平面	断面					
5・12	15次	5区	上層	SE	5	5I-7D10・15	中世	1.74	(1.28)	0.90	1.94	楕円形	台形状	レンズ状	SE132を切る。SD2に切られる。	×		
6・10・12	15次	5区	上層	SE	6	5I-8E4・9	中世	1.00	0.86	0.75	1.83	方形	台形状	レンズ状	SD2を切る。	×		
5・12	15次	5区	上層	SE	132	5I-7D10・15、7E6・11	中世	－	0.96	0.78	1.84	方形	弧状	レンズ状	SE5に切られる。	×		
30・33・37	15次	6区	上層	SE	172	6I-8B11・12・16・17	中世	1.85	1.42	0.71	2.24	長方形	箱状	ブロック状		○		
26・30・33・37	15次	6区	上層	SE	177	6I-8B8・9	古代	1.27	0.78	0.99	1.89	方形	V字状	漏斗状		×		
20・37	15次	6区	上層	SE	351	6I-2B1	古代	1.12	(1.08)	0.70	2.30	円形	台形状	上：斜位 下：レンズ状		×		
26・37	15次	6区	上層	SE	380	6I-5B9・14	古代	1.50	1.45	0.76	2.28	不整形	台形状	ブロック状		○		
62・69	17次	7区	上層	SE	121	8I-4J20	中世	1.16	1.14	0.78	2.26	方形	U字状	レンズ状	SD168を切る。	○		
62・69	17次	7区	上層	SE	122	8I-4J15	中世	0.93	0.92	0.78	2.26	円形	箱状	レンズ状	SE126に切られる。	○		
62・69	17次	7区	上層	SE	126	8I-4J14・15	中世	0.99	0.92	0.76	2.27	円形	箱状	レンズ状	SE122、SD215を切る。	○		

土坑（SK　上層）

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
				種別	番号			上端 長軸	上端 短軸	深度		平面	断面					
5・13	15次	5区	上層	SK	1	5I-7E11・16	中世	1.66	1.21	0.59	2.34	方形	階段状	レンズ状		×		
6・10	15次	5区	上層	SK	7	5I-8E10	縄文	0.49	0.32	－	－	楕円形	－	－		×		
6・13	15次	5区	上層	SK	45	5I-9G16・17	縄文	0.90	0.53	0.06	2.56	楕円形	弧状	－	SD2に切られる。	×		
8	15次	5区	上層	SK	50	5I-10C6・7・11・12	縄文	(2.28)	(1.89)	－	－	方形	－	－		○	1・2	
10・13	15次	5区	上層	SK	54	6I-1F7	古代	(0.60)	(0.36)	0.14	2.56	楕円形	弧状	レンズ状		×		
35・38	15次	6区	上層	SK	55	6I-8D23	古代	0.60	0.50	0.10	2.55	円形	台形状	水平	SX405を切る。	○		
35・38	15次	6区	上層	SK	56	6I-8D18・23	縄文	0.80	0.76	0.06	2.61	円形	－	－	SK108、SX405に切られる。	○	36～38	
33・35・38	15次	6区	上層	SK	57	6I-8D22、9D2	古代	0.82	0.73	0.18	2.51	円形	弧状	レンズ状	SX405を切る。	×		
8・13	15次	5区	上層	SK	61	5I-10C7・8	古代	1.13	1.08	0.11	2.69	方形	弧状	レンズ状		○	3	
33・35・38	15次	6区	上層	SK	64	6I-8D17・22	古代	1.37	0.67	0.16	2.50	長方形	台形状	斜位	SX405を切る。	○		
8・13	15次	5区	上層	SK	70	5I-9C24	古代	1.27	0.80	0.18	2.65	楕円形	弧状	レンズ状		○	4	
8・13	15次	5区	上層	SK	71	5I-9C24・25、10C4・5	古代	1.32	0.72	0.23	2.63	楕円形	弧状	レンズ状		○		
8・13	15次	5区	上層	SK	72	5I-9C24	古代	0.70	0.34	0.12	2.71	楕円形	弧状	レンズ状		×		
9・10・13	15次	5区	上層	SK	80	6I-1D25	古代	1.48	(0.94)	0.13	2.74	楕円形	台形状	レンズ状		×		
9・14	15次	5区	上層	SK	85	6I-2E2・3・7・8	古代	1.30	0.72	0.08	2.71	楕円形	弧状	単層		×		
33・35	15次	6区	上層	SK	88	6I-9D2・7	縄文か	0.36	0.35	－	－	円形	－	－		○	39	
5・8・14	15次	5区	上層	SK	89	5I-9B15、9C11	－	1.32	1.14	0.36	2.48	方形	弧状	レンズ状		○		
9・10・14	15次	5区	上層	SK	94	6I-1E1	古代	0.76	0.66	0.14	2.65	方形	弧状	斜位		×		
9・10・14	15次	5区	上層	SK	97	5I-10D24・25	古代	1.13	0.76	0.16	2.61	楕円形	弧状	－	SD100を切る。	×		
9・10・14	15次	5区	上層	SK	98	5I-10D25、6I-1D5	古代	1.49	0.64	0.19	2.61	不整形	台形状	レンズ状		×		
35・38	15次	6区	上層	SK	108	6I-8D17・18・23	古代	1.62	1.24	0.12	2.58	楕円形	台形状	レンズ状	SK56、SX405を切る。	○	37	
8～10・14	15次	5区	上層	SK	111	6I-1D19・24	古代	0.72	0.68	0.19	2.64	方形	弧状	レンズ状		×		
6・9・10・14	15次	5区	上層	SK	115	5I-10E3・7・8	古代	(1.58)	1.05	0.34	2.40	不整形	弧状	レンズ状	SD78・95に切られる。	○	5	
6・9・10・14	15次	5区	上層	SK	116	5I-10E3・8	古代	0.72	(0.56)	0.27	2.46	楕円形	弧状	レンズ状		○	5	
35・36・38	15次	6区	上層	SK	148	7I-1E5	古代	0.61	0.54	0.17	2.92	円形	弧状	レンズ状		×		
26・30・33・38	15次	6区	上層	SK	155	6I-7A20・25	中世	0.79	0.78	0.14	2.91	方形	台形状	単層		×		
26・30・33・38	15次	6区	上層	SK	156	6I-7A24・25	中世	0.68	(0.60)	0.06	2.97	円形	弧状	単層		×		
35・38	15次	6区	上層	SK	158	6I-10D9・14	古代	0.80	0.75	0.30	2.55	楕円形	階段状	水平	SX405を切る。	×		
35・38	15次	6区	上層	SK	162	6I-9D7・8	中世	0.90	0.82	0.08	2.98	楕円形	弧状	レンズ状	SX405、SD154・168を切る。	×		
30・33・39	15次	6区	上層	SK	193	6I-8B6	中世	0.92	0.90	0.26	2.73	楕円形	階段状	単層	SD171を切る。	×		
29・30・39	15次	6区	上層	SK	197	6H-6J18・19・24	中世	0.53	0.50	0.13	2.98	円形	台形状	単層		×		
29・30・39	15次	6区	上層	SK	198	6H-6J18	中世	0.48	0.47	0.16	3.00	円形	弧状	レンズ状		×		

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
				種別	番号			上端 長軸	上端 短軸	深度		平面	断面					
35・39	15次	6区	上層	SK	199	6I-9E19・20	古代	1.04	0.98	0.44	2.60	楕円形	階段状	水平・レンズ		○	40	
30・39	15次	6区	上層	SK	200	6I-7A12・17	中世	0.70	0.65	0.17	2.91	円形	台形状	単層		×		
25・29・39	15次	6区	上層	SK	213	6H-6J1・2・6・7	古代	1.00	0.67	0.14	3.05	楕円形	弧状	単層		×		
35・39	15次	6区	上層	SK	215	6I-9E24・25	古代	0.48	0.42	0.14	2.47	円形	弧状	単層		×		
26・30・39	15次	6区	上層	SK	216	6I-7A3・4	中世	0.62	0.56	0.09	3.02	円形	弧状	単層		×		
30・39	15次	6区	上層	SK	220	6I-6A8・9	中世	1.10	0.98	0.23	2.90	楕円形	台形状	斜位	SK246を切る。	×		
29・30・40	15次	6区	上層	SK	222	6I-6A16	中世	0.67	0.65	0.13	3.05	円形	弧状	斜位		×		
26・33・40	15次	6区	上層	SK	223	6I-7B5・10、7C1・6	中世	0.75	0.74	0.12	3.00	不整形	階段状	水平	SX405を切る。	○		
25・29・30・40	15次	6区	上層	SK	225	6H-5J25、6J5、6I-5A21、6A1	古代	0.64	0.56	0.22	2.95	円形	台形状	水平		×		
30・40	15次	6区	上層	SK	227	6I-6A23・24、7A3・4	中世	0.68	0.58	0.09	3.04	楕円形	弧状	単層		×		
26・33・40	15次	6区	上層	SK	228	6I-6B25、6C21、7B5、7C1	中世	1.68	0.94	0.08	0.03	不整形	弧状	水平	SK229、SX405を切る。	×		
26・30・33・40	15次	6区	上層	SK	229	6I-6B25、7B5	中世	1.60	0.80	0.10	3.01	楕円形	弧状	斜位	SX405、P230を切る。SK228に切られる。	×		
25・29・40	15次	6区	上層	SK	231	6H-5J21	古代	1.15	0.86	0.34	2.87	楕円形	弧状	ブロック状		×		
26・40	15次	6区	上層	SK	237	6I-6B15・20、6C11・16	中世	1.60	1.47	0.49	2.56	不整形	箱状	ブロック状	SX405、SD236を切る。	×		
25・29・30・41	15次	6区	上層	SK	238	6H-5J17・18	中世	0.87	0.80	0.16	3.03	方形	台形状	斜位	SD241・260を切る。	○		
30・41	15次	6区	上層	SK	246	6I-6A8・9	古代	1.46	(1.18)	0.18	2.96	楕円形	弧状	斜位	SK250を切る。SK220に切られる。	×		
30・41	15次	6区	上層	SK	250	6I-6A3・8	古代	1.05	0.85	0.15	3.00	楕円形	弧状	レンズ状	P249を切る。SK246に切られる。	×		
25・29・41	15次	6区	上層	SK	258	6H-5J6	中世	0.67	0.60	0.11	3.08	円形	台形状	単層	SX266を切る。	×		
25・41	15次	6区	上層	SK	269	6H-4I5・10	中世	0.47	0.40	0.09	3.10	円形	弧状	単層		×		
26・30・41	15次	6区	上層	SK	277	6I-6A10・15	中世	1.25	(1.23)	0.04	3.09	方形	弧状	単層	SD263・562を切る。	×		
29・30・41	15次	6区	上層	SK	279	6H-6J20・24・25	中世	0.63	0.47	0.13	3.01	楕円形	台形状	単層		×		
30・42	15次	6区	上層	SK	280	6I-6A13・18	中世	1.60	0.95	0.07	3.09	楕円形	弧状	水平		×		
25・42	15次	6区	上層	SK	281	6H-3J19	中世	0.81	0.63	0.10	2.91	方形	台形状	単層		×		
26・30・42	15次	6区	上層	SK	284	6I-5B21・22	古代	0.85	0.54	0.11	2.95	楕円形	台形状	レンズ状		×		
29・30・42	15次	6区	上層	SK	286	6H-6J15、6I-6A11	中世	0.80	0.64	0.14	3.03	方形	台形状	単層		×		
29・30・42	15次	6区	上層	SK	287	6I-6A6・7	中世	0.94	0.60	0.08	3.10	楕円形	台形状	単層		×		
20・42	15次	6区	上層	SK	299	6I-3B12・13	中世	1.24	1.10	0.17	2.98	方形	弧状	単層		×		
20・25・42	15次	6区	上層	SK	300	6I-3A18・23	中世	0.92	0.80	0.14	2.88	円形	弧状	単層	SD234を切る。	×		
20・25・42	15次	6区	上層	SK	303	6I-2A7・12	古代	1.46	0.85	0.30	2.69	長方形	台形状	レンズ状	SX298に切られる。	×		
20・25・42	15次	6区	上層	SK	321	6I-2A11	中世	(0.74)	0.54	0.11	2.88	楕円形	弧状	単層		×		
25・30・43・44	15次	6区	上層	SK	324	6I-5A23、6A3	古代	1.60	(1.26)	0.63	2.52	楕円形	台形状	ブロック状	SK369を切る。SX323に切られる。	×		
26・30・43	15次	6区	上層	SK	330	6I-5B24・25	中世	0.96	0.78	0.06	2.99	不整形	弧状	単層		×		
20・43	15次	6区	上層	SK	334	6I-1B17・18・22・23	古代	1.73	1.38	0.46	2.50	円形	台形状	斜位		×		
20・25・43	15次	6区	上層	SK	358	6I-2A17・18・22・23	古代	1.20	0.80	0.27	2.72	楕円形	台形状	レンズ状		×		
25・26・43	15次	6区	上層	SK	367	6I-5A9	古代	0.83	0.50	0.14	2.92	楕円形	台形状	レンズ状		×		
25・30・44	15次	6区	上層	SK	369	6I-5A23	古代	(0.67)	(0.54)	0.25	2.89	方形	台形状	水平	SK324に切られる。	×		
20・44	15次	6区	上層	SK	381	6I-1B18	古代	(0.52)	0.50	0.09	2.86	円形	弧状	単層		×		
20・44	15次	6区	上層	SK	393	6I-4B5	中世	0.89	0.76	0.27	2.70	楕円形	台形状	レンズ状	SX405、SD411を切る。	×		
20・44	15次	6区	上層	SK	398	6I-4B3・8	中世	0.64	(0.50)	0.14	2.81	楕円形	階段状	水平	SX405を切る。P399に切られる。	×		
20・21・44	15次	6区	上層	SK	404	6I-3B10・15、3C6・11	古代	0.72	0.60	0.38	2.56	楕円形	台形状	レンズ状		×		
20・21・44	15次	6区	上層	SK	408	6I-3B15・20、3C11・16	古代	0.48	0.46	0.10	2.82	円形	弧状	単層		×		
21・44	15次	6区	上層	SK	421	6I-2D14・19	中世	0.78	0.72	0.53	2.38	円形	階段状	ブロック状		×		
20・44	15次	6区	上層	SK	432	6I-4B14	古代	0.72	0.66	0.08	2.91	円形	弧状	単層		×		
35・44	15次	6区	上層	SK	460	6I-9D25、10D5	古代	0.92	0.86	0.26	2.65	楕円形	階段状	レンズ状	SX405を切る。	×		
21・44	15次	6区	上層	SK	594	6I-1C24、2C4	古代	0.86	0.74	0.18	2.64	円形	弧状	単層		×		
20・44	15次	6区	上層	SK	602	6I-1B1・6	縄文か	0.40	0.34	0.11	2.51	円形	弧状	単層	SD354・400に切られる。	×		
52・70	17次	7区	上層	SK	36	6I-9A23、10A3	中世	1.13	0.90	0.24	2.96	楕円形	台形状	レンズ状	SX67、SD27・75を切る。	×		
52・70	17次	7区	上層	SK	54	6H-8J14・19	中世	0.80	(0.52)	0.07	3.21	楕円形	弧状	単層	SD44に切られる。	×		
52・70	17次	7区	上層	SK	66	6I-8A22・23、9A2・3	古代	(3.33)	(1.79)	0.22	2.93	楕円形	弧状	レンズ状	SX50、SD63に切られる。	○		
66	17次	7区	上層	SK	116	8I-7I5	−	0.73	0.38	−	−	楕円形	−	−		×		
62・71	17次	7区	上層	SK	123	8I-3J24・25	中世	0.85	0.79	0.26	2.80	円形	台形状	レンズ状	SX222を切る。	○		
66・68	17次	7区	上層	SK	150	8I-8J10・15	中世	0.32	0.32	−	−	円形	−	−	SD111を切る。	×		
66・68・71	17次	7区	上層	SK	166	8I-7J21・22	中世	0.61	(0.39)	0.10	3.27	楕円形	弧状	単層	SD100に切られる。	×		
62・66・71	17次	7区	上層	SK	193	8I-5I24・25、6I4・5	古代	(0.82)	(0.66)	0.36	2.83	円形	弧状	斜位		×		
62	17次	7区	上層	SK	194	8I-5I9・14	中世	(0.56)	(0.44)	−	−	円形	−	−	SD168・204を切る。SK235に切られる。	×		
62・71	17次	7区	上層	SK	200	8I-5I4	古代	0.34	(0.28)	0.18	2.90	円形	弧状	レンズ状		×		
62・71	17次	7区	上層	SK	207	8I-3J25	古代	0.89	0.77	0.15	2.91	円形	台形状	レンズ状	SX222を切る。	×		
62・71	17次	7区	上層	SK	212	8I-4J21	−	0.44	(0.30)	0.17	2.82	円形	台形状	−		×		
62・63	17次	7区	上層	SK	235	8I-5I9・14	中世	0.45	0.35	0.23	2.85	楕円形	箱状	−	SK194、SD168を切る。	×		

性格不明遺跡（SX　上層）

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構 種別	遺構 番号	グリッド	時代	規模（m） 上端 長軸	規模（m） 上端 短軸	規模（m） 深度	底面標高（m）	形態 平面	形態 断面	堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
6・10・15	15次	5区	上層	SX	13	5I-10F5・10、10G1・6	古墳	1.76	1.10	0.21	2.52	不整形	弧状	−	SD4に切られる。	○	6	
6・10・11	15次	5区	上層	SX	31	5I-9E25、9F16・17・21～24、10E5・10・13～15・18～20・24・25、10F1・2、10G6・11、6I-1E3～5・8～10・13～15・19、1F1～4・6～8・11・12	古代	−	−	0.24	2.52	不整形	弧状	レンズ状	SX49に切られる。	×		
6・10・15	15次	5区	上層	SX	32	5I-9E4・5・9・10・15、9F6・11・12	古代	−	1.10	0.08	2.63	不整形	弧状	単層	SD4に切られる。	×		
6・7・10・11	15次	5区	上層	SX	36	5I-8E15・20・25、8F16・21・22、9F1～3・7～9・13	中世	1.13	−	0.14	2.45	不整形	弧状	単層	SD15を切る。SD2・4に切られる。	×		
5	15次	5区	上層	SX	44	5I-7C23～25、8C3～5・8～10・13～15・19・20、8D1・2・6・7・11・12・16	古代	−	6.82	0.38	2.41	不整形	弧状	水平		×		
5・15	15次	5区	上層	SX	46	5I-8D22・23、9D2・3	古代	2.40	2.20	0.31	2.47	方形	台形状	レンズ状		○	7	
6・10・15	15次	5区	上層	SX	49	5I-10E20・25	中世	0.69	0.60	0.35	2.31	方形	弧状	レンズ状	SX31を切る。	×		
5・10・16	15次	5区	上層	SX	73	5I-9D13～15・19	古代	2.97	1.93	0.26	2.51	楕円形	弧状	レンズ状	SD95に切られる。	○	8	
5・16	15次	5区	上層	SX	77	5I-9B5・10、9C1・6	古代	−	2.15	0.31	2.63	長方形	弧状	レンズ状	SD96に切られる。	○	9	
9・10・15	15次	5区	上層	SX	82	6I-1E21・22、2E1・2	古代	1.29	0.92	0.09	2.74	不整形	弧状	斜位	SX83に切られる。	×		
9・10・15	15次	5区	上層	SX	83	6I-1E21、2E1	古代	1.38	(0.86)	0.22	2.64	不整形	弧状	ブロック状	SX82を切る。	×		
8・17	15次	5区	上層	SX	86	5I-9B9・10・13～15・17～20・22～24、10B2～4	古代	(9.15)	−	0.37	2.52	楕円形	弧状	レンズ状	SD60・90に切られる。	○	3・10～12・30～32	
8・16	15次	5区	上層	SX	91	5I-10C8・9・13・14	古代	2.50	1.87	0.19	2.65	楕円形	弧状	レンズ状		○	13	
8・9・16	15次	5区	上層	SX	92	5I-10D13・14・18	古代	−	(0.63)	0.28	2.53	不整形	台形状	ブロック状		○		
9～11	15次	5区	上層	SX	112	5I-10D9・10・14・15・20、10E6・11・12・16～18・22～24、6I-1E3	古代	−	2.40	0.20	2.55	不整形	弧状	レンズ状		○		
8・18	15次	5区	上層	SX	114	5I-10B9・10・14・15・19・20、10C6・11・16	縄文	−	4.06	0.37	2.43	楕円形	弧状	レンズ状	P123・125・126を切る。SD90に切られる。	○	14～17	
8・19	15次	5区	上層	SX	117	6I-1C5・10・15、1D1・6	古代	(4.06)	1.67	0.10	2.71	不整形	弧状	単層		×		
8・19	15次	5区	上層	SX	136	5I-10C22・23、6I-1C2・3	古代	2.32	1.92	0.32	2.44	円形	弧状	レンズ状		○	18	
6・10・19	15次	5区	上層	SX	137	5I-8E15、8F11	古代	(0.56)	0.47	0.19	2.26	円形	弧状	レンズ状		×		
8・19	15次	5区	上層	SX	138	5I-9C20・25、9D16・21	古代	2.81	1.60	0.42	2.39	楕円形	V字状	斜位	SD96に切られる。	○		
5・8・19	15次	5区	上層	SX	141	5I-9D12・17・18・22	−	(2.20)	(1.60)	0.58	2.16	楕円形	弧状	−	SD95に切られる。	×		
9～11	15次	5区	上層	SX	143	6I-1D14・15	古代	1.26	(0.65)	0.10	2.79	楕円形	弧状	レンズ状	SD142を切る。	×		
35・45	15次	6区	上層	SX	150	6I-10E19・20・24・25、10F16・21	古代	−	1.76	0.17	2.75	不整形	弧状	レンズ状	SX151、SD154を切る。	×		
35・36・45	15次	6区	上層	SX	151	6I-10F11・16	古代	−	0.70	0.19	2.65	不整形	弧状	単層	SX150に切られる。	×		
35・36・45	15次	6区	上層	SX	157	6I-9E20・25、9F16・21	古代	−	1.82	0.62	2.39	円形	台形状	レンズ状		○	40	
29・30・45	15次	6区	上層	SX	163	6H-8J4・5、6I-8A1	古代	4.44	1.38	0.69	2.41	不整形	漏斗状	ブロック状		×		
33・46	15次	6区	上層	SX	166	6I-9C11～13・16・17	古代	−	1.98	0.24	2.74	楕円形	弧状	レンズ状	SD167を切る。	×		
29・46	15次	6区	上層	SX	187	6H-6I25、6J21、7I5、7J1	中世	2.36	1.86	0.25	2.88	長方形	台形状	レンズ状	SD190を切る。	×		
26・30・39	15次	6区	上層	SX	214	6I-7A4・9	古代	1.52	0.94	0.18	2.93	不整形	台形状	単層		×		
29・30・46	15次	6区	上層	SX	224	6H-6J14・15・19・20	古代	2.18	1.44	0.40	2.78	不整形	台形状	レンズ状		×		
25・29・46	15次	6区	上層	SX	239	6H-5J8・9・13・14	中世	2.09	1.78	0.12	3.04	不整形	弧状	単層	SD240・241を切る。	×		
29・46	15次	6区	上層	SX	251	6H-6I20	中世	0.86	(0.62)	0.19	2.98	楕円形	台形状	水平	SD190を切る。	○		
25・29・41	15次	6区	上層	SX	266	6H-5J1・6	中世	1.74	1.28	0.08	3.13	楕円形	台形状	単層	SK258に切られる。	×		
25・47	15次	6区	上層	SX	270	6H-3I25、3J16・21、4I9・10、4J1・2・6・7	中世	−	−	0.17	3.05	不整形	弧状	単層		×		
29・30・47	15次	6区	上層	SX	275	6H-6J3・4・8・9	中世	(2.26)	0.69	0.14	3.04	長方形	弧状	単層	SD260を切る。	×		
20・25・48	15次	6区	上層	SX	294	6I-3A3・8	中世	1.98	1.40	0.44	2.56	長方形	台形状	ブロック状		×		
20・48	15次	6区	上層	SX	298	6I-2A7・8・12・13	中世	2.04	1.32	0.54	2.47	長方形	台形状	ブロック状	SK303を切る。	○	41・42	
20・48	15次	6区	上層	SX	308	6I-1A24、2A4	中世	1.60	(0.84)	0.07	2.93	長方形	弧状	単層		○		
20・48	15次	6区	上層	SX	309	6I-2A4・5・9・10	中世	1.97	1.20	0.07	2.93	不整形	弧状	単層		×		
26・30・48	15次	6区	上層	SX	315	6I-5B16	古代	1.56	0.74	0.20	2.85	楕円形	階段状	レンズ状	SD236に切られる。	×		
30・43	15次	6区	上層	SX	323	6I-5A22・23、6A2・3	中世	2.52	0.92	0.37	2.78	楕円形	台形状	ブロック状	SK324、SX325を切る。	×		
25・30・43・49	15次	6区	上層	SX	325	6I-5A22・23、6A2・3・7	古代	(2.93)	1.12	0.49	2.67	楕円形	V字状	水平	SX323に切られる。	×		
20・49	15次	6区	上層	SX	329	6I-3B8・9・13・14・18・19	中世	2.78	1.35	0.52	2.44	長方形	台形状	レンズ状		×		
26・30・49	15次	6区	上層	SX	349	6I-6B9・10	古代	1.70	0.82	0.18	2.89	不整形	弧状	レンズ状		×		
21・23	15次	6区	上層	SX	357	6I-1C22・23、2C2～5・7～10・12～15、2D1・6～8・11～14	古代	−	−	0.24	2.75	不整形	弧状	水平		×		
20・21・23・24・26・28・30・33～35	15次	6区	上層	SX	405	6I-2C22～25、2D21～23、3B21・22・25、3C1～25、3D1～3・6～20・23～25、3E11・16、4B1～5・7～10・14・15・19・20、4C1～4・6～9・11～25、4D3～5・8・9・11・12・13・16～18・21・22、5B20・25、5C1～25、5D1・2・6・11、6B5・10・14・15・18～20・23～25、6C1～4・6～8・11～13・16・17・21・22、7A20、7B3～5・7～19・23～25、7C1・6・11・16・17・21・22・23、8B5・20、8C1～4・6～25、8D11・12・16～19・21～25、9C2～5・8～10・15、9D1～25、9E1～3・6～9・11～14・16～19・21～23、10D2～5・8～10・14・15、10E1～3・6・7・11・12・16	古代	−	−	0.60	2.36	不整形	弧状	レンズ状	SK56、SX442を切る。SK55・57・64・108・158・162・223・228・228・229・237・393・398・460、SD146・153・154・168・171・236、P230・399・547・548・549・550・551・554・575・585に切られる。	×		
21・49	15次	6区	上層	SX	415	6I-2E21～23、3E1～3・6・7	古代	3.62	2.18	0.28	2.75	不整形	弧状	単層		×		
26・50	15次	6区	上層	SX	434	6I-5B4・5・9・10	古代	−	0.65	0.12	2.92	不整形	弧状	レンズ状		×		
33・35・50	15次	6区	上層	SX	442	6I-8D11・12・16・17	−	−	1.75	0.38	2.47	楕円形	台形状	レンズ状	SX405に切られる。	○	65～69	
33・50	15次	6区	上層	SX	518	6I-9C17・18・22・23	古代	−	0.58	0.21	2.84	不整形	弧状	レンズ状		×		
25・29・50	15次	6区	上層	SX	556	6H-5I7・8・12・13	古代	−	0.42	0.15	3.05	不整形	弧状	単層	SD190に切られる。	×		
25・29・50	15次	6区	上層	SX	592	6H-5I20	古代	(0.60)	(0.52)	0.28	2.93	円形	U字状	水平		×		

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面					
				種別	番号			長軸	短軸									
20・25	15次	6区	上層	SX	599	6I-3A9	−	0.30	0.26	0.19	2.48	円形	V字状	レンズ状		×		
60・61	17次	7区	上層	SX	1	8I-2J14・15・19・20・25、3J5、8J-3A1・6	古代	−	−	0.08	2.94	不整形	弧状	単層		×		
60	17次	7区	上層	SX	3	8I-1J7～9・12～14・16～24、2J1～4	−	−	−	0.07	2.90	不整形	弧状	単層		○		
60・61	17次	7区	上層	SX	4	8I-2J4・5・9・10・14・15、8J-2A6・7・11・12・16	古代	−	−	0.07	2.87	不整形	弧状	単層		×		
60・61	17次	7区	上層	SX	8	7I-10J7・12・17	古代	−	−	0.14	2.81	不整形	弧状	単層		×		
60・72	17次	7区	上層	SX	9	7I-10J9・14	古代	1.50	0.79	0.11	2.83	楕円形	弧状	単層		×		
60・72	17次	7区	上層	SX	10	7J-10A11・12	古代	0.97	0.71	0.23	2.65	不整形	台形状	レンズ状		×		
60・61	17次	7区	上層	SX	11	7I-9J17・22～24、10J2～9	古代	−	−	0.19	2.79	不整形	弧状	単層		×		
60・61	17次	7区	上層	SX	12	7I-9I25、9J21、10J1・2・6・7	古代	−	−	0.05	2.87	不整形	弧状	単層		×		
60	17次	7区	上層	SX	13	7I-9I20・25、9J16・17・21・22	古代	−	−	0.08	2.86	不整形	弧状	単層		×		
60	17次	7区	上層	SX	14	7I-9J18～20・23～25、7J-9A21、10A1	古代	−	−	0.09	2.86	不整形	弧状	単層		×		
59	17次	7区	上層	SX	15	7I-8J25、9J3～5・8・9、7J-8A21・22、9A1・2	古代	−	−	0.16	2.77	不整形	弧状	レンズ状		×		
59・61	17次	7区	上層	SX	16	7I-8I5・10・20・25、8J1～3・6～9・11～13・16～18・21～23、9I5・10、9J1～3・6～8	古代	−	−	0.15	2.86	不整形	弧状	単層		×		
59	17次	7区	上層	SX	17	7I-9J7～9・12・13・17	−	−	−	0.20	2.72	不整形	弧状	レンズ状		×		
59・61	17次	7区	上層	SX	18	7I-5I23・24、6I2～5・7～10・13～15・20、6J3・6～9・11～13・16～18・21～24、7I4・5・9・10・14・15・19・20・24・25、7J1～13・16・17・21・22、8I4・5・9、8J1	古代	−	−	0.14	2.84	不整形	弧状	レンズ状		○		
59・72	17次	7区	上層	SX	19	7I-6I25、7I5	古代	(2.13)	1.20	0.68	2.10	不整形	漏斗状	レンズ状		×		
56	17次	7区	上層	SX	20	7I-1E8・9・13～15・18～20・23～25、2E3～5・8～10・13～15	中世	−	5.71	0.26	2.64	不整形	弧状	レンズ状		○		
56・57・72	17次	7区	上層	SX	22	7I-2F17・18・22・23	古代	2.31	1.53	0.65	2.32	楕円形	階段状	レンズ状		×		
56・72	17次	7区	上層	SX	23	7I-1E1・2・6・7	中世	1.88	1.61	0.17	2.81	不整形	弧状	レンズ状		×		
55	17次	7区	上層	SX	24	6I-10C7・8・11～13・16～20・22～25、7I-1C2～4・9	中世	−	4.93	0.11	2.89	不整形	弧状	単層		○		
59	17次	7区	上層	SX	26	7I-7J10・15、7J-7A6・11	−	−	2.68	−	−	不整形	−	−		×		
52	17次	7区	上層	SX	29	6I-10A2・7	中世	−	−	0.21	3.04	不整形	弧状	−	SD44に切られる。	○		
55・72	17次	7区	上層	SX	35	6I-9A15・20、9B16・17・21・22	中世	(4.99)	(1.23)	0.06	3.04	長方形	弧状	単層	SD146を切る。	×		
52・73	17次	7区	上層	SX	42	6I-9A23	中世	(1.93)	0.89	0.14	3.04	不整形	弧状	レンズ状	SX67、SD27を切る。	○		
52・55・73	17次	7区	上層	SX	43	6I-9A13・14	中世	(1.84)	(1.34)	0.16	2.94	不整形	弧状	レンズ状		×		
52・73	17次	7区	上層	SX	45	6I-9A21・22	中世	0.71	0.27	0.11	3.13	楕円形	U字状	斜位	SX65を切る。	×		
52・74	17次	7区	上層	SX	48	6H-9J5・10・15、6I-9A1・2・6・7・11・12・16・17	古代	(6.40)	(3.62)	0.24	2.98	不整形	弧状	レンズ状	SX67を切る。SD27・38に切られる。	○	145	
52・73	17次	7区	上層	SX	50	6H-8J15・20・25、6I-8A11・12・16・17・21・22、9A1・2	中世	−	3.42	0.17	3.31	不整形	弧状	レンズ状	SK66、SD27を切る。	○		
52・54	17次	7区	上層	SX	51	6H-7I19・20・24・25、7J21・22、8I4・5・10・15、8J1・2・6・11・16・17・21・22・23、9J2・3・7	中世	−	−	0.08	3.30	不整形	弧状	単層	SD46を切る。P52に切られる。	○		
52・70	17次	7区	上層	SX	53	6H-8J18	中世	0.54	(0.28)	0.04	3.25	楕円形	弧状	単層	SD49に切られる。	×		
52・75	17次	7区	上層	SX	55	6H-8J14・15・19・20・24・25	中世	3.02	1.18	0.09	3.20	楕円形	弧状	単層	SD38に切られる。	×		
52・76	17次	7区	上層	SX	56	6H-8J25	中世	0.69	0.62	0.05	3.20	円形	弧状	単層	SD38を切る。	×		
55・75	17次	7区	上層	SX	57	6I-9B15・19・20・25、9C16・21、10B5、10C1	中世	−	2.60	0.05	3.01	不整形	弧状	水平		×		
52・55・76	17次	7区	上層	SX	59	6I-9B1	中世	1.10	0.50	0.04	3.02	楕円形	弧状	単層	P58を切る。	×		
52・76	17次	7区	上層	SX	61	6I-8A23	中世	(0.60)	(0.54)	0.10	3.06	円形	弧状	単層	SD63を切る。	×		
52	17次	7区	上層	SX	65	6I-9A16・17・21・22	古代	(1.84)	(1.58)	0.20	3.01	楕円形	弧状	レンズ状	SX45、SD27に切られる。	×		
52・54・55	17次	7区	上層	SX	67	6I-9A7・8・12・13・17～19・22～25、10A3～5・10、10B1・6	古代	−	2.80	0.13	2.94	不整形	弧状	レンズ状	SK36、SX42・48、SD27・63・146に切られる。	×	146	
68・76	17次	7区	上層	SX	81	8J-9A16・17・21・22	中世	1.60	1.05	0.04	3.34	不整形	弧状	単層	SD136に切られる。	○		
66・68・76	17次	7区	上層	SX	90	8J-8A21	中世	−	1.00	0.16	3.22	楕円形	弧状	レンズ状	SD86に切られる。	○	73	
66・68・76	17次	7区	上層	SX	99	8I-8J9・14	中世	1.70	0.52	0.03	3.18	不整形	弧状	単層		×		
66・68・77	17次	7区	上層	SX	101	8I-8J11～13	中世	−	0.60	0.53	2.84	楕円形	弧状	レンズ状		○		
62・77	17次	7区	上層	SX	124	8I-4J2・3	中世	0.62	0.59	0.11	2.94	円形	弧状	ブロック状		○	85	
66・68	17次	7区	上層	SX	127	8J-9A11	中世	−	0.60	−	−	楕円形	−	−		○		
66・68	17次	7区	上層	SX	129	8J-9A6・11	中世	−	0.50	−	−	円形	−	−		○		
66・68・76	17次	7区	上層	SX	130	8I-9J20・25、8J-9A16・21	中世	0.73	0.61	0.14	3.22	楕円形	台形状	単層	SD136に切られる。	○		
66・68	17次	7区	上層	SX	174	8I-8J18・19	中世	(0.45)	0.30	0.34	3.02	円形	弧状	−	SD86を切る。	○	86	
62・65・77	17次	7区	上層	SX	176	8I-5J17・22・23	中世	1.20	0.74	0.24	2.86	不整形	台形状	斜位	SX189を切る。	○	148	
62・77	17次	7区	上層	SX	179	8J-5J23・24、6J3・4	古代	0.86	0.74	0.07	3.05	円形	弧状	単層		×		
66	17次	7区	上層	SX	181	8I-7J4・5・9	古代	−	0.89	−	−	楕円形	−	−	SD182に切られる。	○		
62・65・77	17次	7区	上層	SX	189	8I-5J7・11～13・16～18	中世	4.34	2.58	0.38	2.74	不整形	弧状	水平	SX176に切られる。	○	102・103	
62・77	17次	7区	上層	SX	195	8I-4J11	古代	−	0.67	0.08	3.08	不整形	台形状	単層	SD180に切られる。	×		
62	17次	7区	上層	SX	198	8I-3J21・22、4J1・2	中世	1.45	1.08	0.18	2.92	長方形	台形状	−		○	106	
62	17次	7区	上層	SX	222	8I-3J13・14・18～20・24・25、4J5・10、8J-3A21、4A1・6	古代	−	−	−	−	不整形	−	−	SK123・207、SD2に切られる。	×		
66・68	17次	7区	上層	SX	233	8J-9A11・12	古代	−	(0.30)	−	−	方形	−	−	SD84・136に切られる。	×		
66	17次	7区	上層	SX	234	8I-5I24、6I4・5・10、6J6・11・12・17・18・22・23、7J2～4・8・9・14・19・20・25、8J5	−	−	−	0.10	3.20	不整形	弧状	レンズ状	SD111・118・182に切られる。	○	107	
55	17次	7区	上層	SX	518	6I-9C17・21・22	−	−	0.53	−	−	−	−	−		×		
62・65	17次	7区	上層	SX	522	8I-3I15・20・25、3J11・16・17・21～23、4I-5、4J1・2	古代	−	−	−	−	不整形	弧状	単層		×		

溝（SD　上層）

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面					
				種別	番号			長軸	短軸									
5・6・12	15次	5区	上層	SD	2	5I-7D4・9・10・14・15・20、7E16・17・21～23、8E2～4・8・9・14・15・20、8F11・16・17・21～23、9F2～4・9・10・15、9G11・12・16～18・22	中世	－	1.10	0.40	2.59	－	台形状	レンズ状	SE5、SK45、SX36、SD4・15を切る。SE6、SD3に切られる。	×		
6	15次	5区	上層	SD	3	5I-7E22～24、8E3・4	中世	4.05	0.52	0.13	2.62	－	弧状	レンズ状	SD2を切る。	×		
5～7・10	15次	5区	上層	SD	4	5I-6D21、7C10、7D1～3・6～9・12～15・18～20・24・25、7E16・21、8D5・10、8E1・2・6～8・11～14・17～20・23～25、8F21、9E4・5・10、9F1・2・6～8・11～14・17～20・24・25、9G16・21・22、10F5、10G1・2	中世	－	1.50	0.56	2.13	－	台形状	レンズ状	SX13・32・36、SD15を切る。SD2に切られる。	○	19～21	
5・6・10	15次	5区	上層	SD	8	5I-8D12・13・17～19・24・25、8E21、9D4・5・10、9E1・6～8・11～14・17～19・23～25、10E4・5	古代	－	3.35	－	－	－	－	－		×		
6・7・10	15次	5区	上層	SD	15	5I-8F25、8G16・21、9F4・5・9・13・14	古代	－	1.37	0.40	2.28	－	弧状	レンズ状	SX36、SD2・4に切られる。	×		
8・9・17	15次	5区	上層	SD	60	5I-9B14・15・20、9C16・17・22・23、10C3～5、10D1・6～9・13・14	古代	－	1.10	0.24	2.54	－	弧状	レンズ状	SX86を切る。	○	22	
5～7・10	15次	5区	上層	SD	62	5I-8D7・8・12～14・19・20・25、8E16・21・22、9E2・3	古代	－	1.52	0.12	2.69	不整形	弧状	レンズ状		×		
9～11	15次	5区	上層	SD	78	5I-10E8・9・14・15・20、10F16・17・21・22	古代	－	0.63	0.08	2.67	－	弧状	単層	SK115を切る。	○	5	
8・9・17	15次	5区	上層	SD	90	5I-9B22・23、10B2～5・9・10、10C6・7・11～14・18～20、10D16・17・21～23、6I-1D3～5・9・10・15、1E2・3・6～8・11	古代	－	1.50	0.43	2.46	－	弧状	レンズ状	SX86・114、SD99を切る。	×		
5・7・10・16	15次	5区	上層	SD	95	5I-8C21・22、9C2・3・8・9・14・15、9D11～14・16～20・25、9E21・22、10E2・7・8・13	古代	－	0.83	0.27	2.47	－	弧状	レンズ状	SK115、SX73・141を切る。	○		
5・8・9・16	15次	5区	上層	SD	96	5I-9B5・10、9C1・6～8・12～14・19・20・25、9D21・22、10D2～4・8～10	古代	－	0.83	0.16	2.77	－	弧状	レンズ状	SX77・138を切る。	○		
8	15次	5区	上層	SD	99	5I-10C10・15・20・23～25、10D6・11・16、6I-1C3・4・8	古代	－	1.28	0.20	2.63	－	弧状	レンズ状	SD90に切られる。	○	23	6区上層SD99とつながっている
20・22	15次	6区	上層	SD	99	6I-1B14・15・19・20・25、1C11・16・21・22、2B5、2C1・2	古代	－	1.50	0.13	2.76	－	弧状	レンズ状		×		5区上層SD99とつながっている
8～10	15次	5区	上層	SD	100	5I-10C4・9・10・15、10D6・11・12・16～20・24・25、10E21・22、6I-1E2・3	古代	－	1.57	0.23	2.65	－	弧状	レンズ状	SK97に切られる。	×		
9～11	15次	5区	上層	SD	142	6I-1D14・15・19・20、1E11～13	古代	－	0.58	0.18	2.73	－	弧状	レンズ状	SX143に切られる。	×		
34・33	15次	6区	上層	SD	146	6I-8B20・23～25、8C3・7・8・11・12・16、9B2・3・7	古代	－	0.47	0.25	2.70	－	弧状	水平	SX405、SD171を切る。	×		
35	15次	6区	上層	SD	153	6I-8D25、9D4・5・8・9	古代	－	0.56	0.11	2.84	－	台形状	レンズ状	SX405を切る。SD168に切られる。	×		
35	15次	6区	上層	SD	154	6I-8C20、8D16・21・22、9D1～3・7・8・13・14・18～20・25、9E16・21・22、10E1～3・8・9・13・14・18・19・24	古代	－	1.60	0.29	2.72	－	台形状	斜位	SX405、SD168を切る。SK162、SX150に切られる。	○		
33・46	15次	6区	上層	SD	167	6I-9B15、9C11～14・18・19	古代	－	0.80	0.09	2.86	－	弧状	単層	SX166、SD170に切られる。	×		
35	15次	6区	上層	SD	168	6I-9D8～10・13～15、9E6・11～14・18・19	古代	－	1.78	0.22	2.72	－	弧状	レンズ状	SX405、SD153を切る。SK162、SD154に切られる。	×		
30・33	15次	6区	上層	SD	170	6I-8B24、9B4・9・10・14・15	古代	－	0.58	－	－	－	－	－	SD167を切る。	×		
30・33・35・39	15次	6区	上層	SD	171	6I-8A4・5・9・10、8B6～8・12～14・18～20・24・25、8C21・22、9C1～3・7～10・13～15、9D11・12・16～18・21～23、10D2・3	古代	－	1.85	0.16	2.72	－	弧状	単層	SX405を切る。SK193、SD146に切られる。	×		
30・31	15次	6区	上層	SD	175	6I-7A22、8A2～4	古代	5.23	0.77	0.09	3.01	－	台形状	単層		×		
29・31	15次	6区	上層	SD	188	6H-5I14・15・19・20・25、6I5・10、6J1・6・11・16・21、7J1・2・6・7・11・12	中世	－	1.12	0.08	3.06	－	弧状	単層	SD189・209に切られる。	○	43	
25・29・31	15次	6区	上層	SD	189	6H-4I18・23、5I3・4・9・14・19・20・24・25、6I5・10・15	中世	－	0.85	0.10	3.09	－	弧状	単層	SD188・244を切る。	○		
25・29・31	15次	6区	上層	SD	190	6H-4I22・23、5I2・3・8・13・14・18・19・23・24、6I4・9・10・14・15・20・25、7I5・10、7J1・6	中世	－	1.34	0.08	3.13	－	弧状	単層	SX556、SD210・232・244を切る。SX187・251に切られる。	○	44～47	
29・31	15次	6区	上層	SD	203	6H-5H15、5I11・16・21・22、6I1・2・7・12	中世	－	1.25	0.08	3.09	－	台形状	単層	SD210を切る。	×		
25・29	15次	6区	上層	SD	209	6H-4I18・23・24、5I3・4・9・14	中世	－	0.65	0.12	3.09	－	弧状	単層	SD188を切る。	○		
29・31	15次	6区	上層	SD	210	6H-5H15・20、5I11・12・16～18・22～24	古代	－	1.12	0.07	3.10	－	台形状	単層	SD190・203に切られる。	×		
25・27・29	15次	6区	上層	SD	226	6H-5J14・15・19・20、6I-5A6・11	古代	－	0.46	0.09	3.11	－	弧状	レンズ状		×		
29・31	15次	6区	上層	SD	232	6H-5I1・2・7・12・13・18・23	中世	－	0.54	0.02	3.17	－	弧状	単層	SD190に切られる。	×		
25・27・29・41	15次	6区	上層	SD	234	6I-3A18・22・23、4A1～3・6・7・11、6H-4J8～10・13～15・17・18・21・22、5I5・9・10、5J1・2、6H-5I5・10、6H-5J1・2	中世	－	1.17	0.26	2.79	－	弧状	レンズ状	SD236を切る。SK300、SD276・292に切られる。	○	48～50	
25～27・28・30・40・48	15次	6区	上層	SD	236	6H-2J19・20・25、3J5・10、6I-3A1・6・11・12・16・17・22・23、4A3・4・8・9・14・15・19・20・24・25、5A4・5・10、5B6・11・16・17・22・23、6B3・4・8・9・14・15・20・25、6C16・21・22、7C1	古代	－	1.18	0.43	2.68	－	台形状	ブロック状	SX315・405、SD263・576を切る。SK237、SD234・265・268に切られる。	○	51	
25・29・30	15次	6区	上層	SD	240	6H-5J7・8・12・13	－	－	0.43			－	－	－	SX239に切られる。	○		
25・29	15次	6区	上層	SD	241	6H-5J13・14・17・18	－	－	0.45			－	－	－	SK238、SX239に切られる。	×		
25・31	15次	6区	上層	SD	242	6H-5J22	中世	－	0.38	0.05	3.14	－	弧状	単層		×		
25・29	15次	6区	上層	SD	244	6H-4I22・23、5I3・8・9・13・14・19	中世	－	0.55	0.07	3.13	－	弧状	単層	SD189・190に切られる。	○	52～59	
26・30～32	15次	6区	上層	SD	245	6I-6A13～15・19・20、6B16・21	中世	7.44	0.94	0.07	3.09	－	台形状	斜位	SD263・265・562を切る。	×		
30～32	15次	6区	上層	SD	248	6I-6A12・17・22	中世	－	0.50	0.06	3.14	－	弧状	単層	P247に切られる。	○		
25・29・32	15次	6区	上層	SD	256	6H-4J22、5J2・3・7・8	中世	－	0.58	0.11	3.06	－	台形状	単層		×		
29・31・47	15次	6区	上層	SD	260	6H-5J6・7・11・12・16・17・22・23、6J2・3・8・9	中世	－	1.38	0.05	3.15	－	弧状	単層	SK238、SX275に切られる。	○		
25・28	15次	6区	上層	SD	261	6H-4J7・8・11～13	中世	3.18	0.39	0.07	3.14	－	弧状	単層		×		
20・22・25・27・28・32	15次	6区	上層	SD	263	6I-3A24・25、3B16・17・21・22、4A2～4・6～8・11・12・17・18・22・23、5A3・8・13・18・19・23・24、6A4・9・10・14・15・19・20・24・25、6B16・21、7A5、7B1・2・6	古代	－	2.40	0.18	2.94	－	弧状	水平	SK277、SD236・245・292に切られる。	○	60	
25・28	15次	6区	上層	SD	264	6I-4A11・16・17・22、5A2	中世	－	0.46	0.06	3.10	－	台形状	単層		×		
26・27・30・32	15次	6区	上層	SD	265	6I-6B2・3・7・8・11・12・16	中世	－	1.00	0.06	3.04	－	弧状	斜位	SD236・268を切る。SD245に切られる。	×		
25・28・29	15次	6区	上層	SD	267	6H-4J18・23、5J3	古代	4.50	0.43	0.08	3.15	－	台形状	単層		×		

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面					
				種別	番号			長軸	短軸									
27・28・30	15次	6区	上層	SD	268	6I-5B23、6B3・8・9・14	古代	−	0.48	0.30	2.80	−	U字状	レンズ状	SD236を切る。SD265に切られる。	×		
25・27・28	15次	6区	上層	SD	276	6H-3J7・8・12・13・18・19・23・24、4J4・8～10・14・15・20・25、5J5、6I-4A21、5A1	中世	−	0.90	0.14	2.97	−	弧状	単層	SD234を切る。	○		
25・28	15次	6区	上層	SD	282	6I-4A11・16・17・22、5A2・3・7・8・12・13・18	古代	−	0.68	0.08	3.06	−	弧状	単層		×		
29～32	15次	6区	上層	SD	288	6H-6J20・25、6I-6A11・16	中世	−	0.55	0.06	3.12	−	台形状	水平		×		
20・22	15次	6区	上層	SD	292	6I-3A18・19・23・24、4A4	中世	−	0.75	0.13	2.88	−	台形状	水平	SD234・263を切る。	×		
20・22・25	15次	6区	上層	SD	302	6I-2A13・14・18・19	中世	3.13	0.60	0.04	2.96	−	弧状	単層		×		
20・22	15次	6区	上層	SD	332	6I-1A14・19・20	中世	(2.52)	0.42	0.11	2.88	−	弧状	単層		×		
20・22	15次	6区	上層	SD	350	6I-1A24・25、2A5・10、2B6・11	中世	(6.25)	0.28	0.06	2.92	−	台形状	レンズ状		×		
20・22	15次	6区	上層	SD	354	6I-1A5・8～10・13・14、1B1・6	古代	−	1.28	0.13	2.82	−	弧状	単層	SK602を切る。SD400に切られる。	×		
20・23	15次	6区	上層	SD	355	6I-2B17・18・22・23、3B2・3・7・8・13・18	古代	8.78	2.30	0.09	2.88	−	弧状	単層		×		
25・26・28	15次	6区	上層	SD	372	6I-5A9・14	古代	(1.86)	0.42	0.07	2.98	−	弧状	レンズ状		×		
20・22・23	15次	6区	上層	SD	400	5I-10A24・25、6I-1A5、1B1・6	古代	−	1.08	0.17	2.87	−	台形状	レンズ状	SK602、SD354を切る。	×		
20・23	15次	6区	上層	SD	411	6I-3B19・20・24・25、4B5	古代	−	0.44	0.10	2.88	−	弧状	レンズ状	SK393に切られる。	×		
25・26・28	15次	6区	上層	SD	441	6I-4B21	中世	1.45	0.45	0.07	2.95	楕円形	台形状	水平		×		
26・30・32	15次	6区	上層	SD	562	6I-5A19・24・25、6A4・5・10・15・20、6B16・21	中世	−	0.42	0.07	3.05	−	弧状	単層	SK277、SD245に切られる。	×		
25・28	15次	6区	上層	SD	576	6I-5A3～5・8～10	古代	−	0.92	0.07	2.97	−	U字状	単層	SD236・P581に切られる。	×		
62	17次	7区	上層	SD	2	8I-3J20・25、8J-3A16・21	−	−	0.93	−	−	−	−	−	SX222を切る。	×		
60	17次	7区	上層	SD	6	8I-1J15・20、8J-1A11・12	古代	−	0.46	0.08	2.92	−	弧状	単層		×		
60	17次	7区	上層	SD	7	7I-10I20・25、10J16・17・21・22、8I-1J1～3・7～10・14・15、8J-1A11	古代	−	0.38	0.15	2.84	−	弧状	単層		×		
52・53・70・73	17次	7区	上層	SD	27	6H-8J10・15・20・25、6I-8A16・21、9A1・6・7・11・12・17・22・23、10A2・3・8・13・14	中世	−	0.48	0.19	3.04	−	弧状	レンズ状	SX48・65・67、SD75を切る。SK36、SX42・50に切られる。	○	108～110	
52・53・70・74・75	17次	7区	上層	SD	28	6H-8J3・8・13・14・18・19・24、9J4・5・9・10・15・20・25、6I-9A16・21、10A1・6・7・11・12・16・17	中世	−	0.29	0.54	2.70	−	階段状	レンズ状	SD37・44・47に切られる。	○	111～113・149～151	
52～54	17次	7区	上層	SD	37	6H-9J14・19・20・24・25、10J5・10、6I-9A21、10A1・6	中世	−	1.40	0.13	3.17	−	弧状	レンズ状	SD28を切る。SD46に切られる。	○	114	
52・54・74～76	17次	7区	上層	SD	38	6H-8J14・19・20・24・25、9J5・10・15、6I-9A6・11	中世	15.00	0.30	0.10	3.10	−	台形状	単層	SX48・55を切る。SX56に切られる。	○		
52～54	17次	7区	上層	SD	39	6H-9J4・9・14・15・19・20	中世	−	0.25	0.07	3.20	−	弧状	単層	SD47に切られる。	○		
55	17次	7区	上層	SD	41	6I-9A15、9B6・7・11・12	古代	−	0.54	0.07	3.02	−	弧状	単層	SD146に切られる。	×		
52・53・70・74・75	17次	7区	上層	SD	44	6H-8J3・8・9・13・14・19・24・25、9J4・5・10・15・20、6I-9A11・16・21、10A1・2・6・7・12・13・17・18	中世	−	0.42	0.24	3.00	−	弧状	レンズ状	SK54、SX29、SD28を切る。	○		
52・54	17次	7区	上層	SD	46	6H-7J21・22、8J1・2・6・7・12・17・18・22・23、9J3・4・8・9・13・14・18・19・24	中世	−	0.68	0.17	3.20	−	弧状	斜位	SD37・49を切る。SX51に切られる。	○		
52～54・70	17次	7区	上層	SD	47	6H-8J2・3・7・8・13・18・19・23・24、9J4・9	中世	−	0.79	0.14	3.12	−	弧状	レンズ状	SD28・39を切る。SD49に切られる。	○		
52～54・70	17次	7区	上層	SD	49	6H-8J2・7・8・12・13・18・23・24、9J3・4・9	中世	−	0.93	0.19	3.17	−	弧状	レンズ状	SX53、SD47を切る。SD46に切られる。	○	112・152	
52～54	17次	7区	上層	SD	62	6H-8J9・14・15	中世	(1.92)	0.50	0.06	3.23	−	弧状	単層		×		
52・54	17次	7区	上層	SD	63	6I-8A18・23、9A3・8・13	中世	−	0.53	0.09	3.00	−	弧状	単層	SK66、SX67を切る。SX61に切られる。	×		
52・53	17次	7区	上層	SD	64	6H-8J8・9・14	中世	−	0.41	0.08	3.20	−	台形状	レンズ状		×		
52・54	17次	7区	上層	SD	75	6I-9A22・23、10A3・4・8・9	中世	(5.62)	(0.16)	0.06	3.10	−	弧状	単層	SK36、SD27に切られる。	×		
66・68	17次	7区	上層	SD	80	8I-8J25、9J5・10・15、8J-9A6・11・16・21・22、10A1・2	中世	−	0.30	0.08	3.35	−	弧状	単層	SD83を切る。SD84・85・87・92に切られる。	○		
66・68	17次	7区	上層	SD	83	8I-9J20、8J-9A16・17	中世	−	0.43	0.08	3.32	−	−	−	SD80・136に切られる。	×		
66・68	17次	7区	上層	SD	84	8I-9J14・15、8J-9A11・12	中世	−	0.42	0.09	3.30	−	弧状	単層	SX233、SD80を切る。	○		
66・68	17次	7区	上層	SD	85	8I-9J9・10、8J-9A6	中世	−	0.45	0.12	3.28	−	弧状	ブロック状	SD80・86・89を切る。SD92に切られる。	○	115	
66・68・76	17次	7区	上層	SD	86	8I-8J17～20・25、9J5、8J-8A21、9A1・6	中世	−	0.38	0.20	3.21	−	台形状	水平	SX90、SD89・96・100を切る。SX174、SD85・87・92・94に切られる。	○	116・117	
66・68	17次	7区	上層	SD	87	8I-8J24、9J4・5、8J-9A1	中世	−	0.35	0.04	3.34	−	弧状	単層	SD80・86・89・144を切る。SD92に切られる。	○		
66・68・76	17次	7区	上層	SD	89	8I-8J15・20・25、9J5、8J-9A1・6	中世	−	0.39	0.08	3.32	−	弧状	単層	SD96を切る。SD85・86・87・92・94・144に切られる。	○	118	
66・68・76	17次	7区	上層	SD	92	8I-8J25、9J5・9・10、8J-8A16・21	中世	−	0.18	0.11	3.30	−	箱状	単層	SD80・85・86・87・89・144を切る。SD94に切られる。	○		
66・68	17次	7区	上層	SD	94	8I-8J23～25、8J-8A21	中世	−	0.42	0.07	3.32	−	弧状	単層	SD86・89・92を切る。	○	119	
66・68	17次	7区	上層	SD	96	8I-8J20	中世	−	0.32	0.10	3.30	−	弧状	単層	SD86・89に切られる。	○		
66・67・71	17次	7区	上層	SD	100	8I-6I24、7I4・5・9・10・15、7J6・11・16・17・21・22、8J2・3・8・9・13・14・18・19	中世	−	0.66	0.51	2.89	−	台形状	レンズ状	SK166、SD142・190を切る。SD86に切られる。	○	120・153・164	
66・67	17次	7区	上層	SD	110	8I-7J1・7・12・13・18・19・23・24、8J4・5・9・10・15・20、8A11・16	中世	−	0.44	0.18	3.19	−	V字状	ブロック状	SD141・164を切る。	○	121	
66・67	17次	7区	上層	SD	111	8I-6I4・9・10・14・15・20、6J11・16・21・22、7J1～3・7・8・13・14・18～20・24・25、8J4・5・10・15、8J-8A6・11	中世	−	1.37	0.22	3.11	−	台形状	レンズ状	SX234、SD141・159・164・190を切る。SK150に切られる。	○	92・122～124	
66・67	17次	7区	上層	SD	117	8I-6I24・25、7I5	中世	−	0.32	0.22	3.08	−	U字状	レンズ状		○		
62・66・67	17次	7区	上層	SD	118	8I-6J6・11・16	中世	−	0.45	0.06	3.27	−	弧状	単層	SX234を切る。	○	165	
66・68・76	17次	7区	上層	SD	136	8J-9A11・12・16・17・21	中世	−	0.17	0.11	3.27	−	台形状	単層	SX81・130・233、SD83を切る。	○		
62・66・67	17次	7区	上層	SD	141	8I-6I9・14、7J2・7・13・18・19・23・24	中世	−	0.40	0.05	3.27	−	台形状	単層	SD110・111・164に切られる。	○		
66・68	17次	7区	上層	SD	142	8I-8J13・18	中世	−	0.42	0.24	3.16	−	弧状	単層	SD100に切られる。	×		
66・68	17次	7区	上層	SD	143	8I-8J18・23	中世	−	0.27	−	−	−	−	−		×		
66・68	17次	7区	上層	SD	144	8I-9J5・10、8J-9A1	中世	−	1.02	0.06	3.36	−	台形状	斜位	SD89を切る。SD87・92に切られる。	×		

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
				種別	番号			上端 長軸	上端 短軸	深度		平面	断面					
55	17次	7区	上層	SD	146	6I-9B7・11・12・16・17・21・22、10B1・2・6	古代	−	0.52	0.21	2.86	−	漏斗状	レンズ状	SX67、SD41を切る。SX35に切られる。	○		
62・66・67	17次	7区	上層	SD	159	8I-6I19・20・24・25	中世	−	0.21	0.04	3.28	−	弧状	単層	SD111に切られる。	○		
66～68	17次	7区	上層	SD	160	8I-7I9	中世	1.08	0.15	0.05	3.21	−	弧状	単層		×		
66・68	17次	7区	上層	SD	162	8I-8J15・20、8J-8A16	中世	−	0.14	−	−	−	−	−		×		
66・67	17次	7区	上層	SD	164	8I-6I25、6J21、7I5、7J1・6・7・12・13・17・18・23・24、8J3・4・9・10・14・15	中世	−	0.75	0.07	3.30	−	弧状	斜位	SD141・169を切る。SD110・111に切られる。	×		
62・63・69	17次	7区	上層	SD	168	8I-4J15・18～20・22～25、5I5・9・10・14・15・19、5J1～4・6～8・11、8J-4A11・16	中世	−	1.18	0.29	2.80	−	弧状	レンズ状	SD173を切る。SE121、SK194・235、SD180・201・203・204に切られる。	○	125～129	
66・68	17次	7区	上層	SD	169	8I-8J4	中世	−	0.32	−	−	−	−	−	SD164に切られる。	×		
62・63	17次	7区	上層	SD	173	8I-4J24・25、5J5	古代	−	0.46	0.14	2.90	−	弧状	単層	SD168に切られる。	×		
62・63・65	17次	7区	上層	SD	180	8I-3I25、4I5・10、4J1・6・7・11・12・16～18・22・23	中世	−	2.34	0.15	2.97	−	弧状	レンズ状	SX195、SD168を切る。	○		
66・67	17次	7区	上層	SD	182	8I-6J6・7・11・12・17・18・23・24、7J3・4・9・14・15・19・20・25	中世	−	0.26	0.11	3.14	−	U字状	単層	SX181・234を切る。	○	93・130	
62・63	17次	7区	上層	SD	188	8I-5J20・24・25、6J5	古代	−	1.06	0.10	3.06	−	弧状	単層		×		
66	17次	7区	上層	SD	190	8I-6I24・25、6J1、7I4	中世	−	−	0.16	3.16	−	台形状	単層	SD100・111に切られる。	×		
62・63	17次	7区	上層	SD	201	8I-5I4・9・10	中世	−	0.53	0.07	3.04	−	弧状	単層	SD168・203を切る。	×		
62・63	17次	7区	上層	SD	203	8I-5I9	古代	−	0.16	0.06	3.06	−	弧状	単層	SD168を切る。SD201・204に切られる。	×		
62・63	17次	7区	上層	SD	204	8I-5I9・10・14・15	中世	1.38	0.24	0.17	2.90	−	漏斗状	単層	SD168・203を切る。SK194に切られる。	×		
62・64・66	17次	7区	上層	SD	208	8I-6J2・3	古代	−	0.25	0.07	3.10	−	弧状	レンズ状		×		
62・64・66	17次	7区	上層	SD	209	8I-6J3・4・8・9	古代	−	0.18	0.04	3.11	−	弧状	単層		×		
62・64	17次	7区	上層	SD	210	8I-5I15・19・20・25、5J11・16	中世	−	0.28	0.33	2.90	−	弧状	レンズ状		×		
62・64	17次	7区	上層	SD	211	8I-5J14	古代	1.15	0.21	0.05	3.01	−	弧状	単層		×		
62・64	17次	7区	上層	SD	214	8I-4J11・16	古代	−	0.23	0.11	3.04	−	U字状	単層		×		
62・64	17次	7区	上層	SD	215	8I-4J5・9・10・14・19	古代	−	0.30	0.10	2.96	−	階段状	レンズ状	SE126に切られる。	○		
62・65	17次	7区	上層	SD	216	8I-3I10・15、3J11・16・17・22・23	−	−	0.68	0.05	3.01	−	弧状	単層		○		
62・64	17次	7区	上層	SD	217	8I-4J10	中世	−	0.29	0.07	2.99	−	弧状	単層		×		
62・64	17次	7区	上層	SD	218	8I-4I5・10・15・20、4J6・11	古代	−	1.12	0.38	2.81	−	V字状	斜位		×		
62・64・65	17次	7区	上層	SD	219	8I-3I20、3J16・21、4I5、4J1	中世	−	0.29	0.10	2.91	−	弧状	単層		×		
62・65	17次	7区	上層	SD	221	8I-3J12・17・18・19・23・24	古代	−	0.64	0.05	3.01	−	弧状	単層		×		
62・66	17次	7区	上層	SD	236	8I-6J7・12	中世	−	0.24	−	−	−	−	−		×		
62	17次	7区	上層	SD	237	8I-3I10	−	−	0.34	−	−	−	−	−		×		
60	17次	7区	上層	SD	519	8J-2A16・17・21・22	−	−	0.59	−	−	−	−	−		×		
60	17次	7区	上層	SD	520	8I-2J25、8J-2A21、3A1	−	1.80	0.64	−	−	−	−	−		×		
55	17次	7区	上層	SD	521	6I-9C22・23	−		0.63	−	−	−	−	−		×		

杭列（SA　上層）

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構番号	方位	構成するピット	グリッド	形態 平面	形態 断面	規模 上端長軸（m）	規模 最大深度（m）	底面標高（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
25・28	15次	6区	上層			P 578	6I-5A9	楕円形	階段状	0.15	0.20	2.86		
25・28	15次	6区	上層			P 579	6I-5A9・10	楕円形	箱状	0.10	0.14	2.90		
25・28	15次	6区	上層			P 580	6I-5A10	円形	箱状	0.08	0.09	2.95		
25・28	15次	6区	上層	SA110	N-35°-E	P 581	6I-5A10	楕円形	U字状	0.15	0.27	2.73		
25・28	15次	6区	上層			P 582	6I-5B1	円形	U字状	0.08	0.22	2.83		
25	15次	6区	上層			P 583	6I-5A5	円形	U字状	0.07	0.20	2.83		
25	15次	6区	上層			P 584	6I-5A19	楕円形		0.12				
25	15次	6区	上層			P 278	6H-5J5	円形		0.19				
25	15次	6区	上層			P 568	6H-5J5	円形		0.15				
25	15次	6区	上層	SA113	N-78°-E	P 569	6H-5J4	円形		0.16				
25	15次	6区	上層			P 570	6H-5J4	楕円形		0.15				
25	15次	6区	上層			P 571	6H-5J3	円形		0.20				
25	15次	6区	上層			P 572	6H-5J3	楕円形		0.18				
29	15次	6区	上層			P 481	6H-5I7	楕円形		0.07				
29	15次	6区	上層			P 482	6H-5I12	円形		0.09				
29	15次	6区	上層			P 483	6H-5I12	円形		0.06				
29	15次	6区	上層	SA144	N-18°-W	P 484	6H-5I18	円形		0.07				
29	15次	6区	上層			P 485	6H-5I18	円形		0.08				
29	15次	6区	上層			P 486	6H-5I18	楕円形		0.12				
29	15次	6区	上層			P 487	6H-5I23	円形		0.07				
29	15次	6区	上層			P 488	6H-5I23	円形		0.09				

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構番号	方位	構成するピット	グリッド	形態 平面	形態 断面	規模 上端長軸（m）	規模 最大深度（m）	底面標高（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
29	15次	6区	上層			P 489	6H-6I3	円形		0.08				
29	15次	6区	上層			P 498	6H-6I3	円形		0.06				
29	15次	6区	上層			P 499	6H-6I8	円形		0.06				
29	15次	6区	上層			P 500	6H-6I9	円形		0.06				
29	15次	6区	上層			P 501	6H-6I14	円形		0.08				
29	15次	6区	上層			P 502	6H-6I14	円形		0.08				
29	15次	6区	上層			P 503	6H-6I19	楕円形		0.09				
29	15次	6区	上層			P 504	6H-6I19	楕円形		0.05				
29	15次	6区	上層			P 505	6H-6I19	楕円形		0.12				
29	15次	6区	上層			P 506	6H-6I19	楕円形		0.09				
29	15次	6区	上層	SA144	N-18°-E	P 507	6H-6I19・24	円形		0.05				
29	15次	6区	上層			P 508	6H-6I24	円形		0.10				
29	15次	6区	上層			P 509	6H-6I24	楕円形		0.09				
29	15次	6区	上層			P 510	6H-7I4	楕円形		0.11				
29	15次	6区	上層			P 511	6H-7I4	楕円形		0.07				
29	15次	6区	上層			P 512	6H-7I4	楕円形		0.10				
29	15次	6区	上層			P 513	6H-7I4・9	円形		0.08				
29	15次	6区	上層			P 514	6H-7I10	楕円形		0.07				
29	15次	6区	上層			P 533	6H-7I10・15	円形		0.08				
29	15次	6区	上層			P 534	6H-7J11	円形		0.06				
29	15次	6区	上層			P 535	6H-7I10	円形		0.07				

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構番号	方位	構成するビット		グリッド	形態		規模		底面標高（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
									平面	断面	上端長軸（m）	最大深度（m）			
29	15次	6区	上層			P	458	6H-7I3	円形		0.09				
29	15次	6区	上層			P	459	6H-7I3	楕円形		0.09				
29	15次	6区	上層			P	461	6H-6I23	楕円形		0.10				
29	15次	6区	上層			P	462	6H-6I18	円形		0.06				
29	15次	6区	上層			P	463	6H-6I18	楕円形		0.07				
29	15次	6区	上層			P	465	6H-6I13・18	円形		0.15				
29	15次	6区	上層			P	466	6H-6I13	楕円形		0.16				
29	15次	6区	上層			P	467	6H-6I12・13	楕円形		0.15				
29	15次	6区	上層	SA145	N-14°-W	P	468	6H-6I7・12	円形		0.10				
29	15次	6区	上層			P	469	6H-6I7	円形		0.12				
29	15次	6区	上層			P	470	6H-6I7	楕円形		0.12				
29	15次	6区	上層			P	471	6H-6I2	楕円形		0.20				
29	15次	6区	上層			P	472	6H-6I2	楕円形		0.07				
29	15次	6区	上層			P	473	6H-5I22、6I2	楕円形		0.11				
29	15次	6区	上層			P	474	6H-5I22	円形		0.09				
29	15次	6区	上層			P	475	6H-5I22	楕円形		0.13				
29	15次	6区	上層			P	476	6H-5I22	楕円形		0.08				

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構番号	方位	構成するビット		グリッド	形態		規模		底面標高（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
									平面	断面	上端長軸（m）	最大深度（m）			
29	15次	6区	上層			P	477	6H-5I17	円形		0.10				
29	15次	6区	上層	SA145	N-14°-E	P	478	6H-5I16	円形		0.08				
29	15次	6区	上層			P	479	6H-5I16	円形		0.09				
29	15次	6区	上層			P	480	6H-5I11・16	円形		0.08				
33・34	15次	6区	上層			P	546	6I-8C13	楕円形		0.05	0.28	2.64	○	72
33・34	15次	6区	上層			P	548	6I-8C13・14	円形	U字状	0.08	0.14	2.80		
33・34	15次	6区	上層	SA147	N-85°-W	P	550	6I-8C14	円形		0.05	0.57	2.38		
33・34	15次	6区	上層			P	560	6I-8C6	円形	U字状	0.11	0.22	2.66		
33・34	15次	6区	上層			P	575	6I-8C15	円形		0.06	0.69	2.25	○	
33・34	15次	6区	上層			P	585	6I-8D11	楕円形		0.07	0.55	2.54		
33・34	15次	6区	上層			P	547	6I-8C13	楕円形	U字状	0.17	0.23	2.69		
33・34	15次	6区	上層			P	549	6I-8C14	円形		0.03	0.40	2.54		
33・34	15次	6区	上層			P	551	6I-8C14	楕円形		0.07	0.39	2.58		
33	15次	6区	上層	SA149	N-88°-W	P	552	6I-8C14・15	円形		0.16				
33・34	15次	6区	上層			P	554	6I-8C15			0.05	0.54	2.40		
33	15次	6区	上層			P	561	6I-8C11	楕円形	U字状	0.08	0.23	2.65		
33	15次	6区	上層			P	586	6I-8D11	方形		0.12				

耕作関連遺構（SN　上層）

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構		構成する遺構		グリッド	時代	規模（m） 上端		底面標高（m）	平面形態	遺物の有無	遺物図版番号	掲載遺物番号	備考
				種別	番号	種別	番号			長軸	短軸						
20・22・42・48	15次	6区	上層	SN	01	SD	310	6I-1A8・13・14・17～19・22～24、6H-2J10・14・15・19・20、6I-2A1～14	中世	12.00	−	3.10	長方形	×			
20・22・48	15次	6区	上層	SN	02	SD	293	6I-2A14・15・17～20・22～25、2B11・16・21・22、3A2～5・7～10・12～15・18～20、3B1・2・6～8・11～13・16・17	中世	10.70	9.00	2.90	方形	×			
25・27・28	15次	6区	上層	SN	03	SD	291	6H-2J19・20・23～25、3J3～5・7～10・12～25、4J1～5・7～9、6I-2A16・21、3A1・2・6・7・11・12・17・18・21～23、4A1	中世	12.90	12.80	2.85	方形	○	122	61	
29～31	15次	6区	上層	SN	04	SD	202	6H-6J9・10・12～15・17～20・23～25、7J3～5・8～10・14・15、6I-6A6～8・11～13・16～18・21～23、7A1～4・6～9・11	中世	10.60	−	3.04	方形	○			
29～32・42	15次	6区	上層	SN	05	SD	274	6H-6J13～15・18～20・24・25、6I-6A8・11～13・16～18・21～23	中世	9.70	−	3.08	長方形	×			
26・27・30～32・39・41・43・44	15次	6区	上層	SN	06	SD	221	6I-5A18～20・23～25、5B16～19・21～24,6A3～5・8～10・13～15・19・20・24・25、6B1～4・6～9・11～14・16～25、7A4・5	中世	13.00	−	3.06	長方形	×			
						SD	289					3.02		×			
62・64・65	17次	7区	上層	SN	07	SX	523	8I-3J22・23、4I-5・9・10・14・15・20、4J1～4・6～23	中世	9.30	7.40	2.90	長方形	×			
						SD	213					2.96		×			
						SD	220					2.98		×			
						SD	223					2.92		×			
62・65	17次	7区	上層	SN	08	SX	191	8I-4I14・15・19・20・24・25、4J16・21、5I4・5	中世	5.80	−	2.97	長方形	○	123	104・105	
						SD	199					3.04		×			
62・63	17次	7区	上層	SN	09	SX	192	8I-5J9・10・12～15・18～20・24・25、6J4・5	中世	6.80	−	−	長方形	○			
						SD	120					3.03		×			
62・65・66	17次	7区	上層	SN	10	SX	186	8I-5I20・24・25、5J16・17・21～23、6I4・5・10、6J1～3・6・7	中世	6.00	5.20	3.00	長方形	○	123	96～101	
						SD	187					2.90		×			
62・66	17次	7区	上層	SN	11	SX	119	8I-6J5・8～10・12～15・17～20・23～25、7J4・5	中世	7.80	−	3.03	長方形	○	123	74～84	
						SD	183					2.98		○	123	84	
66・67・68	17次	7区	上層	SN	12	SX	175	8I-7J9・10・14・15・20	中世	4.90	−	−	−	○	123・125	87～95・147	
						SD	184					2.94		○	123	95	

小土坑（P）

図版番号	調査回数	調査区	上・下層	遺構		グリッド	時代	規模（m） 上端		深度	底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
				種別	番号			長軸	短軸			平面	断面					
8・18	15次	5区	上層	P	123	5I-10B15	縄文	0.47	0.42	0.24	2.28	方形	半円状	水平		×		
8・18	15次	5区	上層	P	125	5I-10B15	縄文	−	0.12	0.16	2.35	楕円形	U字状	単層		×		
8・18	15次	5区	上層	P	126	5I-10B15	縄文	0.47	0.37	0.21	2.30	楕円形	U字状	水平		○	16	
8	15次	5区	上層	P	139	5I-10B5、10C-1	−	(0.36)	0.28	0.10	2.50	方形	弧状	−		○	33	
33・35・50	15次	6区	上層	P	74	6I-8D12・17	古代以降	−	0.26	0.30	2.50	楕円形	V字状	水平		○		
26・30・40	15次	6区	上層	P	230	6I-6B25	中世	0.13	0.40	0.04	3.05	円形	弧状	単層	SX405を切る。SK229に切られる。	×		
29・30・32	15次	6区	上層	P	247	6I-6A12・17	中世	0.52	0.40	0.08	3.08	円形	弧状	単層	SD247を切る。	×		
30・41	15次	6区	上層	P	249	6I-6A3・8	−	0.32	0.30	0.09	3.07	円形	V字状	単層	SK250に切られる。	×		
20・44	15次	6区	上層	P	399	6I-4B3・8	中世	0.36	0.28	0.07	2.90	円形	台形状	斜位	SK398、SX405を切る。	×		
52・54	17次	7区	上層	P	52	6H-8J22、9J2	中世	(0.50)	(0.46)	0.13	3.20	円形	弧状	単層	SX51を切る。	×		
52・55・76	17次	7区	上層	P	58	6I-9B1	−	(0.35)	0.32	0.03	3.03	円形	弧状	単層	SX59に切られる。	×		

別表２　下層遺構計測表

凡　例　1　観察表の記載順は、遺構の種別ごとに5・6区、7区の順でそれぞれ番号順とするが、あわせて分割図版No.・個別図版No.を明記し、索引としての役割をもたせてある。
2　遺構の分類及び項目・切り合い関係等は、本文第Ⅳ章の記述に対応する。
3　規模の（　）内数値は残存部からの復元推定値である
4　不明の場合 － で示した。
5　竪穴建物の規模は壁溝外側上端で計測した値である。

下層

竪穴建物（SI 下層）

図版番号	写真図版	調査回数	調査区	層位	主軸方向	遺構	グリッド	時代	形態 平面形	形態 断面形	規模 上端長軸（m）	規模 上端短軸（m）	規模 最大深度（m）	底面標高（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
79・85	69・70	17次	6区	下層上面	SI93		5I-10A24・25、10B21、6I-1A51B1	縄文	円形	台形状	－	3.00	0.14	2.52	○	170～174・221・222
79・85	69	17次	6区	下層上面	SI93	F295（炉跡）	5I-10A25	縄文	楕円形	弧状	(0.32)	0.16	0.04	2.47		
79・85	69	17次	6区	下層上面	SI93	P693	5I-10A25	縄文	円形	－	0.23	0.20	－	－		

図版番号	写真図版	調査回数	調査区	層位	主軸方向 N-53°-W	遺構	グリッド	縄文	形態 平面形	形態 断面形	規模 上端長軸（m）	規模 上端短軸（m）	規模 最大深度（m）	底面標高（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
79・85・86	69・70・71	17次	6区	下層上面	SI262		6I-2A2～4・7～9・12～14	縄文	円形	弧状	3.78	3.64	0.36	2.43	○	175・176
79・86	71	17次	6区	下層上面	SI262	SI262-P1	6I-2A8・9	縄文	楕円形	U字状	0.31	0.24	0.26	2.24		
79・86	71	17次	6区	下層上面	SI262	SI262-P2	6I-2A9	縄文	円形	U字状	0.32	0.32	0.28	2.22		
79・86	71	17次	6区	下層上面	SI262	SI262-P3	6I-2A7・8	縄文	楕円形	U字状	0.39	0.28	0.26	2.18		

掘立柱建物（SB 下層）

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構番号	主軸方位	身舎面積（㎡）	間数	桁行（m）	梁行（m）	突出部（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
79・84	17次	6区	下層上面	SB-1215	N-87°-E	4.20	1間×1間	1.82	2.31	北に0.38 南に0.30		

	遺構	グリッド	時代	平面形	断面形	上端長軸（m）	最大深度（m）	底面標高（m）
P	619	6I-1B16	縄文	楕円形	U字状	(0.31)	0.18	2.45
P	665	6I-1B17	縄文	円形	U字状	0.26	0.22	2.32
P	675	6I-1B21・22	縄文	円形	弧状	0.24	0.17	2.43
P	694	6I-1B17	縄文	円形	箱状	0.25	0.20	2.35
P	698	6I-1B22	縄文	楕円形	V字状	0.28	0.20	2.33

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構番号	方位	身舎面積（㎡）	間数	桁行（m）	梁行（m）	突出部（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
103・105・113	18次	6区	下層下面	SB-1	N-73°-E	12.37	1間×1間	3.66	3.38	西に0.28 東に0.32		

	遺構	グリッド	時代	平面形	断面形	上端長軸（m）	最大深度（m）	底面標高（m）		
P	959	6I-2A9・14	縄文	円形	弧状	(0.25)	0.06	1.98		
P	1039	6I-2A10、2B-6	縄文	楕円形	弧状	(0.45)	0.12	1.90		
P	1084	6I-2A19・20	縄文	楕円形	－	0.54	0.20	1.79		
P	1096	6I-2B6・11	縄文	長方形	V字状	(0.67)	0.33	1.66		
P	1099	6I-2B11	縄文	円形	台形状	(0.39)	0.23	1.70	○	302
P	1196	6I-2A14	縄文	楕円形	V字状	(0.34)	0.17	1.81		

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構番号	方位	身舎面積（㎡）	間数	桁行（m）	梁行（m）	突出部（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
103・105	18次	6区	下層下面	SB-2	N-47°-E	10.49	1間×1間	3.34	3.14	西に0.68 東に0.46		

	遺構	グリッド	時代	平面形	断面形	上端長軸（m）	最大深度（m）	底面標高（m）		
P	960	6I-2A2・3・7・8	縄文	楕円形	弧状	0.52	0.14	1.97		
P	1015	6I-2A8	縄文	円形	V字状	(0.26)	0.16	1.94		
P	1030	6I-2A4・5	縄文	楕円形	弧状	(0.50)	0.11	1.95		
P	1129	6I-1A22、2A2	縄文	円形	半円状	(0.54)	0.27	1.78		
P	1154	6I-1A23・24	縄文	円形	弧状	0.39	0.15	2.01		
P	1187	6I-1A24	縄文	楕円形	半円状	(0.28)	0.10	1.82		

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構番号	方位	身舎面積（㎡）	間数	桁行（m）	梁行（m）	突出部（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
103・106	18次	6区	下層下面	SB-3	N-34°-W	9.60	1間×1間	4.00	2.40	北に0.62 南に0.44		

	遺構	グリッド	時代	平面形	断面形	上端長軸（m）	最大深度（m）	底面標高（m）		
P	974	6I-2B18	縄文	楕円形	弧状	0.41	0.06	1.90	○	379・380
P	975	6I-2B22	縄文	楕円形	弧状	(0.67)	0.15	1.79		
P	1079	6I-2B18・23	縄文	円形	半円状	(0.32)	0.26	1.63		
P	1082	6I-2B11	縄文	円形	－	(0.30)	0.12	1.90		
P	1096	6I-2B6・11	縄文	長方形	弧状	(0.67)	0.33	1.66		
P	1097	6I-2B7	縄文	楕円形	－	(0.32)	0.23	1.74		
P	1100	6I-2B16	縄文	円形	－	(0.30)	0.15	1.82		
P	1115	6I-2B11	縄文	円形	－	(0.22)	0.04	1.91		

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構番号	方位	身舎面積（㎡）	間数	桁行（m）	梁行（m）	突出部（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
103・106	18次	6区	下層下面	SB-7	N-34°-E	4.26	1間×1間	2.24	1.90	北に0.38 南に1.06		

	遺構	グリッド	時代	平面形	断面形	上端長軸（m）	最大深度（m）	底面標高（m）		
P	952	6I-2A6・7	縄文	方形	弧状	(0.43)	0.09	2.11		
P	1001	6I-2A7	縄文	円形	弧状	0.41	0.12	2.01		
P	1013	6I-2A7・8	縄文	方形	V字状	0.40	0.29	1.82		
P	1054	6I-2A2・3	縄文	円形	U字状	(0.32)	0.28	1.84		
P	1111	6I-2A7・12	縄文	円形	－	(0.28)	0.13	1.96		
P	1141	6I-2A3	縄文	楕円形	U字状	0.29	0.13	1.94		
P	1158	6I-2A2	縄文	円形	半円状	0.33	0.18	1.82		

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構番号	方位	身舎面積（㎡）	間数	桁行（m）	梁行（m）	突出部（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
103・106	18次	6区	下層下面	SB-9	N-32°-W	6.72	1間×1間	2.92	2.30	北に0.60 南に0.78		

	遺構	グリッド	時代	平面形	断面形	上端長軸（m）	最大深度（m）	底面標高（m）		
P	963	6I-2A3・8	縄文	楕円形	U字状	(0.26)	0.14	2.01		
P	978	6I-2A4	縄文	円形	－	(0.31)	0.20	1.92	○	
P	1025	6I-2A14	縄文	円形	半円状	(0.14)	0.14	1.92		
P	1026	6I-2A15	縄文	円形	－	(0.37)	0.13	1.91		
P	1081	6I-2A3・4	縄文	－	－	－	0.03	1.93		
P	1139	6I-2A10	縄文	円形	－	(0.33)	0.29	1.70		

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構番号	方位	身舎面積（㎡）	間数	桁行（m）	梁行（m）	突出部（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
103・107	18次	6区	下層下面	SB-11	N-28°-W	12.80	1間×1間	4.00	3.20	北に0.6 南に0.78		

	遺構	グリッド	時代	平面形	断面形	上端長軸（m）	最大深度（m）	底面標高（m）		
P	1068	6I-2B16	縄文	方形	弧状	(0.68)	0.13	1.90	○	
P	1091	6I-2A20	縄文	楕円形	弧状	0.54	0.10	1.89		
P	1116	6I-2B11	縄文	円形	－	(0.28)	0.19	1.79		
P	1131	6I-2A5・10	縄文	方形		(0.36)	－	－	○	303
P	1206	6I-2A9	縄文	楕円形	弧状	0.75	0.20	1.88		
P	1214	6I-2A4	縄文	円形	－	(0.34)	－	－		

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構番号	方位	身舎面積（㎡）	間数	桁行（m）	梁行（m）	突出部（m）	遺物の有無	掲載遺物番号
103・107	18次	6区	下層下面	SB-12	N-66°-E	13.65	1間×1間	3.50	3.90	北に1.38 南に0.60		

	遺構	グリッド	時代	平面形	断面形	上端長軸（m）	最大深度（m）	底面標高（m）		
P	1059	6I-2A25、2B21	縄文	楕円形	－	(0.37)	0.24	1.64		
P	1070	6I-2A19・20	縄文	楕円形	弧状	0.53	0.17	1.84	○	304
P	1113	6I-2B11	縄文	円形	－	(0.23)	－	－		
P	1186	6I-2B17・22	縄文	楕円形	－	(0.18)	0.13	1.80		

土坑（SK　下層）

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
				種別	番号			上端		深度		平面	断面					
								長軸	短軸									
80・86	17次	6区	下層上面	SK	152	6I-1B23、2B3	縄文	0.97	0.81	0.22	2.35	円形	弧状	−		○	177	
35・36・45	15次	6区	下層上面	SK	196	6I-9F21	縄文	−	1.27	0.36	2.47	楕円形	台形状	水平		○	40	
80・86	17次	6区	下層上面	SK	205	6I-2B8・9・13・14	縄文	0.48	0.42	0.06	2.42	円形	弧状	単層		×		
79・87	17次	6区	下層上面	SK	212	6H-2J20、6I-2A16	縄文	(1.52)	0.73	0.20	2.53	楕円形	弧状	単層	SK700・701に切られる。	×		
80・87	17次	6区	下層上面	SK	253	6I-1B14・19	縄文	0.93	0.72	0.10	2.28	楕円形	弧状	−		×		
79・87	17次	6区	下層上面	SK	257	6I-2A18・23	縄文	0.81	0.78	0.26	2.31	円形	弧状	水平		○	178	
79・80・87	17次	6区	下層上面	SK	326	6I-2B8	縄文	0.28	0.25	0.08	2.44	円形	弧状	レンズ状		×		
79・80・87	17次	6区	下層上面	SK	327	6I-2B8	縄文	0.33	0.26	0.05	2.44	円形	弧状	単層		×		
80・87	17次	6区	下層上面	SK	333	6I-2B4・9	縄文	0.77	0.63	0.22	2.25	楕円形	弧状	水平		×		
80・87	17次	6区	下層上面	SK	353	6I-3B8	縄文	1.56	0.75	0.09	2.22	楕円形	弧状	単層		×		
79・87	17次	6区	下層上面	SK	359	6I-2A21	縄文	0.78	0.73	0.11	2.47	円形	弧状	単層		×		
79・87	17次	6区	下層上面	SK	364	6I-2A21・22	縄文	0.52	0.45	0.12	2.47	円形	弧状	単層		×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	370	6I-2A16	縄文	0.51	0.48	0.16	2.43	方形	弧状	単層		×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	371	6I-2A16	縄文	0.48	0.46	0.13	2.46	円形	弧状	単層		×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	382	6I-2A12・13・17・18	縄文	(0.82)	0.57	0.09	2.53	楕円形	弧状	単層		×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	383	6I-2A13・14	縄文	(0.82)	0.56	0.16	2.43	楕円形	弧状	単層	SK407を切る。	○	179	
79・87・88	17次	6区	下層上面	SK	395	6I-2A13・18	縄文	1.08	1.00	0.16	2.41	楕円形	弧状	単層		×		
79・87	17次	6区	下層上面	SK	396	6I-2A23、3A3	縄文	(0.48)	(0.44)	0.14	2.42	円形	弧状	単層		×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	403	6I-2A17・18	縄文	0.73	0.61	0.13	2.46	円形	弧状	単層		×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	406	6I-1B11・16	縄文	0.53	0.36	0.09	2.57	楕円形	弧状	単層		○	180	
79・88	17次	6区	下層上面	SK	407	6I-2A13・14・18・19	縄文	1.12	0.56	0.18	2.42	楕円形	弧状	水平	SK383に切られる。	×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	410	6I-1B11・16	縄文	0.60	0.44	0.17	2.45	楕円形	弧状	レンズ状		×		
79・87	17次	6区	下層上面	SK	413	6I-2A23	縄文	0.71	0.41	0.12	2.40	楕円形	弧状	単層		×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	417	6I-2A12	縄文	0.39	(0.35)	0.12	2.50	円形	弧状	単層		×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	418	6I-2A12	縄文	0.62	0.44	0.11	2.50	楕円形	弧状	単層	SK422に切られる。	×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	422	6I-2A12	縄文	0.55	0.47	0.14	2.51	円形	弧状	単層	SK418を切る。	×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	437	6I-2A12・13	縄文	0.41	(0.39)	0.10	2.51	円形	弧状	単層		×		
79・88	17次	6区	下層上面	SK	439	6I-2A13	縄文	0.92	0.85	0.15	2.46	楕円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	604	6I-2A17	縄文	0.40	0.35	0.08	2.48	円形	弧状	単層		×		
79・87	17次	6区	下層上面	SK	611	6I-2A18	縄文	0.33	(0.32)	0.14	2.42	円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	612	6I-2A12・13	縄文	(0.44)	0.43	0.14	2.50	方形	弧状	単層	SI262に切られる。	×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	617	6I-2A16・17	縄文	0.36	0.32	0.09	2.50	円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	626	6I-1A19	縄文	0.71	0.49	0.12	2.56	楕円形	弧状	レンズ状		×		
80・89	17次	6区	下層上面	SK	627	6I-1B18・23	縄文	0.56	(0.46)	0.12	2.43	方形	弧状	単層	SK628を切る。	×		
80・89	17次	6区	下層上面	SK	628	6I-1B18・19・23・24	縄文	0.79	0.70	0.11	2.44	円形	弧状	単層	SK627に切られる。	×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	629	6I-1B12	縄文	0.33	0.32	0.11	2.45	円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	632	5I-10B21、6I-1B1	縄文	(0.76)	0.55	0.10	2.46	楕円形	弧状	単層	SI93を切る。	○	181	
79・89	17次	6区	下層上面	SK	634	6I-2A17・22	縄文	(0.56)	0.45	0.13	2.44	円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	635	6H-2J20	縄文	0.38	(0.35)	0.13	2.37	円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	637	6H-2J20・25、6I-2A16・21	縄文	(0.52)	0.32	0.11	2.42	楕円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	638	6I-2B2	縄文	0.50	0.38	0.18	2.39	円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	641	6I-2A18・19・23・24	縄文	0.60	0.33	0.13	2.40	楕円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	642	6I-2A18・19	縄文	0.38	(0.35)	0.16	2.41	円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	644	6I-2B7	縄文	(0.46)	(0.39)	0.14	2.45	方形	弧状	単層	P728に切られる。	×		
79・89	17次	6区	下層上面	SK	645	6I-2B1・2	縄文	0.56	0.48	0.16	2.44	円形	弧状	水平		×		
79・90	17次	6区	下層上面	SK	646	6I-2B1	縄文	0.52	0.46	0.07	2.52	円形	弧状	単層	SK647を切る。	×		
79・90	17次	6区	下層上面	SK	647	6I-2B1・6	縄文	0.86	0.67	0.16	2.44	楕円形	弧状	単層	SK646に切られる。	×		
79・90	17次	6区	下層上面	SK	653	6I-2B1	縄文	0.49	0.38	0.13	2.47	楕円形	弧状	単層		×		
79・90	17次	6区	下層上面	SK	656	6I-1A14・15	縄文	0.67	0.61	0.10	2.53	方形	V字状	単層		×		
79・90	17次	6区	下層上面	SK	657	6I-1A5	縄文	0.67	0.57	0.11	2.53	方形	弧状	レンズ状		×		
79・90	17次	6区	下層上面	SK	658	6I-3A2	縄文	0.50	(0.45)	0.17	2.47	円形	弧状	水平		×		
79・90	17次	6区	下層上面	SK	659	6I-3A2	縄文	0.42	0.37	0.10	2.55	円形	弧状	水平		×		
79・90	17次	6区	下層上面	SK	660	6I-3A2・3	縄文	0.38	0.29	0.10	2.54	円形	弧状	単層		×		
79・90	17次	6区	下層上面	SK	664	6I-1B7	縄文	0.35	0.30	0.11	2.41	方形	弧状	単層		×		
80・90	17次	6区	下層上面	SK	666	6I-1B23	縄文	0.41	(0.34)	0.08	2.46	円形	弧状	単層		×		
80・90	17次	6区	下層上面	SK	668	6I-1B23・24	縄文	(0.35)	0.34	0.07	2.43	円形	弧状	単層	P667に切られる。	×		
80・90	17次	6区	下層上面	SK	669	6I-1B24	縄文	0.40	0.36	0.09	2.40	円形	弧状	単層		○		
80・90	17次	6区	下層上面	SK	671	6I-2B4	縄文	0.43	0.32	0.07	2.39	円形	弧状	単層		×		
79・90・91	17次	6区	下層上面	SK	673	6I-1B6	縄文	0.50	0.38	0.12	2.42	円形	弧状	レンズ状	SK703、SC191を切る。	×		
79・84	17次	6区	下層上面	SK	676	6I-1B21・22	縄文	0.47	(0.40)	0.08	2.52	円形	弧状	単層	P675に切られる。	×		

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
				種別	番号			上端		深度		平面	断面					
								長軸	短軸									
79・90	17次	6区	下層 上面	SK	677	6I-1B21・22	縄文	0.30	0.30	0.07	2.52	円形	弧状	単層		×		
79・90	17次	6区	下層 上面	SK	678	6I-1B22	縄文	(0.55)	(0.33)	0.07	2.52	楕円形	弧状	単層		×		
79・80・90	17次	6区	下層 上面	SK	680	6I-1B22、2B2	縄文	0.38	0.36	0.08	2.47	円形	弧状	単層		×		
79・80・91	17次	6区	下層 上面	SK	681	6I-1B22・23、2B2・3	縄文	0.36	0.32	0.10	2.46	円形	弧状	単層	SK682を切る。	×		
79・80・91	17次	6区	下層 上面	SK	682	6I-1B22	縄文	(0.53)	0.42	0.11	2.43	楕円形	弧状	単層	SK681に切られる。	×		
79・80・91	17次	6区	下層 上面	SK	683	6I-1B23、2B3	縄文	0.40	0.28	0.07	2.48	楕円形	弧状	単層		○		
80・91	17次	6区	下層 上面	SK	685	6I-1B24、2B4	縄文	0.31	0.26	0.05	2.36	円形	弧状	単層		×		
80・91	17次	6区	下層 上面	SK	686	6I-1B24	縄文	0.33	0.31	0.09	2.33	円形	台形状	水平	SK689を切る。	×		
80・91	17次	6区	下層 上面	SK	689	6I-1B24	縄文	0.45	0.37	0.07	2.36	楕円形	弧状	単層	SK686に切られる。	×		
80・91	17次	6区	下層 上面	SK	690	6I-1B19	縄文	0.32	0.25	0.09	2.41	楕円形	弧状	単層		×		
79・91	17次	6区	下層 上面	SK	691	6I-1B1	縄文	0.32	0.29	0.09	2.47	円形	弧状	水平		×		
79・80・91	17次	6区	下層 上面	SK	695	6I-1B23	縄文	0.38	0.29	0.04	2.46	楕円形	弧状	単層		×		
79・91	17次	6区	下層 上面	SK	697	6I-1B22	縄文	(0.26)	(0.22)	0.10	2.45	円形	弧状	単層		×		
79・91	17次	6区	下層 上面	SK	700	6H-2J20	縄文	0.40	0.31	0.08	2.44	方形	弧状	単層	SK212を切る。	×		
79・91	17次	6区	下層 上面	SK	701	6H-2J20	縄文	0.31	0.29	0.07	2.44	円形	弧状	単層	SK212を切る。	×		
79・80・91	17次	6区	下層 上面	SK	702	6I-1B12・17	縄文	0.30	0.26	0.10	2.43	円形	弧状	単層		×		
79・91	17次	6区	下層 上面	SK	703	6I-1B6・7	縄文	(0.32)	(0.24)	0.07	2.46	円形	弧状	単層	SC191を切る。SK673に切られる。	×		
80・91	17次	6区	下層 上面	SK	705	6I-1B19	縄文	0.45	0.42	0.12	2.36	円形	弧状	水平		×		
79・91	17次	6区	下層 上面	SK	710	6I-1B7	縄文	0.43	0.30	0.07	2.47	楕円形	弧状	単層	SC191を切る。	×		
79・91	17次	6区	下層 上面	SK	711	6I-1B7	縄文	0.37	0.28	0.07	2.47	方形	弧状	単層	SC191を切る。	×		
79・80・91	17次	6区	下層 上面	SK	712	6I-1B7	縄文	0.38	0.32	0.10	2.40	円形	弧状	単層	SC191を切る。	×		
79・80・91	17次	6区	下層 上面	SK	719	6I-2B8	縄文	0.24	0.22	0.06	2.40	円形	弧状	単層		×		
80・92	17次	6区	下層 上面	SK	724	6I-2B3・4	縄文	0.36	0.31	0.07	2.39	円形	弧状	単層	P725を切る。	×		
79・92	17次	6区	下層 上面	SK	726	6I-2A22	縄文	0.67	0.50	0.12	2.46	楕円形	弧状	単層		×		
79・92	17次	6区	下層 上面	SK	727	6I-2A22、3A2	縄文	(0.44)	(0.40)	0.14	2.48	円形	弧状	単層		×		
79・80・92	17次	6区	下層 上面	SK	731	6I-2B8	縄文	0.30	0.28	0.07	2.39	円形	弧状	単層		×		
80・82	17次	6区	下層 上面	SK	734	6I-4B9・14	縄文	0.45	0.39	0.34	2.14	円形	弧状	ブロック状	SD259を切る。	×		
79・81・92	17次	6区	下層 上面	SK	741	6H-4J4	縄文	(0.60)	0.51	0.18	2.48	方形	V字状	レンズ状		×		
96・98	19次	6区	下層 中面	SK	748	6I-2B16・17・21・22	縄文	(0.97)	0.76	0.31	1.95	楕円形	V字状	水平		○	234	
97・98	19次	6区	下層 中面	SK	749	6I-2B13・14・18・19	縄文	(0.96)	0.45	0.26	2.08	楕円形	V字状	レンズ状	SD791を切る。	×		
96・98	19次	6区	下層 中面	SK	775	6I-1B17	縄文	0.43	0.39	0.21	2.24	楕円形	台形状	レンズ状		×		
79・92	19次	6区	下層 上面	SK	788	6I-1A24・25、2A4・5	縄文	0.49	0.46	0.55	1.84	円形	袋状	ブロック状		○		
96・98	19次	6区	下層 中面	SK	790	6I-2B6・7	縄文	0.70	0.58	0.14	2.14	円形	弧状	単層		○	235	
79・92	19次	6区	下層 上面	SK	796	6I-1A24	縄文	(0.44)	0.40	0.15	2.27	円形	弧状	単層		×		
96～98	19次	6区	下層 中面	SK	801	6I-2B12	縄文	0.45	0.38	0.20	2.06	方形	半円状	レンズ状		×		
96・98	19次	6区	下層 中面	SK	803	6I-2A5、2B1	縄文	0.62	0.50	0.12	2.34	円形	弧状	単層	SK804を切る。	×		
96・98	19次	6区	下層 中面	SK	804	6I-2B1	縄文	0.40	0.38	0.11	2.35	円形	弧状	単層	SK803に切られる。	×		
96	19次	6区	下層 中面	SK	810	6I-1A14・15	縄文	0.59	0.39	－	－	楕円形	－	－	SX763を切る。	×		
97・98	19次	6区	下層 中面	SK	816	6I-2B24	縄文	(0.50)	(0.48)	0.09	2.10	円形	弧状	単層	SX829を切る。	×		
97・98	19次	6区	下層 中面	SK	817	6I-1B14・19	縄文	(0.85)	(0.68)	0.10	2.14	楕円形	弧状	レンズ状	SX821、SD290を切る。	○	236	
96・98	19次	6区	下層 中面	SK	825	6I-2B6	縄文	0.53	(0.48)	0.06	2.24	円形	弧状	単層		×		
96・98	19次	6区	下層 中面	SK	826	6I-2B6	縄文	0.39	0.36	0.30	1.99	円形	U字状	単層		×		
96・98	19次	6区	下層 中面	SK	834	6I-2A23・24	縄文	0.83	0.62	0.14	2.16	楕円形	台形状	レンズ状	SX867を切る。	○	237・238	
96・99	19次	6区	下層 中面	SK	835	6I-2A9	縄文	(0.45)	(0.40)	0.07	2.28	円形	弧状	単層	P836に切られる。	×		
96・99	19次	6区	下層 中面	SK	841	6I-2A9	縄文	0.72	0.57	0.13	2.26	楕円形	弧状	単層		○		
96・99	19次	6区	下層 中面	SK	850	6I-2A24、3A3・4	縄文	1.23	1.03	0.32	1.99	円形	弧状	ブロック状	SX867を切る。	×		
79・92	19次	6区	下層 上面	SK	854	6I-2A19	縄文	0.41	(0.40)	0.08	2.19	円形	弧状	単層	SC879を切る。	○		
96・97・99	19次	6区	下層 中面	SK	858	6I-3B3・8	縄文	0.61	0.41	0.07	2.03	方形	弧状	単層		×		
97・99	19次	6区	下層 中面	SK	859	6I-3B3・4	縄文	0.41	0.36	0.12	1.96	円形	弧状	単層		×		
97・99	19次	6区	下層 中面	SK	860	6I-3B18・23	縄文	1.09	0.84	0.18	1.92	楕円形	弧状	レンズ状		×		
79・80・92	19次	6区	下層 上面	SK	861	6I-2B2	縄文	(0.60)	0.57	0.16	2.16	円形	台形状	レンズ状		×		
79・92	19次	6区	下層 上面	SK	863	6I-2B1	縄文	0.56	0.51	0.25	2.04	円形	半円状	レンズ状		○	182	
96	19次	6区	下層 中面	SK	868	6I-2A20・25	縄文	0.36	0.32	－	－	円形	－	－	SX867を切る。	×		
96・99	19次	6区	下層 中面	SK	875	6I-1A13・18	縄文	－	(0.78)	0.22	2.20	円形	台形状	－		○	239・240	
96・99	19次	6区	下層 中面	SK	876	6I-2A10・15	縄文	(1.73)	0.88	0.20	2.09	楕円形	弧状	レンズ状		○	241～245	
80・92	19次	6区	下層 上面	SK	913	6I-2B23・24	縄文	(0.59)	(0.56)	0.16	1.94	円形	弧状	レンズ状		×		
103・108・110	19次	6区	下層 下面	SK	933	6I-1A15、1B11	縄文	0.93	0.67	0.07	2.07	楕円形	弧状	単層		○	305	
103・108	19次	6区	下層 下面	SK	938	6I-1A18	縄文	0.57	0.45	0.28	2.04	楕円形	台形状	水平	SC1191に切られる。	○		
103・108	19次	6区	下層 下面	SK	961	6I-1A25、2A5	縄文	(0.74)	(0.64)	0.14	2.00	円形	弧状	レンズ状		○		
103・108	19次	6区	下層 下面	SK	964	6I-2A15	縄文	0.60	0.52	0.17	1.91	楕円形	弧状	レンズ状		×		
97・99	19次	6区	下層 中面	SK	968	6I-1B20、1C16	縄文	(0.88)	(0.73)	0.26	1.74	円形	弧状	単層	SK969、SD290を切る。	○	246・247	

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構 種別	遺構 番号	グリッド	時代	規模（m） 上端 長軸	規模（m） 上端 短軸	規模（m） 深度	底面標高（m）	形態 平面	形態 断面	堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
97・99	19次	6区	下層 下面	SK	969	6I-1B20、1C16	縄文	(0.74)	(0.58)	0.07	1.91	円形	弧状	単層	SD290を切る。SK968に切られる。	×		
103・108	19次	6区	下層 下面	SK	971	6I-2A18・19	縄文	0.76	0.43	0.23	1.89	楕円形	半円状	レンズ状		○		
103・108	19次	6区	下層 下面	SK	977	6I-2A5、2B1	縄文	1.27	(0.92)	0.26	1.85	楕円形	弧状	レンズ状	F1022を切る。	○	303・306・307・382	
103・106・108	19次	6区	下層 下面	SK	979	6I-2A9・14	縄文	(0.50)	(0.40)	0.20	1.90	円形	台形状	レンズ状	SK1211を切る。	×		
103・104・108	19次	6区	下層 下面	SK	983	6I-2B22・23	縄文	0.61	0.53	0.16	1.76	方形	弧状	単層		○	308	
103・104	19次	6区	下層 下面	SK	984	6I-2B23、3B3	縄文	(0.81)	(0.49)	−	−	楕円形	−	−		○	309	
103・104	19次	6区	下層 下面	SK	986	6I-3B2・3	縄文	(0.36)	0.32	−	−	方形	−	−		×	383	
103・104・108	19次	6区	下層 下面	SK	987	6I-3B3	縄文	1.08	0.67	0.13	1.72	楕円形	弧状	単層		○	310	
103・104	19次	6区	下層 下面	SK	991	6I-3B3・8	縄文	(0.28)	0.24	−	−	円形	−	−		×		
104・109	19次	6区	下層 下面	SK	992	6I-3B9	縄文	(0.43)	(0.41)	0.17	1.71	円形	弧状	単層		×		
103・109	19次	6区	下層 下面	SK	993	6I-3B1・2	縄文	0.79	0.52	0.13	1.54	楕円形	弧状	単層	SK1093を切る。	×		
96・99	19次	6区	下層 中面	SK	995	6H-2J14・15・19・20	縄文	1.05	0.89	0.27	2.11	円形	弧状	ブロック状		○	248・249	
103・109	19次	6区	下層 下面	SK	999	6I-2A2	縄文	0.64	0.56	0.18	1.94	円形	箱状	レンズ状	SK1007を切る。	×	384	
103・109	19次	6区	下層 下面	SK	1007	6I-2A2・7	縄文	(0.57)	0.50	0.10	2.02	円形	弧状	単層	SK999に切られる。	×		
104・109	19次	6区	下層 下面	SK	1009	6I-1C16・21	縄文	(0.52)	0.45	0.09	1.61	円形	弧状	単層		×		
103	19次	6区	下層 下面	SK	1012	6I-2A8	縄文	0.38	0.30	−	−	円形	−	−		×		
103・109	19次	6区	下層 下面	SK	1031	6I-2A8・9	縄文	0.73	0.43	0.17	1.91	楕円形	半円状	水平		×		
103・105・109	19次	6区	下層 下面	SK	1046	6I-2A4	縄文	(0.59)	(0.44)	0.17	1.97	楕円形	弧状	レンズ状		×		
103・109	19次	6区	下層 下面	SK	1052	6I-2A10、2B6	縄文	(0.48)	(0.36)	0.13	1.88	円形	弧状	レンズ状		○	311～313	
103・107・109	19次	6区	下層 下面	SK	1058	6I-2A15・20	縄文	(0.75)	(0.53)	0.26	1.76	楕円形	弧状	レンズ状	SX1056に切られる。	○	385	
103・109	19次	6区	下層 下面	SK	1061	6I-1A14・19	縄文	(0.98)	(0.68)	0.20	1.99	楕円形	V字状	レンズ状		×	386	
103・106・109	19次	6区	下層 下面	SK	1073	6I-2B11・16	縄文	(0.41)	0.35	0.17	1.82	円形	弧状	単層		×		
103・105・110	19次	6区	下層 下面	SK	1074	6I-2A20	縄文	0.53	(0.46)	0.20	1.74	円形	弧状	単層	SX1056を切る。	×		
103・110	19次	6区	下層 下面	SK	1076	6I-2A5・10	縄文	(0.94)	(0.82)	0.24	1.75	楕円形	弧状	斜位		○	314～316	
103・110	19次	6区	下層 下面	SK	1078	6I-2A10	縄文	(0.61)	0.43	0.10	1.96	方形	弧状	単層		×		
103・110	19次	6区	下層 下面	SK	1083	6I-2B21	縄文	(0.42)	0.38	0.09	1.86	円形	弧状	単層		×		
103・110	19次	6区	下層 下面	SK	1088	6I-2B11・12・16・17	縄文	0.38	(0.33)	0.09	1.87	円形	弧状	単層		○	303	
103・110	19次	6区	下層 下面	SK	1093	6I-3B1	縄文	(0.56)	(0.40)	0.08	1.76	楕円形	弧状	単層	SK993に切られる。	○		
103・104	19次	6区	下層 下面	SK	1106	6I-3B8	縄文	(0.51)	(0.32)	−	−	楕円形	−	−		×		
103・110	19次	6区	下層 下面	SK	1133	6I-2A4	縄文	(0.39)	(0.32)	0.16	1.93	円形	弧状	単層	F1057に切られる。	×		
103・106・110	19次	6区	下層 下面	SK	1134	6I-2A9	縄文	(0.84)	(0.60)	0.15	1.93	楕円形	弧状	単層		○	387	
103・110	19次	6区	下層 下面	SK	1138	6I-2A14・15	縄文	0.40	(0.37)	0.12	1.88	円形	弧状	レンズ状		○	303・317	
103・110	19次	6区	下層 下面	SK	1144	6I-2A4	縄文	(0.57)	(0.54)	0.19	1.90	円形	弧状	単層		×		
103・110	19次	6区	下層 下面	SK	1152	6I-2A1	縄文	(0.59)	(0.37)	0.28	1.67	楕円形	台形状	ブロック状	SX1120を切る。	×		
103・105・111	19次	6区	下層 下面	SK	1160	6I-2A9・14	縄文	1.07	0.61	0.11	1.87	楕円形	弧状	単層		○	318	
104・111	19次	6区	下層 下面	SK	1162	6I-3B5	縄文	(0.42)	(0.39)	0.18	1.47	円形	V字状	単層		×		
103・111	19次	6区	下層 下面	SK	1168	6I-1A17・18・22・23	縄文	0.57	(0.46)	0.13	2.00	楕円形	半円状	レンズ状		×		
104・111	19次	6区	下層 下面	SK	1183	6I-2C17・18	縄文	0.38	0.33	0.13	1.51	円形	弧状	単層		×		
103・111	19次	6区	下層 下面	SK	1189	6I-1A24・25、2A4・5	縄文	(1.18)	0.90	0.08	1.81	円形	弧状	単層	F922を切る。	○	319～327・388	
103・111	19次	6区	下層 下面	SK	1197	6I-2A3・4	縄文	(1.23)	(1.00)	0.23	1.85	楕円形	弧状	レンズ状	SK1081を切る。	○		
103・111	19次	6区	下層 下面	SK	1203	6I-2A3・8	縄文	(0.96)	(0.61)	0.28	1.79	楕円形	台形状	レンズ状	P1141に切られる。	×		
103・111	19次	6区	下層 下面	SK	1207	6I-2A9	縄文	(0.54)	(0.43)	0.14	1.88	楕円形	弧状	単層		×		
103	19次	6区	下層 下面	SK	1210	6I-1A23	縄文	(0.33)	0.23	−	−	楕円形	−	−		×		
103・105・111	19次	6区	下層 下面	SK	1211	6I-2A9・14	縄文	0.67	(0.66)	0.13	1.82	円形	弧状	単層	SK979に切られる。	×		
116・117	17次	7区	下層 −	SK	25	7I-5J11	縄文	(0.70)	0.58	0.23	2.38	楕円形	台形状	水平	SX77に切られる。	×		

性格不明遺構（SX 下層）

図版番号	調査回数	調査区	層位	遺構 種別	遺構 番号	グリッド	時代	規模（m） 上端 長軸	規模（m） 上端 短軸	規模（m） 深度	底面標高（m）	形態 平面	形態 断面	堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
79・80・93	17次	6区	下層 上面	SX	211	6I-2B13	縄文	0.72	(0.53)	0.10	2.31	楕円形	弧状	斜位		×		
80・87	17次	6区	下層 上面	SX	235	6I-3B8・13	縄文	0.90	(0.67)	0.08	2.23	楕円形	弧状	単層		×		
79・93	17次	6区	下層 上面	SX	338	6I-2B22・23、3B2・3	縄文	2.13	1.45	0.24	2.05	楕円形	弧状	レンズ状		×		
79・93	17次	6区	下層 上面	SX	414	6I-2A7・12	縄文	(0.65)	(0.60)	0.13	2.48	方形	弧状	単層	SX416を切る。	×		
79・93	17次	6区	下層 上面	SX	416	6I-2A6・7	縄文	(1.28)	(0.90)	0.17	2.47	楕円形	弧状	単層	SX414、SD600に切られる。	○	183・184	
79・83	17次	6区	下層 上面	SX	601	6I-1A17・18・21～23、2A1・2	縄文	6.00	−	0.16	2.55	−	弧状	水平		×		
80・93	17次	6区	下層 上面	SX	623	6I-2B4・9・10・15	縄文	−	0.96	0.08	2.34	不整形	弧状	単層		×		
80・93	17次	6区	下層 上面	SX	624	6I-2B4・5・10	縄文	1.13	0.33	0.07	2.27	楕円形	弧状	単層		×		
96・100	17次	6区	下層 中面	SX	639	6I-2A23・24、3A3・4	縄文	(1.62)	(1.13)	0.40	2.02	楕円形	階段状	水平		×	300	

図版番号	調査回数	調査区	層位		遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
					種別	番号			上端		深度		平面	断面					
									長軸	短軸									
80	17次	6区	下層	上面	SX	733	6I-2B20・25、2C16・17・21～24、3B5・9・10・13～15・18～20・23～25、3C1～9・11～14・16～18・21・22、4B4・5、4C1	縄文	－	－	0.26	1.91	－	－	－	SX752、SD290に切られる。	○	185・223	
82・93	17次	6区	下層	上面	SX	736	6I-4B24・25、5B4	縄文	1.42	1.32	0.31	2.21	不整形	弧状	単層	SD593に切られる。	×		
81・93	17次	6区	下層	上面	SX	740	6H-4I14	縄文	1.32	0.90	0.32	2.50	楕円形	台形状	ブロック状		×		
81・83	17次	6区	下層	上面	SX	742	6H-4I18・23・24、5I3～5・8～10・15・20、5J6・11・12・16・17・21・22	縄文	－	2.45	0.28	2.58	不整形	弧状	水平		×		
79	17次	6区	下層	上面	SX	747	6H-2J15	縄文					－	－	－	SD600に切られる。	○		
96～98	19次	6区	下層	中面	SX	750	6I-2B12・13・17・18	縄文	1.29	(1.08)	0.27	2.00	円形	台形状	レンズ状	SD791を切る。	○	250	
80・82	17次	6区	下層	上面	SX	752	6I-3C4・5・9・10・14・15・17～25、3D1・6・11・16、4C1～9・12～14・18・19・22～24、5C2～4	縄文	－	7.52	0.18	2.02	－	－	－	SX733､SD259を切る。SD290に切られる。	×		
96・100	19次	6区	下層	中面	SX	763	6I-1A14・15・19・20・25、1B11・16・21	縄文	4.85	(3.80)	0.20	1.61	楕円形	弧状	ブロック状	SK810に切られる。	○	251	
79	19次	6区	下層	上面	SX	773	6I-1A15・20	縄文	(0.39)	0.31	0.05	2.46	円形	－	－		×		
96・100	19次	6区	下層	中面	SX	774	6I-1B21	縄文	(0.66)	0.64	0.05	2.38	円形	弧状	単層		×		
96・97・100	19次	6区	下層	中面	SX	778	6I-1B13	縄文	0.62	0.20	0.15	2.22	楕円形	U字状	レンズ状		×		
97・100	19次	6区	下層	中面	SX	784	6I-2C6・11	縄文	1.12	0.64	0.14	2.04	不整形	V字状	単層	SD290を切る。	○		
97	19次	6区	下層	中面	SX	821	6I-1B14・19・20・24・25	縄文	－	0.50	0.07	2.24	不整形	弧状	レンズ状	SD290を切る。SK817に切られる。	×		
96	19次	6区	下層	中面	SX	829	6I-2B11・12・16～19・22～25、3B4・5	縄文	－	1.17	0.04	2.18	不整形	弧状	単層	SK816、SD791に切られる。	×		
79・92・94	19次	6区	下層	上面	SX	847	6I-2A19	縄文	0.96	0.87	0.12	2.17	円形	弧状	単層	SC879を切る。	×		
97・100	19次	6区	下層	中面	SX	855	6I-3B4	縄文	0.92	0.38	0.13	1.96	楕円形	弧状	単層		×		
96・97	19次	6区	下層	中面	SX	867	6I-1A21・22、2A1～3・7～9・12～15・18～20・23～25、2B11・16・21、3A4・5・9・10・15、3B1・6・7・11・12・16～18・21～24	縄文	－	4.93	－	－	－	－	－	SK834・850・854・868、P885に切られる。	○	252～254	
103・112	19次	6区	下層	下面	SX	1056	6I-2A15・20	縄文	(1.20)	0.78	－	－	楕円形	台形状	－	SK1058を切る。SK1074に切られる。	○	328～330	
103・112	19次	6区	下層	下面	SX	1120	6I-1A21・22、2A1・2	縄文	－	1.90	0.14	1.90	－	弧状	レンズ状	SK1152、P1158に切られる。	○	331	
116	17次	7区	下層	－	SX	77	7I-4I18・19・23～25、5H9・10・14・15・20、5I3・4・6～25、5J6・11・12・16・17・21、6I2～5、6J1・2・6～8・12～14・18・19	縄文	－	－	0.18	2.59	不整形	弧状	レンズ状	SK25を切る。	○	144	
116・117	17次	7区	下層	－	SX	79	7I-4H7・8・11～20・22～25、4I1・6・11	縄文	－	－	0.38	2.51	不整形	－	－	SX231に切られる。	×		
116・117	17次	7区	下層	－	SX	227	7I-4I11	縄文	0.62	0.48	0.15	2.65	円形	V字状	単層		○		
116・117	17次	7区	下層	－	SX	228	7I-4H20、4I16	縄文	0.69	0.52	0.15	2.62	円形	V字状	単層		×		
116・117	17次	7区	下層	－	SX	230	7I-4I11	縄文	0.36	0.31	0.02	2.75	円形	弧状	単層		○		
116・117	17次	7区	下層	－	SX	231	7I-4H15・20	縄文	0.85	0.84	0.25	2.55	円形	漏斗状	レンズ状	SX79を切る。	×		
116・117	17次	7区	下層	－	SX	232	7I-4I11	縄文	0.35	0.30	0.07	2.68	円形	弧状	単層		×		

溝（SD　下層）

図版番号	調査回数	調査区	層位		遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
					種別	番号			上端		深度		平面	断面					
									長軸	短軸									
80・83	17次	6区	下層	上面	SD	252	6I-1C23～25、2C4・5・9・10、2D1・2・6～9・11～15・17～19・23・24	縄文	－	－	0.39	1.69	－	弧状	レンズ状	SD290を切る。	○		
79・82・85・88	17次	6区	下層	上面	SD	259	6I-1A10・15・20・25、1B6・11・16・21、2A4・5・9・10・15・20・25、2B1・6・11・16・21、3A5・9・10・14・15・19・20・25、3B1・6・7・11・12・16・17・21・22・23、4A5・10、4B1～3・6～10・12～15・18～20・24・25、4C1・6・11・12・16・17・21・22、5C1・2	縄文	－	5.57	0.31	2.21	－	弧状	水平	SD401を切る。SI262、SK734・752、SD593に切られる。	○	170・186～190	
79・80・83	17次	6区	下層	上面	SD	290	5I-10B21、6I-1B1・2・7～9・12～15・19・20・24・25、1C11・16～18・21～24、2B5、2C1～15・18～20・23～25、2D1・6～8・11～13・16～19・21～24、3C4・5、3D1～3・6～9・12・13・17・18	縄文	－	6.92	0.54	1.64	－	弧状	レンズ状	SX733・752を切る。SD252に切られる。	○	191～194	
96・97	19次	6区	下層	中面	SD	290	5I-10A25、10B21、6I-1A5、1B1～3・7～9・12～15・19・20・24・25、1C11・16・17・21～23、2B5、2C1～4・6～10・12～15・18～20・24・25、2D11・16・17・21～23、3C5、3D1～3・6～8	縄文	－	4.46	－	－	－	－	－	SK817・968・969、SX784・821、SC783に切られる。	×		
79・81・82	17次	6区	下層	上面	SD	304	6H-3J7・8・12・13・18・19・23・24、4J3～5・8～10・13～15・19・20・24・25、5J5、6I-4A6・11・16・21、5A1	縄文	－	4.78	0.25	2.56	－	弧状	レンズ状	SD305を切る。	○		
79・82	17次	6区	下層	上面	SD	305	6H-3J12・17・18・22・23、4J2・3・8・13	縄文	－	1.53	0.15	2.63	－	弧状	単層	SD322を切る。SD304に切られる。	×		
79・82	17次	6区	下層	上面	SD	322	6H-3J11・12・16・17・22、4J2・3	縄文	－	0.50	0.19	2.60	－	弧状	単層	SD738を切る。SD305に切られる。	×		
79・82・85	17次	6区	下層	上面	SD	401	6I-1A20・24・25、2A4・5・9・14・15・19・20	縄文	－	－	0.25	2.43	－	弧状	単層	SI262、SD259に切られる。	○		
79・82・83	17次	6区	下層	上面	SD	593	6H-2J19・20・23～25、3J3～5・8～10・14・15・19・20・25、6I-3A1・6・11・16・17・21～23、4A1～4・7～10・14・15、4B6・7・11～13・17～20・24・25、4C21、5B5、5C1	縄文	－	4.12	0.47	2.22	－	弧状	レンズ状	SX736､SD259を切る。SD600に切られる。	○	195・196	
79・83・93	17次	6区	下層	上面	SD	600	6H-2J14・15・19・20、6I-1A8・9・13・14・18・19・22～24、2A1～4・6・7・11・16	縄文	－	1.90	0.27	2.37	－	弧状	単層	SX416・747、SD593を切る。	○	197～200	
79・81・83	17次	6区	下層	上面	SD	738	6H-3J21・22、4I5、4J1・2・6・7・12・13・17・18・23	縄文	－	1.25	0.14	2.70	－	弧状	単層	SD322に切られる。	×		
81・83	17次	6区	下層	上面	SD	739	6H-4I9・14・15・20、4J16・21	縄文	－	1.00	0.11	2.70	－	弧状	単層		×		
96・97	19次	6区	下層	中面	SD	791	5I-10A24・25、6I-1A4・5・10、1B1・6・7・11・12・16・17・22・23、2B2・3・7～9・12～15・18～20・24・25、2C16・21、3B5、3C1・6・7・11・12・16・17・22・23、4C2・3	縄文	－	3.45	0.24	2.04	－	弧状	水平	SX829を切る。SK749､SX750に切られる。	×		

炭化物集中遺構（SC　下層）

図版番号	調査回数	調査区	層位		遺構		グリッド	縄文	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
					種別	番号			上端		深度		平面	断面					
									長軸	短軸									
79・80	17次	6区	下層	上面	SC	174	5I-10B21、6I-1B1～3・7～9・12～14・16～19・21～23	縄文	－	－	－	－	不整形	－	－		○	170・201～206	
80・86	17次	6区	下層	上面	SC	186	6I-2B3・8	縄文	(0.52)	(0.50)	0.12	2.38	円形	弧状	レンズ状		×		
79	17次	6区	下層	上面	SC	191	6I-1B6・7・11・12	縄文	3.88	2.12	0.16	2.48	不整形	－	－	SK673・703・710・711・712に切られる。	○		
79・94	17次	6区	下層	上面	SC	243	6I-2B16・17	縄文	1.28	0.92	0.17	2.32	楕円形	弧状	単層		×		
80	17次	6区	下層	上面	SC	271	6I-1B9・14・15・20	縄文	－	1.28	－	－	不整形	－	－		○	224	
80・94	17次	6区	下層	上面	SC	687	6I-1B14	縄文	1.03	0.53	0.14	2.11	楕円形	V字状	単層		○	207	
80・94	17次	6区	下層	上面	SC	688	6I-1B14・15	縄文	0.68	0.24	0.04	1.92	楕円形	弧状	単層		×		
97	19次	6区	下層	中面	SC	783	6I-1C16	縄文	0.42	0.28	－	－	円形	－	－		○	255	
96	19次	6区	下層	中面	SC	800	6I-1A19・24	縄文	0.55	0.44	0.04	2.40	円形	弧状	単層		×		
96・101	19次	6区	下層	中面	SC	802	6I-1A24	縄文	0.85	0.54	0.12	2.33	不整形	弧状	レンズ状		×		
96	19次	6区	下層	中面	SC	805	6I-1A19	縄文	0.71	0.67	－	－	不整形	－	－		×		
97	19次	6区	下層	中面	SC	819	6I-3C9	縄文	(0.62)	(0.51)	0.09	1.86	円形	弧状	レンズ状		×		
96	19次	6区	下層	中面	SC	827	6I-2A8・9・13・14	縄文	0.33	0.30	－	－	円形	－	－		×		
97・101	19次	6区	下層	中面	SC	840	6I-2C22・23,3C3	縄文	(0.78)	0.60	0.04	1.85	楕円形	弧状	単層		×		
97	19次	6区	下層	中面	SC	843	6I-2C17	縄文	(1.43)	(0.76)	0.08	1.86	楕円形	弧状	単層		×		
79・94	19次	6区	下層	上面	SC	879	6I-2A19・20・24・25	縄文	2.58	2.20	0.09	2.15	不整形	－	－	SK854、SX847に切られる。	○	208	
104	19次	6区	下層	下面	SC	910	6I-1C16	縄文	(1.30)	(0.83)	0.09	1.82	不整形	弧状	単層		×		
96	19次	6区	下層	中面	SC	917	6I-1B22	縄文	0.69	0.26	0.03	2.13	楕円形	弧状	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	919	6I-1A13・14・18・19	縄文	1.11	0.94	0.05	2.11	不整形	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	923	6I-1A24	縄文	0.57	0.46	－	－	円形	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	925	6I-1A18・23	縄文	－	(0.31)	－	－	不整形	－	－		×		
96・101	19次	6区	下層	中面	SC	926	6I-1A24	縄文	0.81	(0.47)	0.03	2.13	不整形	弧状	単層		×		
96・101	19次	6区	下層	中面	SC	927	6I-1A24	縄文	(0.37)	0.27	0.04	2.13	楕円形	弧状	単層		×		
96・101	19次	6区	下層	中面	SC	928	6I-1A23・24	縄文	0.45	0.37	0.03	2.15	円形	弧状	単層		×		
103・112	19次	6区	下層	下面	SC	930	6I-1A23	縄文	(0.76)	(0.53)	0.06	2.15	円形	弧状	水平		○	332	
96・101	19次	6区	下層	中面	SC	931	6I-1A24	縄文	(0.63)	(0.39)	0.04	2.34	楕円形	弧状	単層		×		
104	19次	6区	下層	下面	SC	934	6I-1B25、1C21	縄文	(1.45)	(1.02)	0.04	1.85	楕円形	－	－		×		
103・112	19次	6区	下層	下面	SC	939	6I-1A17・18・22・23	縄文	0.58	0.37	0.03	2.23	不整形	弧状	レンズ状		×		
103・112	19次	6区	下層	下面	SC	940	6I-1A17・18	縄文	1.07	0.67	0.03	2.20	楕円形	弧状	単層		○	333	
103・112	19次	6区	下層	下面	SC	943	6I-1A22・23	縄文	(0.69)	0.61	0.06	2.13	円形	弧状	単層		×		
104	19次	6区	下層	下面	SC	950	6I-1B20	縄文	(0.62)	(0.34)	－	－	楕円形	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	1004	6I-1A18	縄文	(0.75)	(0.58)	－	－	楕円形	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	1024	6I-2A9	縄文	(0.66)	(0.47)	－	－	楕円形	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	1033	6I-1A24	縄文	0.53	－	－	－	不整形	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	1050	6I-1A24	縄文	－	0.16	－	－	不整形	－	－		×		
103・113	19次	6区	下層	下面	SC	1089	6I-2B11・12	縄文	(0.73)	(0.50)	0.04	1.92	楕円形	弧状	単層	P1099を切る。	×		
103・112	19次	6区	下層	下面	SC	1107	6I-2A20	縄文	(0.80)	(0.57)	0.04	1.94	楕円形	弧状	単層		○	334～339	
103	19次	6区	下層	下面	SC	1110	6I-1A13	縄文	0.33	0.26	－	－	円形	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	1128	6I-2A14・15	縄文	(0.68)	0.33	0.09	1.87	楕円形	弧状	水平		○		
103・112	19次	6区	下層	下面	SC	1153	6I-1A14・15・19・20	縄文	1.12	1.02	0.18	1.91	円形	－	－		○	340	
103	19次	6区	下層	下面	SC	1163	6I-1A24	縄文	0.77	0.23	－	－	楕円形	弧状	レンズ状		×		
103・112	19次	6区	下層	下面	SC	1179	6I-1A19	縄文	(0.43)	0.22	0.07	2.05	楕円形	弧状	単層		○	341	
103	19次	6区	下層	下面	SC	1181	6I-1A22	縄文	0.87	0.59	－	－	不整形	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	1184	6I-1A14	縄文	1.17	0.66	0.12	1.73	不整形	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	1191	6I-1A13・17・18	縄文	0.77	－	0.06	2.15	－	－	－	SK938を切る。	×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	1194	6I-1A13	縄文	0.44	－	0.20	2.09	－	－	－		×		
103	19次	6区	下層	下面	SC	1195	6I-1A9・14	縄文	0.40	0.26	0.07	1.93	円形	V字状	単層		×		
103・112	19次	6区	下層	下面	SC	1212	6I-2B6・11・12	縄文	(0.70)	(0.62)	0.05	1.72	円形	弧状	単層		×		

焼土集中遺構（F　下層）

掲載	調査回数	調査区	層位	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
				遺物番号	番号			上端 長軸	上端 短軸	深度		平面	断面					
80	17次	6区	下層上面	F	176	6I-1B8・13	縄文	0.38	0.20	－	－	楕円形	－	－		×		
80・86	17次	6区	下層上面	F	178	6I-2B8・13	縄文	1.12	0.77	0.09	2.40	楕円形	弧状	斜位		×		
79	17次	6区	下層上面	F	194	6I-1A15	縄文	0.34	0.33	0.01	2.66	不整形	弧状	単層		×		
79	17次	6区	下層上面	F	201	6I-1A15、1B11	縄文	0.56	0.30	0.06	2.61	楕円形	弧状	レンズ状		×		
79・84・94	17次	6区	下層上面	F	204	6I-1B17・22	縄文	1.20	0.76	0.07	2.48	不整形	弧状	レンズ状		○	225	
79・94	17次	6区	下層上面	F	283	6I-1B6	縄文	0.76	0.50	0.06	2.56	不整形	弧状	単層		×		
80	17次	6区	下層上面	F	285	6I-1B8・9	縄文	0.39	0.38	－	－	不整形	－	－		○		
103・113	19次	6区	下層下面	F	402	6I-2B11	縄文	0.97	(0.50)	0.13	1.92	楕円形	弧状	水平		○	342～346	
80	17次	6区	下層上面	F	433	6I-2B9	縄文	0.43	0.42	0.08	2.34	円形	弧状	レンズ状		×		
103・113	19次	6区	下層下面	F	435	6I-2A3	縄文	(0.79)	(0.59)	0.08	2.08	円形	弧状	レンズ状		×		
84・103	19次	6区	下層下面	F	621	6I-1B16	縄文	(0.38)	(0.30)	0.04	2.34	円形	弧状	単層		×		
79・94	19次	6区	下層上面	F	767	6I-2A3・8	縄文	(0.58)	0.47	0.04	2.34	円形	弧状	単層		×		
96・100	19次	6区	下層上面	F	798	6I-1B16	縄文	(1.25)	(0.83)	0.08	1.62	楕円形	弧状	ブロック状		○		
96	19次	6区	下層中面	F	807	6I-1A18・19	縄文	(1.22)	0.71	0.06	2.38	楕円形	弧状	単層		×		
96	19次	6区	下層中面	F	813	6I-1A18・23	縄文	1.30	1.18	0.11	2.30	不整形	－	－		○		
96・101	19次	6区	下層中面	F	814	6I-1A23・24	縄文	0.47	0.38	0.03	2.34	円形	弧状	単層		×		
96	19次	6区	下層中面	F	848	6I-2A3・8	縄文	0.46	0.30	0.02	2.35	不整形	弧状	単層		×		
96	19次	6区	下層中面	F	849	6I-2A3・4	縄文	0.45	0.37	0.04	2.34	円形	弧状	単層		○		
96・101	19次	6区	下層中面	F	869	6I-2A13	縄文	0.84	(0.53)	0.07	2.19	楕円形	弧状	斜位		×		
96・101	19次	6区	下層中面	F	870	6I-1A22、2A2	縄文	(0.68)	0.37	0.06	2.26	楕円形	台形状	単層		○		
96・101	19次	6区	下層中面	F	872	6I-2A19	縄文	0.77	(0.75)	0.06	2.10	円形	弧状	ブロック状		×		
96・101	19次	6区	下層中面	F	901	6I-2A12・13	縄文	0.43	(0.35)	0.05	2.22	楕円形	弧状	単層		×		
96・101	19次	6区	下層中面	F	903	6I-2A14	縄文	(0.40)	0.28	0.04	2.15	楕円形	弧状	単層		×		
96・101	19次	6区	下層中面	F	908	6I-2A1・6	縄文	(0.48)	0.27	0.04	2.22	楕円形	弧状	単層		○		
97・101	19次	6区	下層中面	F	916	6I-3C10、3D6	縄文	(1.39)	0.82	0.10	1.79	楕円形	台形状	ブロック状		×		
103・113	19次	6区	下層下面	F	921	6I-1A18・19	縄文	(1.30)	(0.95)	0.10	2.17	不整形	弧状	レンズ状		×	347	
103・113	19次	6区	下層下面	F	922	6I-1A24	縄文	0.74	0.55	0.04	2.10	円形	弧状	レンズ状	SK1189に切られる。	×		
103	19次	6区	下層下面	F	924	6I-1A18・23・24	縄文	0.87	0.55	0.05	2.24	楕円形	－	－		×		
96	19次	6区	下層中面	F	929	6I-1A23	縄文	(0.49)	0.32	0.07	2.16	楕円形	弧状	単層		×		
103・113	19次	6区	下層下面	F	935	6I-2A4	縄文	0.65	0.53	0.04	2.14	不整形	弧状	単層		×		
103・113	19次	6区	下層下面	F	941	6I-1A22・23	縄文	1.04	0.65	0.12	2.16	不整形	弧状	ブロック状		×		
103	19次	6区	下層下面	F	951	6I-2A1・6	縄文	－	(12.20)	0.14	1.97	－	弧状	レンズ状		×		
103・114	19次	6区	下層下面	F	955	6I-2A7	縄文	0.83	(0.58)	0.05	2.13	楕円形	弧状	単層		×		
104・114	19次	6区	下層下面	F	1005	6I-1B20、1C16	縄文	(0.69)	(0.52)	0.05	1.69	楕円形	弧状	単層		×		
104・114	19次	6区	下層下面	F	1006	6I-1B25、1C21	縄文	0.45	0.21	0.03	1.66	楕円形	弧状	単層		×		
103・110・114	19次	6区	下層下面	F	1022	6I-2A5・10	縄文	(1.40)	(0.76)	0.08	2.03	不整形	弧状	レンズ状	SK977に切られる。	○		
103・110	19次	6区	下層下面	F	1023	6I-2A10	縄文	0.82	0.58	0.06	2.03	不整形	弧状	水平		○		
103・114	19次	6区	下層下面	F	1032	6I-1A19	縄文	0.69	0.65	0.06	2.16	不整形	弧状	単層		×		
103	19次	6区	下層下面	F	1036	6I-1A23	縄文	0.49	0.25	－	－	楕円形	－	－		×		
103	19次	6区	下層下面	F	1042	6I-1A13・14・・18・19	縄文	1.40	1.07	0.05	2.24	楕円形	－	水平		○	347	
103	19次	6区	下層下面	F	1053	6I-1A23	縄文	(0.58)	0.28	0.09	2.17	楕円形	－	－		○		
103・114	19次	6区	下層下面	F	1055	6I-2A25、2B21	縄文	(1.26)	(0.68)	0.03	1.90	楕円形	弧状	単層		○	348	
103・114	19次	6区	下層下面	F	1057	6I-1A24、2A4	縄文	0.27	0.20	0.02	2.12	円形	弧状	単層		×		
103・114	19次	6区	下層下面	F	1067	6I-1A23	縄文	(0.83)	(0.55)	0.05	2.18	不整形	弧状	レンズ状		×		
103・104	19次	6区	下層下面	F	1087	6I-2B2・7	縄文	(1.29)	0.34	0.24	1.66	不整形	弧状	単層		×		
103	19次	6区	下層下面	F	1095	6I-2A25	縄文	(0.59)	(0.48)	0.08	1.83	円形	－	－		×		
103・114	19次	6区	下層下面	F	1102	6I-2B17	縄文	0.87	0.68	0.11	1.84	不整形	弧状	ブロック状		×		
103・115	19次	6区	下層下面	F	1130	6I-1A18・22・23	縄文	1.58	1.56	0.10	2.13	不整形	弧状	ブロック状		○	347・349・393	
103	19次	6区	下層下面	F	1140	6I-1A13・18	縄文	(1.12)	(0.85)	0.09	2.04	不整形	弧状	レンズ状		×		
103・115	19次	6区	下層下面	F	1147	6I-1A17・18	縄文	－	0.17	0.02	2.18	－	弧状	単層		×		
103・115	19次	6区	下層下面	F	1148	6I-1A24、2A4	縄文	－	0.35	0.02	2.09	不整形	弧状	水平		×		
103・115	19次	6区	下層下面	F	1149	6I-1A23、2A3	縄文	－	0.54	0.10	2.00	不整形	V字状	レンズ状		×		
103・115	19次	6区	下層下面	F	1170	6I-1A18	縄文	0.53	0.25	0.03	2.13	不整形	弧状	レンズ状		×		
103	19次	6区	下層下面	F	1176	6I-1A24	縄文	(0.98)	0.90	0.12	1.90	円形	弧状	単層	P1187に切られる。	×		
103	19次	6区	下層下面	F	1190	6I-1A17・22	縄文	－	0.53	0.08	2.01	－	弧状	水平		×		
103・115	19次	6区	下層下面	F	1198	6I-2A4	縄文	(1.20)	(1.08)	0.21	1.83	円形	台形状	ブロック状	P978を切る。P1030に切られる。	○	350～354	
103・115	19次	6区	下層下面	F	1208	6I-1A18	縄文	(0.32)	(0.17)	0.07	1.99	楕円形	弧状	単層		×		
103・115	19次	6区	下層下面	F	1213	6I-1A24・25	縄文	(0.96)	0.73	0.04	1.81	不整形	弧状	単層		×		

小土坑（P　下層）

掲載	調査回数	調査区	層位	遺構		グリッド	時代	規模（m）			底面標高（m）	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	掲載遺物番号	備考
				遺物番号	番号			上端 長軸	上端 短軸	深度		平面	断面					
80・86	17次	6区	下層 上面	P	182	6I-2B3	縄文	(0.42)	0.33	0.23	2.28	楕円形	漏斗状	柱痕		×		
79・89	17次	6区	下層 上面	P	603	6I-2A17・18・22・23	縄文	0.30	0.25	0.13	2.43	円形	弧状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層 上面	P	609	6I-2A17	縄文	0.38	0.32	0.10	2.47	円形	台形状	単層		×		
79・89	17次	6区	下層 上面	P	618	6I-2A11・12・17	縄文	(0.25)	(0.23)	0.08	2.55	円形	弧状	単層		×		
80・90	17次	6区	下層 上面	P	667	6I-1B23	縄文	0.25	0.24	0.09	2.42	円形	弧状	単層	SK668を切る。	×		
80・92	17次	6区	下層 上面	P	725	6I-2B3・4	縄文	0.27	0.25	0.09	2.37	円形	弧状	単層	SK724に切られる。	×		
79・89	17次	6区	下層 上面	P	728	6I-2B7	縄文	(0.17)	(0.14)	0.11	2.36	楕円形	弧状	単層	SK644を切る。	×		
96	19次	6区	下層 中面	P	768	6I-2A2	縄文	0.23	0.20	−	−	円形	−	−		○	256	
79・92	17次	6区	下層 上面	P	789	6I-1A25、2A5	縄文	0.48	0.37	0.56	1.85	円形	袋状	ブロック状		○	209	
79・92	17次	6区	下層 上面	P	797	6I-1A24	縄文	(0.32)	0.28	0.24	2.19	円形	U字状	ブロック状		×		
96・99	19次	6区	下層 中面	P	836	6I-2A9	縄文	(0.33)	(0.28)	0.11	2.27	円形	弧状	単層	SK835を切る。	×		
96	19次	6区	下層 中面	P	846	6I-3A3	縄文	0.29	0.24	−	−	円形	−	−		○	257	
96	19次	6区	下層 中面	P	885	6A-2A20	縄文	(0.33)	(0.28)	−	−	円形	−	−	SX867を切る。	○	258	
103・111	19次	6区	下層 下面	P	1038	6I-2A3	縄文	(0.31)	0.26	0.10	2.01	楕円形	弧状	水平		×		
103	19次	6区	下層 下面	P	1119	6I-2A20	縄文	(0.39)	(0.38)	−	−	円形	−	−		○	389	
104・109	19次	6区	下層 下面	P	1151	6I-3B9	縄文	(0.27)	0.16	0.23	1.62	楕円形	U字状	単層		×		

別表３　土器観察表

凡　例　1　（ ）内数値は復元値である。
2　土器の器種・分類は第Ⅴ章第1節の分類に基づき記載した。
3　部位については第Ⅴ章第1節に基づく。「外」は外面、「内」は内面、「口」は口縁部、「頸」は頸部、「肩」は肩部、「体」は体部、「体上」は体部上位、「体下」は体部下位、「底」は底部を表す。
4　縄文土器の「文様・施文・調整」においては、特にことわりがない限り外面についての記載であり、内面については備考で示した。
5　色調は外面の色調を記した。『新版標準土色帳』［農林水産省農林技術会議事務局1967］記号を記した。
6　土器の胎土・産地は第Ⅴ章第1節の分類に基づき記載した。また、分類以外の主要鉱物については備考で「○含む」と記載した。「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「海」は海綿骨針、「赤」は赤色粒子を表す。
7　調整について、ナデ・ロクロナデ・ミガキは基本省略した。

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		出土層位	時代	種別	器種	分類	残存部位	法量（cm）			口縁部形態	色調	胎土・産地	文様・施文・調整	備考
				遺構名	グリッド							口径	底径	器高					
118	1	15次	5区上層	SK50	5I-10C6	3	縄文	縄文土器	浅鉢		口					にぶい橙（7.5YR7/4）	Ⅰa1	口：平行沈線文	外：赤彩　海・赤含む
118	2	15次	5区上層	SK50	5I-10C12	1	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		口					褐灰（10YR6/1）	Ⅱa	口：平行沈線文	雲・赤含む
118	3	15次	5区上層	SK61 SX86	5I-10C8 5I-9B18	1 2	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B3	体					にぶい橙（7.5YR7/4）	Ⅰb1	条痕文（縦位）のちミガキ	体内：ケズリ　海・赤含む
118	4	15次	5区上層	SK70	5I-9C24	1	縄文	縄文土器			底		11.0			黄灰（2.5Y4/1）	Ⅱa		雲・赤含む
118	5	15次	5区上層	SK115 SK116 SD78 遺構外	5I-10E8 5I-10E3 5I-10E8 5I-10E8・11	2～4 2 1 Ⅳa・Va	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢A3	口～底		10.0			浅黄橙（10YR8/3）	Ⅰb2	口：浮線文 体：条痕文（縦位）	口～体外：ススⅠ 海・赤含む
118	6	15次	5区上層	SX13	5I-10G1	1・2	古墳	土師器	高杯		完形	18.4				淡赤橙（2.5YR7/4）	Ⅰb1		柱状屈折脚高杯　海含む
118	7	15次	5区上層	SX46	5I-9D3	3	縄文	縄文土器	深鉢		体					橙（7.5YR6/6）	Ⅰa1	条痕文（縦位）	内：炭化物　海・赤含む
118	8	15次	5区上層	SX73 遺構外 遺構外	5I-9D14 5I-9D11 5I-9D8	1～3 Ⅳa 攪乱	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢C	口～体	18.0	7.0	22.0	有段	にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰb2	体上：条痕文（横位・斜位） 体下：条痕文（縦位）	口端～体上外：ススⅠ 内：一部炭化物　赤含む
119	9	15次	5区上層	SX77	5I-9C1	2	縄文	縄文土器	鉢	鉢A2	口～体上	15.8			突起	灰黄褐（10YR6/2）	Ⅰb2	口：浮線文（菱形・三角形）　体上：斜沈線（綾杉文）	雲・海含む
119	10	15次	5区上層	SX86	5I-9B14	1	縄文	縄文土器	甕	甕B1	口～体	24.0			突起	灰黄褐（10YR6/2）	Ⅰa1	頸～肩：浮線文 体上：斜沈線　口～体の一部、細密条痕（斜位・縦位）	口内：平行沈線　外：ススⅠ 内：炭化物　海・赤含む
119	11	15次	5区上層	SX86	5I-9B18	1・3	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい橙（7.5YR6/4）	Ⅰa1	条痕文（縦位）	海・赤含む
119	12	15次	5区上層	SX86	5I-9B18	1・2	縄文	縄文土器	深鉢		体					橙（7.5YR6/6）	Ⅰa1	撚糸文（R）（縦位）	海・赤含む
119	13	15次	5区上層	SX91	5I-10C9	1	縄文	縄文土器	甕	甕C	口				肥厚	黒褐（10YR3/1）	Ⅰa1	口：撚糸文（0段r）（斜位）	
119	14	15次	5区上層	SX114	5I-10B15	1・2	縄文	縄文土器	甕	甕C	口	(21.0)			肥厚	にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰa1	口：平行沈線文（横位）	雲含む
119	15	15次	5区上層	SX114	5I-10B10	3	縄文	縄文土器	浅鉢	浅鉢B1	口					灰白（10YR7/1）	Ⅰa2	口：浮線文（楕円形）	口内：平行沈線　雲・赤含む
119	16	15次	5区上層	SX114 P126	5I-10B15 5I-10B15	3 1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR4/3）	Ⅱb	結節回転	海・赤含む
119	17	15次	5区上層	SX114	5I-10C11	1・3	縄文	縄文土器	浅鉢	浅鉢B3	完形	16.0	5.6	6.7		橙（5YR6/6）	Ⅱc	口：無文帯　体上：浮線文（菱形・三角形）＋刻み	赤含む　氷Ⅰ式土器模倣
119	18	15次	5区上層	SX136 遺構外	5I-10C23、6I-1C3 5I-10C23	1 Va	縄文	縄文土器	甕	甕C	口～頸	29.3			肥厚	灰褐（7.5YR5/2）	Ⅰa1	口：平行沈線文	海・赤含む
119	19	15次	5区上層	SD4	5I-8E6	1	古墳	土師器	高坏		裾部			(18.9)		灰白（2.5Y8/1）	1b1		柱状屈折脚高杯　海含む
119	20	15次	5区上層	SD4	5I-8E12	7	古墳	土師器	壺		口	15.4				にぶい黄橙（10YR7/2）	1b1		
119	21	15次	5区上層	SD4	5I-7D1	7	古墳	土師器	甕		底		6.0			にぶい橙（5YR7/3）	1b1		

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		出土層位	時代	種別	器種	分類	残存部位	法量（cm）			口縁部形態	色調	胎土・産地	文様・施文・調整	備考
				遺構名	グリッド							口径	底径	器高					
120	22	15次	5区上層	SD60	5I-10C3	1	縄文	縄文土器	甕	甕B2	口～体	20.8				褐灰（10YR4/1）	Ⅱa	口：単節斜縄文（LR）＋細密条痕（斜位・縦位） 頸：平行沈線＋無文帯　肩：浮線文　体上：斜沈線	口内：平行沈線　外：ススト 内：炭化物　雲含む
120	23	15次	5区上層	SD99	6I-1C4	－	縄文	縄文土器	鉢		体					にぶい赤褐（5YR4/3）	Ⅰa1	浮線文	外：ススト　内：炭化物　海含む
120	24	15次	5区上層	遺構外	5I-8C20	Va	縄文	縄文土器			口				肥厚	灰白（10YR7/1）	Ⅰb1	口：押圧により小波状	赤含む
120	25	15次	5区上層	遺構外	5I-10D14	Ⅳa	古墳	土師器	甕		口	（20.2）				浅黄橙（7.5YR8/3）	Ⅳ		雲含む
120	26	15次	5区上層	遺構外	5I-9B	Ⅳ	縄文	縄文土器			体					橙（7.5YR7/6）	Ⅰb1	単節斜縄文（LR）	海含む
120	27	15次	5区上層	遺構外	6I-1E16	埋土	古代	須恵器	壺・瓶類		体					灰（N4/　）	A		
120	28	15次	5区上層	遺構外	5I-9C1	攪乱	中世	珠洲焼	擂鉢		体					灰（N4/　）		内：卸し目	
120	29	2005試掘	153T		－	－	縄文	縄文土器	深鉢		体～底		8.0			にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰa1	体下：条痕文（縦位）	海・赤含む
121	36	15次	6区上層	SK56 遺構外	6I-8D17・23・24 6I-8D23	1 Vd	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B4	口～体	15.4			肥厚	にぶい橙（5YR7/4）	Ⅰb2	口：単節斜縄文（RL） 体上・下：単節斜縄文（前々段多条LR・＋付加条LR）	口内：平行沈線　内：炭化物　赤含む 37と同一個体の可能性あり
121	37	15次	6区上層	SK56 SK108	6I-8D23 6I-8D23	1 3	縄文	縄文土器	深鉢		体下～底		7.0			にぶい橙（5YR7/4）	Ⅰb1	体下：単節斜縄文（前々段多条LR・＋付加条LR）	内：炭化物　底面：木葉痕（網状葉脈圧痕）　赤含む　36と同一個体の可能性あり
121	38	15次	6区上層	SK56	6I-8D23	1	縄文	縄文土器	浅鉢	浅鉢A	完形	25.5	5.5	6.5		褐灰（10YR6/1）	Ⅲa	口：平行沈線文	
121	39	15次	6区上層	SK88	6I-9D7	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B4	口～体	16.6				淡黄（2.5Y8/4）	Ⅲa	体上：結節回転＋単節斜縄文（LR） 体下：単節斜縄文（LR）	未貫通補修孔あり　底：欠損
121	40	15次	6区上層	SK199 SX157 遺構外	6I-9E19 6I-9E20、9F16 6I-9E19	2・3 2・3・5 Va	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B4	完形	30.3	11.4	33.0	肥厚	浅黄橙（10YR8/3）	Ⅰa1	口：撚糸文（0段r）（横位） 体：結節回転＋撚糸文（0段r）（縦位）	
121	41	15次	6区上層	SX298	6I-2A7	9	縄文	縄文土器	浅鉢	浅鉢B1	口					にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	浮線文	赤含む
121	42	15次	6区上層	SX298	6I-2A7	9	縄文	縄文土器	鉢		口					にぶい褐（7.5YR5/4）	Ⅰb1	浮線文	
121	43	15次	6区上層	SD188	6H-6J1	1	古代	須恵器	甕		体					灰（7.5Y6/1）		外：タタキメ　内：当て具痕	
121	44	15次	6区上層	SD190	6H-5I3	1	古代	土師器	無台椀		口～体	14.6				浅黄橙（7.5YR8/4）	1b1		
121	45	15次	6区上層	SD190	6H-5I3	1	古代	須恵器	甕		体					灰（N4/　）	A	外：タタキメ　内：当て具痕	
121	46	15次	6区上層	SD190	6H-5I3	1	古代	須恵器	甕		口	（50.0）				灰（N5/　）	B		外：自然釉
121	47	15次	6区上層	SD190	6H-5I3	1	古代	須恵器	甕		体					オリーブ黒（10Y3/2）	A	外：タタキメ　内：当て具痕	
122	48	15次	6区上層	SD234	6H-5J1	1	古代	須恵器	甕		体					灰（N4/　）	A	外：タタキメ　内：当て具痕	
122	49	15次	6区上層	SD234	6H-5J1	1	古代	須恵器	壺・瓶類		高台		14.9			灰白（2.5Y7/1）	B	外：タタキメ	
122	50	15次	6区上層	SD234	6H-5J1	1	中世	珠洲焼	甕		体					暗灰（N3/　）		外：タタキメ	
122	51	15次	6区上層	SD236 遺構外	6I-3A11 6I-4B19	1 Ⅲ	古代	須恵器	甕		体					灰（N6/　）	C	外：タタキメ　内：当て具痕	
122	52	15次	6区上層	SD244	6H-5I3	2	古代	土師器	無台椀		底		5.0			淡赤橙（2.5YR7/4）	Ⅱa1		回転糸切り　雲含む
122	53	15次	6区上層	SD244	6H-5I14	1	古代	土師器	無台椀		底		6.0			橙（5YR6/6）	Ⅱa1		静止糸切り
122	54	15次	6区上層	SD244	6H-5I19	1	古代	須恵器	甕		体					灰（N5/　）	A	外：タタキメ　内：当て具痕	
122	55	15次	6区上層	SD244	6H-5I8	1	古代	須恵器	壺・瓶類		体					灰（N6/　）	A		
122	56	15次	6区上層	SD244	6H-5I8	1	古代	須恵器	甕		体					灰（N6/　）	A	外：タタキメ　内：当て具痕	
122	57	15次	6区上層	SD244	6H-5I14	1	古代	須恵器	甕		体					緑灰（10G5/1）	A	外：タタキメ　内：当て具痕	
122	58	15次	6区上層	SD244	6H-5I3	1	中世	白磁	皿		口	（10.0）				灰黄（2.5Y7/2）			
122	59	15次	6区上層	SD244	6H-5I19	1	中世	白磁	椀		口	（19.0）			玉縁	灰白（5Y8/1）			
122	60	15次	6区上層	SD263	6I-7B1	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					橙（7.5YR7/6）	Ⅰb1		穿孔あり　海・赤含む
122	61	15次	6区上層	SD291	6I-3A12	1		土師質土器			－	（20.0）				浅黄橙（7.5YR8/4）	Ⅰb2		透かしあり　雲多く含む
122	62	15次	6区上層	遺構外	6I-9D18	Ⅳ	古代	土師器	無台椀		底		5.4			にぶい黄橙（10YR7/4）	Ⅰa2		
122	63	15次	6区上層	遺構外	6I-2B4	Ⅳ	中世	中世土師器	皿		底		8.0			にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1		64と同一個体の可能性あり
122	64	15次	6区上層	遺構外	6I-8A25	Ⅲ	中世	中世土師器	皿		口	12.4	7.2	3.4		にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1		63と同一個体の可能性あり
123	73	17次	7区上層	SX90	8J-8A21	1	古代	土師器	無台椀		口～体	13.0				にぶい黄橙（10YR7/4）	Ⅱa1		
123	74	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-6J12	2	古代	土師器	無台椀		口～体	（12.6）				浅黄橙（10YR8/3）	Ⅰc1		
123	75	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-6J14	2	古代	土師器	無台椀		口～体	12.4				にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1		海含む
123	76	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-7J4	2	古代	土師器	無台椀		口～体	（15.6）				にぶい橙（7.5YR7/3）	Ⅰb1		墨書土器
123	77	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-6J12・13	1・2	古代	土師器	無台椀		口～底	12.8	4.6	3.6		灰白（10YR8/2）	Ⅰb1		回転糸切り
123	78	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-7J4	1・2	古代	土師器	無台椀		口～底	13.3	6.0	3.7		にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅱc		回転糸切り　雲含む
123	79	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-6J18・19	1・2	古代	土師器	無台椀		底		6.5			にぶい橙（7.5YR7/3）	Ⅰb1		回転糸切り
123	80	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-6J13	2	古代	土師器	無台椀		底		5.6			にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1		回転糸切り　海含む
123	81	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-6J20	2	古代	土師器	小甕		口～体	12.8				にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅳ		外：ススト　口内：炭化物　雲含む
123	82	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-6J14・20	2	古代	土師器	長甕		底					にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	外：タタキメ　内：当て具痕	尖底
123	83	17次	7区上層	SX119（SN11）	8I-6J19	1	古代	黒色土器	無台椀		口	（17.6）				にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1		
123	84	17次	7区上層	SX119（SN11） SD183	8I-6J12、7J4 8I-7J5	2 2	古代	須恵器	有台杯		口～体	（11.0）				灰（N5/　）	A		
123	85	17次	7区上層	SX124	－	2	古代	土師器	無台椀		口～底	12.2	6.2	3.9		橙（5YR6/8）	Ⅰa2		回転糸切り　海含む
123	86	17次	7区上層	SX174	8I-8J18・19	1	古代	土師器	無台椀		口～底	12.4	4.8	3.6		浅黄（2.5Y7/3）	Ⅰa2		回転糸切り

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		出土層位	時代	種別	器種	分類	残存部位	法量（cm）			口縁部形態	色調	胎土・産地	文様・施文・調整	備考
				遺構名	グリッド							口径	底径	器高					
123	87	17次	7区上層	SX175（SN12）	8I-7J20	2	古代	土師器	無台椀		口～体	(13.8)				にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰb1		
123	88	17次	7区上層	SX175（SN12）	8I-7J20	2	古代	土師器	無台椀		口～体	(13.0)				にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰa1		海含む
123	89	17次	7区上層	SX175（SN12）	8I-7J9	1・2	古代	土師器	無台椀		口～底	13.1	5.6	3.9		にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰa2		回転糸切り　雲含む
123	90	17次	7区上層	SX175（SN12）	8I-7J15	2	古代	土師器	無台椀		口～底	13.7	5.0	4.2		にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1		墨書土器「南」 回転糸切り
123	91	17次	7区上層	SX175（SN12）	8I-7J10	2	古代	土師器	無台椀		底		6.0			浅黄橙（10YR8/3）	Ⅰa2		回転糸切り　赤含む
123	92	17次	7区上層	SX175（SN12） SD111	8I-7J14 8I-7J18	1 2	古代	土師器	小甕		口～底		6.6			にぶい橙（5YR7/3）	Ⅰb1		
123	93	17次	7区上層	SX175（SN12） SD182	8I-7J10 8I-7J14	2 1	古代	黒色土器	無台椀		底		5.2			にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰb1		回転糸切り
123	94	17次	7区上層	SX175（SN12）	8I-7J14	2	古代	黒色土器	無台椀		底		7.0			にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰb1		回転糸切り　海含む
123	95	17次	7区上層	SX175（SN12） SD184	8I-7J15 8I-7J10	2 1	古代	黒色土器	有台椀		底		9.2			にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰb1		高台部と底部接地面に線刻あり
123	96	17次	7区上層	SX186（SN10）	8I-5I25、6J1	2	古代	土師器	無台椀		口～底	11.9	5.7	4.1		にぶい橙（7.5YR7/3）	Ⅰb1		回転糸切り
123	97	17次	7区上層	SX186（SN10）	8I-5I25、6I5	1・2	古代	土師器	無台椀		口～体	14.4				にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰa1		
123	98	17次	7区上層	SX186（SN10）	8I-6I5	2	古代	土師器	無台椀		底		4.6			浅黄橙（2.5Y7/3）	Ⅰb1		回転糸切り
123	99	17次	7区上層	SX186（SN10）	8I-5I20	1	古代	土師器	有台椀		底		6.0			浅黄（2.5Y7/3）	Ⅰb1		海含む
123	100	17次	7区上層	SX186（SN10）	8I-5J21	1	古代	黒色土器	無台椀		口～体	(16.8)				にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰb1		
123	101	17次	7区上層	SX186（SN10）	8I-6J6	1	古代	黒色土器	無台椀		口～体	(16.5)				にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰa1		海含む
123	102	17次	7区上層	SX189	8I-5J12	1	古代	土師器	無台椀		体～底		4.9			にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰa1		墨書土器　回転糸切り
123	103	17次	7区上層	SX189	8I-5J12	2	古代	土師器	無台椀		口～体	(13.0)				にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰa1		
123	104	17次	7区上層	SX191	8I-4I20	2	古代	土師器	無台椀		口～底	13.0	5.0	4.1		にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1		
123	105	17次	7区上層	SX191	8I-4I19	2	古代	土師器	無台椀		口～体	14.0				浅黄橙（10YR8/3）	Ⅰb1		
123	106	17次	7区上層	SX198	8I-4J1・2	1	古代	土師器	無台椀		底		5.6			にぶい橙（7.5YR7/3）	Ⅰa2		回転糸切り
124	107	17次	7区上層	SX234	8I-6J17	1	古代	土師器	鍋		口	(27.8)				にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰb1		口内接合部：沈線状に凹む
124	108	17次	7区上層	SD27	6I-9A22	1	中世	土師器	柱状高台皿		底		4.2			にぶい橙（7.5YR7/3）	Ⅰb1		
124	109	17次	7区上層	SD27	6I-10A3	1	中世	白磁	椀		底					灰白（7.5Y7/1）	－		
124	110	17次	7区上層	SD27	6I-10A3	1	中世	白磁	椀		口	18.0				灰白（7.5Y7/1）	－	外：縦筺花弁文　内：櫛目文	
124	111	17次	7区上層	SD28	6I-10A1	1	古代	土師器	鍋		口	(44.0)				灰黄褐（10YR6/2）	Ⅳ		
124	112	17次	7区上層	SD28 SD49	6I-10A1 6H-8J12	8 1	古代	須恵器	長頸壺・瓶類		体					灰（5Y5/1）	A		
124	113	17次	7区上層	SD28	6I-10A1	8	中世	白磁	椀		口	16.0			玉縁	灰白（5Y7/2）	－		
124	114	17次	7区上層	SD37	6H-9J19	1	中世	珠洲焼	片口鉢		底		12.0			オリーブ黒（7.5Y3/1）	－	内：卸し目	静止糸切り　内外：アスファルト付着
124	115	17次	7区上層	SD85	8J-9A6	1	古代	黒色土器	有台椀		底		(6.2)			灰黄（2.5Y7/2）	Ⅰa1		回転糸切り　海含む
124	116	17次	7区上層	SD86	8I-8J18	1	古代	土師器	無台椀		口～体	11.8	(5.7)	4.1		灰白（10YR8/2）	Ⅰb1		雲・赤含む
124	117	17次	7区上層	SD86	8I-8J18	1	古代	黒色土器	無台椀		口～体	(14.3)				灰黄（2.5Y7/2）	Ⅰa1		
124	118	17次	7区上層	SD89	8J-9J5	2	古代	土師器	無台椀		底		5.3			橙（5YR6/6）	Ⅰb1		回転糸切り
124	119	17次	7区上層	SD94	8I-8J25	1	古代	土師器	長甕		口	(24.0)				灰黄（2.5Y6/2）	Ⅰb1		
124	120	17次	7区上層	SD100	8I-8J14	2	古代	土師器	長甕		口	(21.0)				淡黄（2.5Y8/3）	Ⅰb1		
124	121	17次	7区上層	SD110 遺構外	8I-8J10 8I-8J9	1 Ⅲ	古代	土師器	無台椀		口～底	12.6	5.5	3.9		にぶい橙（7.5YR7/4）	Ⅰb1		回転糸切り
124	122	17次	7区上層	SD111	8I-7J18	2	古代	須恵器	無台杯		口～底		5.5			灰（7.5Y5/1）	A		回転ヘラ切り
124	123	17次	7区上層	SD111	8I-6J21	1	古代	須恵器	有台杯		底		7.8			灰白（5Y7/1）	B		
124	124	17次	7区上層	SD111	8I-7J8	1	古代	灰釉陶器	椀		口	12.6				灰オリーブ（5Y6/2）	－		
124	125	17次	7区上層	SD168	8I-5I15・19	1・2	古代	土師器	無台椀		口～底	13.5	5.6	3.1		明赤褐（2.5YR5/6）	Ⅰb1		回転糸切り
124	126	17次	7区上層	SD168	8I-5I10	1	古代	土師器	無台椀		体～底		5.5			浅黄（2.5Y7/3）	Ⅰb1		回転糸切り　雲含む
124	127	17次	7区上層	SD168	8I-5J3	2	古代	土師器	小甕		底		6.2			黄褐（2.5Y5/4）	Ⅰb1		回転糸切り
124	128	17次	7区上層	SD168	8I-5J7	－	古代	黒色土器	無台椀		口～体	14.4				灰褐（7.5YR6/2）	Ⅱa1		
124	129	17次	7区上層	SD168	8I-5J6	2・3	古代	須恵器	無台杯		口～底	11.7	6.6	2.55		灰（N5/ ）	A		回転ヘラ切り
124	130	17次	7区上層	SD182	8I-7J14	1	古代	土師器	無台椀		底		5.6			にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅱa1		回転糸切り　雲含む
124	131	17次	7区上層	遺構外	7I-5J12	Ⅳ	古代	土師器	無台椀		口～底	12.7	5.0	3.8		にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰb1		回転糸切り
124	132	17次	7区上層	遺構外	8I-5J16	Ⅲ	古代	土師器	鍋		口	(38.0)				にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1		
124	133	17次	7区上層	遺構外	8I-5J16	Ⅲ	古代	土師器	小甕		口	(20.0)				にぶい橙（5YR6/4）	B		内：炭化物
125	134	17次	7区上層	遺構外	8I-6J24	Ⅲ	古代	須恵器	有台杯		底		7.8			灰白（5Y7/2）	A		
125	135	17次	7区上層	遺構外	6H-9J10	Ⅲ	古代	須恵器	有台杯		底		7.8			灰（10Y6/1）			
125	136	17次	7区上層	遺構外	7I-1C3	Ⅲ	古代	緑釉陶器	壺・瓶類		体					灰オリーブ（7.5Y5/3）			
125	137	17次	7区上層	遺構外	8I-7J14	Ⅲ	中世	青磁	椀		体					灰白（10Y7/1）			
125	138	17次	7区上層	遺構外	7I-2E1	Ⅲ	古代	灰釉陶器	椀		口～体	13.0				灰オリーブ（5Y5/2）			
125	139	17次	7区上層	遺構外	7I-4I11	Ⅲ	中世	青磁	椀		高台～底		5.1			灰オリーブ（5Y5/3）		底内：渦巻・花弁	底面除き釉薬、意図的に打ち欠いた可能性あり
125	140	17次	7区上層	遺構外	8I-4J3	Ⅲ	中世	白磁	椀		口	(13.0)				灰白（7.5Y7/1）			皿の可能性もあり

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		出土層位	時代	種別	器種	分類	残存部位	法量（cm）			口縁部形態	色調	胎土・産地	文様・施文・調整	備考
				遺構名	グリッド							口径	底径	器高					
125	141	17次	7区上層	遺構外	8I-8J23	攪乱	中世	珠洲焼	片口鉢		体					灰（10Y5/1）		内：卸し目	内及び破面：一部アスファルト付着
125	142	17次	7区上層	遺構外	6I-9A7	Ⅲ	中世	中世土師器	Ⅲ		口～底	10.0		2.6		にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1		手づくね成形
125	143	17次	7区上層	遺構外	6I-9A16、9J15	攪乱	中世	珠洲焼	片口鉢		口	（37.2）				灰（N6/）			
125	144	17次	7区下層	SX77	7I-5I14	1	縄文	縄文土器	深鉢		体～底		10.0			浅黄橙（10YR8/3）		体下：条痕文（縦位） 底：ケズリ（横位）	底面：木葉痕（平行葉脈圧痕）
127	170	17次 19次	6区下層上面	SI93 SD259 SC174 遺構外	6I-1A5 6I-1A15 6I-1B7 6I-1A10	1 2 1 Vb	縄文	縄文土器	甕	甕A	口～体	27.2			突起 肥厚	にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰb1	口：結節回転 頸：無文帯 体上：結節回転＋条痕文（縦位）	外：ススム 内：炭化物 海・赤含む
127	171	17次	6区下層上面	SI93	5I-10A25	1	縄文	縄文土器	甕	甕A	口	（20.0）			肥厚	にぶい橙（7.5YR6/4）	Ⅰb1	口：結節回転	赤含む
127	172	17次	6区下層上面	SI93	5I-10A25	1	縄文	縄文土器	鉢もしくは浅鉢		口					にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰb1	口：平行沈線文	海含む
127	173	17次	6区下層上面	SI93	6I-1A5、1B1	1	縄文	縄文土器	鉢		体					にぶい褐（7.5Y5/4）	Ⅰb1	条痕文（縦位）	
127	174	17次	6区下層上面	SI93	5I-10A25	1	縄文	縄文土器	鉢		底		8.0			にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰb1	条痕文（縦位）	雲含む
127	175	17次	6区下層上面	SI262	6I-2A8	3	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		口					にぶい橙（7.5YR6/4）	Ⅰa1	浮線文	
127	176	17次	6区下層上面	SI262	6I-2A8	3	縄文	縄文土器	深鉢		体					橙（5YR6/6）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）	
127	177	17次	6区下層上面	SK152	6I-1B23	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰa2	条痕文（縦位）	外：ススム 内：炭化物
127	178	17次	6区下層上面	SK257	6I-2A18	2	縄文	縄文土器	壺		頸～底		6.2			灰黄褐（10YR5/2）	Ⅰa1	頸：単節斜縄文（LR） 肩：浮線文＋単節斜縄文（LR） 体上：単節斜縄文（LR）	外：ススム 内及び破面：漆付着 漆貯蔵具か
127	179	17次	6区下層上面	SK383	6I-2A13	1	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		口					灰黄褐（10YR4/2）	Ⅰb1	浮線文	
127	180	17次	6区下層上面	SK406	6I-1B11	1	縄文	縄文土器			体					橙（7.5YR6/6）	Ⅰb2		内：炭化物
127	181	17次	6区下層上面	SK632	6I-1B1	1	縄文	縄文土器	壺もしくは甕		体～底		7.4			浅黄（2.5Y7/3）	Ⅲa		
127	182	19次	6区下層上面	SK863	6I-2B1	3	縄文	縄文土器			体					にぶい黄褐（10YR5/4）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）	
127	183	17次	6区下層上面	SX416	6I-2A7	1	縄文	縄文土器			体					にぶい黄褐（10YR4/3）	Ⅰb1	結節回転	海含む
127	184	17次	6区下層上面	SX416	6I-2A7	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B2	口～体	29.0			肥厚	にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰb1	口：単節斜縄文（RL）＋斜沈線文 体上：結節回転（4段） 体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	綿状体の縄の結束部圧痕あり 外：ススム 海含む
128	185	17次	6区下層上面	SX733	6I-3C11・12	1～3	縄文	縄文土器	浅鉢	浅鉢B2	完形	23.8	8.4	15.0		にぶい黄（2.5Y6/4）	Ⅰa1	口：平行沈線文	体上内：炭化物
128	186	17次	6区下層上面	SD259	6I-3B17	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B2	口～体	46.0			肥厚	黄褐（2.5Y5/4）	Ⅲa	体上：結節回転（LR）（3段）	外：ススム 内：炭化物
128	187	17次	6区下層上面	SD259	6I-1A15	2	縄文	縄文土器	甕		口					浅黄（2.5Y7/3）	Ⅰb1	口：平行沈線 頸：斜沈線	海含む 188と同一個体の可能性あり
128	188	17次	6区下層上面	SD259	6I-1A15	1	縄文	縄文土器	鉢もしくは甕		体					にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰb1	斜沈線	海・赤含む 187と同一個体の可能性あり
128	189	17次	6区下層上面	SD259	6I-1A15	2	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい橙（5YR6/4）	Ⅰb1	条痕文（縦位）	赤含む
128	190	17次	6区下層上面	SD259	6I-1A15	2	縄文	縄文土器	深鉢		底		8.8			浅黄（2.5Y7/4）	Ⅰa2		底面：木葉痕（平行葉脈圧痕）か？ 海・赤含む
128	191	17次	6区下層上面	SD290	6I-3D1	－	縄文	縄文土器	鉢	鉢B	口～体	23.8			肥厚	にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰb1	口：撚糸文（R）（横位） 体上：結節回転（3段）	外：ススム 内：炭化物 海・赤含む
128	192	17次	6区下層上面	SD290	6I-2C4	3	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰa1	条痕文（縦位）	雲・海・赤含む
128	193	17次	6区下層上面	SD290	6I-2C4	3	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰa1	条痕文（縦位）	海・赤含む
128	194	17次	6区下層上面	SD290	6I-2C4	3	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰa1	条痕文（縦位）	海・赤含む
128	195	17次	6区下層上面	SD593	6H-3J20	2	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄（2.5Y6/3）	Ⅰa1	撚糸文（R）（縦位）	
128	196	17次	6区下層上面	SD593	6I-3A16	1・2	縄文	縄文土器	深鉢		底		9.5			浅黄橙（10YR8/3）	Ⅰa1		赤含む
128	197	17次	6区下層上面	SD600	6I-1A19	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					褐灰（10YR4/1）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）	海・赤含む
128	198	17次	6区下層上面	SD600	6I-1A19	1	縄文	縄文土器	深鉢		底		8.6			橙（5YR6/6）	Ⅰa1		
128	199	17次	6区下層上面	SD600	6I-2A11	1	縄文	縄文土器	深鉢		口～体	26.1			肥厚	黒褐（10YR3/1）	Ⅰb1	口：撚糸文（0段r）（斜位） 体上：結節回転（3段） 体下：無節斜縄文（R）＋結節回転	
128	200	17次	6区下層上面	SD600	6I-1A18・19・23	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B3	口～体	28.8			肥厚	にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰa1	体上：櫛目状工具による結節回転風文様（2段） 体下：撚糸文（無節）（縦位）	口～体上外：ススム 内：炭化物 赤含む
129	201	17次	6区下層上面	SC174	6I-1B18	1	縄文	縄文土器	深鉢		口～体	26.4				にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰb2	口：条痕文（横位） 体：条痕文（縦位）	外：ススム 内：炭化物
129	202	17次	6区下層上面	SC174	6I-1B1	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B	口～体				肥厚	黒褐（7.5YR3/2）	Ⅰa2	口：網目状撚糸文（R）（横位） 体上：結節回転（3条）	
129	203	17次	6区下層上面	SC174	6I-1B2	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					明褐（7.5YR5/6）	Ⅰa2	網目状撚糸文（R）	海含む
129	204	17次	6区下層上面	SC174	6I-1B17	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					明赤褐（5YR5/6）	Ⅰb1	条痕文	海・赤含む
129	205	17次	6区下層上面	SC174	6I-1B2	1	縄文	縄文土器	壺		底		12.0			にぶい褐（7.5YR5/4）	Ⅰa1		海・赤含む
129	206	17次	6区下層上面	SC174	6I-1B13	1	縄文	縄文土器	深鉢		底		11.0			にぶい黄褐（10YR5/4）	Ⅰa2		外：ススム 内：炭化物
129	207	17次	6区下層上面	SC687	6I-1B14	1	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		口～体				肥厚	黒褐（10YR3/1）	Ⅰb1	口：斜沈線 体上：沈線か（横位）	
129	208	19次	6区下層上面	SC879	6I-2A19 6I-2A19・25、2B7・12	1 Vc・Vd	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢A4	口～体	11.4			肥厚	灰黄褐（10YR4/2）	Ⅰb1	口：撚糸文（無節R）（斜位） 体上：楕円状工字文 体下：結節回転＋撚糸文（無節R）（横位・斜位）＋結節回転（斜位）	海含む
129	209	17次	6区下層上面	P789	6I-1A25	2・8	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B4	口～体				肥厚	にぶい褐（7.5YR5/4）	Ⅰa1	口：単節斜縄文（RL） 体上：結節回転（4段） 体下：RL縄文＋LR縄文	
129	210	17次	6区下層上面	遺構外	6I-2A10	Vb	縄文	縄文土器	鉢	鉢B	口～体	19.7				にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰb1	口：撚糸文（R）（横位） 体上：結節回転（2段）	外：ススム 内：炭化物 補修孔あり 海含む
129	211	19次	6区下層上面	遺構外	6I-3C9	Vb	縄文	縄文土器	鉢もしくは甕		口					褐灰（10YR4/1）	Ⅰb1	斜沈線	赤含む
129	212	17次	6区下層上面	遺構外	6I-1B16	攪乱	縄文	縄文土器	甕		口					にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰb2	口：平行沈線 頸：斜沈線	雲含む
129	213	19次	6区下層上面	遺構外	6I-3C14	Vb	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい橙（7.5YR6/4）	Ⅰa2	条痕文（縦位）	海・赤含む

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		出土層位	時代	種別	器種	分類	残存部位	法量（cm）			口縁部形態	色調	胎土・産地	文様・施文・調整	備考
				遺構名	グリッド							口径	底径	器高					
129	214	17次	6区下層上面	遺構外	6I-3A9	Ⅴb	縄文	縄文土器	深鉢		体					浅黄（2.5Y7/3）	Ⅰa1	結節回転＋撚糸文（R）（縦位）	海含む
129	215	19次	6区下層上面	遺構外	6I-2B24	Ⅴb	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰褐（7.5YR4/2）	Ⅰa1	条痕文（縦位）	海含む
129	216	17次	6区下層上面	遺構外	埋土	攪乱	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄褐（10YR5/2）	Ⅰb1	浮線文	赤含む
129	217	19次	6区下層上面	遺構外	6I-3C9	Ⅴb	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄褐（10YR5/2）	Ⅰa1		赤含む
129	218	17次	6区下層上面	遺構外	6I-1B1	Ⅴb	縄文	縄文土器			底		(14.0)			にぶい橙（7.5YR6/4）	Ⅰa2		海・赤含む
129	219	15次	6区下層上面	遺構外	6H-2J20	Ⅴb	縄文	縄文土器			底		11.0			灰白（2.5Y8/2）	Ⅰa1		
129	220	17次	6区下層上面	遺構外	6H-2J24	Ⅴb	縄文	縄文土器			底		9.0			にぶい橙（7.5YR6/4）	Ⅰa2		
131	234	19次	6区下層中面	SK748	6I-2B21	3	縄文	縄文土器	深鉢もしくは甕		口				肥厚	暗灰黄（2.5Y5/2）	Ⅰb1	口：網目状撚糸文（R）（横位）	
131	235	19次	6区下層中面	SK790	6I-2B6	1	縄文	縄文土器	鉢	鉢A2	完形	13.8	6.6	10.7	突起	明赤褐（5YR5/6）	Ⅰa1	口：浮線文	海含む
131	236	19次	6区下層中面	SK817	6I-1B19	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰb1	条痕文（縦位）	赤含む
131	237	19次	6区下層中面	SK834	6I-2A23	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/4）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	赤含む
131	238	19次	6区下層中面	SK834	6I-2A23	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					橙（7.5YR7/6）	Ⅲa	網目状撚糸文（R）（縦位）	赤含む
131	239	19次	6区下層中面	SK875	6I-1A18	4	縄文	縄文土器	浅鉢	浅鉢B2	口					にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰb1	浮線文	赤含む
131	240	19次	6区下層中面	SK875	6I-1A13	3	縄文	縄文土器	浅鉢		口					にぶい黄褐（10YR5/4）	Ⅰb1	浮線文	
131	241	19次	6区下層中面	SK876	6I-2A10	2	縄文	縄文土器	甕	甕B	体					にぶい黄（2.5Y6/3）	Ⅰb1	肩：隆帯＋網目状撚糸文（R）　体上：結節回転	外：スス　海含む　242と同一個体の可能性あり
131	242	19次	6区下層中面	SK876	6I-2A15	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					浅黄（2.5Y7/4）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）＋結節回転	海含む　241と同一個体の可能性あり
131	243	19次	6区下層中面	SK876	6I-2A10・15	2	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	結節回転＋単節斜縄文（RL）	赤含む
131	244	19次	6区下層中面	SK876	6I-2A10・15	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい赤褐（5YR5/3）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	赤含む
131	245	19次	6区下層中面	SK876	6I-2A15	1	縄文	縄文土器			底		8.5			にぶい橙（7.5YR7/4）	Ⅲa		赤含む
131	246	19次	6区下層中面	SK968	6I-1C16	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B4	完形	23.6	9.5	27.8	肥厚	にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰa2	口：網目状撚糸文（R）（横位） 体上～体下：網目状撚糸文（R）　底：ケズリ	体：一部絡状体・縄の結束部圧痕あり 補修孔2つあり
131	247	19次	6区下層中面	SK968	6I-1C16	2	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰb2	網目状撚糸文（R）（縦位）	
131	248	19次	6区下層中面	SK995	6H-2J15	2	縄文	縄文土器	鉢	鉢A1	完形	15.4	8.4	13.6	肥厚	黒褐（10YR3/1）	Ⅰa2	口：単節斜縄文（LR）＋浮線文　体上：結節回転＋単節斜縄文（LR）＋結節回転＋単節斜縄文	外：スス 口～体上内：炭化物　海含む
131	249	19次	6区下層中面	SK995	6H-2J15	2	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B2	完形	21.7	8.2	26.6	肥厚	にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰa2	口：網目状撚糸文（R）（横位）　体上：結節回転（2段）＋網目状撚糸文（R）（横位）＋（一部0段の条r）＋結節回転（2段）　体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	口～体上外：スス 内：炭化物　海含む
131	250	19次	6区下層中面	SX750	6I-2B13	2	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄（2.5Y7/2）	Ⅱa	網目状撚糸文（R）（縦位）	海・赤含む
131	251	19次	6区下層中面	SX763	－	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄（2.5Y7/2）	Ⅰb1	沈線＋網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む
131	252	19次	6区下層中面	SX867	6I-2A19	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰb2	網目状撚糸文（R）（縦位）	
131	253	19次	6区下層中面	SX867	6I-3B22	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄褐（10YR5/2）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
131	254	19次	6区下層中面	SX867	6I-2A24	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
132	255	19次	6区下層中面	SC783	6I-1C16	1	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰb1	沈線	海含む
132	256	19次	6区下層中面	P768	6I-2A2	1	縄文	縄文土器	深鉢		口					橙（7.5YR6/6）	Ⅰb1	網目状撚糸文	海含む
132	257	19次	6区下層中面	P846	6I-3A3	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B2	体					にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅰb2	結節回転＋網目状撚糸文（R）	赤含む
132	258	19次	6区下層中面	P885	6I-2A20	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					褐（10YR4/6）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）	
132	259	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A23	Ⅴb	縄文	縄文土器	鉢	鉢A3	口～体	15.5				にぶい橙（7.5YR6/4）	Ⅰa1	無文	未貫通補修孔あり　外：スス 内：炭化物　海含む
132	260	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B7	Ⅴc	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢A1	口～体	34.8			肥厚	浅黄橙（10YR8/3）	Ⅰa1	口：網目状撚糸文（R）（横位）＋刺突文 体上：結節回転（4段）　体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	一部縄の結束部圧痕あり 内：一部炭化物
132	261	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B20	Ⅴc	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢A3	口～体	33.8				にぶい黄橙（10YR7/4）	Ⅰa1	口：撚糸文（r）（横位）＋浮線文　体上：結節回転＋撚糸文（r）（縦位）	雲・海含む
132	262	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A4	Ⅴb	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		口					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰb1		赤含む
132	263	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A19	Ⅴc	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		口					にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅱa	浮線文	
132	264	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1B21	Ⅴb	縄文	縄文土器	深鉢		口～体					黒褐（10YR3/1）	Ⅰa1	口：網目状撚糸文（R）（横位）　体上：結節回転（2段）	海含む
132	265	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A24	Ⅴb	縄文	縄文土器	深鉢		口					橙（5YR6/6）	Ⅰb2	口：網目状撚糸文（R）（横位）	海・赤含む
132	266	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A9	Ⅴc	縄文	縄文土器	深鉢		口～体					明黄褐（10YR6/4）	Ⅰa1	口：単節斜縄文（LR）　体：結節回転（3段）	海含む
132	267	19次	6区下層中面	遺構外	6I-3B1	Ⅴc	縄文	縄文土器	深鉢		口～体	25.2				黒褐（7.5YR3/2）	Ⅰb1	口：条痕文（斜位・横位）　体上：結節回転（2段）	海含む
132	268	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A14	Ⅴc	縄文	縄文土器	深鉢		口					にぶい褐（7.5YR5/4）	Ⅰa2	口：撚糸文（R）（斜位）　体上：沈線	
132	269	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A5	Ⅴc	縄文	縄文土器	壺		口					浅黄（2.5Y7/3）	Ⅲa	浮線文（楕円形）	海含む
132	270	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B6	Ⅴc	縄文	縄文土器	深鉢もしくは甕		口～体				肥厚	オリーブ褐（2.5Y4/3）	Ⅰb1	口：網目状撚糸文（R）（横位）　体上：沈線	
132	271	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A13	Ⅴc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む
132	272	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A20	Ⅴb	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む
132	273	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A19	Ⅴc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
132	274	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B6	Ⅴc	縄文	縄文土器	壺		体					浅黄（2.5Y7/3）	Ⅰb1	肩：浮線文	外：スス　雲含む
132	275	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A7	Ⅴc	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		口					にぶい橙（7.5YR7/3）	Ⅰb1	浮線文	赤含む
132	276	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A7	Ⅴc	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		口					にぶい褐（7.5YR5/3）	Ⅰb1	浮線文	赤含む
132	277	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B1	Ⅴb	縄文	縄文土器	深鉢		体					黒褐（10YR3/2）	Ⅰb1	無節斜縄文（R）＋結節回転（縦位）	
133	278	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B7	Ⅴc	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄（2.5Y6/2）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		出土層位	時代	種別	器種	分類	残存部位	法量（cm）			口縁部形態	色調	胎土・産地	文様・施文・調整	備考
				遺構名	グリッド							口径	底径	器高					
133	279	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A5	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					浅黄橙（10YR8/3）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
133	280	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A5	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					浅黄（2.5Y7/4）	Ⅰa1	結節回転（横位）＋単節斜縄文（RL）＋結節回転（縦位）	海含む
133	281	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A5	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい赤褐（5YR5/4）	Ⅰa2	結節回転（3段）	海含む
133	282	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B11	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR5/4）	Ⅰb1	結節回転	
133	283	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A9	－	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄（2.5Y7/2）	Ⅰa1	単節斜縄文（RL）＋結節回転（縦位）	
133	284	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A14	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR5/4）	Ⅰb1	単節斜縄文（RL）＋無節斜縄文（R）	
133	285	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B12	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
133	286	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A13	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					浅黄（2.5Y7/4）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海・赤含む
133	287	19次	6区下層中面	遺構外	6I-3A3	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰白（10YR8/2）	Ⅰa2	結節回転（2段）＋条痕文（縦位）	海含む
133	288	19次	6区下層中面	遺構外	6I-3B2	Vb	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄（2.5Y7/2）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
133	289	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1A9	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
133	290	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1B20	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					橙（5YR6/6）	Ⅰb1	条痕文（縦位）	
133	291	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A4	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄（2.5Y6/3）	Ⅰa1	結節回転＋単節斜縄文（RL）	海含む
133	292	19次	6区下層中面	遺構外	6I-1B7	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	条痕文（縦位）	
133	293	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A4	Vb	縄文	縄文土器	深鉢		体					浅黄（2.5Y7/3）	Ⅰa1	単節斜縄文（RL）	海含む
133	294	19次	6区下層中面	遺構外	6I-4C22	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）	海含む
133	295	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A15	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					浅黄（2.5Y7/3）	Ⅰb1		海含む
133	296	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B1	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
133	297	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A15	Vc	縄文	縄文土器			底		8.0			浅黄（2.5Y7/3）	Ⅰb1		網代状圧痕　赤含む
133	298	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2A25	Vc	縄文	縄文土器			底		9.0			にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰa1		
133	299	19次	6区下層中面	遺構外	6I-2B12	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体～底		8.0			にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む
134	302	19次	6区下層下面	SB1（P1099）	6I-2B11	1	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		体					灰黄（2.5Y6/2）	Ⅲa		
134	303	19次	6区下層下面	SB11（P1131） SK977 SK1088 SK1138 遺構外	6I-2A10 6I-2A5 6I-2B11 6I-2A14 6I-2A10、2B17 6I-3A9	2 1 1 Vd Vb	縄文	縄文土器	浅鉢	浅鉢B1	完形	24.5	9.5	12.0	突起	にぶい褐（7.5Y5/4）	Ⅲa	口～体上：浮線文	補修孔あり 海・赤含む
134	304	19次	6区下層下面	SB12（P1070）	6I-2A20	1	縄文	縄文土器			体					灰黄褐（10YR5/2）	Ⅰb1		海含む
134	305	19次	6区下層下面	SK933	6I-1B11	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢A2	完形	39.5			肥厚	にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰa1	口：網目状撚糸文（R）（横位） 体上：結節回転（2段）＋浮線文＋結節回転（2段） 体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	外：スス 内：炭化物　補修孔2つあり　海含む
134	306	19次	6区下層下面	SK977	6I-2A5	2	縄文	縄文土器	浅鉢	浅鉢B1		(13.0)			肥厚	黒褐（10YR3/1）	Ⅰb1	口：撚糸文（0段r）（縦位） 体：浮線文	
134	307	19次	6区下層下面	SK977	6I-2A5	2	縄文	縄文土器	鉢	鉢A4	口～底	11.9	5.0			明赤褐（5YR5/6）	Ⅰa1	無文	
134	308	19次	6区下層下面	SK983	6I-2B22	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄褐（10YR4/2）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海・赤含む
134	309	19次	6区下層下面	SK984	6I-3B3	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢A2	口～体	32.0			肥厚	浅黄（2.5Y7/4）	Ⅰa1	口：網目状撚糸文（R）（横位） 体上：結節回転＋平行沈線＋結節回転＋平行沈線＋結節回転＋平行沈線　体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	未貫通補修孔あり 口内：接合痕　海含む
134	310	19次	6区下層下面	SK987	6I-3B3	1	縄文	縄文土器			底		8.2			にぶい黄褐（10YR5/4）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	赤含む
134	311	19次	6区下層下面	SK1052	6I-2B6	1	縄文	縄文土器	浅鉢		口				突起	灰褐（7.5YR5/2）	Ⅰa1	浮線文	海含む
134	312	19次	6区下層下面	SK1052	6I-2B6	1	縄文	縄文土器	浅鉢		口					黒褐（7.5YR3/1）	Ⅰb1	浮線文	海含む
134	313	19次	6区下層下面	SK1052	6I-2B6	－	縄文	縄文土器			体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅱa	浮線文	
134	314	19次	6区下層下面	SK1076	6I-2A5	1	縄文	縄文土器			体～底		7.2			灰白（2.5Y8/1）	Ⅲa		底内：炭化物　海・赤含む
134	315	19次	6区下層下面	SK1076	6I-2A5	1	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは壺		体					灰黄（2.5Y6/2）	Ⅲa	沈線	海・赤含む
134	316	19次	6区下層下面	SK1076	6I-2A5	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい橙（7.5YR5/3）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
135	317	19次	6区下層下面	SK1138	6I-2A14・15	1	縄文	縄文土器	甕		口～頸					にぶい黄橙（10YR5/4）	Ⅰb1	口：浮線文	海含む　334と同一個体の可能性あり
135	318	19次	6区下層下面	SK1160	6I-1A14	－	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰa1	結節回転	
135	319	19次	6区下層下面	SK1189	6I-1A25	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B2	口～体	33.2			肥厚	橙（7.5YR7/6）	Ⅰa1	口：網目状撚糸文（R）（横位）　体上：結節回転（4段） 体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	外：スス　内：炭化物 海含む
135	320	19次	6区下層下面	SK1189	6I-1A25	1	縄文	縄文土器	深鉢		口				肥厚	灰褐（7.5YR4/2）	Ⅰa1	単節斜縄文（RL）	
135	321	19次	6区下層下面	SK1189	6I-1A25	－	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰa2	網目状撚糸文（R）（縦位）	
135	322	19次	6区下層下面	SK1189	6I-1A25	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい褐（7.5YR5/3）	Ⅰa2	結節回転	海・赤含む
135	323	19次	6区下層下面	SK1189	6I-2A5	－	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR4/3）	Ⅰa2	単節斜縄文（RL）	
135	324	19次	6区下層下面	SK1189	6I-1A25	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい赤褐（5YR5/4）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む
135	325	19次	6区下層下面	SK1189	6I-1A25	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい赤褐（5YR5/4）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む
135	326	19次	6区下層下面	SK1189	6I-1A25	1	縄文	縄文土器			底		(8.0)			灰黄褐（10YR6/2）	Ⅰb1		内：炭化物
135	327	17次	6区下層下面	SK1189	6I-1A25	－	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B4	口～体	27.9			肥厚	にぶい黄橙（10YR6/4）	Ⅰa1	口：単節斜縄文（RL）　体上：結節回転（3段） 体下：羽状縄文	外：スス　内：炭化物　海含む
135	328	19次	6区下層下面	SX1056	6I-2A15	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅲa	網目状撚糸文（R）（縦位）	
135	329	19次	6区下層下面	SX1056	6I-2A15	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄褐（10YR6/2）	Ⅱb	単節斜縄文（LR）＋沈線文	339と同一個体の可能性あり

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置 遺構名	出土位置 グリッド	出土層位	時代	種別	器種	分類	残存部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 底径	法量（cm） 器高	口縁部形態	色調	胎土・産地	文様・施文・調整	備考
135	330	19次	6区下層下面	SX1056	6I-2A20	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/2）	Ⅱb	沈線文	赤含む
135	331	19次	6区下層下面	SX1120	6I-2A1・2	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢A1	完形	15.4	9.8	21.2		にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	口：平行沈線＋刺突文（縦位）＋沈線 体：網目状撚糸文（R）（縦位）	補修孔あり　口内：接合痕 外：スス　内：炭化物　海含む
135	332	19次	6区下層下面	SC930	6I-1A23	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい橙（7.5YR7/3）	Ⅰb1	撚糸文（R）（縦位）	
135	333	19次	6区下層下面	SC940	6I-1A18	－	縄文	縄文土器	深鉢		口～体					にぶい褐（7.5YR6/3）	Ⅱa	結節回転（3段）＋撚糸文（R）（縦位）	
135	334	19次	6区下層下面	SC1107	6I-2A20	1	縄文	縄文土器	甕	甕B2	口～体	14.3				にぶい橙（7.5YR7/4）	Ⅰb1	口：浮線文　頸：無文帯　体上：浮線文	外：スス　雲・海含む　317と同一個体の可能性あり
135	335	19次	6区下層下面	SC1107	6I-2A20	1	縄文	縄文土器	深鉢		口					にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰb1	口：網目状撚糸文（R）（横位）	336と同一個体の可能性あり
135	336	19次	6区下層下面	SC1107	6I-2A20	1	縄文	縄文土器	深鉢		口					黄褐（10YR5/6）	Ⅰb1	口：網目状撚糸文（R）（横位）	335と同一個体の可能性あり
135	337	19次	6区下層下面	SC1107	6I-2A20	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰa1	撚糸文（0段r）（縦位）	
135	338	19次	6区下層下面	SC1107	6I-2A20	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR5/4）	Ⅰb1	撚糸文（R）（縦位）	赤含む
135	339	19次	6区下層下面	SC1107	6I-2A20	－	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢A4	体					灰白（10YR8/2）	Ⅰb1	単節斜縄文（LR）＋沈線文	海・赤含む　329と同一個体の可能性あり
135	340	19次	6区下層下面	SC1153	6I-1A19	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/4）	Ⅰb2	撚糸文（0段r）（縦位）	雲含む
135	341	19次	6区下層下面	SC1179	6I-1A19	－	縄文	縄文土器	深鉢		体					褐灰（10YR4/1）	Ⅱb	撚糸文（R）（縦位）	雲・海含む
135	342	19次	6区下層下面	F402	6I-2B11	2	縄文	縄文土器	深鉢		口～体	（19.5）			肥厚	にぶい黄橙（10YR4/3）	Ⅰa1	口：網目状撚糸文（R）（横位）　体上：結節回転 体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	
135	343	19次	6区下層下面	F402	6I-2B11	5	縄文	縄文土器	浅鉢もしくは鉢		口					橙（7.5YR6/6）	Ⅱa	浮線文	海含む
135	344	19次	6区下層下面	F402	6I-2B11	1	縄文	縄文土器	鉢もしくは甕		口					オリーブ黒（5Y3/1）	Ⅰb1	撚糸文（0段r）（横位）	
135	345	19次	6区下層下面	F402	6I-2B11	2	縄文	縄文土器	深鉢		口～体				肥厚	にぶい黄橙（10YR7/4）	Ⅰa1	口：単節斜縄文（RL）　体上：結節回転（2段）	海・赤含む
135	346	19次	6区下層下面	F402	6I-2B11	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					褐灰（10YR4/1）	Ⅰb1	結節回転（3段）	海含む
136	347	19次	6区下層下面	F921 F1042 F1130 遺構外	－ 6I-1A19 － 6I-1A19	1 1 Vd	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B1	口～体	27.6			肥厚	にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	口：撚糸文（0段r）（斜位）　体上：結節回転（4段） 体下：撚糸文（0段r）（斜位）　一部撚糸文間で絡条体の木目あり	一部外：スス　内：炭化物　赤含む
135	348	19次	6区下層下面	F1055	6I-2A25	1	縄文	縄文土器	深鉢		口～体				肥厚	にぶい褐（7.5YR5/3）	Ⅰa1	口：網目状撚糸文（R）（横位）　体：結節回転（2段）	海含む
135	349	19次	6区下層下面	F1130	6I-1A23	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰa1	撚糸文（無節R）（縦位）	
135	350	19次	6区下層下面	F1198	6I-2A4	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰白（7.5YR8/2）	Ⅲa	網目状撚糸文（R）（縦位）	
135	351	19次	6区下層下面	F1198	6I-2A4	－	縄文	縄文土器	深鉢		底		9.2			にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰa1	撚糸文（無節L）（縦位）	
136	352	19次	6区下層下面	F1198	6I-2A4	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄（2.5Y7/2）	Ⅰb1	結節回転	海・赤含む
136	353	19次	6区下層下面	F1198	6I-2A4	1	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄（2.5Y7/2）	Ⅰa1	単節斜縄文（RL）	雲含む
136	354	19次	6区下層下面	F1198	6I-2A4	1	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B4	体					黄褐（2.5Y5/3）	Ⅰa1	体上：結節回転（2段） 体下：単節斜縄文（RL）＋結節回転（縦位）	海含む
136	355	19次	6区下層下面	遺構外	6I-3B5	Vd	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢B2	口～体	25.4			肥厚	灰黄褐（10YR5/2）	Ⅰa1	口：網目状撚糸文（R）（横位）　体上：結節回転（2段） 体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	海・赤含む
136	356	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A18	－	縄文	縄文土器	深鉢		口～体					灰黄褐（10YR4/2）	Ⅰa1	口：無節斜縄文（R）　体上：結節回転（3段）	海含む
136	357	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A13	－	縄文	縄文土器	深鉢		口				肥厚	にぶい褐（7.5YR5/4）	Ⅰb1	無節斜縄文（R）	
136	358	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A13	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		口				肥厚	にぶい褐（7.5YR5/4）	Ⅰa1	無節斜縄文（R）	
136	359	19次	6区下層下面	遺構外	6I-2A15	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		口				肥厚	黒褐（10YR3/2）	Ⅰa2	撚糸文（0段r）（横位）	海含む
136	360	19次	6区下層下面	遺構外	6I-2B11	Vd	縄文	縄文土器	深鉢		口～体				突起	灰黄褐（10YR4/2）	Ⅰa1	口：撚糸文（0段r）（横位）　体上：浮線文	海含む　補修孔あり
136	361	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A20	Vd	縄文	縄文土器	深鉢		口～体					灰黄褐（10YR5/2）	Ⅰa1	口：網目状撚糸文（R）（横位）　体上：結節回転	
136	362	19次	6区下層下面	遺構外	6I-2B17	Vd	縄文	縄文土器	壺		肩～頸					にぶい黄褐（10YR5/4）	Ⅰa1	肩：平行沈線（1条）	
136	363	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A13	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海・赤含む
136	364	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A13	－	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄褐（10YR4/2）	Ⅰa1	結節回転（2段）	
136	365	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A20	Vd	縄文	縄文土器	深鉢		体					橙（5YR6/6）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	雲・海含む
136	366	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A23	－	縄文	縄文土器	深鉢		体					橙（7.5YR6/6）	Ⅰb1	撚糸文（無節R）（縦位）	
136	367	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A23	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄褐（10YR5/3）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む
136	368	19次	6区下層下面	遺構外	6I-2A2	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR6/3）	Ⅰb2	網目状撚糸文（R）（縦位）	
136	369	19次	6区下層下面	遺構外	6I-2A5	Vd	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄褐（10YR4/2）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む
136	370	19次	6区下層下面	遺構外	6I-2A20	Vc	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄褐（10YR5/2）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	
136	371	19次	6区下層下面	遺構外	6I-2B1	Vd	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい橙（10YR6/3）	Ⅰa1	網目状撚糸文（R）（縦位）	海含む
136	372	19次	6区下層下面	遺構外	6I-2B11	Vd	縄文	縄文土器	深鉢		体					灰黄褐（10YR4/2）	Ⅰa1	結節回転＋網目状撚糸文（R）（縦位）	
136	373	19次	6区下層下面	遺構外	6I-3B1	Vd	縄文	縄文土器	深鉢		体					にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	網目状撚糸文（R）（縦位）	赤含む
136	374	19次	6区下層下面	遺構外	6I-3D1	Vd	縄文	縄文土器	深鉢		体					暗灰黄（2.5Y5/2）	Ⅰa1	撚糸文（R）（横位・縦位）	海含む
136	375	19次	6区下層下面	遺構外	6I-2B1	Vd	縄文	縄文土器	深鉢	深鉢A4	体					灰黄褐（10YR4/2）	Ⅰa1	体上：浮線文	海含む
136	376	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A13	－	縄文	縄文土器	深鉢		底		8.0			にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰa1		赤含む
136	377	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1B11	Vd	縄文	縄文土器	深鉢		底		（9.4）			にぶい黄橙（10YR7/3）	Ⅰb1	体下：網目状撚糸文（R）（縦位）	
136	378	19次	6区下層下面	遺構外	6I-1A18	－	縄文	縄文土器	深鉢		底		9.3			にぶい橙（7.5YR6/4）	Ⅰa1	体下：撚糸文（R）（縦位）	

別表４　石器・石製品観察表

凡　例　1　砥石の分類は第Ⅴ章第3節の分類に基づき記載した。
　　2　法量について欠損があるものは残存長を示す。

図版番号	遺物番号	調査年次	調査区	出土位置		層位	器種	分類	遺存状態	法量（cm）			重量（g）	石材	備考
				遺構名	グリッド					長さ	幅	厚さ			
120	30	15次	5区上層	SX86	5I-9B18	2	礫			3.8	3.3	2.5	22.0	玉髄	
120	31	15次	5区上層	SX86	5I-9B14	1	礫			3.2	3.0	2.1	18.0	玉髄もしくは石英	
120	32	15次	5区上層	SX86	5I-9B14	1	石核			6.0	3.3	2.2	35.5	珪質頁岩	
120	33	15次	5区上層	P139	5I-10B5	1	礫			4.3	3.3	2.4	33.5	チャート	
120	34	15次	5区上層	遺構外	5I-9C2	攪乱	砥石	A-Ⅱ	両端破損	2.5	2.9	1.9	19.7	凝灰岩	
120	35	15次	5区上層	遺構外	5I-10F20	Ⅱa	砥石	B1-Ⅲ		5.4	5.1	3.9	123.0	凝灰岩	
122	65	16次	6区上層	SX442	6I-8D11	1	剥片			2.0	1.5	0.7	1.0	玉髄	
122	66	16次	6区上層	SX442	6I-8D11	1	剥片			2.2	1.5	0.6	1.5	頁岩	
122	67	16次	6区上層	SX442	6I-8D11	1	剥片			2.5	1.3	1.2	2.5	玉髄	
122	68	16次	6区上層	SX442	6I-8D11	1	剥片			4.3	2.3	1.1	7.5	頁岩	
122	69	16次	6区上層	SX442	6I-8D11	1	剥片			1.5	1.7	1.0	2.0	玉髄	
122	70	16次	6区上層	遺構外	6I-6B8	Ⅳ	砥石	B1-Ⅰ		4.8	4.5	3.1	66.9	砂岩	線状の削痕あり
122	71	16次	6区上層	遺構外	6I-9D6	Ⅳ	砥石	B1-Ⅱ		8.2	3.4	3.0	186.2	デーサイト	
125	145	17次	7区上層	SX48	6I-9A12	1	砥石	C2-Ⅱ		16.3	9.5	8.6	1027.0	流紋岩	
125	146	17次	7区上層	SX67	6I-10A10	1	石鏃		完形	2.4	0.8	0.5	0.5	頁岩	アスファルト付着
125	147	17次	7区上層	SX175	8I-7J14	2	礫			1.2	1.5	0.8	1.5	玉髄もしくは石英	
125	148	17次	7区上層	SX176	8I-5J22	1	剥片			2.7	2.3	1.0	4.0	珪質頁岩	
125	149	17次	7区上層	SD28	6I-10A11	2	砥石	C2-Ⅰ		14.5	9.6	9.4	1391.0	砂岩	
125	150	17次	7区上層	SD28	6I-10A12	1	砥石	A-Ⅲ		2.8	2.3	1.4	10.5	凝灰岩	
125	151	17次	7区上層	SD28	6I-10A6	8	砥石	C2-Ⅲ		5.7	7.6	5.6	301.5	砂岩	
125	152	17次	7区上層	SD49	6H-8J18	1	砥石	C1-Ⅰ		10.0	4.4	2.7	113.5	砂岩	
125	153	17次	7区上層	SD100	8I-8J19	3	砥石	C2-Ⅱ		18.8	11.0	7.8	1636.0	砂岩	
126	154	17次	7区上層	遺構外	6I-8A22	Ⅲ	磨石・敲石類		完形	6.5	4.7	3.4	116.0	凝灰岩	
126	155	17次	7区上層	遺構外	6I-10A3	Ⅲ	砥石	B1-Ⅲ		10.2	3.0	1.6	64.6	凝灰岩	
126	156	17次	7区上層	遺構外	8I-5J17	Ⅲ	磨石・敲石類		完形	6.5	4.7	4.5	163.0	凝灰岩	
126	157	17次	7区上層	遺構外	7I-2F19	Ⅱ	砥石	C1-Ⅱ		6.3	8.3	5.1	359.5	砂岩	
126	158	17次	7区上層	遺構外	7J-7A21	Ⅲ	砥石	B1-Ⅱ	略完形	8.4	4.4	3.4	154.5	緑色凝灰岩	
126	159	17次	7区上層	遺構外	7I-5I12	Va	磨石・敲石類			8.5	7.8	5.9	535.0	安山岩	
126	160	17次	7区上層	遺構外	8I-5J18	Ⅲ	軽石			2.7	2.8	1.5	11.0		
126	161	17次	7区上層	遺構外	8I-4J15	Ⅲ	砥石	B1-Ⅲ		2.5	2.6	1.9	16.0	凝灰岩	
126	162	17次	7区上層	遺構外	8J-9A11	Ⅲ	砥石	B1-Ⅱ		4.3	4.6	4.2	56.5	流紋岩	
126	163	17次	7区上層	遺構外	8J-2A11	Ⅲ	砥石	B1-Ⅲ		5.4	4.7	1.8	54.0	凝灰岩	
130	221	17次	6区下層上面	SI93	6I-1B1	－	磨石・敲石類			10.5	8.5	6.7	787.0	流紋岩	
130	222	17次	6区下層上面	SI93	5I-10A25	－	剥片			2.8	1.8	0.6	2.0	珪質頁岩	
130	223	17次	6区下層上面	SX733	6I-3C7	1	磨石・敲石類			9.2	7.2	3.2	267.0	花崗岩	
130	224	17次	6区下層上面	SC271	6I-1B14	1	磨石・敲石類			9.2	6.5	4.0	258.0	泥岩	
130	225	17次	6区下層上面	F204（焼土）	－	－	石鏃		完形	1.8	0.7	0.4	0.5	頁岩	
130	226	17次	6区下層上面	遺構外	6H-2J15	－	台石			17.7	10.8	8.3	2004.0	砂岩	
130	227	17次	6区下層上面	遺構外	6H-2J15	－	礫			9.1	8.0	2.5	222.0	泥岩	
130	228	17次	6区下層上面	遺構外	6H-2J15	－	磨石・敲石類			10.4	7.4	3.6	429.0	砂岩	
130	229	17次	6区下層上面	遺構外	6H-2J15	－	磨石・敲石類			10.3	5.4	4.4	308.0	泥岩	
130	230	17次	6区下層上面	遺構外	6H-2J15	－	磨石・敲石類			10.6	7.3	5.1	264.0	砂岩	
130	231	17次	6区下層上面	遺構外	6H-2J15	－	磨石・敲石類			7.9	5.4	3.8	206.5	砂岩	
130	232	17次	6区下層上面	遺構外	6H-2J15	－	磨石・敲石類			9.9	8.4	3.3	393.0	花崗岩	
130	233	17次	6区下層上面	遺構外	6I-3B5	－	石鏃			3.4	1.3	0.6	1.5	玉髄もしくは石英	アスファルト付着
133	300	17次	6区下層中面	SX639	6I-3A4	3	磨石・敲石類			10.4	8.9	5.8	807.0	花崗岩	
133	301	18次	6区下層中面	遺構外	6I-2B1	Vc	石鏃			1.7	0.9	0.5	0.5	玉髄	
137	379	18次	6区下層下面	SB3 P974	6I-2B18	1	磨石・敲石類			10.0	7.6	5.8	601.5	砂岩	
137	380	18次	6区下層下面	SB3 P974	6I-2B18	1	磨石・敲石類			12.1	10.2	5.6	981.5	流紋岩	
137	381	18次	6区下層下面	SK961	6I-2A5	－	台石			18.6	12.2	9.5	2820.0	花崗岩	
138	382	18次	6区下層下面	SK977	6I-2A5	2	磨石・敲石類			13.6	8.5	6.8	1009.0	砂岩	
137	383	18次	6区下層下面	SK986	6I-3B2	1	台石			15.3	22.9	4.7	2210.0	砂岩	
137	384	18次	6区下層下面	SK999	6I-2A2	1	石鏃		完形	3.4	1.6	0.8	2.0	石英	アスファルト付着
138	385	18次	6区下層下面	SK1058	6I-2A15	1	台石			20.3	14.0	6.9	2850.0	砂岩	
138	386	18次	6区下層下面	SK1061	6I-1A14	3	台石			26.0	14.2	7.1	4050.0	アプライト	
139	387	18次	6区下層下面	SK1134	6I-2A9	1	台石			13.7	16.5	5.6	2050.0	花崗岩	
139	388	18次	6区下層下面	SK1189	6I-1A25	1	磨石・敲石類			8.2	9.3	4.7	549.5	閃緑岩	
139	389	18次	6区下層下面	P1119	6I-2A20	1	台石			22.2	16.2	6.3	3270.0	安山岩	
140	390	18次	6区下層下面	遺構外	6I-2A5	Vd	磨石・敲石類			4.7	7.4	4.3	128.0	砂岩	
140	391	18次	6区下層下面	遺構外	6I-2B1	Vd	台石			13.9	13.2	5.1	1301.0	フォルンフェルス	
140	392	18次	6区下層下面	遺構外	6I-2B12	Vd	石核			12.6	10.5	4.7	465.0	珪質凝灰質頁岩	

別表５　木製品観察表

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	分類名				遺存状態	法量（cm）			木取り	加工・装飾	樹種	時代	備考
				遺構名	グリッド		分類群	器種名	器種細分名1	器種細分名2		長さ・口径	幅・器高	厚さ・底径					
122	72	16次	6区上層	SA147（P546）	6I-8C13	－	加工材	杭			上部欠損	31.1	4.7	4.1		下端尖る		中世	

別表６　アスファルト観察表

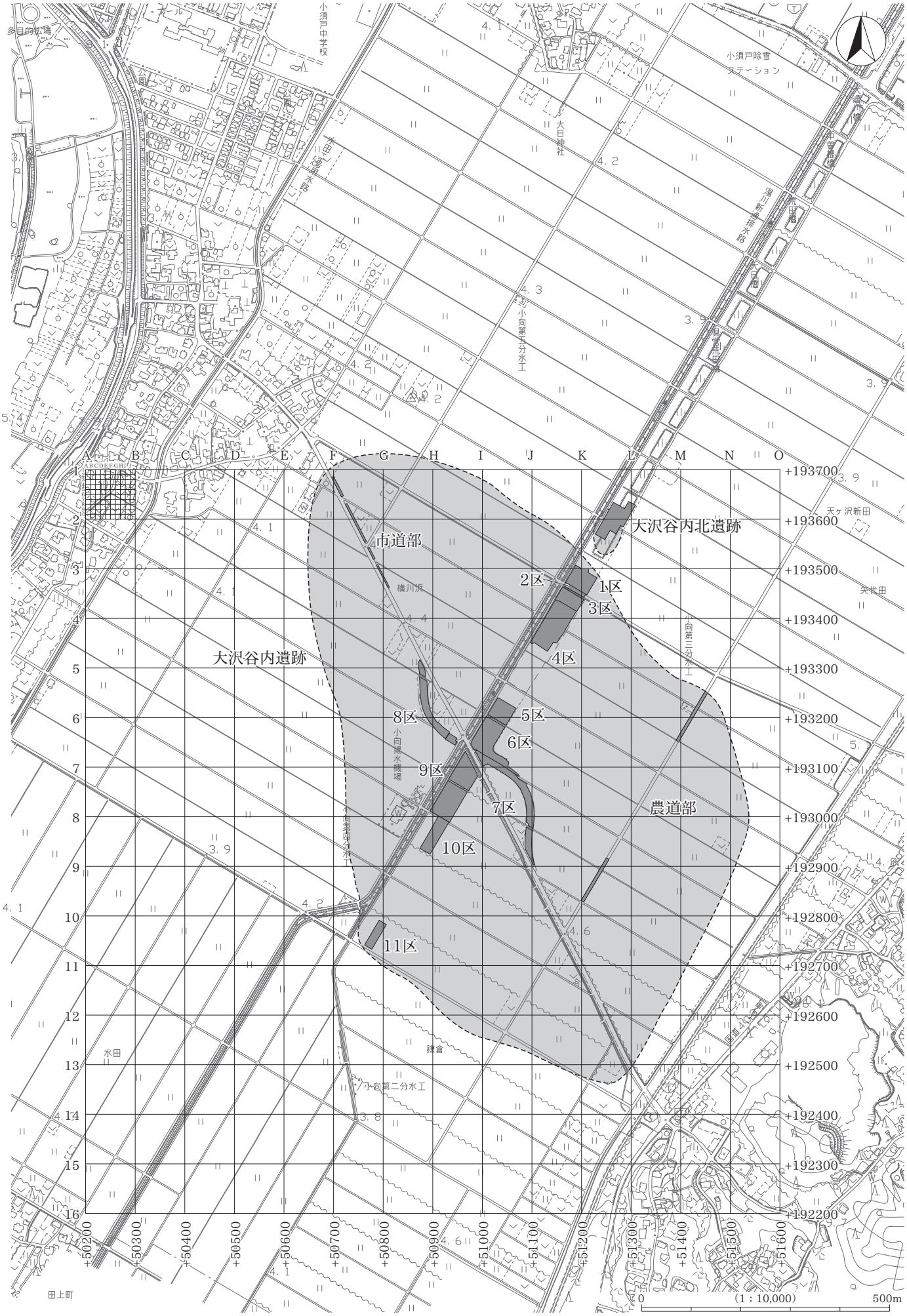
凡　例　1　形状・性状分類は第Ⅴ章第5節での分類に基づき記載した。

図版番号	遺物番号	調査年次	調査区	出土位置		層位	法量（cm）			重量（g）	形状・性状分類		備考
				遺構名	グリッド		長さ（長軸）	幅（短軸）	厚さ		形状	性状	
126	164	17次	7区上層	SD100	8I-8J13	2	1.35	1.5	1.15	1.5	塊状	1類	いわゆるアスファルトタイト
126	165	17次	7区上層	SD118	8I-6J11	1	2.0	2.7	1.35	4.5	塊状	1類	
126	166	17次	7区上層	遺構外	8I-3J25	Ⅲ	2.4	2.5	0.7	3.5	板状	1類	
126	167	17次	7区上層	遺構外	8I-5J16	Ⅲ	2.0	2.8	1.4	4.0	塊状	1類	
126	168	17次	7区上層	遺構外	8I-6J23	Ⅲ	4.6	6.0	2.1	45.0	塊状	2b類	
126	169	17次	7区上層	遺構外	8I-7J12	Ⅲ	7.5	4.5	2.2	95.5	板状	1類	
140	393	18次	6区下層下面	F1130	6I-1A22	1	3.2	3.75	1.1	5.0	板状	2a類	
140	394	18次	6区下層下面	遺構外	6I-1A25	－	3.1	3.9	1.4	6.0	板状	2a類	

図　　版

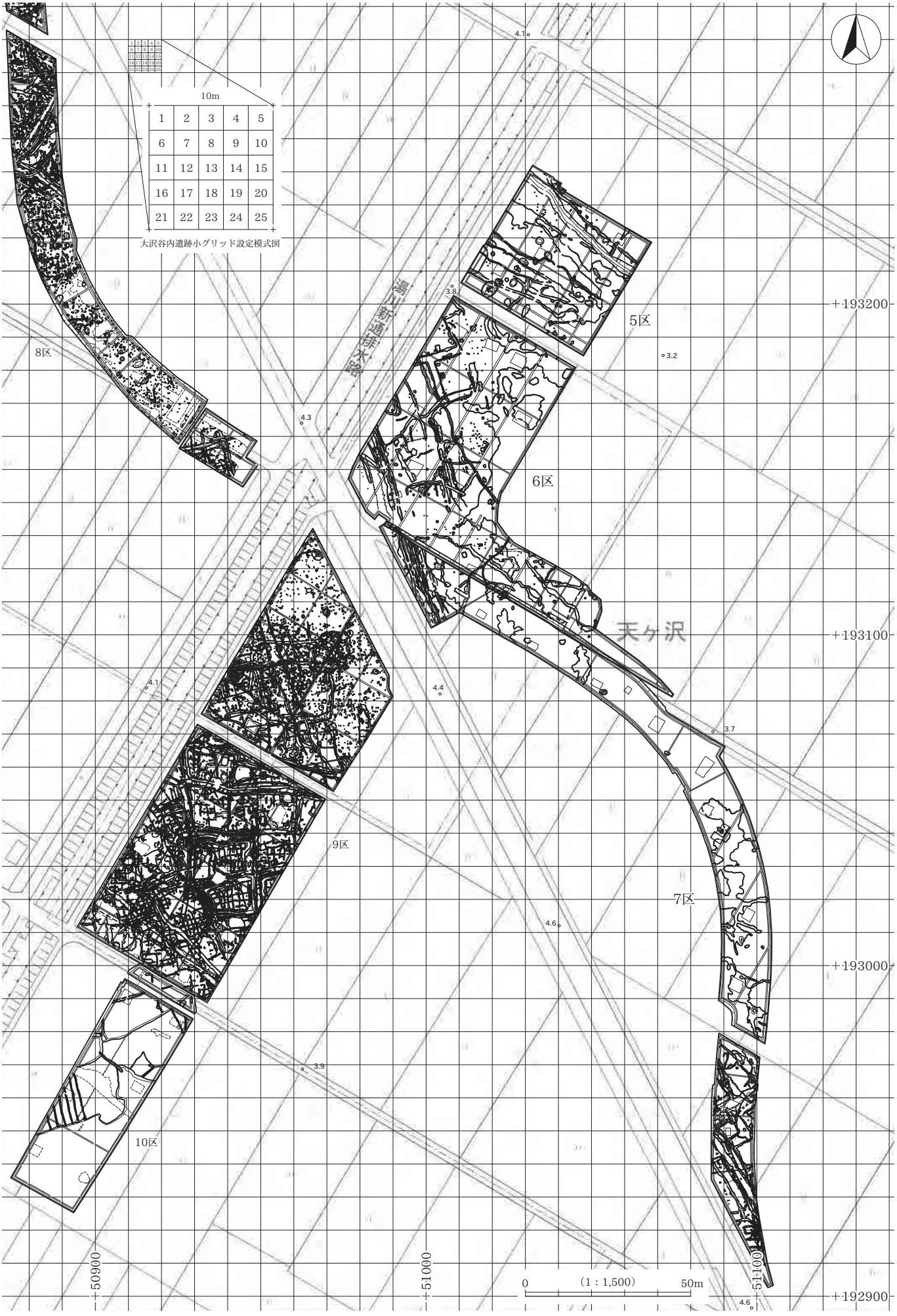
明治44年測図　大正3年８月大日本帝国陸地測量部発行「新津」1/50,000を使用

グリッド設定図（1）（1/10,000）



グリッド設定図（2）（1/1,500）

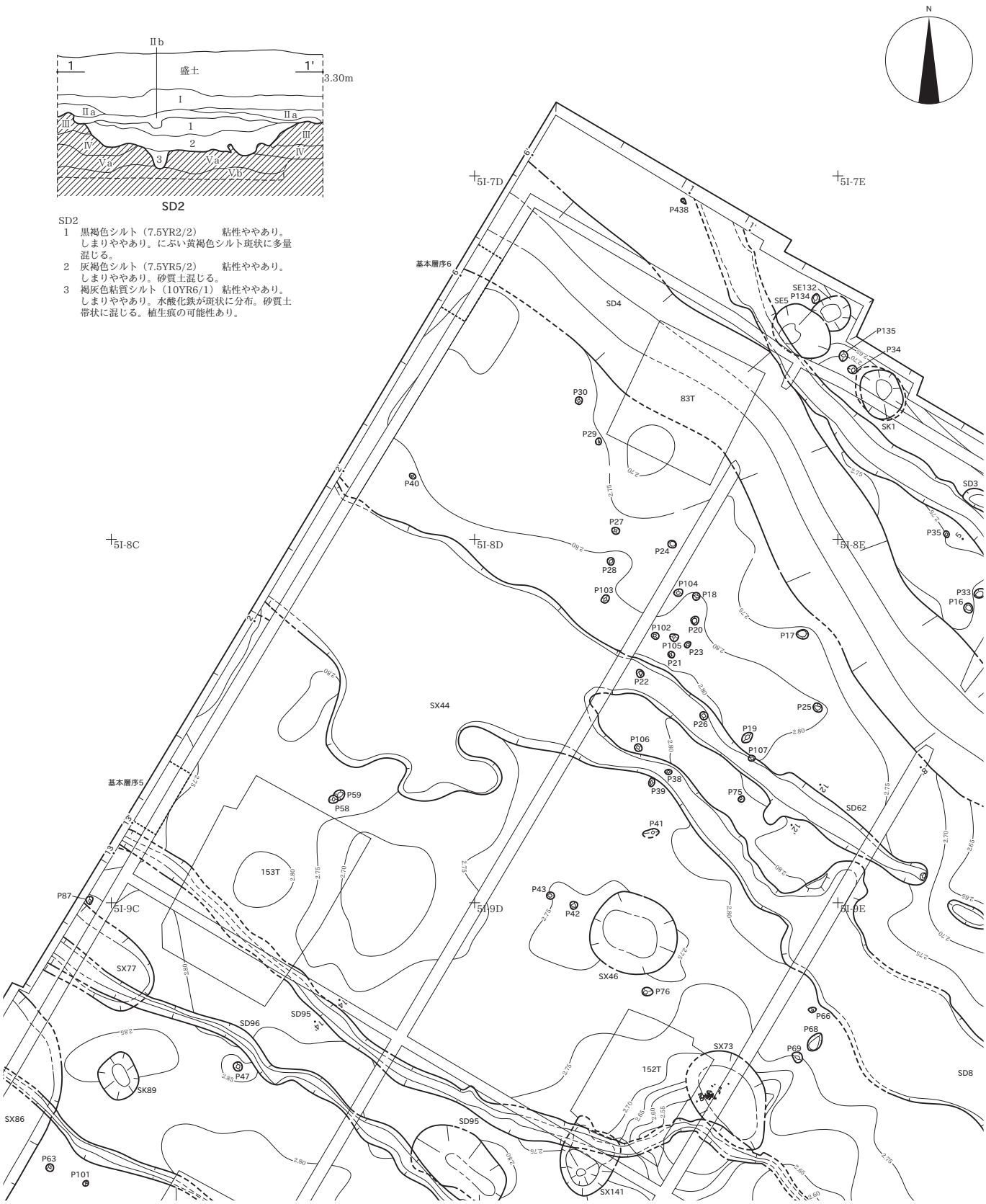
図版３

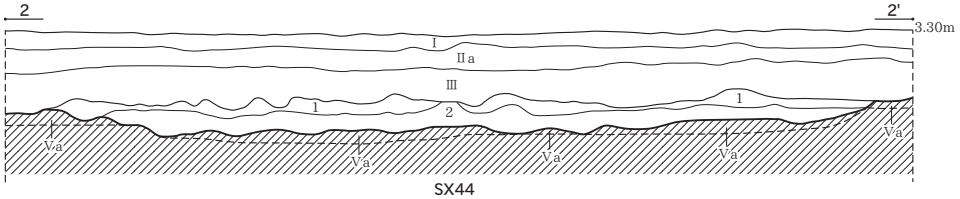


図版 4

5・6 区上層遺構全体図 (1/600)

SD2
1　黒褐色シルト（7.5YR2/2）　粘性ややあり。しまりややあり。にぶい黄褐色シルト斑状に多量混じる。
2　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。砂質土混じる。
3　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性ややあり。しまりややあり。水酸化鉄が斑状に分布。砂質土帯状に混じる。植生痕の可能性あり。



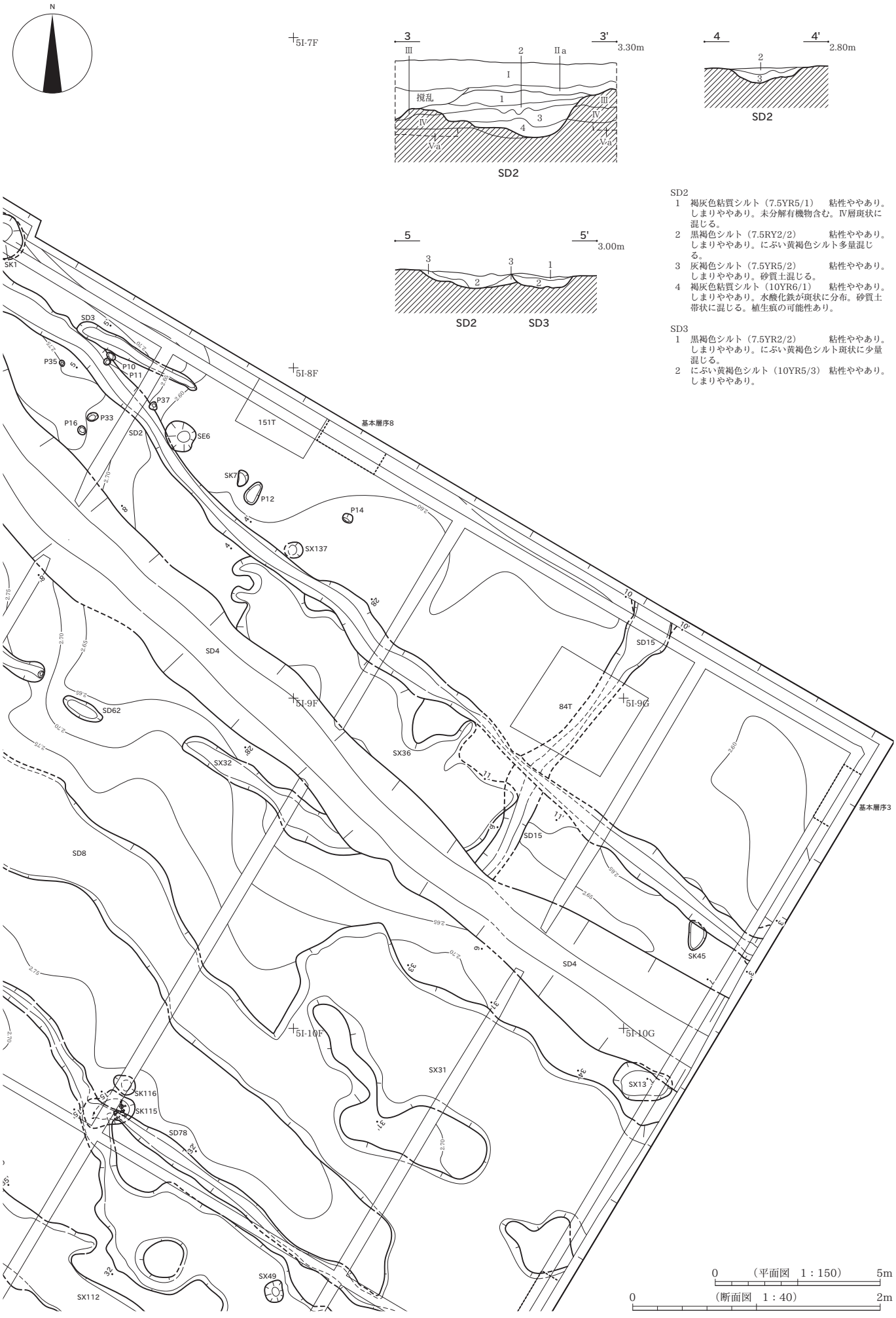


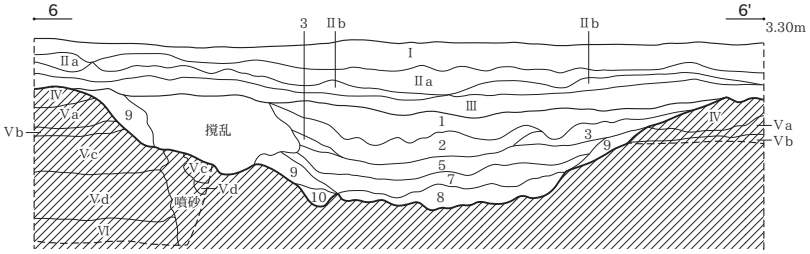
SX44
1　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性弱い。しまりややあり。褐灰シルト多量混じる。炭化物φ2～5mm多量含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）粘性弱い。しまりややあり。1層混じる。

0　（平面図　1：150）　5m

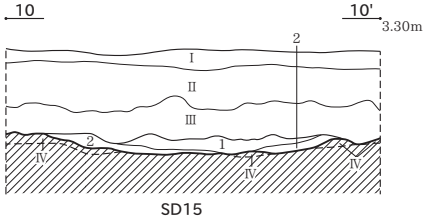
0　（断面図　1：40）　2m

5 区上層平面分割図（2）SD2・3

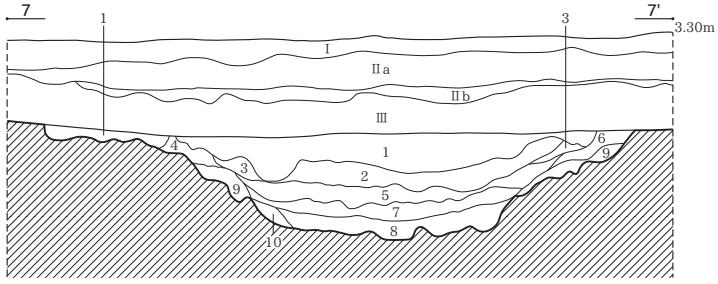




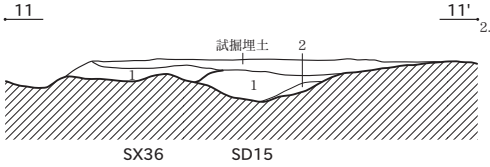
SD4



SD15

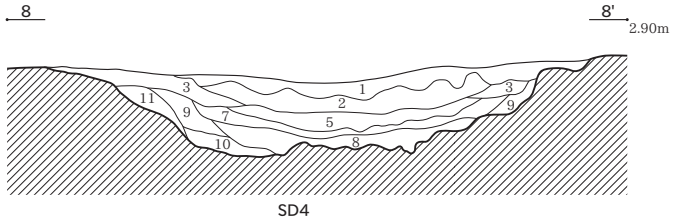


SD4

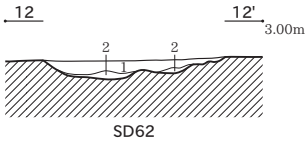


SX36　　SD15

SX36
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2）　粘性ややあり。しまりややあり。

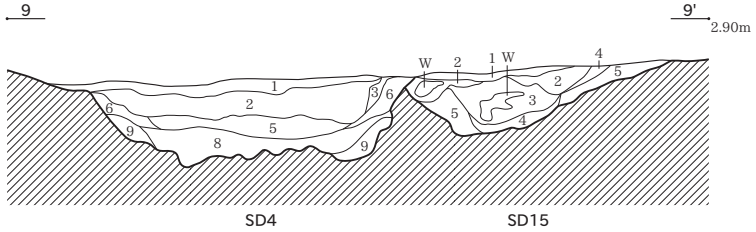


SD4

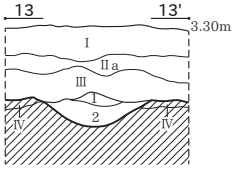


SD62

SD62
1　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性弱い。しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。

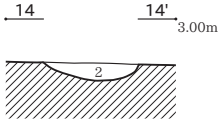


SD4　　SD15



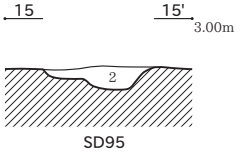
SD95

SD4
1　暗緑灰色未分解有機物土（10GY4/1）　粘性弱い。しまりややあり。腐植質土。未分解有機物含む。
2　灰褐色腐植質粘質シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり。しまりややあり。未分解有機物多量含む。
3　灰オリーブ色粘質シルト・砂質土混合層（5Y6/2）　粘性弱い。しまりややあり。砂質土混じる。
4　黄灰色粘質シルト・砂質土混合層（2.5Y6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。
5　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。腐植質土。未分解有機物含む。炭化物含む。砂質土帯状に混じる。
6　青灰色粘質シルト（5BG6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層斑状に混じる。
7　灰オリーブ色粘質シルト（5Y6/2）　粘性あり。しまりややあり。未分解有機物・マンガン粒含む。
8　青灰色砂質シルト（10BG5/1）　粘性弱い。しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。炭化物含む。植生による撹乱。
9　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。砂質土混じる。
10　青灰色砂質シルト（10BG6/1）　粘性弱い。しまり弱い。砂質土・炭化物・シルトの互層。
11　青灰色砂質シルト（5BG5/1）　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層混じる。



SD95

SD15
1　褐灰色未分解有機物土（7.5YR4/1）　粘性弱い。しまりややあり。
2　褐灰色粘質シルト（5YR4/1）　粘性あり。しまりややあり。未分解有機物多量含む。植生による撹乱。
3　緑灰色粘質砂質土・粘質シルト混合層（10GY6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。植物遺体含む。植生による撹乱。
4　緑灰色粘質シルト（10G6/1）　粘性あり。しまりややあり。植物遺体少量含む。
5　緑灰色粘質砂質土（5G6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。

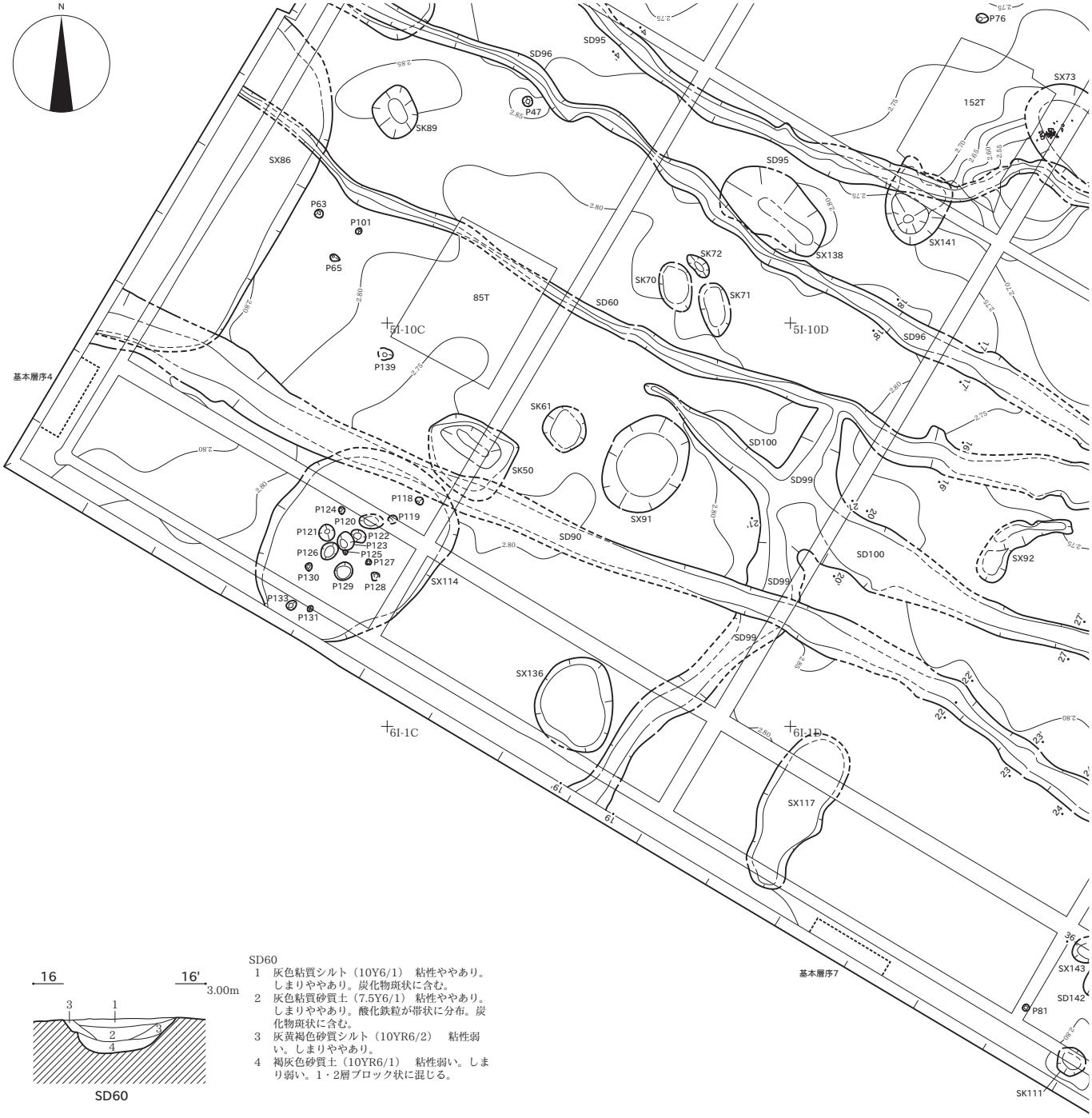


SD95

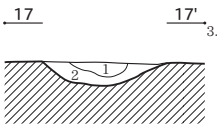
SD95
1　褐灰色粘質シルト（5YR6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。植物遺体多量含む。
2　褐灰色粘質シルト（5YR5/1）　粘性ややあり。しまりややあり。植物遺体含む。

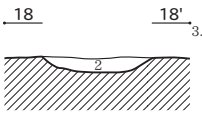
0　（断面　1：40）　2m

5 区上層平面分割図（3）SD60・96・99・100

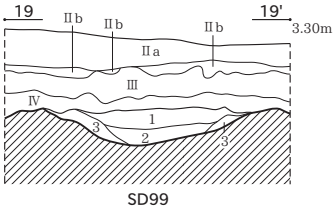


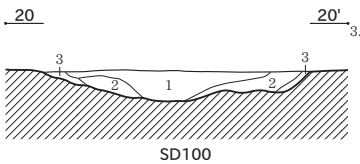
SD60
1 灰色粘質シルト（10Y6/1） 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物斑状に含む。
2 灰色粘質砂質土（7.5Y6/1） 粘性ややあり。しまりややあり。酸化鉄粒が帯状に分布。炭化物斑状に含む。
3 灰黄褐色砂質シルト（10YR6/2） 粘性弱い。しまりややあり。
4 褐灰色砂質土（10YR6/1） 粘性弱い。しまり弱い。1・2層ブロック状に混じる。

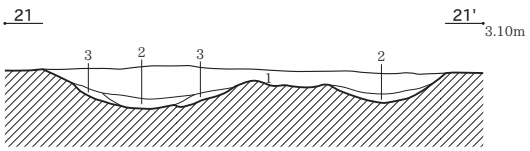




SD96
1 赤灰色粘質シルト（2.5YR5/1） 粘性ややあり。しまりややあり。未分解有機物多量含む。
2 灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2） 粘性ややあり。しまりややあり。1層斑状に混じる。





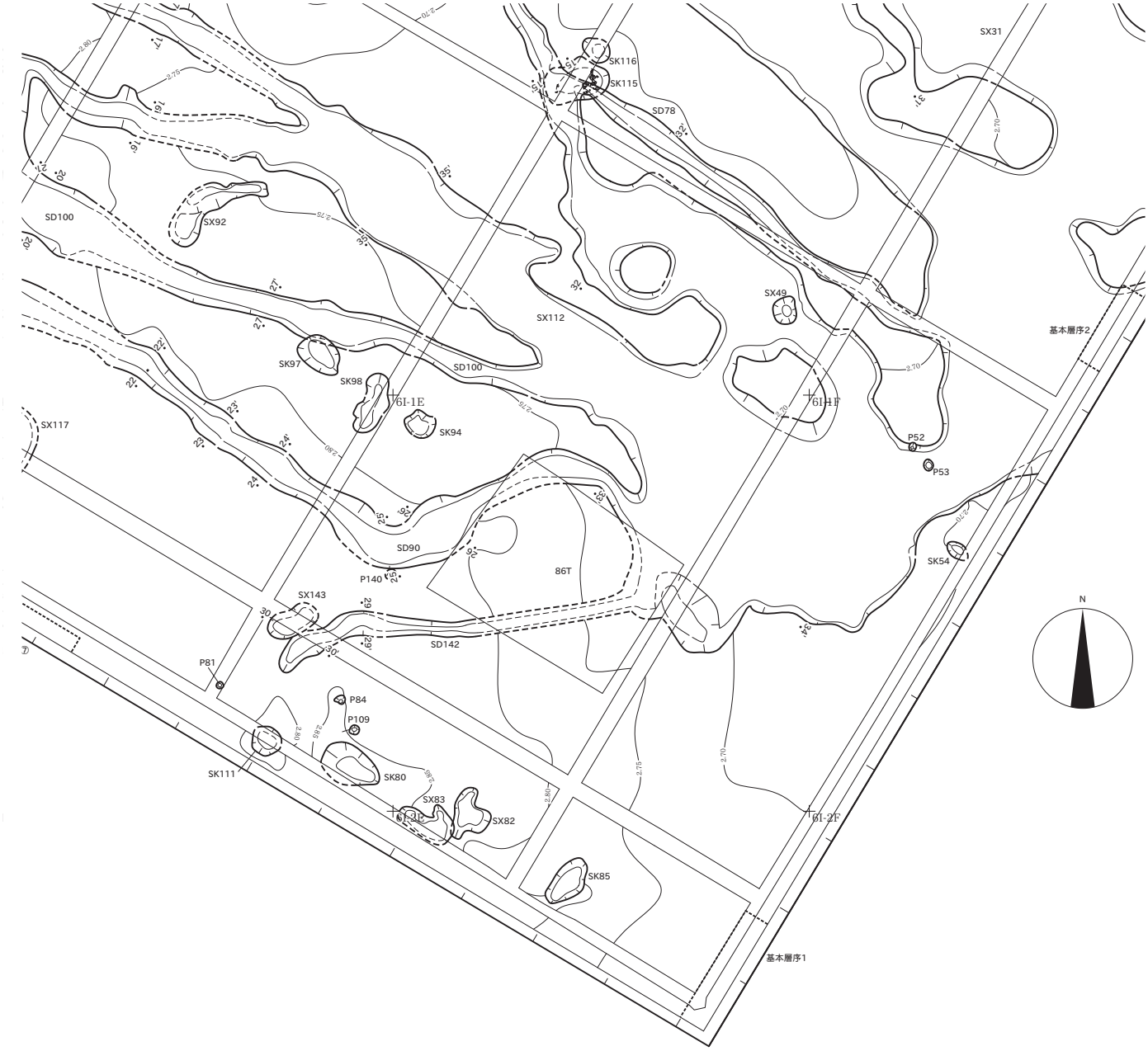


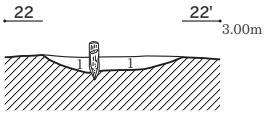
SD99
1 灰白色粘質シルト（7.5Y7/1） 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物帯状に含む。未分解有機物含む。
2 灰白色粘質砂質土（10Y7/1） 粘性弱い。しまりややあり。未分解有機物少量含む。褐鉄鉱帯状に混じる。
3 灰色粘質砂質土（7.5Y6/1） 粘性弱い。しまり弱い。Ⅳa層混じる。褐鉄鉱を多く含む。

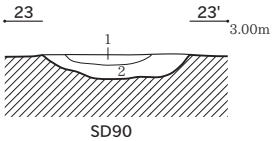
SD100
1 灰白色粘質シルト（7.5Y7/1） 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物帯状に含む。未分解有機物含む。
2 灰白色粘質砂質土（10Y7/1） 粘性弱い。しまりややあり。未分解有機物少量含む。褐鉄鉱帯状に混じる。
3 灰色粘質砂質土（7.5Y6/1） 粘性弱い。しまり弱い。Ⅳa層混じる。褐鉄鉱多量混じる。

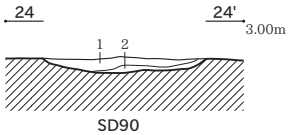
0 （平面図 1：150） 5m

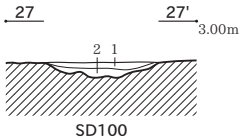
0 （断面図 1：40） 2m



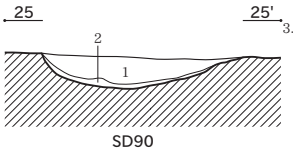


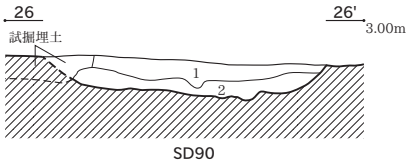






SD100
1　灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物帯状に含む。未分解有機物含む。
2　灰白色粘質砂質土（10Y7/1）　粘性弱い。しまりややあり。未分解有機物少量含む。褐鉄鉱帯状に混じる。



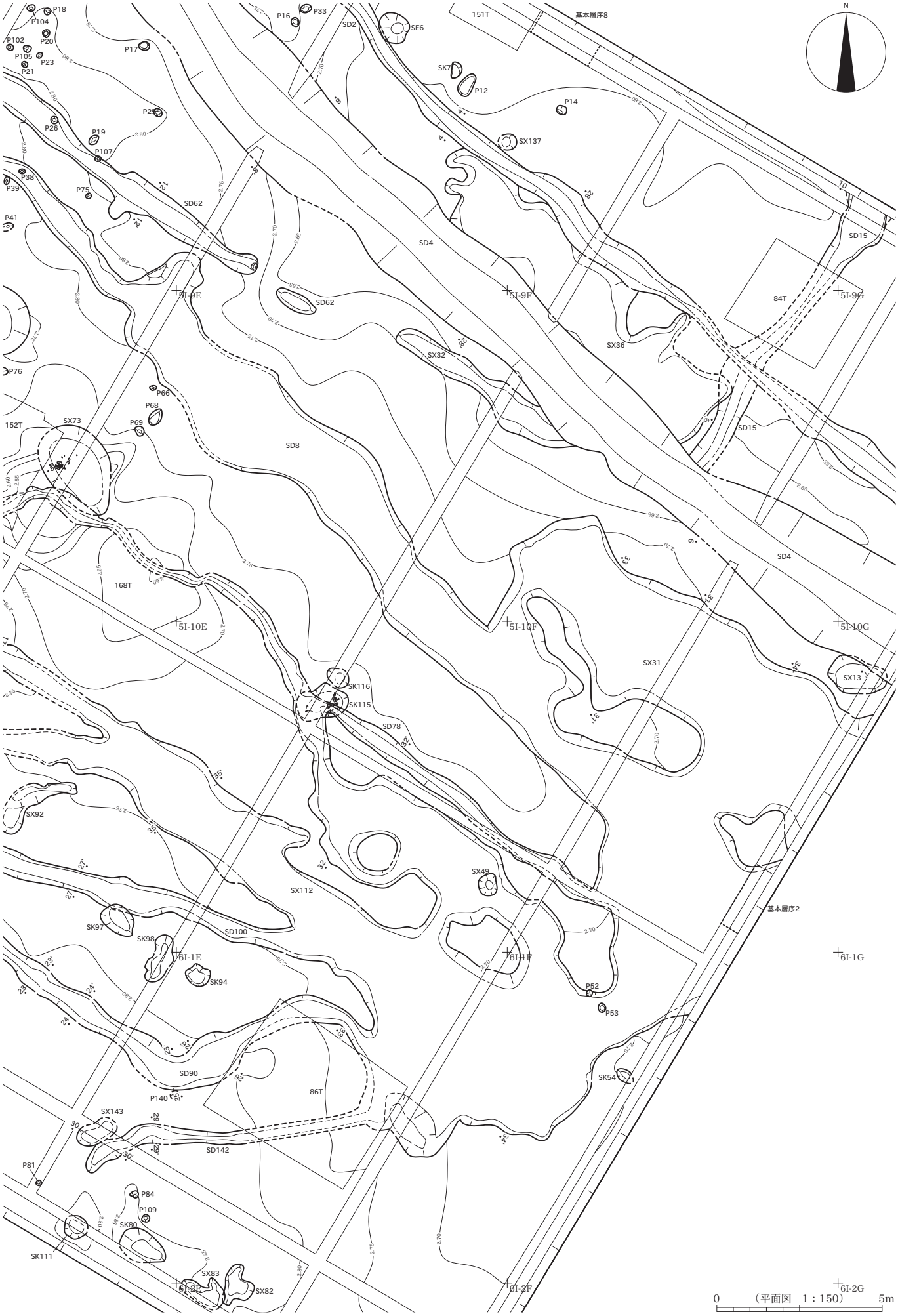


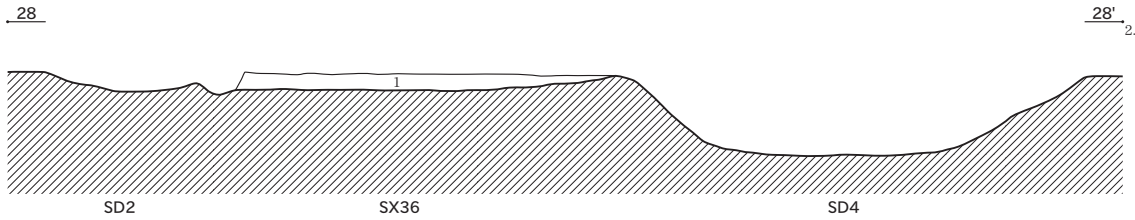
SD90
1　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性弱い。しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性ややあり。しまりややあり。砂粒少量混じる。

0　（平面図　1：150）　5m

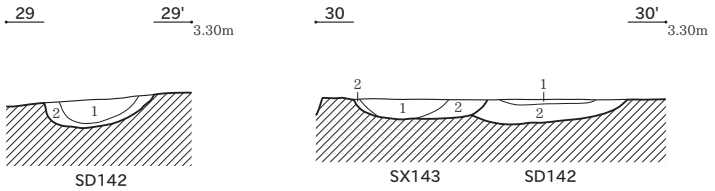
0　（断面図　1：40）　2m

5 区上層平面分割図 (5)


N
P18
P104
P102
P20
P105
P23
P21
P17
P16
P33
SD2
SE6
151T
基本層序8
SK7
P12
P14
SX137
P25
P26
P19
P107
P38
P39
P75
SD62
P41
SD4
SD15
84T
5I-9E
5I-9F
5I-9G
SX36
SX32
P76
P66
P68
P69
152T
SX73
SD8
168T
5I-10E
5I-10F
5I-10G
SX31
SX13
SK116
SK115
SD78
SX92
SX112
SX49
SK97
SK98
SD100
6I-1E
6I-1F
6I-1G
SK94
P52
P53
SD90
SK54
P140
86T
SX143
SD142
P81
P84
P109
SK80
SK111
SX83
SX82
6I-2F
6I-2G
基本層序2
0
（平面図 1：150）
5m

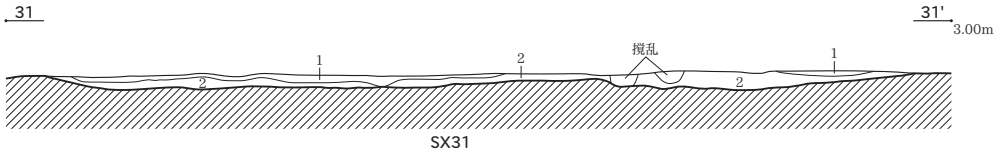


SX36
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2）　粘性ややあり。しまりややあり。

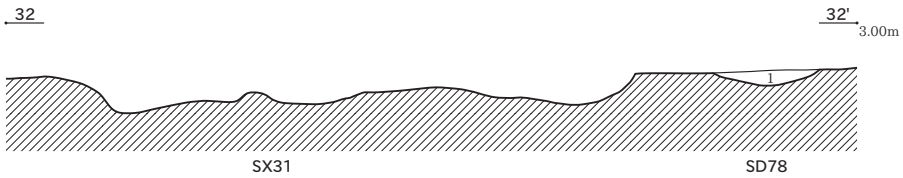


SD142
1　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり。しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR6/2）　粘性あり。しまりややあり。

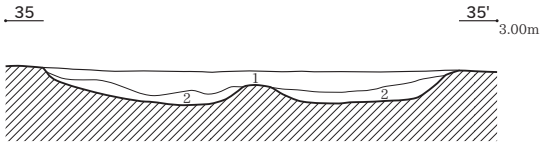
SX143
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性あり。しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。



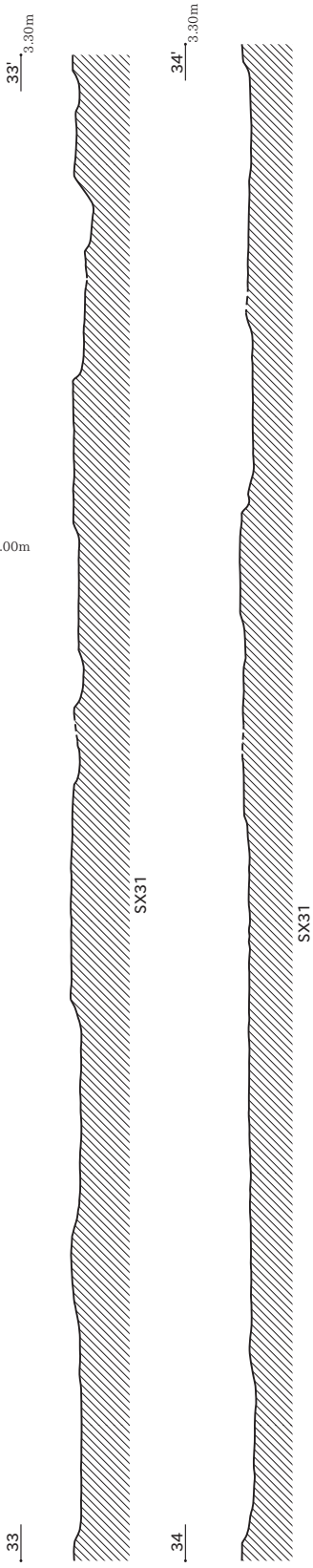
SX31
1　褐灰色シルト（5YR4/1）　粘性ややあり。しまりややあり。植物遺体多量含む。
2　明褐灰色粘土（7.5YR7/1）　粘性あり。しまりややあり。炭化物少量含む。



SD78
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。



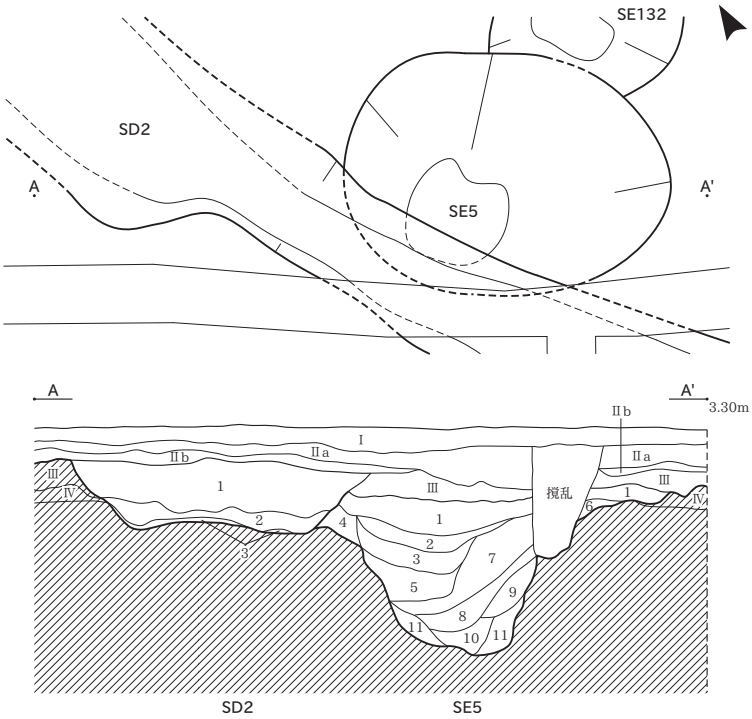
SX112
1　褐灰色粘質シルト（5YR4/1）　粘性あり。しまりややあり。水酸化鉄が斑状に分布。
　未分解有機物含む。
2　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/1）粘性あり。しまりややあり。水酸化鉄が斑状に分布。
　炭化物少量含む。



0　（エレベーション　1：80）　4m

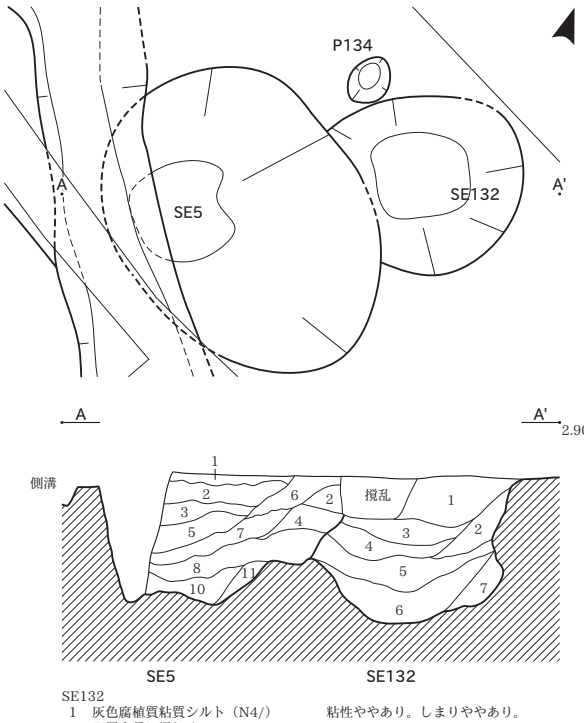
0　（断面図　1：40）　2m

5 区上層遺構個別図 SE（1）SE5・6・132、SD2

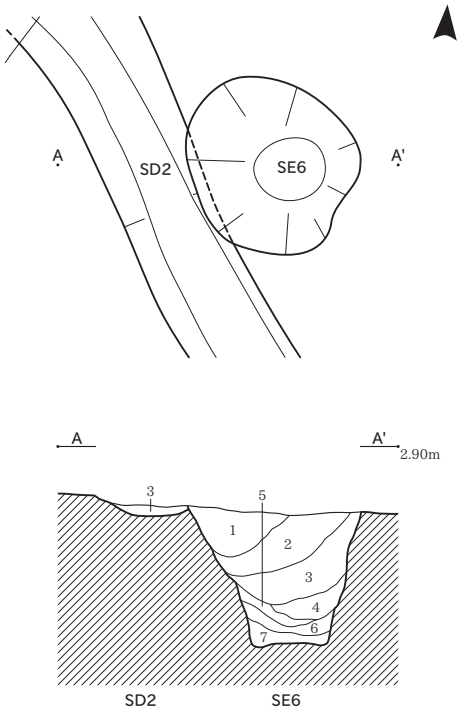


SE5
1 灰色腐植質粘質シルト（N4/） 粘性ややあり。しまりややあり。未分解有機物含む。Ⅳ層ブロック少量混じる。
2 灰色腐植質粘質シルト（N4/） 粘性ややあり。しまりややあり。1層と類似。Ⅳ層ブロック多量混じる。
3 灰色粘質シルト･腐植質粘質シルト混合層（N5/） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層大ブロック混じる。
4 オリーブ灰色粘質シルト･腐植質粘質シルト混合層（2.5GY6/1） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる
5 灰色腐植質粘質シルト（N5/） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。
6 灰色粘質シルト･腐植質粘質シルト混合層（N4/） 粘性ややあり。しまりややあり。3層混じる。
7 灰色腐植質粘質シルト（N4/） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。植物遺体多量含む。
8 灰色腐植質粘質シルト（N5/） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。植物遺体含む。
9 青灰色粘質シルト・腐植質粘質シルト混合層（5B6/1） 粘性あり。しまりあり。Ⅳ層ブロック混じる。
10 灰色腐植質粘質シルト（N4/） 粘性弱い。しまりややあり。砂質土混じる。
11 緑灰色腐植質粘質砂質土（5G6/1） 粘性弱い。しまりややあり。未分解有機物含む。Ⅳ層ブロック少量混じる。

SD2
1 灰色腐植質粘質シルト（N4/） 粘性ややあり。しまりややあり。未分解有機物含む。Ⅳ層ブロック少量混じる。
2 灰色腐植質粘質シルト（N4/） 粘性ややあり。しまりややあり。1層と類似。Ⅳ層ブロック多量混じる。
3 灰色粘質シルト・腐植質粘質シルト混合層（N5/） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層大ブロック混じる。



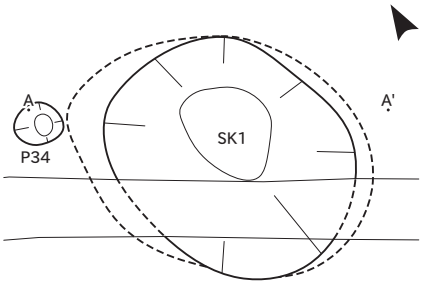
SE132
1 灰色腐植質粘質シルト（N4/） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層多量に混じる。
2 灰色腐植質砂質土（N4/） 粘性ややあり。しまり弱い。Ⅳ層帯状に混じる。
3 暗灰色腐植質粘質シルト（N3/） 粘性ややあり。しまり弱い。砂質土混じる。
4 暗緑灰色腐植質粘質シルト（5G3/1） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層小ブロック少量混じる。
5 緑黒色腐植質粘質シルト（5G2/1） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層大ブロック混じる。
6 緑黒色腐植質粘質シルト（5G1.7/1） 粘性ややあり。しまりややあり。2層に類似。未分解有機物含む。
7 黒褐色腐植質微砂（7.5YR2/2） 粘性ややあり。しまりややあり。Ⅴ層帯状に混じる。

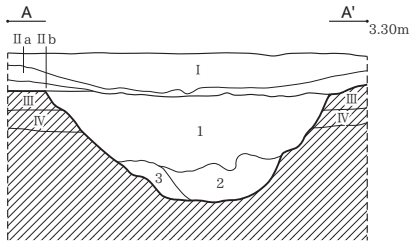


SE6
1 黒色シルト（10YR2/1） 粘性弱い。しまり弱い。腐植質土。褐灰粘質シルト・灰黄褐砂質シルト斑状に混じる。
2 黒色シルト（2.5Y2/1） 粘性ややあり。しまりややあり。腐植質土。1層斑状に少量混じる。
3 黒色シルト（2.5Y2/1） 粘性ややあり。しまりややあり。腐植質土。2層斑状に少量混じる。
4 黒褐色シルト（7.5YR2/2） 粘性ややあり。しまり弱い。腐植質土。
5 灰色シルト（N6/） 粘性ややあり。しまりややあり。4層混じる。
6 黒褐色砂質シルト（10YR3/1） 粘性ややあり。しまりややあり。腐食土・砂質シルトの混合層。
7 褐灰色砂質シルト（10YR5/1） 粘性弱い。しまり弱い。腐植土少量含む。

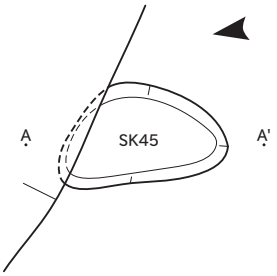
SD2
3 灰褐色シルト（7.5YR5/2） 粘性ややあり。しまりややあり。砂質土混じる。

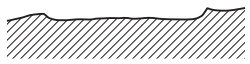
0 （平面図・断面図 1：40） 2m

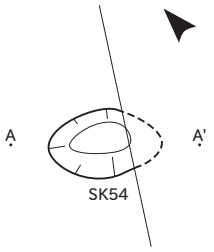


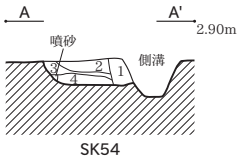


SK1
1　灰色未分解有機物質腐植土（N4/）　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層多量混じる。
2　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層混じる。
3　黄灰色粘質砂質土（2.5Y6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳ層混じる。

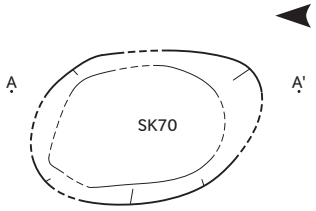


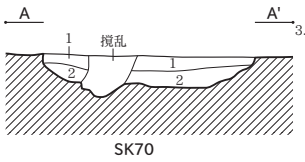




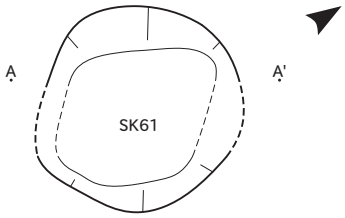


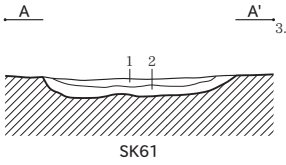
SK54
1　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）粘性ややあり。しまりややあり。明黄白色シルトブロック多量混じる。粘質土混じる。炭化物φ2～3mm少量含む。
2　黄褐色シルト（2.5Y5/3）　粘性弱い。しまりあり。明黄白色シルトブロック少量混じる。
3　暗灰黄色シルト質粘土（2.5Y5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。暗茶褐色ブロック少量混じる。
4　灰黄色粘土（2.5Y6/2）　粘性あり。しまり弱い。赤褐色ブロック少量混じる。



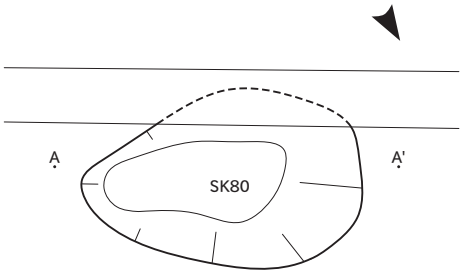


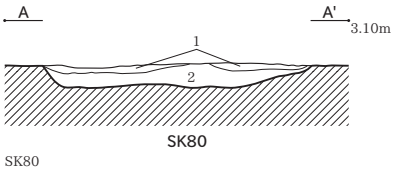
SK70
1　灰白色粘質シルト（5Y7/1）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。炭化物帯状に含む。
2　灰白色粘質砂質土（5Y7/2）　粘性弱い。しまりややあり。炭化物帯状に含む。



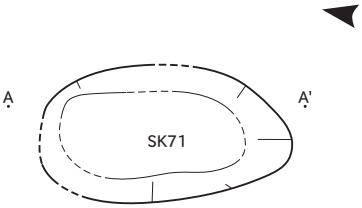


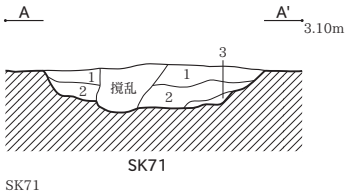
SK61
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）粘性弱い。しまりあり。炭化物帯状に含む。部分的に植生による撹乱。
2　褐灰色粘質砂質土（10YR6/1）　粘性弱い。しまりややあり。炭化物少量含む。



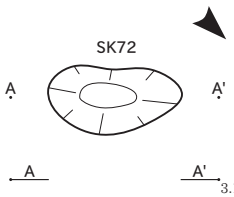


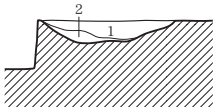
SK80
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性弱い。しまりあり。炭化物φ2～3mm少量含む。
2　灰黄色シルト（2.5Y6/2）　粘性弱い。しまりあり。砂質土混じる。





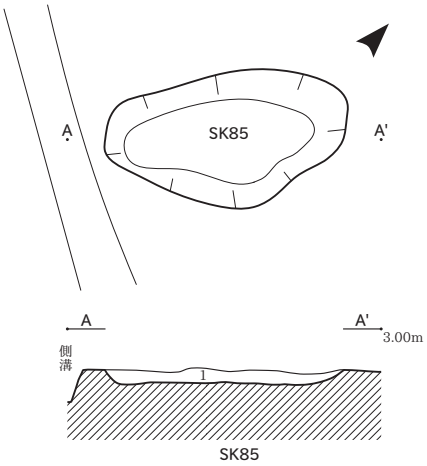
SK71
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。炭化物帯状に含む。
2　灰黄褐色粘質砂質土（10YR5/2）粘性弱い。しまりややあり。炭化物斑状に含む。
3　褐灰色粘質砂質土（7.5YR6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物斑状に含む。



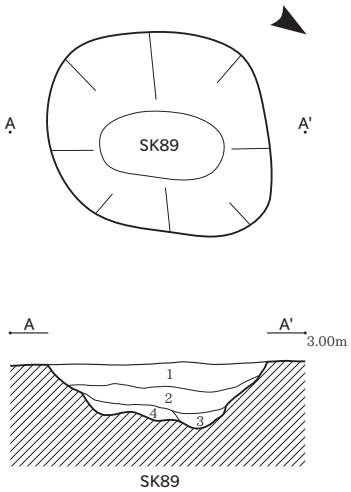


SK72
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。炭化物帯状に含む。
2　灰黄褐色粘質砂質土（10YR5/2）粘性弱い。しまりややあり。炭化物斑状に含む。

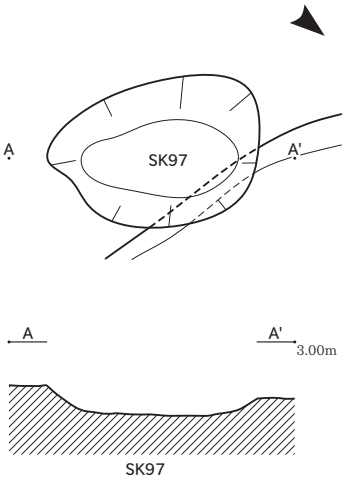
0　（平面図・断面図　1：40）　2m

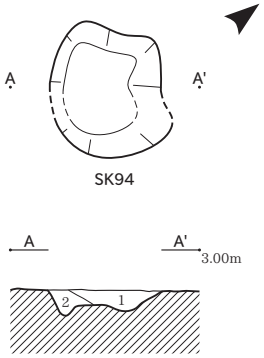


SK85
1　にぶい黄橙色シルト質粘土（10YR6/3）粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ3mm少量含む。

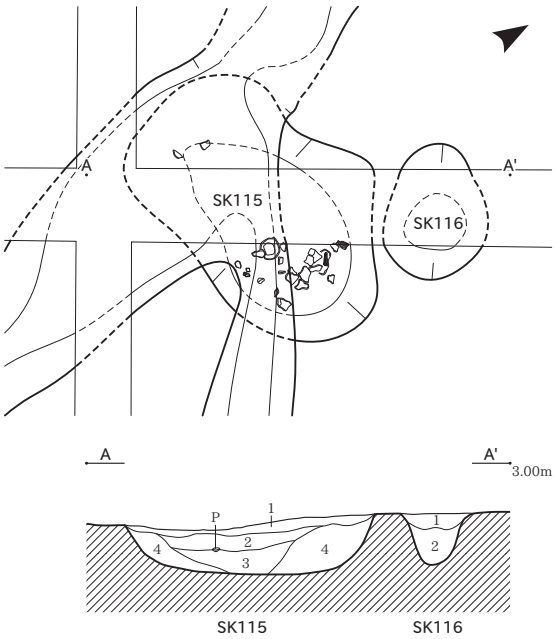


SK89
1　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y5/2）粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1～3mm少量含む。植生による撹乱。
2　灰色粘質シルト（10Y5/1）　粘性あり。しまりややあり。炭化物φ1～3mm少量含む。1層斑状に混じる。
3　灰色粘質シルト・粘質砂質土混合層（10Y6/1）粘性ややあり。しまりややあり。2層斑状に混じる。粘質シルトと粘質砂質土の互層。
4　灰色粘質砂質土（N6/）　粘性弱い。しまり弱い。Ⅴ層と1・2層の混合層。



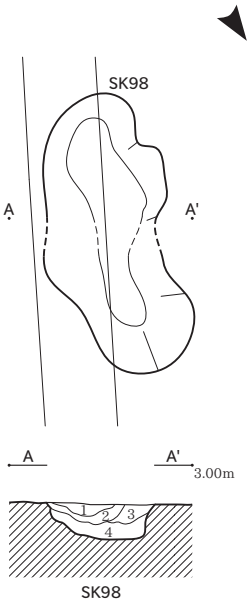


SK94
1　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性弱い。しまりあり。炭化物φ2～3mm含む。
2　暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ2mm少量含む。粘質土混じる。

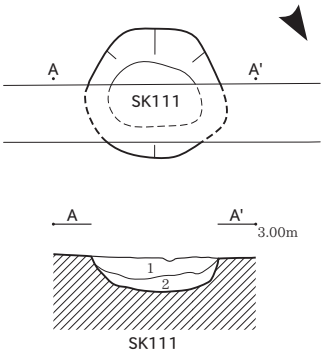


SK115
1　褐灰色砂質シルト（7.5YR5/1）　粘性弱い。しまり弱い。炭化物含む。
2　褐灰色砂質シルト（7.5YR5/1）　粘性弱い。しまり弱い。
3　灰黄褐色砂質土（10YR5/2）　粘性弱い。しまり弱い。
4　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり。しまり弱い。炭化物含む。

SK116
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR5/2）粘性弱い。しまり弱い。炭化物含む。
2　褐灰色砂質土（7.5YR6/1）　粘性弱い。しまり弱い。

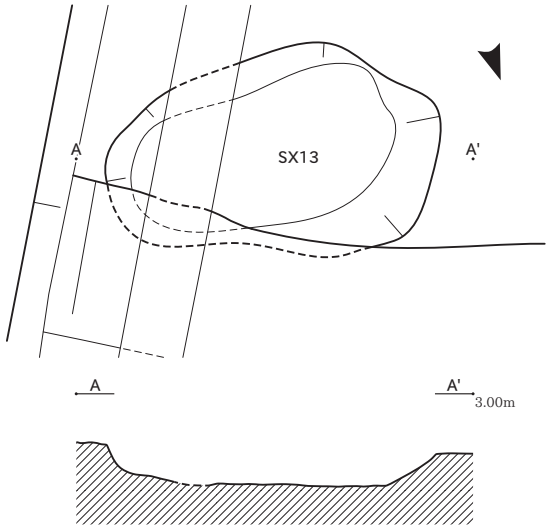


SK98
1　暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）　粘性なし。しまりあり。炭化物φ5mm少量含む。
2　褐灰色シルト（5YR6/1）　粘性弱い。しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
3　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性なし。しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。植生による撹乱。
4　灰黄褐色シルト（10YR4/2）粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1mm少量含む。粘質土混じる。

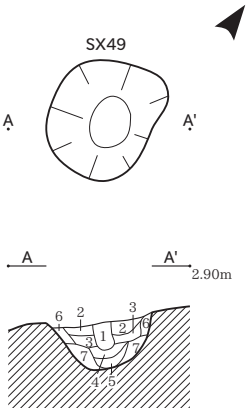


SK111
1　黄灰色砂質土（2.5Y5/1）粘性弱い。しまりややあり。植物遺体少量含む。。
2　灰色砂質土（5Y6/1）　粘性弱い。しまりややあり。1層ブロック状で少量混じる。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

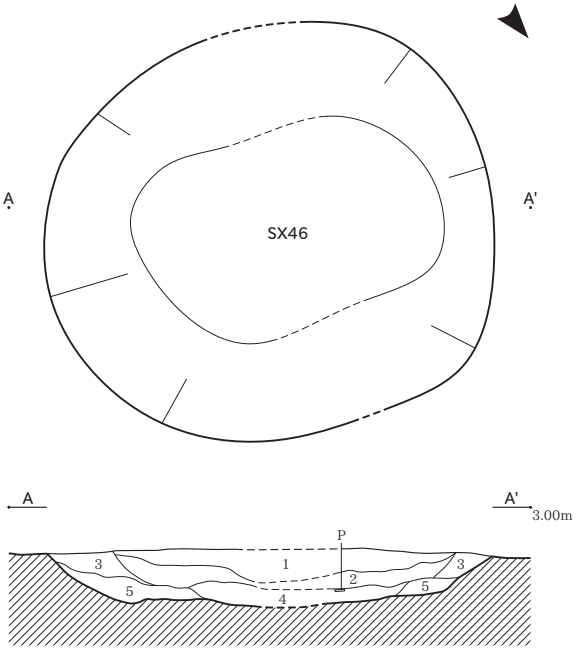


SX13



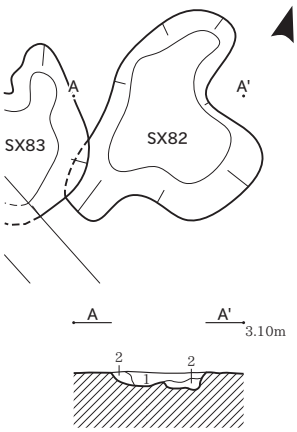
SX49

SX49
1　褐灰色シルト質粘土（10YR6/1）　粘性あり。しまり弱い。炭化物φ5mm多量含む。
2　灰褐色シルト質粘土（7.5YR6/2）　粘性あり。しまりややあり。炭化物少量含む。
3　暗赤褐色粘土（5YR3/2）　粘性あり。しまり弱い。腐植質土少量混じる。
4　黒褐色粘土（7.5YR3/2）　粘性あり。しまり弱い。明灰色シルトブロック少量混じる。腐植質土多量混じる。
5　暗赤褐色粘土（5YR3/3）　粘性あり。しまり弱い。炭化物φ3mm少量含む。腐植質土少量混じる。
6　灰褐色シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり。しまりややあり。
7　黒褐色シルト質粘土（10YR3/2）　粘性あり。しまり弱い。明黄橙色シルトブロック混じる。



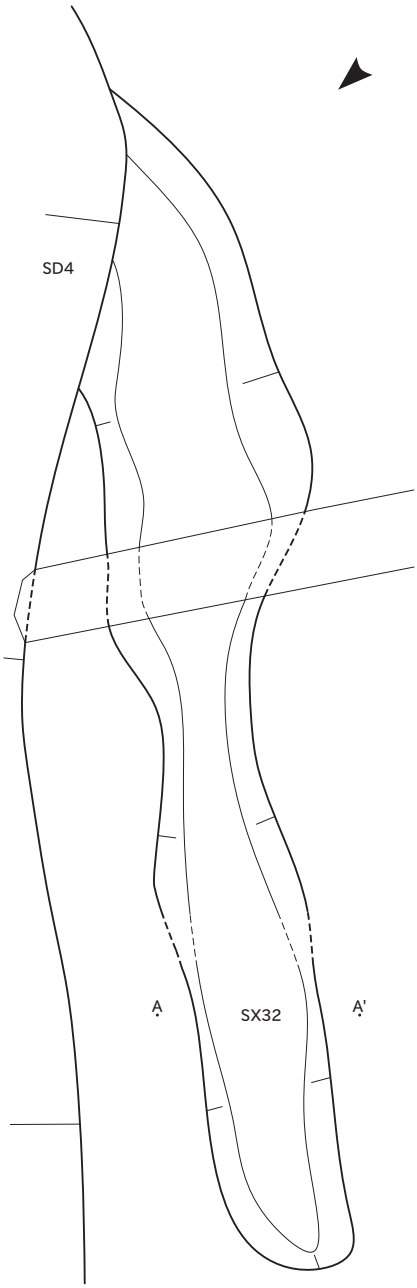
SX46

SX46
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ5～10mm多量含む。
2　褐灰色砂質シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり。しまりややあり。
3　灰褐色砂質シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。V層混じる。
4　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性あり。しまりややあり。
5　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）　粘性あり。しまりややあり。V層混じる。



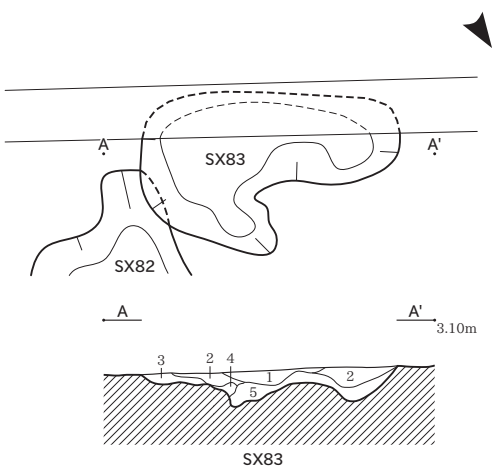
SX82

SX82
1　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1mm多量含む。明灰黄色シルトブロック状に多量混じる。
2　灰黄褐色粘土（10YR4/2）　粘性ややあり。しまり弱い。炭化物φ1mm少量含む。砂質土多量混じる。



SX32

SX32
1　明褐灰色シルト（7.5YR6/1）　粘性あり。しまりあり。赤褐色粒子多量混じる。

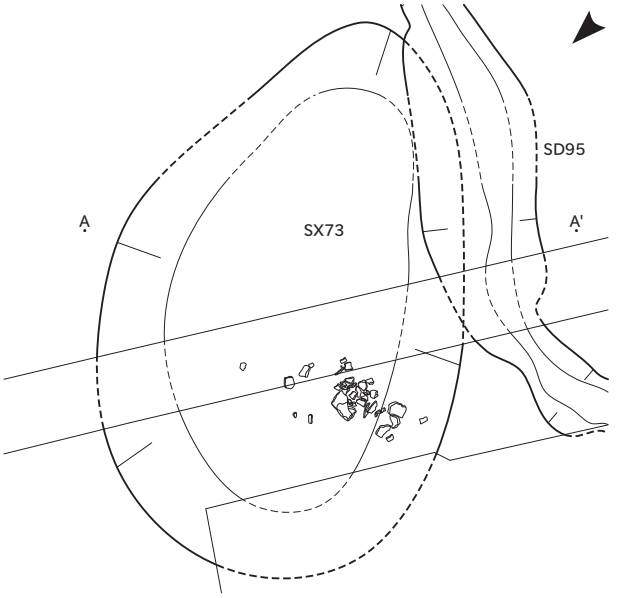


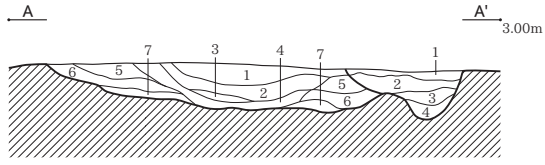
SX83

SX83
1　灰褐色シルト質粘土（5YR4/2）　粘性ややあり。しまりあり。炭化物φ1mm含む。
2　灰褐色シルト質粘土（7.5YR4/2）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1mm少量含む。
3　褐灰色シルト（5YR5/1）　粘性弱い。しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
4　暗灰黄色粘土（2.5Y5/2）　粘性あり。しまり弱い。
5　赤灰色粘土（2.5YR5/1）　粘性あり。しまりややあり。炭化物φ1mm多量含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

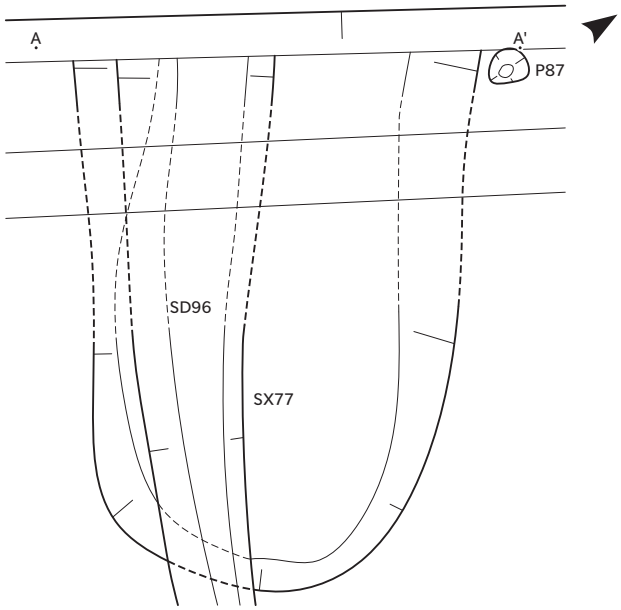
5 区上層遺構個別図 SX（3）SX73・77・91・92、SD95・96

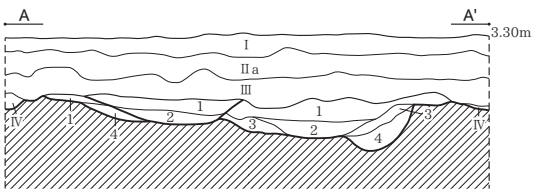




SX73
1　褐灰色粘質シルト（5YR6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。植物遺体多量含む。
2　褐灰色粘質砂質土（7.5YR6/1）粘性ややあり。しまり弱い。植物遺体・炭化物を含む。
3　褐灰色粘質砂質土（10YR6/1）粘性弱い。しまりややあり。砂質土混じる。
4　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1）　粘性あり。しまりややあり。
5　オリーブ灰色粘質シルト（2.5GY6/1）　粘性あり。しまりややあり。炭化物帯状に含む。
6　緑灰色砂質土（7.5GY6/1）　粘性弱い。しまり弱い。
7　緑灰色粘質シルト（10GY6/1）粘性ややあり。しまりややあり。6層斑状に混じる。

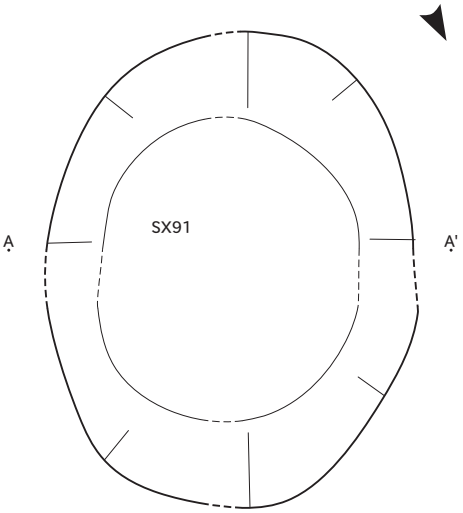
SD95
1　褐灰色粘質シルト（5YR6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。植物遺体多量含む。
2　褐灰色粘質シルト（5YR5/1）　粘性ややあり。しまりややあり。植物遺体含む。
3　褐灰色粘質砂質土（10YR5/1）粘性弱い。しまりややあり。砂質土混じる。
4　灰色粘質シルト（7.5Y6/1）　粘性あり。しまりややあり。

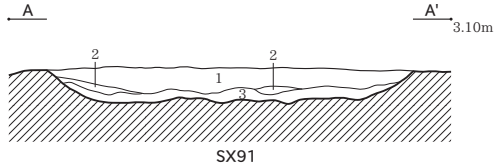




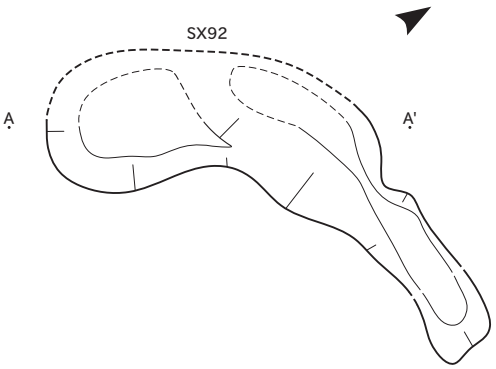
SX77
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅳa層混じる。
2　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/1）粘性ややあり。しまりややあり。炭化物少量含む。
3　淡黄色粘質シルト（2.5Y8/4）　粘性弱い。しまりややあり。植物遺体・炭化物含む。
4　淡黄色砂質シルト（2.5Y8/3）　粘性弱い。しまりややあり。

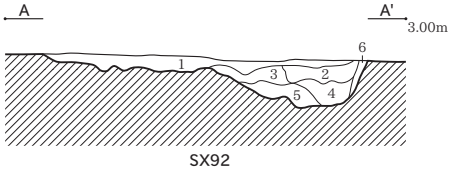
SD96
1　赤灰色粘質シルト（2.5YR5/1）　粘性ややあり。しまりややあり。未分解有機物多量含む。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）粘性ややあり。しまりややあり。1層斑状に混じる。





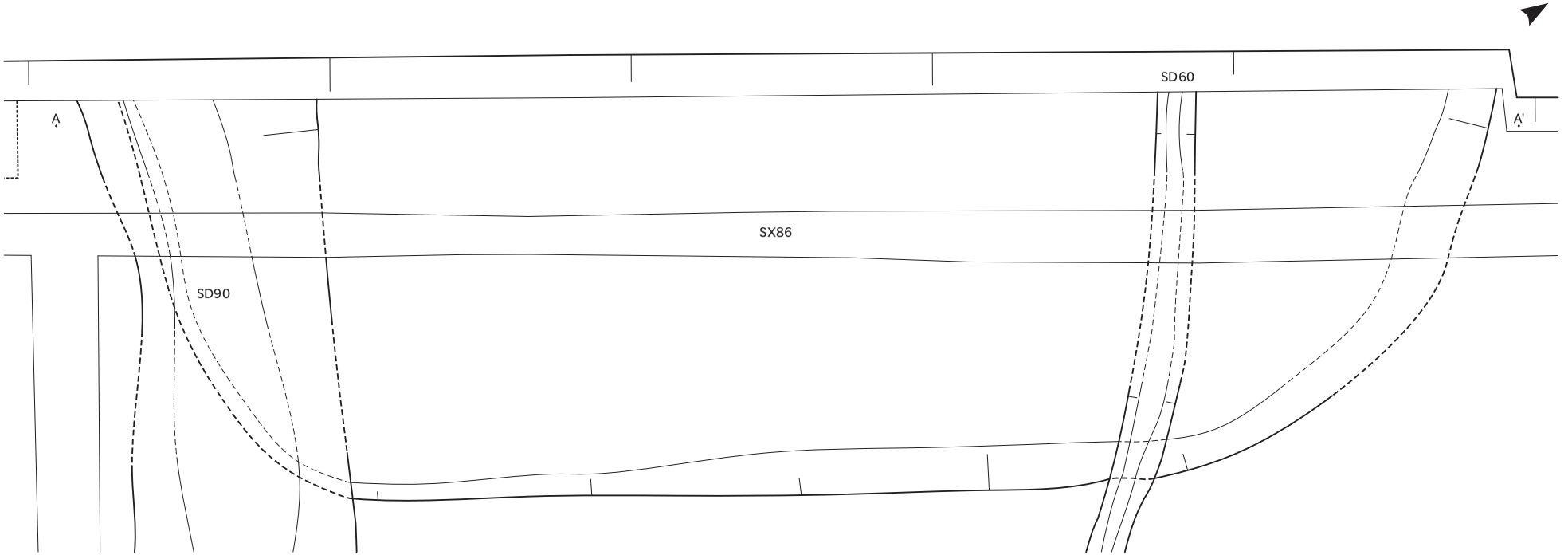
SX91
1　灰白色粘質シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い。しまりややあり。植物遺体含む。
2　灰白色粘質シルト（5Y7/1）　粘性弱い。しまりややあり。1層混じる。
3　灰白色砂質土（7.5Y7/1）　粘性なし。しまり弱い。炭化物含む。





SX92
1　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性弱い。しまりあり。炭化物φ2～3mm少量含む。粘質土混じる。
2　灰黄褐色粘土（10YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。黒褐色粘土ブロック混じる。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1mm少量含む。黒褐色粘土ブロック少量混じる。砂質土混じる。
4　灰黄色粘土（2.5Y6/2）　粘性あり。しまり弱い。砂質土少量混じる。
5　灰黄褐色粘土（10YR4/2）　粘性あり。しまり弱い。シルト・砂質土多量混じる。
6　灰色シルト（5Y6/1）　粘性弱い。しまりややあり。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

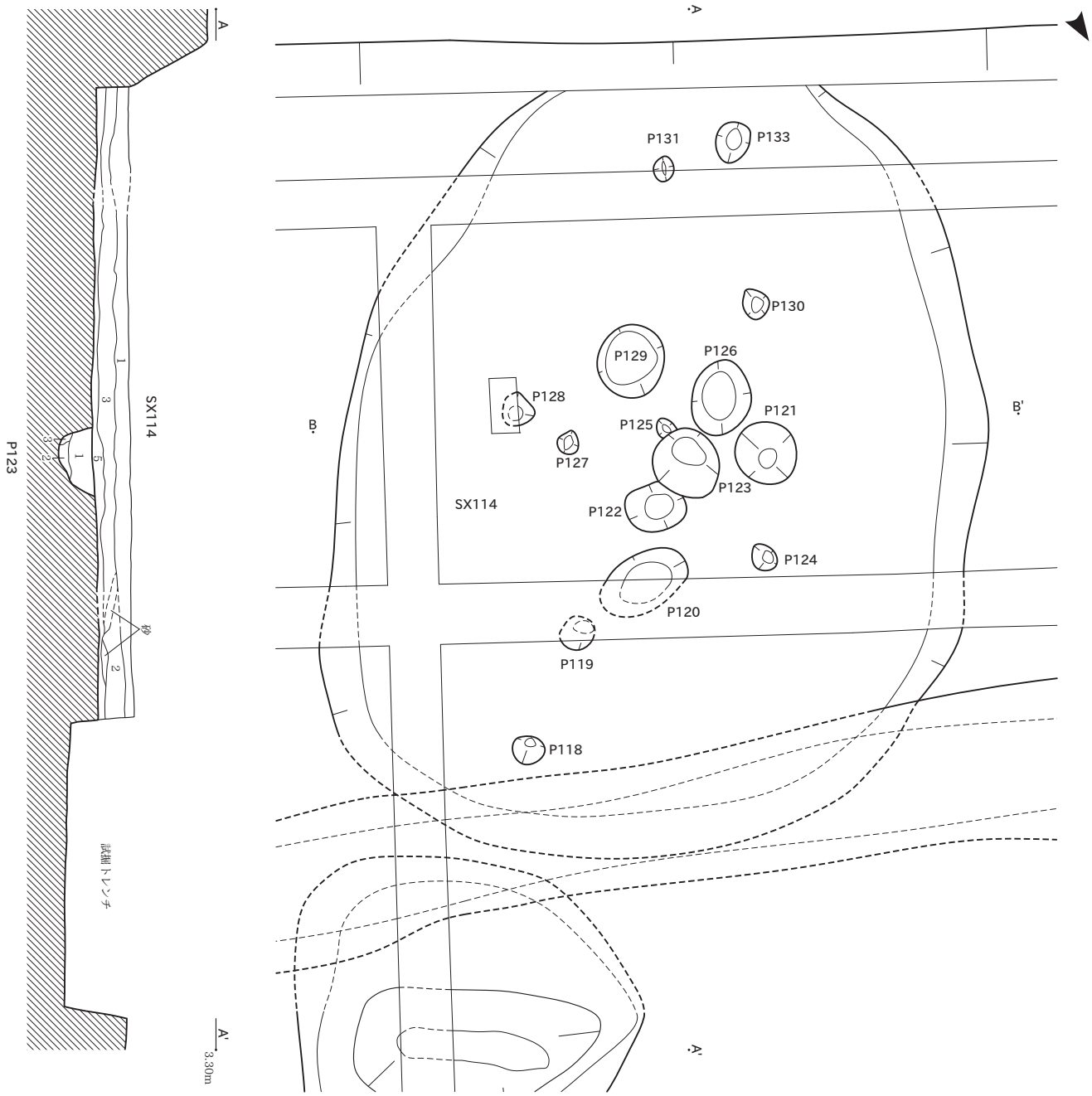


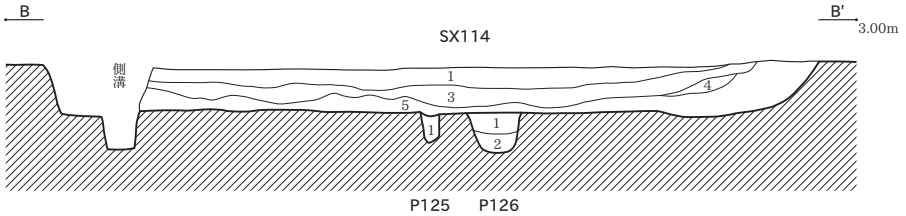
SX86
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ5mm含む。
2　暗灰黄色粘質砂質土（2.5Y5/2）　粘性弱い。しまりややあり。炭化物φ5mm含む。
3　灰白色砂質土（7.5Y7/1）　粘性弱い。しまり弱い。炭化物帯状に含む。

SD60
1　灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性やや弱い。しまりやや弱い。炭化物斑状に含む。

SD90
1　黄灰色粘質砂質土（2.5Y4/1）　粘性ややあり。しまりややあり。未分解有機物少量含む。Ⅳ層混じる。
2　灰色粘質シルト（5Y5/1）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物帯状に含む。
3　灰色粘質シルト（5Y6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。白色砂質土斑状に混じる。
4　灰白色粘質砂質土（7.5Y7/1）　粘性弱い。しまりややあり。褐鉄鉱多量混じる。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m





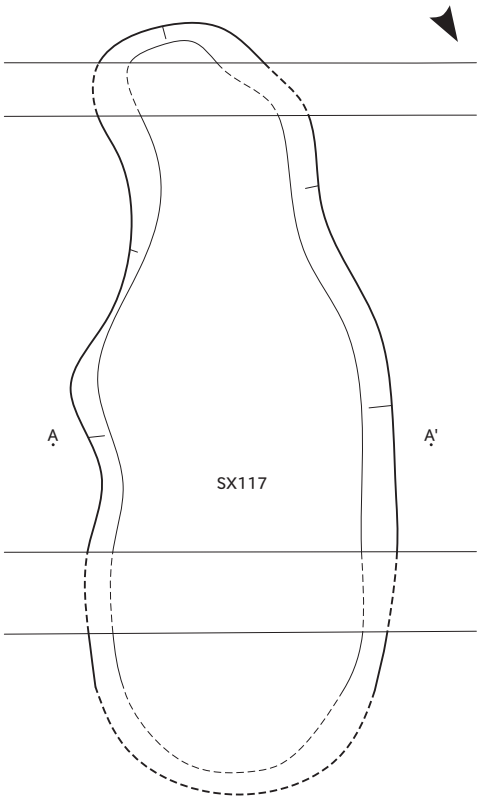
SX114
1　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり。しまりややあり。未分解有機物含む。炭化物φ5mm含む。炭化粘土が混じる。
2　緑灰色粘質シルト（5G5/1）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物多量含む。
3　灰色砂質土（10Y6/1）　粘性弱い。しまり弱い。砂質土混じる。
4　灰色粘質砂質土（7.5Y6/1）　粘性弱い。しまり弱い。炭化粘土少量混じる。
5　灰色砂質土（5Y6/1）　粘性弱い。しまり弱い。炭化粘土少量混じる。

P123
1　灰色砂質土（5Y6/1）　粘性あり。しまりあり。未分解有機物含む。炭化物含む。
2　灰色砂質土（N5/0）　粘性ややあり。しまりややあり。
3　灰色砂質土（N5/0）　粘性ややあり。しまりややあり。粘土ブロック含む。

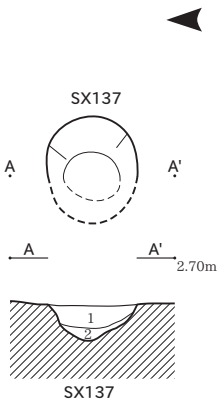
P125
1　灰色砂質土（5Y6/1）　粘性あり。しまりややあり。

P126
1　灰色砂質土（5Y6/1）　粘性あり。しまりややあり。炭化物少量含む。
2　灰色砂質土（N5/0）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物少量含む。

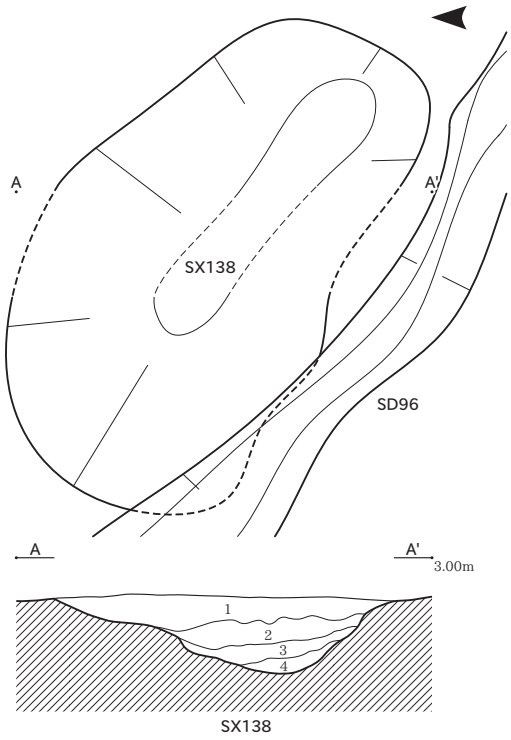
0　（平面図・断面図　1：40）　2m



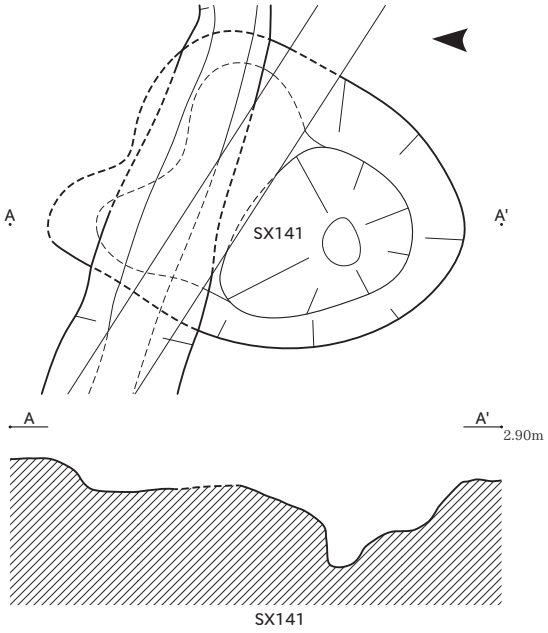
SX117
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR5/2）　粘性弱い。しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。

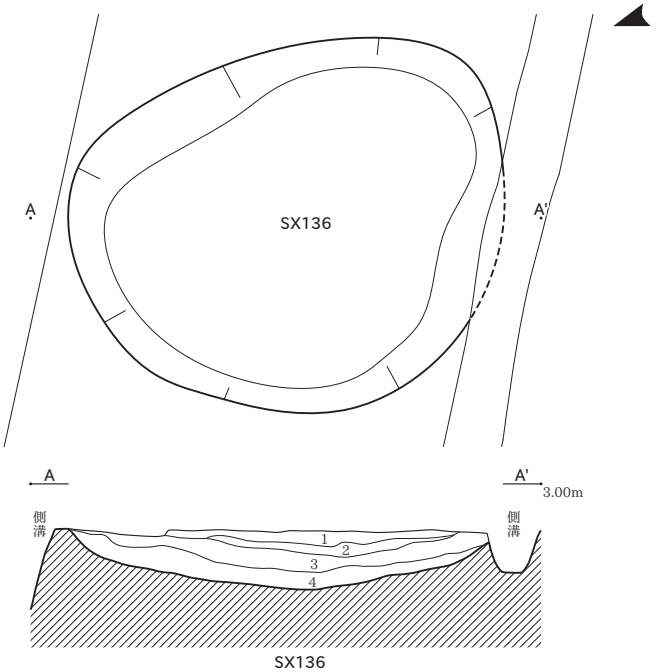


SX137
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）　粘性あり。しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性あり。しまりややあり。炭化物多量含む。



SX138
1　灰白色粘質シルト（N7/）　粘性弱い。しまりややあり。未分解有機物含む。炭化物含む。
2　灰色砂質土（N6/）　粘性弱い。しまり弱い。未分解有機物含む。炭化物含む。
3　灰白色砂質土（2.5GY8/1）　粘性弱い。しまり弱い。
4　灰白色粘質シルト（5GY8/1）　粘性ややあり。しまりややあり。





SX136
1　灰褐色粘土（7.5YR5/2）　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。
2　灰褐色粘土（7.5YR6/2）　粘性あり。しまりややあり。
3　灰褐色シルト（7.5YR6/2）　粘性ややあり。しまり弱い。粘土少量混じる。砂質土混じる。
4　にぶい褐色砂（7.5YR5/4）　粘性弱い。しまり弱い。Vb層に類似。

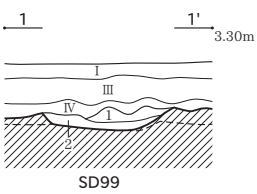
0　（平面図・断面図　1：40）　2m

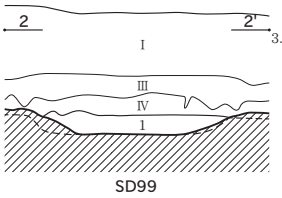
6 区上層平面分割図（1）

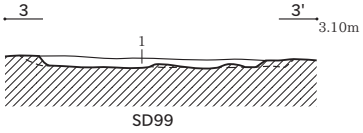
N
6I-1A
6I-1B
6I-2A
6I-2B
6I-2C
6I-3A
6I-3B
6I-3C
6I-4A
6I-4B
6I-4C
基本層序13
基本層序12
SD400
SK602
SD354
P316
P296
SD332
SD310
P311
P306
P297
P360
P312
P313
SX308
87T
P361
SK381
P335
P336
SK334
P352
P337
SD99
P341
P339
P340
P394
SX357
154T
SE351
SX309
SN01
SD310
SD350
SX298
SK321
SK303
SD302
SD310
SD293
P345
P344
P343
P342
P318
P319
P573
P426
SD291
SK358
P307
P317
P346
P348
P320
P347
SD355
SD293
SX294
SD236
SD293
SN02
SN03
SX599
SK299
SK404
SK408
SX329
SD293
P301
SD291
SD293
SD263
SK300
SD292
SD236
P565
P564
P563
P314
SD411
SD411
SD234
SX405
SK393
P328
SD263
SK398
P399
SK432
P397
SD282
SD264
SD236
SD263
SD276
P392
P391
0
（平面図　1：150）
5m

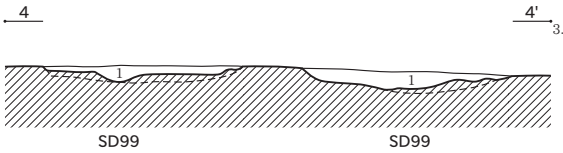
N
基本層序12
SD99
SD99
P440
6I-2C
P394
SK594
6I-2D
6I-2E
SX357
154T
SX357
SX357
P591
SK421
88T
P412
6I-3C
6I-3D
6I-3E
SX415
SK404
基本層序11
SX405
SX405
SK408
SD411
SK393
6I-4C
6I-4D
6I-4E
90T
P397
6I-5C
6I-5D
6I-5E
P424
0　（平面図　1：150）　5m

6 区上層遺構個別図 SD（1）SD99・263・292・293（SN02）・302・310（SN01）・332・350・354・400

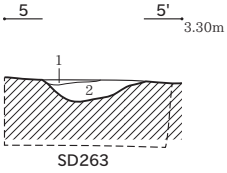


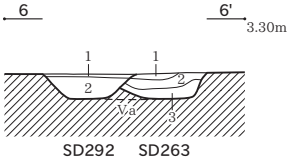






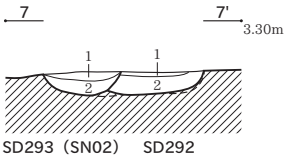
SD99
1　明褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。
　　未分解有機物少量含む。
2　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）　　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。

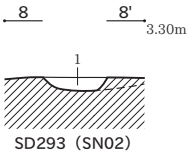


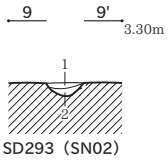


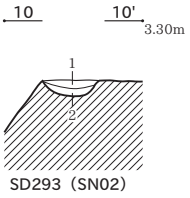
SD292
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層混じる。
2　灰褐色砂質シルト（7.5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

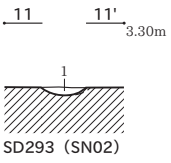
SD263
1　灰白色粘質シルト（5Y7/1）　　粘性弱い、しまりややあり。Va層混じる。
2　灰白色砂質シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ層斑状に混じる。
　　炭化物少量含む。
3　灰白色砂質シルト（5Y7/1）　　粘性弱い、しまりややあり。植生による撹乱。





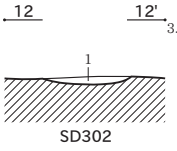




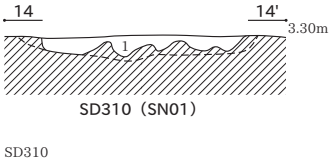


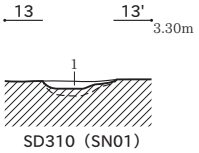
SD292
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
　　Ⅲ層混じる。
2　灰褐色砂質シルト（7.5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

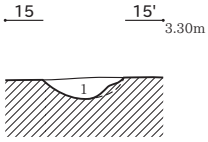
SD293
1　灰白色粘質シルト（10Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　　Ⅲ層混じる。Ⅳ・Va層小ブロック状に混じる。
2　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。水酸
　　化鉄多量分布。

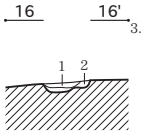


SD302
1　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）　粘性弱い、
　　しまりややあり。





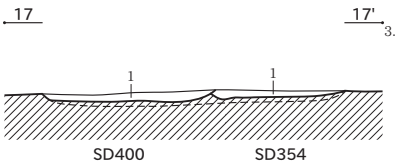


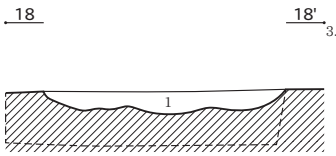


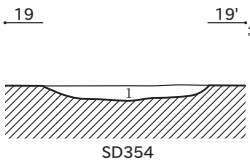
SD310
1　褐灰色砂質シルト（7.5YR4/1）　粘性弱い、しまり弱い。
　　Va層ブロック状に混じる。

SD332
1　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）　粘性弱い、
　　しまりややあり。Ⅲ層ブロック状に混じる。

SD350
1　灰色粘質シルト（N4/）　　粘性ややあり、
　　しまりややあり。Ⅲ層混じる。
2　灰白色粘質シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い、しま
　　りややあり。Ⅲ層少量混じる。



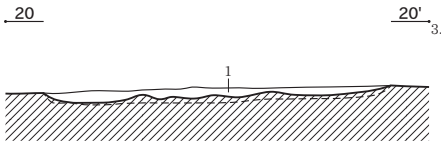




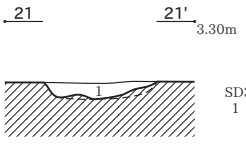
SD400
1　灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状に少量混じる。

SD354
1　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。粘土ブロック多量混じる。

0　（断面　1：40）　2m

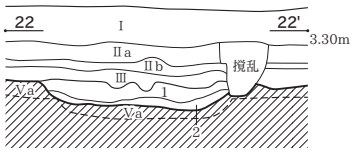


SD355



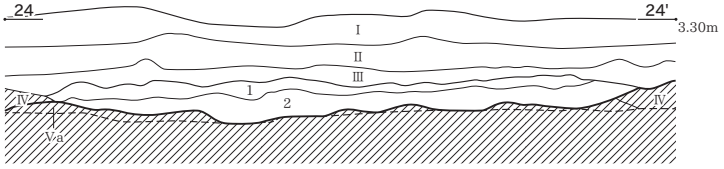
SD355

SD355
1　灰白色粘質シルト（10Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層斑状に混じる。

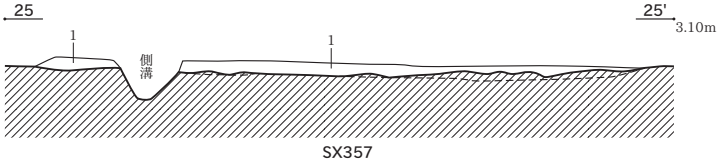


SD400

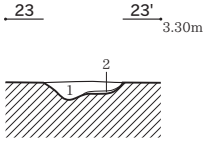
SD400
1　灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　Ⅲ層ブロック状に少量混じる。
2　灰白色砂質シルト（5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。



SX357

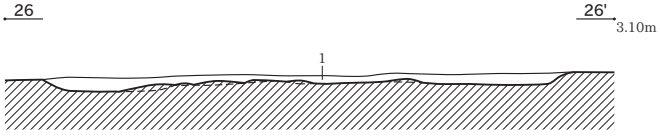


SX357



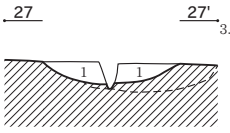
SD411

SD411
1　灰褐色シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
　炭化物含む。
2　灰黄褐色砂質シルト（10YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

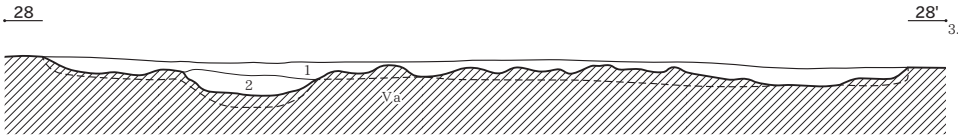


SX357

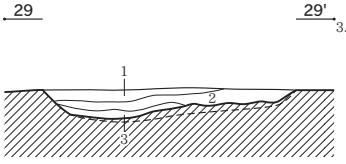
SX357
1　褐灰色砂質シルト（10YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。
2　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。



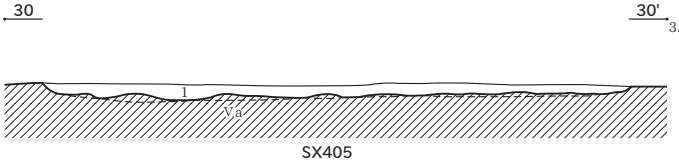
SX405



SX405



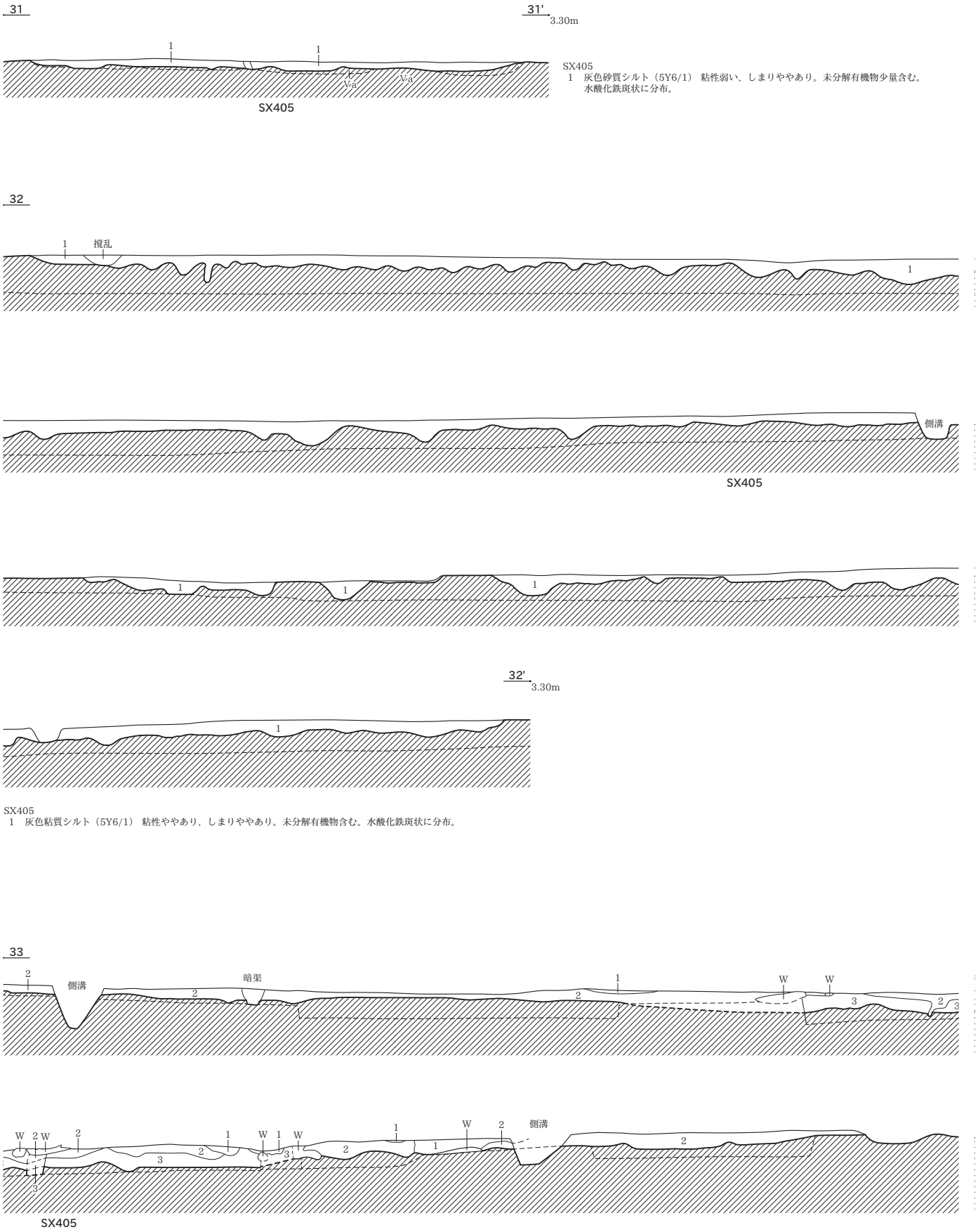
SX405



SX405

SX405
1　灰色粘質シルト（5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。
2　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。
3　灰白色砂質シルト（10Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。水酸化鉄が定量分布。Va層に類似。

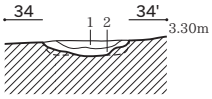
0　（断面　1：40）　2m


31
31'
3.30m
1
1
Va
Va
SX405
SX405
1　灰色砂質シルト（5Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物少量含む。
水酸化鉄斑状に分布。
32
1
撹乱
1
側溝
SX405
1
1
1
32'
3.30m
1
SX405
1　灰色粘質シルト（5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。
33
2
側溝
暗渠
1
W
W
2
2
3
2
3
W
2
W
2
1
W
1
W
1
2
W
2
側溝
2
3
3
3
SX405
33'
3.30m
SX405
1　黒色シルト（10YR1.7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック混じる。
2　灰褐色シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。植生による撹乱。
0
（断面　1：40）
2m

N
0　（平面図　1：150）　5m
6H-3J
6I-3A
6I-3B
6H-4J
6I-4A
6I-4B
6H-5J
6I-5A
6H-6J
6I-6A
6I-6B
基本層序14
SN01
SN02
SN03
SN06
SX298
SD310
SD350
SK321
SK303
SD302
SD293
SD291
SK358
P307
SX294
SD236
SX599
SD276
SK281
P301
SK300
SD292
P565
P564
SK269
SX270
89T
P328
SD263
SD261
SD234
SD282
P574
P517
SD264
SD441
SD189
SD256
SD267
P278
P567
P570
P569
P568
P572
P571
SA113
P582
P583
SD190
SD244
SX266
SD209
SK258
SD240
P409
SD576
P581
SA110
P580
P579
SK367
P578
P558
P563
P376
SD372
SD226
SX239
P444
SX556
P484
SD241
SK238
SX592
SD244
SK231
SD260
SD189
91T
P485
P486
P487
P488
SD190
SD210
P489
P498
SA144
P499
P531
SD188
SK213
110T
SK225
SD242
SK369
SK324
SX323
SX315
P584
P362
P564
SD562
P249
SD263
SD221
SX325
SK250
SK246

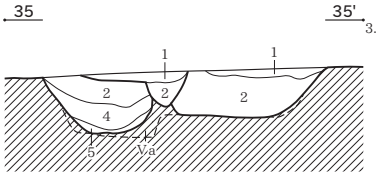
6 区上層平面分割図 (4)

SK432
P397
90T
SD236
P392
P391
P390
P409
SD441
P388
P387
P386
P385
P377
P384
P420
P436
P378
P375
P373
P379
P374
P424
P582
P583
P368
SX434
SD576
P581
P429
P419
P428
P427
SA110
P580
SK367
P579
P366
P365
P578
SD236
SE380
P376
SD372
P431
P430
SX405
P425
P584
SX315
N
P564
SD289
SK330
SN06
SK284
SD562
SD263
SD221
SK246
92T
SD268
SX349
SD265
SK277
SD221
SK220
SK237
SD245
SD236
P363
SD562
SD221
SK229
P230
SK227
SK228
SK216
SD263
SK223
SX214
SX405
P217
P254
P218
P219
P208
P195
P589
SK155
SK156
P272
P206
P207
SD175
P273
P566
P185
P165
P161
SE177
P183
SD171
SK193
P160
P159
P164
P48
基本層序10
0
(平面図 1 : 150)
5m
6I-5C
6I-5D
6I-6B
6I-6C
6I-6D
6I-7B
6I-7C
6I-7D
6I-8B
6I-8C
6I-8D

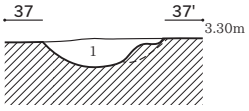


SD226

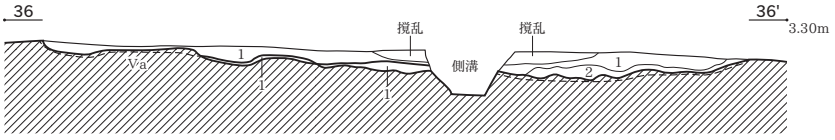
SD226
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。
2　灰黄褐色砂質シルト（10YR5/2）　粘性弱い、しまりややあり。1層ブロック状に混じる。



SD236　SD291（SN03）　SD234



SD234



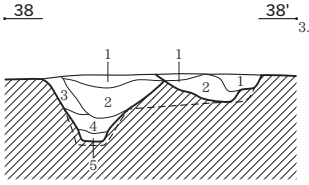
SD276　SD234

SD236
2　灰色粘質シルト（7.5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。Ⅲ層混じる。
4　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層斑状に混じる。Ⅲ層ブロック状に混じる。
5　灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層斑状に混じる。

SD291
1　灰白色粘質シルト（5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。
2　灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。

SD276
1　灰白色粘質シルト（5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。

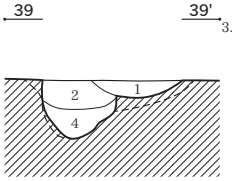
SD234
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。
2　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物少量含む。



SD236　SD291（SN03）

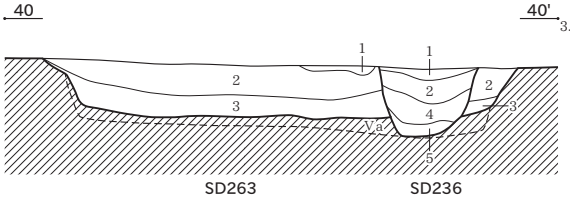
SD236
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりあり。
2　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
5　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。地山少量混じる。炭化物φ2～3mm少量含む。

SD291
1　灰白色粘質シルト（5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。
2　灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。



SD236

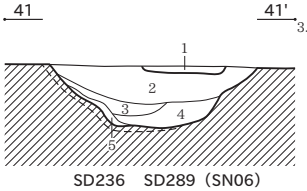
SD236
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりあり。
2　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。



SD263　SD236

SD263
1　灰白色粘質シルト（5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層粒状に混じる。
2　灰白色砂質シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ層斑状に混じる。炭化物少量含む。
3　灰白色砂質シルト（5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。植生による撹乱。

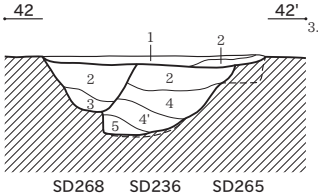
SD236
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりあり。
2　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
5　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。地山少量混じる。炭化物φ2～3mm少量含む。



SD236　SD289（SN06）

SD236
2　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
5　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。地山少量混じる。炭化物を少量含む。

SD289
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山ブロックで混じる。

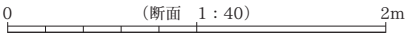


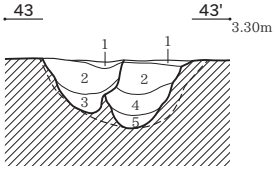
SD268　SD236　SD265

SD268
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　灰黄褐色シルト（10YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。

SD236
2　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
4'　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
5　灰褐色シルト（7.5YR6/2）　粘性あり、しまりややあり。

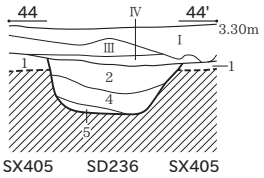
SD265
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山多量混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりあり。





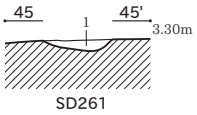
SD268
1 黒褐色シルト（10YR3/1） 粘性ややあり、しまりあり。
2 灰黄褐色シルト（10YR5/2） 粘性ややあり、しまりややあり。
3 灰黄褐色シルト（10YR6/2） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。

SD236
1 褐灰色シルト（10YR5/1） 粘性ややあり、しまりあり。
2 褐灰色シルト（7.5YR5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。
4 灰黄褐色シルト（10YR5/2） 粘性ややあり、しまりややあり。地山が少量混じる。
5 灰褐色シルト（7.5YR5/2） 粘性あり、しまりややあり。地山少量混じる。炭化物φ2～3mm少量含む。

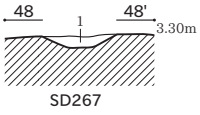


SD236
2 褐灰色シルト（7.5YR5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。
4 灰黄褐色シルト（10YR5/2） 粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
5 灰褐色シルト（7.5YR5/2） 粘性あり、しまりややあり。地山少量混じる。炭化物φ2～3mm少量含む。

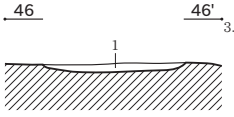
SX405
1 灰色粘質シルト（5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。



SD261
1 褐灰色砂質シルト（7.5YR6/1） 粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ層斑状に混じる。



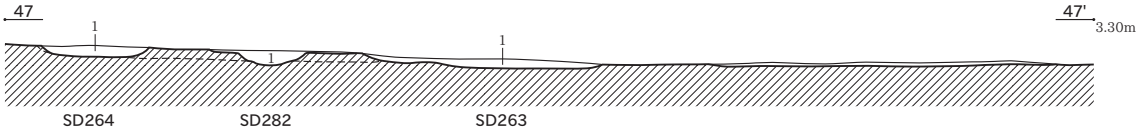
SD267
1 灰黄褐色砂質シルト（10YR6/2） 粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。Va層ブロック状に混じる。

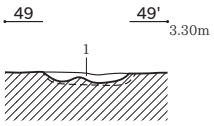


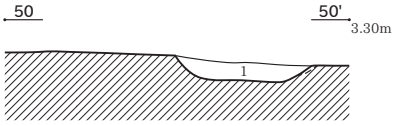
SD263
1 灰白色粘質シルト（5Y7/1） 粘性弱い、しまりややあり。Va層混じる。

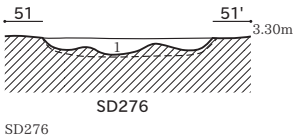
SD264
1 灰白色粘質シルト（5Y7/1） 粘性弱い、しまりややあり。Va層混じる。

SD282
1 灰白色粘質シルト（5Y7/1） 粘性弱い、しまりややあり。Va層混じる。

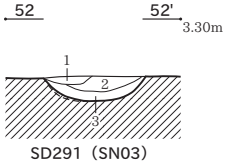


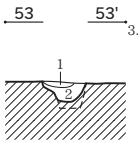




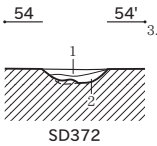


SD276
1 黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1） 粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。

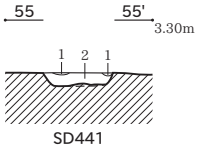




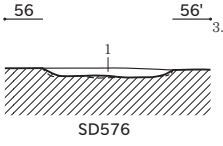
SD291
1 灰白色粘質シルト（5Y7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。
2 灰白色粘質シルト（7.5Y7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。
3 灰白色砂質シルト（10Y7/1） 粘性弱い、しまりややあり。



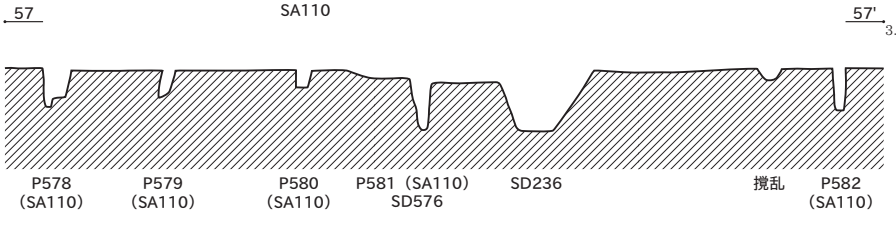
SD372
1 褐灰色シルト（7.5YR6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
2 灰黄褐色シルト（10YR6/2） 粘性あり、しまりややあり。

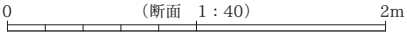


SD441
1 灰色粘質シルト（10Y4/1） 粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層混じる。
2 灰白色粘質シルト（2.5Y7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。



SD576
1 明青灰色粘質シルト（10BG7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状に少量混じる。

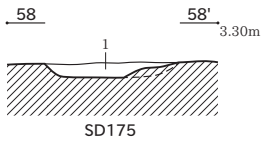




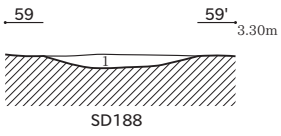
N
6H-5I
6H-5J
6I-5A
6H-6I
6H-6J
6I-6A
6H-7I
6H-7J
6I-7A
6H-8I
6H-8J
6I-8A
SD234
SD263
SD276
SD264
SD189
SD244
SD190
SD256
SD267
SD232
SX266
SD209
SK258
SD240
SX556
P444
SX239
SD226
SX592
SK238
SD241
SD244
SK231
SD260
SD189
91T
110T
SD190
SD242
SK225
SD203
SK213
SX325
SX275
SK287
SD202
SD274
SK286
SN05
SD288
SX224
SK198
SK197
SD248
SK222
SK279
SD188
93T
SX251
SX187
SD202
SK200
SD175
SX163
撹乱
0　（平面図　1：150）　5m

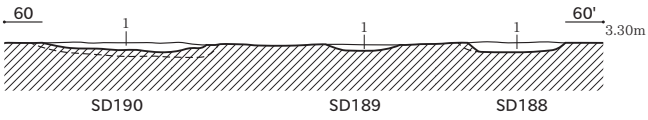
6 区上層平面分割図 (6)

0 （平面図 1：150） 5m



SD175
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。植生による撹乱。

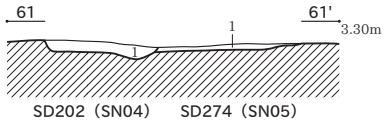


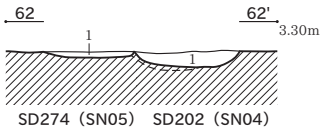


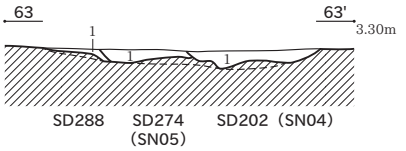
SD190
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。

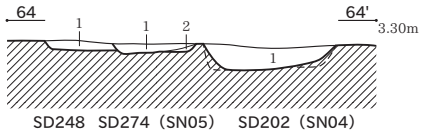
SD189
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。

SD188
1　灰黄褐色砂質シルト（10YR5/2）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅱ層小ブロック状に混じる。







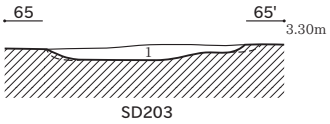


SD248
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山多量混じる。

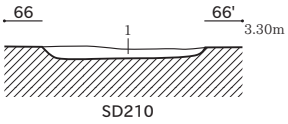
SD274
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。
2　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりあり。

SD202
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山ブロック混じる。炭化物含む。

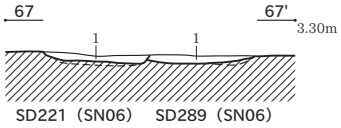
SD288
1　褐灰色シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり、しまりあり。

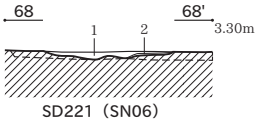


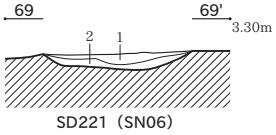
SD203
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅱ層ブロック状に混じる。

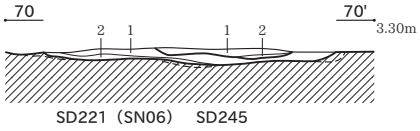


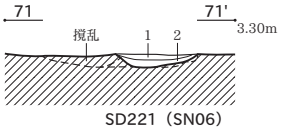
SD210
1　にぶい褐色砂質シルト（7.5YR6/3）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄多く分布。







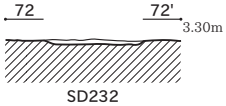




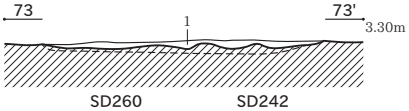
SD221
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりあり。1層少量混じる。

SD245
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR6/2）　粘性ややあり、しまりあり。1層少量混じる。

SD289
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山ブロック混じる。

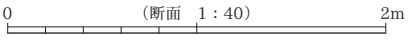


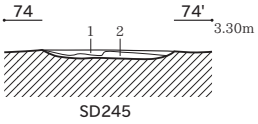
SD232
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR6/3）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状に混じる。

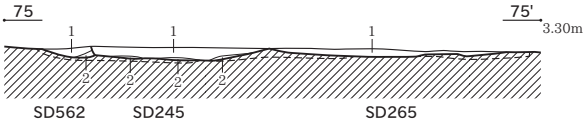


SD242
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層がブロック状に混じる。

SD260
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層がブロック状に混じる。



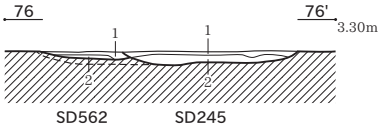




SD562
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山少量混じる。
2　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山多量混じる。

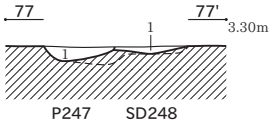
SD245
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりあり。1層混じる。

SD265
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山多量混じる。



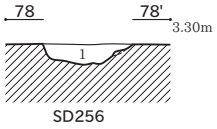
SD562
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山少量混じる。
2　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山多量混じる。

SD245
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりあり。1層混じる。

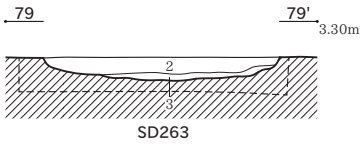


P247
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm含む。地山少量混じる。

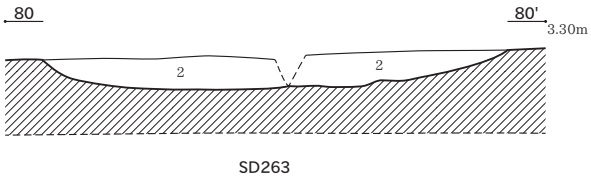
SD248
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山多量混じる。



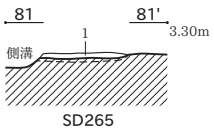
SD256
1　褐灰色砂質シルト（10YR4/1）粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。



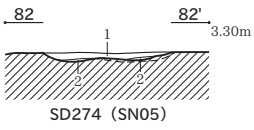
SD263
2　灰白色砂質シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ層斑状に混じる。炭化物少量含む。
3　灰白色砂質シルト（5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。植生による撹乱。



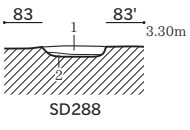
SD263
2　灰白色砂質シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ層斑状に混じる。炭化物少量含む。



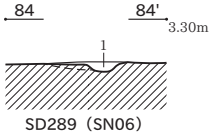
SD265
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山多量混じる。



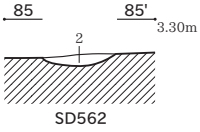
SD274
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。
2　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりあり。



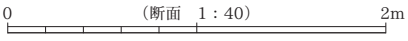
SD288
1　灰褐色シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり、しまりあり。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）粘性あり、しまりあり。炭化物含む。

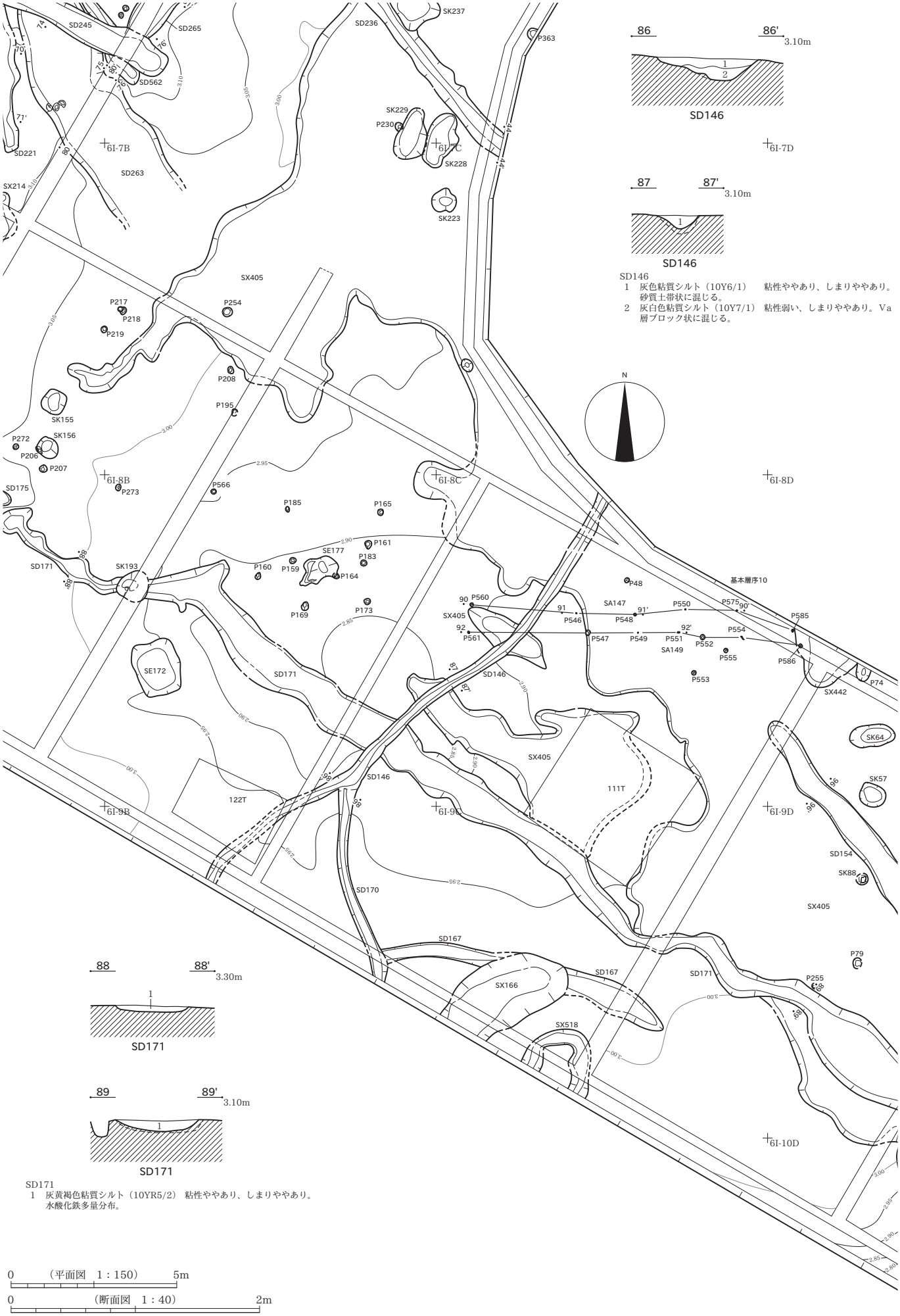


SD289
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山ブロック混じる。



SD562
2　褐灰色シルト（7.5YR6/1）粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状に少量混じる。



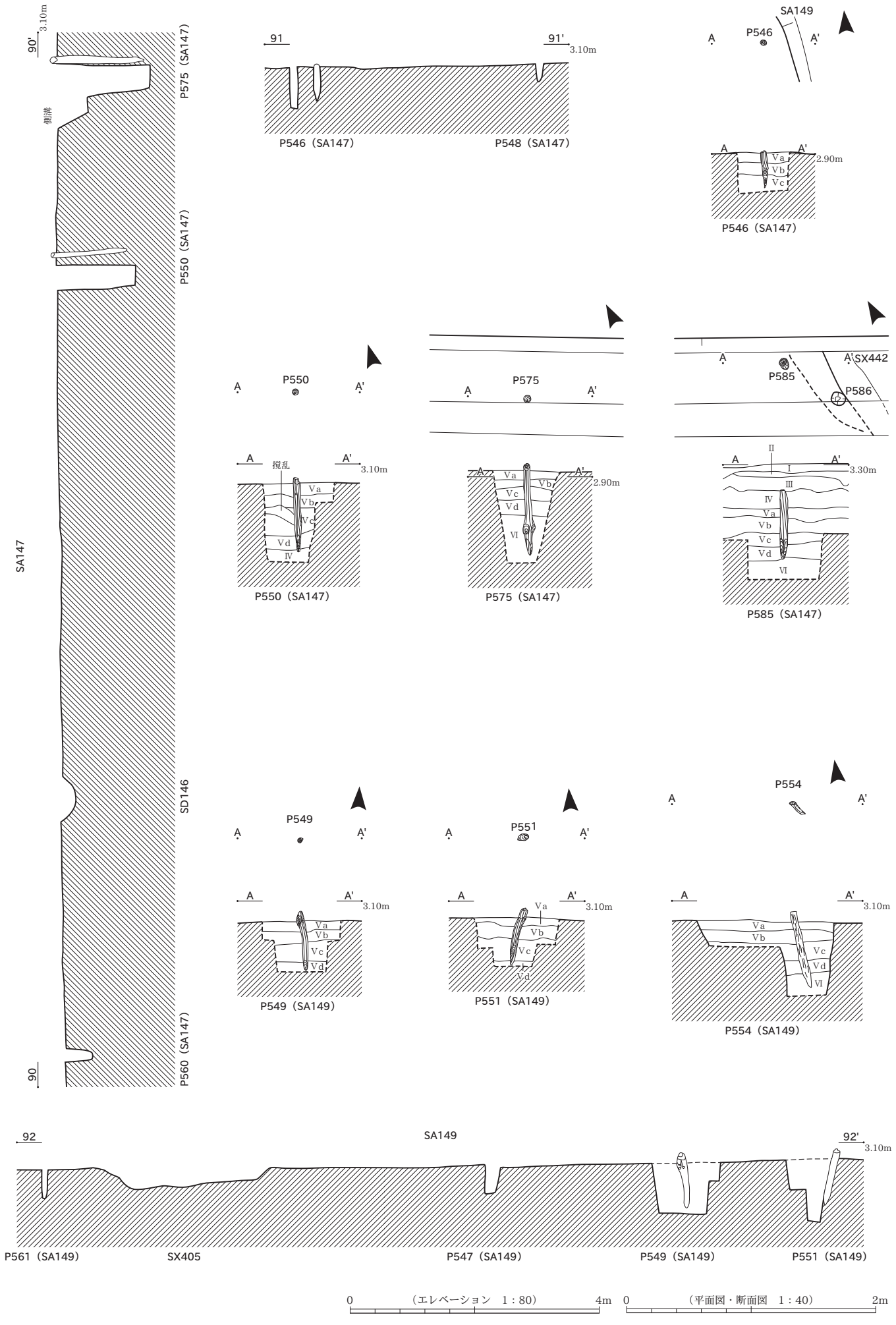


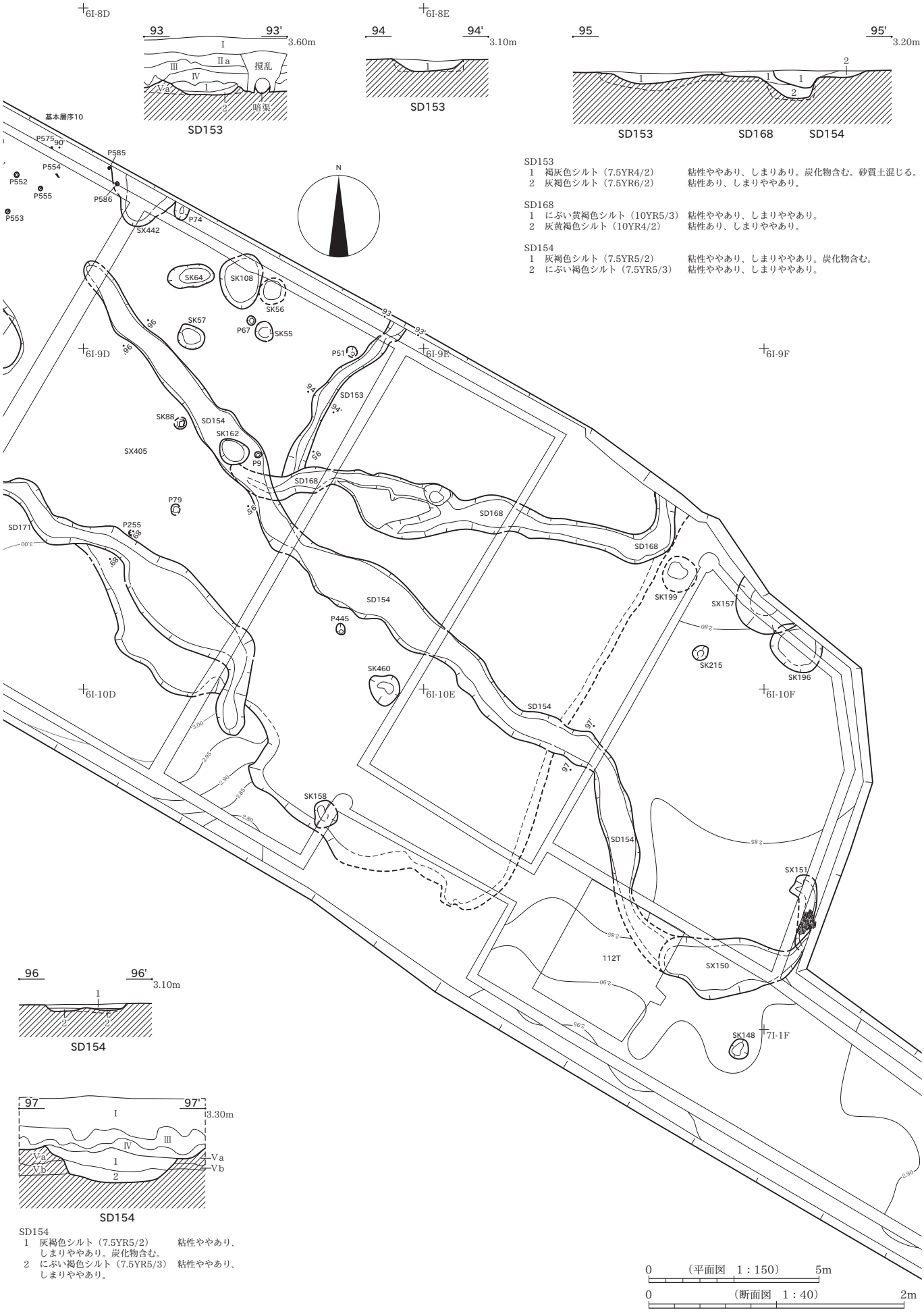
SD146
1　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。砂質土帯状に混じる。
2　灰白色粘質シルト（10Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va 層ブロック状に混じる。

SD171
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄多量分布。

0　（平面図　1：150）　5m

0　（断面図　1：40）　2m


90'
3.10m
側溝
P575（SA147）
P550（SA147）
SA147
SD146
P560（SA147）
90
91
91'
3.10m
P546（SA147）
P548（SA147）
SA149
P546
A
A'
2.90m
Va
Vb
Vc
P546（SA147）
P550
攪乱
Vd
Ⅳ
3.10m
P550（SA147）
P575
Ⅵ
2.90m
P575（SA147）
SX442
P585
P586
Ⅱ
Ⅰ
Ⅲ
3.30m
P585（SA147）
P549
P549（SA149）
P551
P551（SA149）
P554
P554（SA149）
92
92'
SA149
P561（SA149）
SX405
P547（SA149）
P549（SA149）
P551（SA149）
0
（エレベーション　1：80）
4m
0
（平面図・断面図　1：40）
2m



SD153
1　褐灰色シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり、しまりあり。炭化物含む。砂質土混じる。
2　灰褐色シルト（7.5YR6/2）　粘性あり、しまりややあり。

SD168
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性あり、しまりややあり。

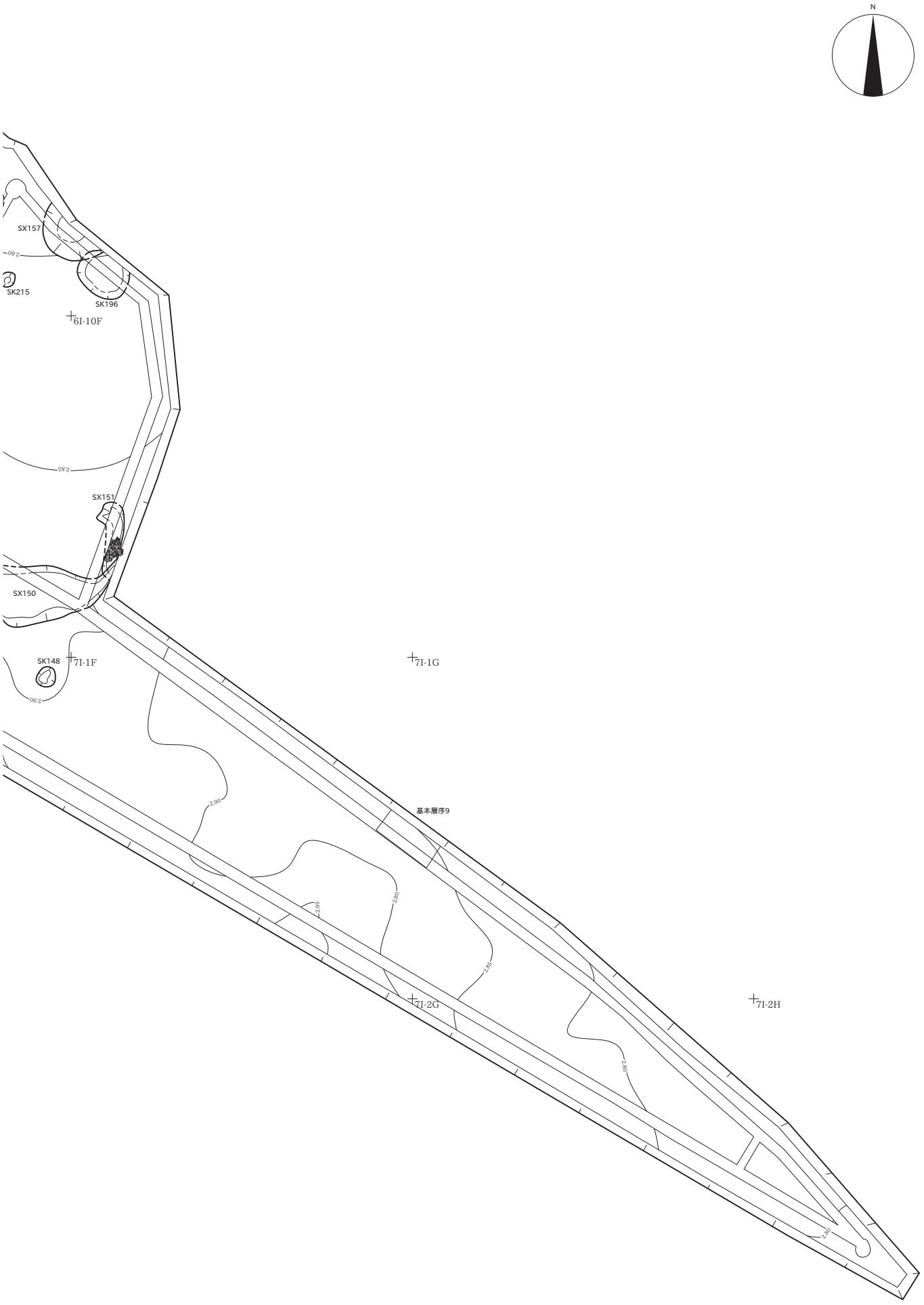
SD154
1　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
2　にぶい褐色シルト（7.5YR5/3）　粘性ややあり、しまりややあり。

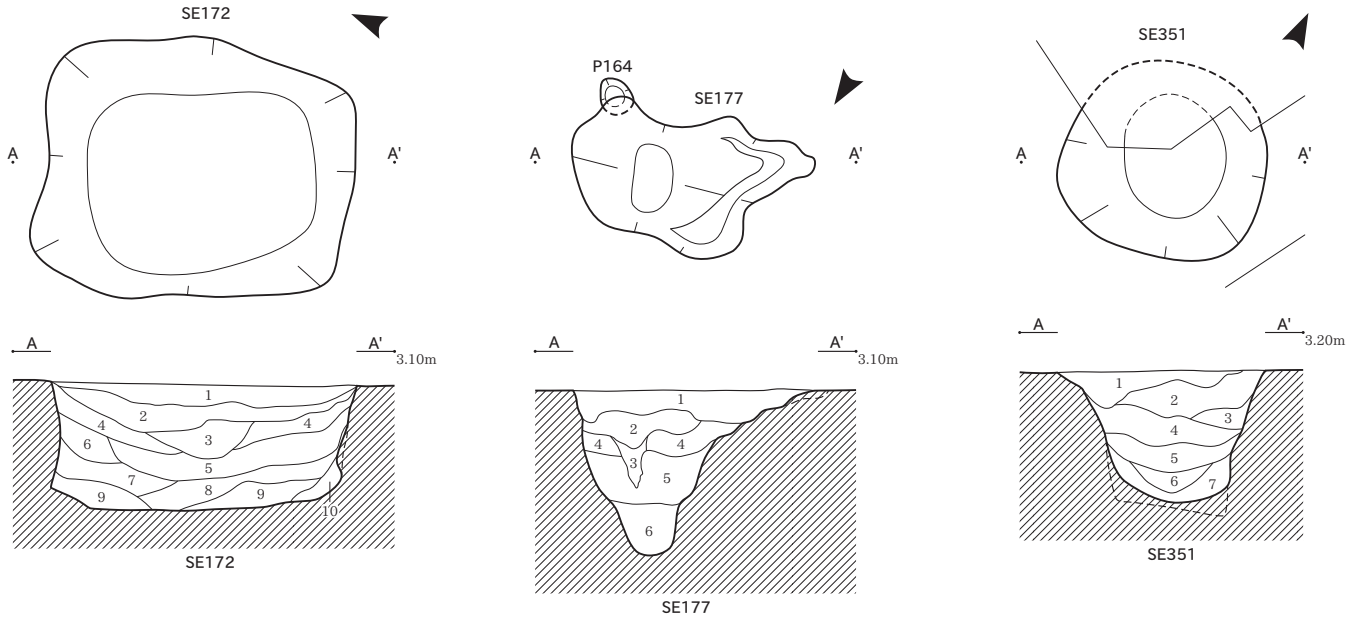
SD154
1　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
2　にぶい褐色シルト（7.5YR5/3）　粘性ややあり、しまりややあり。

0　（平面図　1：150）　5m
0　（断面図　1：40）　2m

図版 36

6 区上層平面分割図 (9)

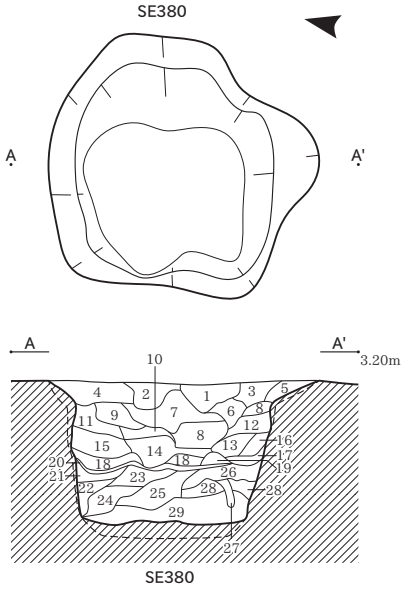




SE172
1　灰色粘質シルト（7.5Y5/1）　粘性弱い、しまりややあり。腐植質土。植物遺体多量含む。
2　灰色粘質シルト（10Y5/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。
3　灰色粘質シルト（7.5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層大ブロック状に混じる。
4　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。粘土層混じる。
5　灰色粘質シルト（7.5Y4/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。
6　灰白色粘質シルト（10Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅴ層ブロック状に混じる。
7　暗緑灰色粘質シルト（5G4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。砂質土・Ⅴ層ブロック状に混じる。
8　暗緑灰色粘質シルト（10G4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅴ層ブロック状に混じる。
9　暗青灰色砂質シルト（5BG4/1）　粘性弱い、しまり弱い。Ⅵ層・8層の混合層。
10　暗青灰色砂質シルト（10BG4/1）　粘性弱い、しまり弱い。Ⅵ層ブロック状混じる。

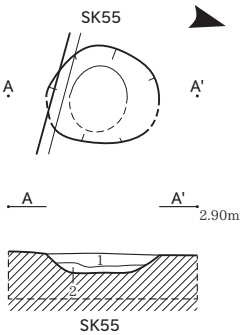
SE351
1　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅴ層ブロック状に混じる。
2　褐灰色砂質土（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。Ⅲ層斑状に混じる。
3　褐灰色砂質土（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。
4　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ・Ⅴ層の混合層。
5　暗灰色粘質シルト（N3/）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物斑状に含む。
6　暗青灰色粘質シルト（10BG3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
7　暗青灰色砂質シルト（10BG3/2）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。水酸化鉄斑状に多量分布。

SE177
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。黒褐色シルト・にぶい黄橙色シルトブロック状に混じる。
2　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。1層混じる。
3　灰色シルト（N5/）　粘性あり、しまりややあり。黒褐色シルト混じる。
4　オリーブ灰色シルト（2.5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。黒褐色シルト少量混じる。
5　オリーブ灰色シルト（2.5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。
6　オリーブ灰色シルト（2.5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。砂質土混じる。

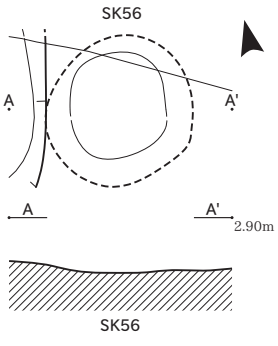


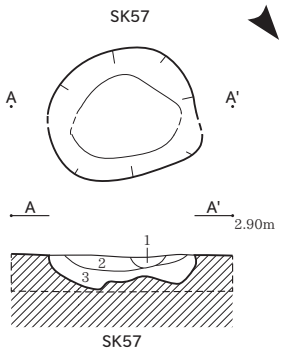
SE380
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。褐灰色シルト斑状に混じる。灰黄褐シルト混じる。
2　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
3　褐灰色シルト（7.5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。1層が少量混じる。
4　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。褐灰色シルト地山ブロック・1層少量混じる。
5　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック・1層が混じる。
6　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
7　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。褐灰色シルトブロック少量・1層少量混じる。
8　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山混じる。
9　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。褐灰色シルト斑状に混じる。灰黄褐シルトブロック多量混じる。
10　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
11　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。地山混じる。
12　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐シルトブロック混じる。
13　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性あり、しまりややあり。褐灰色シルトブロック混じる。
14　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山・1層少量混じる。炭化物含む。
15　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック・1層少量混じる。
16　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性あり、しまりややあり。灰黄褐シルトブロック混じる。1層少量混じる。
17　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性あり、しまりややあり。灰黄褐シルト小ブロック混じる。
18　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐シルブロック・20層混じる。炭化物含む。
19　暗青灰色シルト（5BG3/1）　粘性あり、しまりややあり。灰黄褐シルト小ブロック混じる。
20　暗青灰色シルト（5BG3/1）　粘性あり、しまりややあり。
21　オリーブ灰色シルト（5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。20層ラミナ状に堆積。炭化物φ2～3mm多量含む。
22　オリーブ灰色シルト（5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。ラミナ状に少量堆積。炭化物φ2～3mm多量含む。
23　オリーブ灰色シルト（5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。20層混じる。炭化物φ2～3mm多量含む。
24　オリーブ灰色シルト（5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。20層多量混じる。炭化物φ2～3mm多量含む。
25　オリーブ灰色シルト（5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。ブロック状の堆積。炭化物φ2～3mm多量含む。炭化物φ3～5mm少量含む。
26　オリーブ灰色シルト（5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。ブロック状の堆積。20層混じる。炭化物φ2～3mm多量含む。
27　オリーブ灰色シルト（5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。
28　オリーブ灰色シルト（5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。
29　オリーブ灰色シルト（5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

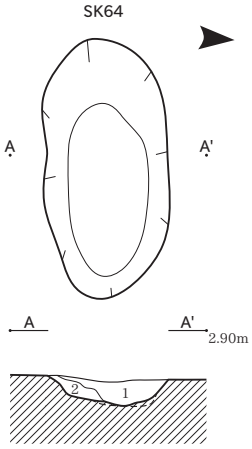


SK55
1　青灰色粘質シルト（10BG6/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物を含む。
2　青灰色粘質シルト（10BG6/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物少量含む。
　水酸化鉄斑状に分布。

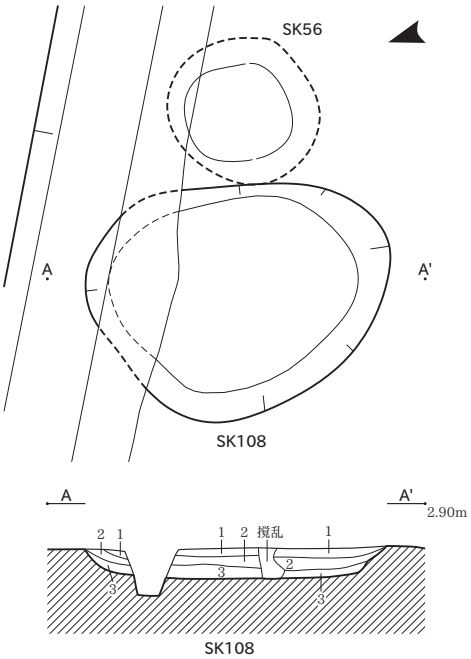




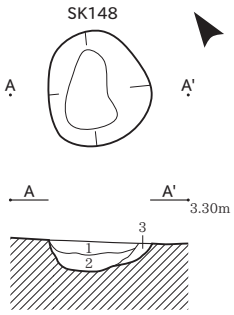
SK57
1　灰色粘質シルト（N6/）　粘性あり、しまりあり。炭化物を含む。水酸化鉄多量に分布。
2　灰色粘質シルト（5Y6/1）　粘性あり、しまりあり。水酸化鉄多量に分布。
3　灰色粘質シルト（N6/）　粘性あり、しまりあり。炭化物少量含む。



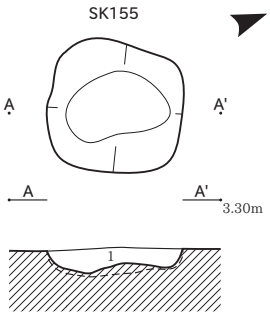
SK64
1　灰色粘質シルト（N6/）　粘性あり、しまりあり。炭化物多量含む。
2　灰色粘質シルト（N6/）　粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。



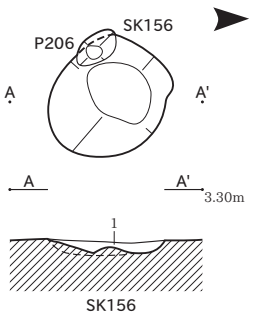
SK108
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）　粘性あり、しまりあり。炭化物多量に含む。
2　青灰色粘質シルト（5BG6/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物斑状に含む。
3　灰色砂質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまり弱い。炭化物少量含む。



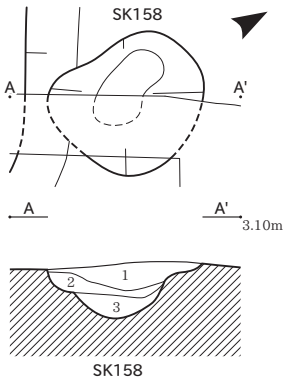
SK148
1　灰色粘質シルト（5Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅳ層混じる。
2　灰色粘質シルト（7.5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄パイプ状に分布。
3　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層・Va層ブロック状に混じる。



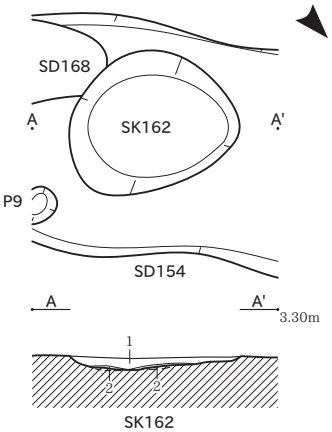
SK155
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。黒褐色シルト・暗褐色シルト・地山ブロック状に混じる。



SK156
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山多量混じる。

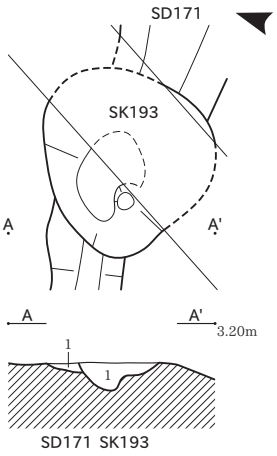


SK158
1　灰色粘質シルト（N6/）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。未分解有機物含む。
2　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。Ⅳ層斑状に混じる。
3　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。Ⅳ層帯状に混じる。



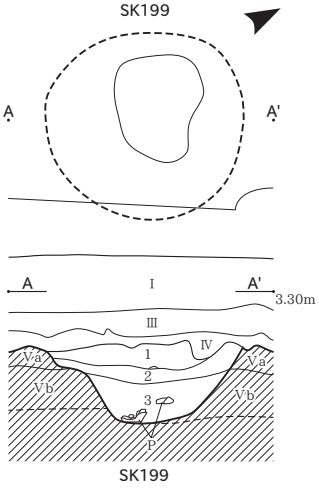
SK162
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

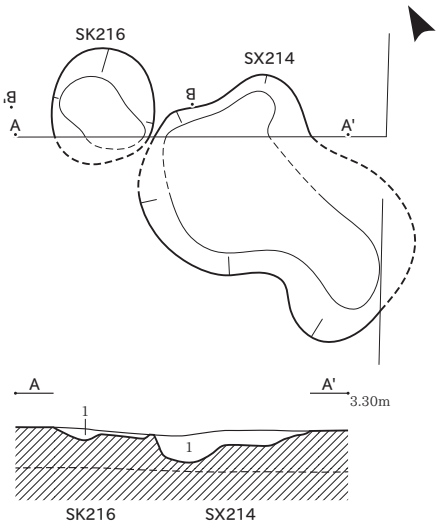


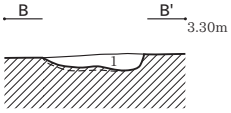
SD171
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄多量分布

SK193
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR2/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅵ層ブロック状に混じる。



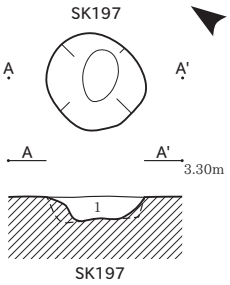
SK199
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/2）　粘性あり、しまりややあり。Ⅳ層帯状に混じる。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）粘性あり、しまりあり。炭化物φ5mm少量含む。
3　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。



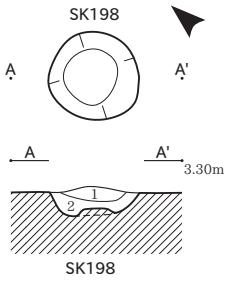


SK216
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山少量混じる。

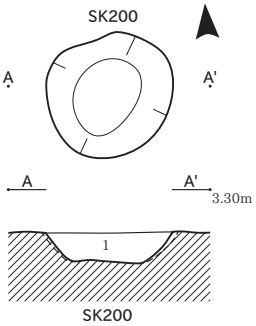
SX214
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）粘性ややあり、しまりあり。炭化物含む。



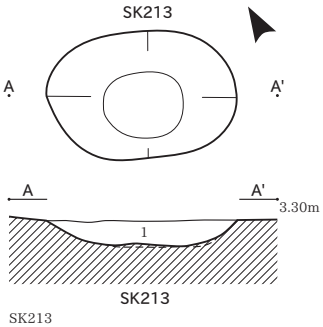
SK197
1　黒褐色粘質シルト（2.5Y3/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。



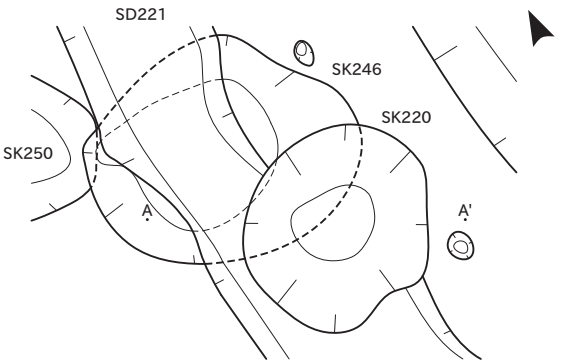
SK198
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層斑状に混じる。
2　黒褐色砂質シルト（2.5Y3/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層帯状に混じる。未分解有機物少量含む。

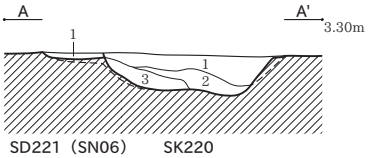


SK200
1　黒褐色シルト（10YR3/1）粘性ややあり、しまりややあり。地山多量混じる。



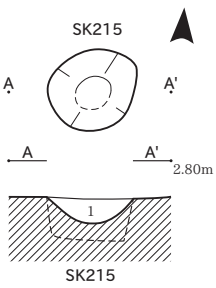
SK213
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）粘性弱い、しまりややあり。





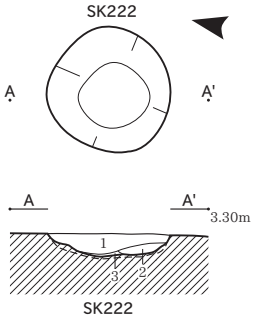
SK220
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山斑状に混じる。
2　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。黒色シルト混じる。地山ブロック状に混じる。
3　褐灰色シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック状に混じる。

SD221
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。

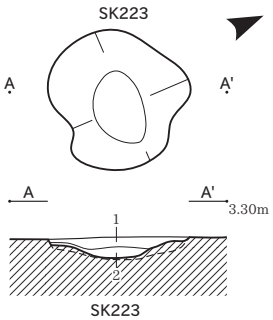


SK215
1　灰色粘質シルト（N5/）粘性あり、しまりややあり。Ⅳ層斑状に混じる。炭化物少量含む。

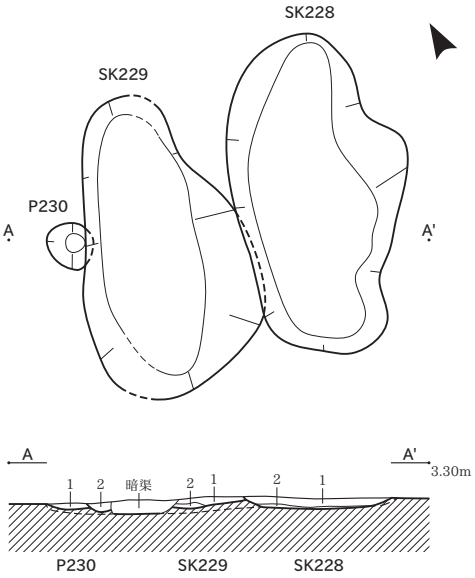
0　（平面図・断面図　1：40）　2m



SK222
1　黒色シルト（10YR2/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山大ブロック状に混じる。
2　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
3　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性あり、しまりややあり。1・2層少量混じる。



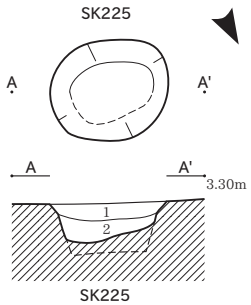
SK223
1　黒褐色シルト（7.5YR3/2）粘性ややあり、しまりややあり。地山斑状に混じる。炭化物φ2～5mm少量含む。
2　黒褐色シルト（7.5YR3/2）粘性ややあり、しまりややあり。地山斑状に多量混じる。



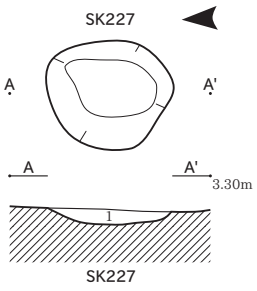
SK228
1　黒褐色シルト（10YR2/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）粘性ややあり、しまりややあり。1層少量混じる。

SK229
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山混じる。

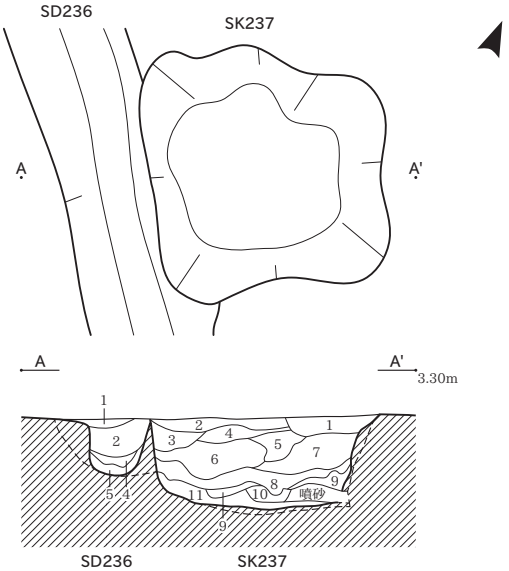
P230
1　黒色シルト（7.5YR2/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山混じる。



SK225
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性弱い、しまりややあり。
2　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。

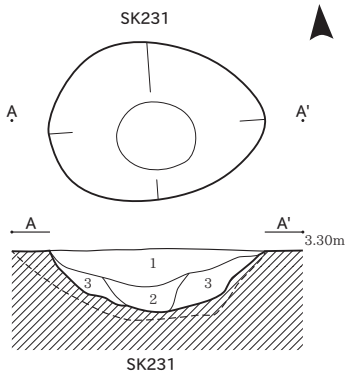


SK227
1　黒褐色シルト（10YR3/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm多量含む。



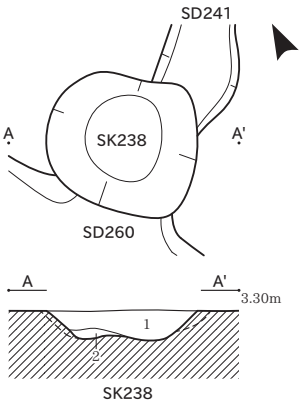
SD236
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりあり。
2　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　灰黄褐色シルト（10YR5/2）粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
5　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。地山少量混じる。炭化物φ2～3mm少量含む。

SK237
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック状に混じる。
2　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。1層少量混じる。
3　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。2層・1層の混合土。地山ブロック状に混じる。
4　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。1層少量混じる。
5　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。2層・1層の混合土。地山大ブロック状に混じる。
6　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。1層少量混じる。
7　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。2層・1層の混合土。
8　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性あり、しまりややあり。
9　褐灰色シルト（7.5YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。黒褐色シルト混じる。
10　褐灰色シルト（7.5YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。9層混じる。
11　褐灰色シルト（7.5YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。9層・黒褐色シルト混じる。

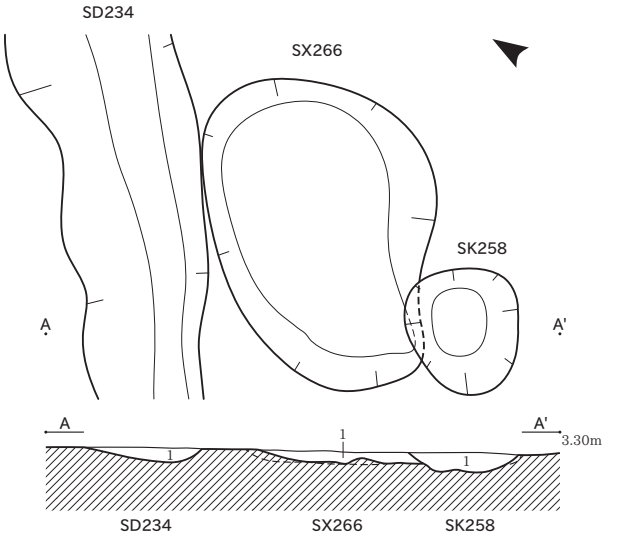


SK231
1　褐灰色砂質シルト（10YR6/1）　粘性弱い、しまりややあり。
2　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
3　灰褐色粘質シルト（7.5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。1層ブロック状に混じる。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m



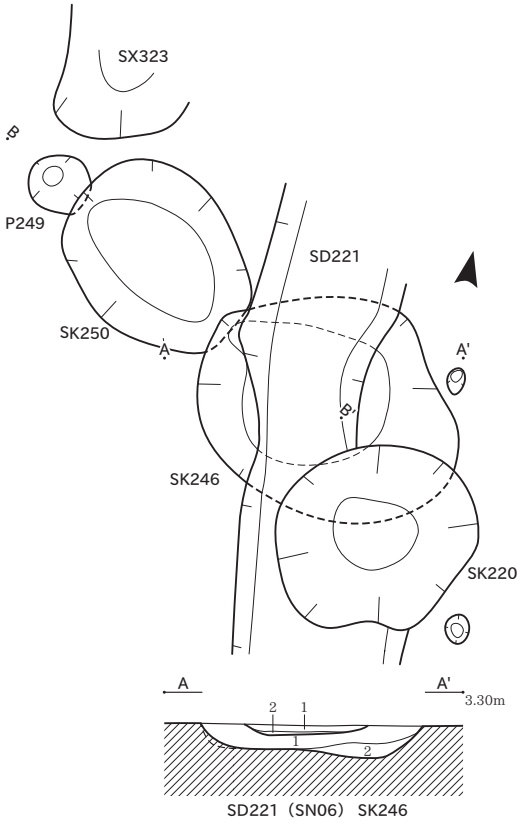
SK238
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）　粘性弱い、しまりややあり。1層斑状に混じる。



SD234
1　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。砂質土混じる。

SX266
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

SK258
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。

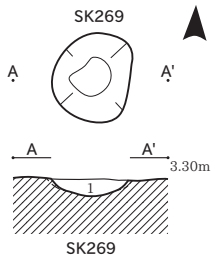


P249
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

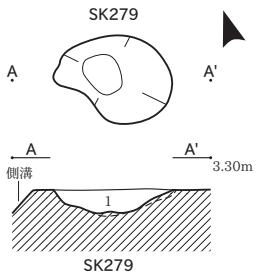
SK250
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
2　褐灰色シルト（7.5YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。

SK246
1　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。

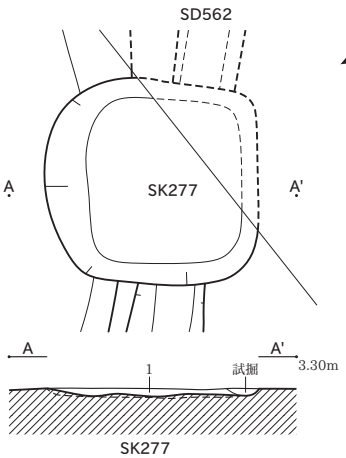
SD221
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりあり。1層混じる。



SK269
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。



SK279
1　黒褐色シルト（7.5YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック状に混じる。

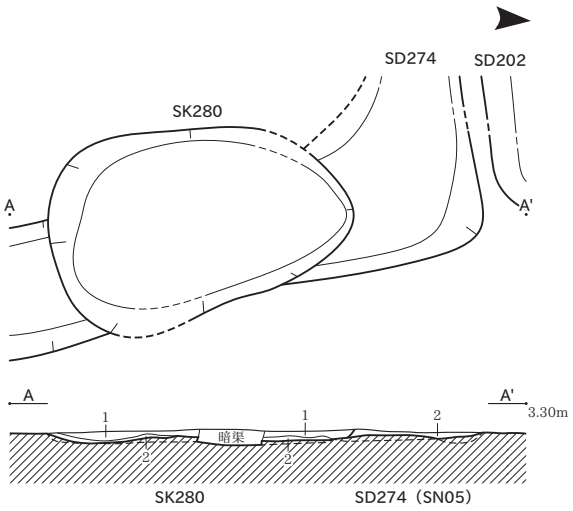


SK277
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりあり。

（平面図・断面図　1：40）

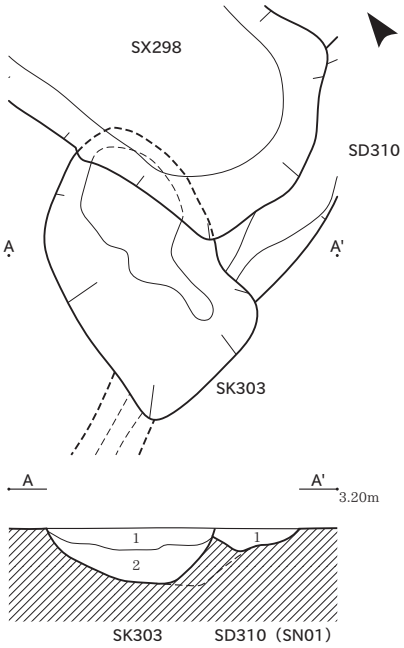
0　2m

6 区上層遺構個別図 SK（5）SK280・281・284・286・287・299・300・303・321、SD274（SN05）・310（SN01）



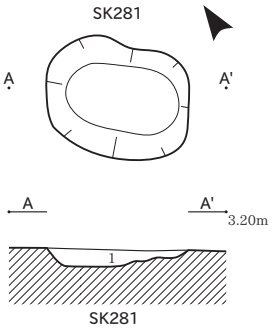
SK280
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山少量混じる。
2　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり、しまりあり。

SD274
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。
2　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりあり。

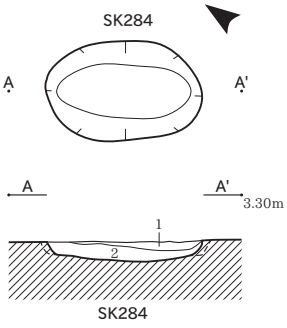


SK303
1　灰白色粘質シルト（10Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。Ⅲ層混じる。
2　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。砂質土混じる。

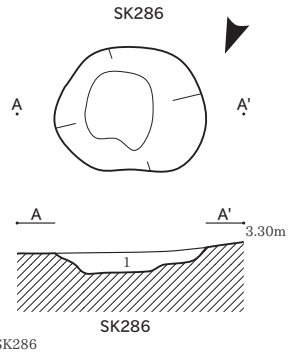
SD310
1　褐灰色砂質シルト（7.5YR4/1）　粘性弱い、しまり弱い。Va層ブロック状に混じる。



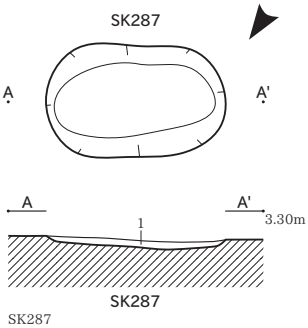
SK281
1　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）
粘性ややあり、しまりややあり。
Va層ブロック状に混じる。



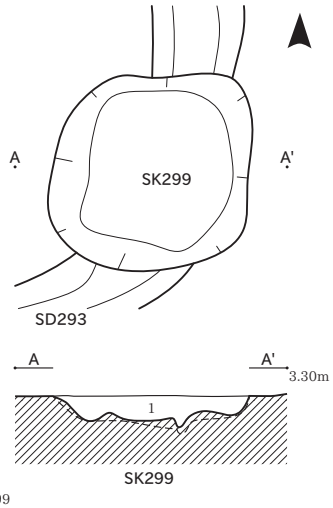
SK284
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）
粘性ややあり、しまりややあり。
炭化物φ2～3mm少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）
粘性ややあり、しまりややあり。
炭化物含む。



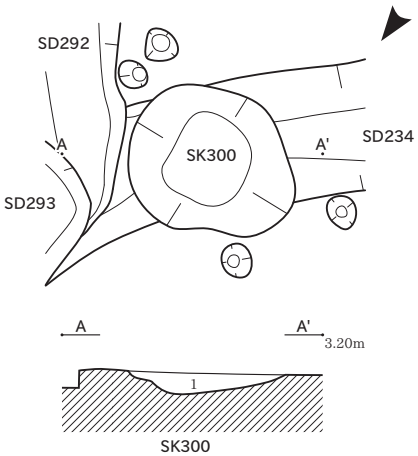
SK286
1　黒褐色シルト（7.5YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色シルト地山ブロック混じる。



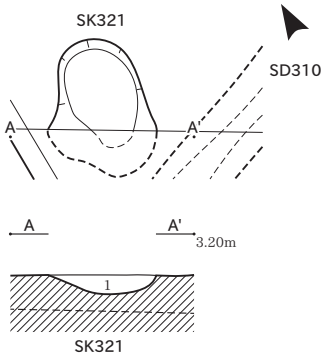
SK287
1　黒褐色シルト（7.5YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山小ブロック混じる。



SK299
1　黒色粘質シルト（10YR2/1）粘性ややあり、しまりややあり。
腐植質土。Va層小ブロック状に混じる。

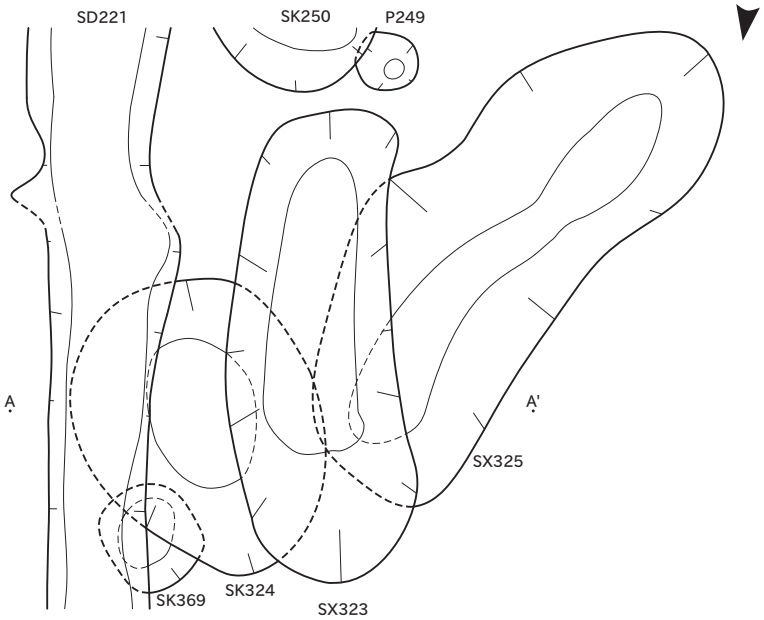


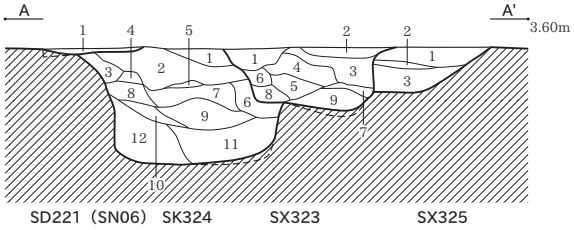
SK300
1　灰色粘質シルト（5Y4/）　粘性弱い、しまりややあり。
Va層ブロック状に混じる。



SK321
1　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性弱い、しまりややあり。
Va層斑状に混じる。未分解有機物含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m



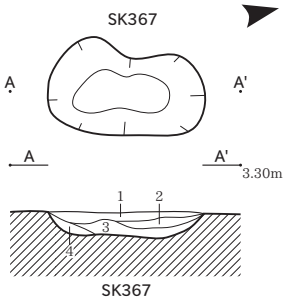


SD221
1　褐灰色シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。地山混じる。

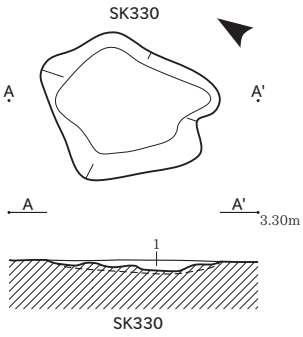
SK324
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色シルトブロック少量混じる。
2　暗褐色シルト（10YR3/3）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色シルト・にぶい黄橙色シルトブロック多量混じる。
3　暗褐色シルト（10YR3/4）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色シルト少量混じる。
4　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック混じる。
5　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色シルト多量混じる。
6　暗褐色シルト（10YR3/3）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色シルト・にぶい黄橙色シルトブロック少量混じる。
7　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりややあり。にぶい黄橙色シルト混じる。
8　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりややあり。にぶい黄橙色シルト多量混じる。
9　灰黄褐色シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりややあり。黒褐色粘質シルト混じる。
10　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。
11　オリーブ灰色シルト（2.5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。黒褐色粘質シルト混じる。
12　オリーブ灰色シルト（2.5GY5/1）　粘性あり、しまりややあり。黒褐色粘質シルト多量混じる。

SX323
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。3層小ブロック少量混じる。
2　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色シルト少量混じる。
4　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。3層・灰黄褐色地山ブロック多量混じる。
5　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。3層のブロック多量混じる。
6　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色シルト少量混じる。
7　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色シルトブロック多量混じる。
8　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色・にぶい黄橙色地山少量混じる。
9　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。灰黄褐色・にぶい黄橙色地山少量混じる。

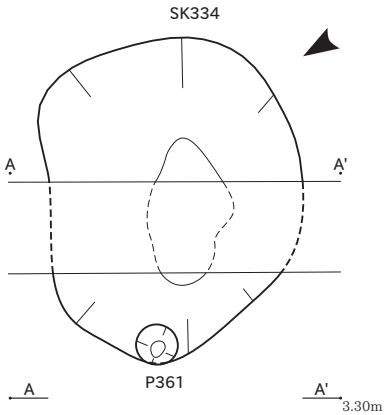
SX325
1　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm含む。
2　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。灰黄褐色粘質シルト混じる。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。

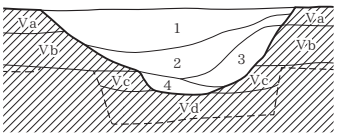


SK367
1　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。
2　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。
3　灰褐色シルト（7.5YR6/2）　粘性あり、しまりややあり。
4　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性あり、しまりややあり。3層斑状に混じる。

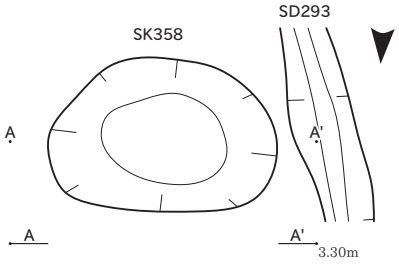


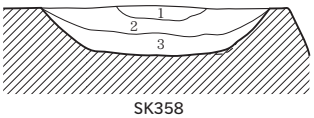
SK330
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック混じる。





SK334
1　褐灰色砂質シルト（10YR5/1）　粘性弱い、しまりややあり。
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）　粘性弱い、しまりややあり。1層斑状に混じる。水酸化鉄多量分布。
3　褐灰色砂質土（10YR5/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。
4　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。炭化物φ5mm含む。

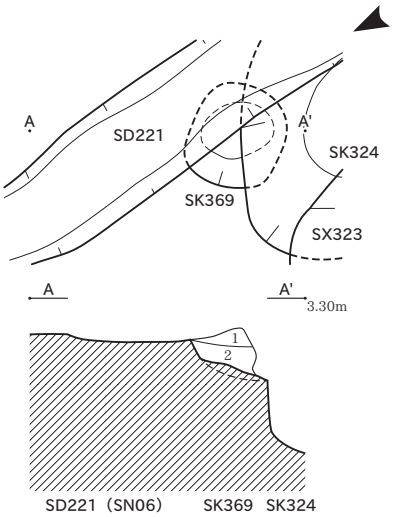




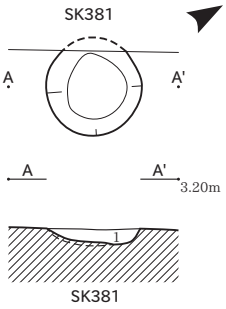
SK358
1　灰色粘質シルト（7.5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　浅黄色砂質シルト（5Y7/3）粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄多量分布。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

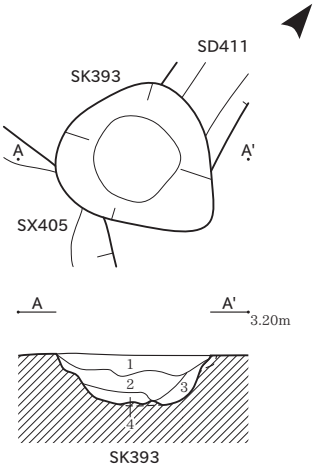
6 区上層遺構個別図 SK（7）SK324・369・381・393・398・404・408・421・432・460・594・602、SD221（SN06）



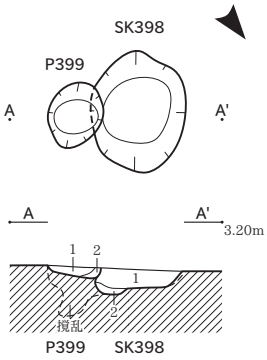
SK369
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
2　にぶい黄橙色シルト（10YR5/3）　粘性ややあり、しまりややあり。



SK381
1　灰白色砂質シルト（10YR8/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。

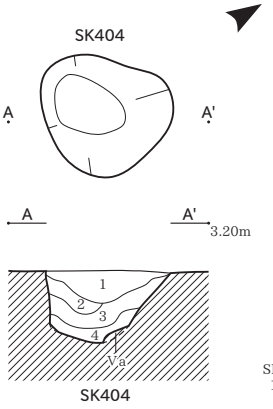


SK393
1　黒色シルト（10YR1.7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック多量混じる。
2　黒色シルト（10YR1.7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。やや大きめの地山ブロック混じる。
3　黒色シルト（10YR1.7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山の小ブロック多量混じる。
4　黒色シルト（10YR1.7/1）　粘性あり、しまりややあり。やや大きめの地山ブロック混じる。

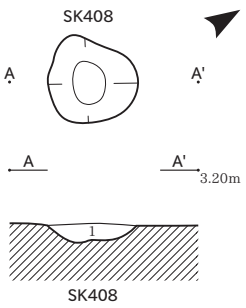


P399
1　黒色シルト（10YR2/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。1層少量混じる。

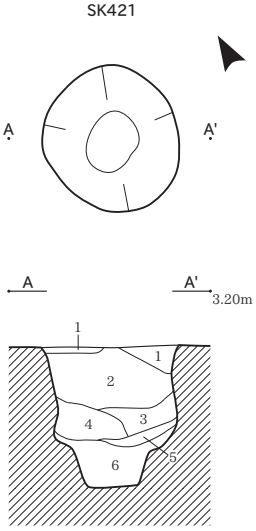
SK398
1　黒色シルト（10YR2/1）　粘性あり、しまりややあり。地山ブロック混じる。
2　灰黄褐色砂質シルト（10YR5/2）　粘性弱い、しまりややあり。1層少量混じる。



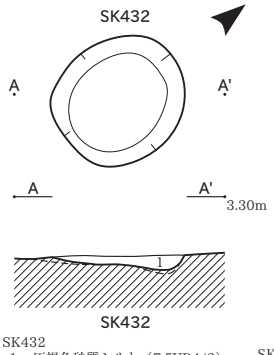
SK404
1　灰白色粘質シルト（10Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状に混じる。
2　灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物多量含む。
3　暗灰黄色砂質シルト（2.5Y5/2）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅳ層斑状に混じる。炭化物帯状に含む。
4　黒褐色砂質シルト（10YR3/2）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄多量分布。



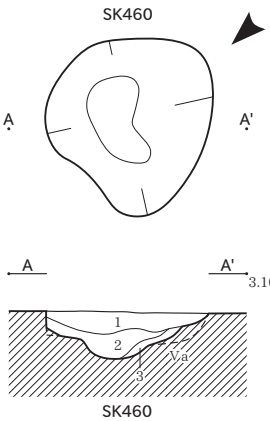
SK408
1　灰白色砂質シルト（10Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



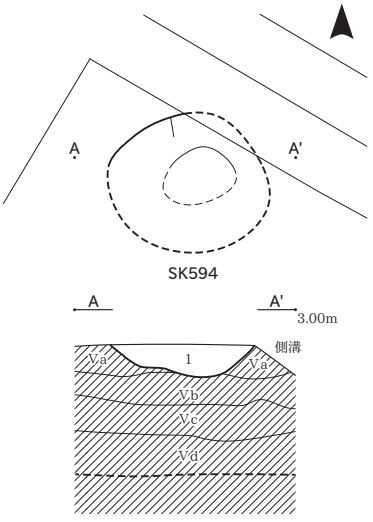
SK421
1　黒色シルト（7.5YR1.7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。地山ブロック混じる。
2　黒色シルト（7.5YR1.7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。地山ブロック少量混じる。
3　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性あり、しまりややあり。腐植質土。
4　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性あり、しまりややあり。地山ブロック混じる。
5　黒褐色シルト（7.5YR2/2）　粘性あり、しまりややあり。腐植質土。
6　褐灰色砂質土（10YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物φ0.5～1mm多量含む。



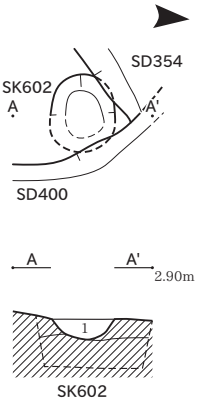
SK432
1　灰褐色砂質シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。



SK460
1　青灰色粘質シルト（5BG6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。砂質土混じる。水酸化鉄斑状に分布。
2　青灰色粘質シルト（10BG6/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。水酸化鉄斑状に分布。
3　青灰色粘質シルト（5B6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。砂質土混じる。水酸化鉄斑状に分布。

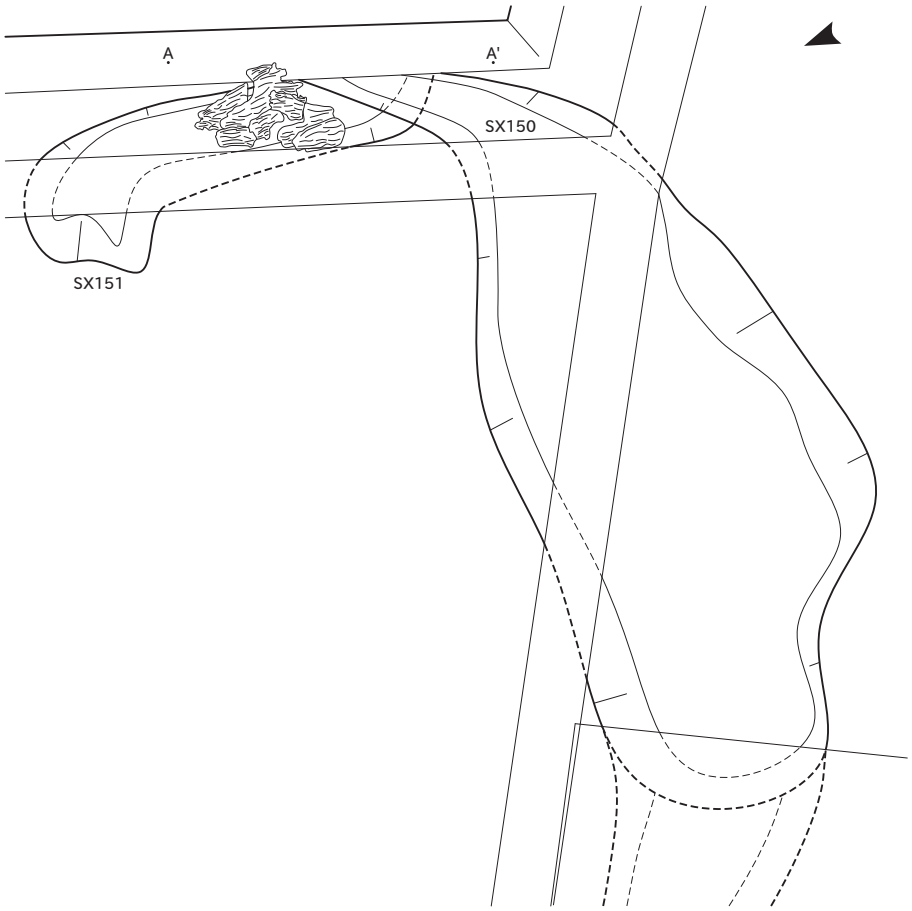


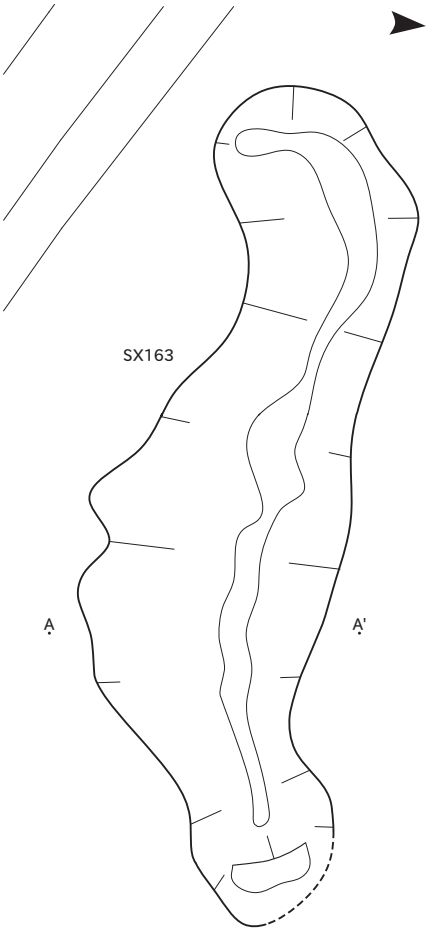
SK594
1　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性ややあり、しまりややあり。

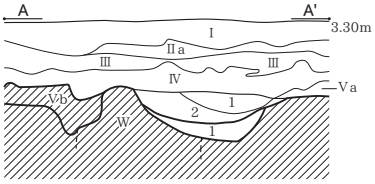


SK602
1　明緑色粘質シルト（10G7/1）粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m



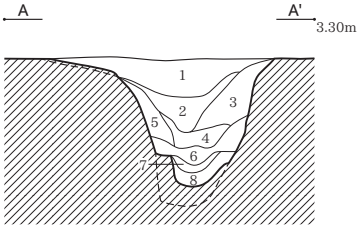




SX150
SX151

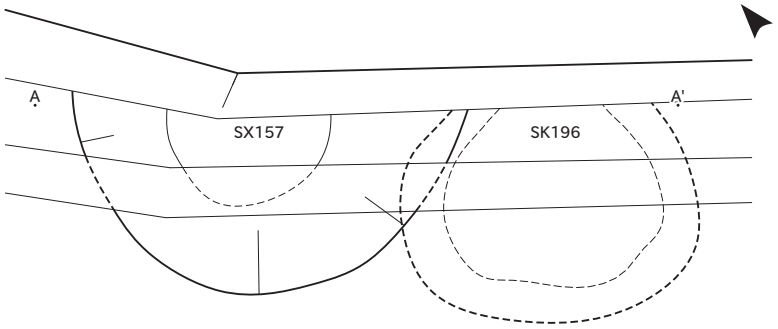
SX150
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）粘性弱い、しまり弱い。未分解有機物含む。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）粘性ややあり、しまりややあり。植物遺体多量含む。

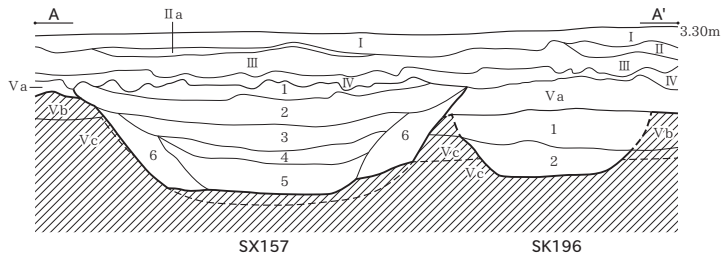
SX151
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。



SX163

SX163
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物斑状に含む。
3　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。白色砂斑状に混じる。
4　灰色粘質シルト（10Y4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
5　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。黒色土ブロック状に混じる。
6　暗青灰色粘質シルト（10BG4/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物少量含む。
7　灰色粘質シルト（N4/）　粘性あり、しまりあり。
8　暗灰色砂質シルト（N3/）　粘性弱い、しまりややあり。



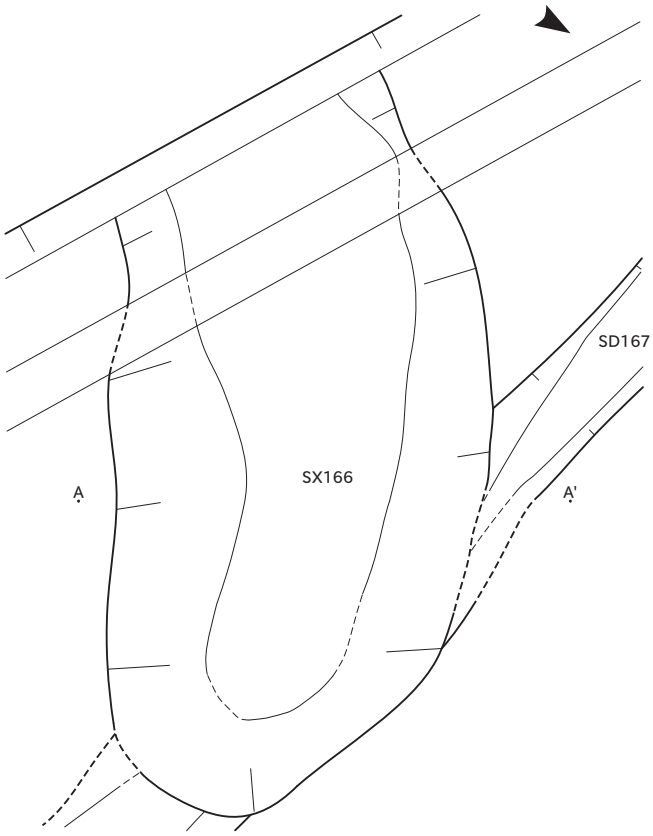


SX157　　SK196

SX157
1　暗緑灰色粘質シルト（10GY7/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物少量含む。
2　暗緑灰色粘質シルト（5G7/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物帯状に含む。炭化物少量含む。
3　暗緑灰色粘質シルト（10G7/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物斑状に含む。
4　暗青灰色粘質シルト（5BG7/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物少量含む。
5　暗青灰色粘質シルト（10BG7/1）　粘性あり、しまりあり。
6　灰白色粘質シルト（2.5Y7/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物・炭化物少量含む。

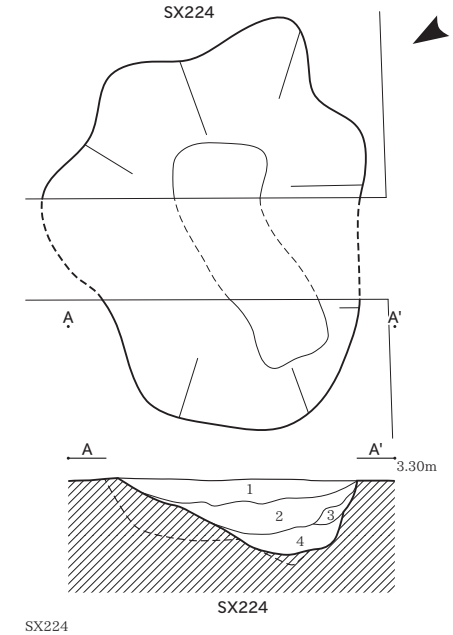
SK196
1　灰黄色粘質シルト（2.5Y7/2）　粘性あり、しまりあり。炭化物φ1～5mm多量含む。
2　青灰色粘質シルト（5B6/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物少量含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

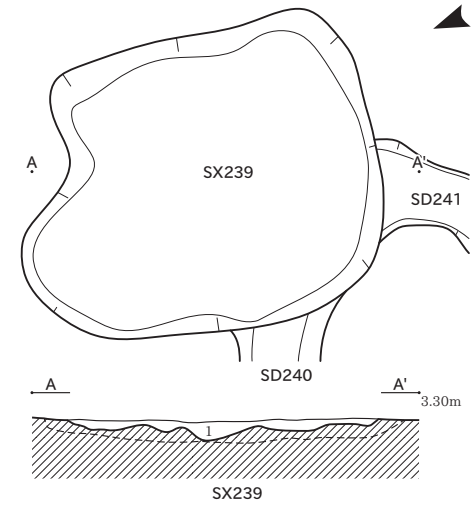


SX166
1　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y5/2）粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。炭化物少量含む。
2　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y4/2）粘性ややあり、しまりややあり。植物遺体多量含む。
3　緑灰色粘質シルト（5G6/1）　粘性あり、しまりあり。ラミナ状に堆積。
4　明緑灰色粘質シルト（5G7/1）　粘性あり、しまりあり。水酸化鉄斑状に分布。

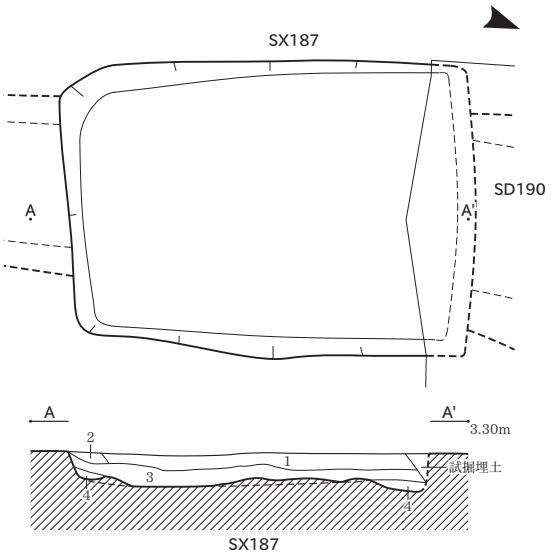
SD167
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりあり。炭化物少量含む。



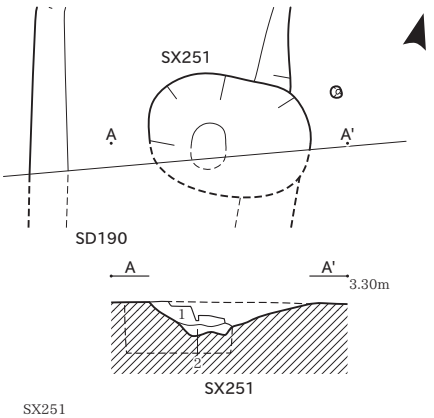
SX224
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）粘性ややあり、しまりややあり。
3　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）粘性ややあり、しまりややあり。
　Va層ブロック状に混じる。
4　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　砂質土帯状に混じる。



SX239
1　褐灰色砂質シルト（7.5YR4/1）粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。

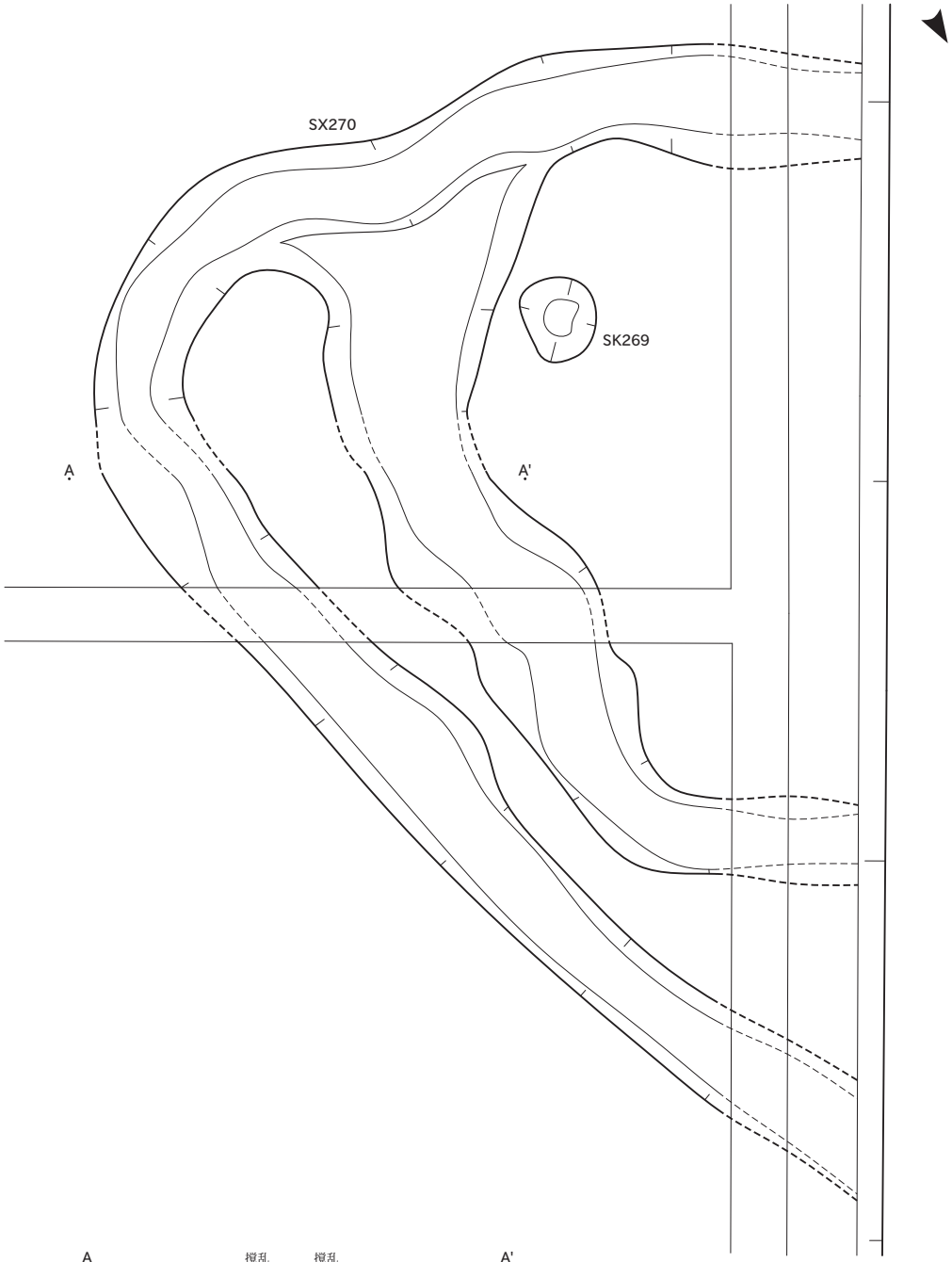


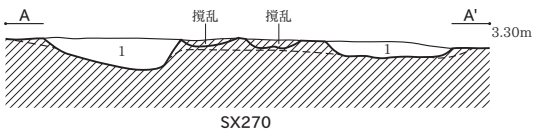
SX187
1　暗赤褐色砂質シルト（2.5YR3/4）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄多量分布。赤色を呈する。
2　灰色粘質シルト（N4/）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
3　にぶい赤褐色粘質シルト（5YR5/3）粘性弱い、しまりややあり。Va層斑状に混じる。
4　褐灰色砂質シルト（10YR5/1）　粘性弱い、しまり弱い。



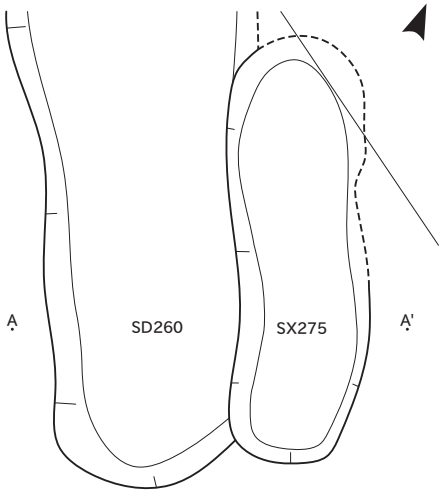
SX251
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。
　Ⅲ・Ⅳ層ブロック状に混じる。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）粘性弱い、しまりややあり。
　1層とVa層の混合層。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m



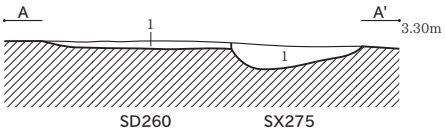


SX270
1　黒褐色砂質シルト（10YR3/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。
　水酸化鉄斑状に分布。

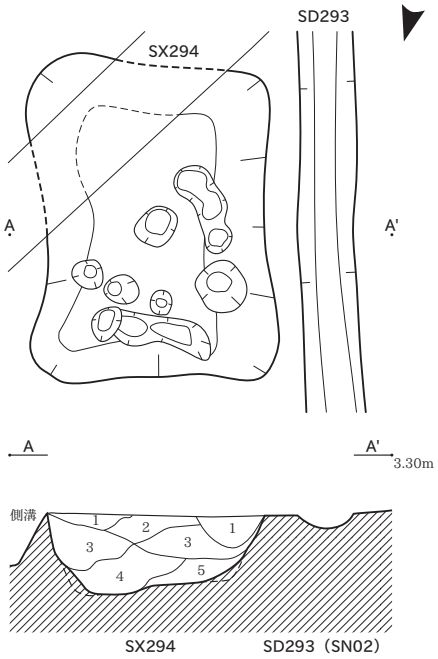


SD260
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
　Va層ブロック状に混じる。

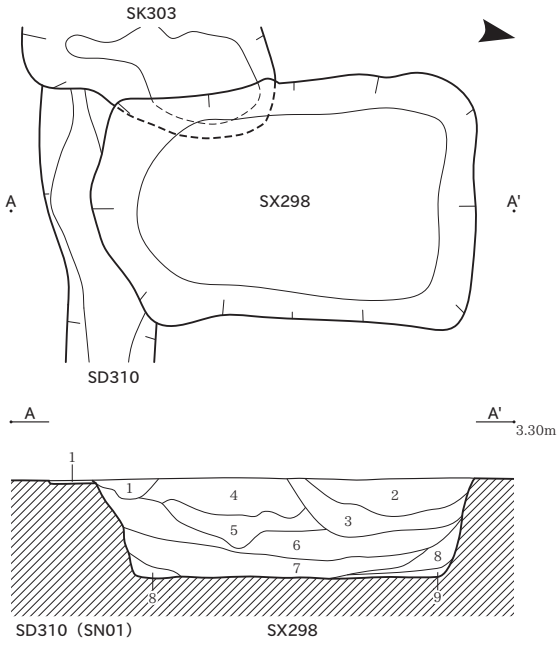
SX275
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。



0　（平面図・断面図　1：40）　2m

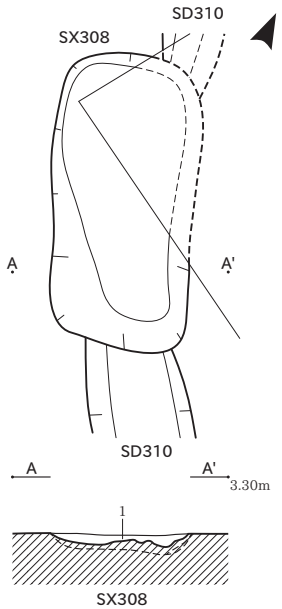


SX294
1　褐灰色砂質シルト（5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。
2　褐灰色砂質シルト（5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。
3　褐灰色砂質シルト（5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。
4　褐灰色砂質シルト（5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。
5　褐灰色砂質土（5YR4/1）　粘性弱い、しまり弱い。Va層ブロック状に混じる。

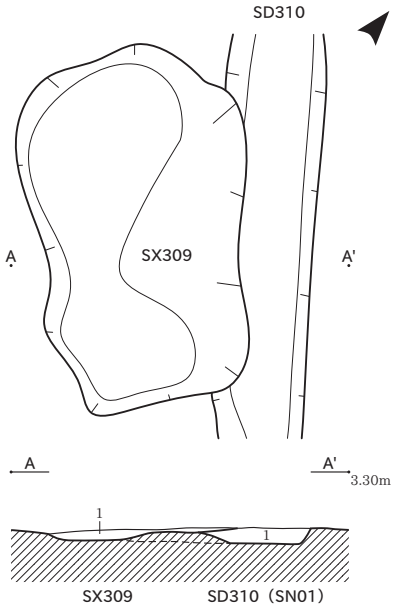


SX298
1　黄灰色粘質シルト（2.5Y4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ・Ⅳ・Va層ブロック状に混じる。
2　灰白色砂質シルト（10Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅳ・Va層の混合層。
3　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性弱い～ややあり、しまりややあり。Ⅲ・Ⅳ・Va層の混合層。
4　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状に混じる。
5　黒褐色粘質シルト（2.5Y3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。
6　明緑灰色砂質シルト（5G7/1）　粘性弱い、しまり弱い。Ⅲ層ブロック状少量混じる。水酸化鉄斑状に分布。
7　青灰色砂質土（10BG6/1）　粘性弱い、しまり弱い。Ⅲ層混じる。炭化物φ1mm含む。
8　明緑灰色砂質土（10G7/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物φ1mm少量含む。
9　青灰色砂質土（5BG6/1）　粘性弱い、しまり弱い。

SD310
1　褐灰色砂質シルト（7.5YR4/1）　粘性弱い、しまり弱い。Va層ブロック状に混じる。

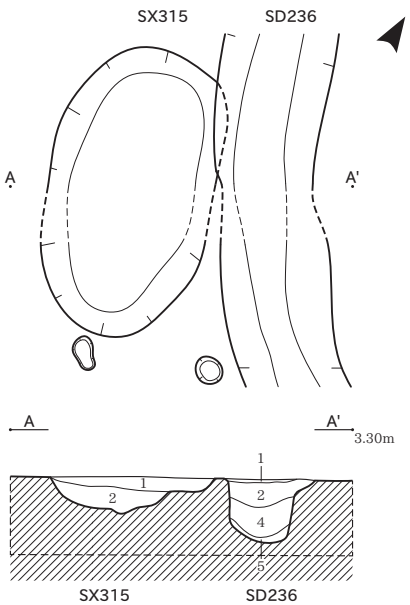


SX308
1　灰色砂質シルト（10Y6/1）　粘性弱い、しまり弱い。



SX309
1　明オリーブ灰色粘質シルト（2.5GY7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。

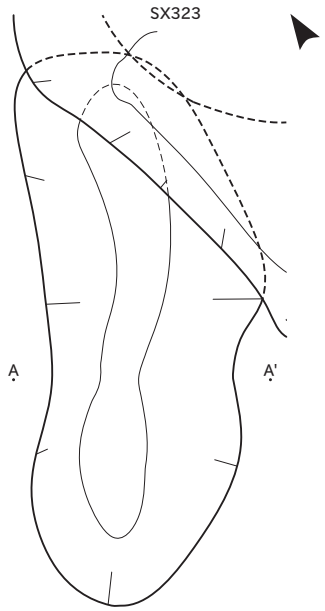
SD310
1　明オリーブ灰色粘質シルト（2.5GY7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状に混じる。



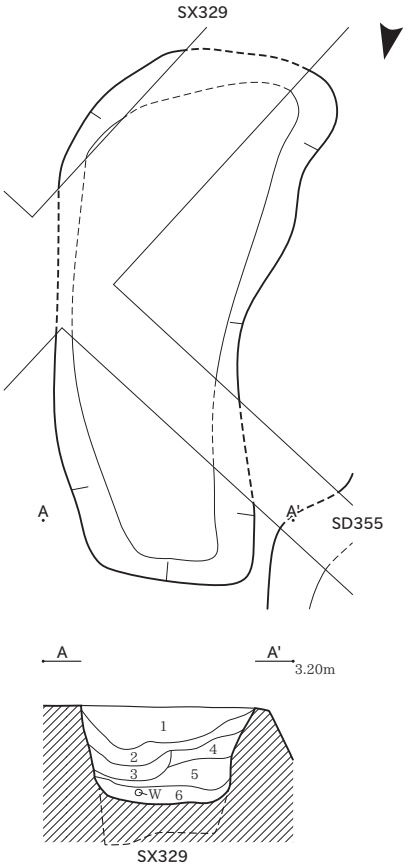
SX315
1　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。黒土が混じる。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

SD236
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりあり。
2　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。地山少量混じる。
5　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。地山少量混じる。炭化物φ2～3mm少量含む。

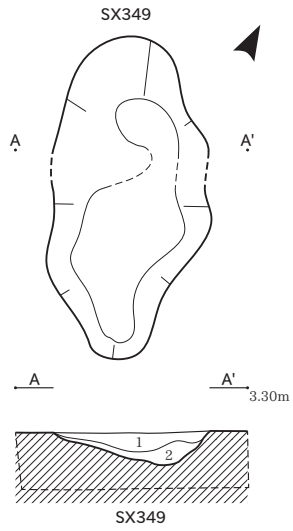
0　（平面図・断面図　1：40）　2m



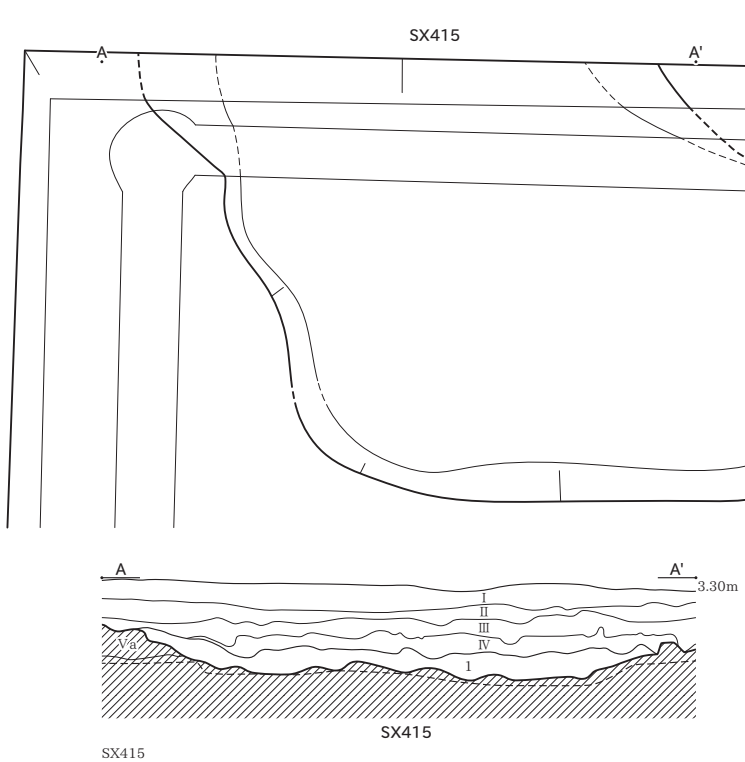
SX325
1　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm含む。
2　灰褐色シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。灰黄褐色粘質シルト混じる。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。
4　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。



SX329
1　黄灰色粘質シルト（2.5Y4/1）　粘性弱い～ややあり、しまりややあり。Ⅲ・Ⅳ・Va層の混合層。
2　灰白色砂質シルト（5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状に混じる。
3　灰白色砂質シルト（5Y7/2）　粘性弱い、しまり弱い。Ⅲ層少量混じる。
4　黄灰色粘質シルト（2.5Y4/1）　粘性弱い～ややあり、しまりややあり。Ⅲ・Ⅳ・Va層の混合層。
5　灰色粘質シルト（5Y4/1）　粘性弱い～ややあり、しまりややあり。Ⅲ・Ⅴ層の混合層。
6　緑灰色砂質土（5G5/1）　粘性弱い、しまり弱い。Ⅲ層斑状に混じる。

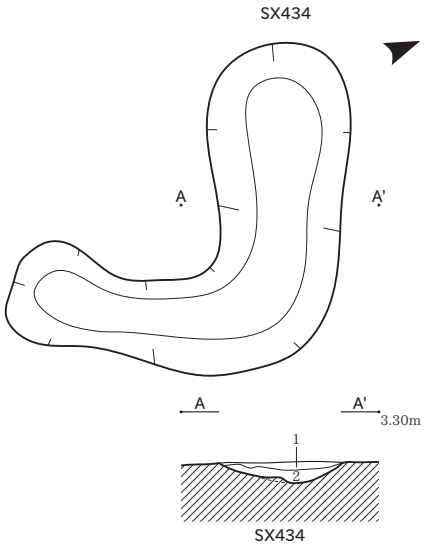


SX349
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　褐灰色シルト（7.5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。

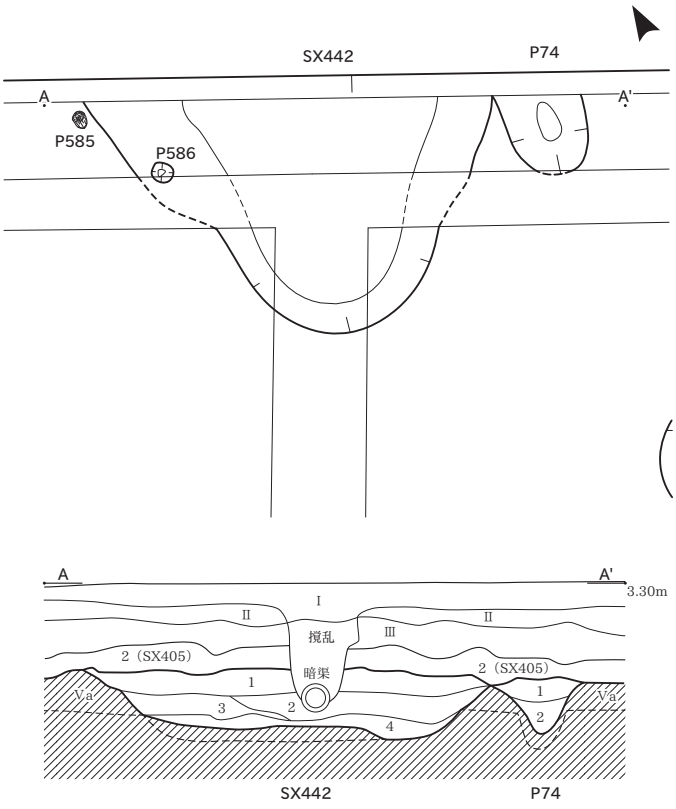


SX415
1　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m



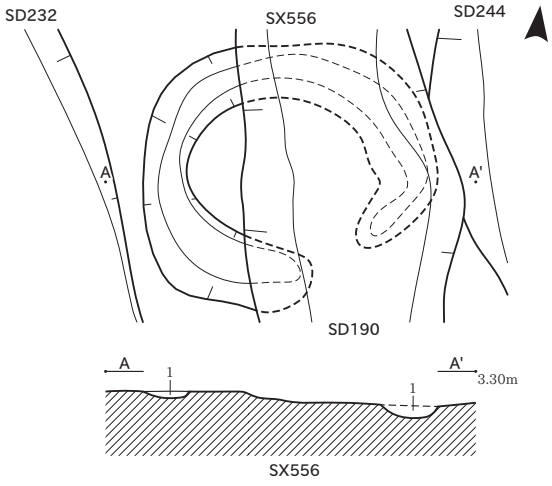
SX434
1　褐灰色シルト（7.5YR5/1）　粘性あり、しまりややあり。
2　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。



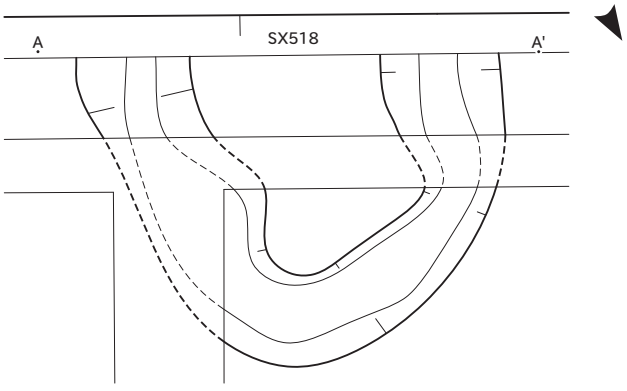
SX442
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）　粘性あり、しまりややあり。未分解有機物含む。炭化物多量含む。
2　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性あり、しまりあり。炭化物含む。水酸化鉄多量分布。
3　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性あり、しまりあり。炭化物含む。砂質土斑状に混じる。
4　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性あり、しまりややあり。炭化物多量含む。

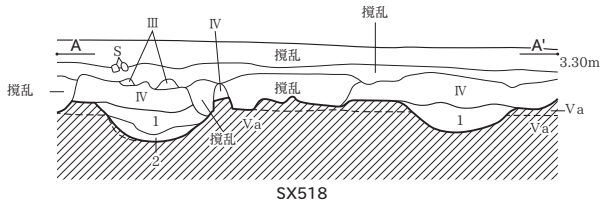
P74
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）　粘性あり、しまりややあり。
2　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性あり、しまりややあり。

SX405
1　灰褐色シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

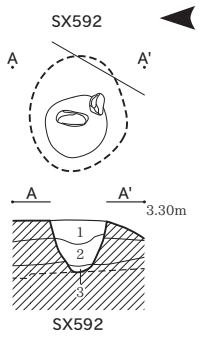


SX556
1　灰色砂質シルト（N7/）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状に混じる。
　水酸化鉄全体に分布。





SX518
1　明青灰色粘質シルト（10BG7/1）粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物少量含む。
2　明青灰色砂質シルト（5B7/1）　粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄多量分布。

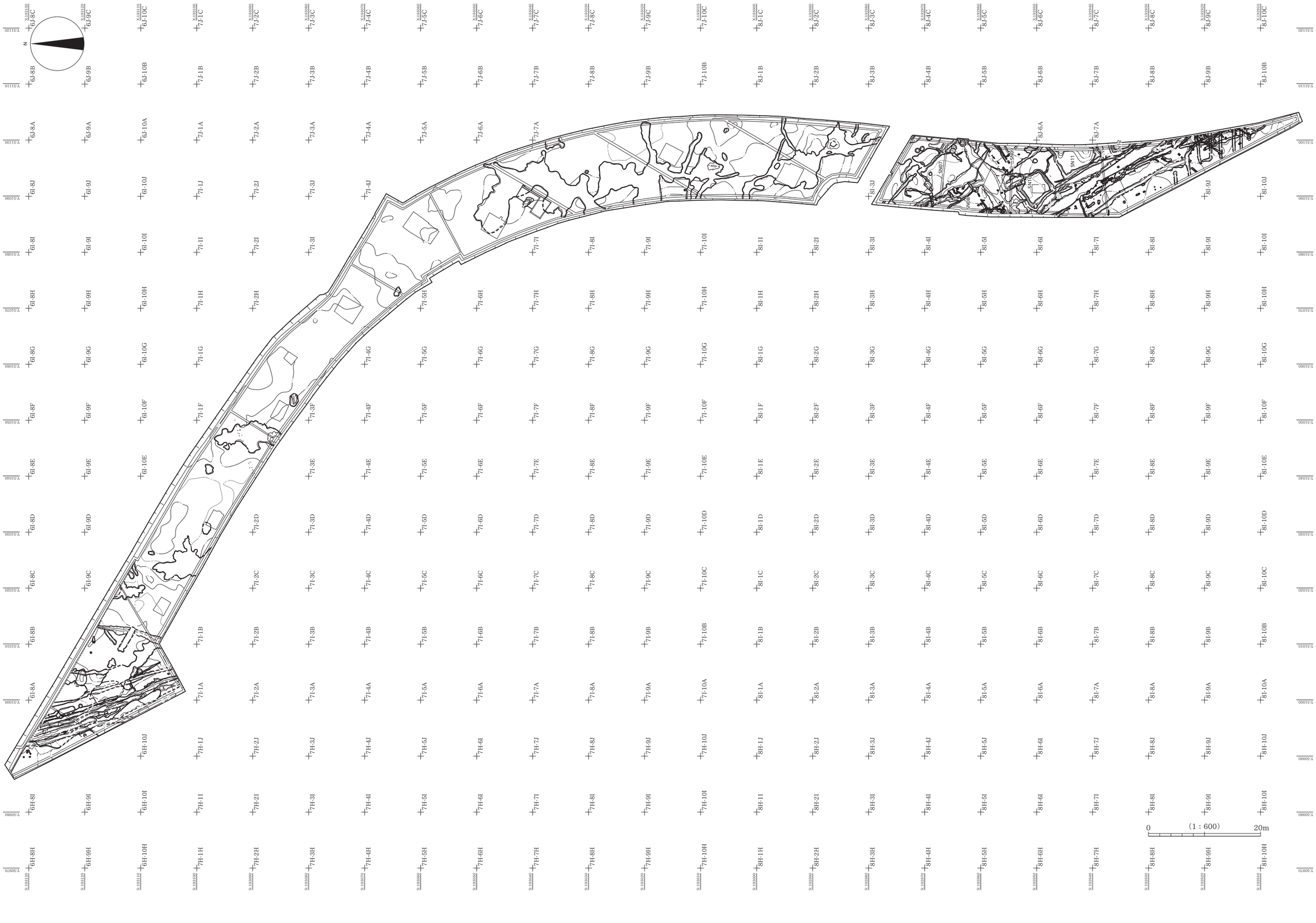


SX592
1　灰黄色粘質シルト（2.5Y7/2）粘性ややあり、しまりややあり。
2　浅黄色粘質シルト（2.5Y7/3）粘性ややあり、しまりややあり。
　水酸化鉄帯状に分布。炭化物少量含む。
3　黄灰色砂質土（2.5Y6/1）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄
　斑状に分布。

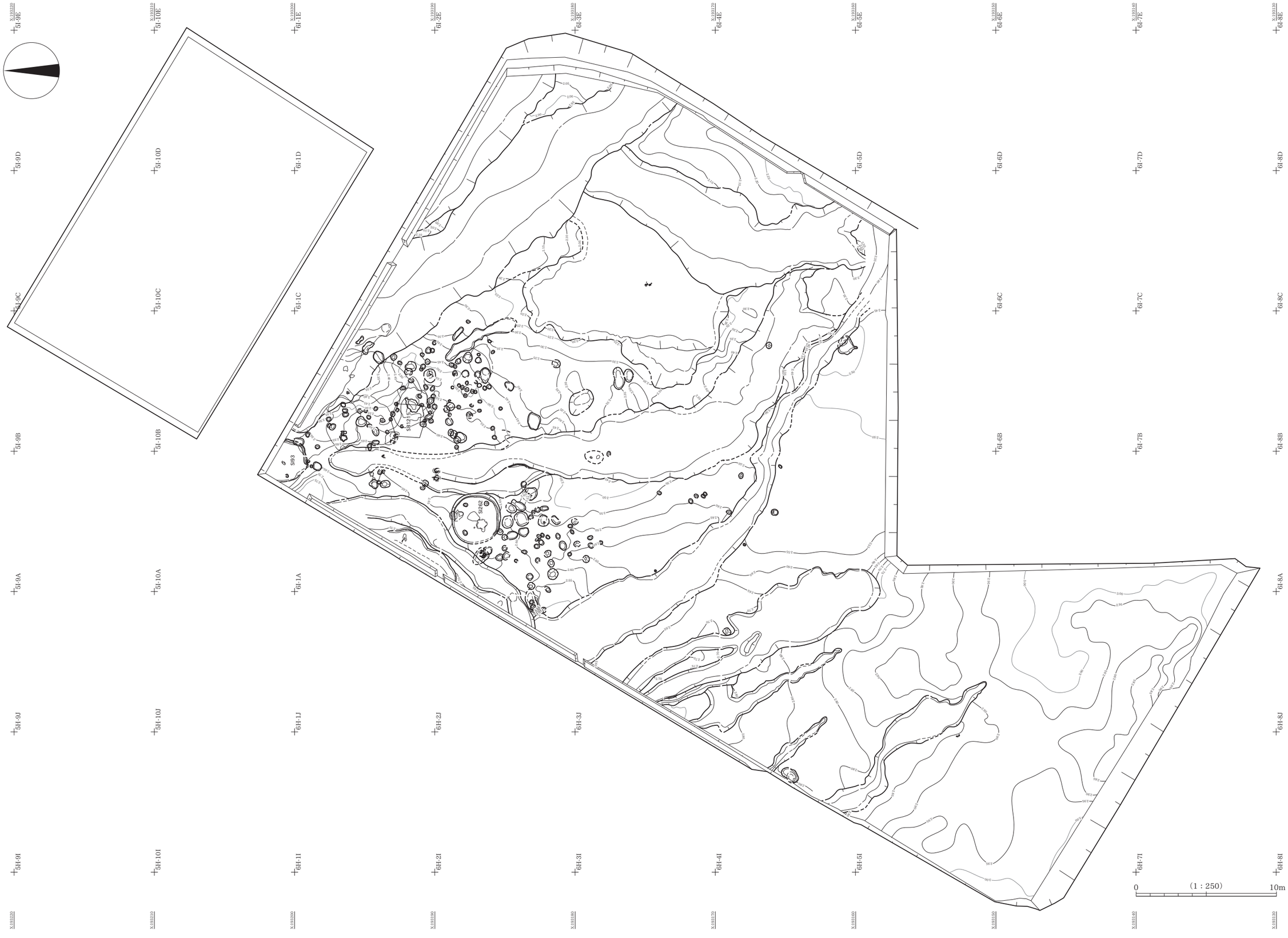
0　（平面図・断面図　1：40）　2m

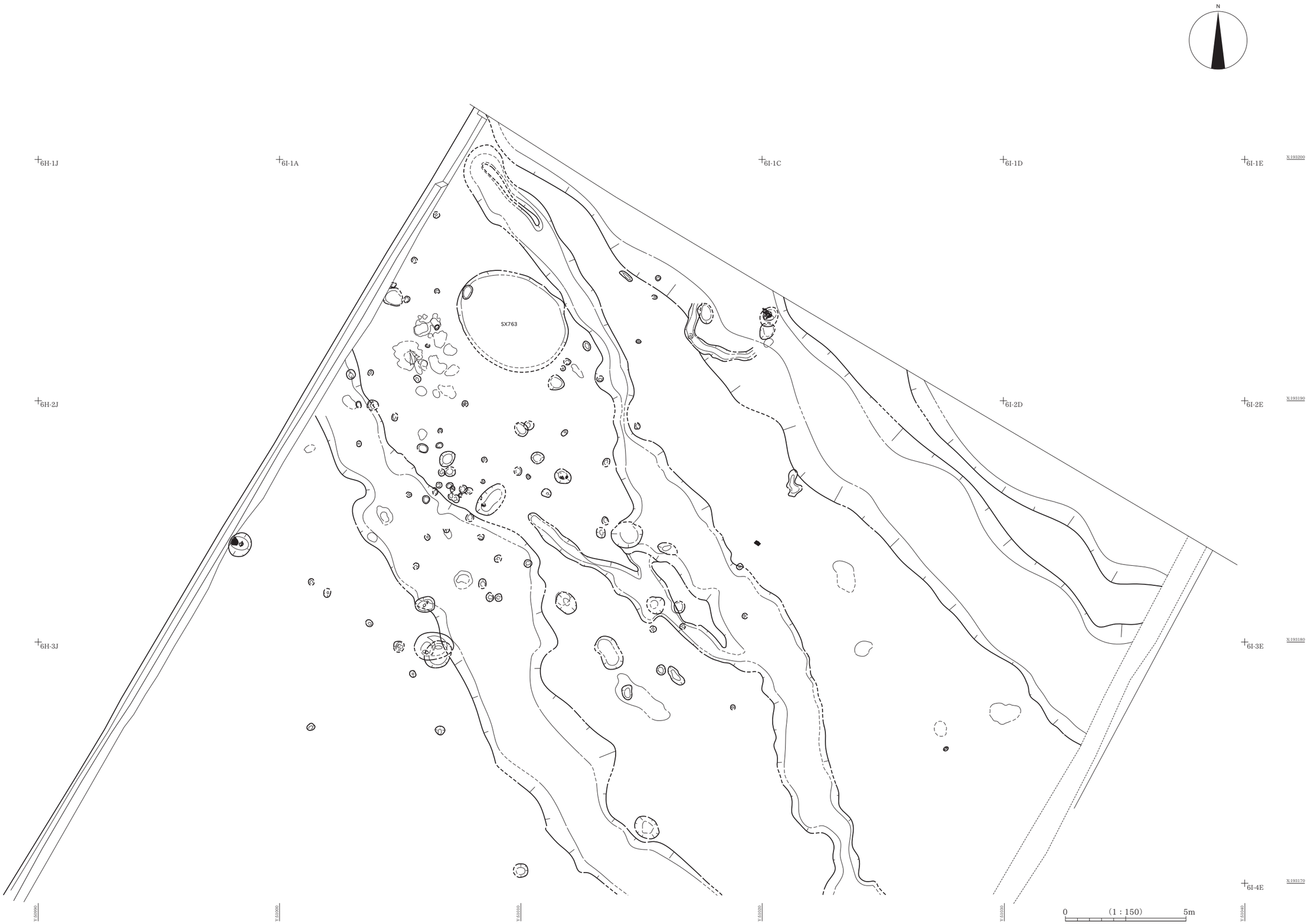
7 区上層遺構全体図（1/600）

図版 51



6 区下層上面遺構全体図（1/250）




Y-50990
Y-51000
Y-51010
Y-51020
Y-51030
Y-51040
N
X-193200
6H-1J
6I-1A
6I-1C
6I-1D
6I-1E
X-193190
6H-2J
6I-2D
6I-2E
X-193180
6H-3J
6I-3E
X-193170
6I-4E
SX763
0
(1 : 150)
5m

Y:50990 Y:51000 Y:51010 Y:51020 Y:51030 Y:51040

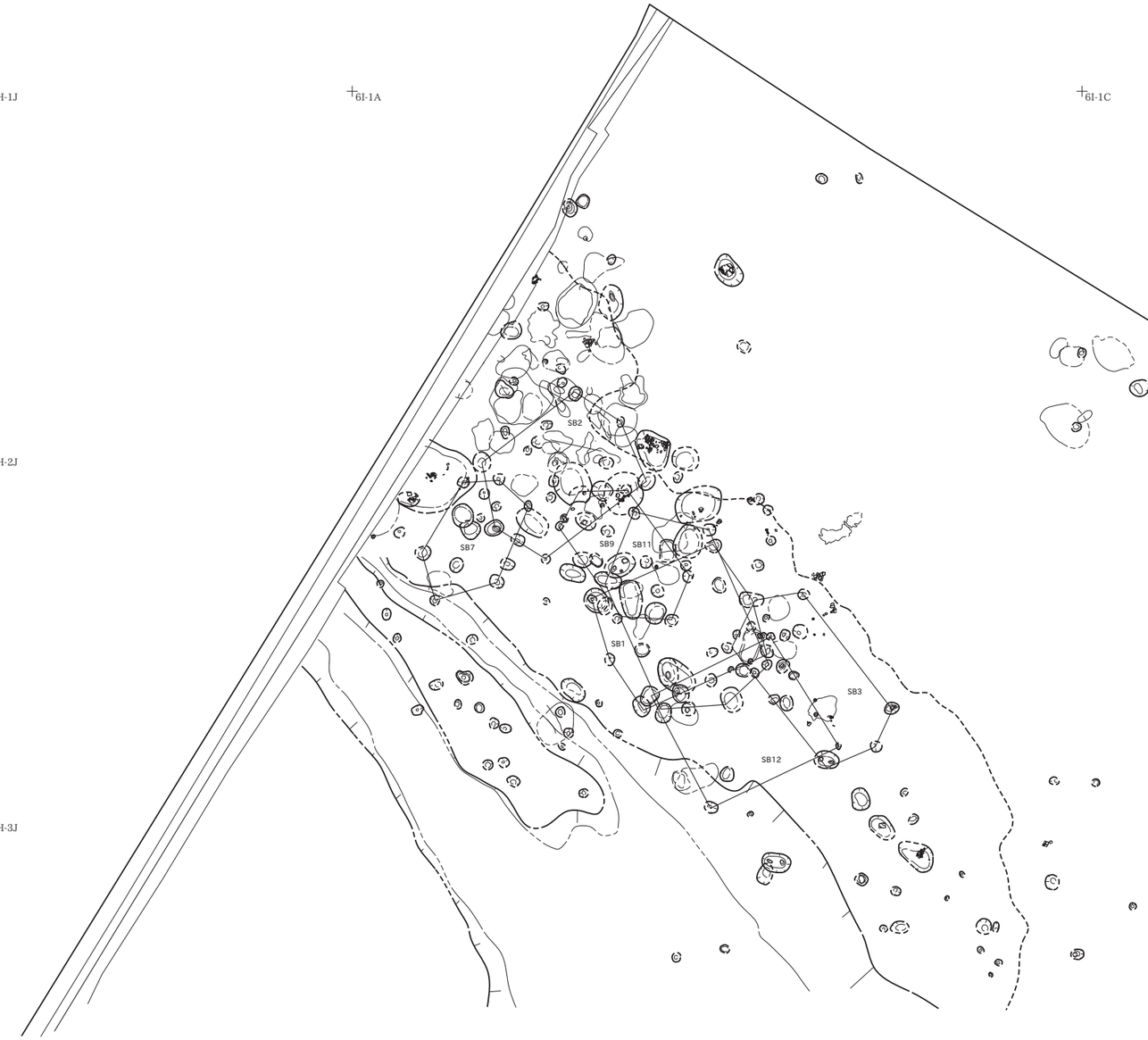
X:193200 6H-1J 6I-1A 6I-1C 6I-1D 6I-1E X:193200

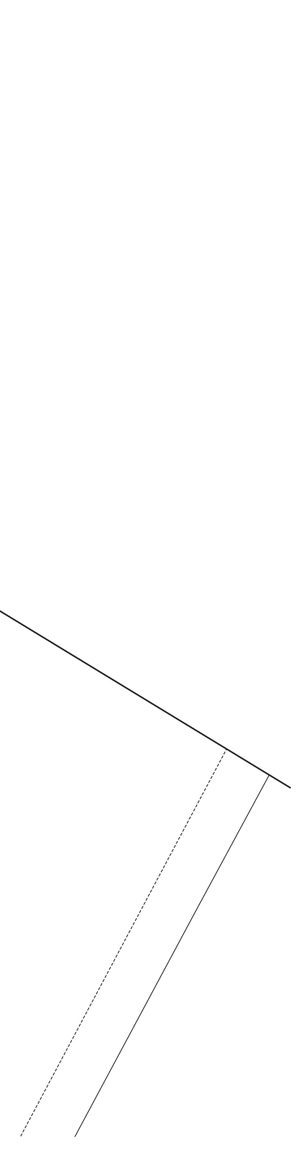
X:193190 6H-2J 6I-2D 6I-2E X:193190

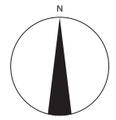
X:193180 6H-3J 6I-3E X:193180

X:193170 6H-4J 6I-4A 6I-4B 6I-4C 6I-4D 6I-4E X:193170

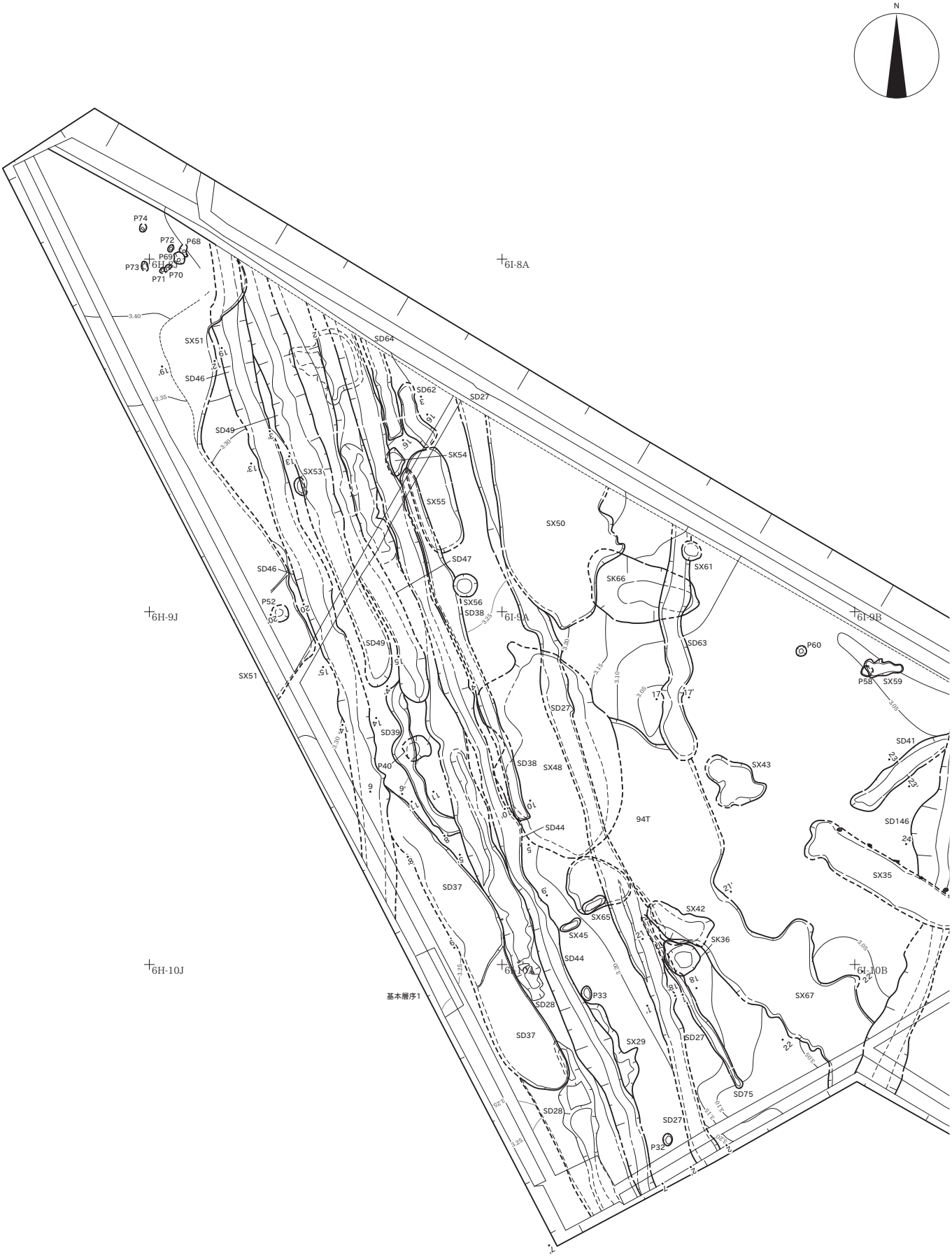
Y:50990 Y:51000 Y:51010 Y:51020 Y:51030 Y:51040



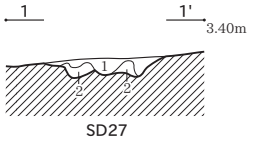


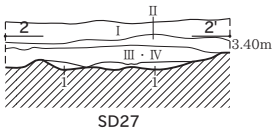


0 (1 : 150) 5m

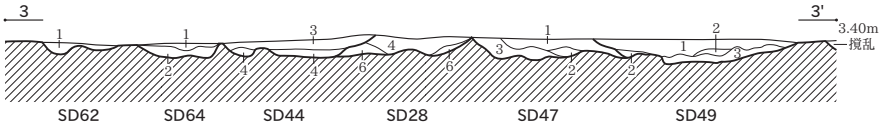

N
6I-8A
6H-9J
6I-9A
6I-9B
6H-10J
6I-10A
6I-10B
基本層序1
SX51
SD64
SD46
SD62
SD27
SD49
SK54
SX53
SX55
SX50
SD47
SX61
SK66
SX56
SD38
P52
SD63
P60
P58
SX59
SD41
SD39
P40
SX48
SX43
SD44
94T
SD146
SX35
SD37
SX42
SX65
SX45
SK36
SD44
P33
SD28
SX67
SD37
SX29
SD27
SD75
SD28
SD27
P32

0　（平面図　1：150）　5m





SD27
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状で混じる。
2　灰白色砂質シルト（10YR7/1）粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄が斑状に分布。炭化物少量含む。



SD28
4　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック混じる。
6　灰褐色粘質シルト（7.5YR6/2）　粘性あり、しまりややあり。1層少量混じる。

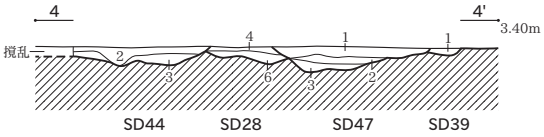
SD44
3　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。
4　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック混じる。

SD47
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　褐灰色粘質シルト（5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層少量混じる。炭化物含む。

SD49
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm多量含む。
2　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層少量混じる。
3　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック混じる。

SD62
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。Va層ブロック状で混じる。

SD64
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。Va層ブロック状で少量混じる。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で多量混じる。

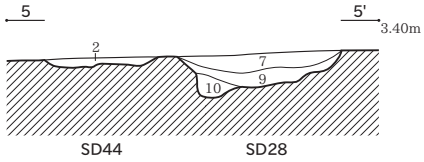


SD28
4　灰黄色粘質シルト（2.5Y6/2）　粘性あり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。
6　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性あり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。炭化物多量含む。

SD39
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。Va層ブロック状で混じる。

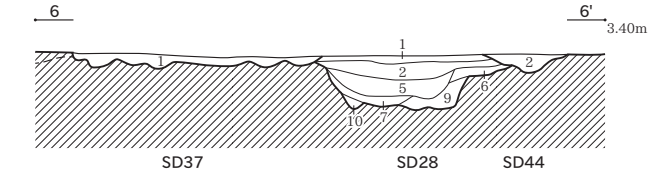
SD44
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。炭化物含む。
3　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。

SD47
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　褐灰色粘質シルト（5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層少量混じる。炭化物含む。



SD28
7　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。水酸化鉄分布。
9　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y4/2）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。
10　灰白色砂質シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。ラミナ状に堆積。

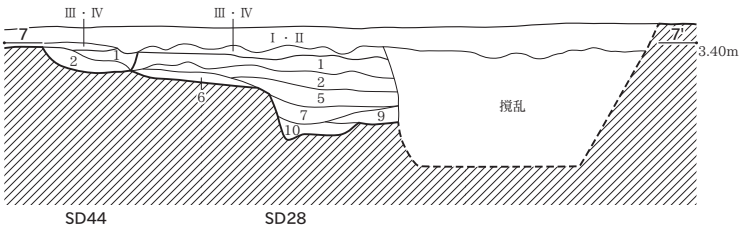
SD44
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。炭化物含む。



SD28
1　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。マンガン粒斑状に含む。
2　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
5　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
6　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性あり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。炭化物含む。
7　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。水酸化鉄斑状に分布。
9　暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。
10　灰白色砂質シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。ラミナ状に堆積。

SD37
1　褐灰色砂質シルト（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ・Va層の混合層。

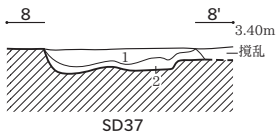
SD44
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。炭化物含む。



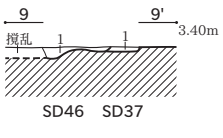
SD28
1　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。マンガン粒斑状に含む。
2　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
5　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
6　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性あり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。炭化物含む。
7　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。水酸化鉄斑状に分布。
9　暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。
10　灰白色砂質シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。ラミナ状に堆積。

SD44
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。砂質土斑状に混じる。炭化物含む。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。炭化物含む。

0　（断面　1：40）　2m



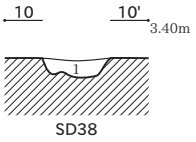
SD37



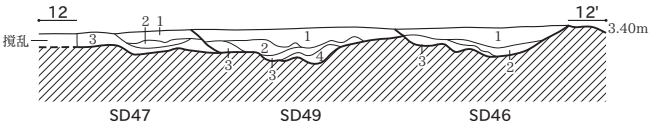
SD46　SD37

SD37
1　褐灰色砂質シルト（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまりややあり。
　Ⅲ・Va層の混合層。
2　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり、しまりあり。
　水酸化鉄斑状に分布。未分解有機物少量含む。

SD46
1　にぶい橙色砂質シルト（7.5YR6/4）粘性弱い、しまりややあり。
　Ⅲ・Ⅳ層・Va層の混合層。

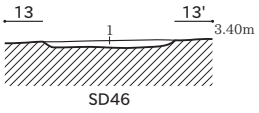


SD38

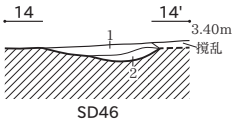


SD47　SD49　SD46

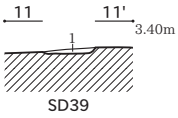
SD38
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）粘性ややあり、
　しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。



SD46



SD46



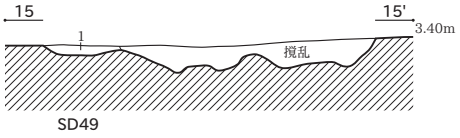
SD39

SD46
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
2　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層少量混じる。
3　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック混じる。

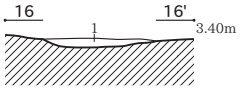
SD47
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/2）粘性ややあり、しまりややあり。
2　褐灰色粘質シルト（5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層少量混じる。炭化物含む。

SD49
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm多量含む。
2　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層少量混じる。
3　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック混じる。
4　灰色粘質シルト（N4/）　粘性あり、しまりややあり。Va層少量混じる。炭化物含む。

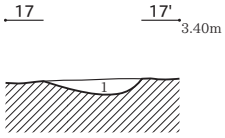
SD39
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）粘性ややあり、
　しまりあり。Va層ブロック状で混じる。



SD49



SD62

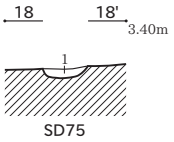


SD63

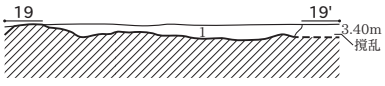
SD49
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性ややあり、しまりあり。
　Va層ブロック状で混じる。

SD62
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、
　しまりややあり。炭化物少量含む。Va層ブロック状で混じる。

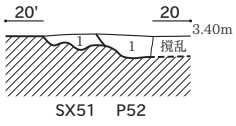
SD63
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性あり、
　しまりややあり。炭化物少量含む。



SD75



SD46　SX51

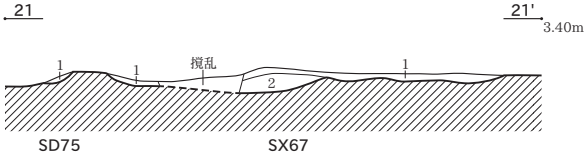


SX51　P52

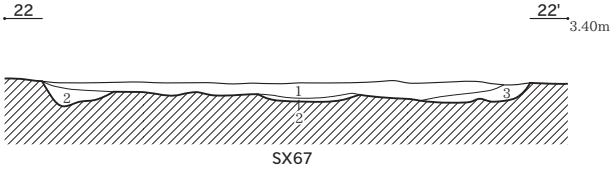
SD75
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）粘性ややあり、しまりあり。
　炭化物少量含む。

SX51
1　褐灰色粘質シルト（5YR4/1）粘性ややあり、しまりあり。

P52
1　褐灰色粘質シルト（5YR4/1）粘性ややあり、しまりあり。Va層ブロック状で混じる。



SD75　SX67



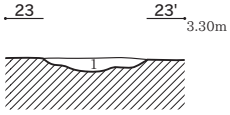
SX67

SX67
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性ややあり、しまりあり。
2　にぶい黄褐色粘質シルト（10YR5/3）粘性ややあり、しまりあり。
3　にぶい黄褐色粘質シルト（10YR5/3）粘性ややあり、しまりあり。炭化物含む。

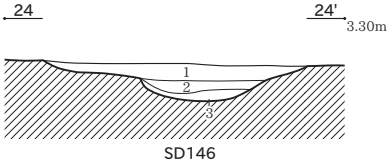
SD75
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）　粘性ややあり、しまりあり。炭化物少量含む。

0　（断面　1：40）　2m

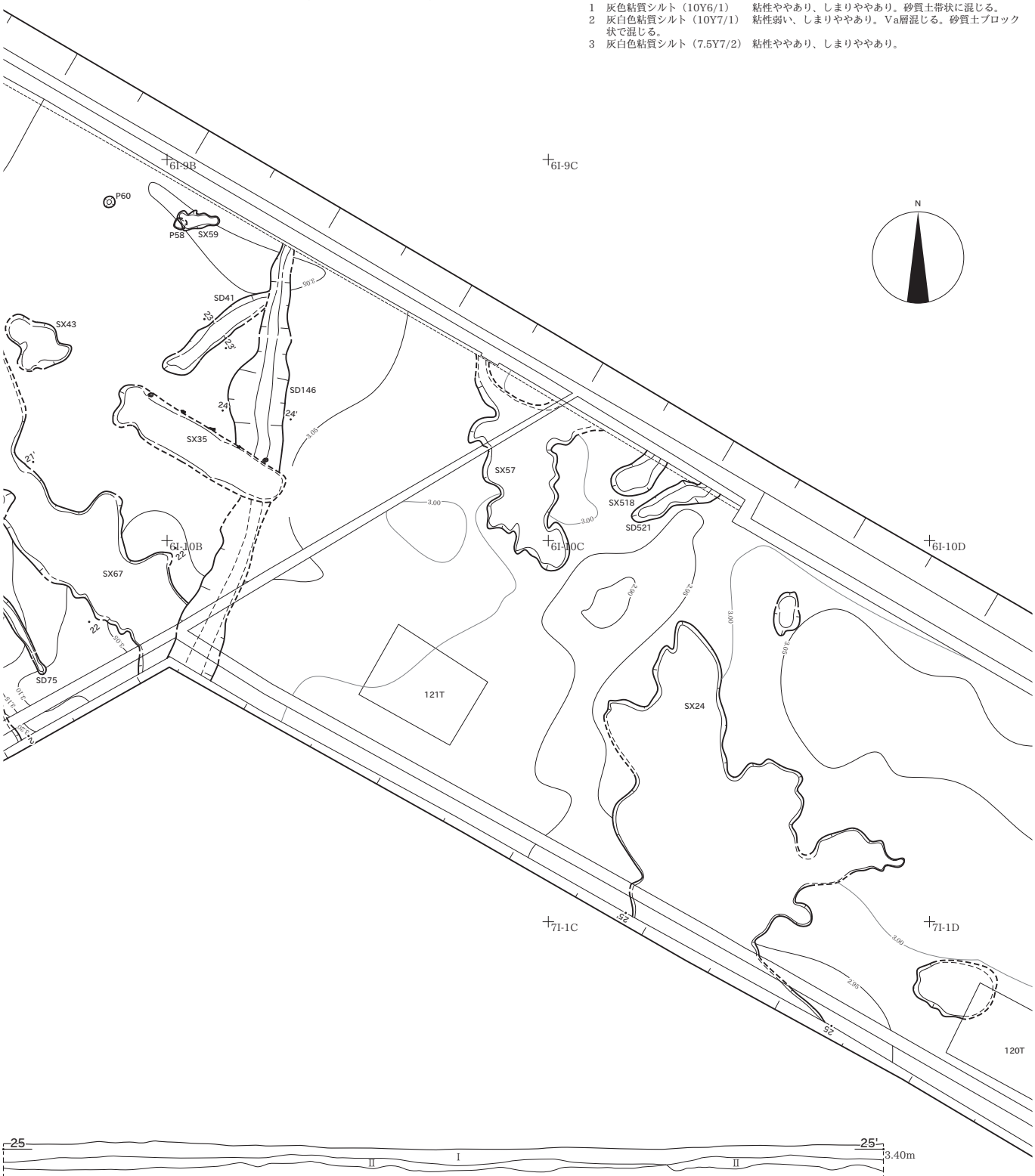
7 区上層平面分割図（2）SD41・146、SX24

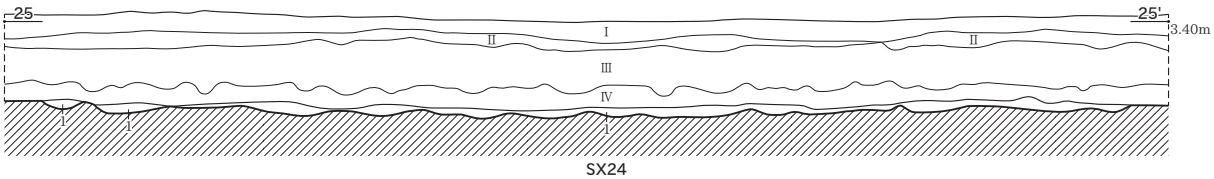


SD41
1　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状で混じる。



SD146
1　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。砂質土帯状に混じる。
2　灰白色粘質シルト（10Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層混じる。砂質土ブロック状で混じる。
3　灰白色粘質シルト（7.5Y7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

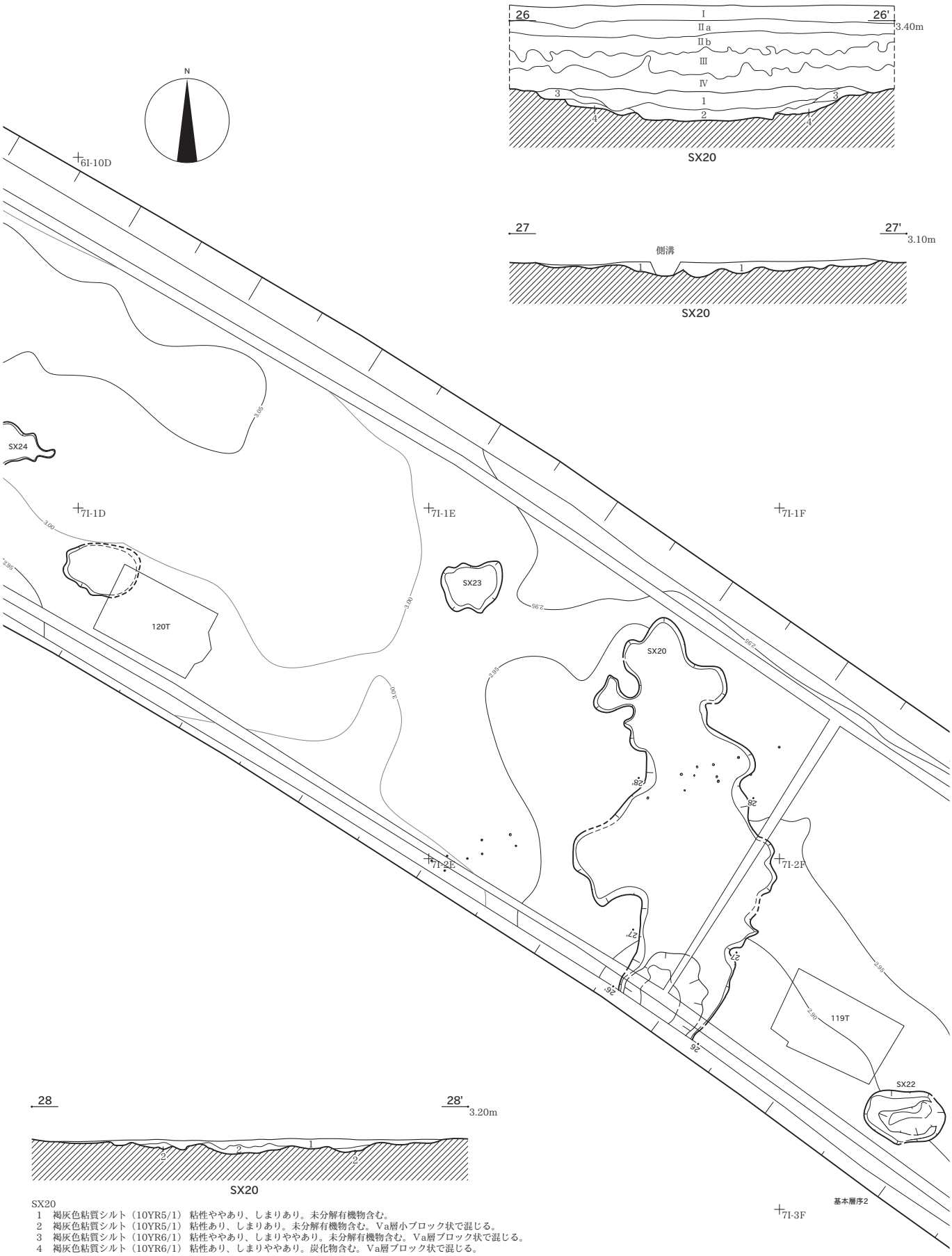




SX24
1　灰色粘質シルト（5Y5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物多量含む。水酸化鉄斑状に分布。

0　（平面図　1：150）　5m

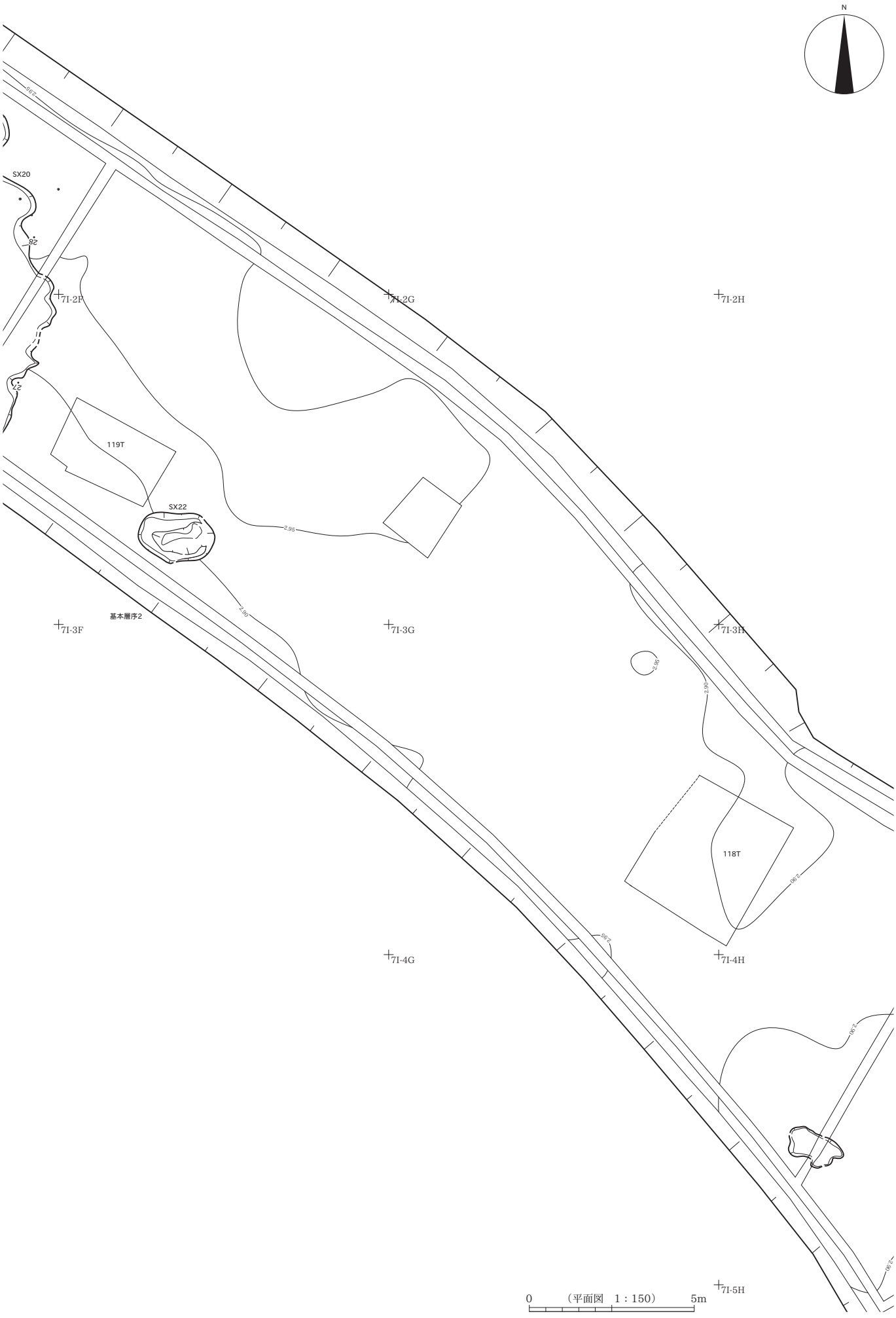
0　（断面図　1：40）　2m



SX20
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性ややあり、しまりあり。未分解有機物含む。
2　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性あり、しまりあり。未分解有機物含む。Va層小ブロック状で混じる。
3　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。Va層ブロック状で混じる。
4　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。Va層ブロック状で混じる。

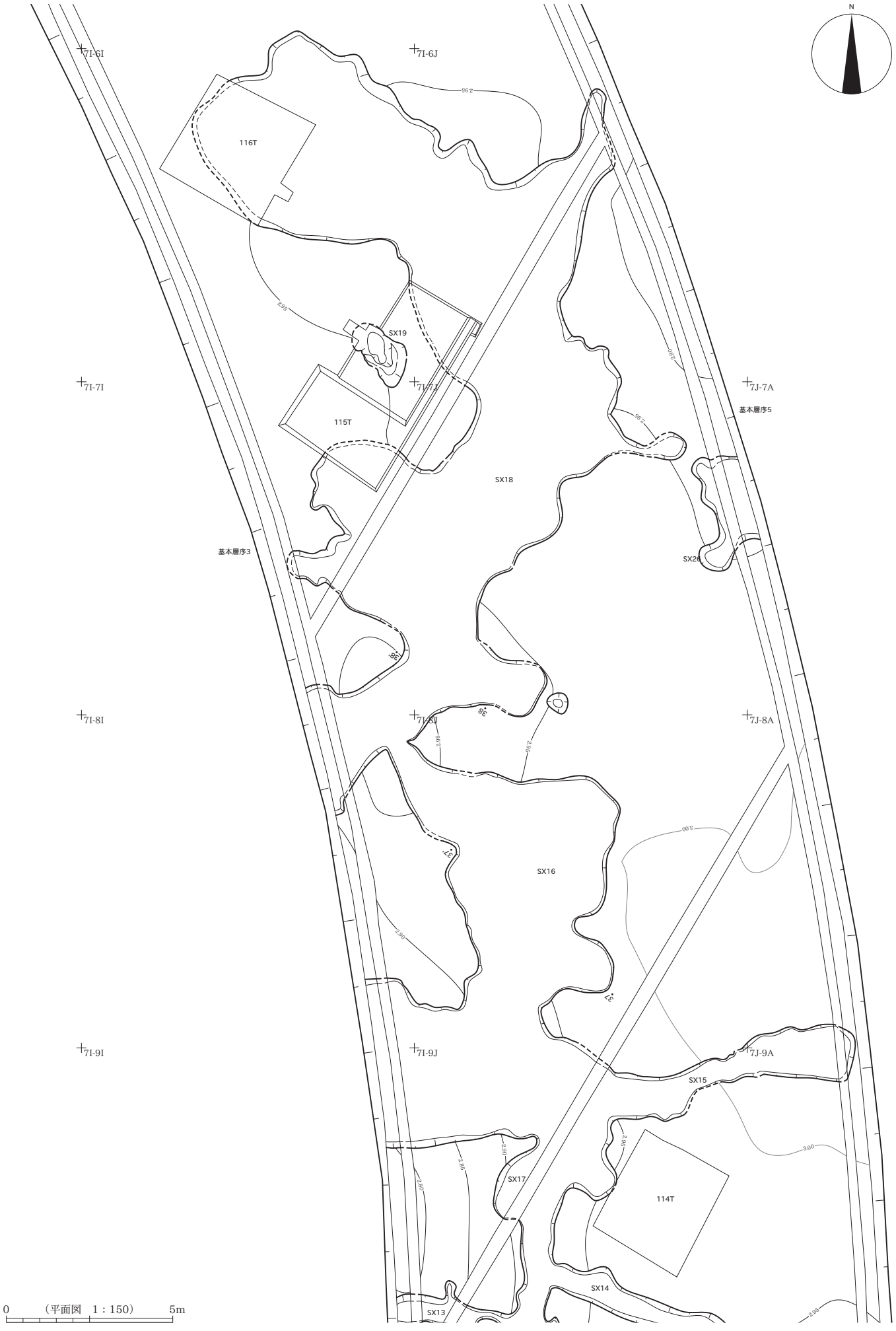
0　（平面図　1：150）　5m
0　（断面図　1：40）　2m

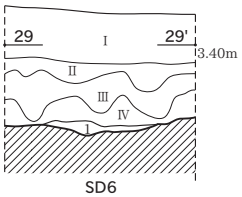
7 区上層平面分割図（4）


N
SX20
SX22
119T
118T
基本層序2
7I-2F
7I-2G
7I-2H
7I-3F
7I-3G
7I-3H
7I-4G
7I-4H
7I-5H
2.95
2.90
2.85
2.80
0
（平面図 1：150）
5m

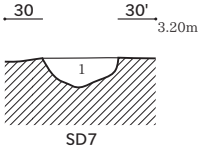
N
7I-3H
7I-3I
118T
2.40
7I-4H
7I-4I
7I-4J
2.45
2.40
2.40
117T
7I-5H
7I-5I
7I-5J
2.40
2.40
2.95
7I-6I
7I-6J
116T
2.96
SX18
2.90
2.90
0
（平面図　1：150）
5m

7 区上層平面分割図（6）


N
7I-6I
7I-6J
116T
SX19
7I-7I
7I-7J
7J-7A
基本層序5
115T
SX18
基本層序3
SX26
7I-8I
7I-8J
7J-8A
SX16
7I-9I
7I-9J
7J-9A
SX15
SX17
114T
SX14
SX13
0
（平面図 1：150）
5m



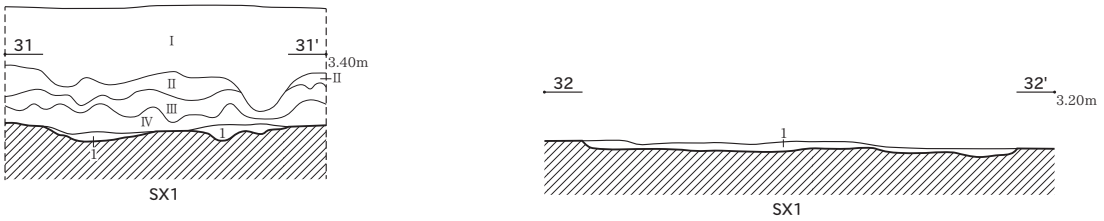
SD6
1　暗灰色砂質シルト（N3/）　粘性あり、しまりあり。Ⅳ層斑状に混じる。未分解有機物含む。水酸化鉄が分布。



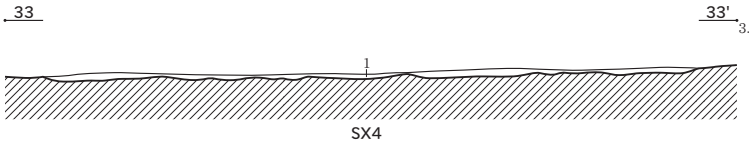
SD7
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物多量含む。水酸化鉄が斑状に分布。

0　（平面図　1：150）　5m

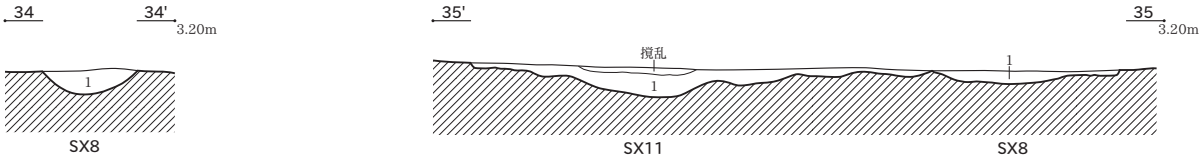
0　（断面図　1：40）　2m



SX1
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性あり、しまりあり。未分解有機物含む。炭化物少量含む。



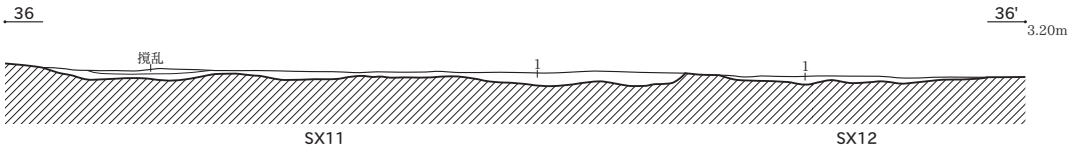
SX4
1　褐灰色砂質シルト（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまりややあり。
未分解有機物含む。



SX8
1　褐灰色砂質土（10YR6/1）　粘性弱い、
しまり弱い。Ⅲ・Ⅳ層小ブロック状で混
じる。

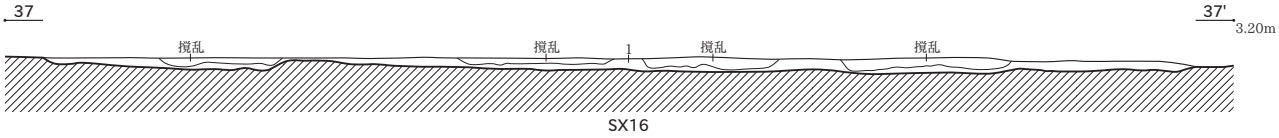
SX8
1　灰白色砂質土（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。未分解有機物少量含む。Ⅲ・Ⅳ層小ブロック状で混じる。

SX11
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。Va層ブロック状で混じる。水酸化鉄斑状に分布。

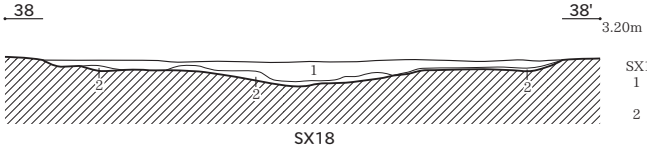


SX11
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。

SX12
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。

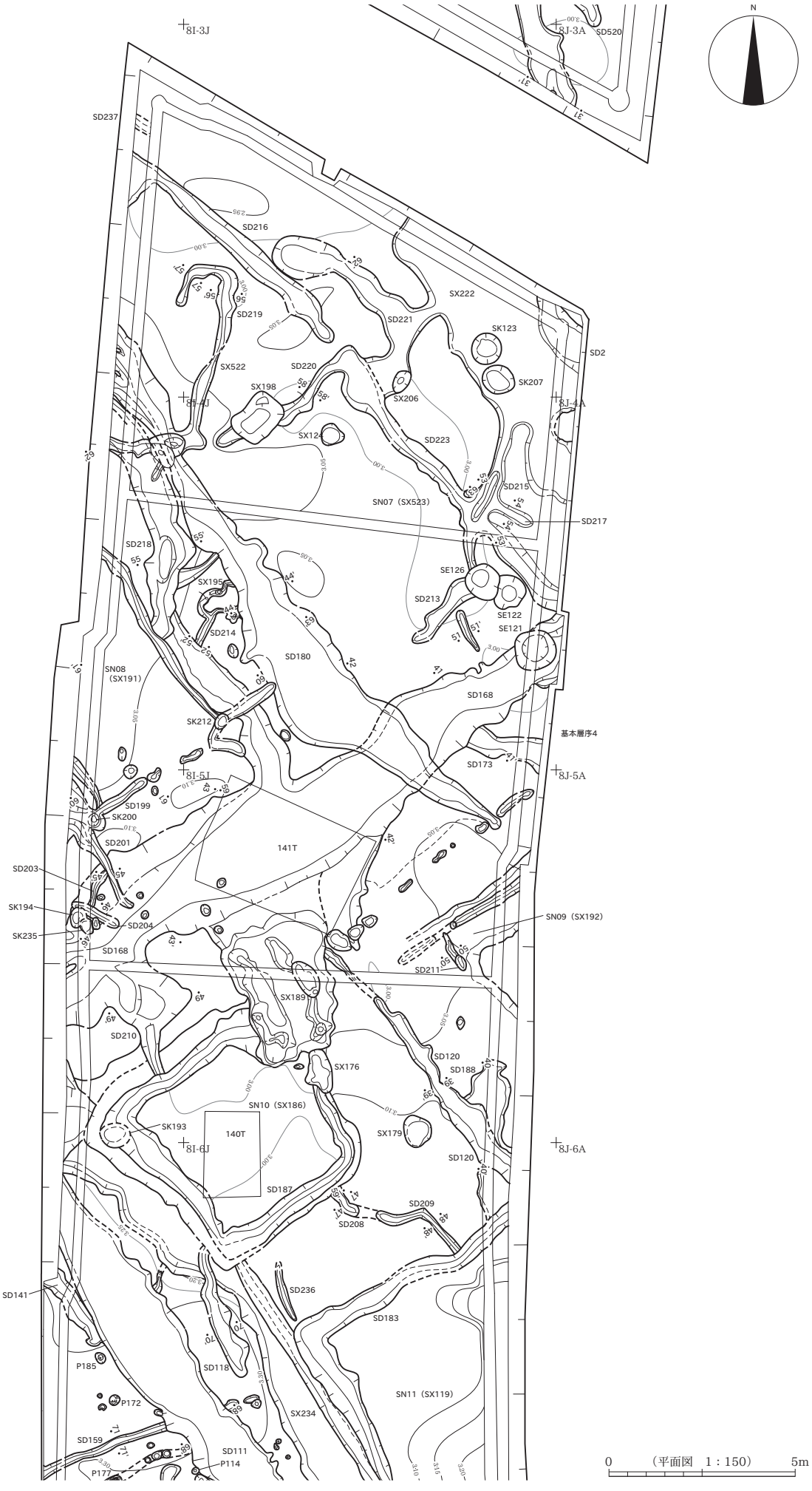


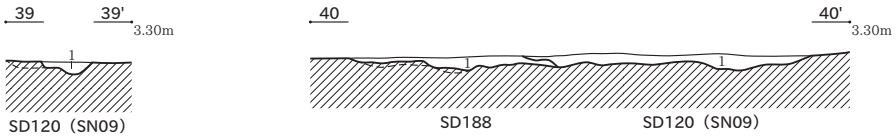
SX16
1　灰白色粘質シルト（7.5YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物少量含む。Va層小ブロック状で混じる。



SX18
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。
未分解有機物含む。炭化物少量含む。
2　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性ややあり、しまりややあり。

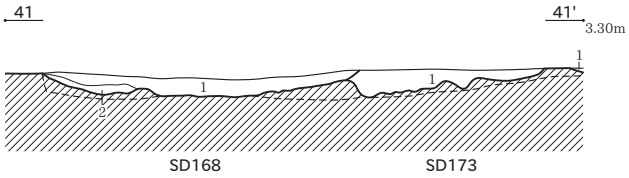
0　（断面　1：40）　2m

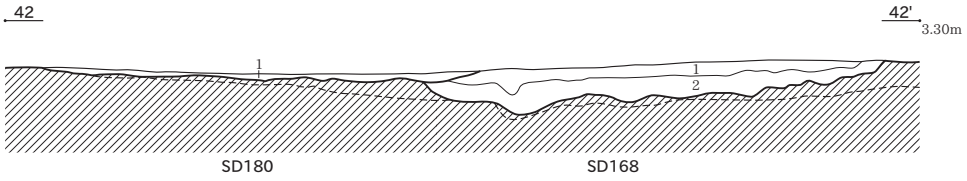

8I-3I
8I-3J
8J-3A
SD520
N
SD237
SD216
SD219
SD221
SX222
SK123
SD2
SX522
SD220
SX198
SK207
SX206
8I-4I
8I-4J
8J-4A
SX124
SD223
SD215
SN07 (SX523)
SD217
SD218
SX195
SE126
SD213
SE122
SE121
SD214
SD180
SN08 (SX191)
SD168
SK212
基本層序4
8I-5I
8I-5J
8J-5A
SD199
SK200
SD201
141T
SD203
SK194
SK235
SD204
SD168
SN09 (SX192)
SD211
SX189
SD210
SD120
SD188
SX176
SN10 (SX186)
SK193
140T
SX179
8I-6I
8I-6J
8J-6A
SD120
SD187
SD209
SD208
SD141
SD236
SD183
P185
SD118
SN11 (SX119)
P172
SX234
SD159
SD111
P114
P177
0　(平面図　1 : 150)　5m

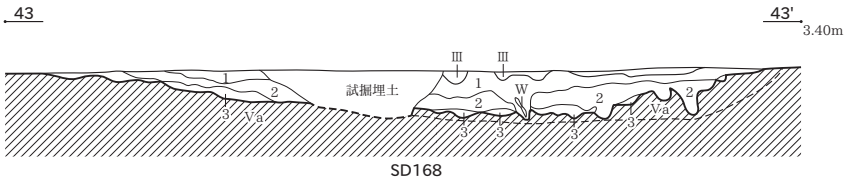


SD120
1　灰色粘質シルト（N5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。Ⅳ層少量混じる。

SD188
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。Ⅳ層少量混じる。



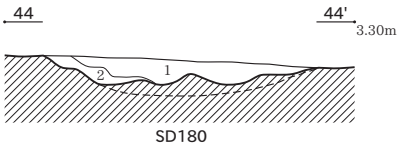


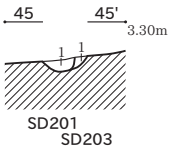


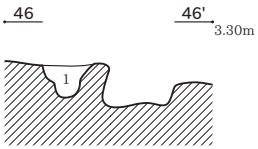
SD168
1　にぶい黄褐色粘質シルト（10YR4/3）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～5mm含む。砂質土混じる。Va層少量混じる。未分解有機物含む。
2　にぶい黄褐色粘質シルト（10YR4/3）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層多量混じる。炭化物含む。
3　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。

SD173
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性あり、しまりややあり。Ⅳ・Va層混じる。炭化物少量含む。

SD180
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。







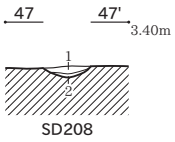
SD180
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物少量含む。

SD201
1　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

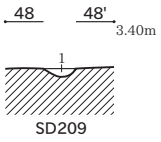
SD203
1　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

SD204
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR6/3）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層・Va層の混合層。

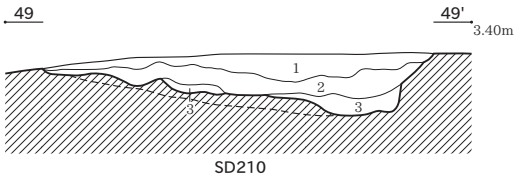
0　（断面　1：40）　2m



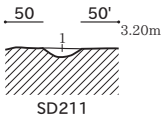
SD208
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。
2　灰白色砂質シルト（10YR7/1） 粘性弱い、しまりややあり。



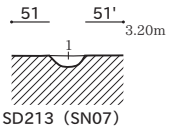
SD209
1　褐灰色砂質シルト（10YR6/1） 粘性弱い、しまりややあり。



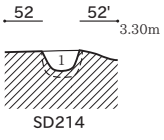
SD210
1　灰白色粘質シルト（2.5Y7/1） 粘性あり、しまりややあり。Ⅳ層斑状に混じる。
2　灰黄色粘質シルト（2.5Y6/2） 粘性あり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
3　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄パイプ状に分布。



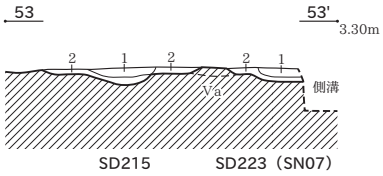
SD211
1　灰黄色砂質シルト（2.5Y7/2） 粘性弱い、しまりややあり。Ⅳ層斑状に混じる。



SD213
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2） 粘性ややあり、しまりややあり。

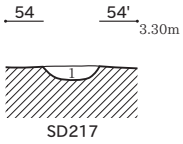


SD214
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2） 粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物少量含む。

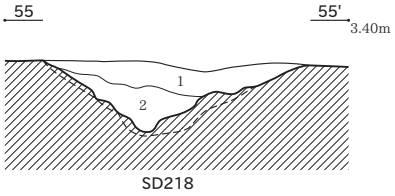


SD215
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物多量含む。水酸化鉄斑状に分布。
2　灰白色粘質シルト（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。シルト混じる。未分解有機物混じる。

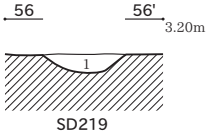
SD223
1　青灰色粘質シルト（10B6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。未分解有機物多量含む。
2　青灰色粘質シルト（10B5/1）　粘性あり、しまりややあり。

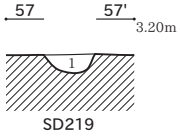


SD217
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1） 粘性あり、しまりややあり。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。

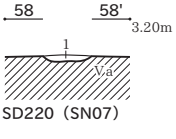


SD218
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/3） 粘性あり、しまりあり。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。
2　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2） 粘性あり、しまりあり。未分解有機物少量含む。

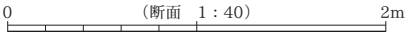




SD219
1　灰黄色粘質シルト（2.5Y7/2） 粘性あり、しまりややあり。

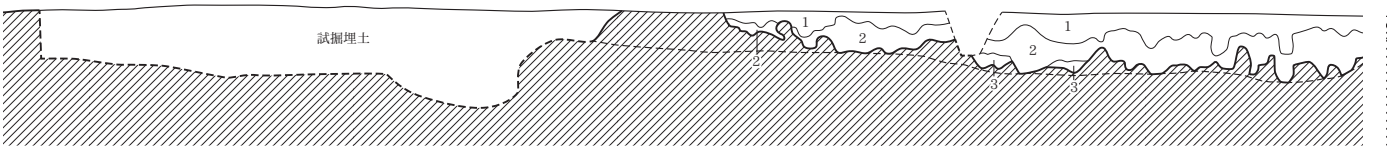


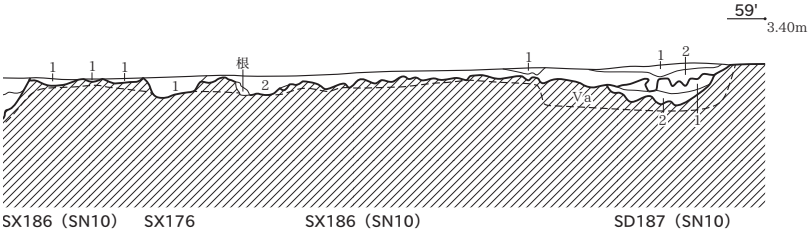
SD220
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/4） 粘性あり、しまりややあり。未分解有機物含む。



7 区上層遺構個別図 SX（2）SX176・186（SN10）・189・191（SN08）・522・523（SN07）、SD（5）SD180・187（SN10）・216・219・221・223（SN07）

59





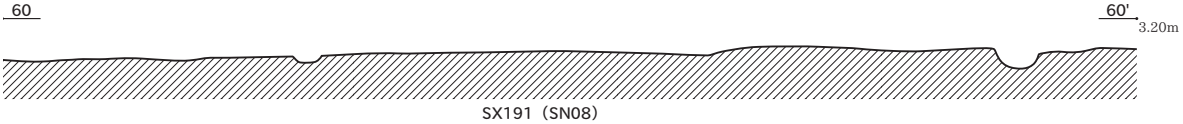
SX176
1　灰色粘質シルト（5Y5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ・Va層の混合層。

SX186
1　灰褐色粘質シルト（5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　褐灰色粘質シルト（5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。

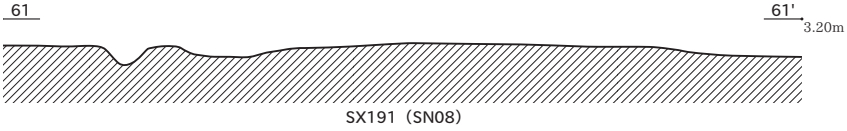
SD187
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/4）　粘性ややあり、しまりややあり。V層混じる。
2　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/3）　粘性弱い、しまりややあり。

SX189
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR6/3）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。未分解有機物多量含む。Va層斑状に混じる。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ・Va層の混合層。
3　褐灰色砂質土（10YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。1・2層ブロック状で混じる。

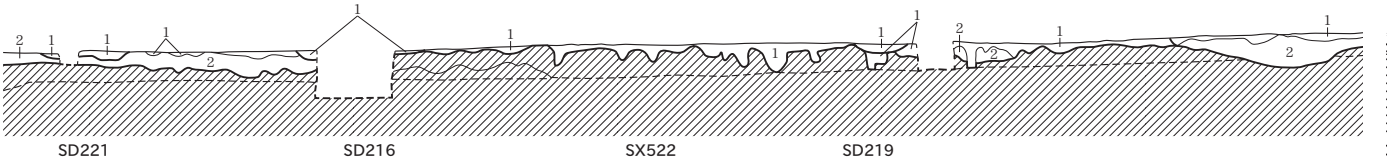
60

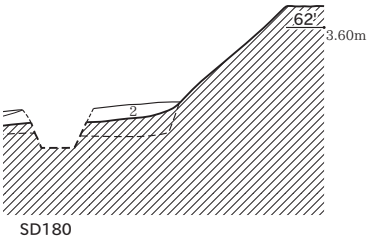


61



62





SD180
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物少量含む。

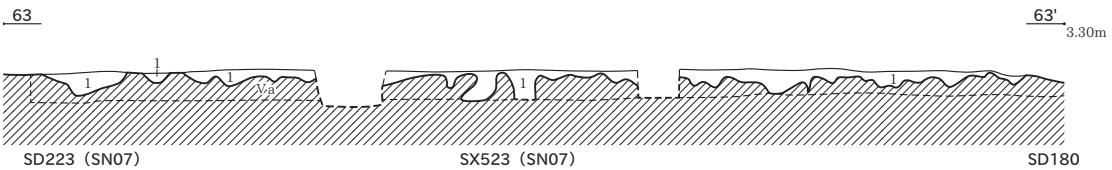
SD216
1　褐灰色砂質シルト（10YR5/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層斑状に混じる。

SD219
1　灰黄色粘質シルト（2.5Y7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。

SD221
1　褐灰色砂質シルト（10YR5/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層小ブロック状で混じる。水酸化鉄斑状に分布。

SX522
1　灰褐色粘質シルト（5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

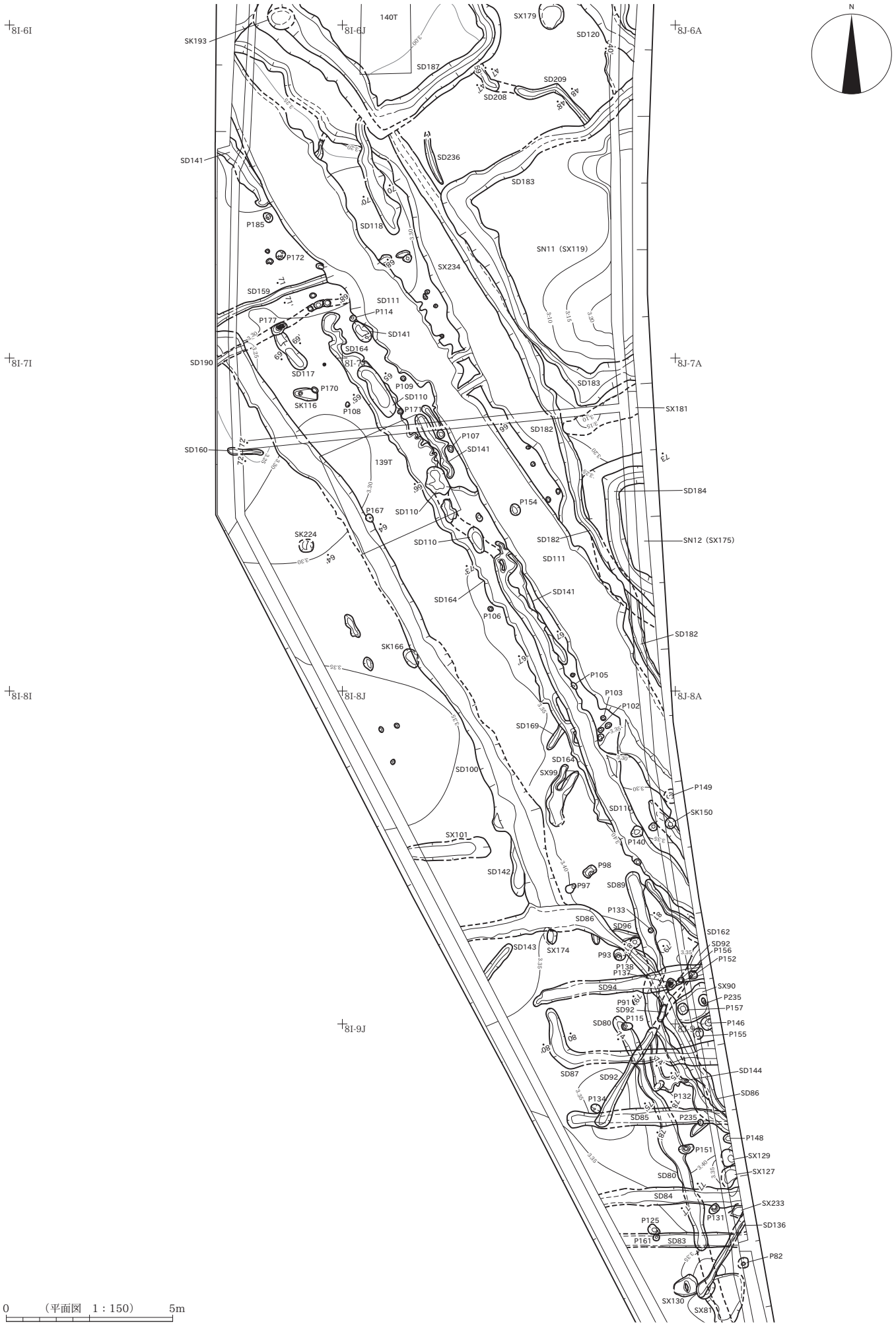
63

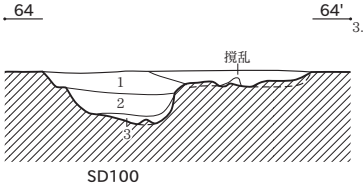


SD223
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物混じる。Ⅳ層小ブロック状で混じる。

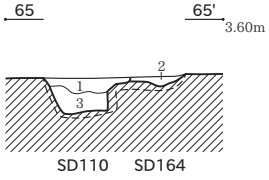
SX523
1　灰褐色粘質シルト（5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

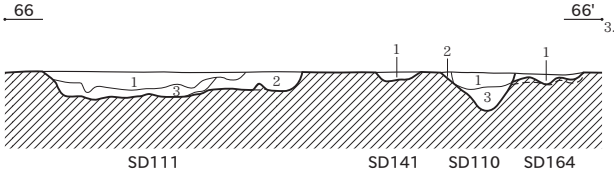
0　（断面　1：40）　2m

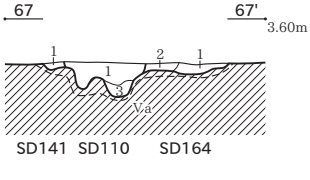

8I-6I
8I-6J
8J-6A
8I-7I
8I-7J
8J-7A
8I-8I
8I-8J
8J-8A
8I-9J
N
SK193
140T
SX179
SD120
SD187
SD208
SD209
SD141
SD236
SD183
SD118
P185
P172
SN11 (SX119)
SX234
SD159
SD111
P114
P177
SD141
SD164
SD190
SD117
P170
SK116
P108
P109
SD110
P171
SD183
SX181
SD182
P107
SD160
SD141
139T
SD184
P154
P167
SD110
SK224
SD182
SN12 (SX175)
SD111
SD164
SD141
P106
SD182
SK166
P105
P103
P102
SD169
SD164
SD100
SX99
P149
SD110
SK150
SX101
P140
P98
SD142
P97
SD89
P133
SD86
SD96
SD162
SD143
SX174
P93
SD92
P156
P138
P152
P137
SD94
SX90
P91
P235
SD92
P157
SD80
P115
P146
P155
SD87
SD92
SD144
P134
P132
SD86
SD85
P235
P148
P151
SX129
SD80
SX127
SD84
SX233
P125
P131
SD136
P161
SD83
P82
SX130
SX81
0
（平面図　1：150）
5m

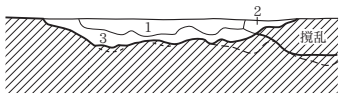


SD100
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。ラミナ状に堆積。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。
3　褐灰色砂質シルト（10YR4/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。







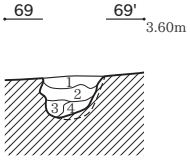


SD110
1　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。
2　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。
3　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

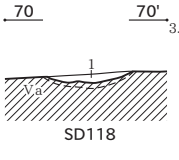
SD111
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ・Va層斑状に混じる。腐植質土。
2　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ・Ⅳ・Va層の混合層。
3　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ・Va層斑状に混じる。

SD164
1　黒褐色粘質シルト（10YR2/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層斑状に混じる。
2　にぶい橙色粘質シルト（7.5YR7/3）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層斑状に混じる。水酸化鉄斑状に分布。

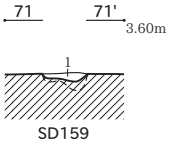
SD141
1　灰白色粘質シルト（5Y7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。



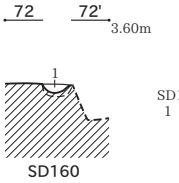
SD117
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状で混じる。
2　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。
3　にぶい橙色砂質シルト（7.5YR7/3）粘性弱い、しまりややあり。Ⅲ層斑状に混じる。
4　にぶい橙色砂質シルト（7.5YR7/3）粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



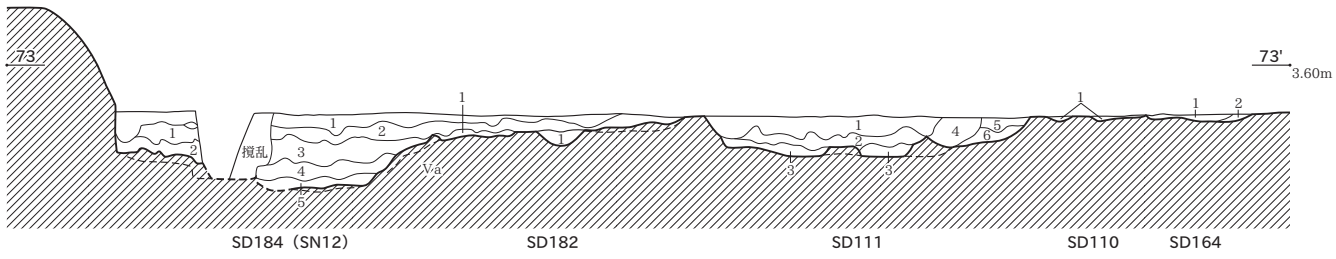
SD118
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/3）粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ層ブロック状で混じる。



SD159
1　にぶい橙色粘質シルト（7.5YR7/4）粘性ややあり、しまりややあり。マンガン粒帯状に含む。炭化物斑状に含む。



SD160
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりややあり。Va層斑状に混じる。



SD110
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）粘性ややあり、しまりややあり。

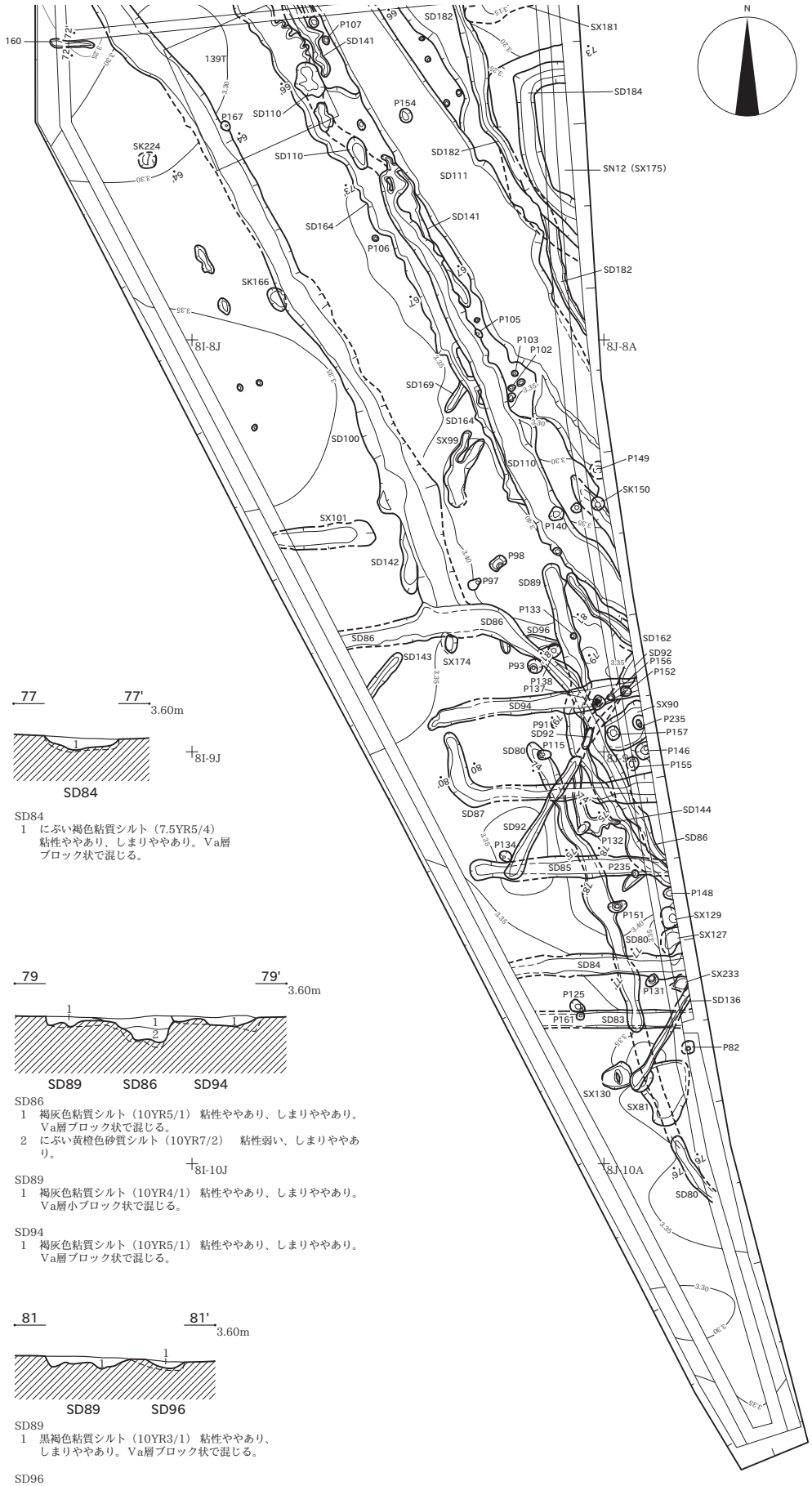
SD111
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。Ⅲ層混じる。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりややあり。1層小ブロック状で混じる。
3　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）粘性弱い、しまりややあり。1層斑状に混じる。
4　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）粘性ややあり、しまりややあり。Va層小ブロック状で混じる。
5　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。
6　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状で混じる。

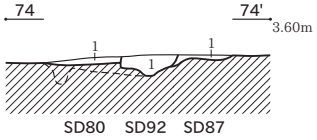
SD164
1　黒褐色粘質シルト（10YR2/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層斑状に混じる。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

SD182
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物少量含む。

SD184
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物混じる。耕作による撹乱。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/2）　粘性あり、しまりややあり。耕作による撹乱。Va層ブロック状で混じる。
3　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。
4　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/3）粘性ややあり、しまりややあり。Va層小ブロック状で混じる。
5　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/3）粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。

0　（断面　1：40）　2m

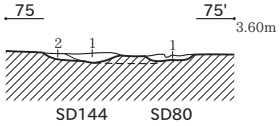




SD80
1　灰褐色粘質シルト（5YR5/2）粘性ややあり、しまりややあり。

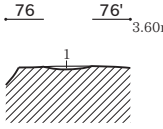
SD87
1　灰褐色粘質シルト（5YR5/2）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

SD92
1　灰褐色粘質シルト（5YR5/2）粘性ややあり、しまりややあり。



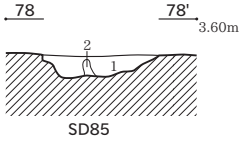
SD80
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層ブロック状で混じる。

SD144
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）粘性ややあり、しまりややあり。
2　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性ややあり、しまりあり。



SD80
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層ブロック状で混じる。

SD84
1　にぶい褐色粘質シルト（7.5YR5/4）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。



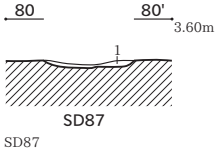
SD85
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。水酸化鉄斑状に分布。
2　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）粘性ややあり、しまりややあり。1層ブロック状で混じる。

SD86
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/2）粘性弱い、しまりややあり。

8I-10J

SD89
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層小ブロック状で混じる。

SD94
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。



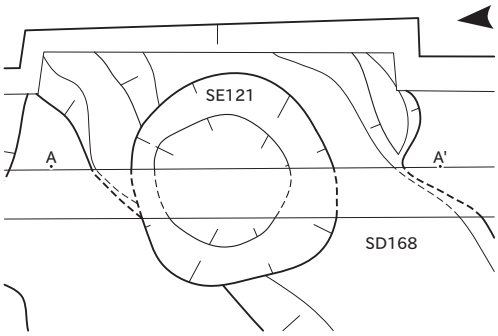
SD87
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR4/2）粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層ブロック状で混じる。

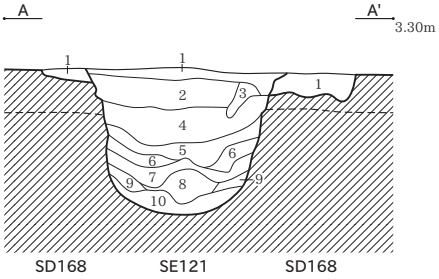
SD89
1　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

SD96
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層がブロック状で混じる。砂質土斑状に混じる。

0　（平面図　1：150）　5m

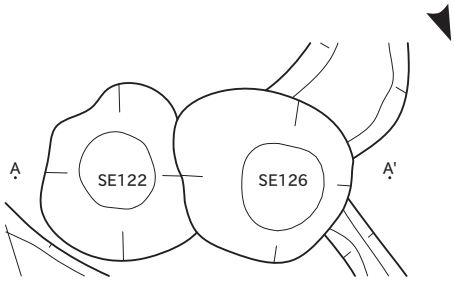
0　（断面図　1：40）　2m

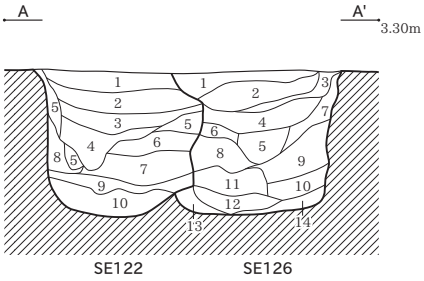




SE121
1　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層斑状に混じる。
2　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR2/2）　粘性弱い、しまりややあり。
3　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　黒色未分解有機物質腐食土（10YR2/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
5　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
6　黒褐色未分解有機物質腐食土、V層混合層（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層大ブロック状で混じる。
7　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。
8　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性あり、しまりあり。
9　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物多量含む。
10　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性あり、しまりあり。

SD168
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR4/3）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～5mm含む。砂質土混じる。Va層少量混じる。未分解有機物含む。

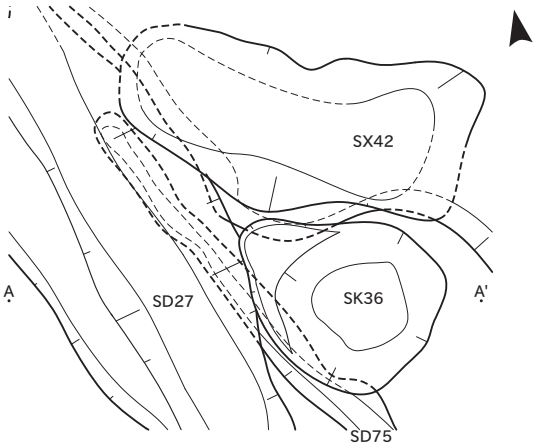


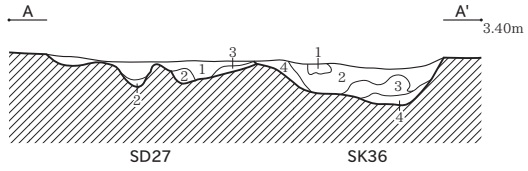


SE122
1　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/2）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。
2　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物質含む。
3　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/1）　粘性弱い、しまりややあり。V層斑状に混じる。
4　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/1）　粘性弱い、しまりややあり。
5　褐灰色粘質シルト未分解有機物質腐食土（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。1～4層・Va層の混合土。
6　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。
7　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層大ブロック状で混じる。
8　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層大ブロック状で混じる。
9　灰色砂質シルト（7.5Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物帯状に含む。未分解有機物含む。
10　灰色砂質土（7.5Y6/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物帯状に含む。

SE126
1　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/2）　粘性弱い、しまりややあり。
2　灰白色砂質土（10YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。1層斑状に混じる。
3　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/1）　粘性弱い、しまりややあり。
5　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/1）　粘性弱い、しまり弱い。
6　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
7　黒褐色未分解有機物質腐食土（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。
8　褐灰色未分解有機物質腐食土、V層混合層（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層大ブロック状で混じる。
9　褐灰色未分解有機物質腐食土、V層混合層（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層大ブロック状で混じる。
10　褐灰色未分解有機物質腐食土、V層混合層（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層大ブロック状で混じる。
11　褐灰色未分解有機物質腐食土（10YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。
12　黒褐色砂質シルト（10YR3/2）　粘性弱い、しまり弱い。未分解有機物・シルト互層。
13　黒褐色砂質土（10YR3/2）　粘性弱い、しまり弱い。ラミナ状に堆積。
14　黒褐色粘質シルト（10YR3/2）　粘性あり、しまりあり。ラミナ状に堆積。

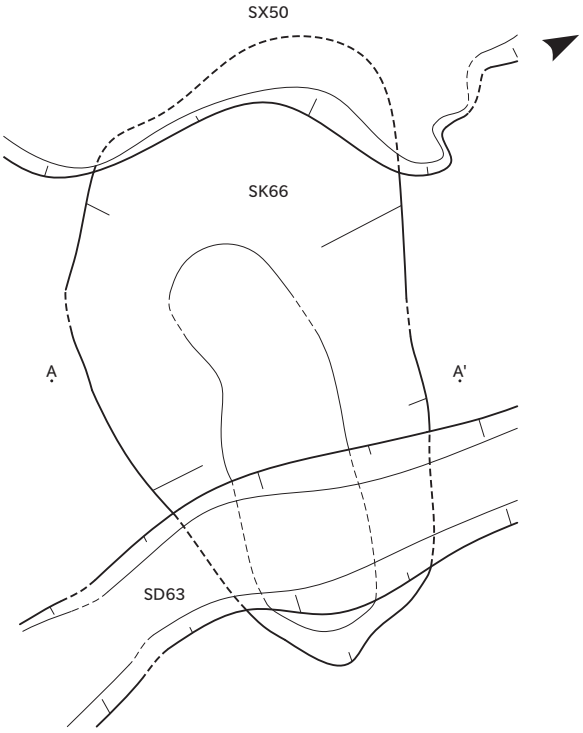
0　（平面図・断面図　1：40）　2m

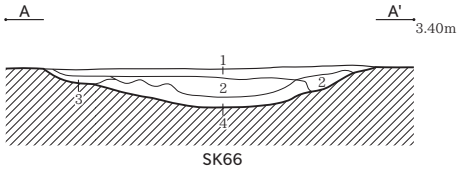




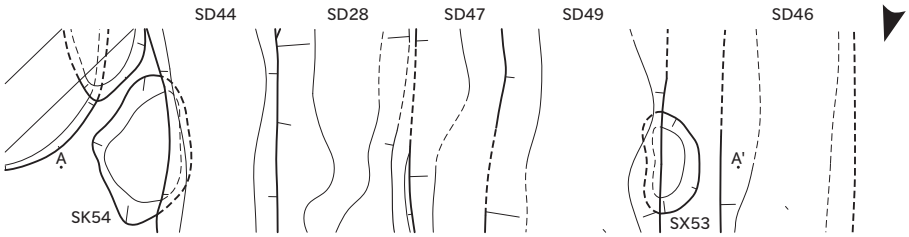
SD27
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状で混じる。
2　灰白色砂質シルト（10YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。
3　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。1層斑状に混じる。

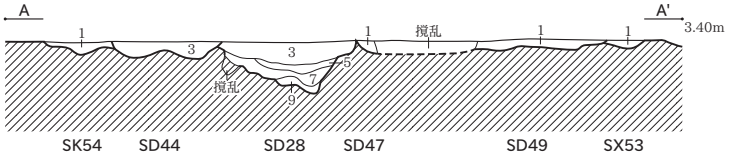
SK36
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層少量混じる。
2　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。
3　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。2層・砂質土の混合層。
4　明褐灰色粘質シルト（7.5Y7/1）粘性ややあり、しまりあり。水酸化鉄斑状に分布。





SK66
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　灰褐色粘質シルト（7.5YR4/2）　粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。
3　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性あり、しまりややあり。1層少量混じる。
4　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）粘性あり、しまりややあり。Va層多量混じる。





SD28
3　灰黄色粘質シルト（2.5Y6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
5　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
7　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y4/2）粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。水酸化鉄斑状に分布。
9　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y4/2）粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。

SD44
3　褐灰色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm少量含む。

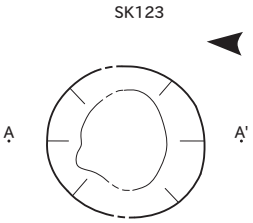
SD47
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

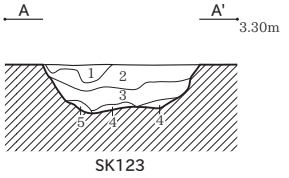
SD49
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm多量含む。

SX53
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）　粘性ややあり、しまりあり。Ⅳ・Va層ブロック状で少量混じる。

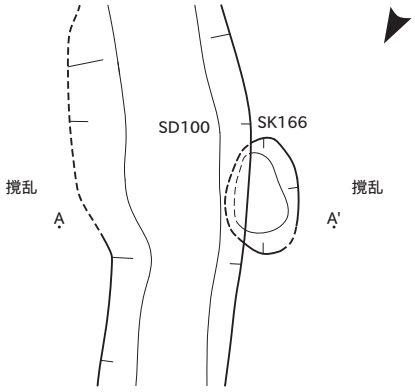
SK54
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）　粘性ややあり、しまりあり。Va層ブロック状で混じる。

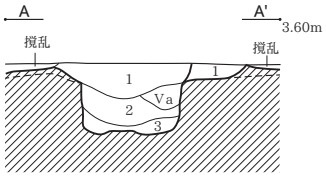
0　（平面図・断面図　1：40）　2m





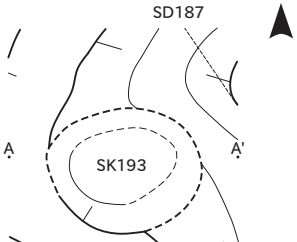
SK123
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。
2　黒色粘質シルト（7.5YR2/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物質含む。Va層少量混じる。
3　黒色粘質シルト（7.5YR2/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物多量含む。
4　黒色粘質シルト（7.5YR2/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層多量混じる。砂質土混じる。
5　灰色粘質シルト（N6/）　粘性ややあり、しまりややあり。砂質土混じる。Va層ブロック堆積。

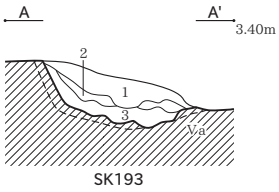




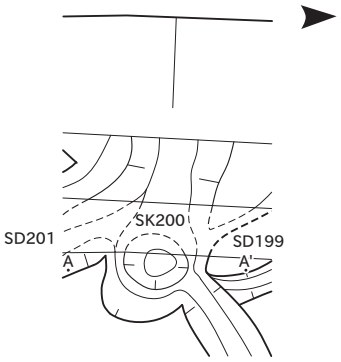
SD100
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。ラミナ状に堆積。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。
3　褐灰色砂質シルト（10YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。

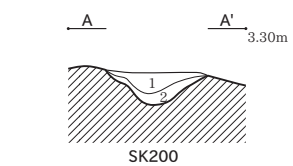
SK166
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層斑状に混じる。腐植質土。



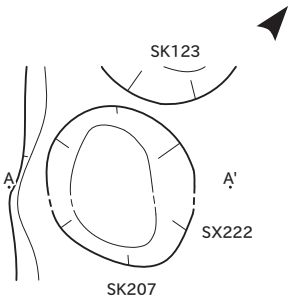


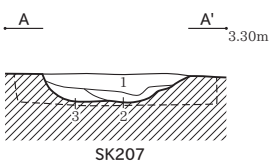
SK193
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/4）　粘性ややあり、しまりややあり。V層混じる。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/3）　粘性弱い、しまりややあり。
3　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/3）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層小ブロック状で混じる。



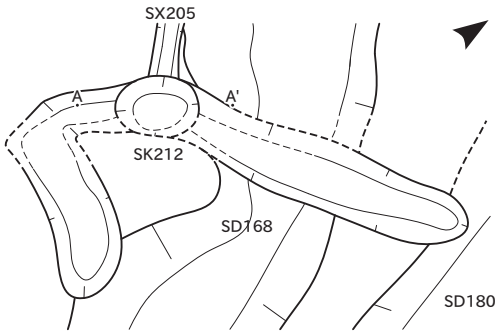


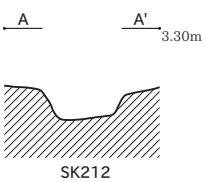
SK200
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/3）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層斑状に混じる。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/3）　粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄パイプ状に分布。



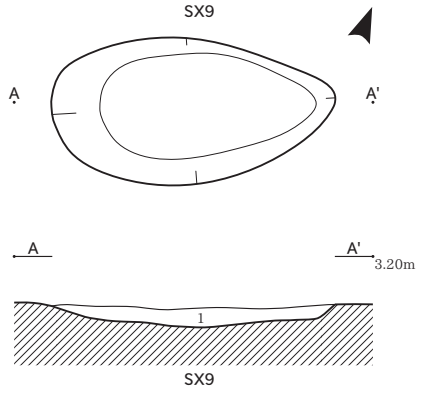


SK207
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物少量含む。砂質土混じる。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物少量含む。
3　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。

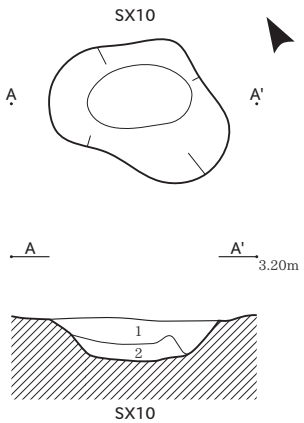




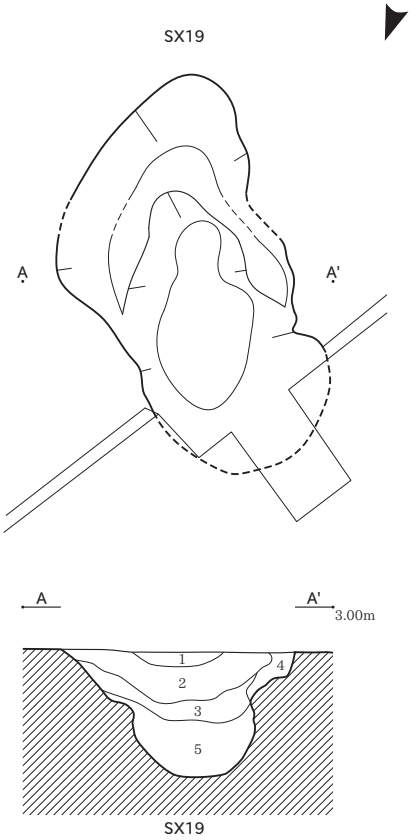
0　（平面図・断面図　1：40）　2m



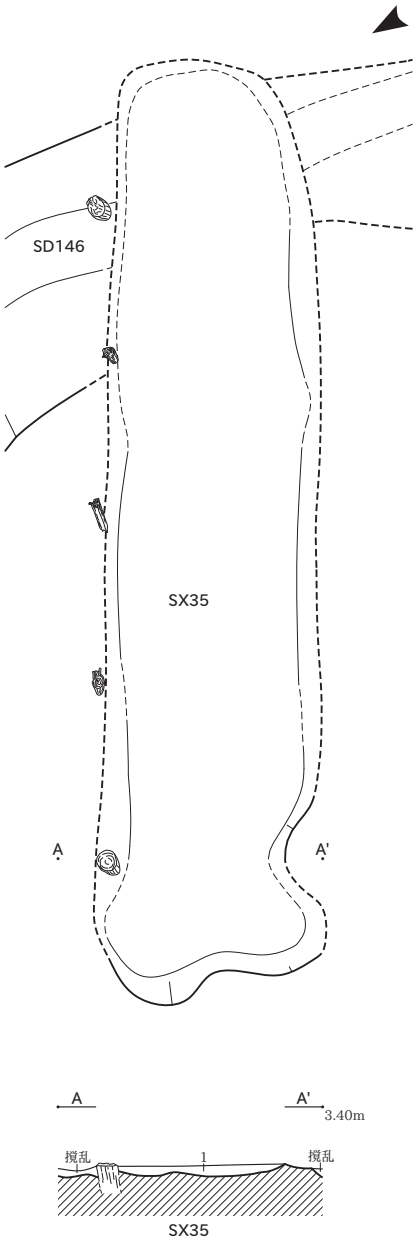
SX9
1　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/1）粘性あり、しまりあり。未分解有機物少量含む。砂質土混じる。



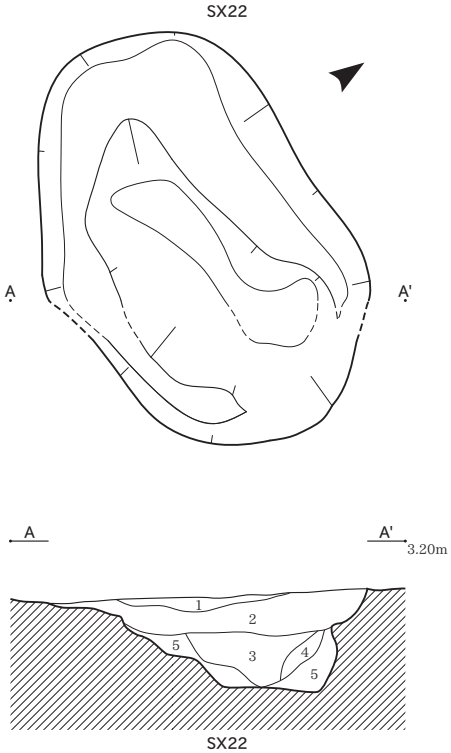
SX10
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）粘性ややあり、しまりややあり。
2　褐灰色砂質土（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまりややあり。



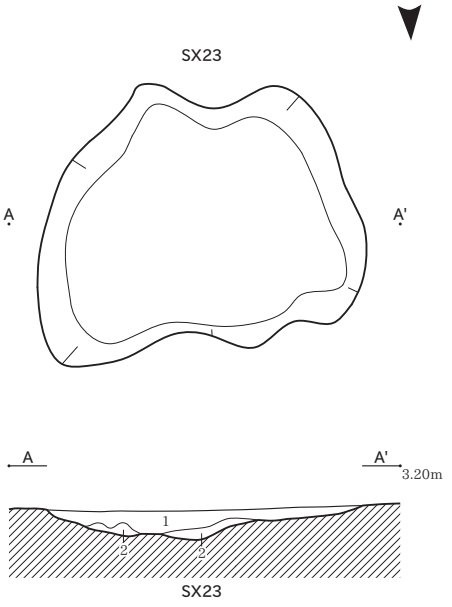
SX19
1　青灰色粘質シルト（10BG5/1）　粘性あり、しまりあり。未分解有機物多量含む。
2　青灰色粘質シルト（10BG5/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物多量含む。
3　暗青灰色粘質シルト（10BG4/1）粘性あり、しまりあり。炭化物多量含む。マンガン粒含む。
4　青灰色粘質シルト（10BG6/1）　粘性あり、しまりあり。
5　暗青灰色粘質シルト（10BG4/1）粘性あり、しまりあり。炭化物含む。



SX35
1　灰白色砂質シルト（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。



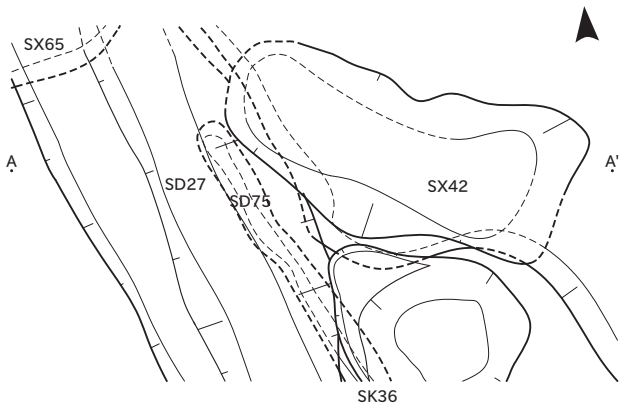
SX22
1　明褐灰色砂質シルト（5YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。2層ブロック状で混じる。
2　褐灰色砂質シルト（5YR6/1）　粘性弱い、しまりややあり。マンガン粒含む。水酸化鉄多量に分布。
3　褐灰色砂質土（5YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。
4　褐灰色砂質シルト（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。
5　褐灰色砂質シルト（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。

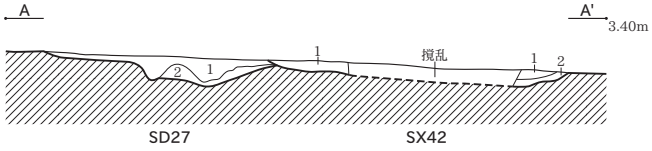


SX23
1　黒褐色粘質シルト（10YR3/2）粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。Va層小ブロック状で混じる。
2　黒褐色粘質シルト（10YR3/2）粘性あり、しまりあり。マンガン粒含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

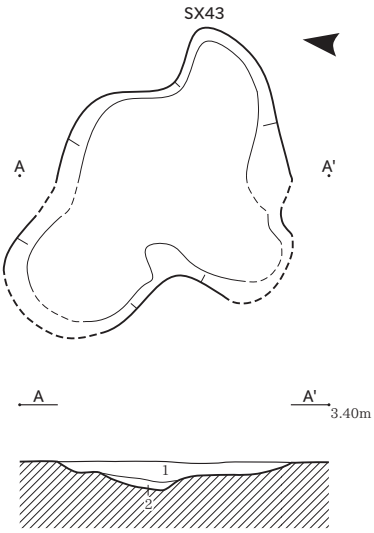
7 区上層遺構個別図 SX（4）SX42・43・45・50、SD27



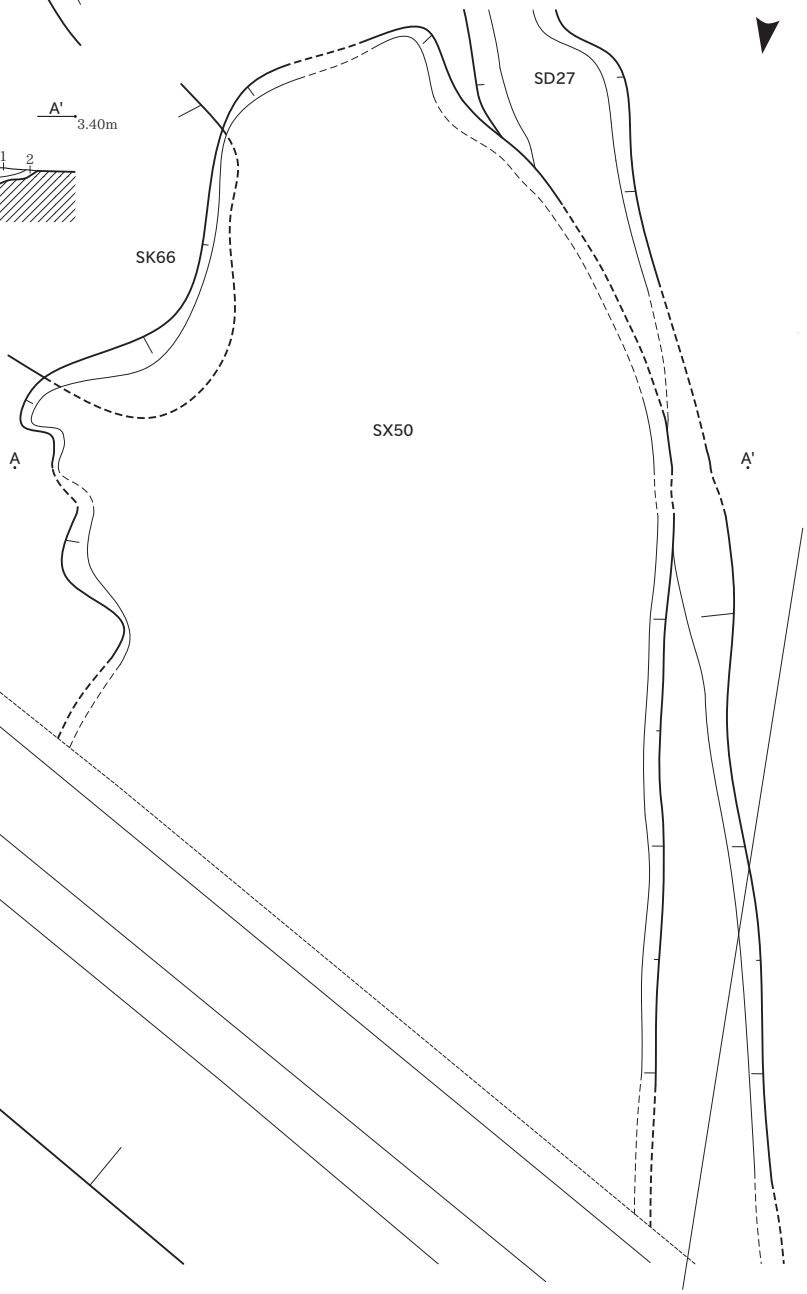


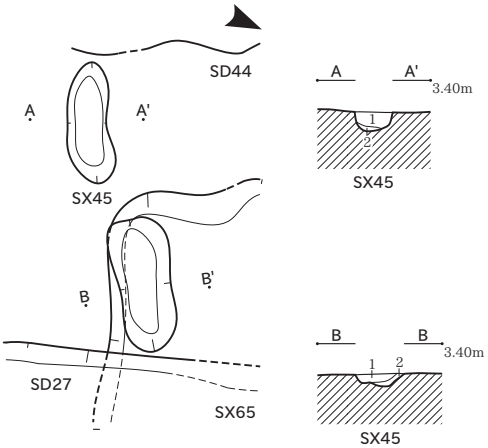
SD27
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状で混じる。
2　灰白色砂質シルト（10YR7/1）粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。

SX42
1　褐灰色粘質シルト（10YR4/1）粘性弱い、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状で混じる。
2　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄少量分布。

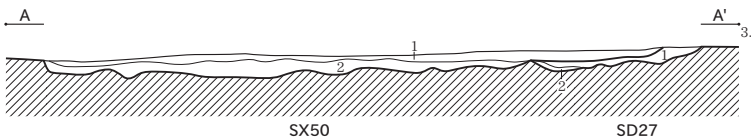


SX43
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　Ⅲ層ブロック状で混じる。未分解有機物少量含む。
2　褐灰色砂質シルト（7.5YR6/2）　粘性弱い、しまりややあり。炭化
　物含む。





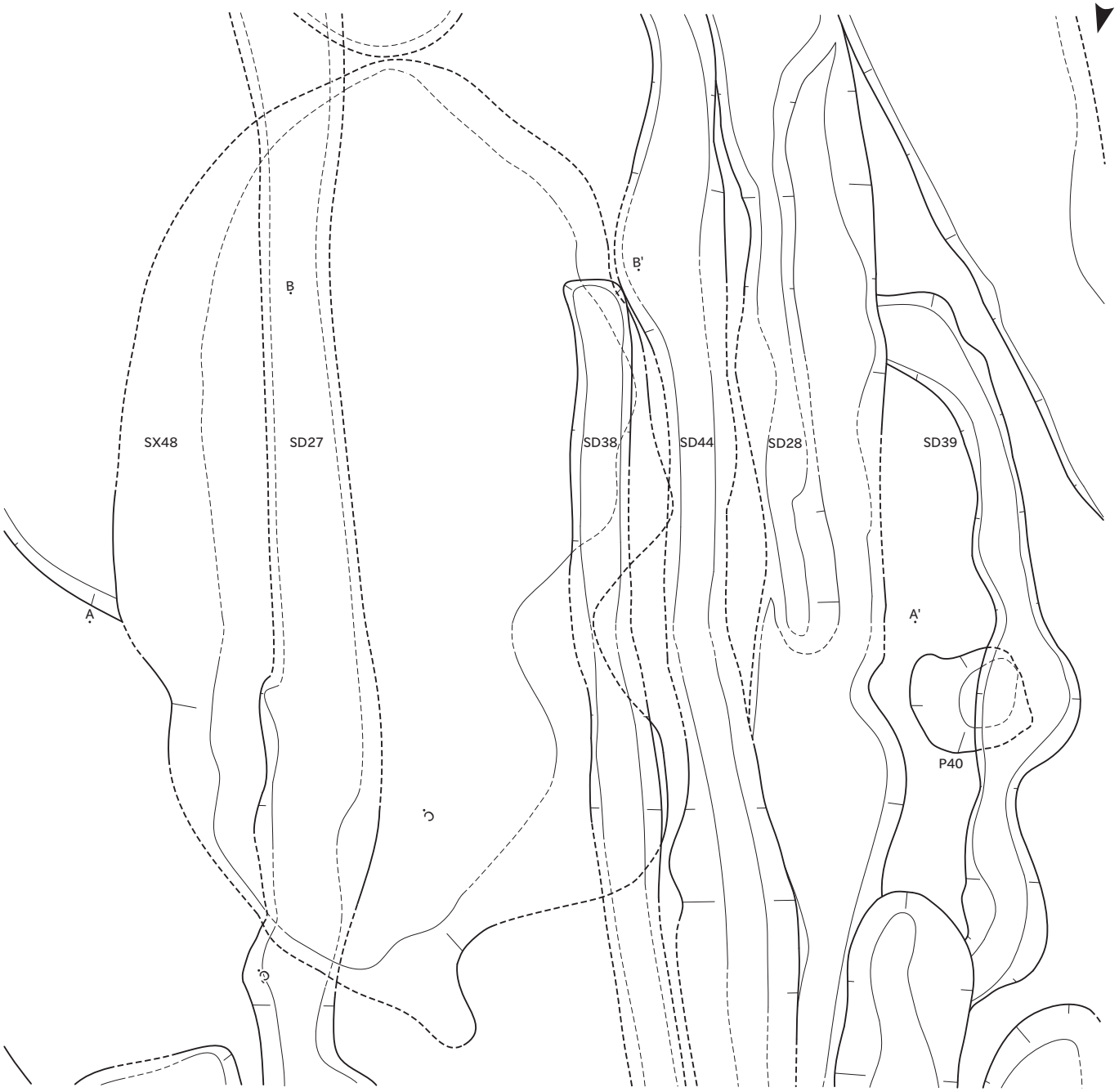
SX45
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性ややあり、しまりややあり。
　Va層ブロック状で混じる。
2　灰白色砂質シルト（10YR7/1）粘性弱い、しまりややあり。

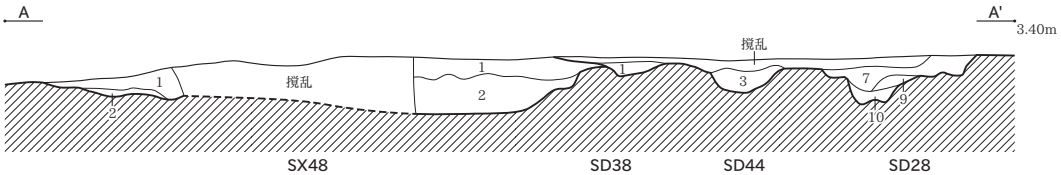


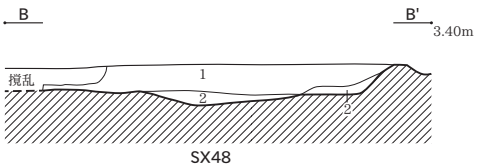
SX50
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりあり。Va層斑状に混じる。
2　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

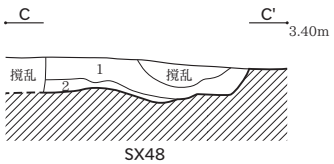
SD27
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりあり。Va層ブロック状で混じる。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m









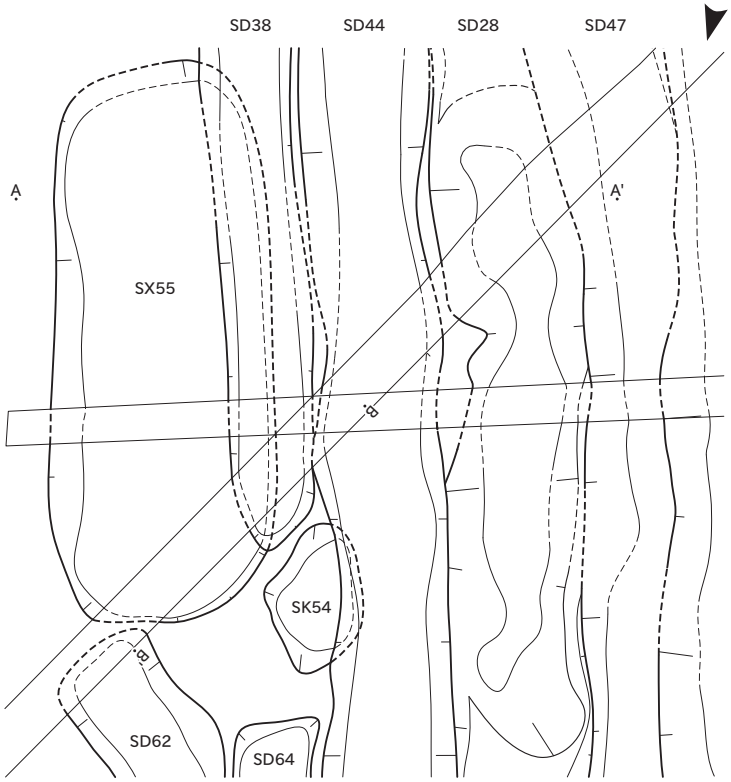
SD28
7　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。水酸化鉄斑状に分布。
9　暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。
10　灰白色砂質シルト（2.5YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。ラミナ状に堆積。

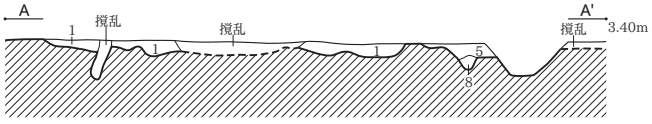
SD38
1　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。

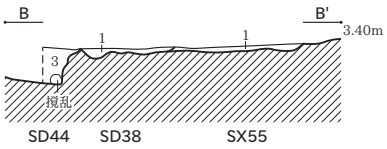
SD44
3　黄灰色砂質シルト（2.5Y4/1）　粘性弱い、しまりややあり。

SX48
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。
2　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/4）　粘性ややあり、しまりあり。1層ブロック状で混じる。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m





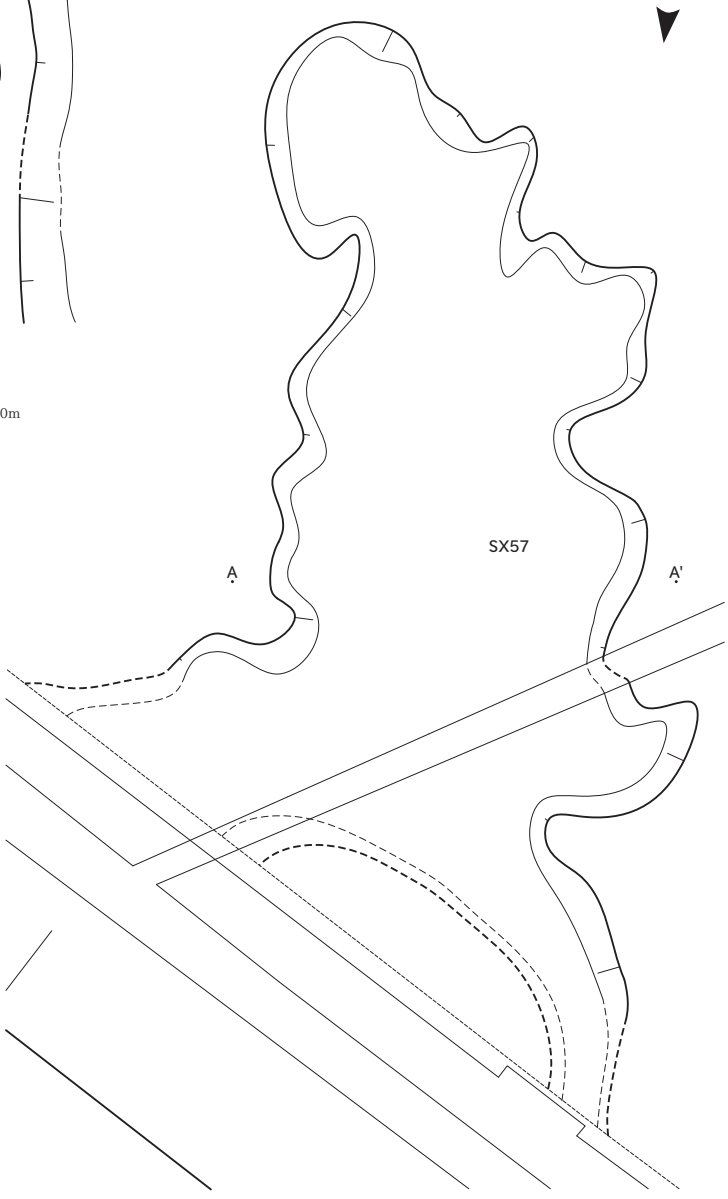


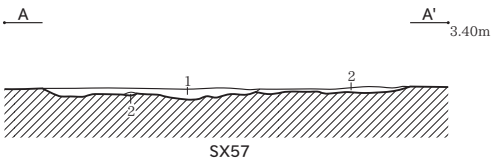
SD28
5　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
8　灰黄色砂質土（2.5Y7/2）　粘性あり、しまりあり。ラミナ状に堆積。未分解有機物少量含む。

SD38
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2）　粘性ややあり、しまりあり。Va層少量混じる。

SD44
1　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。砂質土斑状に混じる。炭化物含む。
3　黒褐色粘質シルト（10YR3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm少量混じる。

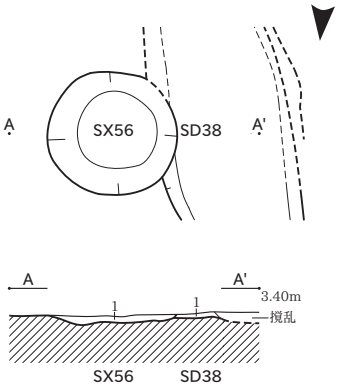
SX55
1　暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）　粘性ややあり、しまりあり。Ⅳ層ブロック少量混じる。





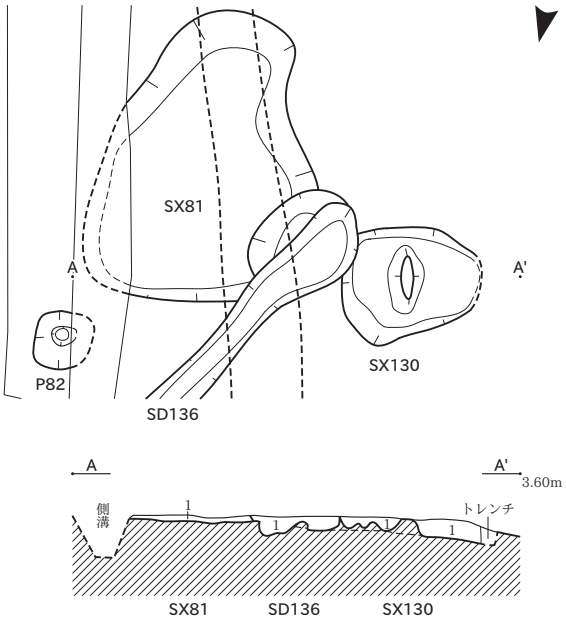
SX57
1　灰褐色粘質シルト（7.5YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
2　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m



SD38
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。

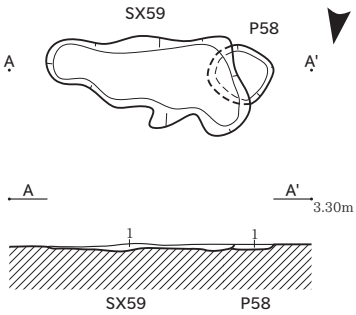
SX56
1　灰黄褐色粘質シルト（10YR5/2）　粘性ややあり、しまりあり。Va層ブロック状で混じる。



SX81
1　灰褐色粘質シルト（5YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

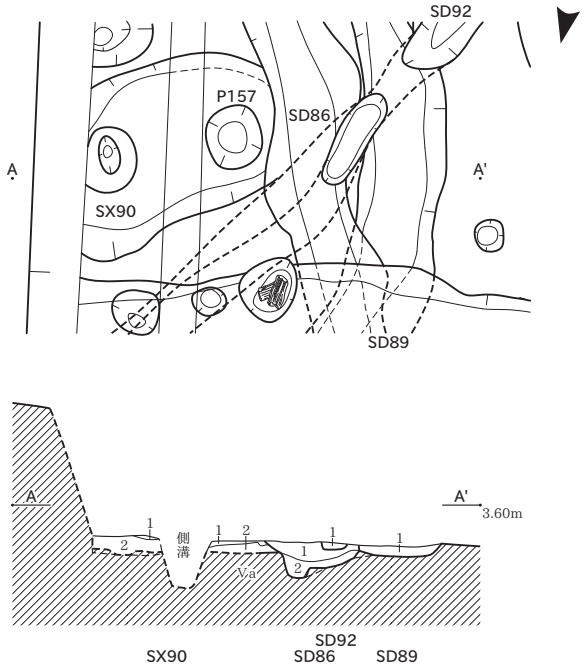
SD136
1　灰褐色粘質シルト（5YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

SX130
1　灰褐色粘質シルト（5YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。



SX59
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR2/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック混じる。

P58
1　黒褐色粘質シルト（7.5YR2/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層少量混じる。

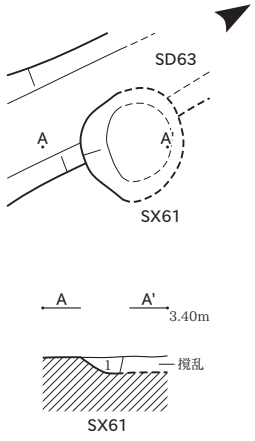


SD86
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性あり、しまりややあり。
2　黒褐色粘質シルト（7.5YR3/2）　粘性ややあり、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

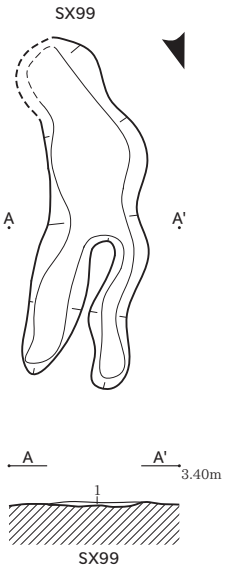
SD89
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR6/3）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅲ・Ⅳ・Va層の混合層。

SX90
1　黒褐色粘質シルト（2.5Y3/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。焼土多量混じる。
2　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。Va層斑状に混じる。

SD92
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。未分解有機物含む。

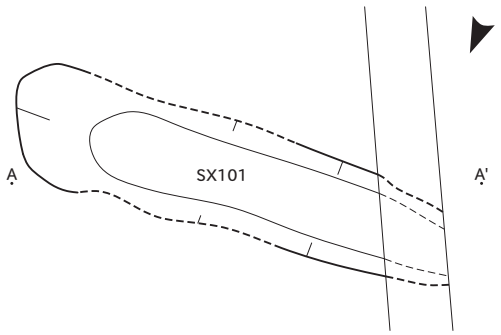


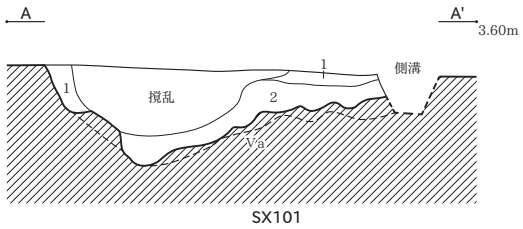
SX61
1　黒褐色粘質シルト（10YR2/2）　粘性あり、しまりややあり。Ⅳ・Va層ブロック状で混じる。



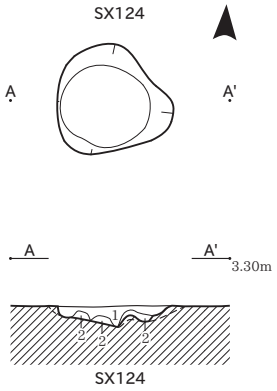
SX99
1　褐灰色粘質シルト（7.5YR5/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

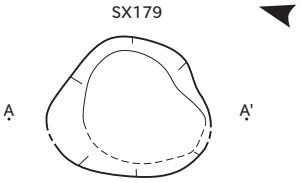


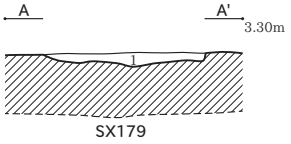


SX101
1　黄灰色粘質シルト（2.5Y4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。未分解有機物含む。腐植質土。
2　黄灰色砂質シルト（2.5Y4/1）　粘性弱い、しまりややあり。Va層ブロック状で混じる。

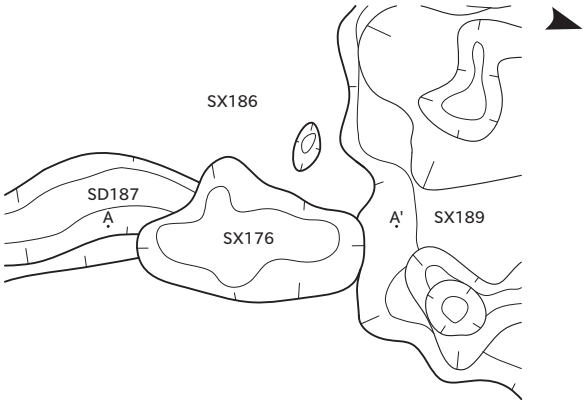


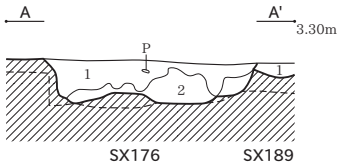
SX124
1　黒色粘質シルト（10YR2/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　Ⅲ層に類似。未分解有機物含む。Va層ブロック少量混じる。
2　黒色粘質シルト（10YR2/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　Va層ブロック多量混じる。





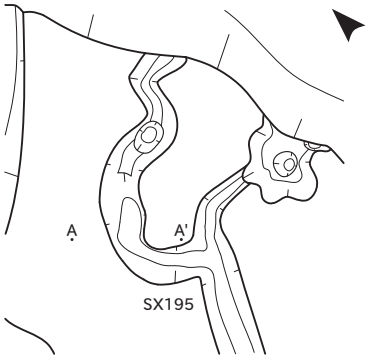
SX179
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性あり、しまりややあり。
　炭化物φ5～10mm斑状に含む。

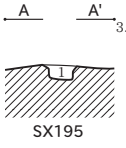




SX176
1　灰色粘質シルト（5Y5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ・Va層の混合層。
2　灰色粘質シルト（5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。Ⅳ層ブロック状で混じる。

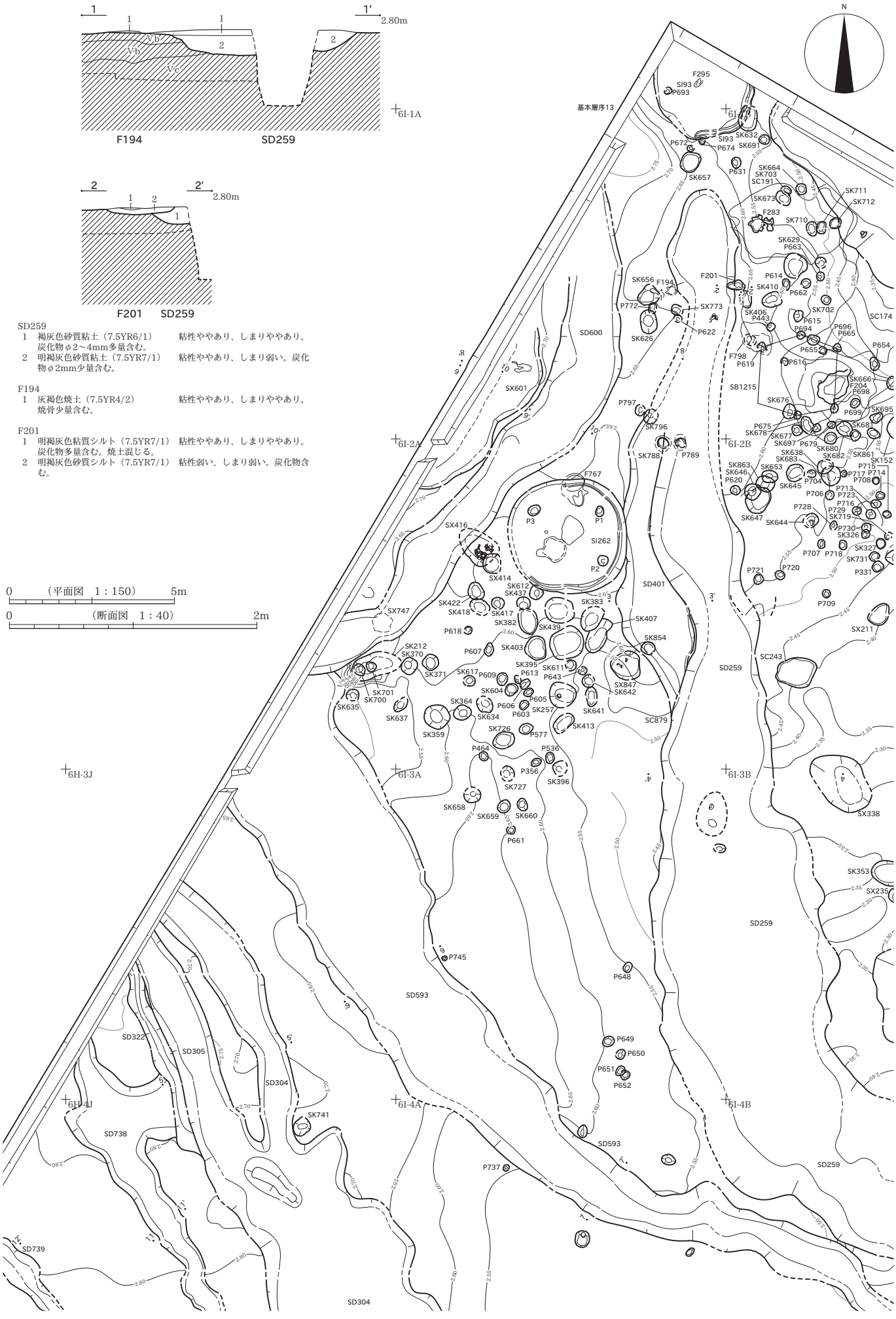
SX189
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR6/3）　粘性ややあり、しまりややあり。腐植質土。Va層斑状に混じる。





SX195
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性あり、しまりややあり。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

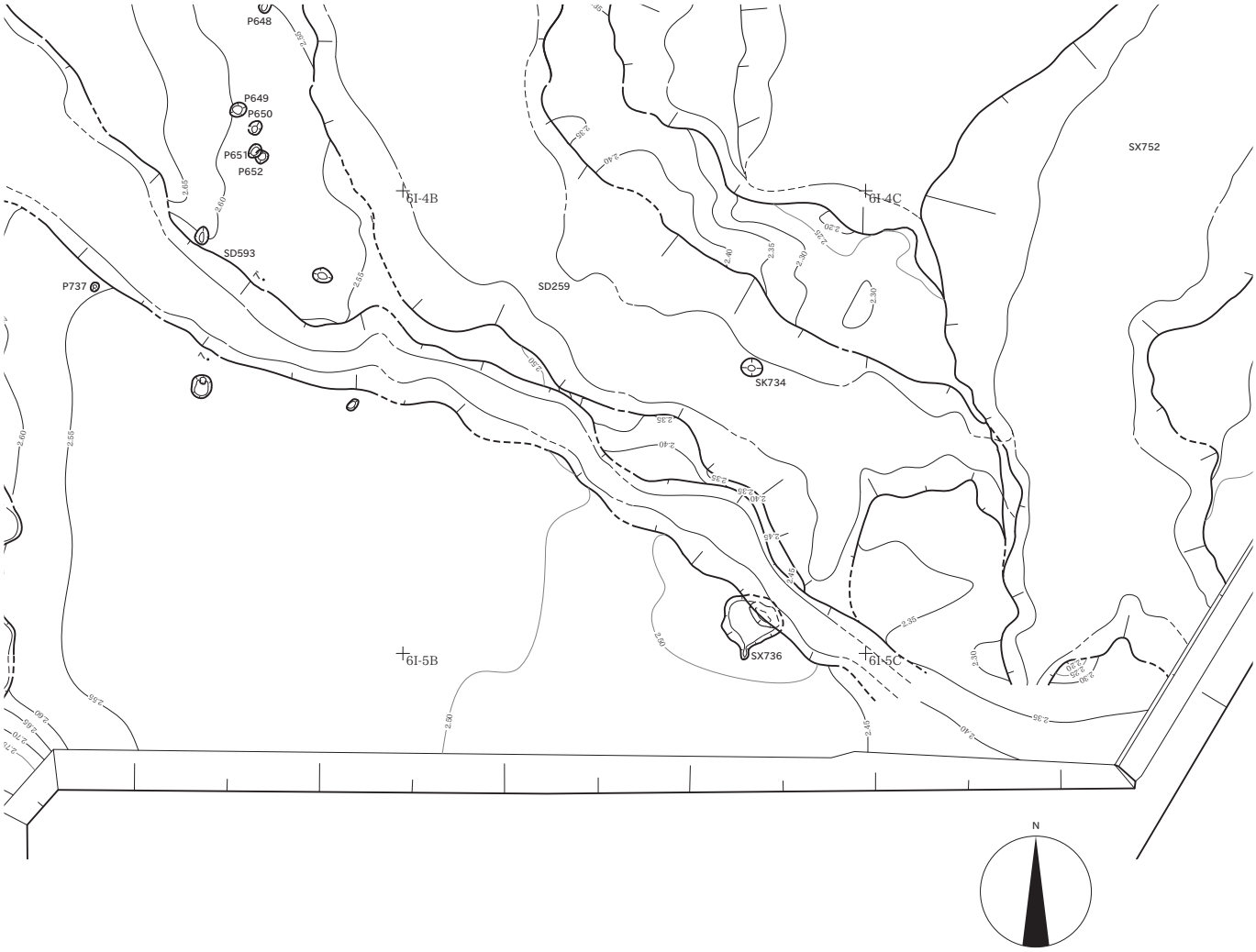


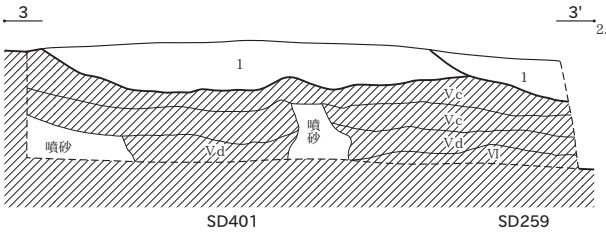
SD259
1　褐灰色砂質粘土（7.5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～4mm多量含む。
2　明褐灰色砂質粘土（7.5YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ2mm少量含む。

6 区下層上面平面分割図 (2)

N
6H-4I
6H-4J
6I-4A
SD738
SK741
SD593
P737
SD739
SX740
SD304
6H-5I
6H-5J
6I-5A
SX742
6H-6I
6H-6J
6I-6A
6H-7I
6H-7J
6I-7A
0
（平面図　1：150）
5m

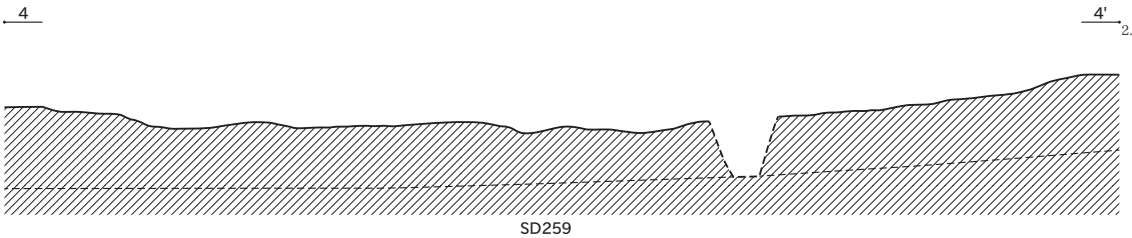
6 区下層上面平面分割図（4）SD259・304・305・322・401・593

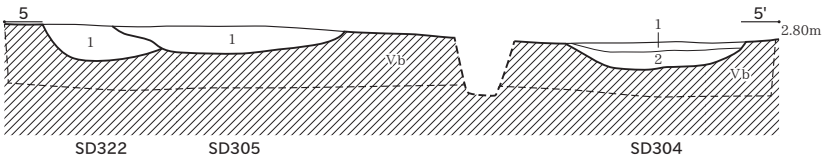




SD259
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。マンガン粒帯状に含む。水酸化鉄斑状に分布。

SD401
1　灰白色砂質シルト（5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。底面に沿って炭化物層状に含む。水酸化鉄斑状に分布。

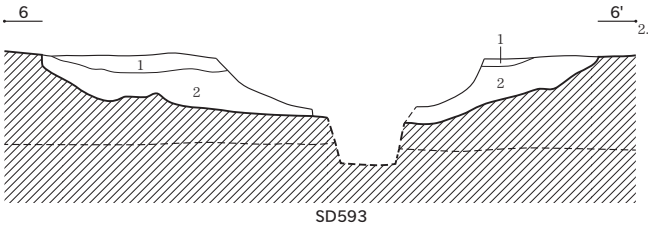




SD304
1　灰白色シルト（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。白色砂質土混じる。
2　灰白色粘土（2.5Y7/1）　粘性あり、しまり弱い。白色砂ブロックφ3～5mm多量混じる。

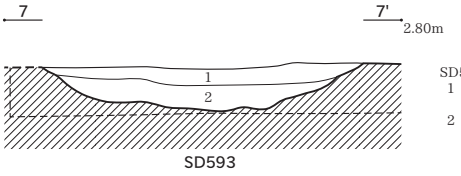
SD305
1　灰白色砂質粘土（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。

SD322
1　灰白色砂質粘土（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまり弱い。



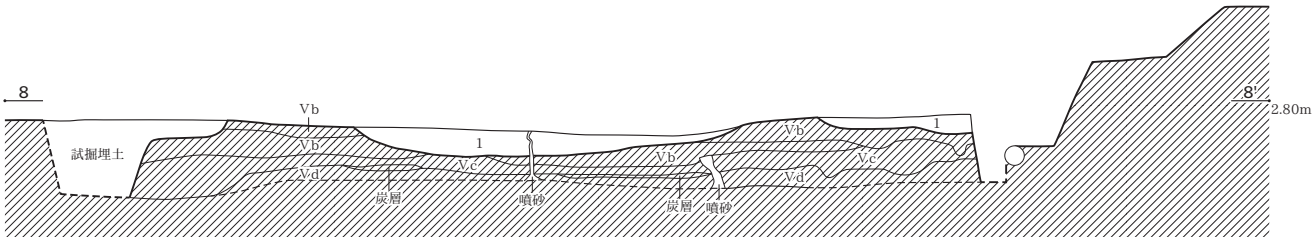
SD593
1　褐灰色砂質粘土（7.5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～4mm多量含む。
2　明褐灰色砂質粘土（7.5YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ2mm少量含む。

0　（平面図　1：150）　5m
0　（断面図　1：40）　2m
0　（エレベーション　1：80）　4m



SD593

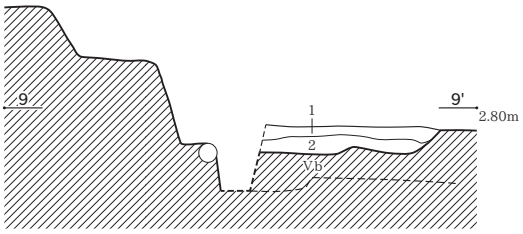
SD593
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。水酸化鉄斑状に分布。
2　灰色砂質シルト（7.5Y5/1）　粘性弱い、しまりややあり。マンガン粒少量含む。



SD600　　SX601

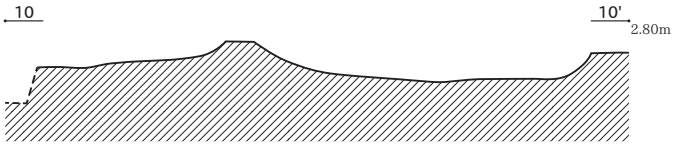
SD600
1　灰白色粘土（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ6～10mm少量含む。

SX601
1　にぶい黄橙色粘土（10YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。

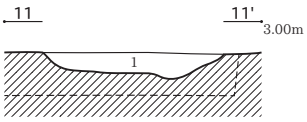


SX601

SX601
1　灰白色粘土（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　灰白色粘土（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。

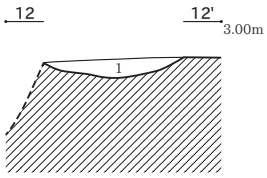


SX601　　SD600



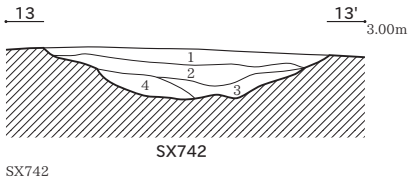
SD738

SD738
1　灰白色粘質シルト（7.5Y7/1）粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。植物遺体含む。



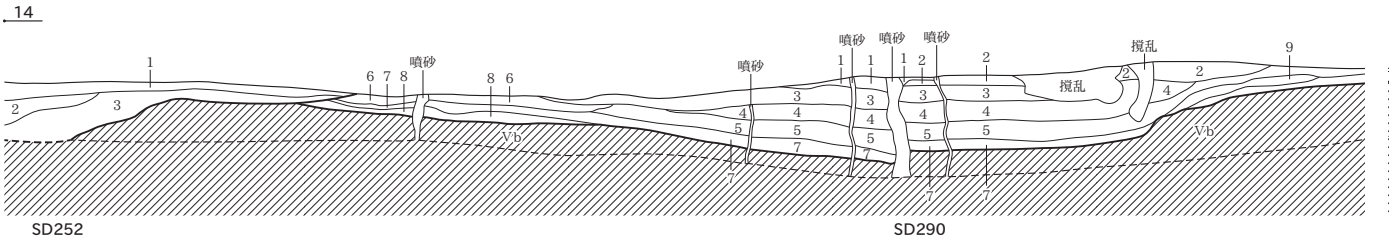
SD739

SD739
1　灰白色粘質シルト（5Y7/1）粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。

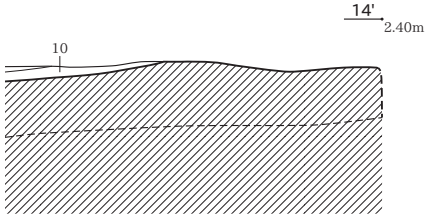


SX742

SX742
1　明褐灰色細砂（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。噴砂により撹乱。
2　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。
3　褐灰色粘質シルト（7.5YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　褐灰色細砂（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。噴砂痕あり。



SD252　　SD290

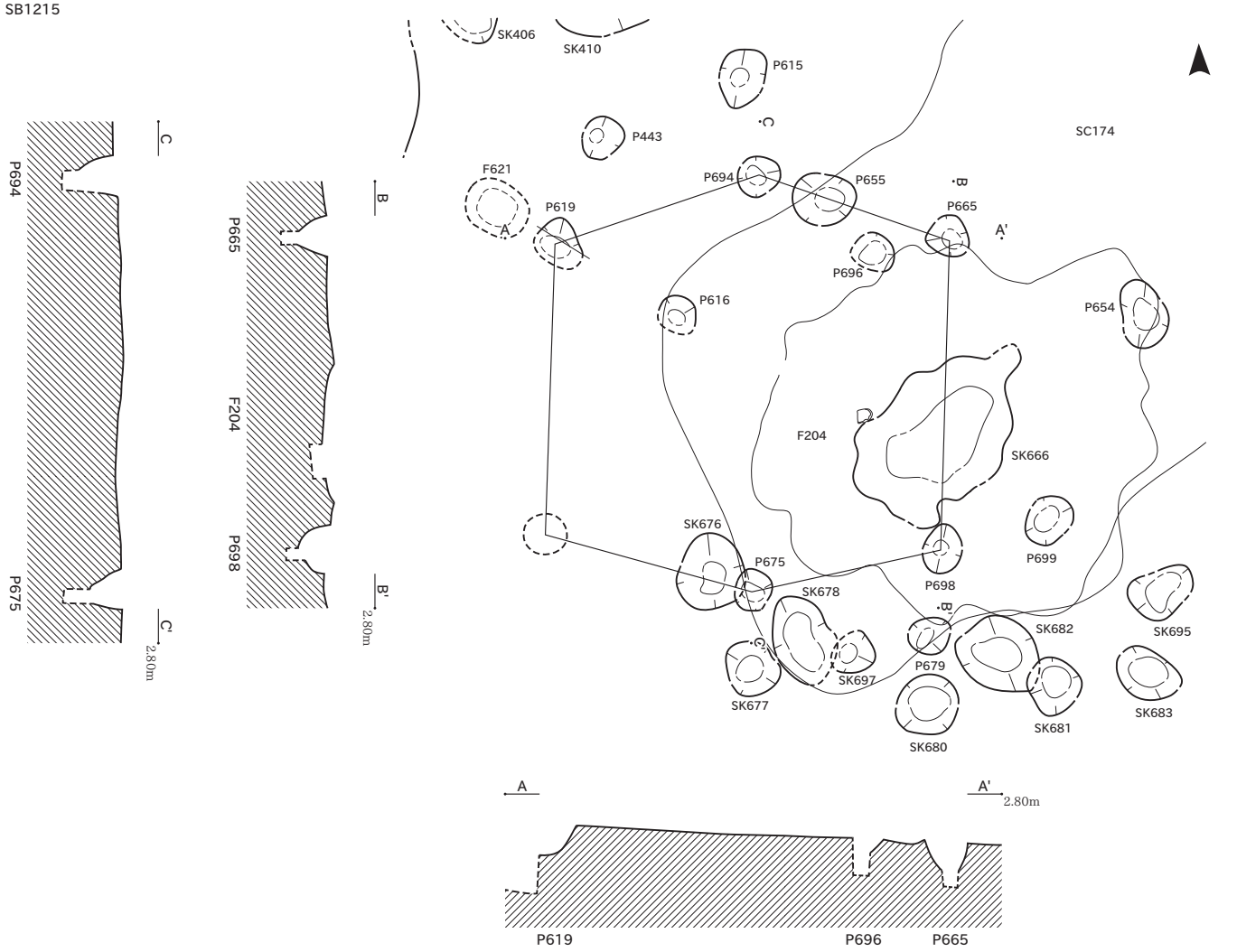


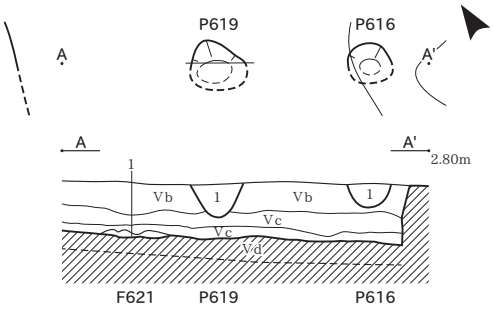
SD252
1　青灰色砂質粘土（5B6/1）　粘性弱い、しまりややあり。砂質土混じる。
2　青灰色粘土（5B6/1）　粘性あり、しまりややあり。
3　明青灰色粘土（5B7/1）　粘性あり、しまり弱い。

SD290
1　灰白色シルト（10YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。にぶい黄橙砂が縞状に混じる。
2　青灰色シルト（5B6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　青灰色シルト（5B6/1）　粘性弱い、しまりややあり。
4　青灰色砂質粘土（5B6/1）　粘性ややあり、しまり弱い。
5　青灰色粘土（5B6/1）　粘性あり、しまり弱い。明青灰色粘土の薄層6枚がラミナ状に堆積。
6　青灰色砂質粘土（5B6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
7　青灰色砂質粘土（5B6/1）　粘性ややあり、しまり弱い。明青灰色粘土の薄層3枚がラミナ状に堆積。
8　明青灰色粘土（5B7/1）　粘性あり、しまり弱い。
9　青灰色粘土（5B6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
10　明青灰色粘土（5B7/1）　粘性あり、しまり弱い。

0　（断面図　1：40）　2m

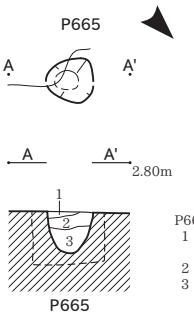
SB1215



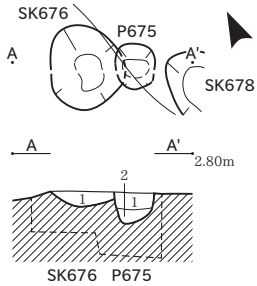


P619
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
　マンガン粒帯状に含む。

P616
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。

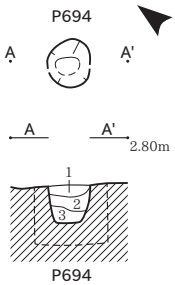


P665
1　褐灰色粘土（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　炭化物φ2～3mm多量含む。
2　褐灰色砂質粘土（10YR6/1）　粘性ややあり、しまり弱い。
3　褐灰色砂質粘土（10YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。

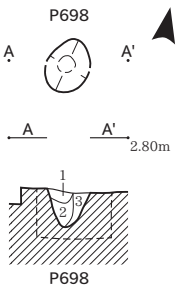


P675
1　褐灰色砂質粘土（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　炭化物φ1～2mm多量含む。
2　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。

SK676
1　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　炭化物φ1～4mm少量含む。

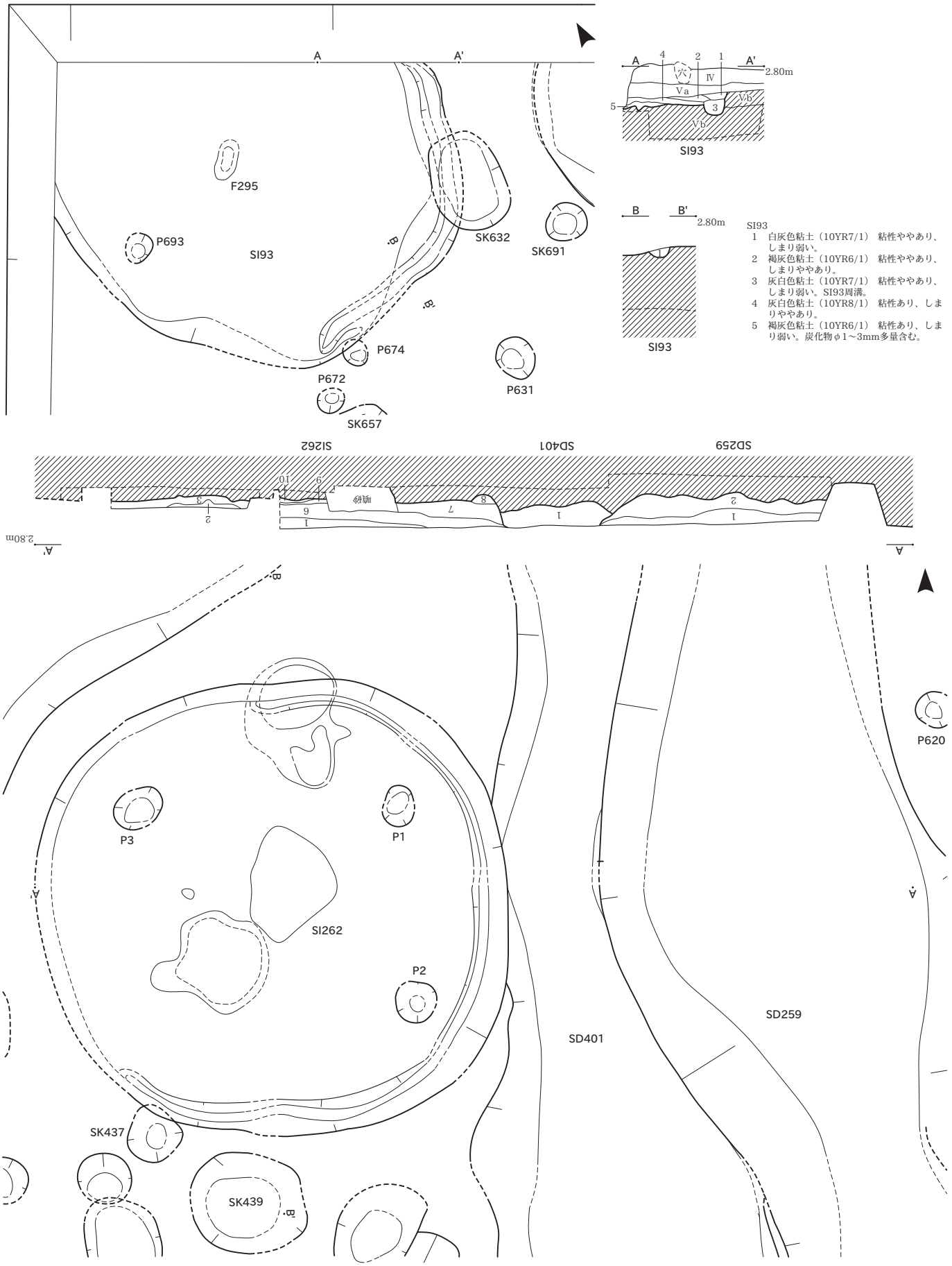


P694
1　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。
3　灰白色砂質粘土（N7/）　粘性ややあり、しまり弱い。



P698
1　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性あり、しまりややあり。
　炭化物φ1～3mm少量含む。
2　褐灰色粘土（10YR6/1）　粘性あり、しまり弱い。炭化
　物φ2～5mm少量含む。
3　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性あり、しまり弱い。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m



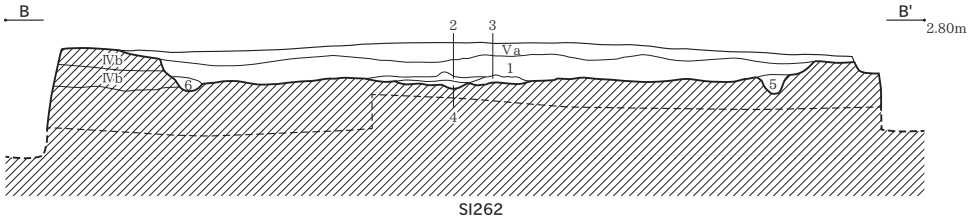
SI93
1　白灰色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。
2　褐灰色粘土（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。SI93周溝。
4　灰白色粘土（10YR8/1）　粘性あり、しまりややあり。
5　褐灰色粘土（10YR6/1）　粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1～3mm多量含む。

SD259
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。
2　灰白色砂質シルト（10YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。マンガン粒帯状に含む。水酸化鉄斑状に分布。

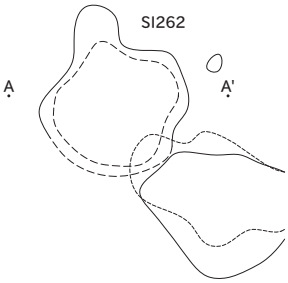
SD401
1　灰白色砂質シルト（5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。底面に沿って炭化物層状に含む。水酸化鉄斑状に分布。

SI262
1　灰白色混砂粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　褐灰色粘土（10YR6/1）　粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ1～3mm多量含む。
3　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。
6　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。
7　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。下面はSI262床。
8　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。SI262周溝覆土。
9　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。SI262覆土。
10　灰褐色焼土（5YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
11　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
12　灰色シルト（N6/）　粘性ややあり、しまりややあり。

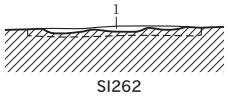
0　（平面図・断面図　1：40）　2m

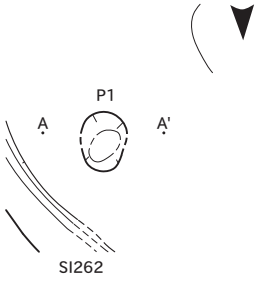


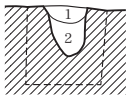
SI262
1　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。下面はSI262の床。
2　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～2mm多量含む。建物付帯の地床炉。
3　褐灰色粘土（10YR6/1）　粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ3～5mm多量含む。建物付帯の地床炉。
4　灰褐色焼土（5YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。SI262地床炉。
5　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。SI262壁溝。
6　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。SI262壁溝。



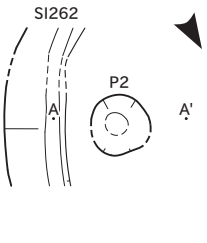
SI262焼土
1　灰褐色焼土（5YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

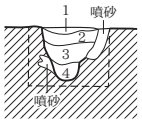




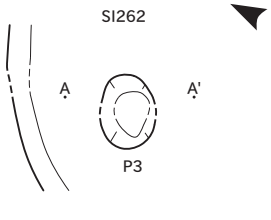


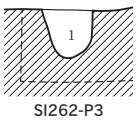
SI262P-1
1　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物φ1mm少量含む。
2　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。



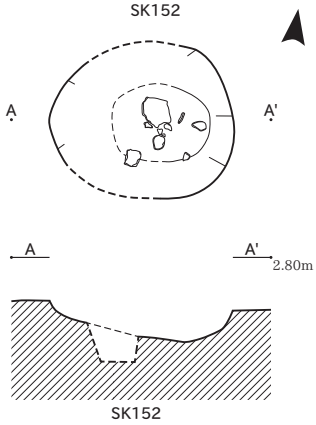


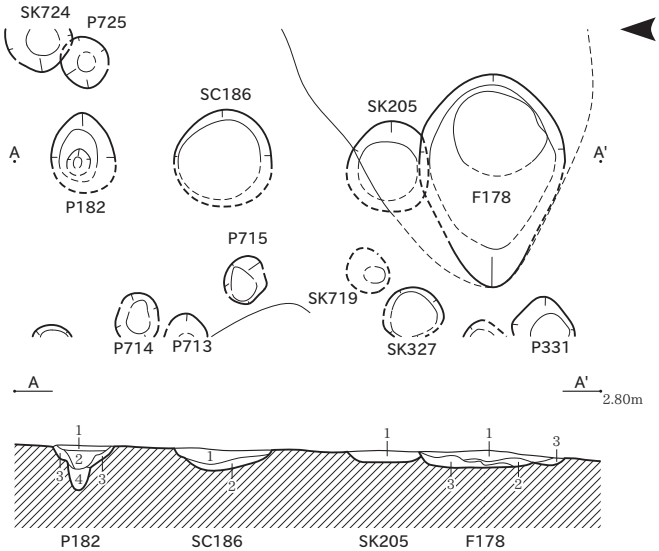
SI262P-2
1　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。
2　灰白色砂（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
3　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　灰白色砂（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。





SI262P-3
1　青灰色砂質粘土（5B6/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1～2mm少量含む。噴砂による撹乱。



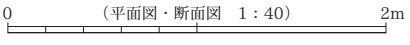


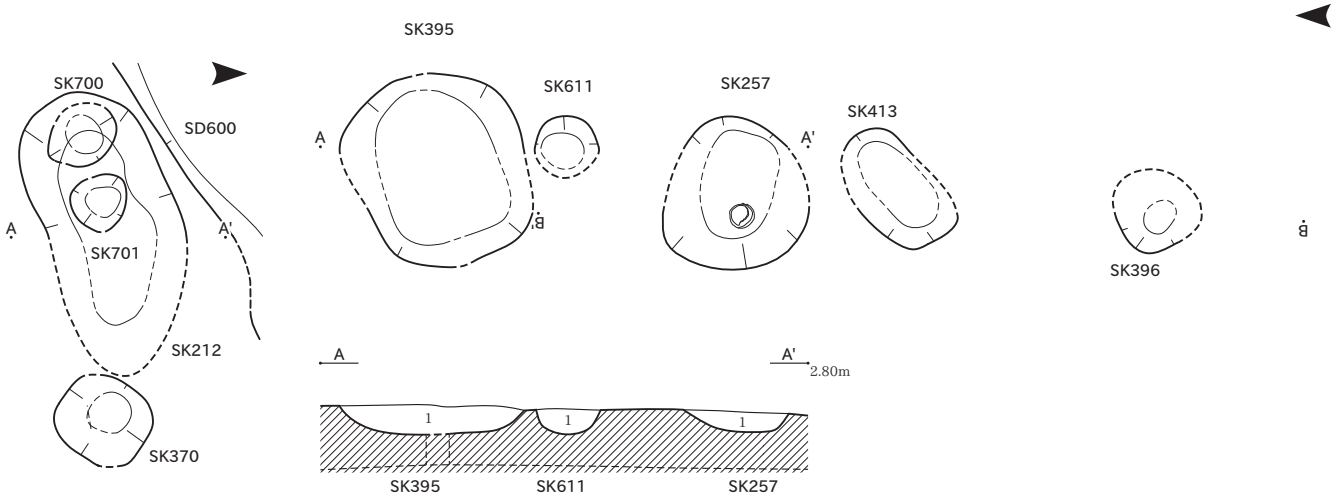
P182
1　灰白色砂質シルト（10YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。ラミナ状に堆積。
2　褐灰色砂質シルト（10YR6/1）　粘性弱い、しまりややあり。
3　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。マンガン粒全体に含む。
4　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。

SK205
1　明褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。

SC186
1　明褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。ラミナ状に堆積。炭化物含む。
2　明褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。未分解有機物含む。炭化物含む。

F178
1　明褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。焼土粒が混じる。
2　褐灰色砂質シルト（焼土）（5YR5/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。被熱土。
3　明褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。焼土が少量混じる。





SK212
1 灰白色砂質粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ2mm多量含む。

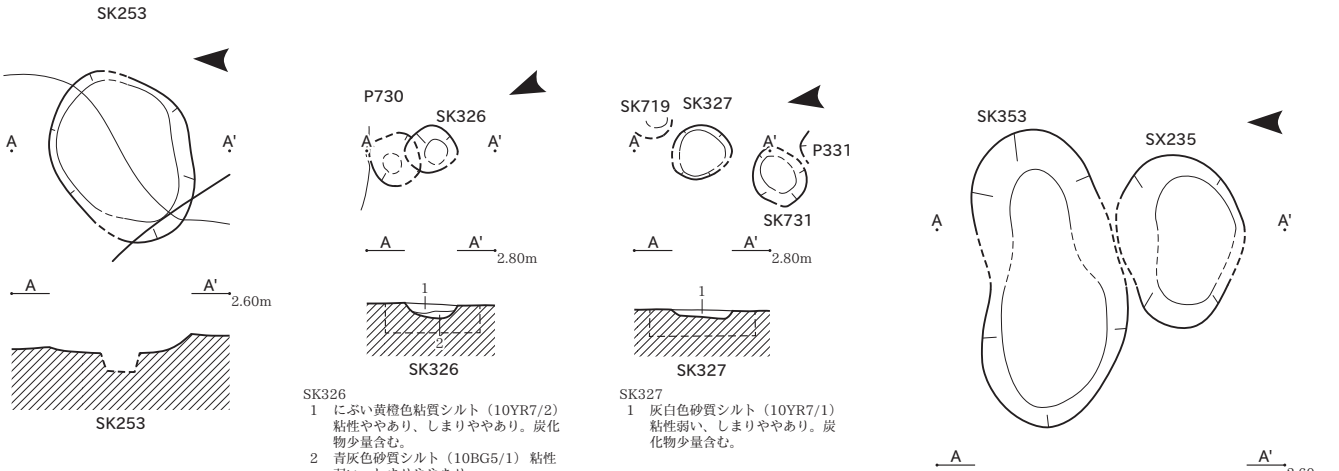
SK395
1 灰色粘質シルト（10Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。

SK611
1 にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2） 粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。炭化物含む。

SK413
1 灰白色砂質粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。

SK396
1 灰白色砂質粘土（10YR7/1） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物φ1mm少量含む。

SK257
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。砂質土ブロック混じる。
2 灰色粘土（N6/） 粘性ややあり、しまり弱い。砂質土ブロック混じる。

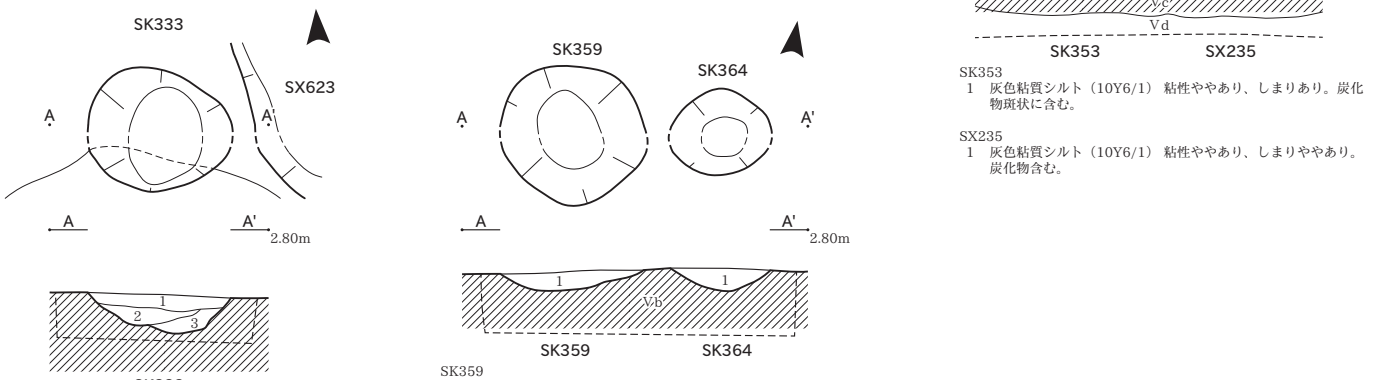


SK326
1 にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
2 青灰色砂質シルト（10BG5/1） 粘性弱い、しまりややあり。

SK327
1 灰白色砂質シルト（10YR7/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。

SK353
1 灰色粘質シルト（10Y6/1） 粘性ややあり、しまりあり。炭化物斑状に含む。

SX235
1 灰色粘質シルト（10Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。



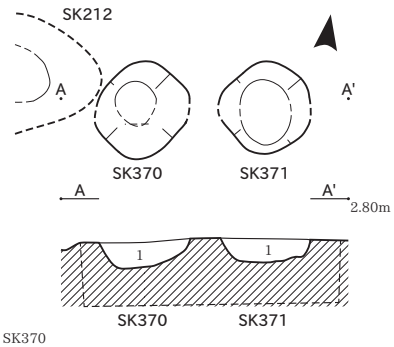
SK333
1 灰白色粘質シルト（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
2 灰色細砂（10Y6/1） 粘性弱い、しまり弱い。
3 灰色砂質シルト（10Y6/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。

SK359
1 灰白色砂質シルト（10YR7/1） 粘性弱い、しまりややあり。ラミナ状に堆積。炭化物含む。

SK364
1 灰白色砂質シルト（10YR7/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。

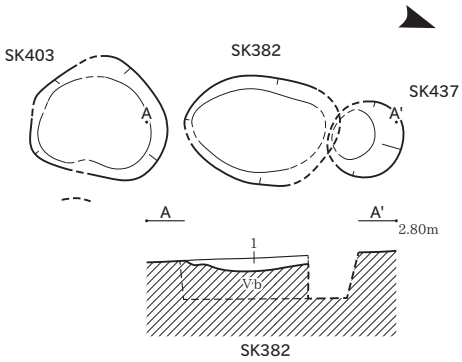
0 （平面図・断面図 1：40） 2m

6 区下層上面遺構個別図 SK（3）SK370・371・382・383・395・403・406・407・410・417・418・422・437・439、SD259

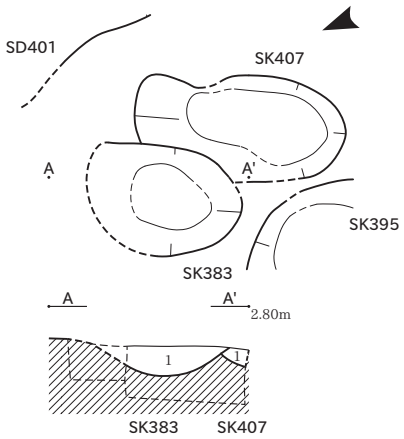


SK370
1　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　粘土・砂質土の混合層。炭化物含む。

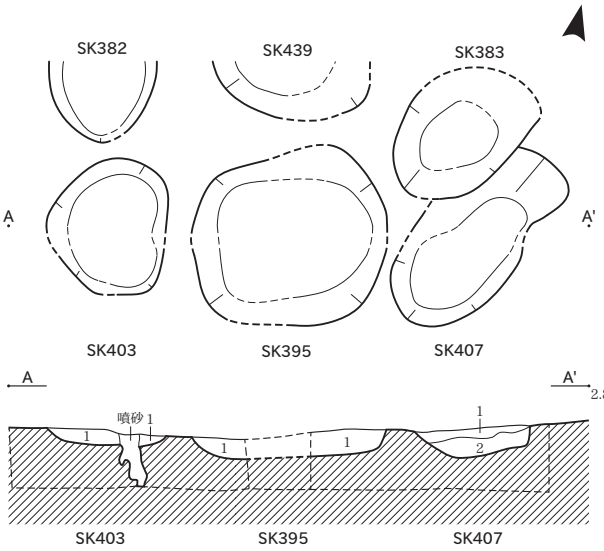
SK371
1　黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　炭化物・マンガン粒帯状に含む。



SK382
1　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性あり、しまりややあり。



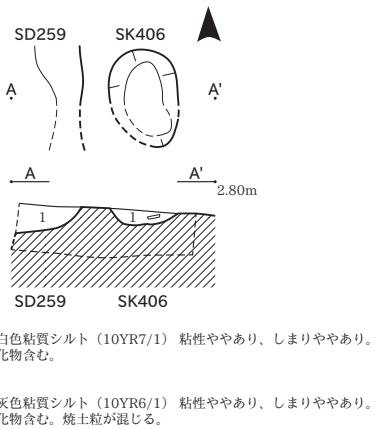
SK383
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　炭化物含む。



SK395
1　灰白色粘質シルト（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。

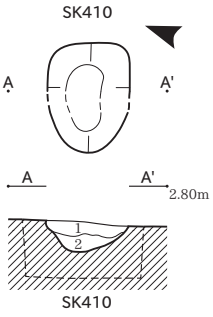
SK403
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。水酸化鉄斑状に分布。

SK407
1　灰白色粘質シルト（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
2　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。

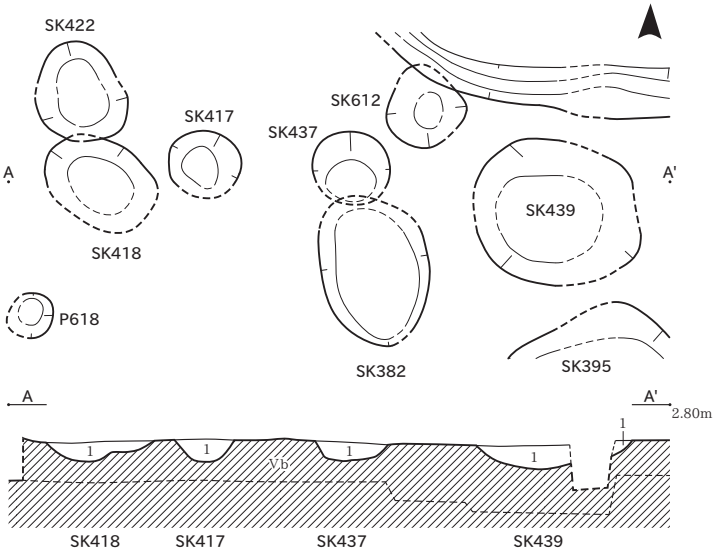


SD259
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　炭化物含む。

SK406
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　炭化物含む。焼土粒が混じる。



SK410
1　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。
2　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。
　炭化物φ1mm少量含む。

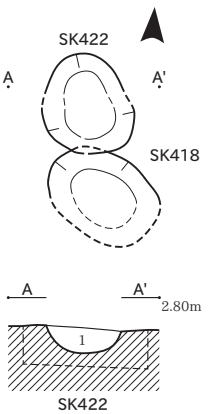


SK418
1　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/2）　粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。炭化物含む。

SK417
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。

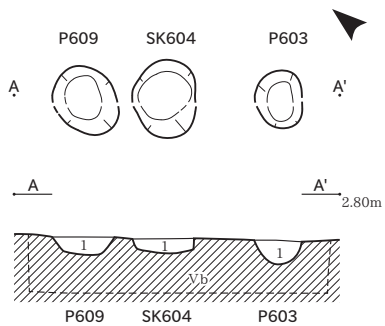
SK437
1　明褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。

SK439
1　灰白色砂質シルト（10YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。ラミナ状に堆積。炭化物少量含む。



SK422
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）　粘性ややあり、
　しまりややあり。炭化物含む。

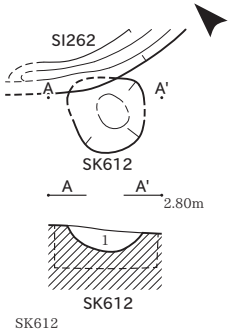
0　（平面図・断面図　1：40）　2m



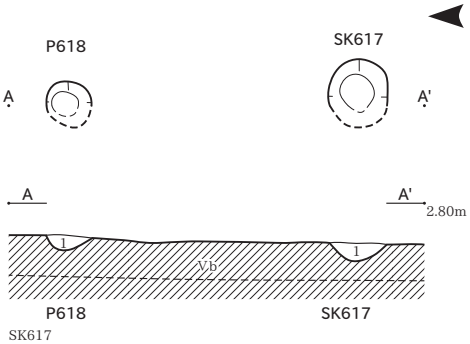
SK604
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。

P603
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。

P609
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。

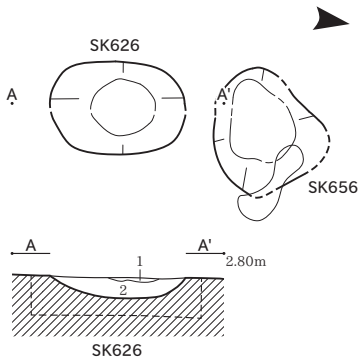


SK612
1　灰黄色砂質シルト（2.5Y7/2）粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。

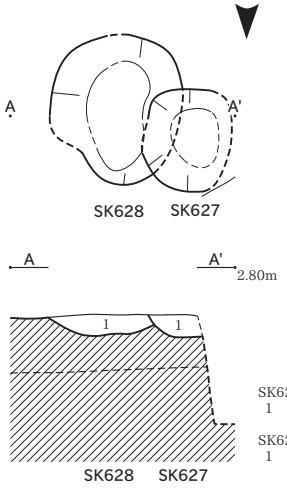


SK617
1　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/2）粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。

P618
1　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/2）粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。

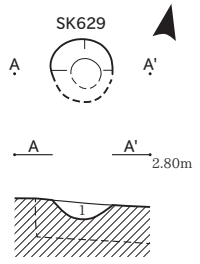


SK626
1　灰黄色粘質シルト（2.5Y7/2）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。骨片含む。
2　灰黄色粘質シルト（2.5Y7/2）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。

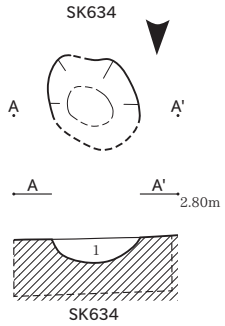


SK627
1　灰白色砂質粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。

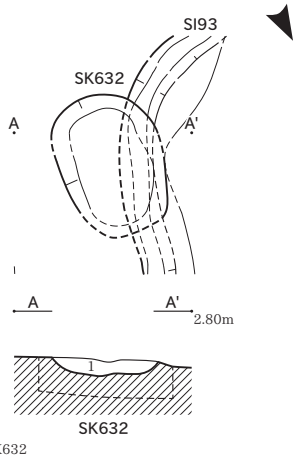
SK628
1　灰白色砂質粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまり弱い。



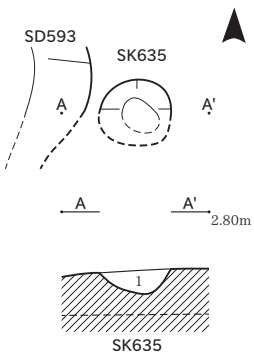
SK629
1　灰白色砂質シルト（10YR7/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



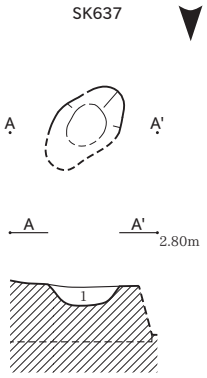
SK634
1　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



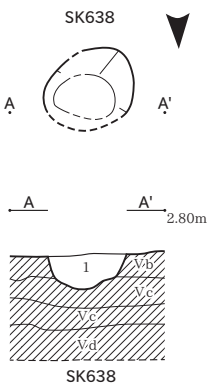
SK632
1　灰白色砂質粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～5mm多量含む。



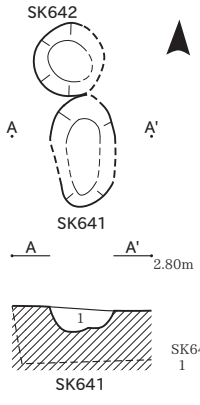
SK635
1　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。砂質土斑状に混じる。



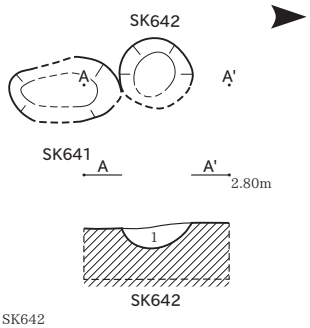
SK637
1　灰白色砂質シルト（2.5Y7/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



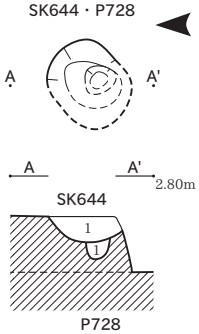
SK638
1　灰白色砂質シルト（10YR7/1）粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。焼土少量混じる。



SK641
1　灰白色粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。

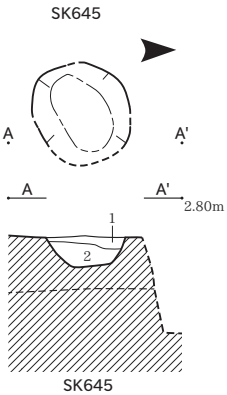


SK642
1　灰白色粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまり弱い。



SK644
1　灰白色粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまり弱い。

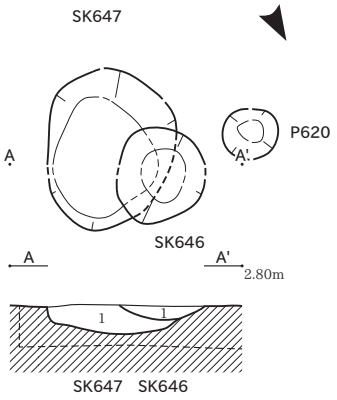
P728
1　灰白色粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。



SK645
1　灰白色砂質粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりあり。
2　灰白色砂質粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまり弱い。

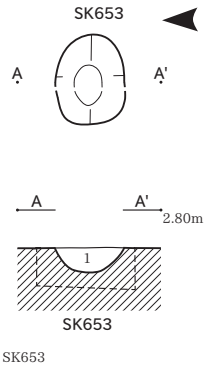
0　（平面図・断面図　1：40）　2m

6 区下層上面遺構個別図 SK（5）SK646・647・653・656・657・658・659・660・664・666・668・669・671・673・677・678・680

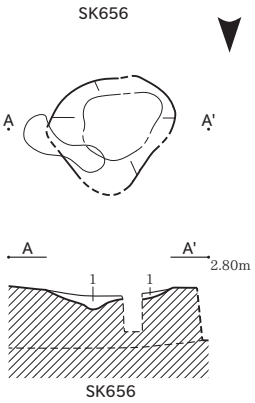


SK646
1 灰白色粘土（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりあり。

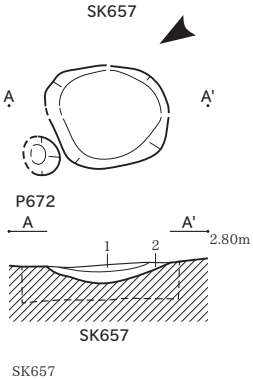
SK647
1 灰白色砂質粘土（2.5Y7/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～5mm多量含む。



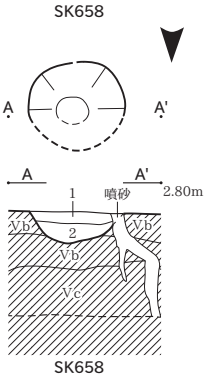
SK653
1 灰白色砂質粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5mm含む。



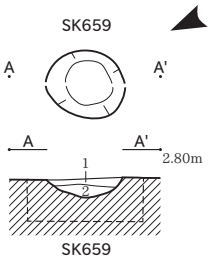
SK656
1 褐灰色砂質粘土（10YR6/1）粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1～10mm多量含む。焼骨含む。



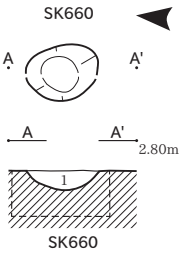
SK657
1 灰白色砂質粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1～5mm少量含む。
2 灰白色砂質粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。



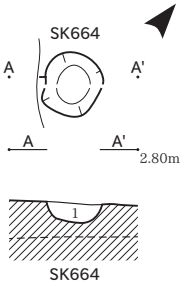
SK658
1 灰白色粘土（10YR8/1） 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。
2 灰白色粘土（10YR8/1） 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ2～3mm少量含む。



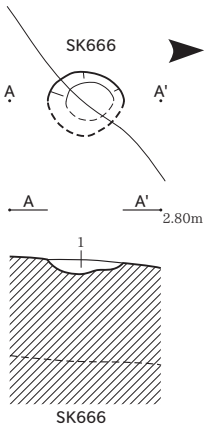
SK659
1 灰白色粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2mm少量含む。
2 灰白色粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまり弱い。



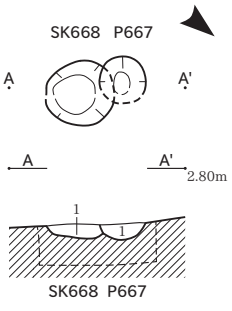
SK660
1 灰白色粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ10mm含む。



SK664
1 灰白色粘土（10YR7/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～2mm少量含む。

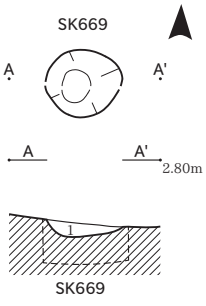


SK666
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ10mm含む。

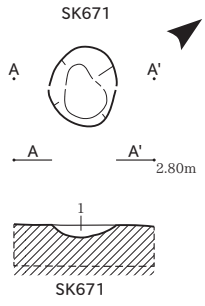


P667
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。

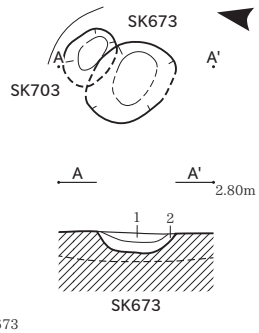
SK668
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ2mm少量含む。



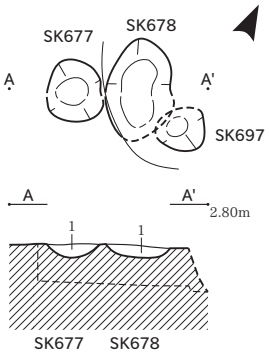
SK669
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。



SK671
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ10mm少量含む。

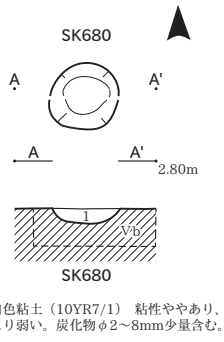


SK673
1 褐灰色粘土（10YR6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～5mm多量含む。
2 灰白色砂質粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。



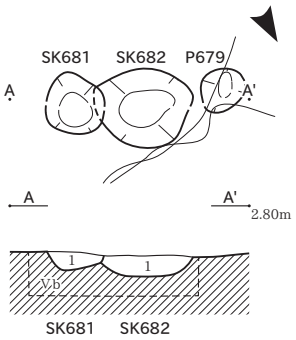
SK677
1 褐灰色砂質シルト（10YR6/1）粘性弱い、しまり弱い。未分解有機物含む。

SK678
1 灰白色砂質シルト（10YR7/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



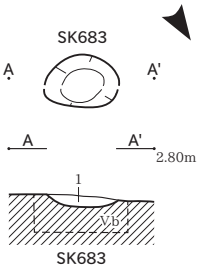
SK680
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ2～8mm少量含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

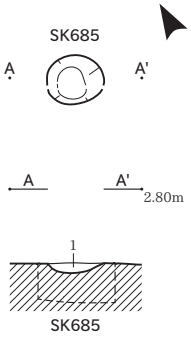


SK681
1 灰白色粘土（10YR7/2） 粘性ややあり、しまりややあり。

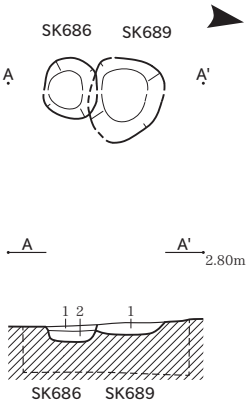
SK682
1 灰白色砂質粘土（10YR7/2） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物φ3～5mm少量含む。



SK683
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。

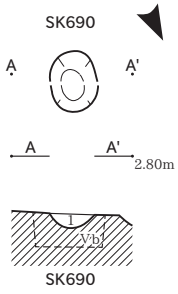


SK685
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。

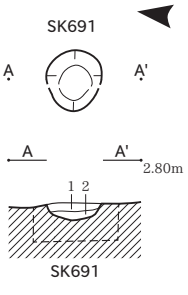


SK686
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～5mm少量含む。
2 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまり弱い。

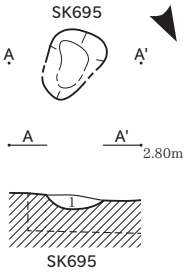
SK689
1 灰白色砂質粘土（N7/） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～3mm少量含む。



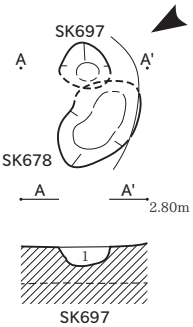
SK690
1 灰白色砂質粘土（10YR7/1） 粘性弱い、しまりややあり。



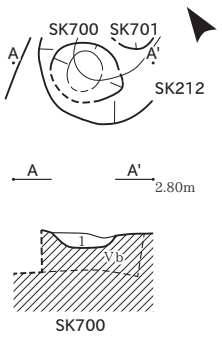
SK691
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm少量含む。
2 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまり弱い。



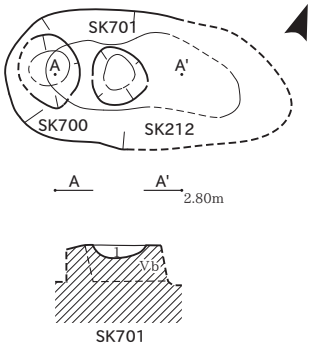
SK695
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。



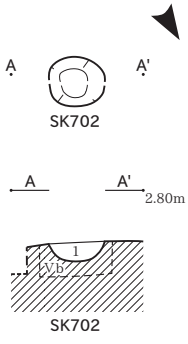
SK697
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～2mm少量含む。



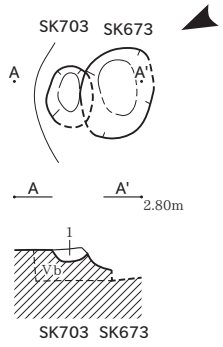
SK700
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2～3mm少量含む。白色砂ブロックφ5mm混じる。



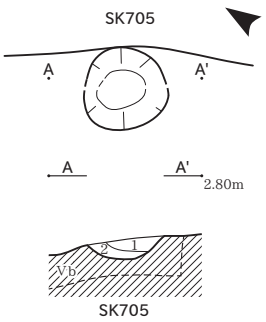
SK701
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。白色砂ブロックφ5mm混じる。



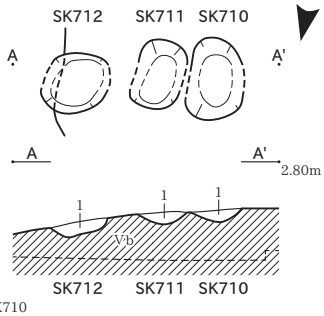
SK702
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1～4mm少量含む。白色粘土粒子φ2～5mm多量混じる。



SK703
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～3mm多量含む。



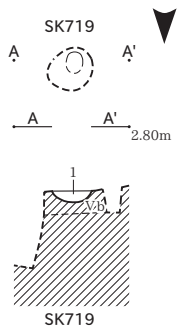
SK705
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ3～5mm少量含む。
2 褐灰色粘土（10YR6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ3～5mm多量含む。



SK710
1 灰白色砂質粘土（N8/） 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ3mm少量含む。

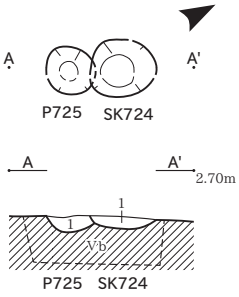
SK711
1 灰白色砂質粘土（N7/） 粘性弱い、しまり弱い。

SK712
1 灰白色砂質粘土（N7/） 粘性弱い、しまり弱い。



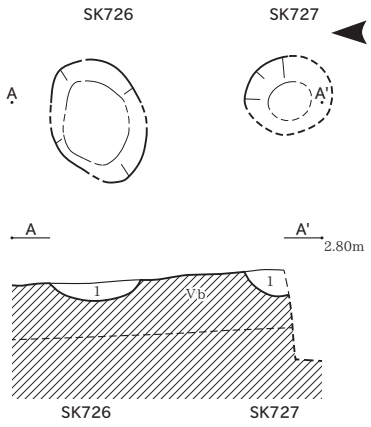
SK719
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ1mm少量含む。

6 区下層上面遺構個別図 SK（7）SK724・726・727・731・741・788・796・854・861・863・913、SX847



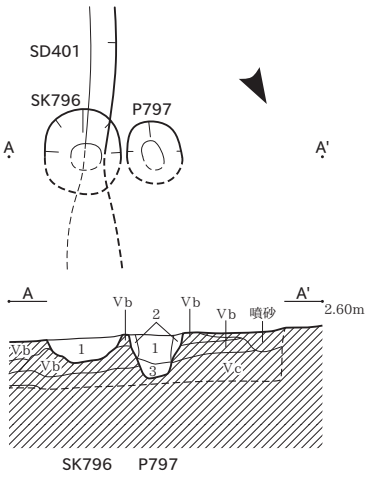
SK724
1 灰白色粘土（10YR8/1） 粘性あり、しまりややあり。

P725
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。



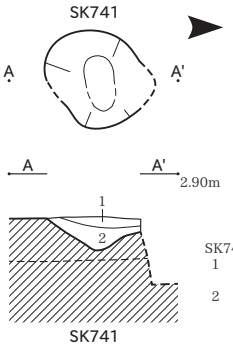
SK726
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。

SK727
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。
炭化物φ3mm少量含む。

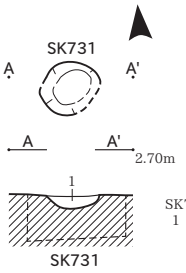


SK796
1 灰色粘質シルト（7.5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。
水酸化鉄パイプ状に分布。炭化物含む。

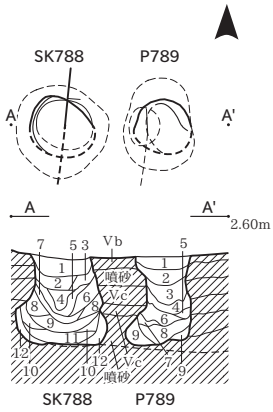
P797
1 灰色砂質シルト（7.5Y6/1） 粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄パイプ状に分布。
2 灰色細砂（7.5Y6/1） 粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。
3 灰色砂質シルト（10Y6/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。



SK741
1 灰白色粘質シルト（2.5Y7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄が斑状に分布。
2 灰白色粘質シルト（2.5Y7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。未分解有機物多量含む。

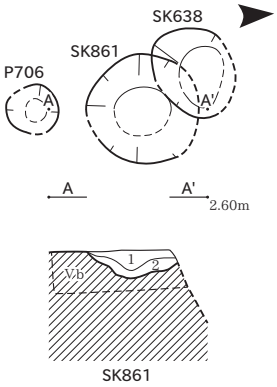


SK731
1 灰白色粘土（10YR7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ3mm少量含む。
白色粘土粒子φ2～5mm多量混じる。

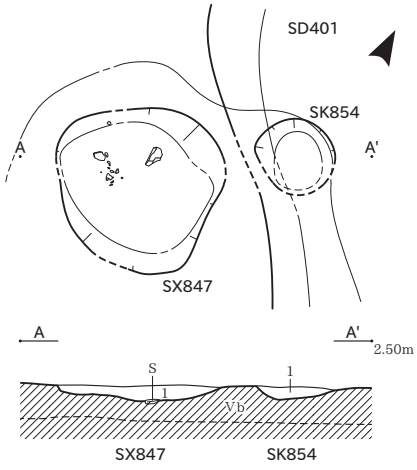


SK788
1 明褐灰色細砂（7.5YR7/2） 粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。
2 褐灰色砂質シルト（10YR6/1） 粘性弱い、しまりややあり。噴砂による撹乱。
3 黄灰色砂質シルト（2.5Y6/1） 粘性弱い、しまりややあり。
4 黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。噴砂による撹乱。
5 灰色粘質シルト（5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。
6 灰色粘質シルト（5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。
7 灰色粘質シルト（5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物帯状に含む。
8 灰色砂質シルト（5Y5/1） 粘性弱い、しまりややあり。
9 灰色砂質シルト（7.5Y5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。
10 灰色砂質シルト（7.5Y5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
11 灰色砂質シルト（10Y5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物帯状に含む。
12 灰色砂質シルト（10Y5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物斑状に含む。

P789
1 明褐灰色細砂（7.5YR7/2） 粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄が斑状に分布。
2 褐灰色砂質シルト（10YR6/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物帯状に含む。
3 黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物斑状に含む。
4 黄灰色粘質シルト（2.5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
5 灰色砂質シルト（5Y6/1） 粘性弱い、しまりややあり。
6 灰色粘質シルト（5Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
7 灰色粘質シルト（10Y5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。
8 灰色粘質シルト（10Y5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物帯状に含む。
9 灰色砂質シルト（10Y5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。

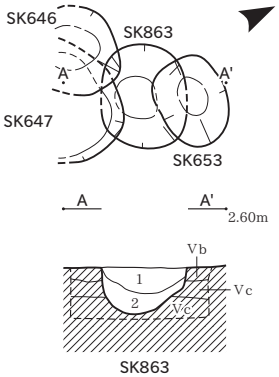


SK861
1 青灰色粘質シルト（5BG5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
2 青灰色砂質シルト（5BG5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。

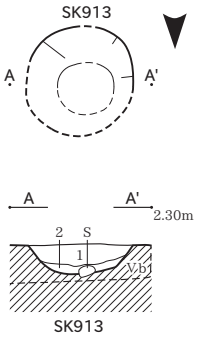


SX847
1 青灰色粘質シルト（5B6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。

SK854
1 青灰色粘質シルト（5B6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。マンガン粒帯状に含む。

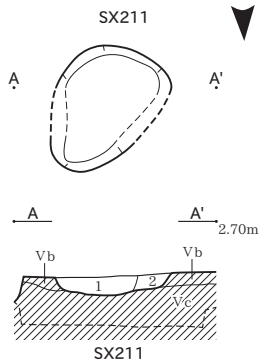


SK863
1 青灰色粘質シルト（5BG5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
2 青灰色砂質シルト（5BG5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。

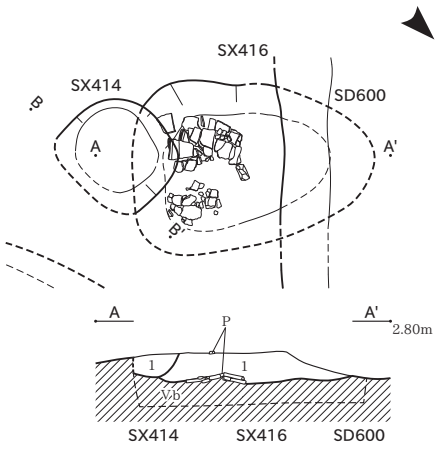


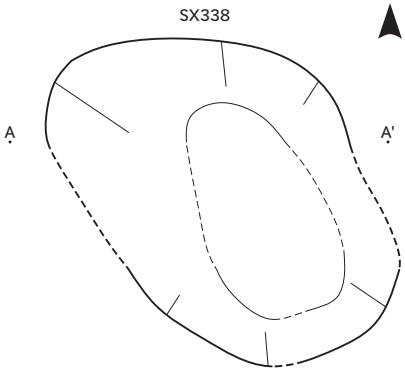
SK913
1 青灰色粘質シルト（10BG6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。水酸化鉄帯状に分布。
2 青灰色砂質シルト（10BG5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。

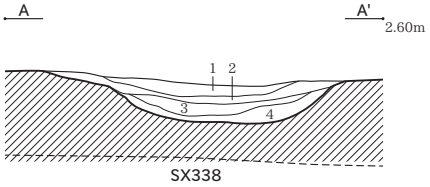
0 （平面図・断面図 1：40） 2m



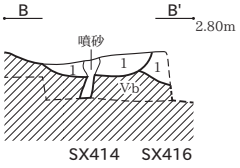
SX211
1　灰白色細砂（10YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。
　炭化物斑状に含む。





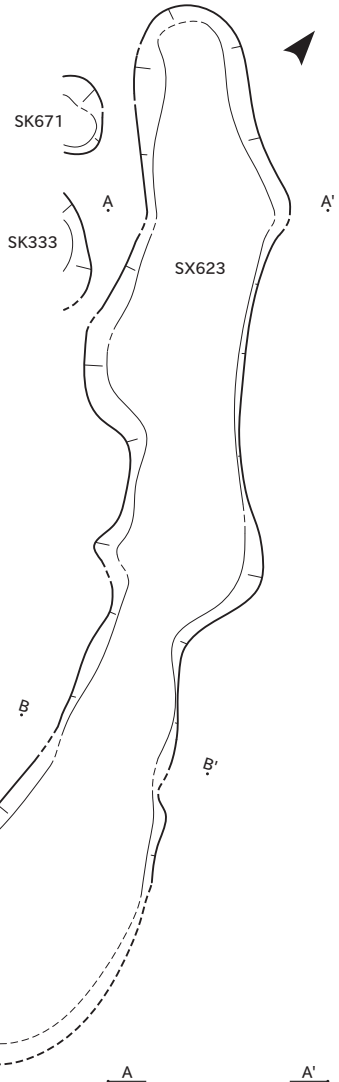


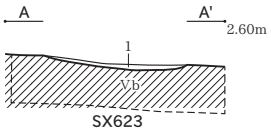
SX338
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/2）　粘性あり、しまりややあり。
　未分解有機物含む。
2　灰白色粘質シルト（5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
3　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。炭化物帯状に含む。
4　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。
　炭化物少量含む。

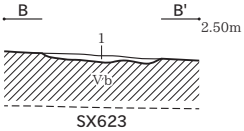


SX414
1　灰色砂質シルト（10Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。

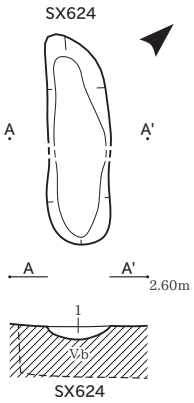
SX416
1　灰白色砂質シルト（10YR7/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。噴砂による撹乱。



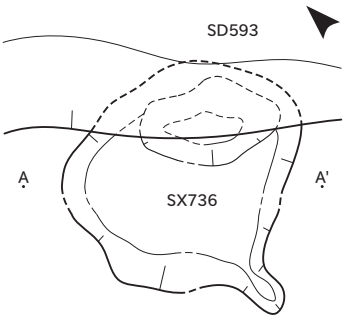


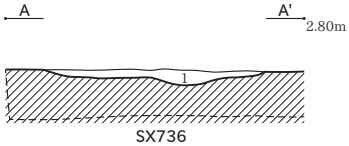


SX623
1　灰白色粘質シルト（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　炭化物を含む。

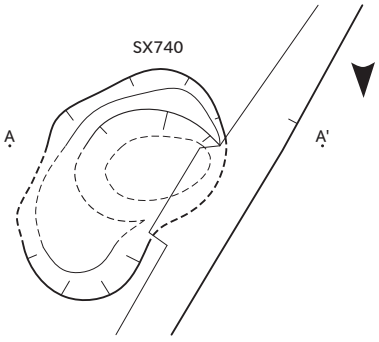


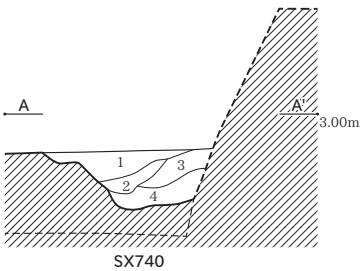
SX624
1　灰色細砂（N6/）　粘性弱い、しまり弱い。
　炭化物少量含む。





SX736
1　灰白色砂質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。炭化物少量含む。

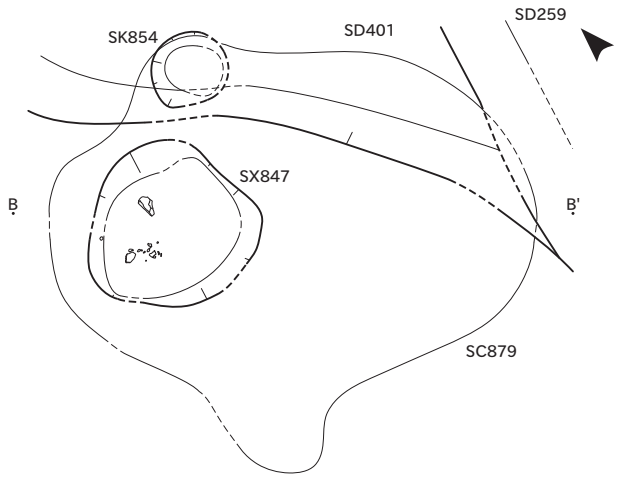


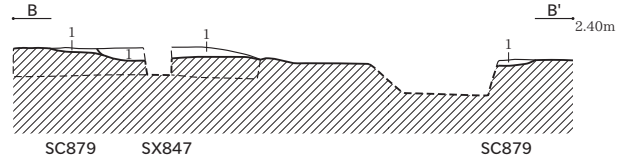


SX740
1　灰白色粘質シルト（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
2　灰白色粘質シルト（2.5Y7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。マンガン粒帯状に含む。
3　明褐灰色砂質シルト（7.5YR7/1）　粘性弱い、しまりややあり。
4　明褐灰色粘質シルト（7.5YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

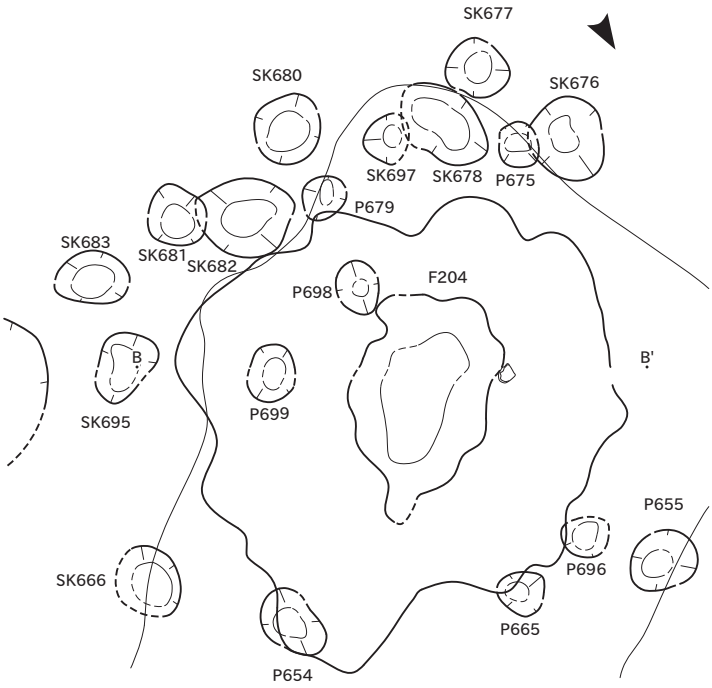
6 区下層上面遺構個別図 SX（3）SX847、SC（1）SC243・687・688・879、F（1）F204・283・767

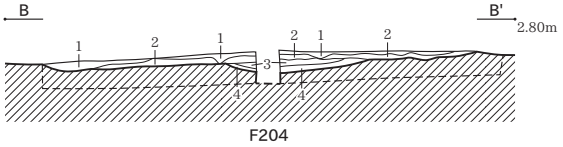




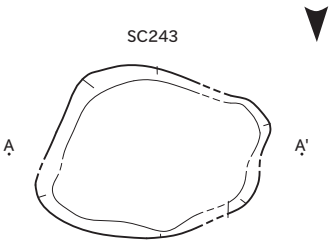
SX847
1　青灰色粘質シルト（5B6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。アスファルト・焼土混じる。アスファルトと炭化物・焼土の炉辺の溜まり土か。

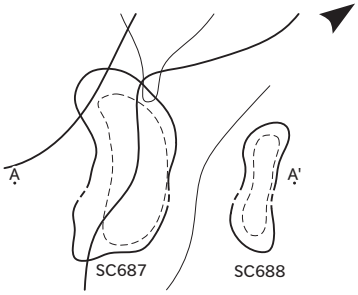
SC879
1　青灰色砂質シルト（5B5/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。

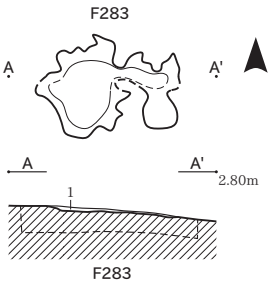




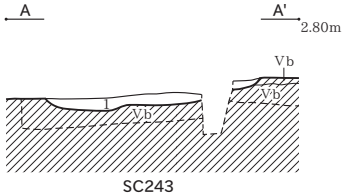
F204
1　赤褐色焼土（10R5/4）　粘性あり、しまりややあり。焼骨多量含む。
2　暗赤灰色粘土（10R4/1）粘性あり、しまり弱い。被熱土。
3　赤褐色焼土（10R5/4）　粘性あり、しまりややあり。焼骨混じる。
4　暗赤灰色粘土（10R4/1）粘性あり、しまり弱い。被熱土。



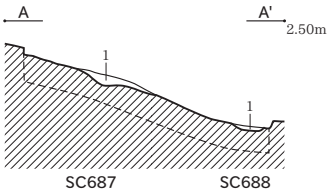




F283
1　赤灰色砂質シルト（7.5R5/1）　粘性弱い、しまり弱い。焼土粒混じる。炭化物含む。

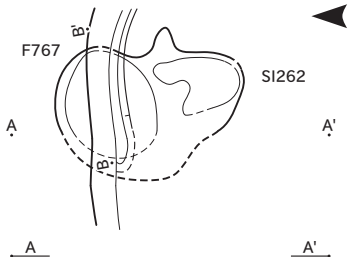


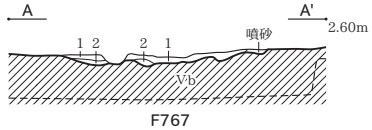
SC243
1　灰白色粘土（10YR7/1）　粘性あり、しまり弱い。炭化物φ5mm多量含む。
2　灰白色砂質粘土（10YR7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。
3　灰色シルト（N6/）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物φ5mm少量含む。
4　青灰色砂質粘土（10BG6/1）　粘性ややあり、しまり弱い。

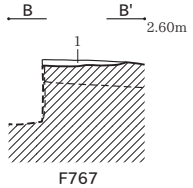


SC687
1　青灰色粘土（5BG6/1）　粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ1～3mm多量含む。

SC688
1　青灰色粘土（5BG6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～3mm多量含む。

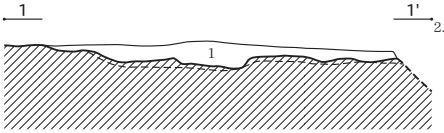






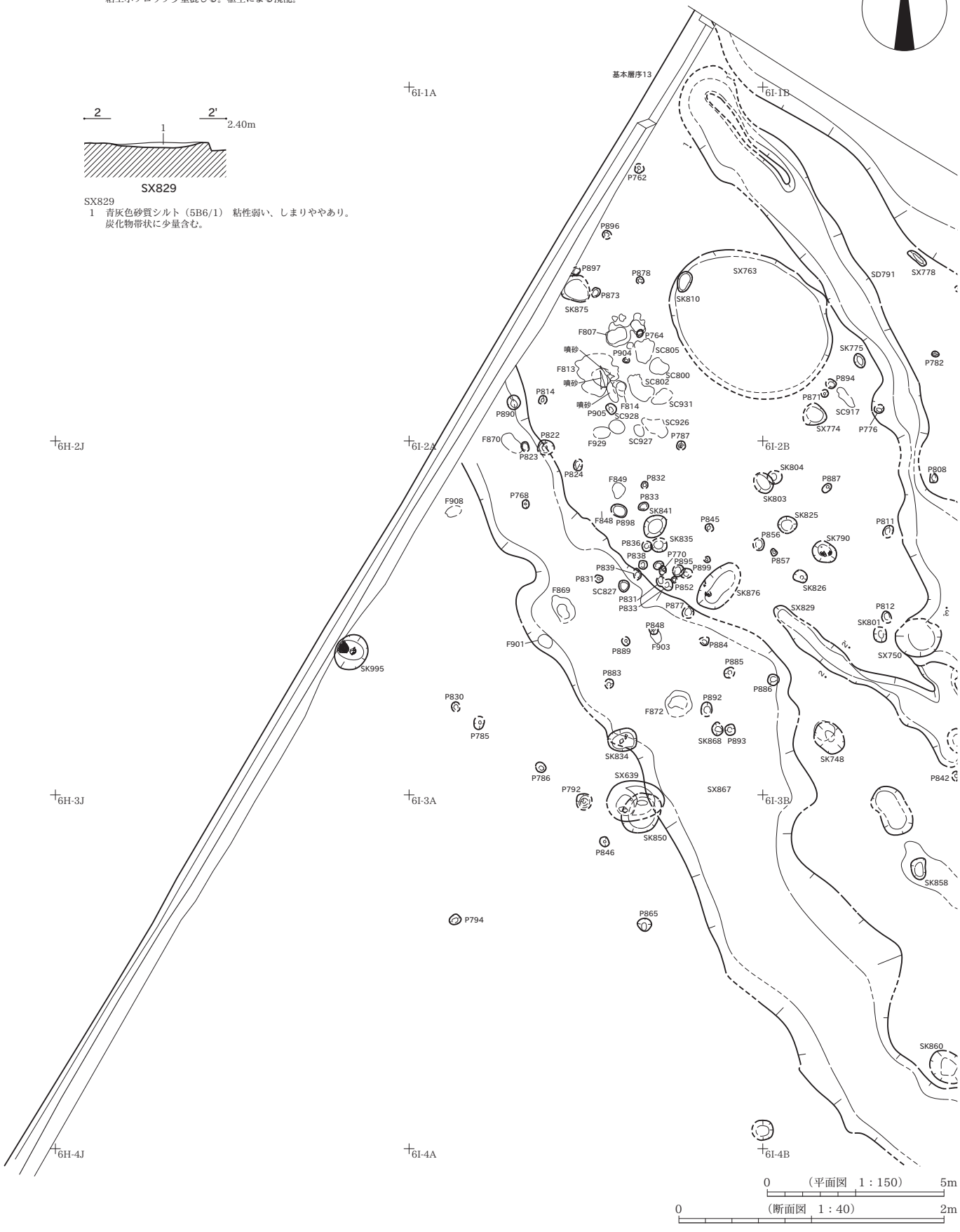
F767
1　褐灰色細砂（5YR6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。灰混じる。被熱土。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

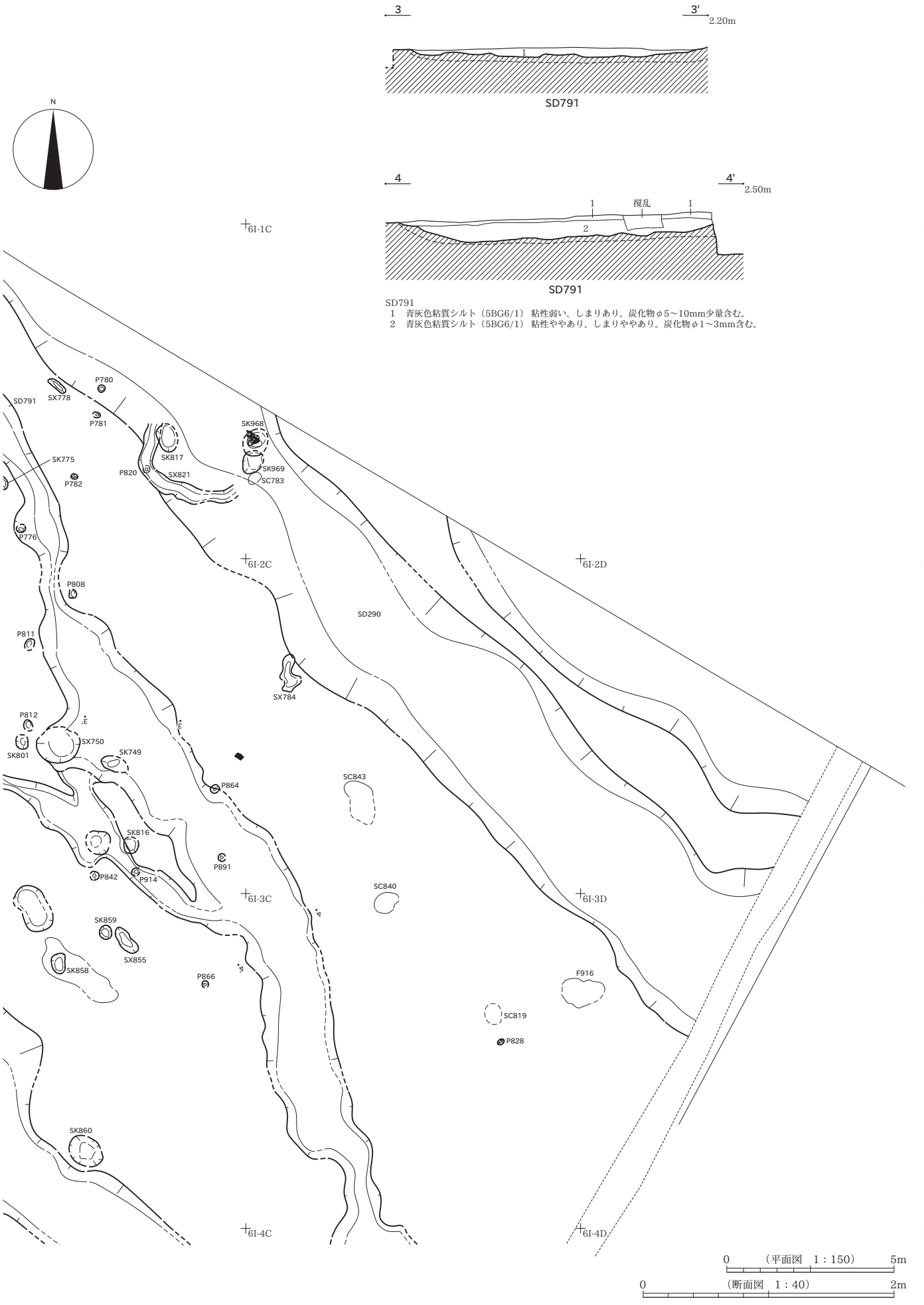


SD791
1　灰色砂質シルト（7.5Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
　粘土小ブロック少量混じる。植生による撹乱。

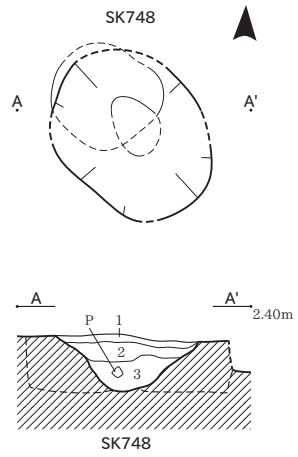
SX829
1　青灰色砂質シルト（5B6/1）　粘性弱い、しまりややあり。
　炭化物帯状に少量含む。



6 区下層中面平面分割図（2）SD791

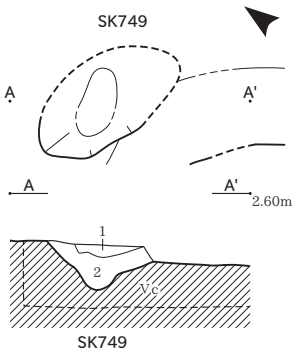


SD791
1　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性弱い、しまりあり。炭化物φ5～10mm少量含む。
2　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～3mm含む。



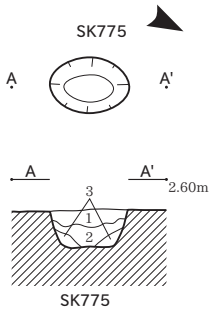
SK748

SK748
1　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。焼土ブロック混じる。
2　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性あり、しまりややあり。炭化物帯状に含む。
3　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性あり、しまりあり。炭化物斑状に含む。



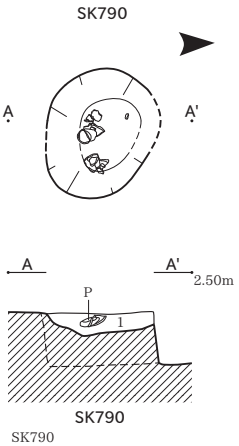
SK749

SK749
1　灰白色粘質シルト（10Y7/1）粘性あり、しまりややあり。炭化物多量含む。
2　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物帯状に少量含む。



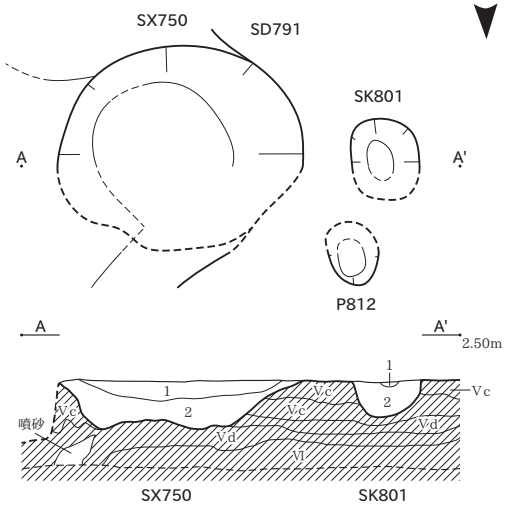
SK775

SK775
1　灰色粘質シルト（10Y6/1）粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。水酸化鉄斑状に分布。
2　灰色粘質シルト（7.5Y6/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
3　灰色砂質シルト（7.5Y6/1）粘性弱い、しまりややあり。



SK790

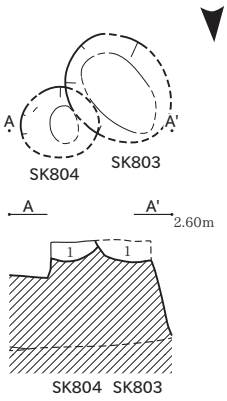
SK790
1　青灰色粘質シルト（10BG6/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。噴砂による撹乱。



SX750　SK801

SX750
1　灰白色粘質シルト（10YR8/1）粘性あり、しまり弱い。炭化物φ3～5mm少量含む。
2　青灰色砂質シルト（10BG6/1）粘性あり、しまり弱い。炭化物φ5～10mm少量含む。

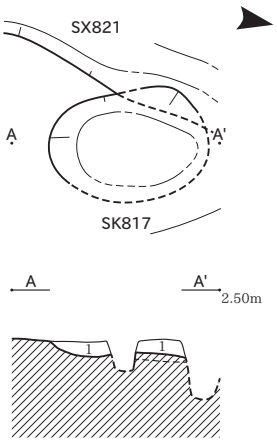
SK801
1　明青灰色粘質シルト（5B7/1）　粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ3～5mm少量含む。
2　青灰色粘質シルト（5B6/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物φ5～10mm少量含む。



SK804　SK803

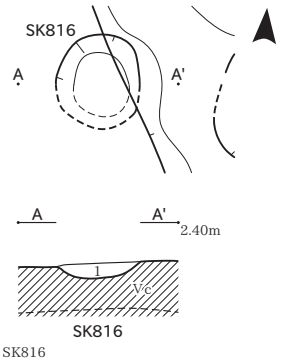
SK804
1　灰白色粘質シルト（10Y8/1）　粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ5～10mm含む。

SK803
1　灰白色粘質シルト（7.5Y8/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1～3mm少量含む。



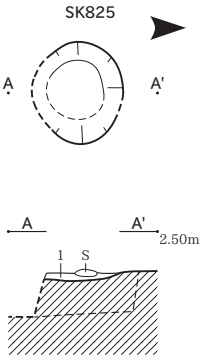
SK817

SK817
1　灰色粘質シルト（7.5Y6/1）粘性あり、しまりあり。炭化物含む。



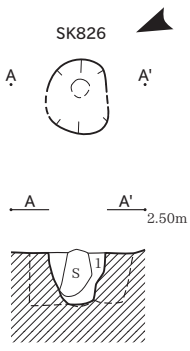
SK816

SK816
1　緑灰色粘質シルト（5G6/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を斑状に含む。



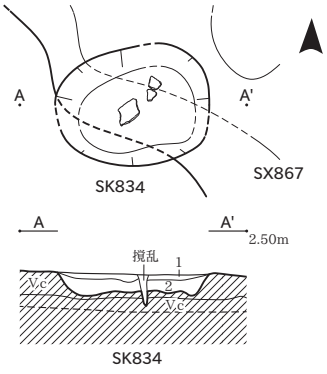
SK825

SK825
1　青灰色粘質シルト（5BG6/1）粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。未分解有機物含む。



SK826

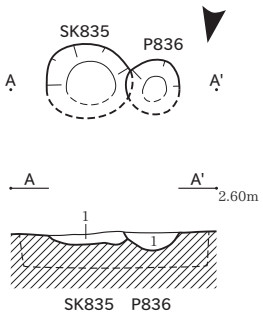
SK826
1　青灰色粘質シルト（10BG5/1）粘性あり、しまりややあり。炭化物少量含む。未分解有機物含む。水酸化鉄斑状に分布。



SK834

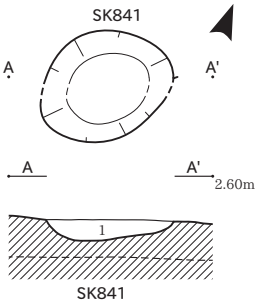
SK834
1　灰色粘質シルト（5B5/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を帯状に含む。
2　灰色粘質シルト（5B5/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

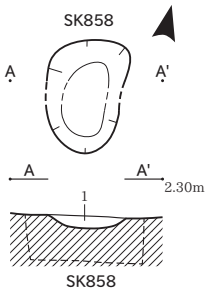


SK835
1　青灰色砂質シルト（10BG5/1）　粘性弱い、しまり弱い。噴砂による撹乱。

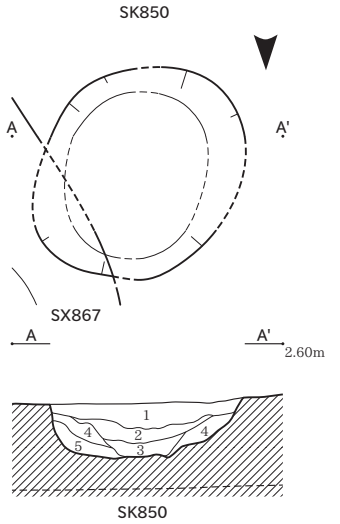
P836
1　青灰色砂質シルト（10BG5/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



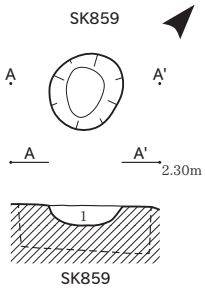
SK841
1　青灰色砂質シルト（5B5/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。噴砂による撹乱。



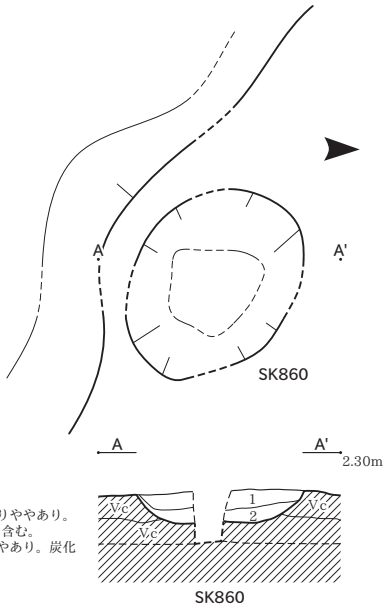
SK858
1　青灰色粘質シルト（10BG6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。



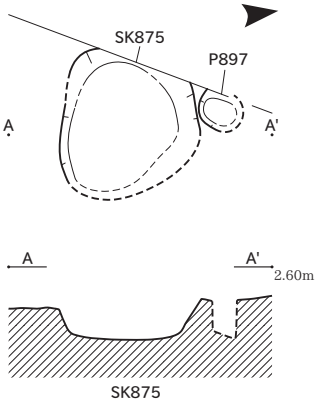
SK850
1　緑灰色粘質シルト（5G5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　青灰色粘質シルト（5BG5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。炭化物斑状に含む。
3　青灰色粘質シルト（5BG5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄少量分布。炭化物含む。
4　青灰色砂質シルト（5BG5/1）　粘性弱い、しまりややあり。
5　暗青灰色砂質土（5BG4/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。

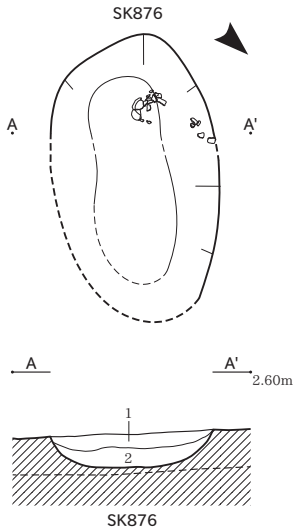


SK859
1　青灰色粘質シルト（5B6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。

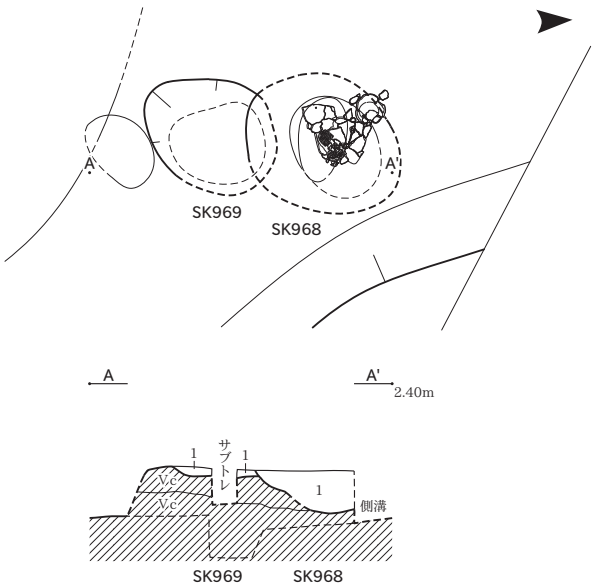


SK860
1　青灰色粘質シルト（5B5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。砂質土斑状混じる。炭化物を含む。
2　青灰色粘質シルト（5B5/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物が帯状に混じる。



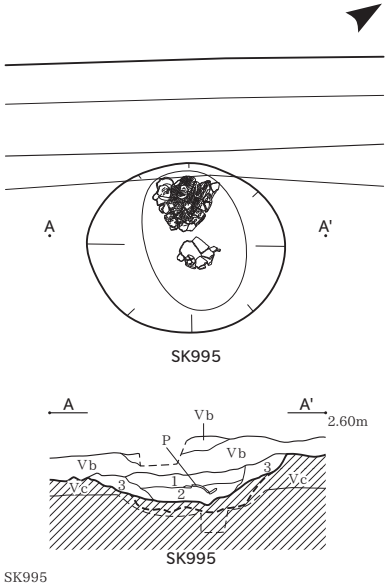


SK876
1　青灰色粘質シルト（10BG5/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物含む。
2　青灰色粘質シルト（10BG5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。



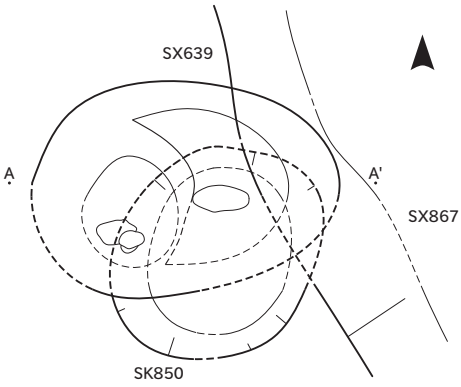
SK968
1　青灰色粘質シルト（5BG6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物・焼土含む。水酸化鉄斑状に分布。

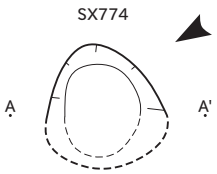
SK969
1　青灰色砂質シルト（5BG6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。

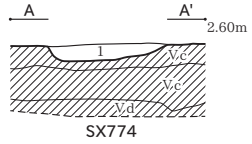


SK995
1　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物少量含む。水酸化鉄斑状に分布。未分解有機物多量含む。
2　青灰色粘質シルト（5BG6/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物少量含む。水酸化鉄斑状に分布。噴砂による撹乱。
3　青灰色粘質シルト（5BG6/1）　粘性あり、しまりややあり。未分解有機物含む。

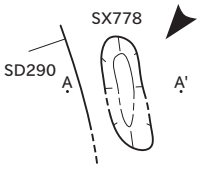
0　（平面図・断面図　1：40）　2m

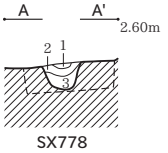




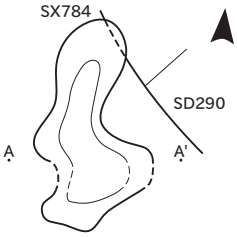


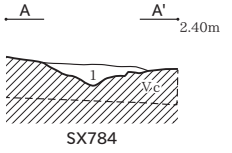
SX774
1　黄灰色砂質シルト（2.5Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



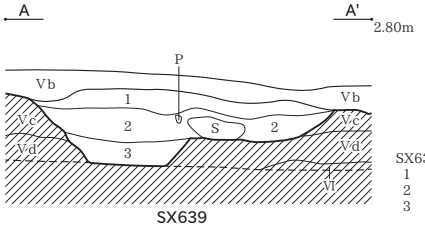


SX778
1　灰白色粘質シルト（10Y7/1）　粘性あり、しまりややあり。ラミナ状に堆積。
2　灰色粘質シルト（10Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。砂層をはさむ。
3　灰色砂質シルト（10Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。

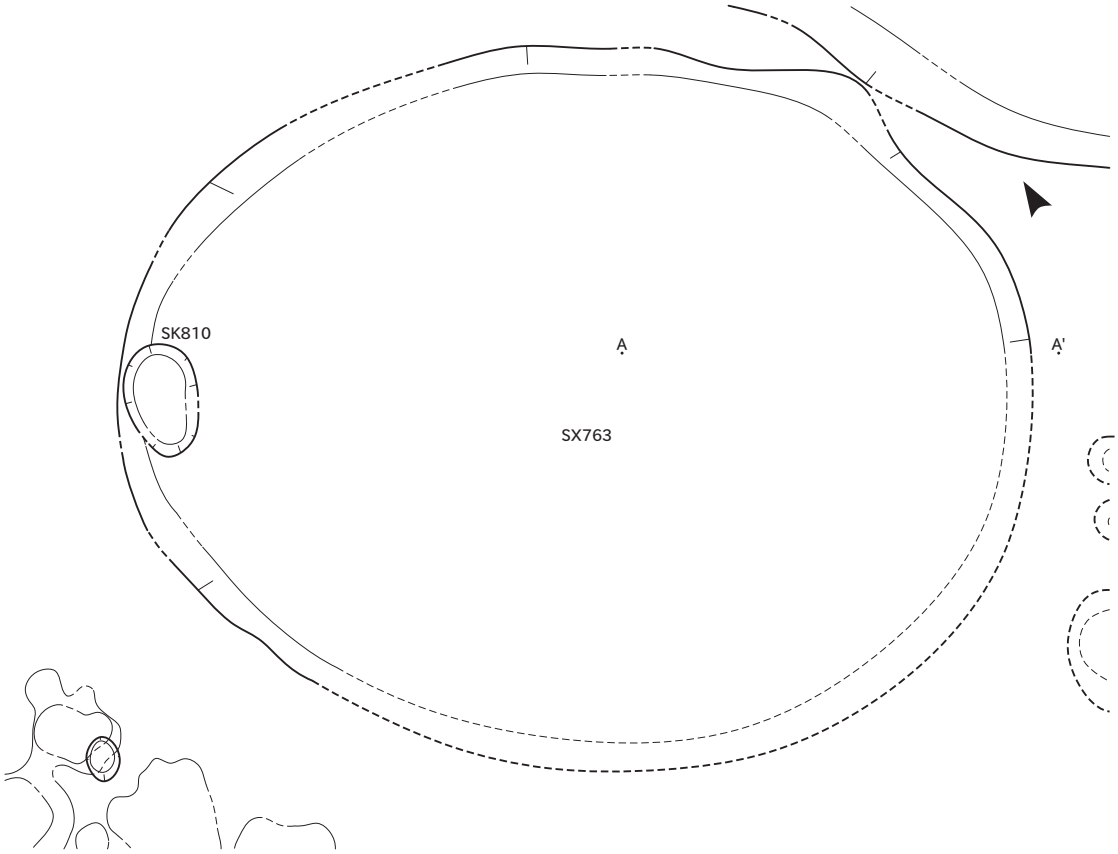


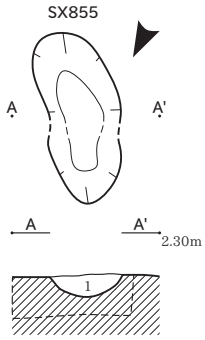


SX784
1　灰色粘質シルト（10BG5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。



SX639
1　灰白色粘質シルト（10YR7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物斑状に含む。
2　灰色粘質シルト（N6/）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
3　灰色砂質シルト（N6/）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物帯状に含む。マンガン粒斑状に含む。

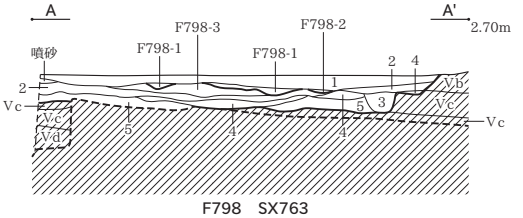




SX855
1　灰色粘質シルト（7.5Y6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。

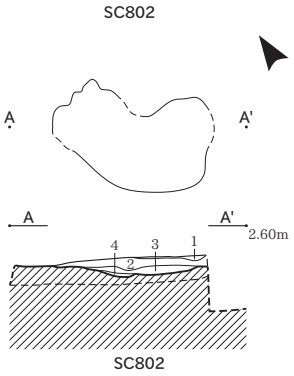
SX763
1　にぶい黄橙色粘質シルト（10YR7/3）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/2）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。焼土が混じる。
3　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/3）　粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。周溝状に凹む。
4　灰色砂質シルト（10Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。弱く被熱。
5　灰色砂質土（10Y6/1）　粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。粘土シルトがラミナ状に堆積。

F798
1　灰褐色焼土（5YR5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。灰混じる。地床炉。
2　灰黄褐色砂質シルト（10YR6/2）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。灰・焼土混じる。
3　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/3）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。焼土少量混じる。水酸化鉄斑状に分布。

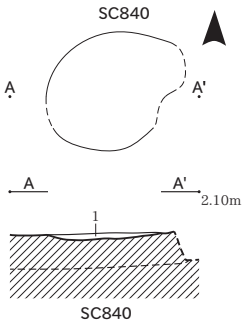


0　（平面図・断面図　1：40）　2m

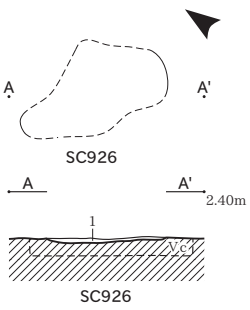
6 区下層中面遺構個別図 SC（1）SC802・840・926・927・928・931、F（1）F814・869・870・872・901・903・908・916



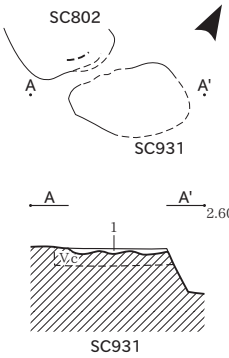
SC802
1 にぶい黄橙色焼土（10YR7/3） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。火床か。
2 灰色砂質シルト（10Y6/1） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物・灰の互層。
3 灰色焼土（10Y5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。
4 灰色砂質シルト（10Y5/1） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物・灰の互層。



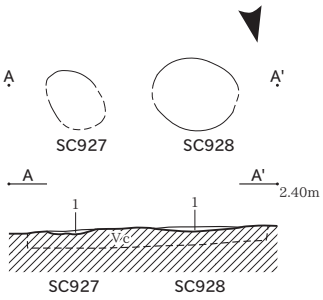
SC840
1 青灰色砂質シルト（5B5/1） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。



SC926
1 にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/3） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。焼土が混じる。

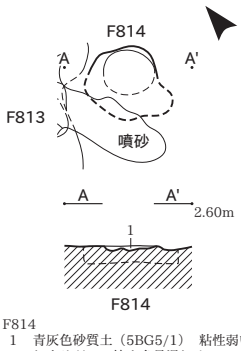


SC931
1 褐灰色砂質シルト（5YR6/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。灰・焼土が少量混じる。

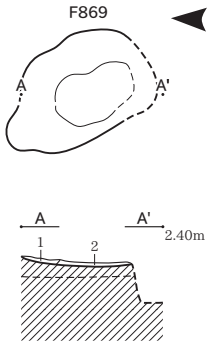


SC927
1 にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/4） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。灰が少量混じる。

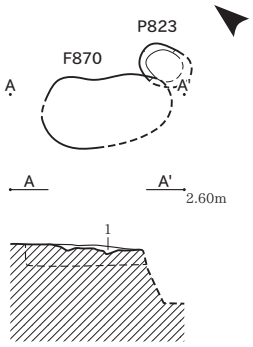
SC928
1 にぶい黄橙色炭化物層（10YR7/4） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。灰・焼土が混じる。



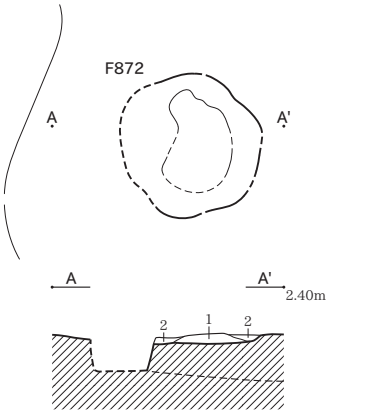
F814
1 青灰色砂質土（5BG5/1） 粘性弱い、しまり弱い。焼土多量混じる。



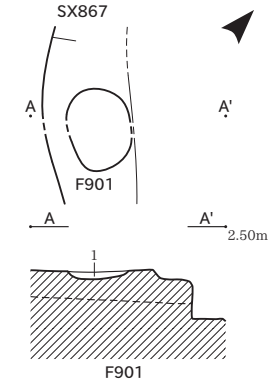
F869
1 灰色砂質土（10Y5/1） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。
2 灰色砂質土（10Y5/1） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。焼土・灰が多量混じる。



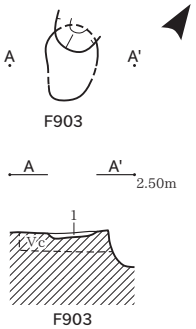
F870
1 青灰色砂質土（5B5/1）粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。焼土が多量混じる。火床か。



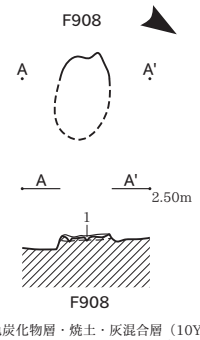
F872
1 褐灰色焼土（7.5YR6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。火床。
2 灰色粘質シルト（10Y6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。灰多量混じる。



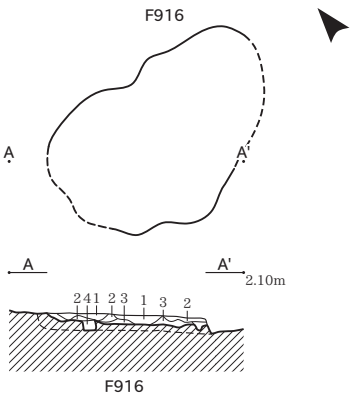
F901
1 青灰色粘質シルト（10BG5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物・焼土・灰の混層。火床。



F903
1 青灰色砂質土（5BG6/1） 粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。焼土多量混じる。



F908
1 黒色炭化物層・焼土・灰混合層（10YR2/1） 粘性弱い、しまりややあり。火床か。



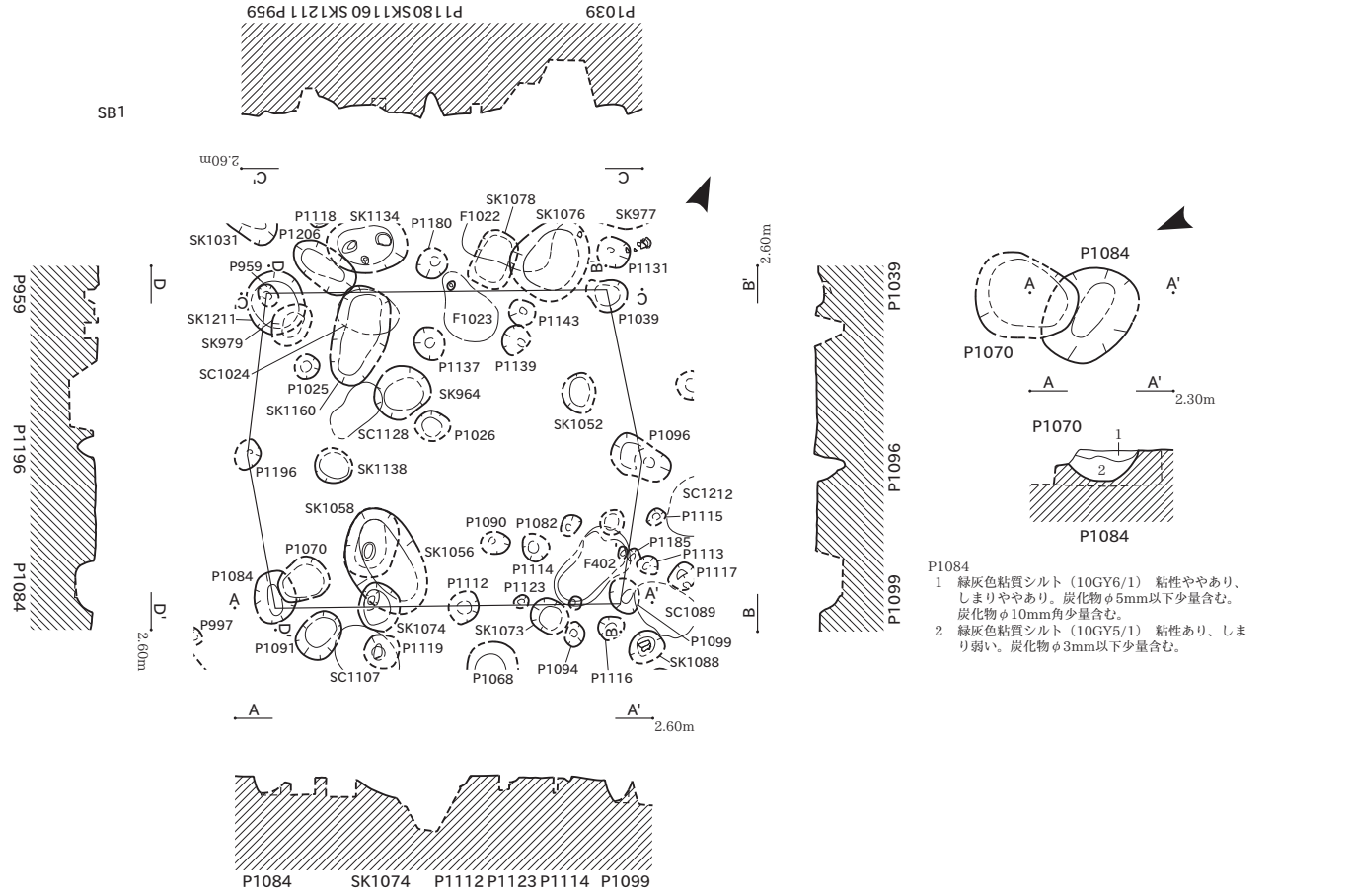
F916
1 緑灰色砂質シルト（10G6/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。
2 暗緑灰色砂質シルト（10G5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。焼土多量混じる。火床か。
3 緑灰色砂質シルト（10G6/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。焼土少量混じる。
4 暗緑灰色砂質シルト（10G5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。

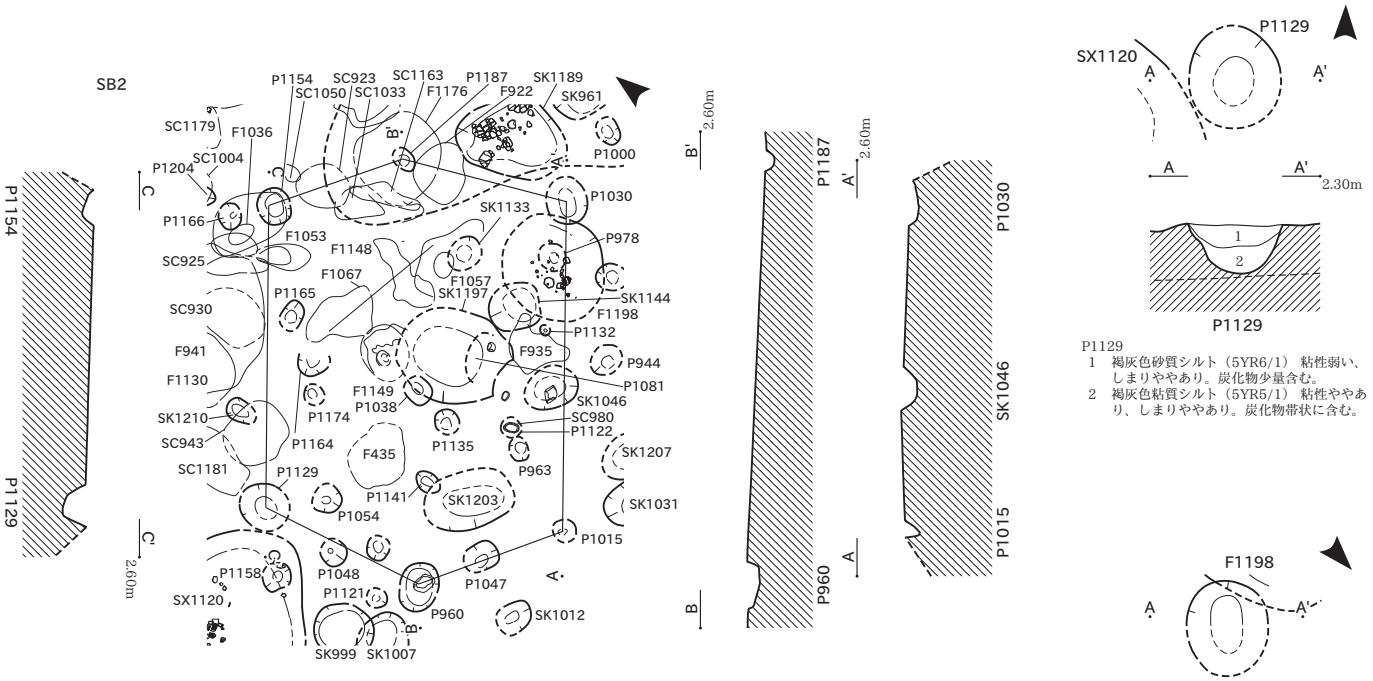
0 （平面図・断面図 1：40） 2m

N
6I-1A
6I-1B
6I-2A
6I-2B
6I-3J
6H-3J
6I-3A
6I-3B
P949
P945
P947
P946
SC1195
F1044
F1140
F924
P1178
SC1194
SK938
SC1191
SC1110
P1146
SC1184
F1042
SC919
SK933
SK1061
P1043
SC1153
SC925
F1170
SC940
F1147
P1177
SC1035
SC939
F1032
F921
F1208
SC1004
SC1179
F621
SK1168
F1190
SC930
F941
F1130
P1164
SK1210
SC943
F1149
SC1181
P1174
P1129
P1054
P1204
P1166
F1036
SC1050
P1154
SC923
F1213
F1053
SC1033
SC1163
F1176
P1187
F1148
F922
F1057
SK1189
SK1133
P1165
F1067
SX1120
SB2
SK1197
P1038
F435
P1081
SK961
P1000
P1158
P1048
P1135
F951
SC980
P1030
P978
F1198
SK977
P1127
P1086
P981
F1022
F1087
SK1152
SK999
P1121
P1069
P1072
SK1007
P960
P952
SB7
P1141
P1047
P1001
SK1012
P1013
P954
F955
P1111
SK1203
P963
P1122
P1015
F935
SK1046
SK1207
SK1144
SB11
P1132
P944
SK1078
SK1134
SB9
P1131
SK1076
P1039
P1143
P1139
P1040
SK1052
P1096
SC1212
P1097
P1115
P1185
P1113
P1098
F1023
P1180
P1137
SK964
P1026
SB1
F402
P1031
P1016
P1118
P1206
P959
SK1211
SK979
SC1024
P1025
SK1160
SC1128
SK1138
SX1056
P1082
P1090
P1123
P1117
SC1089
P1099
SK1088
SB3
P1202
P1116
P1114
F1102
P974
P957
P956
P1002
P966
P1011
P1010
P994
噴砂
P1192
P1028
P1018
P1051
P998
SK971
P1196
P1034
P1070
SK1073
P1112
P1084
P1068
P1094
P1100
P1065
P997
P1091
SC1107
P1119
SK1058
SK1074
SB12
P1186
P1079
P975
P1019
P1020
P1062
P1136
P1066
SK1083
F1095
F1055
P1059
P1092
P1080
SK983
P1108
SK984
SK987
SK993
SK1093
SK986
P1125
SK991
SK1106
P1105
P1205
P1171
0
（平面図　1：150）
5m

6 区下層下面平面分割図（2）

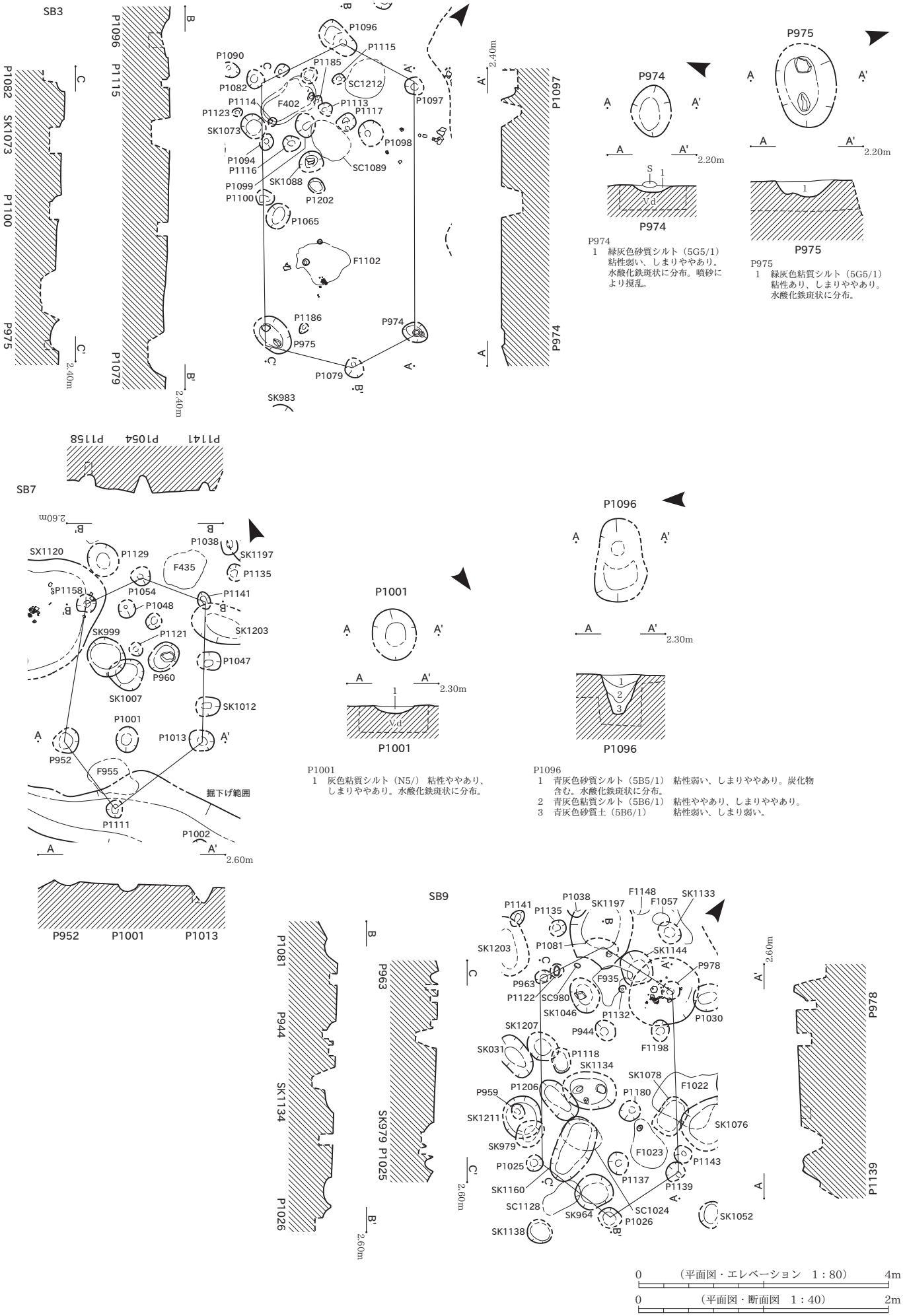
0 （平面図 1：150） 5m





0　（平面図・エレベーション　1：80）　4m

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

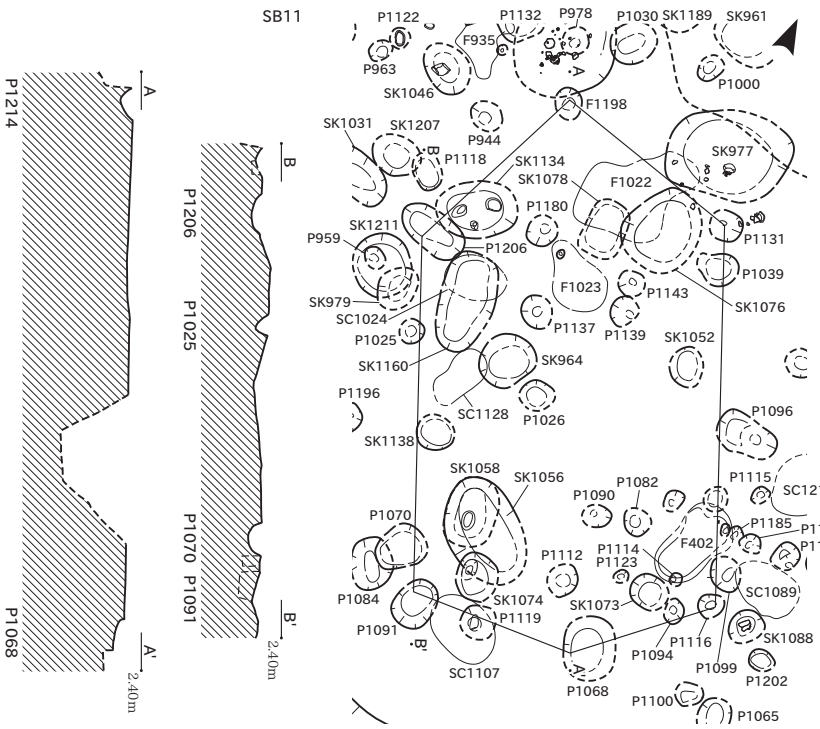


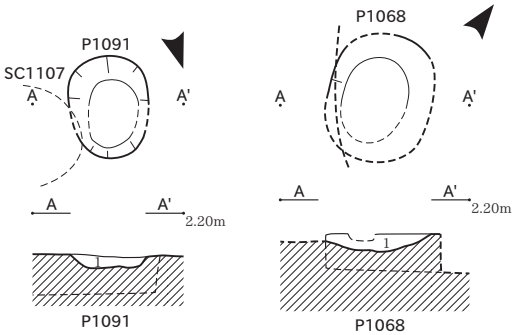
P974
1　緑灰色砂質シルト（5G5/1）粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。噴砂により撹乱。

P975
1　緑灰色粘質シルト（5G5/1）粘性あり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。

P1001
1　灰色粘質シルト（N5/）粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。

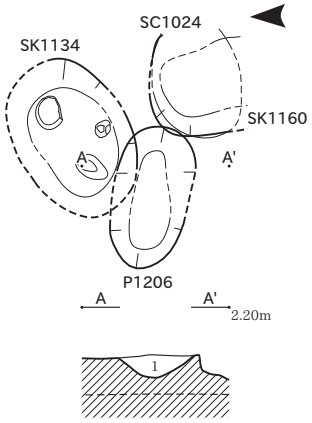
P1096
1　青灰色砂質シルト（5B5/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。水酸化鉄斑状に分布。
2　青灰色粘質シルト（5B6/1）粘性ややあり、しまりややあり。
3　青灰色砂質土（5B6/1）粘性弱い、しまり弱い。



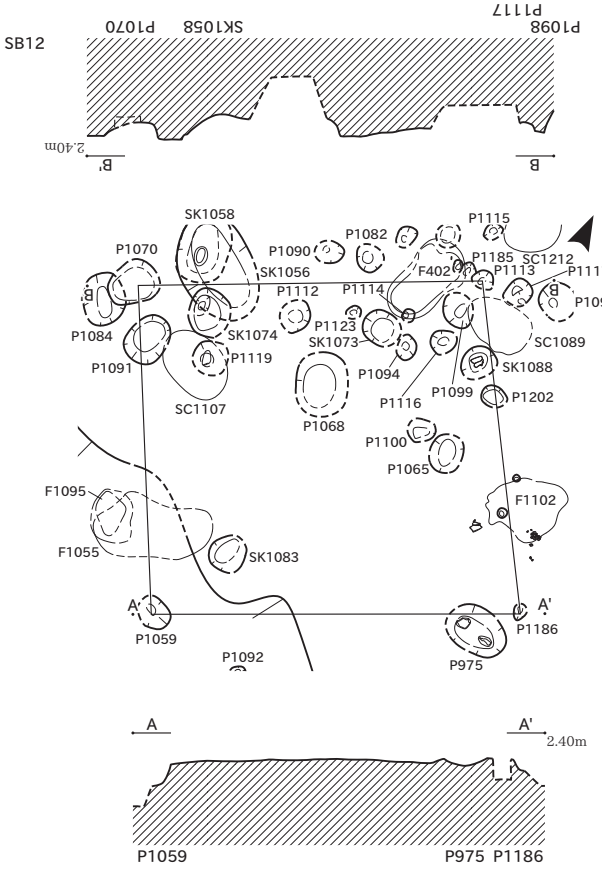


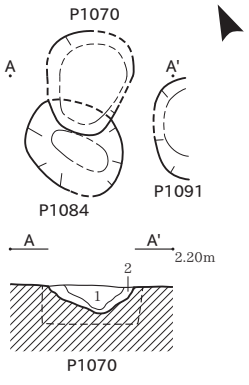
P1091
1　暗青灰色粘質シルト（5B4/1）　粘性あり、しまりなし。炭化物φ5mm以下少量含む。炭化物φ10mm角少量含む。

P1068
1　緑灰色粘質シルト（5G5/1）　粘性あり、しまり弱い。炭化物φ3mm以下少量含む。



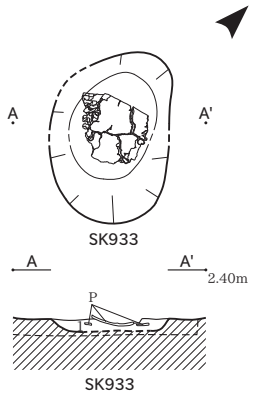
P1206
1　青灰色砂質シルト（5B5/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。



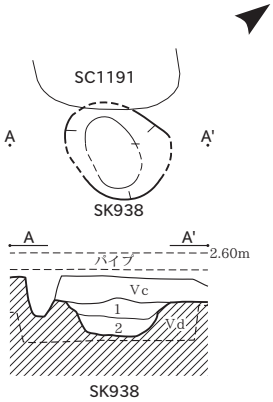


P1070
1　緑灰色粘質シルト（10G5/1）　粘性あり、しまり弱い。炭化物φ15mm以下少量含む。
2　暗緑灰色粘質シルト（10G4/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物少量含む。

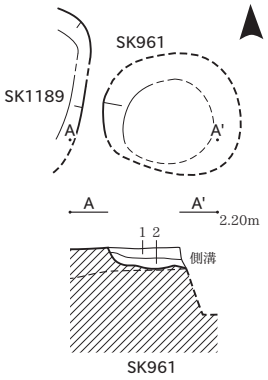
0　（平面図・エレベーション　1：80）　4m
0　（平面図・断面図　1：40）　2m



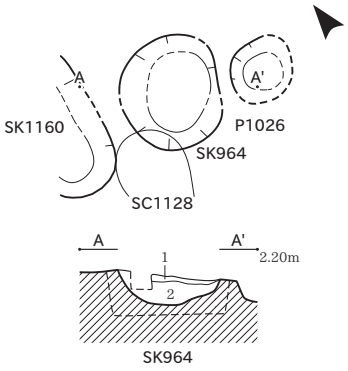
SK933
1　青灰色砂質シルト（5BG6/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物層状に含む。



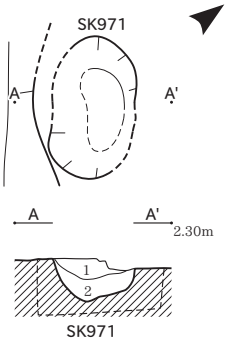
SK938
1　青灰色砂質シルト（5BG6/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。
2　青灰色砂質土（5BG6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



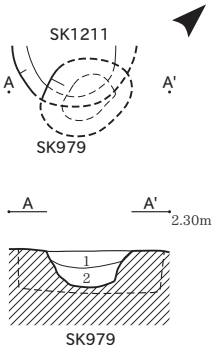
SK961
1　青灰色砂質シルト（5BG6/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物帯状に含む。
2　青灰色砂質シルト（5BG6/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。



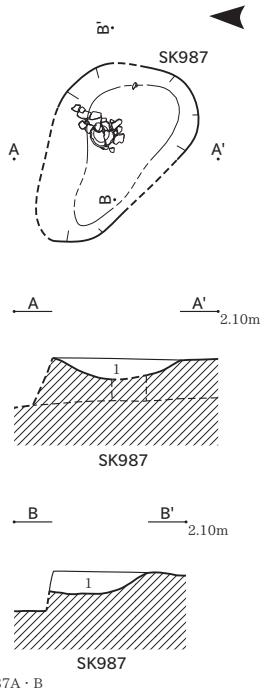
SK964
1　灰色粘質シルト（5Y6/1）粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。砂質土ラミナ状に堆積。
2　灰色砂質土（5Y5/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。



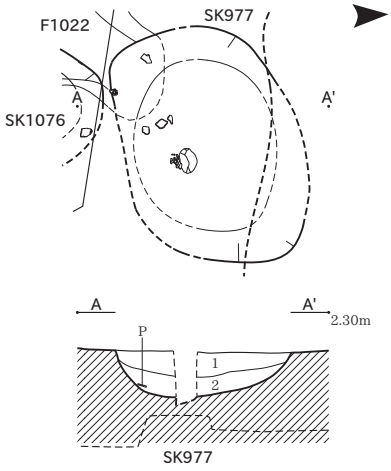
SK971
1　青灰色砂質シルト（5B6/1）粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。噴砂により中央部撹乱。
2　青灰色粘質シルト（5B6/1）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物帯状に含む。噴砂により一部撹乱。



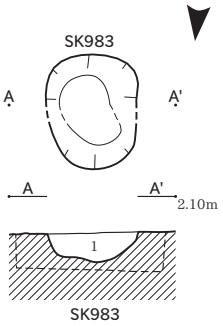
SK979
1　青灰色砂質シルト（5B6/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。噴砂により一部撹乱。
2　青灰色砂質シルト（5B6/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物帯状に含む。噴砂により一部撹乱。



SK987A・B
1　暗青灰色粘質シルト（5B4/1）粘性あり、しまりなし。炭化物φ1mm以下少量含む。

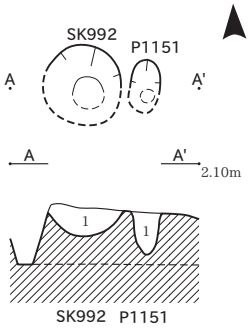


SK977
1　灰色粘質シルト（N6/）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物斑状に含む。
2　灰色粘質シルト（N5/）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物帯状に含む。



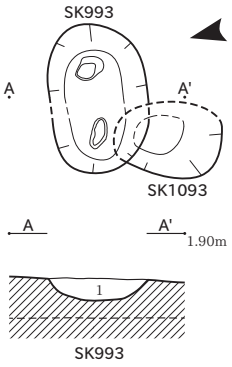
SK983
1　オリーブ灰色粘質シルト（2.5GY5/1）粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

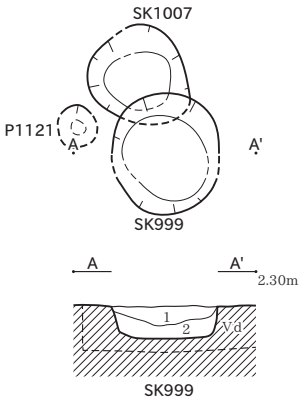


SK992
1 青灰色粘質シルト（5B5/1） 粘性あり、しまりなし。炭化物φ2mm以下含む。

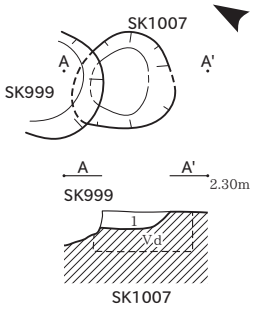
P1151
1 青灰色粘質シルト（5B6/1） 粘性あり、しまり弱い。



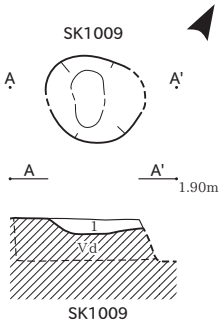
SK993
1 緑灰色粘質シルト（7.5GY5/1） 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1mm以下少量含む。



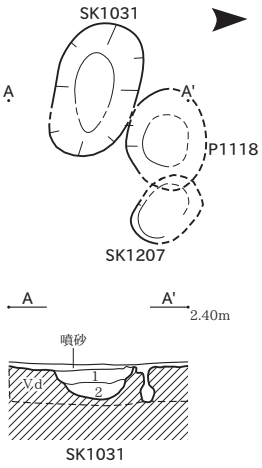
SK999
1 明オリーブ灰色粘質シルト（2.5GY7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。炭化物斑状に含む。
2 オリーブ灰色粘質シルト（2.5GY6/1） 粘性あり、しまりややあり。水酸化鉄パイプ状に分布。



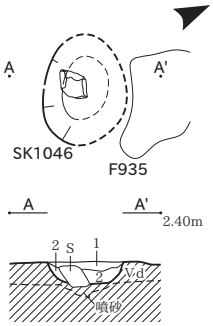
SK1007
1 灰白色砂質シルト（N7/） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。



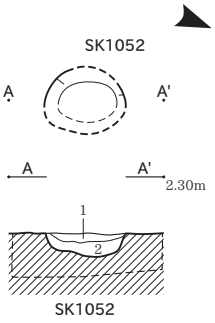
SK1009
1 灰白色粘質シルト（2.5Y7/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。



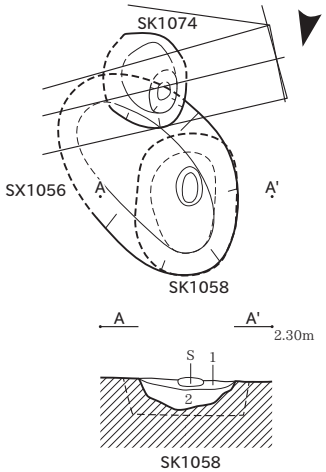
SK1031
1 青灰色砂質シルト（5B6/1） 粘性弱い、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。炭化物少量含む。
2 青灰色砂質シルト（5B5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



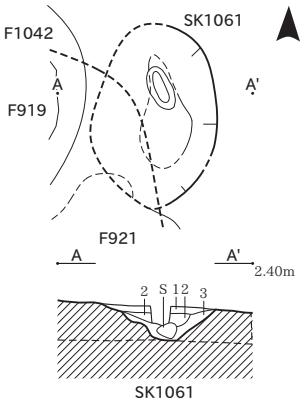
SK1046
1 灰色砂質シルト（N6/） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。
2 灰色砂質シルト（N5/） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。ラミナ状に堆積。



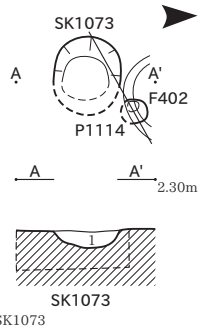
SK1052
1 青灰色砂質シルト（5BG6/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。噴砂により撹乱。
2 青灰色砂質シルト（5BG5/1） 粘性弱い、しまりややあり。砂質土ラミナ状に堆積。炭化物少量含む。



SK1058
1 オリーブ灰色粘質シルト（5GY6/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。噴砂により撹乱。
2 オリーブ灰色粘質シルト（5GY5/1） 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。



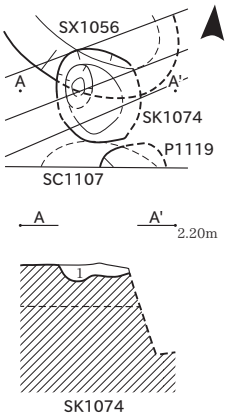
SK1061
1 明オリーブ灰色砂質土（2.5GY7/1） 粘性弱い、しまり弱い。水酸化鉄斑状に分布。炭化物層状に含む。
2 オリーブ灰色砂質シルト（2.5GY6/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。
3 オリーブ灰色砂質シルト（2.5GY5/1） 粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。



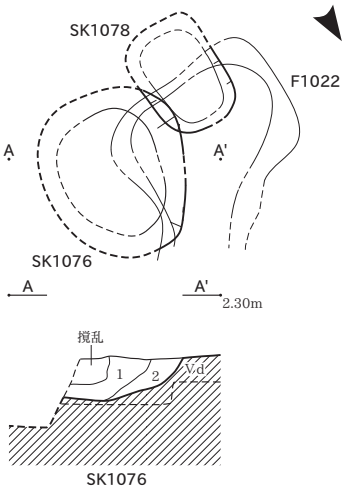
SK1073
1 緑灰色粘質シルト（5G5/1） 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ1mm以下少量含む。

0 （平面図・断面図 1：40） 2m

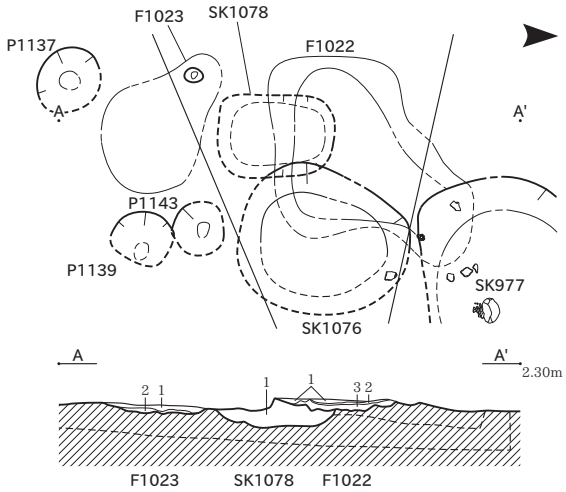
6 区下層下面遺構個別図 SK（3）SK933・1074・1076・1078・1083・1088・1093・1133・1134・1138・1144・1152、F1022・1023



SK1074
1　明緑灰色粘質シルト（5G7/1）粘性あり、しまり弱い。炭化物φ3～15mm少量含む。



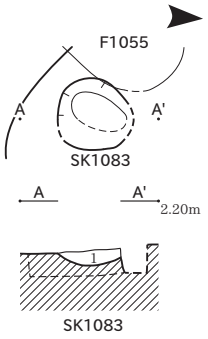
SK1076
1　黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）粘性ややあり、しまりややあり。水酸化鉄斑状に分布。
2　黄灰色砂質シルト（2.5Y4/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



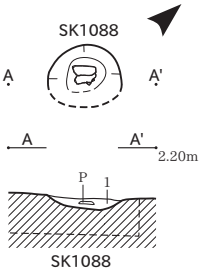
F1022
1　灰黄褐色砂質シルト・焼土（10YR6/2）粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。火床。砂質土・灰・骨片が混じる。
2　にぶい黄褐色炭化物層（10YR5/3）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。焼土混じる。
3　灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。被熱。

F1023
1　暗灰黄色焼土（2.5Y5/2）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。灰・骨片が混じる。火床。
2　暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。被熱赤化した地山。
3　黄灰色砂質シルト（2.5Y5/1）が混じる。　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。灰・焼土・骨片

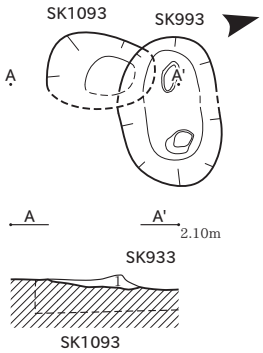
SK1078
1　緑灰色粘質シルト（5G5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。



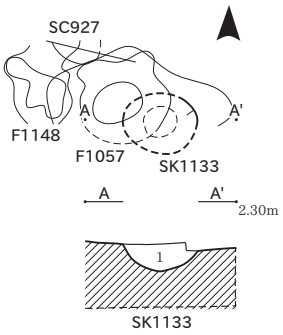
SK1083
1　緑灰色粘質シルト（5G5/1）　粘性あり、しまり弱い。



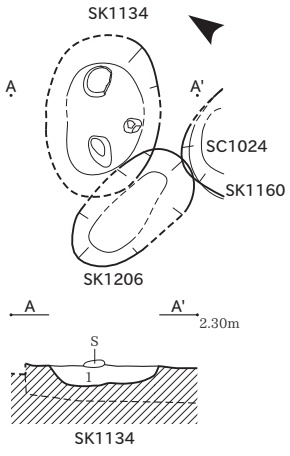
SK1088
1　緑灰色砂質シルト（10GY6/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。



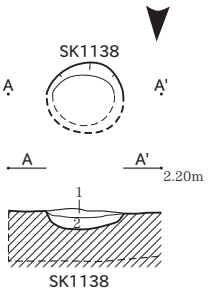
SK1093
1　青灰色粘質シルト（5B5/1）粘性あり、しまり弱い。



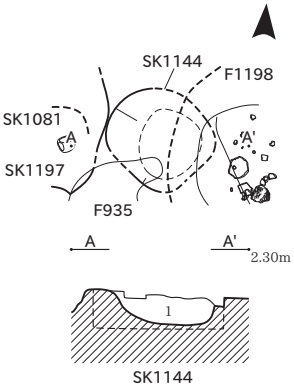
SK1133
1　青灰色粘質シルト（5B5/1）粘性あり、しまり弱い。炭化物φ10mm以下少量含む。覆土に砂質土混じる。



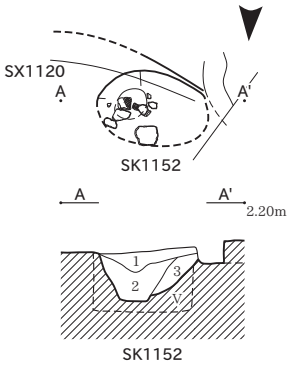
SK1134
1　暗灰黄色粘質シルト（2.5Y5/2）粘性あり、しまり弱い。底面付近は炭化物φ5mm以下少量含む。



SK1138
1　褐灰色粘質シルト（10YR6/1）粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ5mm以下少量含む。
2　褐灰色粘質シルト（10YR5/1）粘性あり、しまりなし。炭化物φ3mm以下少量含む。

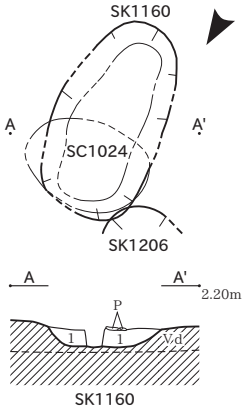


SK1144
1　褐灰色砂質シルト（10YR6/1）粘性弱い、しまりややあり。

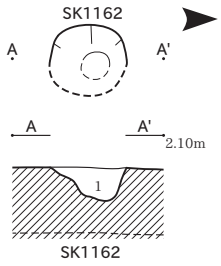


SK1152
1　緑灰色砂質シルト（5G5/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。水酸化鉄斑状に分布。
2　暗緑灰色砂質シルト（5G4/1）粘性弱い、しまりややあり。
3　緑灰色砂質土（10G5/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物帯状に含む。

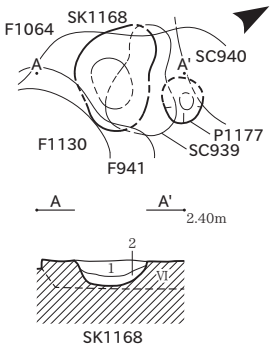
0　（平面図・断面図　1：40）　2m



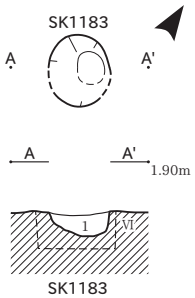
SK1160
1　青灰色砂質シルト（5B6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物帯状に含む。焼土少量混じる。噴砂により撹乱。



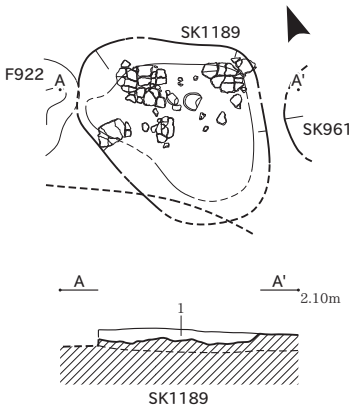
SK1162
1　青灰色粘土（5B5/1）　粘性あり、しまりなし。炭化物φ2mm以下少量含む。



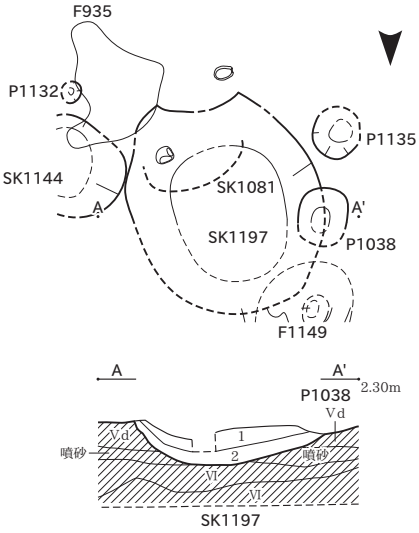
SK1168
1　青灰色砂質シルト（5B5/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物帯状に含む。
2　暗青灰色粘質シルト（5B4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。



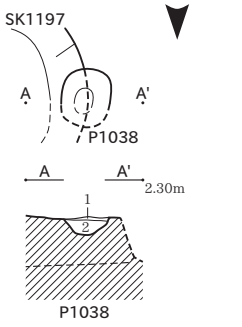
SK1183
1　緑灰色粘土（5G5/1）　粘性あり、しまりなし。植物遺体少量含む。



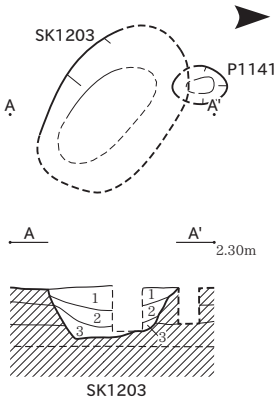
SK1189
1　青灰色砂質土（5B5/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。焼土混じる。



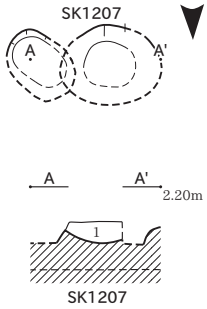
SK1197
1　灰色砂質土（7.5Y6/1）　　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。
2　灰色砂質シルト（7.5Y5/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。



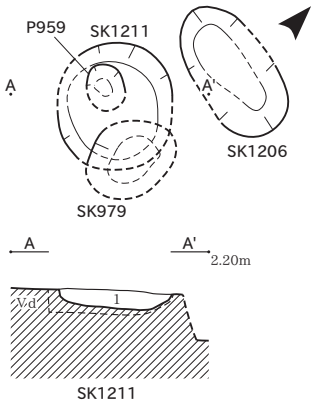
P1038
1　灰白色砂質シルト（7.5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。
2　灰色砂質シルト（7.5Y6/1）　　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。水酸化鉄斑状に分布。



SK1203
1　緑灰色砂質シルト（5G6/1）　粘性弱い、しまりあり。水酸化鉄斑状に分布。
2　緑灰色砂質シルト（10G6/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物少量含む。
3　緑灰色砂質土（5G5/1）　　粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。焼土多量混じる。



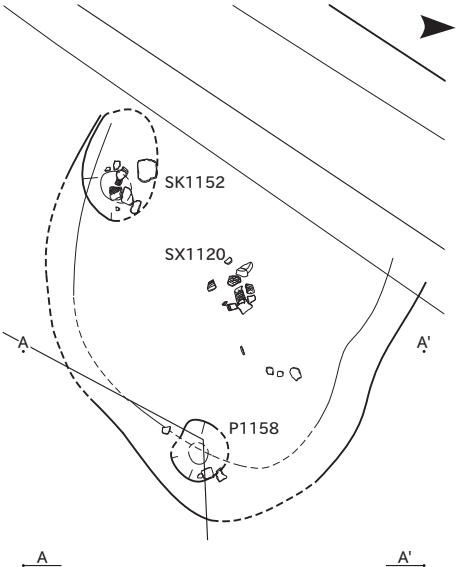
SK1207
1　青灰色砂質シルト（5BG5/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。

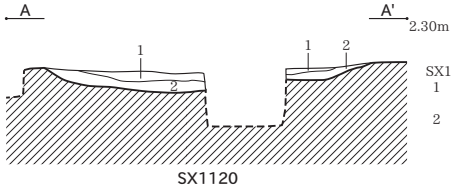


SK1211
1　褐灰色砂質シルト（10YR6/1）粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。水酸化鉄斑状に分布。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

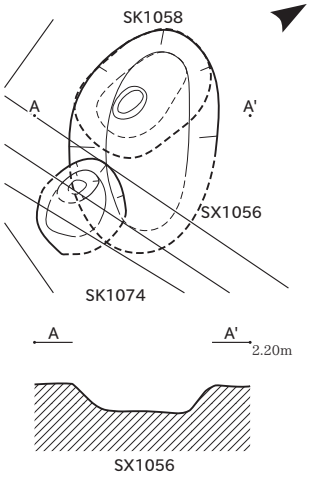
6 区下層下面遺構個別図 SX（1）SX1056・1120、SC（1）SC930・939・940・943・1107・1153・1179・1212



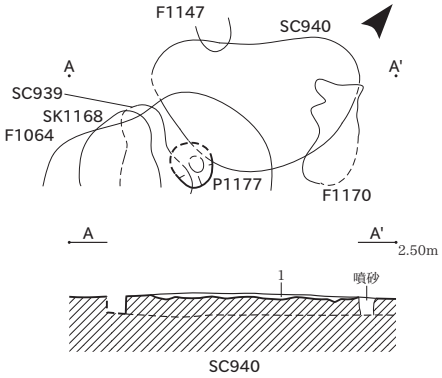


SX1120

SX1120
1　青灰色砂質シルト（5B6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。噴砂による撹乱。
2　青灰色粘質シルト（5B5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。

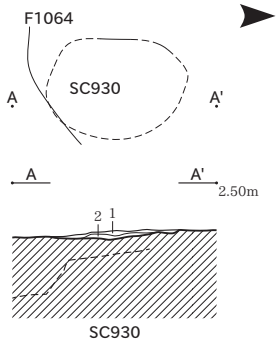


SX1056



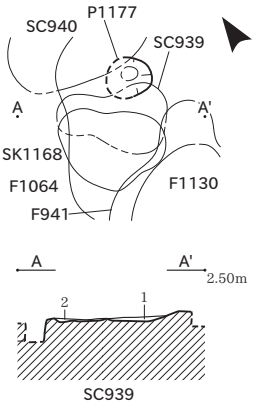
SC940

SC940
1　青灰色砂質シルト（5B6/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。焼土・灰混じる。



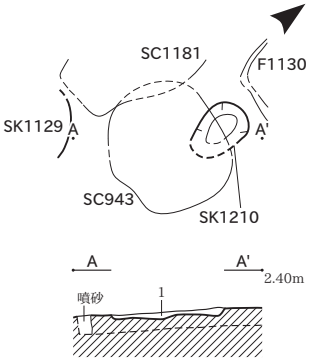
SC930

SC930
1　青灰色砂質土（5BG6/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。灰・焼土混じる。
2　青黒色炭化物層（5BG2/1）　粘性弱い、しまり弱い。焼土混じる。



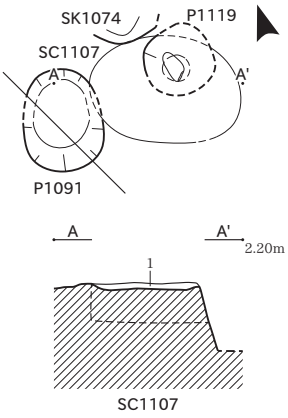
SC939

SC939
1　褐灰色焼土・灰・炭化物層混合層（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。
2　灰白色砂質土（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。焼土混じる。



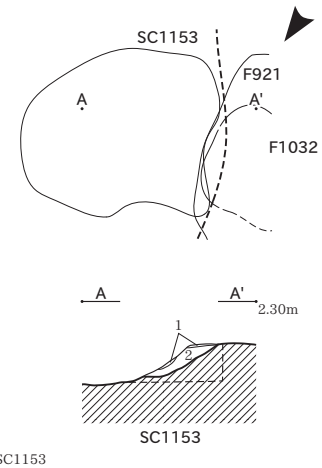
SC943

SC943
1　青灰色砂質土（5BG6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物多量含む。



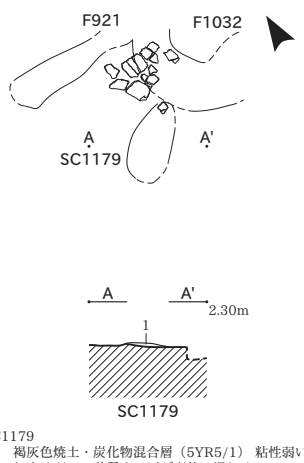
SC1107

SC1107
1　灰色粘質シルト（5Y6/1）　粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ10mm少量含む。



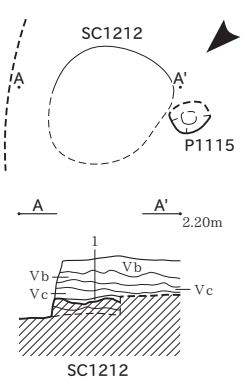
SC1153

SC1153
1　灰白色炭化物層（2.5Y7/1）　粘性弱い、しまり弱い。砂質土混じる。焼土少量混じる。
2　黄灰色砂質土（2.5Y6/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。



SC1179

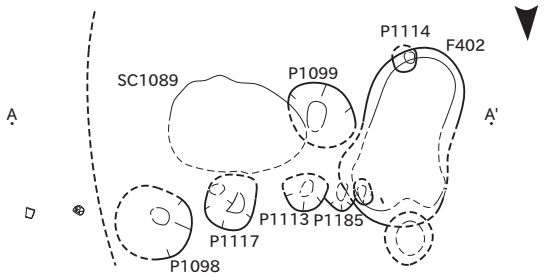
SC1179
1　褐灰色焼土・炭化物混合層（5YR5/1）　粘性弱い、しまり弱い。砂質土・灰が斑状に混じる。

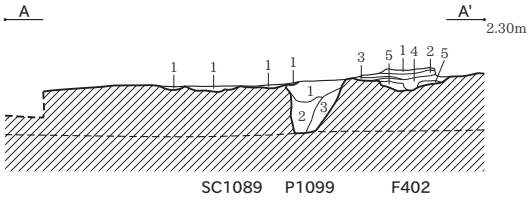


SC1212

SC1212
1　灰白色粘質シルト（10Y7/1）　粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ20mm以下少量含む。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

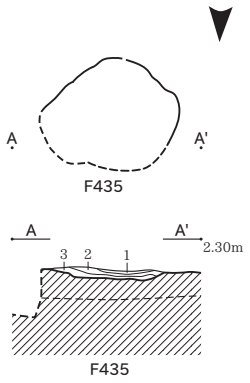




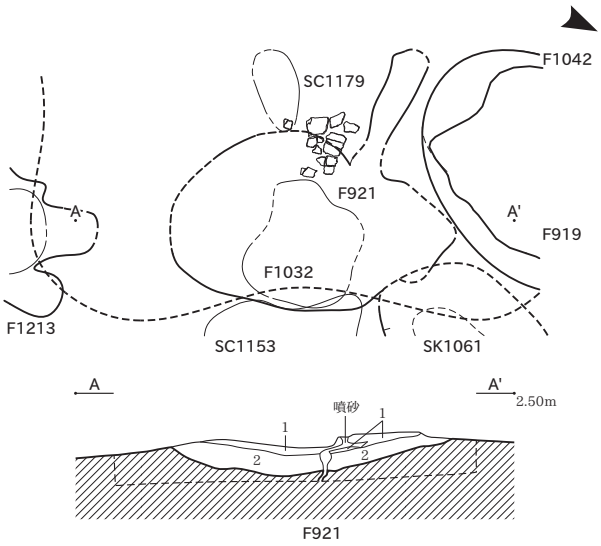
SC1089
1　明オリーブ灰色焼土・炭化物層（2.5GY7/1）　粘性弱い、しまり弱い。

F402
1　にぶい黄橙色焼土・灰・炭化物混合層（10YR7/3）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。骨片多量混じる。
2　にぶい黄橙色焼土（10YR7/2）粘性ややあり、しまり弱い。炭化物含む。灰混じる。火床。
3　灰黄色砂質シルト（2.5Y6/2）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。焼土混じる。
4　褐灰色砂質土（5YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。焼土少量混じる。
5　褐灰色砂質土（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。

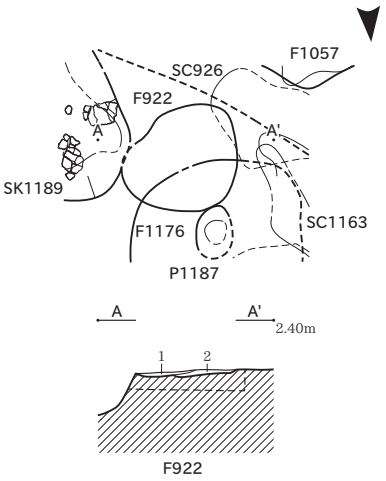
P1099
1　緑灰色粘質シルト（5G6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
2　緑灰色粘質シルト（5G5/1）　粘性あり、しまりややあり。炭化物少量含む。焼土少量混じる。
3　緑灰色砂質シルト（10G6/1）　粘性弱い、しまりややあり。



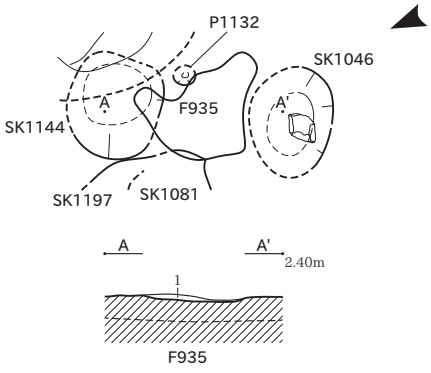
F435
1　暗赤灰色灰・炭化物層（10R4/1）　粘性ややあり、しまり弱い。焼土少量混じる。
2　褐灰色焼土（5YR4/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。灰混じる。火床。
3　褐灰色炭化物層（5YR4/1）粘性なし、しまりなし。焼土少量混じる。



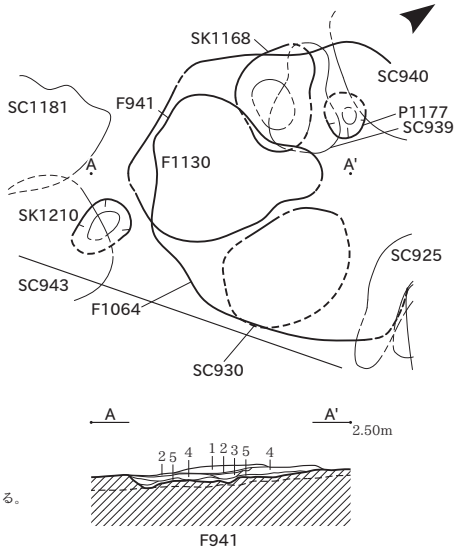
F921
1　灰色砂質土（10Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。灰混じる。火床面、被熱度高く良く発達する。
2　褐灰色焼土・炭化物・灰混合層（10YR5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。焼土斑状に混じる。



F922
1　褐灰色焼土（7.5YR6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。灰混じる。火床。
2　灰色砂質シルト（10Y6/1）粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。焼土混じる。



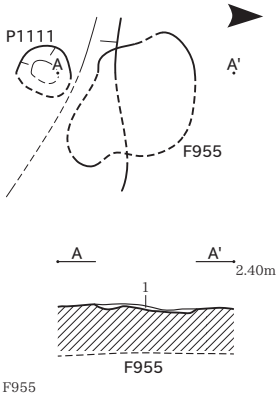
F935
1　暗青灰色焼土（5B4/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。灰混じる。



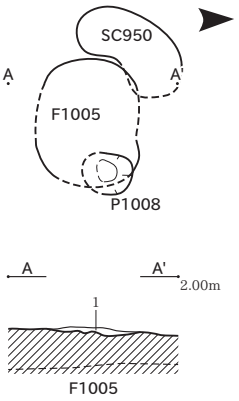
F941
1　青灰色砂質シルト（5BG6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。焼土ブロック状に混じる。
2　黒褐色焼土（2.5Y3/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。火床。
3　青灰色砂質シルト・焼土・炭化物混合層（5BG5/1）　粘性弱い、しまり弱い。
4　青灰色砂質シルト（5BG5/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物斑状に含む。焼土斑状に混じる
5　黒色焼土・炭化物互層（2.5Y2/1）粘性ややあり、しまりややあり。火床。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

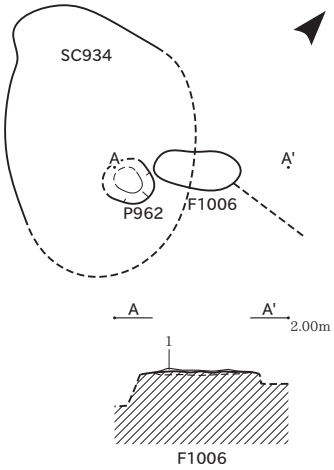
6 区下層下面遺構個別図 F（2）F955・1005・1006・1022・1032・1055・1057・1067・1102、SK977



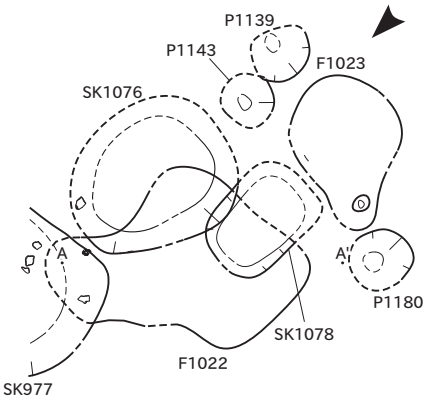
F955
1　灰色砂質シルト（7.5Y6/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。焼土・灰混じる。



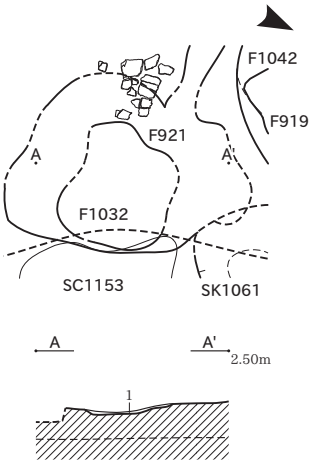
F1005
1　灰白色砂質シルト（5Y7/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。焼土混じる。



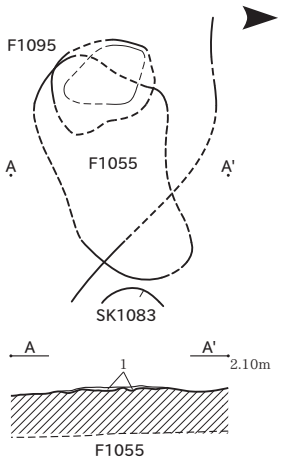
F1006
1　明オリーブ灰色炭化物・灰・焼土混合層（2.5GY7/1）　粘性ややあり、しまりややあり。



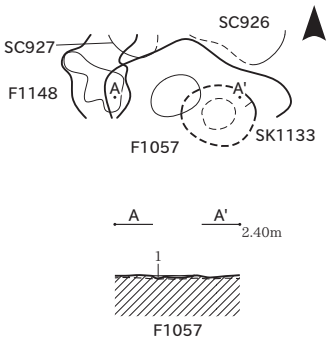
F1022
1　灰褐色焼土（5YR6/2）　　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。砂質土・灰・骨片混じる。
2　灰赤色炭化物層（2.5YR6/2）　粘性弱い、しまり弱い。
3　赤灰色砂質シルト（2.5YR5/1）　粘性弱い、しまりややあり。



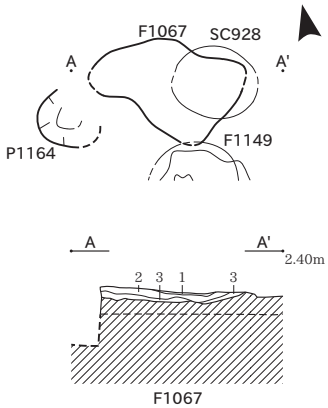
F1032
1　オリーブ黄色焼土・灰混合層（5Y6/3）　粘性弱い、しまりややあり。



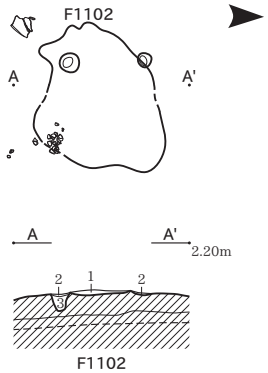
F1055
1　暗青灰色粘質シルト（5B4/1）　粘性あり、しまり弱い。炭化物φ10mm少量含む。



F1057
1　褐灰色焼土（5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。

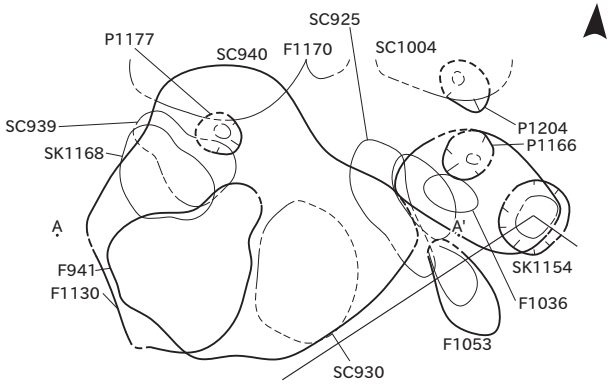


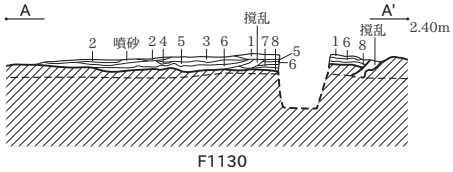
F1067
1　オリーブ黄色砂質土（5Y6/3）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。焼土混じる。



F1102
1　褐灰色焼土（5YR4/1）　　粘性弱い、しまりややあり。炭化物含む。灰混じる。火床。
2　褐灰色炭化物・灰・焼土混合層（5YR5/1）　粘性弱い、しまり弱い。砂質土混じる。
3　褐灰色砂質土（7.5YR5/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。

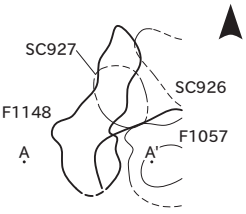
0　（平面図・断面図　1：40）　2m

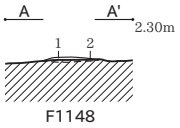




F1130

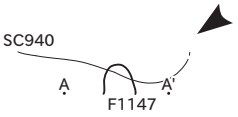
F1130
1　灰黄褐色焼土（10YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
2　褐灰色炭化物・灰・焼土混合層（10YR6/1）　粘性弱い、しまり弱い。
3　灰褐色焼土（5YR6/2）　粘性ややあり、しまりややあり。
4　褐灰色砂質土（10YR4/1）　粘性弱い、しまり弱い。
5　にぶい橙色焼土（5YR6/3）　粘性弱い、しまり弱い。
6　褐灰色焼土・灰・炭化物混合層（10YR5/1）　粘性弱い、しまり弱い。
7　灰褐色焼土・灰・炭化物混合層（7.5YR5/1）　粘性弱い、しまり弱い。
8　灰黄褐色焼土（10YR4/2）　粘性ややあり、しまりややあり。

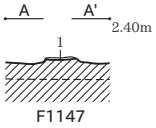




F1148

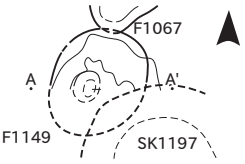
F1148
1　にぶい橙色焼土（5YR6/3）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。
2　にぶい橙色砂質土（5YR6/4）粘性弱い、しまり弱い。炭化物多量含む。

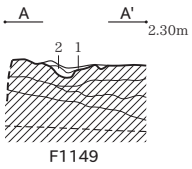




F1147

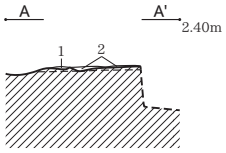
F1147
1　灰赤色焼土（2.5YR4/2）粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。





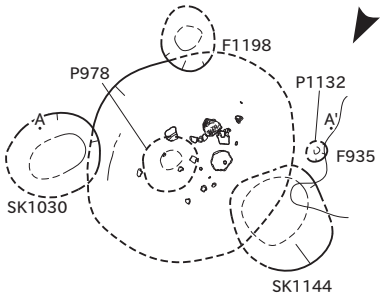
F1149

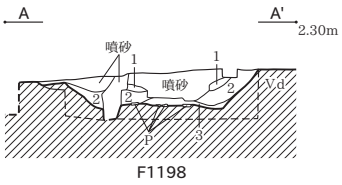
F1149
1　赤灰色焼土（10R5/1）　粘性ややあり、しまりややあり。炭化物含む。火床。
2　青灰色砂質土（5B5/1）粘性弱い、しまり弱い。炭化物少量含む。



F1170

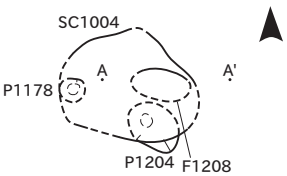
F1170
1　褐灰色炭化物層・焼土混合層（5YR5/1）粘性弱い、しまり弱い。灰少量混じる。
2　褐灰色焼土（5YR4/1）　粘性弱い、しまりややあり。炭化物斑状に含む。砂質土斑状に混じる。

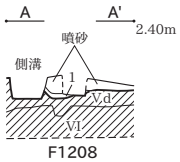




F1198

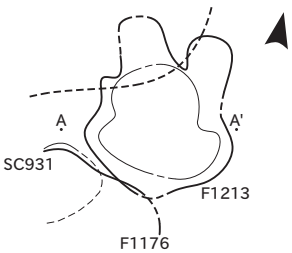
F1198
1　灰白色砂質土・焼土・炭化物層混合層（7.5Y7/1）　粘性弱い、しまり弱い。骨片多量混じる。噴砂による撹乱。
2　灰色砂質土（7.5Y6/1）粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。噴砂と思われる。
3　灰色砂質土（10Y6/1）　粘性弱い、しまり弱い。炭化物含む。噴砂による撹乱。

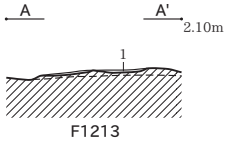




F1208

F1208
1　灰色焼土（5Y6/1）　粘性弱い、しまり弱い。火床面で炭化物を含む。





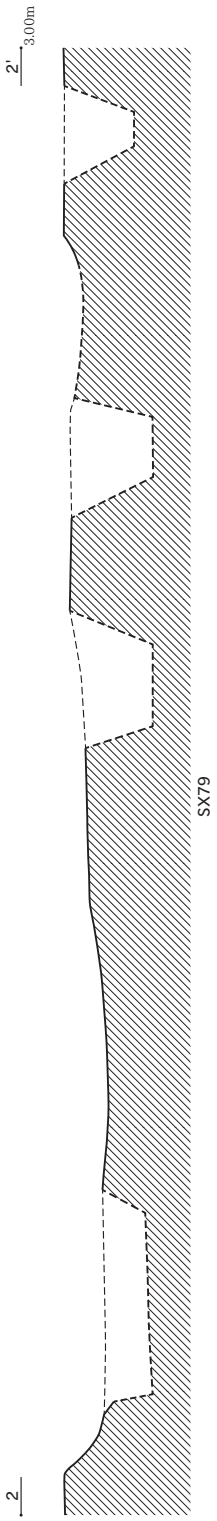
F1213

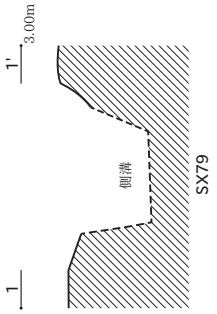
F1213
1　褐灰色焼土（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまり弱い。炭化物含む。灰混じる。火床。

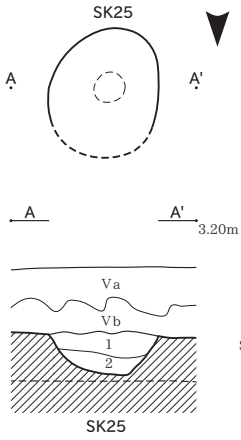
0　（平面図・断面図　1：40）　2m

7 区下層平面分割図（1）

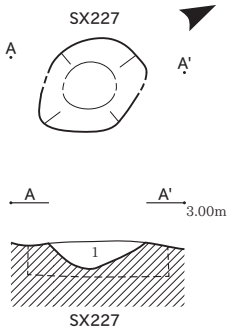
N
118T
7I-4H
7I-4I
7I-4J
SX79
P225
SX230
SX232
SX227
SX231
SX228
SX226
SX79
SX79
SX77
7I-5H
7I-5I
117T
7I-5J
SK25
P78
7I-6I
7I-6J
SX77
116T
7区上層面
SX19
0
（平面図 1：150）
5m



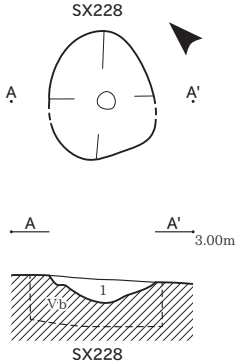




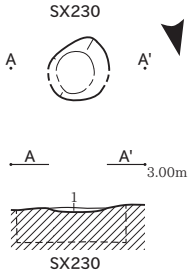
SK25
1　青灰粘質シルト（5B6/1）　粘性あり、しまりややあり。
　　炭化物少量含む。
2　青灰粘質シルト（5B6/1）　粘性ややあり、しまりややあり。
　　炭化物少量含む。



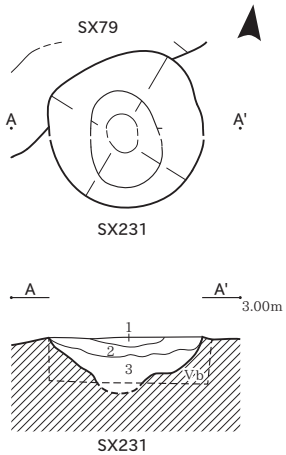
SX227
1　灰白粘質シルト（N7/）　粘性あり、しまりあり。
　　炭化物少量含む。



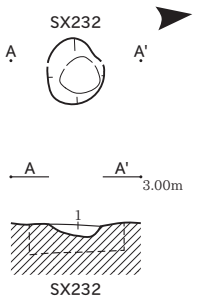
SX228
1　灰粘質シルト（N6/）　粘性あり、しまりあり。
　　炭化物含む。



SX230
1　青灰粘質シルト（5B6/1）　粘性あり、しまりあり。
　　炭化物含む。水酸化鉄が斑状に分布。



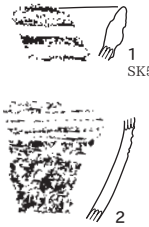
SX231
1　明褐灰粘質シルト（7.5YR7/1）　粘性あり、しまりあり。炭化物
　　含む。
2　褐灰粘質シルト（10YR6/1）　　粘性あり、しまりあり。炭化物
　　少量含む。未分解有機分含む。水酸化鉄が斑状に分布。
3　青灰粘質シルト（5B5/1）　　粘性あり、しまりあり。炭化物
　　少量含む。水酸化鉄が斑状に分布。



SX232
1　青灰粘質シルト（5B6/1）　粘性あり、しまりあり。
　　炭化物少量含む。水酸化鉄が斑状に分布。

0　（平面図・断面図　1：40）　2m

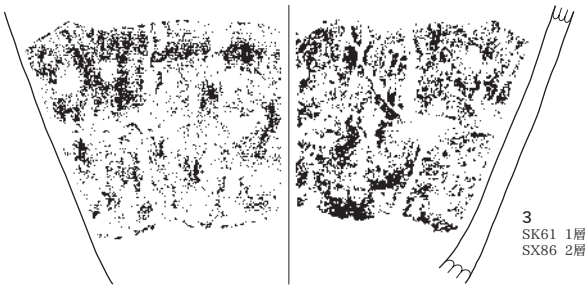
SK50（1・2）



1
SK50 3層（5I-10C6）

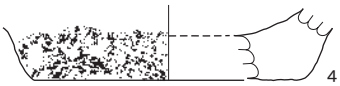
2
SK50 1層（5I-10C12）

SK61（3）



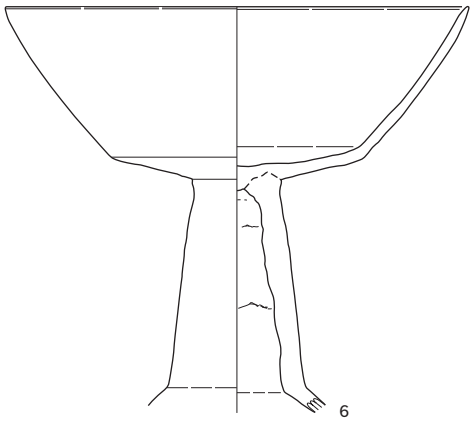
3
SK61 1層（5I-10C8）
SX86 2層（5I-9B18）

SK70（4）



4
SK70 1層（5I-9C24）

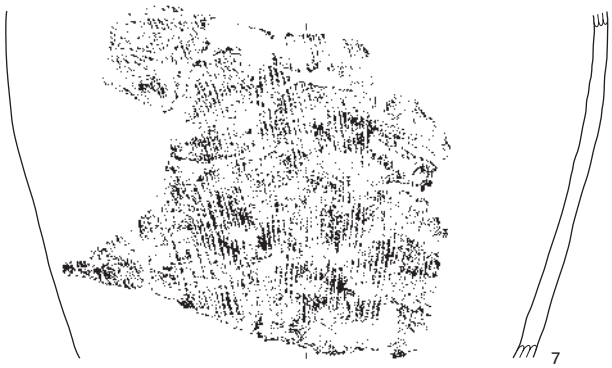
SX13（6）



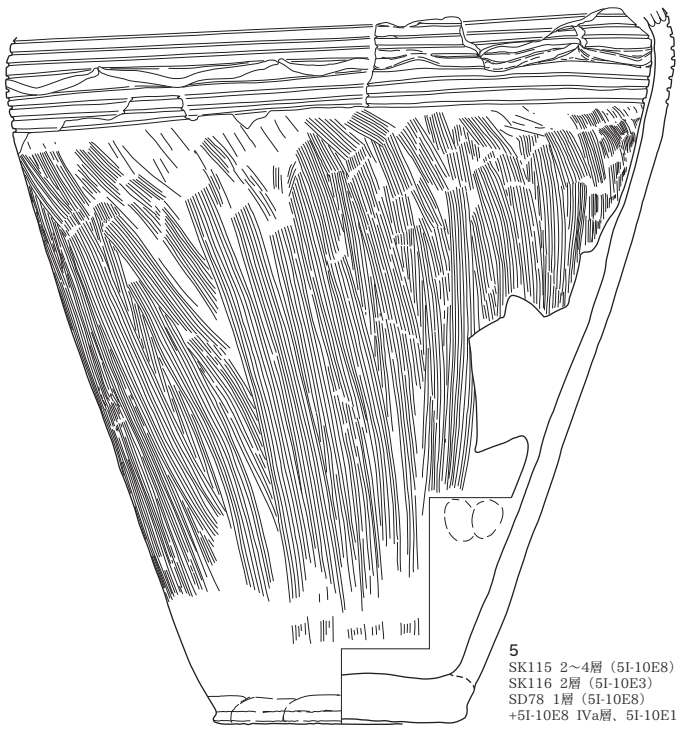
6
SX13 1・2層（5I-10G1）

SK115（5）

SX46（7）

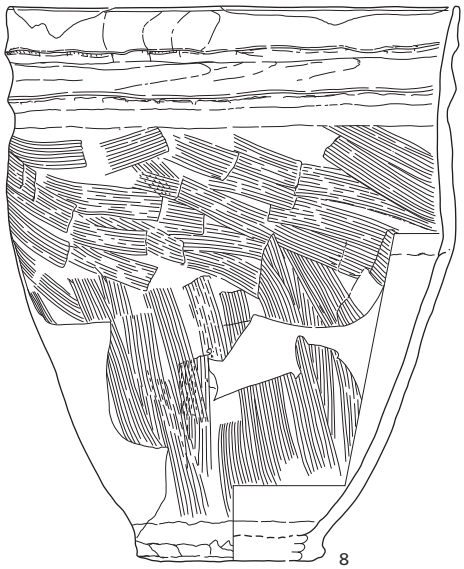


7
SX46 3層（5I-9D3）



5
SK115 2～4層（5I-10E8）
SK116 2層（5I-10E3）
SD78 1層（5I-10E8）
+5I-10E8 IVa層、5I-10E11 Va層

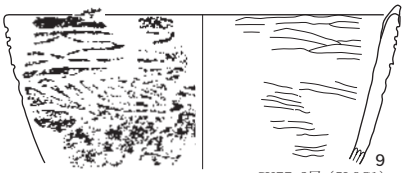
SX73（8）



8
SX73 1～3層（5I-9D14）
+5I-9D11 IVa層、5I-9D8 撹乱

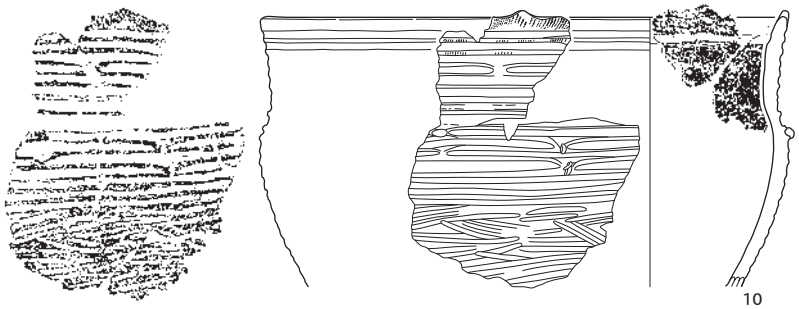
0　（1：3）　10cm

SX77（9）



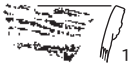
9
SX77 2層（5I-9C1）

SX86（10～12）

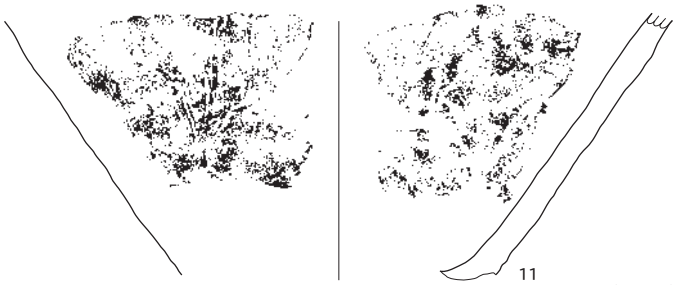


10
SX86 1層（5I-9B14）

SX91（13）

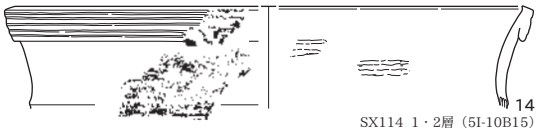


13
SX91 1層（5I-10C9）

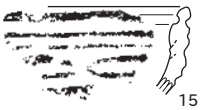


11
SX86 1・3層（5I-9B18）

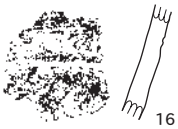
SX114（14～17）



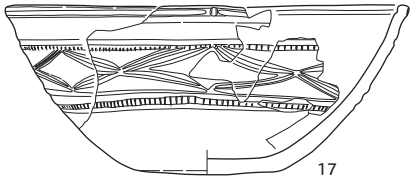
14
SX114 1・2層（5I-10B15）



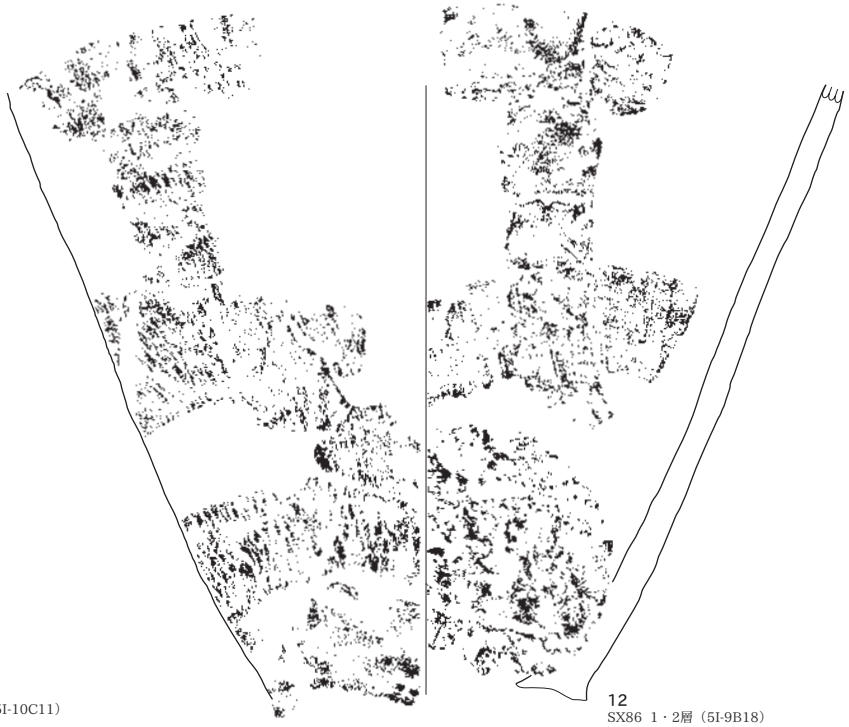
15
SX114 3層（5I-10B10）



16
SX114 3層（5I-10B15）
P126 1層（5I-10B15）

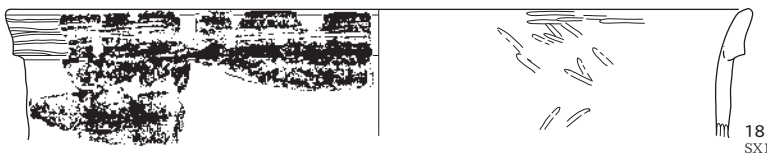


17
SX114 1・3層（5I-10C11）



12
SX86 1・2層（5I-9B18）

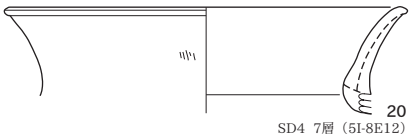
SX136（18）



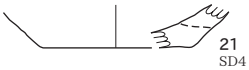
18
SX136 1層（5I-10C23、6I-1C3）
+5I-10C23 Va層

SD4（19～21）

19
SD4 1層（5I-8E6）



20
SD4 7層（5I-8E12）

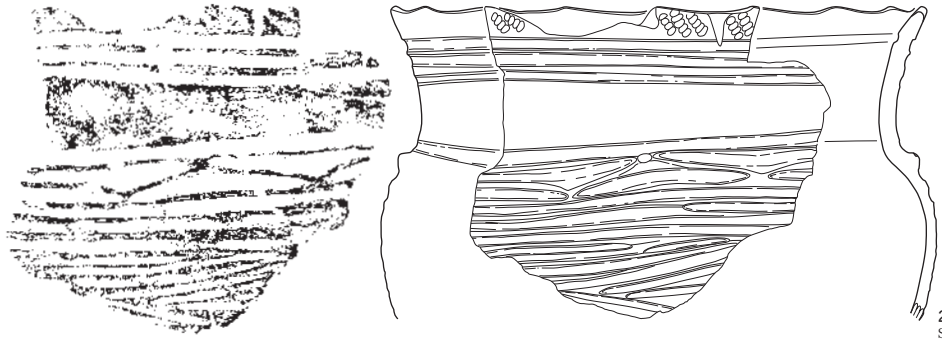


21
SD4 7層（5I-7D1）

0　（1：3）　10cm

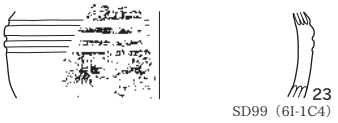
出土遺物 3（5 区上層　遺構出土土器 3　SD60・99　遺構外出土土器　遺構出土石器・石製品　SX86、P139、遺構外出土石器・石製品　2005 試掘出土土器）

SD60（22）



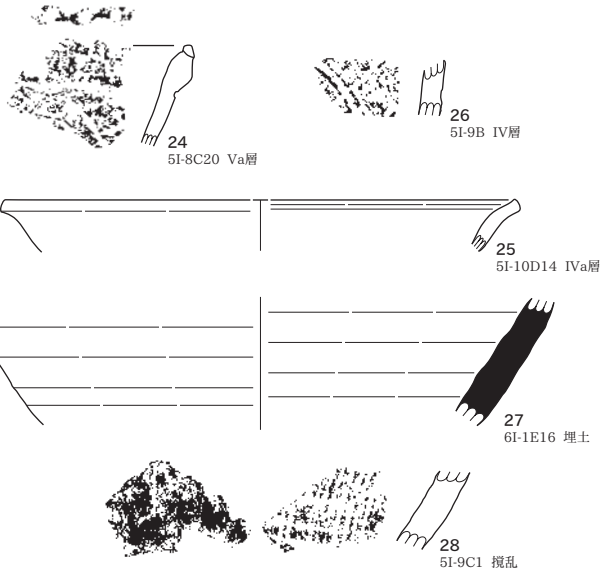
22
SD60　1層（5I-10C3）

SD99（23）



23
SD99（6I-1C4）

遺構外（24～28）



24
5I-8C20　Va層

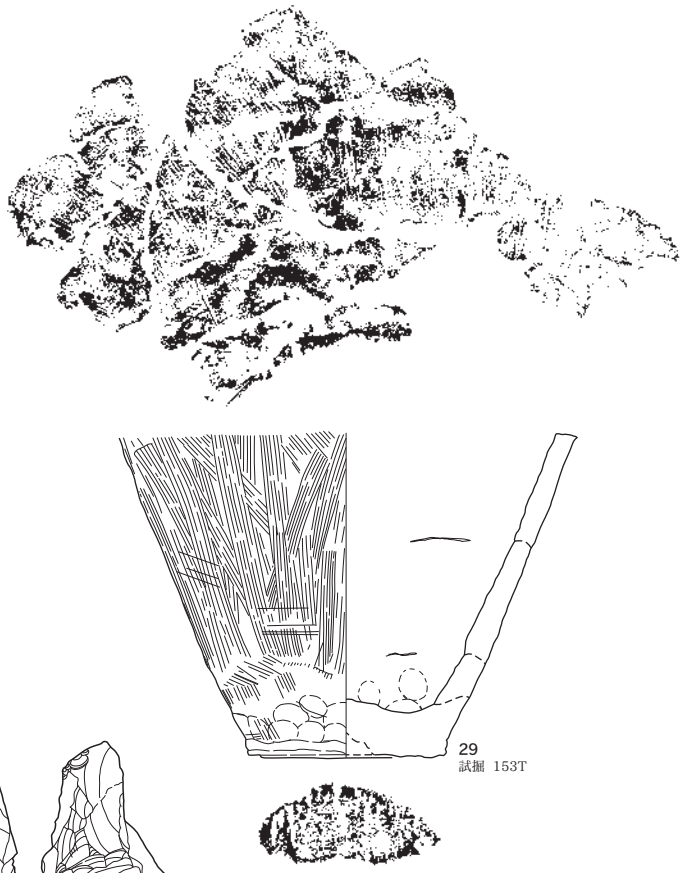
26
5I-9B　IV層

25
5I-10D14　IVa層

27
6I-1E16　埋土

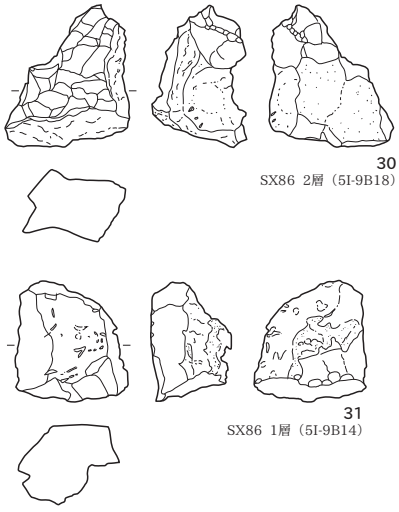
28
5I-9C1　撹乱

2005試掘　153T（29）



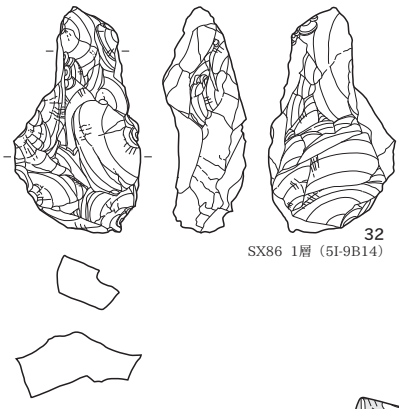
29
試掘　153T

石器・石製品　SX86（30～32）



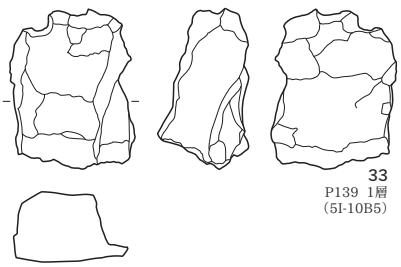
30
SX86　2層（5I-9B18）

31
SX86　1層（5I-9B14）



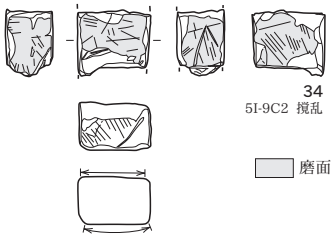
32
SX86　1層（5I-9B14）

P139（33）



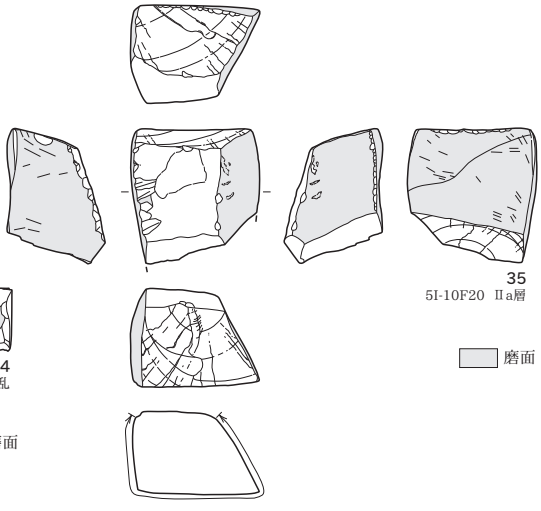
33
P139　1層
（5I-10B5）

遺構外（34・35）



34
5I-9C2　撹乱

磨面



35
5I-10F20　IIa層

磨面

（30～33）　0　（1：2）　5cm

（その他）　0　（1：3）　10cm

SK56（36～38）

36
SK56 1層（6I-8D17・23・24）
+6I-8D23 Vd層

37
SK56 1層（6I-8D23）
SK108 3層（6I-8D23）

38
SK56 1層（6I-8D23）

SK88（39）

39
SK88 1層（6I-9D7）

SK199（40）

40
SK199 2・3層（6I-9E19）
SX157 2・3・5層（6I-9E20、9F16）
+6I-9E19 Va層

SX298（41・42）

41
SX298 9層（6I-2A7）

42
SX298 9層（6I-2A7）

SD188（43）

43
SD188 1層（6H-6J1）

SD190（44～47）

44
SD190 1層（6H-5I3）

45
SD190 1層（6H-5I3）

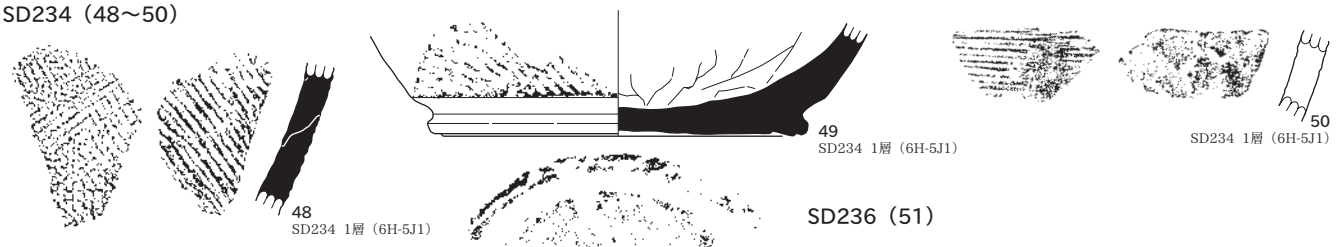
47
SD190 1層（6H-5I3）

46
SD190 1層
（6H-5I3）

0　（1：3）　10cm

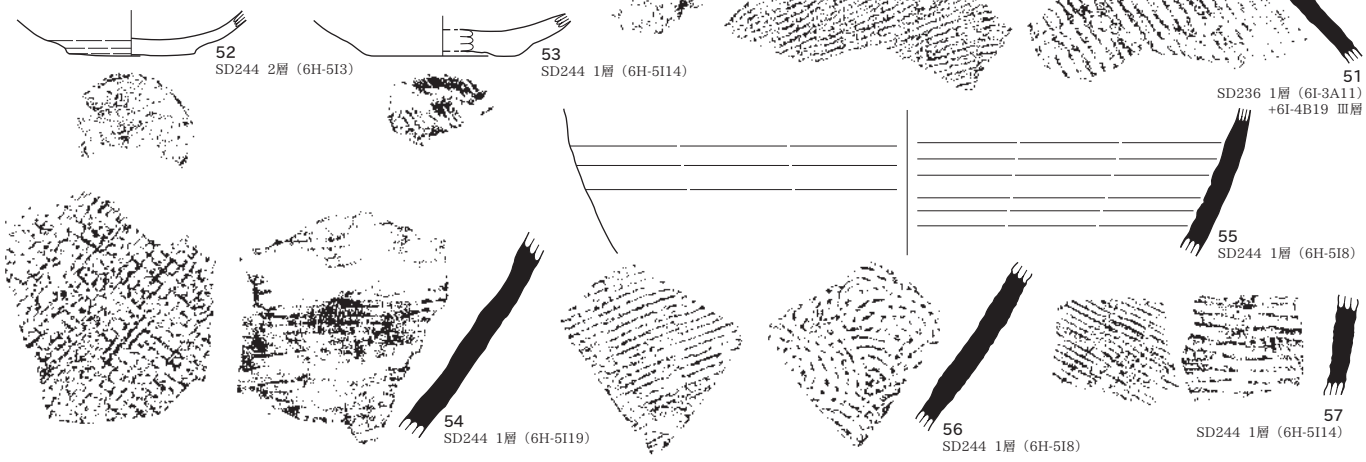
出土遺物 5（6 区上層　遺構出土土器 2　SD234・236・244・263・291（SN03）　遺構外出土土器
遺構出土石器・石製品　SX442　遺構外出土石器・石製品　遺構出土木製品　SA147）

SD234（48～50）

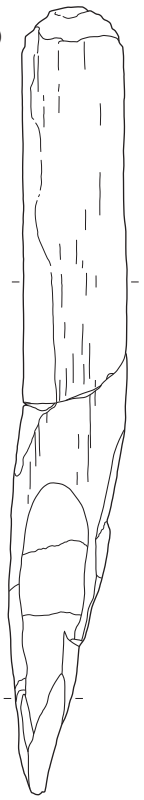


SD236（51）

SD244（52～59）

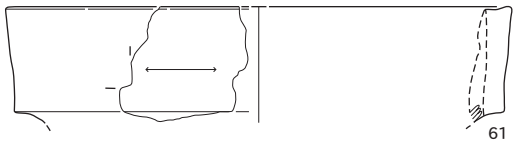


木製品
SA147-P546（72）



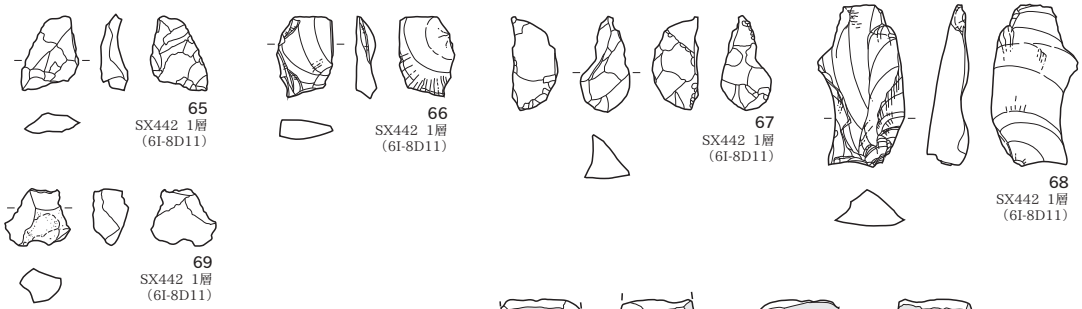
SD263（60）

SD291（SN03）(61)

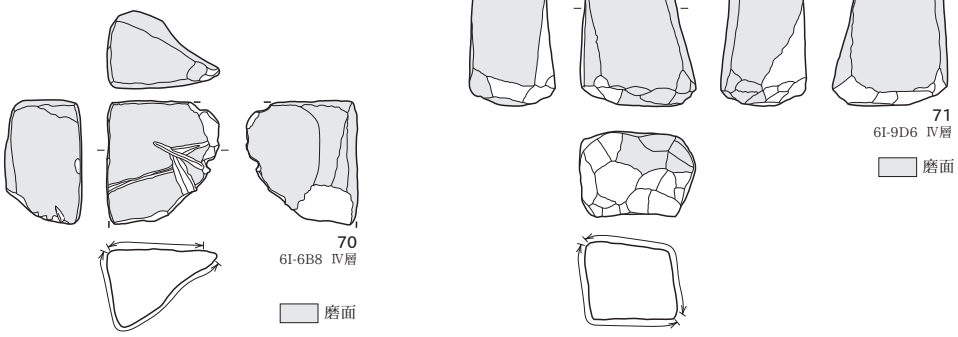


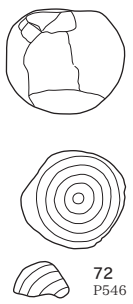
遺構外（62～64）

石器・石製品　SX442（65～69）



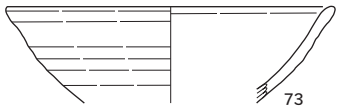
遺構外（70・71）





（65～69）　0　（1：2）　5cm
（その他）　0　（1：3）　10cm

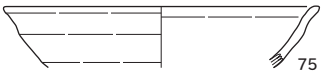
SX90（73）



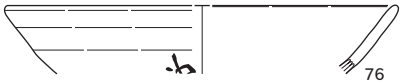
73
SX90 1層（8J-8A21）

SX119（SN11）(74～84)

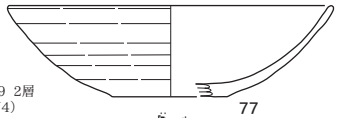
74
SX119 2層（8I-6J12）



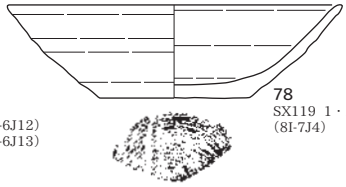
75
SX119 2層（8I-6J14）



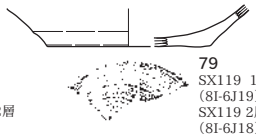
76
SX119 2層
（8I-7J4）



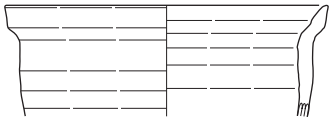
77
SX119 1層（8I-6J12）
SX119 2層（8I-6J13）



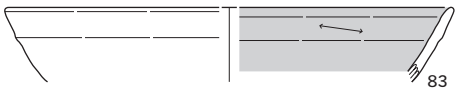
78
SX119 1・2層
（8I-7J4）



79
SX119 1層
（8I-6J19）
SX119 2層
（8I-6J18）



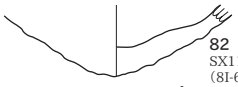
81
SX119 2層（8I-6J20）



83
SX119 1層
（8I-6J19）

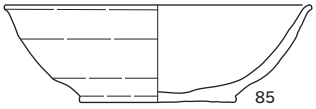
84
SX119 2層（8I-6J12）
SX119 2層（8I-7J4）
SD183 2層（8I-7J5）

80
SX119 2層
（8I-6J13）



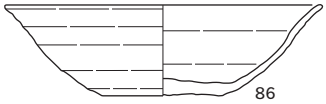
82
SX119 2層
（8I-6J14・20）

SX124（85）

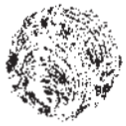


85
SX124 2層

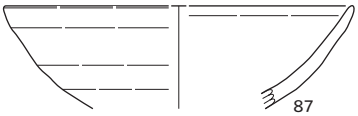
SX174（86）



86
SX174 1層
（8I-8J18・19）

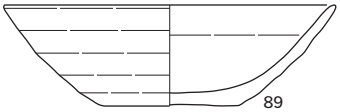


SX175（SN12）(87～95)

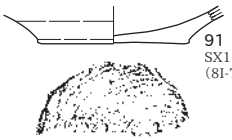


87
SX175 2層（8I-7J20）

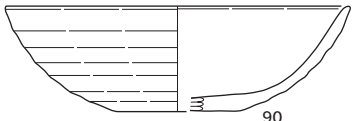
88
SX175 2層（8I-7J20）



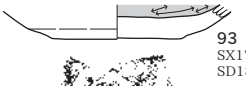
89
SX175 1・2層
（8I-7J9）



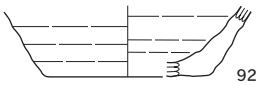
91
SX175 2層
（8I-7J10）



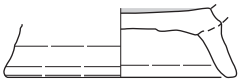
90
SX175 2層（8I-7J15）



93
SX175 2層（8I-7J10）
SD182 1層（8I-7J14）



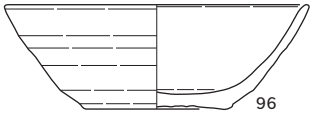
92
SX175 1層（8I-7J14）
SD111 2層（8I-7J18）



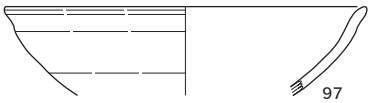
95
SX175 2層（8I-7J15）
SD184 1層（8I-7J10）

94
SX175 2層（8I-7J14）

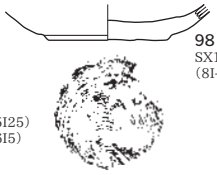
SX186（SN10）(96～101)



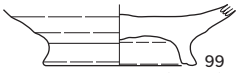
96
SX186 2層
（8I-5I25、6J1）



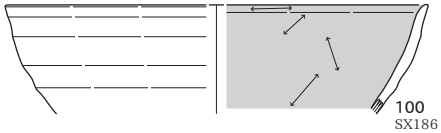
97
SX186 1層（8I-5I25）
SX186 2層（8I-6I5）



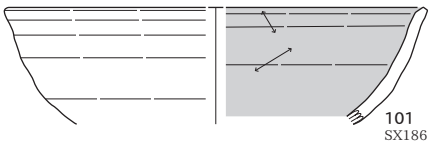
98
SX186 2層
（8I-6I5）



99
SX186 1層（8I-5I20）

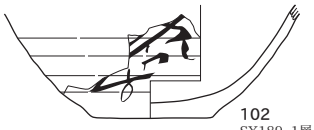


100
SX186 1層（8I-5J21）



101
SX186 1層
（8I-6J6）

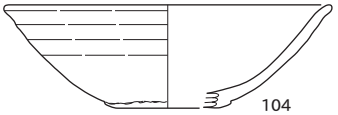
SX189（102・103）



102
SX189 1層（8I-5J12）

103
SX189 2層（8I-5J12）

SX191（SN08）(104・105)



104
SX191 2層（8I-4I20）

105
SX191 2層（8I-4I19）

SX198（106）

106
SX198 1層
（8I-4J1・2）

0　（1：3）　10cm

図版 124

出土遺物 7（7 区上層　遺構出土土器 2　SX234、SD27・28・37・85・86・89・94・100・110・111・168・182　遺構外出土土器 1）

SX234（107）

107
SX234 1層（8I-6J17）

SD27（108～110）

108
SD27 1層（6I-9A22）

109
SD27 1層（6I-10A3）

110
SD27 1層（6I-10A3）

SD28（111～113）

111
SD28 1層（6I-10A1）

112
SD28 8層（6I-10A1）
SD49 1層（6H-8J12）

113
SD28 8層（6I-10A1）

SD37（114）

114
SD37 1層
（6H-9J19）

SD85（115）

115
SD85 1層
（8J-9A6）

SD86（116・117）

116
SD86 1層（8I-8J18）

117
SD86
1層（8I-8J18）

SD89（118）

118
SD89 2層
（8J-9J5）

SD94（119）

119
SD94 1層（8I-8J25）

SD100（120）

120
SD100 2層（8I-8J14）

SD110（121）

121
SD110 1層
（8I-8J10）
+8I-8J9 Ⅲ層

SD111（122～124）

122
SD111 2層
（8I-7J18）

123
SD111 1層（8I-6J21）

124
SD111 1層（8I-7J8）

SD182（130）

130
SD182 1層
（8I-7J14）

アスファルト

SD168（125～129）

125
SD168 2層（8I-5I15）
SD168 1層（8I-5I19）

126
SD168 1層
（8I-5I10）

127
SD168 2層
（8I-5J3）

128
SD168
（8I-5J7）

129
SD168 2・3層（8I-5J6）

遺構外（131～133）

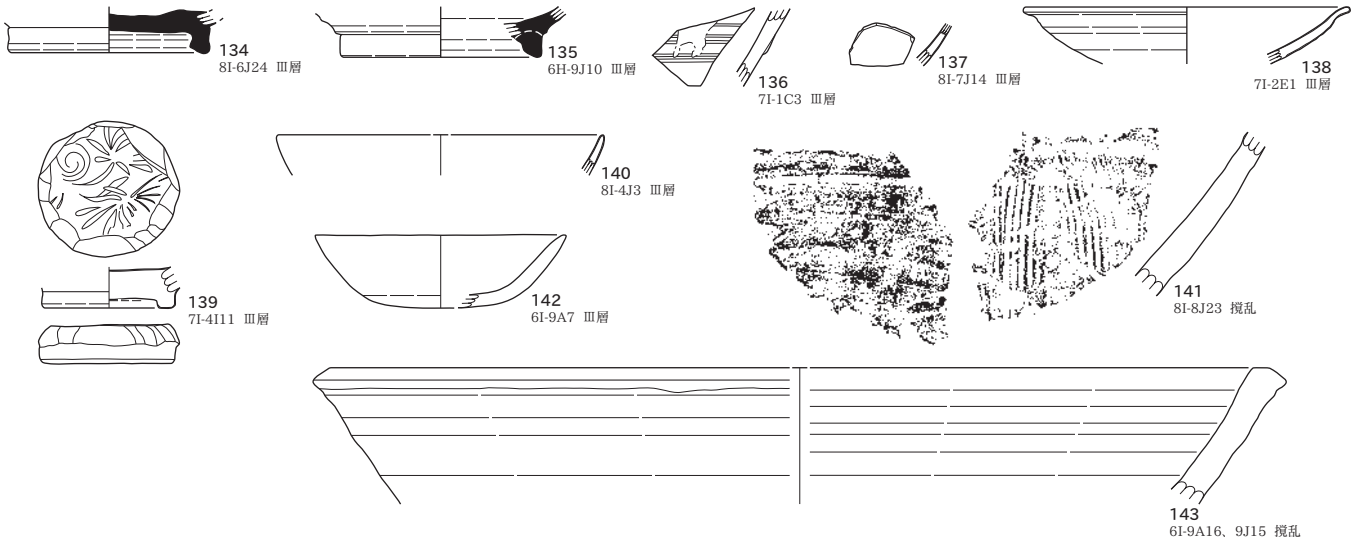
131
7I-5J12 Ⅳ層

132
8I-5J16 Ⅲ層

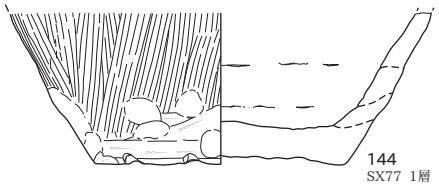
133
8I-5J16 Ⅲ層

0　（1：3）　10cm

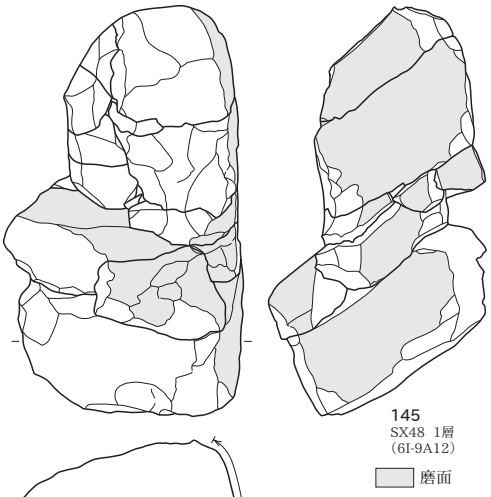
遺構外（134～143）



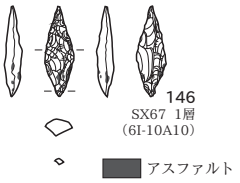
7区下層　SX77（144）



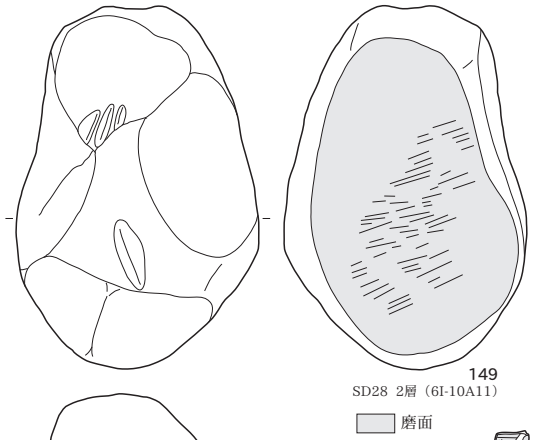
石器・石製品　SX48（145）



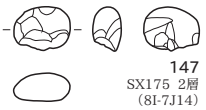
SX67（146）



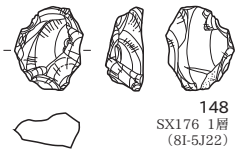
SD28（149～151）



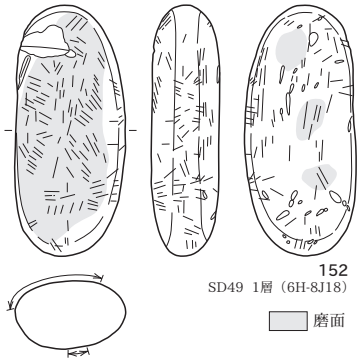
SX175（SN12）(147)



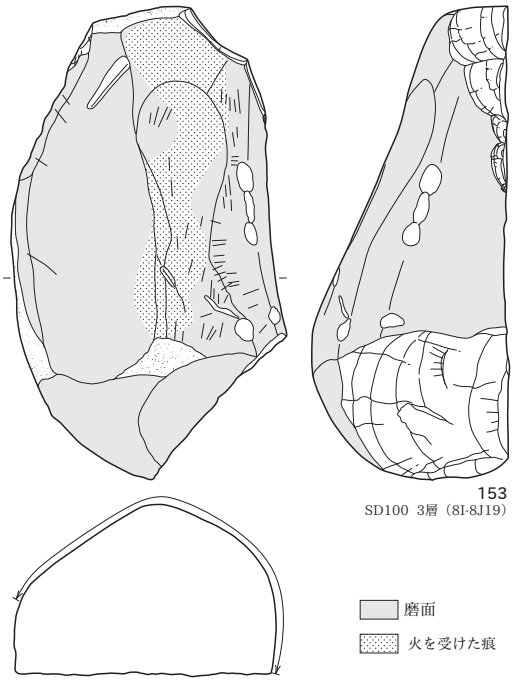
SX176（148）



SD49（152）

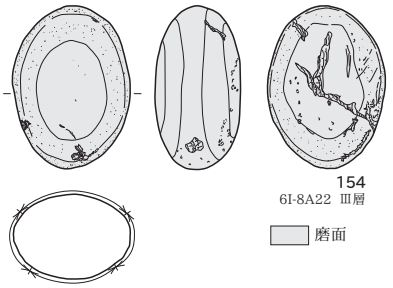


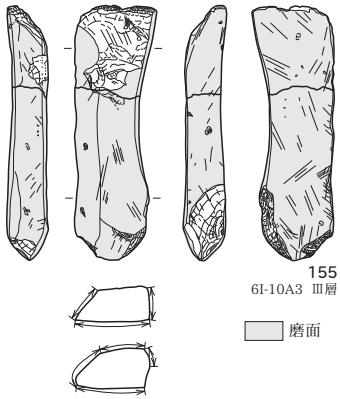
SD100（153）

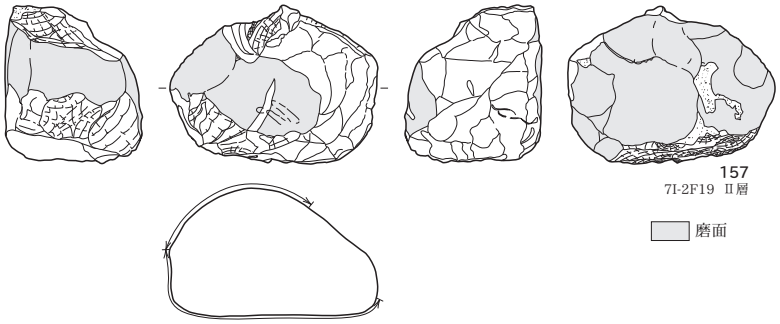


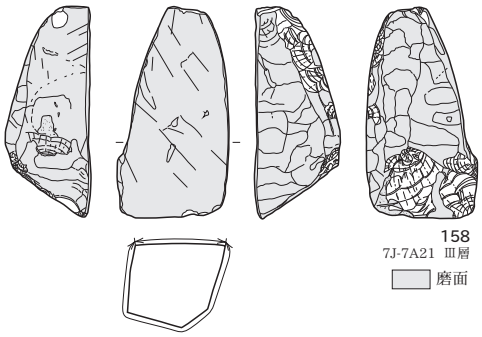
（146～148）0　（1：2）　5cm　　（その他）0　（1：3）　10cm

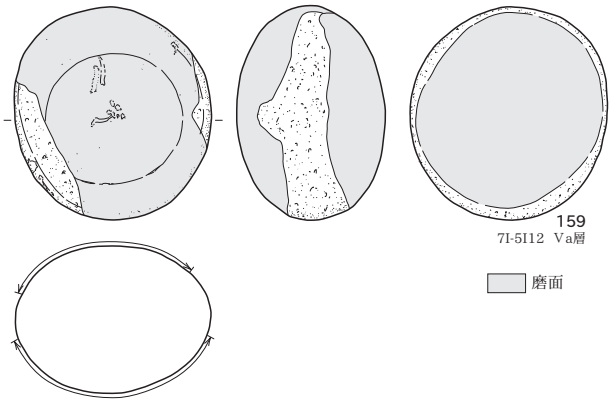
遺構外（154～163）

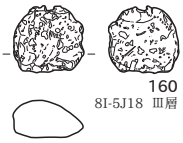


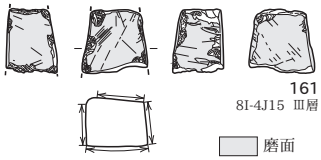


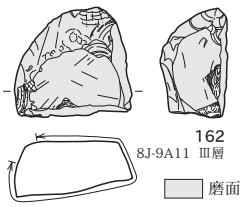


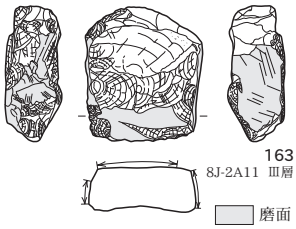






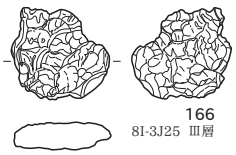


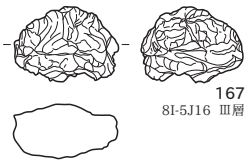


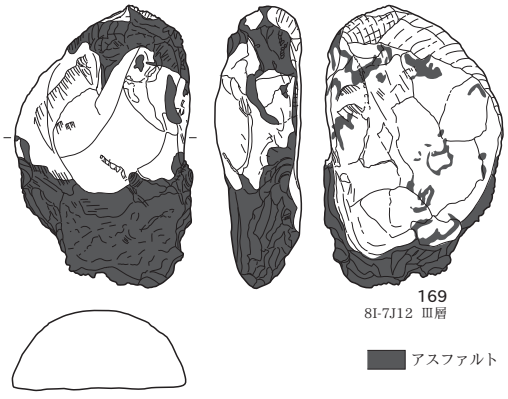


アスファルト
SD100（164）

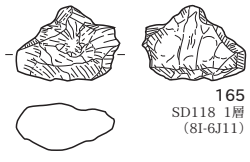
遺構外（166～169）

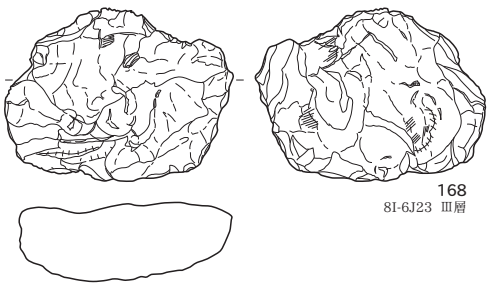






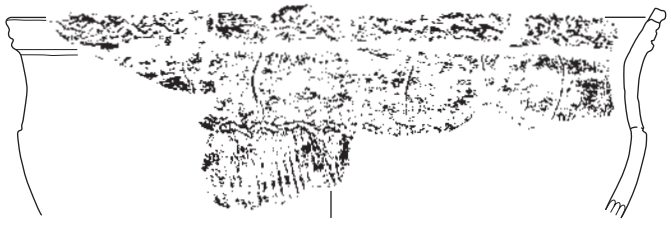
SD118（165）



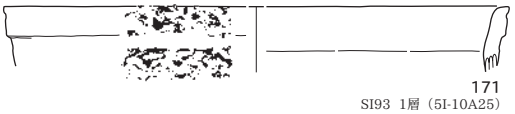


（164～169）　0　（1：2）　5cm
（その他）　0　（1：3）　10cm

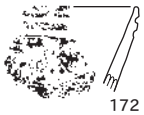
SI93（170～174）



170
SI93 1層（6I-1A5）
SD259 2層（6I-1A5）
SC174 1層（6I-1B7）
+6I-1A10 Vb層

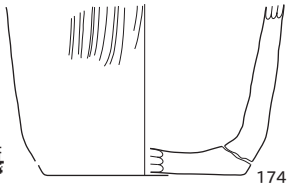


171
SI93 1層（5I-10A25）



172
SI93 1層（5I-10A25）

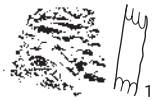
173
SI93 1層（6I-1A5・6I-1B1）



174
SI93 1層（5I-10A25）

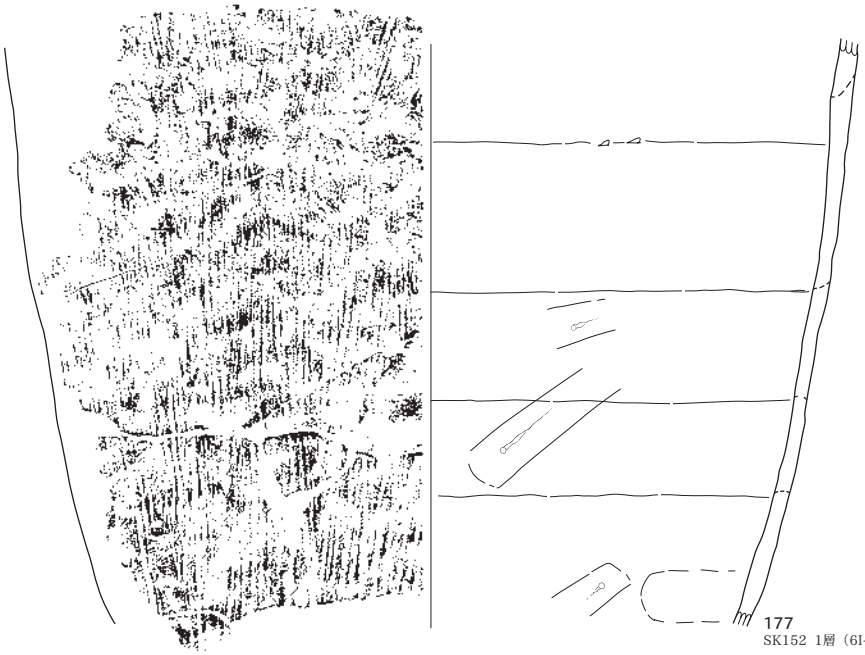
SI262（175・176）

175
SI262 3層（6I-2A8）



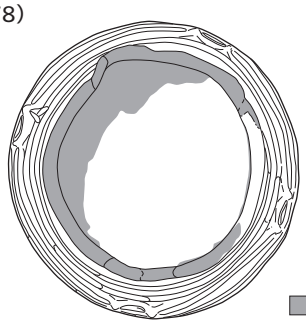
176
SI262 3層（6I-2A8）

SK152（177）

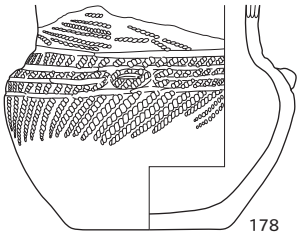


177
SK152 1層（6I-1B23）

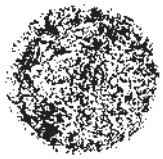
SK257（178）



漆



178
SK257 2層
（6I-2A18）



SK383（179）

179
SK383 1層（6I-2A13）

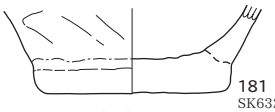
SK406（180）

180
SK406 1層（6I-1B11）

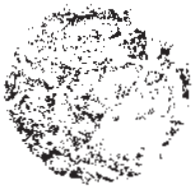
SX416（183・184）

184
SX416 1層（6I-2A7）

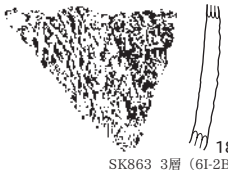
SK632（181）



181
SK632 1層
（6I-1B1）



SK863（182）



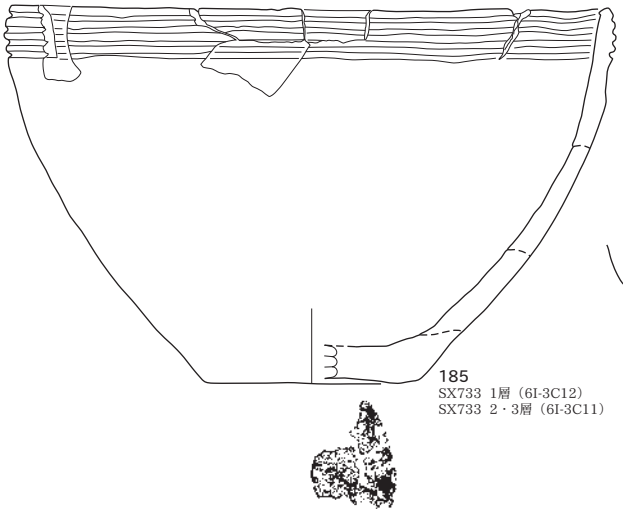
182
SK863 3層（6I-2B1）

183
SX416 1層（6I-2A7）

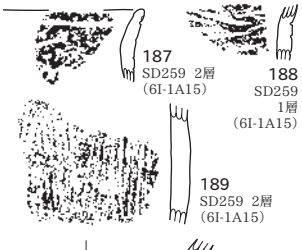
0　（1：3）　10cm

SX733（185）

SD259（186～190）



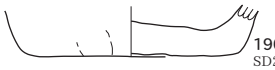
185
SX733 1層（6I-3C12）
SX733 2・3層（6I-3C11）



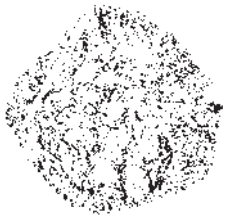
187
SD259 2層
（6I-1A15）

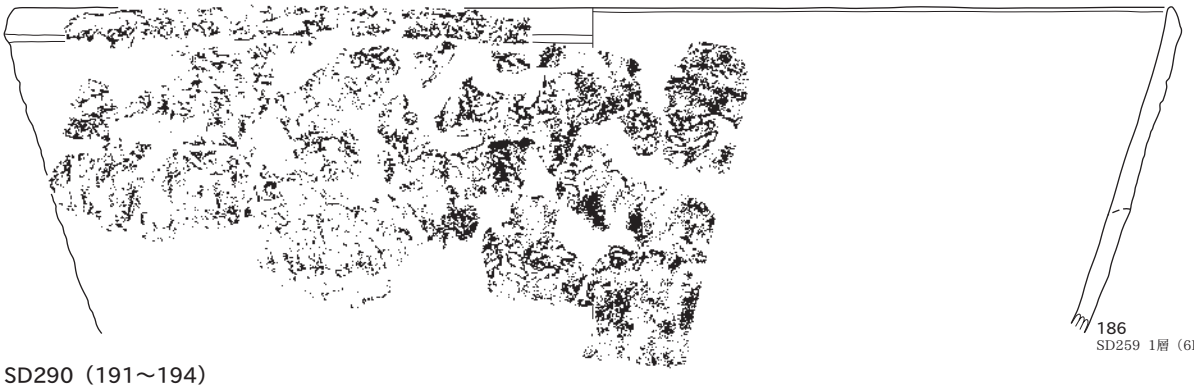
188
SD259
1層
（6I-1A15）

189
SD259 2層
（6I-1A15）



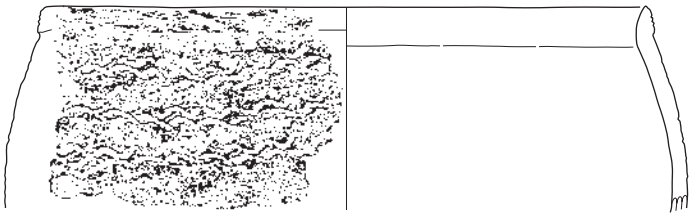
190
SD259 2層
（6I-1A15）





186
SD259 1層（6I-3B17）

SD290（191～194）



191
SD290（6I-3D1）

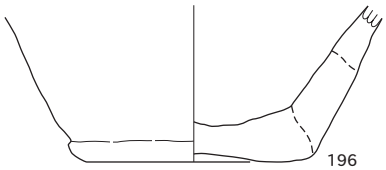
192
SD290 3層（6I-2C4）

193
SD290 3層（6I-2C4）

194
SD290 3層
（6I-2C4）

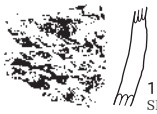
SD593（195・196）

195
SD593 2層
（6H-3J20）

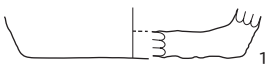


196
SD593 1・2層（6I-3A16）

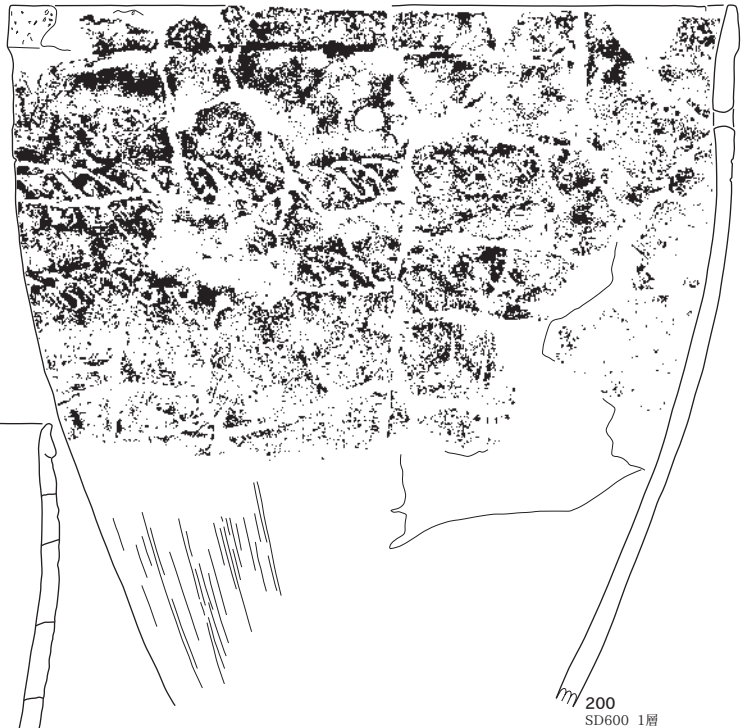
SD600（197～200）



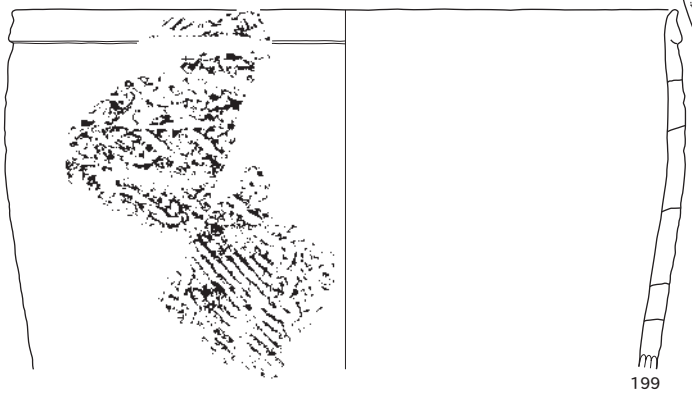
197
SD600 1層（6I-1A19）



198
SD600 1層（6I-1A19）



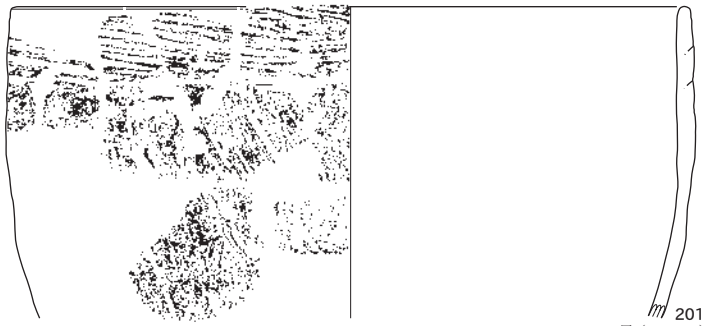
200
SD600 1層
（6I-1A18・19・23）



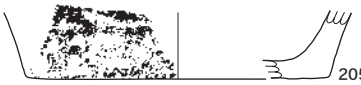
199
SD600 1層（6I-2A11）

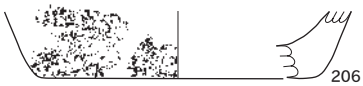
0　（1：3）　10cm

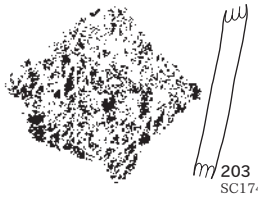
SC174（201～206）


201
SC174 1層（6I-1B18）

202
SC174 1層
（6I-1B1）

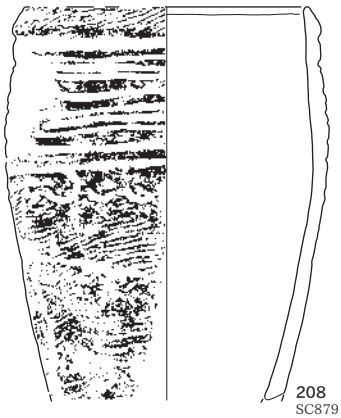

205
SC174 1層（6I-1B2）


206
SC174 1層（6I-1B13）


203
SC174 1層（6I-1B2）

204
SC174 1層（6I-1B17）

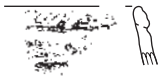
SC879（208）


208
SC879 1層（6I-2A19）
+6I-2A19・25、2B7・12 Vc・Vd層

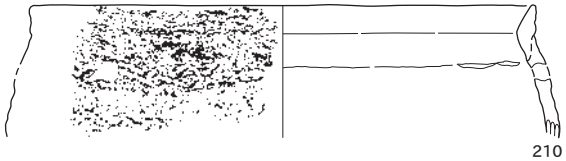
P789（209）

209
P789 2・8層
（6I-1A25）

SC687（207）

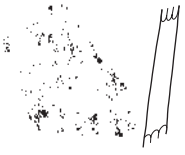

207
SC687 1層（6I-1B14）

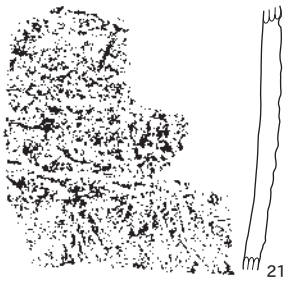
遺構外（210～220）


210
6I-2A10 Vb層

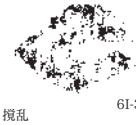
211
6I-3C9 Vb層

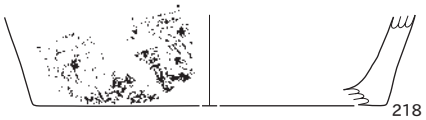
212
6I-1B16 撹乱

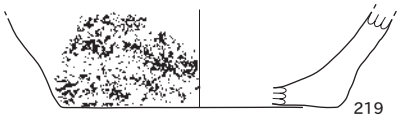

213
6I-3C14 Vb層


214
6I-3A9 Vb層

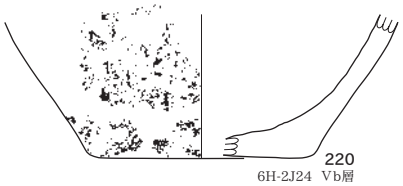
216
埋土 撹乱


217
6I-3C9 Vb層


218
6I-1B1 Vb層

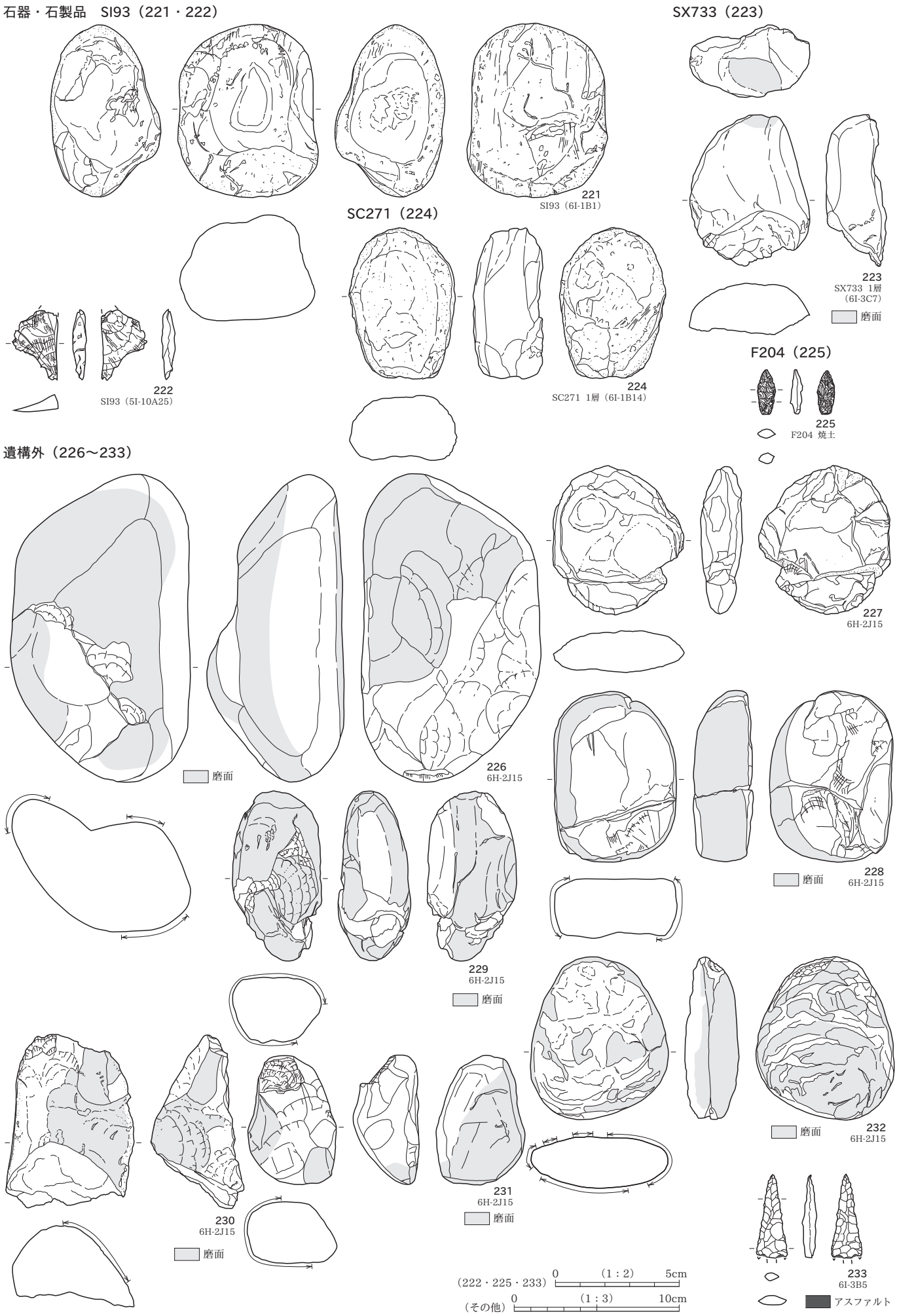

219
6H-2J20 Vb層

215
6I-2B24 Vb層


220
6H-2J24 Vb層

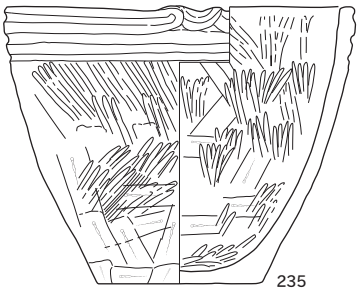
0　（1：3）　10cm

図版 130　出土遺物 13（6 区下層上面　遺構出土石器・石製品　SI93、SX733、SC271、F204　遺構外出土石器・石製品）

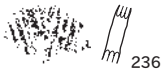


SK748（234）　SK790（235）

234
SK748 3層（6I-2B21）


235
SK790 1層（6I-2B6）

SK817（236）


236
SK817 1層（6I-1B19）

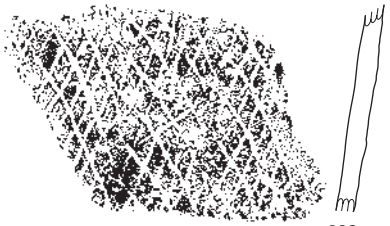
SK834（237・238）

237
SK834 1層（6I-2A23）

SK875（239・240）

239
SK875 4層（6I-1A18）

240
SK875 3層（6I-1A13）


238
SK834 1層（6I-2A23）

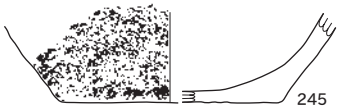
SK876（241～245）

241
SK876 2層（6I-2A10）

242
SK876 1層（6I-2A15）

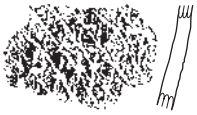
243
SK876 2層
（6I-2A10・15）

244
SK876 1層
（6I-2A10・15）


245
SK876 1層
（6I-2A15）

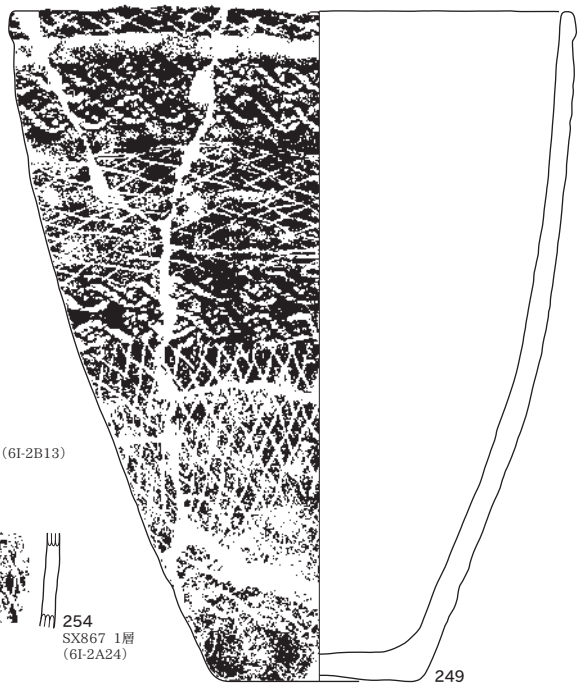
SK968（246・247）

246
SK968 1層（6I-1C16）

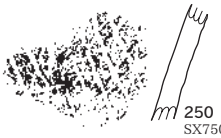

247
SK968 2層
（6I-1C16）

SK995（248・249）

248
SK995 2層
（6I-2J15）


249
SK995 2層（6I-2J15）

SX750（250）


250
SX750 2層（6I-2B13）

SX763（251）

251
SX763 1層

SX867（252～254）

252
SX867 1層
（6I-2A19）

253
SX867 1層
（6I-3B22）

254
SX867 1層
（6I-2A24）

0　（1：3）　10cm

図版 132　出土遺物 15（6 区下層中面　遺構出土土器 2　SC783、P768・846・885　遺構外出土土器 1）

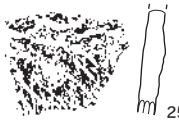
SC783（255）

255
SC783
1層（6I-1C16）

P768（256）

256
P768
1層（6I-2A2）

P846（257）

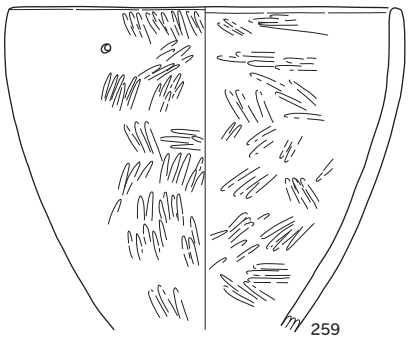


257
P846 1層（6I-3A3）

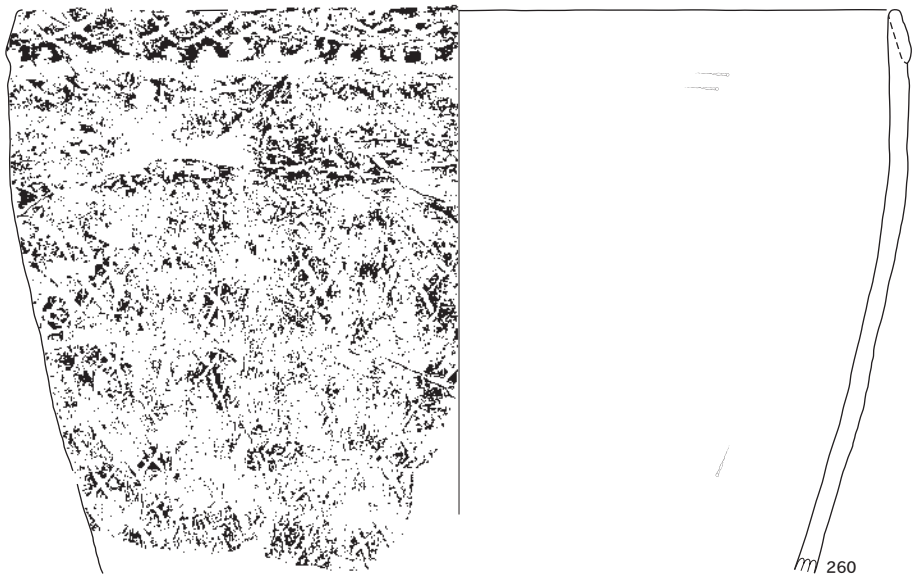
P885（258）

258
P885 1層（6I-2A20）

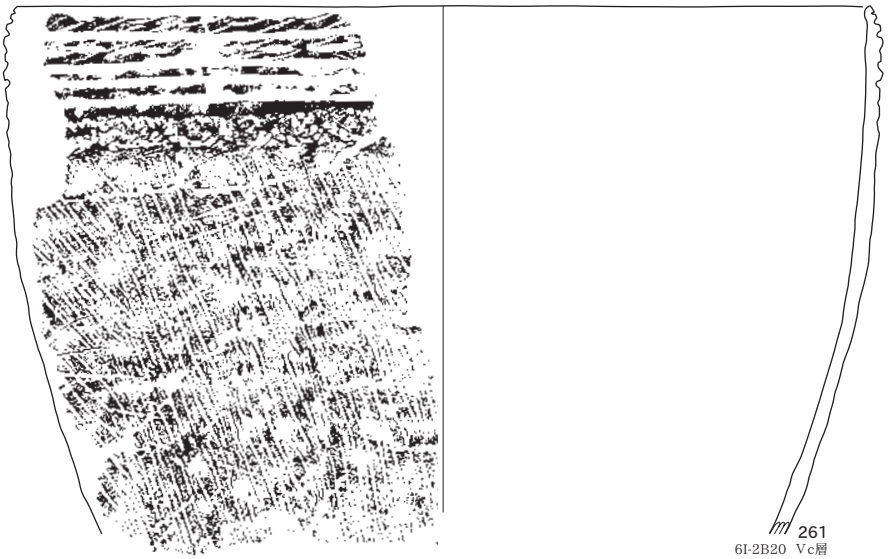
遺構外（259～277）



259
6I-1A23 Vb層



260
6I-2B7 Vc層

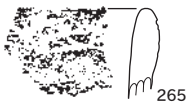


261
6I-2B20 Vc層

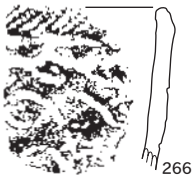
262
6I-1A4 Vb層

264
6I-1B21 Vb層

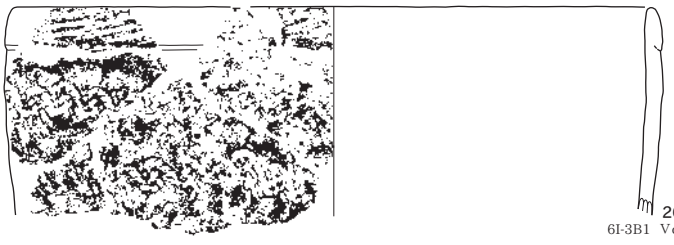
263
6I-1A19 Vc層



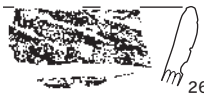
265
6I-1A24 Vb層



266
6I-2A9 Vc層



267
6I-3B1 Vc層



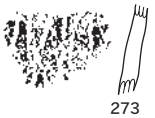
268
6I-2A14 Vc層

269
6I-2A5 Vc層

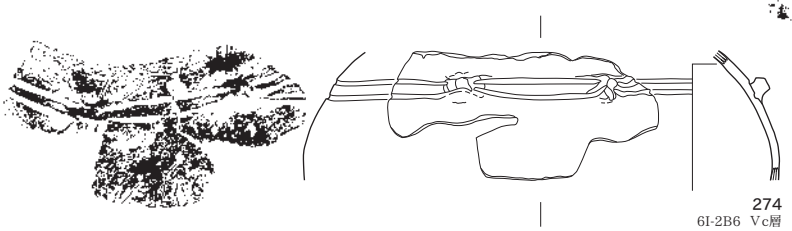
270
6I-2B6 Vc層

271
6I-1A13 Vc層

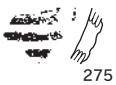
272
6I-1A20 Vb層



273
6I-1A19 Vc層



274
6I-2B6 Vc層



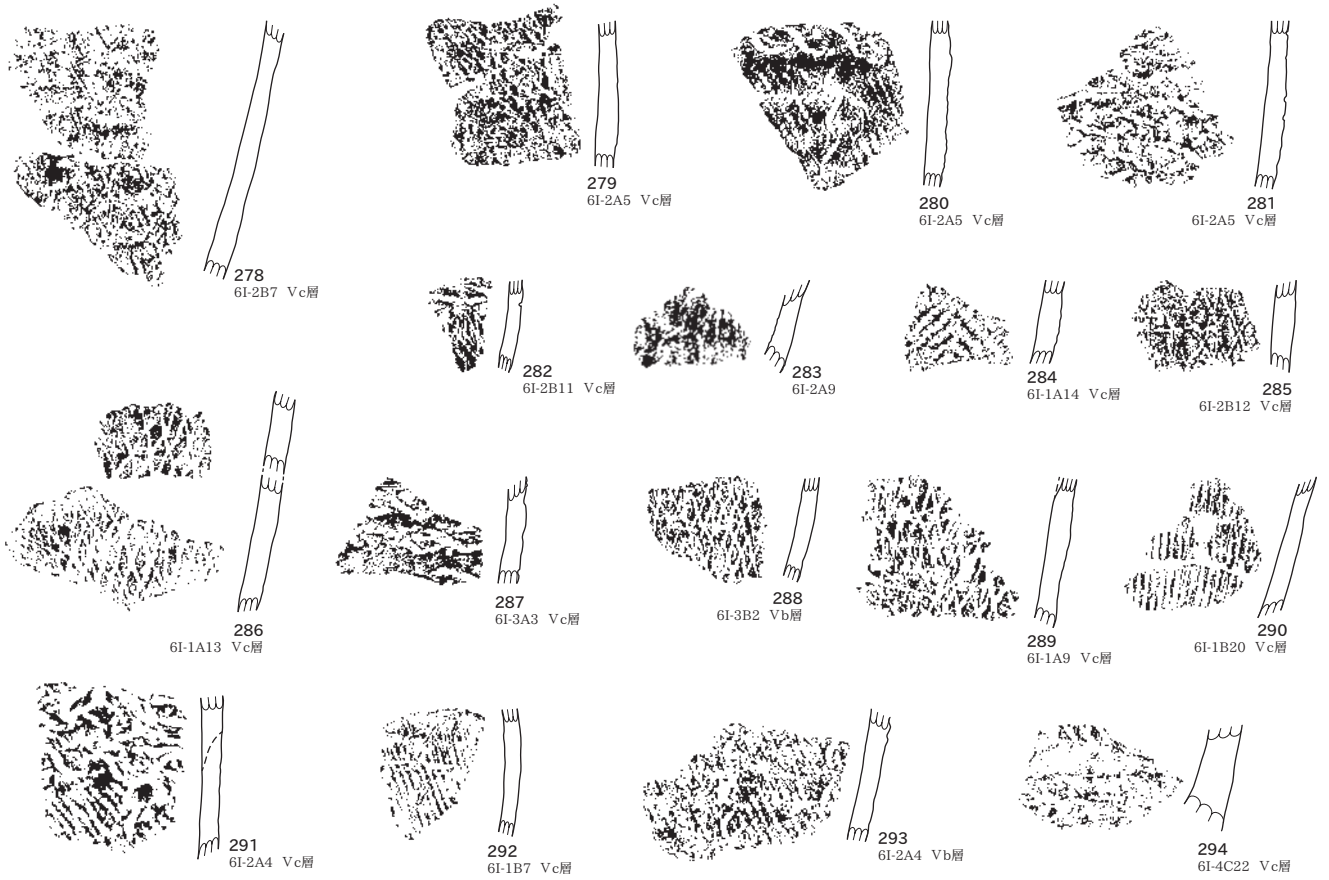
275
6I-2A7 Vc層

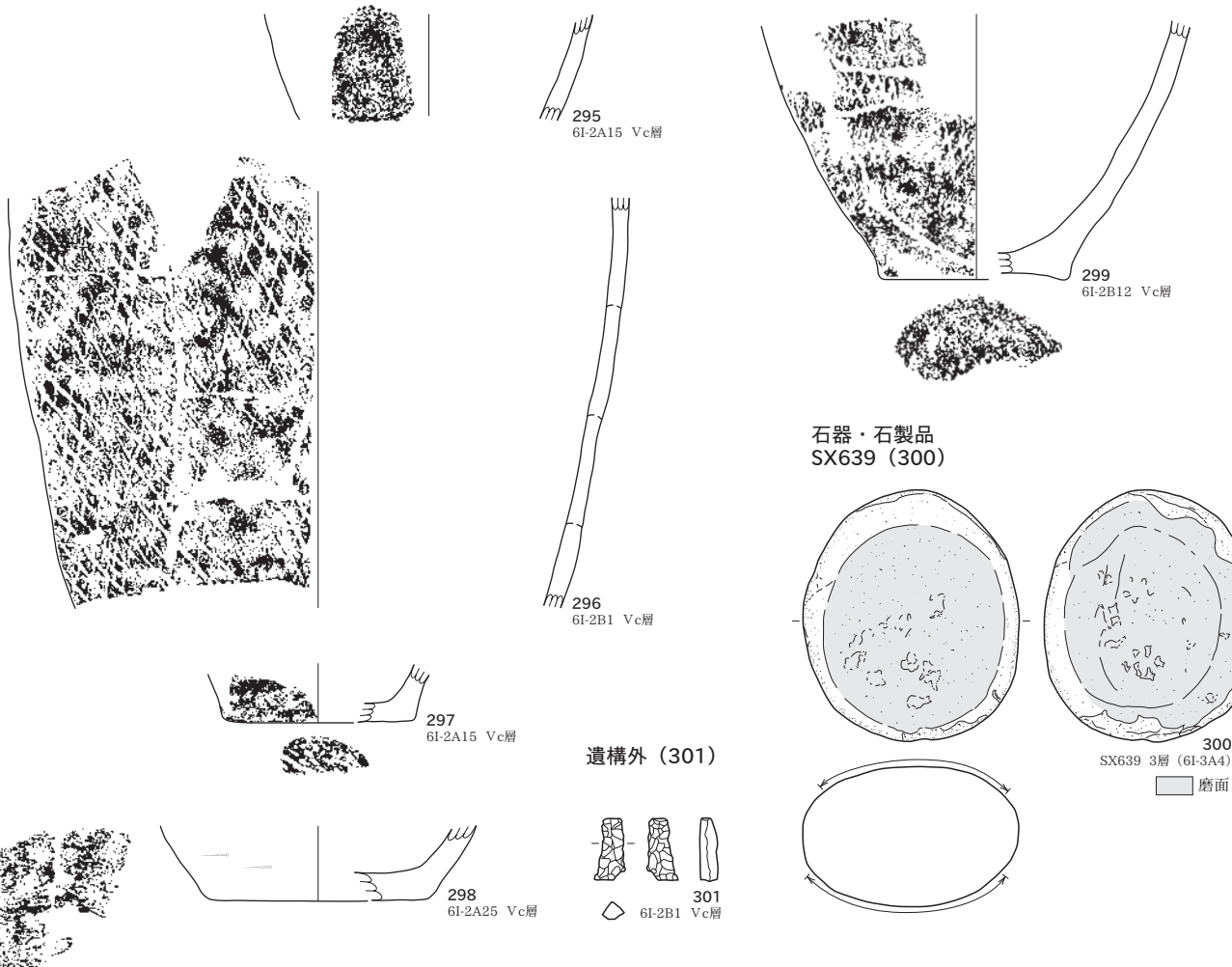
276
6I-2A7 Vc層

277
6I-2B1 Vb層

0　（1：3）　10cm

遺構外（278～299）


278
6I-2B7 Vc層
279
6I-2A5 Vc層
280
6I-2A5 Vc層
281
6I-2A5 Vc層
282
6I-2B11 Vc層
283
6I-2A9
284
6I-1A14 Vc層
285
6I-2B12 Vc層
286
6I-1A13 Vc層
287
6I-3A3 Vc層
288
6I-3B2 Vb層
289
6I-1A9 Vc層
290
6I-1B20 Vc層
291
6I-2A4 Vc層
292
6I-1B7 Vc層
293
6I-2A4 Vb層
294
6I-4C22 Vc層


295
6I-2A15 Vc層
296
6I-2B1 Vc層
297
6I-2A15 Vc層
298
6I-2A25 Vc層
299
6I-2B12 Vc層
石器・石製品
SX639（300）
300
SX639 3層（6I-3A4）
磨面
遺構外（301）
301
6I-2B1 Vc層
（301）0 (1 : 2) 5cm
（その他）0 (1 : 3) 10cm

図版 134　出土遺物 17（6 区下層下面　遺構出土土器 1　SB1・11・12、SK933・977・983・984・987・1052・1076）

SB1-P1099（302）

302
P1099 1層（6I-2B11）

SB12-P1070（304）

304
P1070 1層
（6I-2A20）

SB11-P1131（303）

303
P1131（6I-2A10）
SK977 2層（6I-2A5）
SK1088 1層（6I-2B11）
SK1138 1層（6I-2A14）
+6I-2A10 Vd層ほか

SK977（306・307）

306
SK977 2層（6I-2A5）

307
SK977 2層（6I-2A5）

SK933（305）

305
SK933 1層（6I-1B11）

SK983（308）

308
SK983 1層（6I-2B22）

SK987（310）

310
SK987 1層（6I-3B3）

SK1052（311～313）

311
SK1052 1層（6I-2B6）

312
SK1052 1層
（6I-2B6）

313
SK1052
（6I-2B6）

SK984（309）

309
SK984 1層（6I-3B3）

SK1076（314～316）

314
SK1076 1層（6I-2A5）

315
SK1076 1層（6I-2A5）

316
SK1076 1層（6I-2A5）

0　（1：3）　10cm

S1189（319～327）

SK1138（317）

317
SK1138 1層
（6I-2A14・15）

SK1160（318）

318
SK1160
（6I-1A14）

319
SK1189 1層（6I-1A25）

320
SK1189 1層（6I-1A25）

321
SK1189（6I-1A25）

322
SK1189 1層（6I-1A25）

323
SK1189（6I-2A5）

324
SK1189 1層（6I-1A25）

325
SK1189 1層（6I-1A25）

326
SK1189 1層（6I-1A25）

SX1056（328～330）

328
SX1056 1層
（6I-2A15）

329
SX1056 1層
（6I-2A15）

330
SX1056 1層（6I-2A20）

327
SK1189（6I-1A25）

SX1120（331）

331
SX1120 1層（6I-2A1・2）

SC930（332）

332
SC930 1層（6I-1A23）

SC940（333）

333
SC940（6I-1A18）

SC1107（334～339）

334
SC1107 1層（6I-2A20）

335
SC1107 1層（6I-2A20）

336
SC1107 1層（6I-2A20）

337
SC1107 1層（6I-2A20）

338
SC1107 1層
（6I-2A20）

339
SC1107（6I-2A20）

SC1153（340）

340
SC1153 1層（6I-1A19）

SC1179（341）

341
SC1179 1層（6I-1A19）

F1055（348）

348
F1055 1層（6I-2A25）

F1198（350・351）

350
F1198 1層（6I-2A4）

351
F1198（6I-2A4）

F402（344～348）

342
F402 2層（6I-2B11）

343
F402 5層（6I-2B11）

344
F402 1層（6I-2B11）

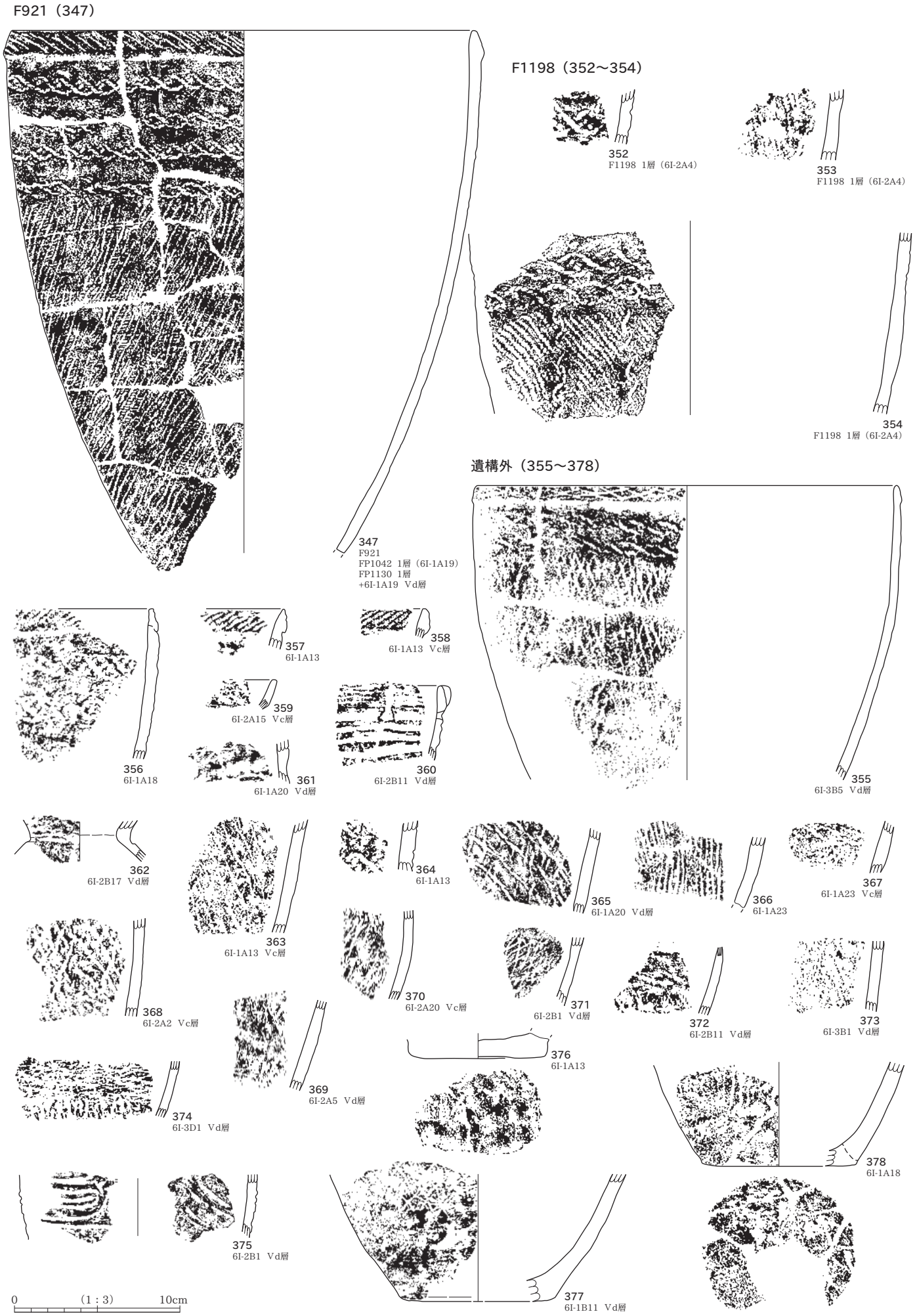
345
F402 2層（6I-2B11）

F1130（349）

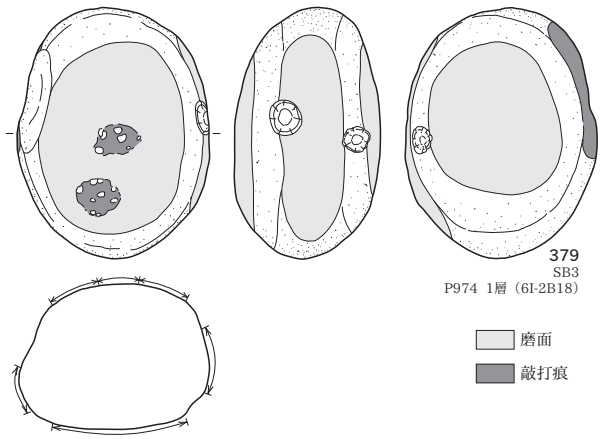
349
F1130 1層（6I-1A23）

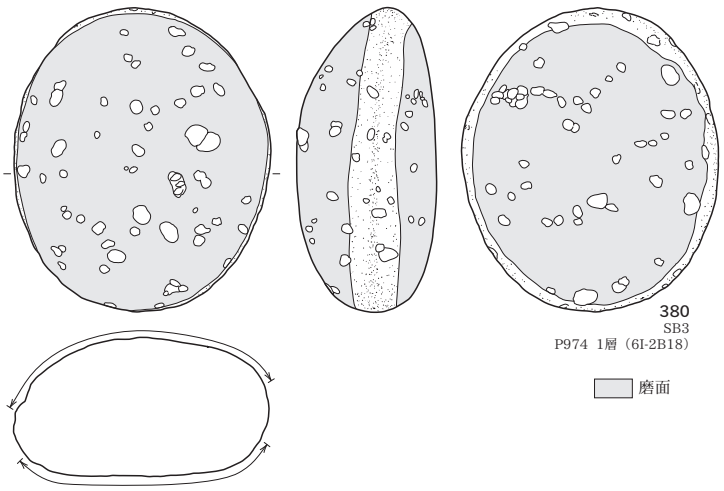
346
F402 1層（6I-2B11）

0　（1：3）　10cm

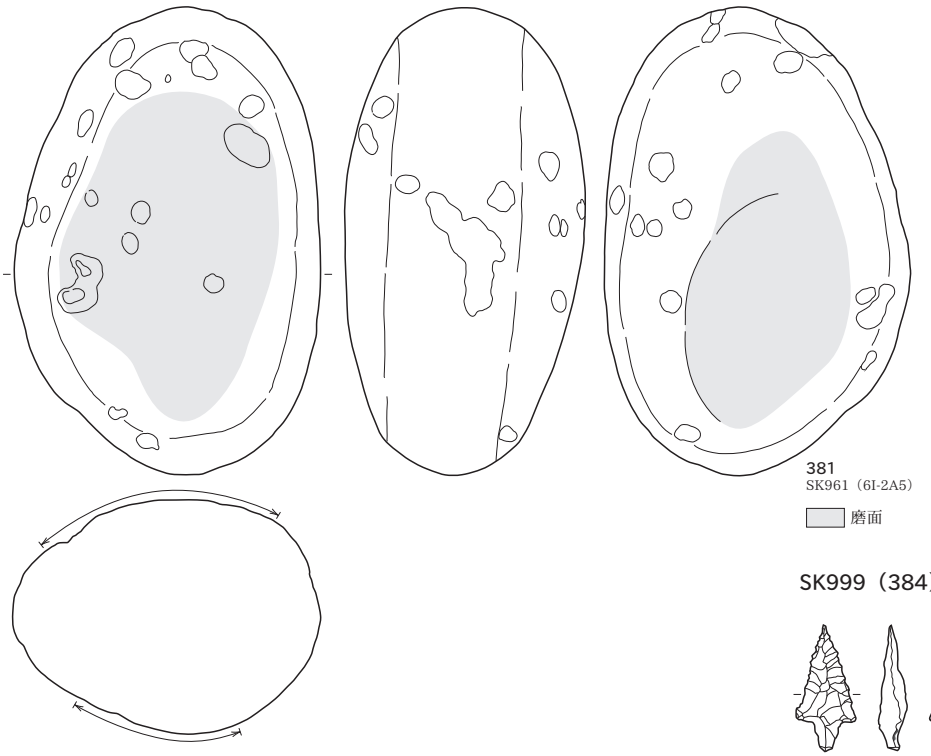

F921（347）
F1198（352～354）
352
F1198 1層（6I-2A4）
353
F1198 1層（6I-2A4）
354
F1198 1層（6I-2A4）
347
F921
FP1042 1層（6I-1A19）
FP1130 1層
+6I-1A19 Vd層
遺構外（355～378）
355
6I-3B5 Vd層
356
6I-1A18
357
6I-1A13
358
6I-1A13 Vc層
359
6I-2A15 Vc層
360
6I-2B11 Vd層
361
6I-1A20 Vd層
362
6I-2B17 Vd層
363
6I-1A13 Vc層
364
6I-1A13
365
6I-1A20 Vd層
366
6I-1A23
367
6I-1A23 Vc層
368
6I-2A2 Vc層
369
6I-2A5 Vd層
370
6I-2A20 Vc層
371
6I-2B1 Vd層
372
6I-2B11 Vd層
373
6I-3B1 Vd層
374
6I-3D1 Vd層
375
6I-2B1 Vd層
376
6I-1A13
377
6I-1B11 Vd層
378
6I-1A18
0
（1：3）
10cm

石器・石製品　SB3-P974（379・380）



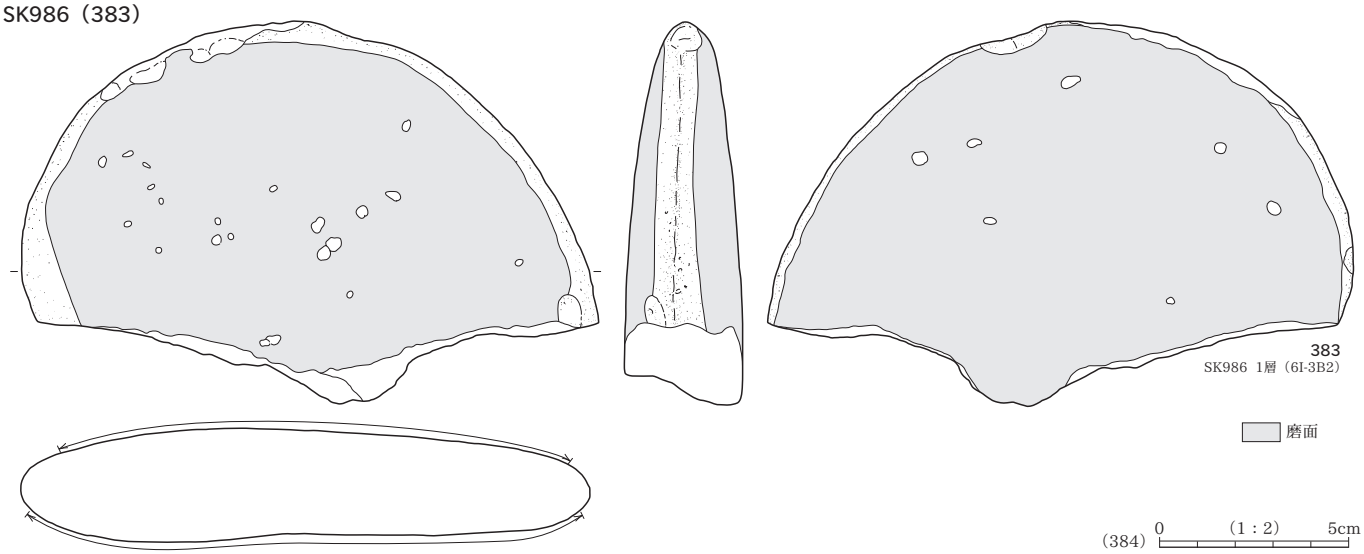


SK961（381）



SK999（384）

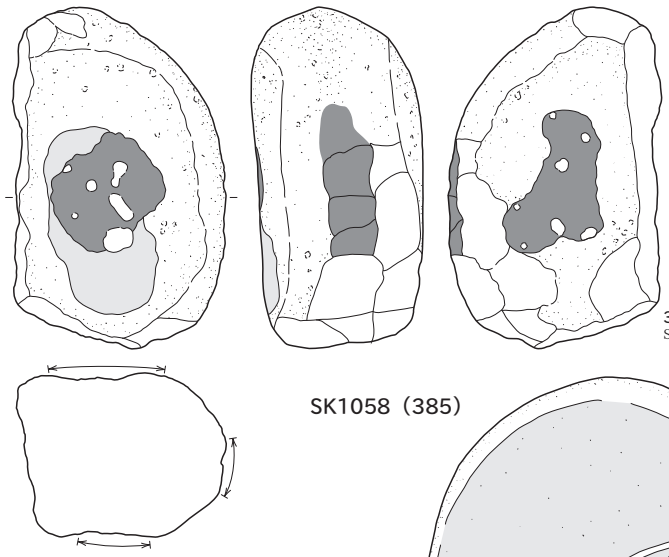
SK986（383）



（384）0　（1：2）　5cm

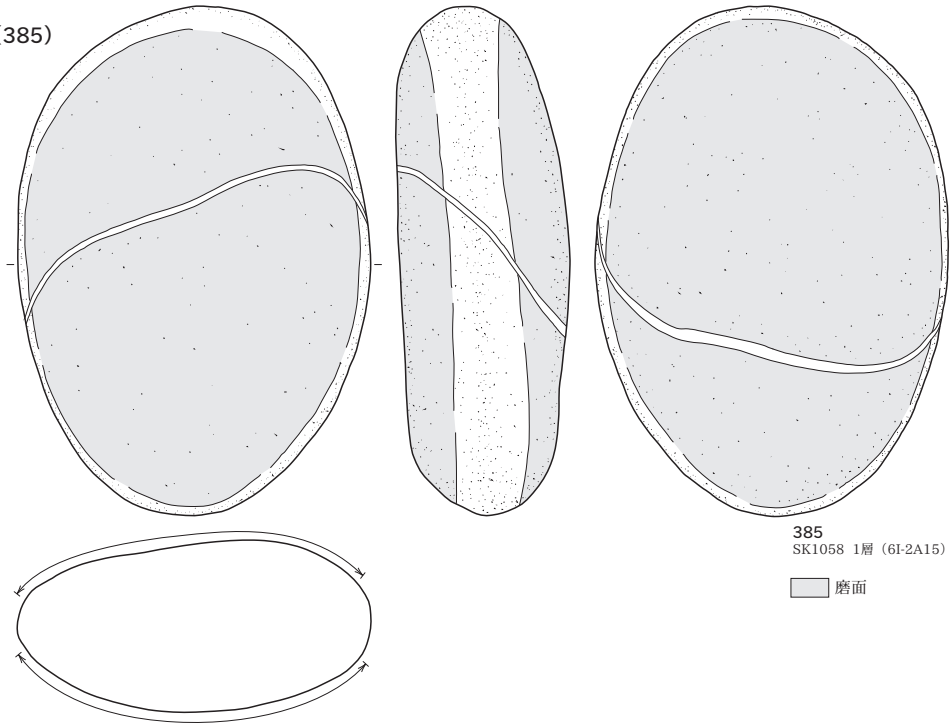
（その他）0　（1：3）　10cm

SK977（382）



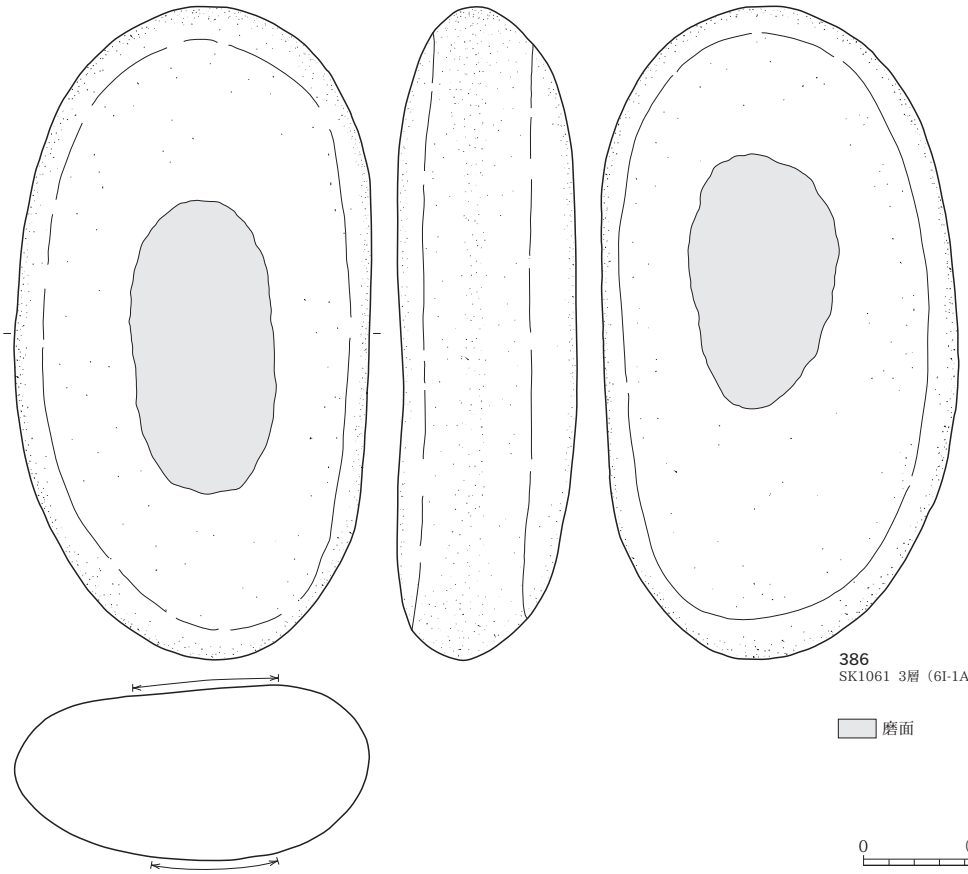
382
SK977 2層（6I-2A5）

SK1058（385）



385
SK1058 1層（6I-2A15）

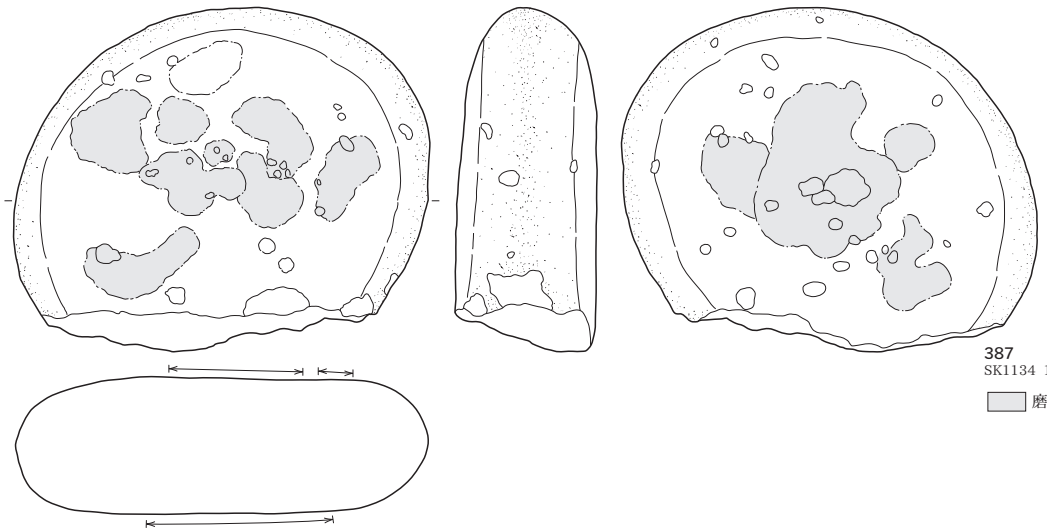
SK1061（386）



386
SK1061 3層（6I-1A14）

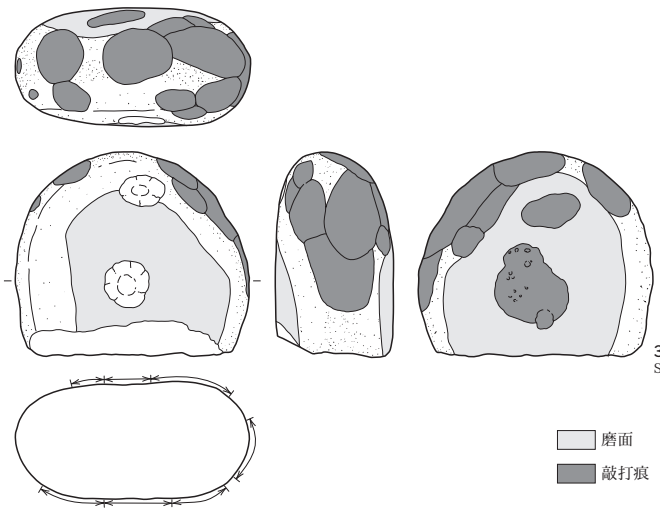
0　（1：3）　10cm

SK1134（387）



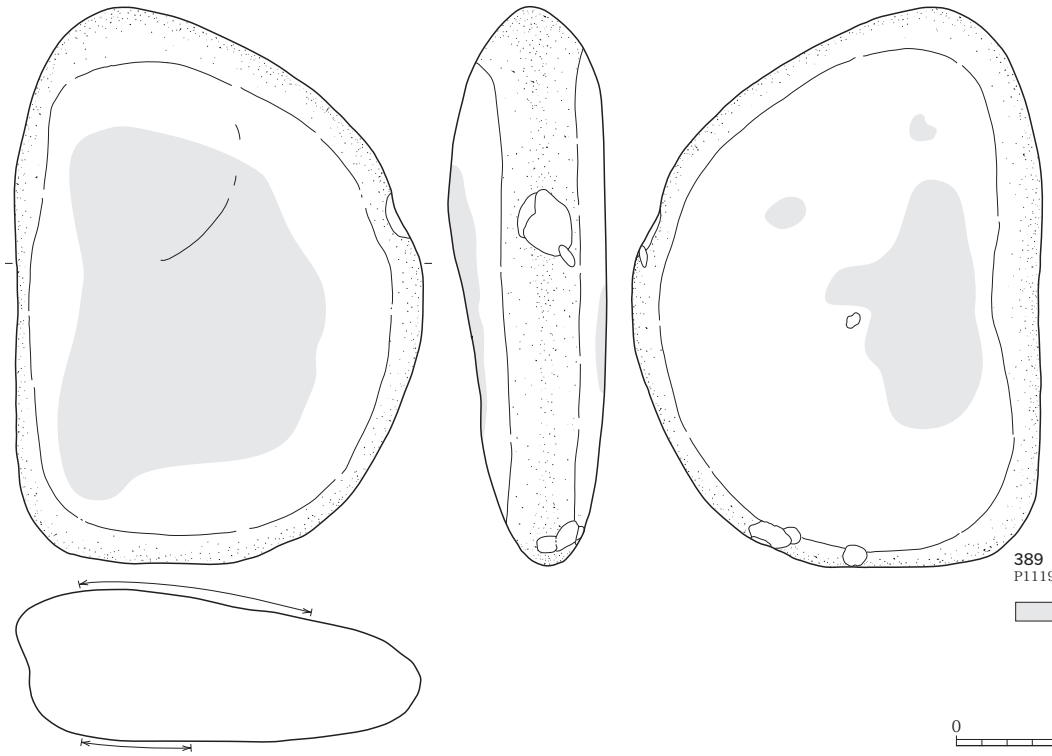
387
SK1134 1層（6I-2A9）
磨面

SK1189（388）



388
SK1189 1層（6I-1A25）
磨面
敲打痕

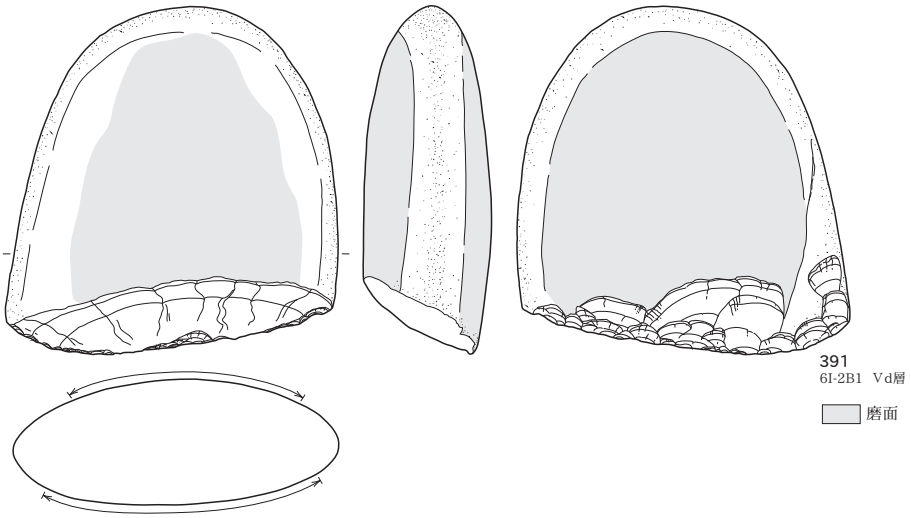
P1119（389）

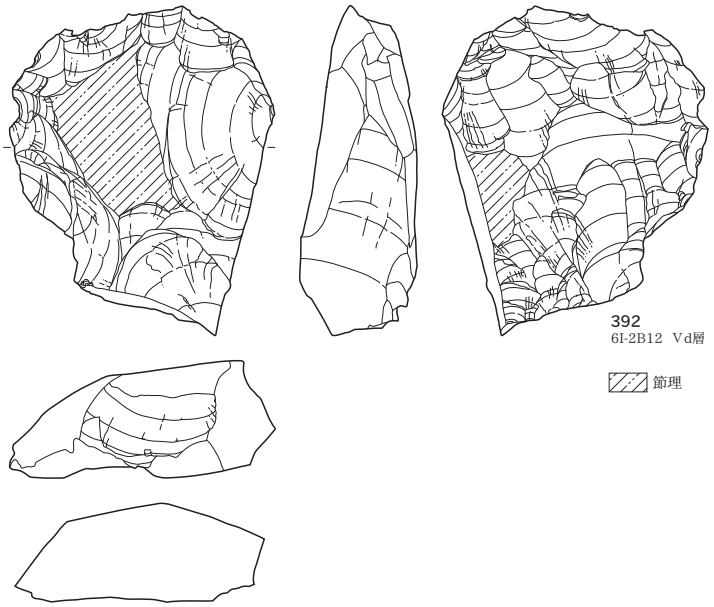


389
P1119 1層（6I-2A20）
磨面

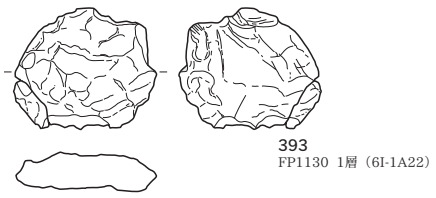
0　（1：3）　10cm

遺構外（390～392）

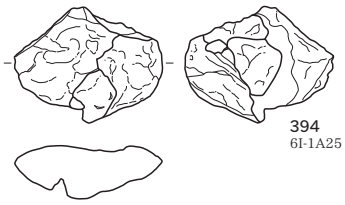




アスファルト
F1130（393）



遺構外（394）



（393・394）0 （1：2） 5cm　（その他）0 （1：3） 10cm